

第
476
集

つ
く
ば
市

島
名
本
田
遺
跡
3

上
巻

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第476集

つ く ば 市

島名本田遺跡 3

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上 巻

令和 7 年 3 月

茨 城 県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第476集

つくば市

しまなほんでん
島名本田遺跡 3

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上巻

令和7年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理作業を実施することを主な目的として、昭和 52 年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県土浦土木事務所つくば支所による島名・福田一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した、つくば市島名本田遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代から江戸時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡、井戸跡、区画溝、土坑墓などが多数確認でき、集落跡と墓域の一端が明らかになりました。特に、室町時代から江戸時代の屋敷跡の広がりを明確にでき、当時の集落構造を解明する上で貴重な資料となりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として、広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県土浦土木事務所つくば支所に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和 7 年 3 月

公益財団法人茨城県教育財団

理 事 長 森 作 宜 民

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成23・29～31年度、令和2年度に調査を実施した、茨城県つくば市島名字本田1092番地ほかに所在する島名^{しまなほんでん}本田遺跡の調査報告書である。

2 調査期間と整理期間は以下のとおりである。

調査	平成23年9月1日～3月31日	平成31年4月1日～令和元年11月30日
	平成29年4月1日～9月30日	令和2年4月1日～5月31日、7月1日～8月31日
	平成30年4月1日～平成31年3月31日	
整理	令和5年1月1日～3月31日	令和6年4月1日～令和7年3月31日
	令和5年4月1日～令和6年3月31日	

3 調査は、平成23年度が調査課長樫村宣行、平成29～31年度は副参事兼調査課長白田正子、令和2年度は調査課長酒井雄一のもと、以下の者が担当した。

平成23年度

首席調査員兼班長	稲田義弘	主任調査員	兼子博史	平成23年10月1日～平成24年3月31日
首席調査員	荒蒔克一郎	平成23年9月1日～30日		
主任調査員	櫻井完介	平成23年9月1日～30日	副主任調査員	清水哲

平成29年度

首席調査員兼班長	奥沢哲也	調査員	矢ノ倉正男	平成29年4月1日～6月30日
次席調査員	埴厚宜	調査員	近江屋成陽	平成29年7月1日～9月30日

平成30年度

首席調査員兼班長	駒沢悦郎		調 査 員	根本佑	平成 30 年 10 月 1 日～3 月 31 日
首席調査員	獅子内一成	平成 31 年 2 月 1 日～3 月 31 日	調 査 員	笠原佳真	平成 30 年 4 月 1 日～7 月 31 日
次席調査員	江原美奈子	平成 30 年 4 月 1 日～7 月 31 日	調 査 員	皆川貴之	平成 31 年 2 月 1 日～3 月 31 日
		平成 31 年 2 月 1 日～28 日	調 査 員	見越広幸	平成 31 年 3 月 1 日～31 日
次席調査員	大武宣隆	平成 30 年 8 月 1 日～3 月 31 日	嘱託調査員	仙波亨	平成 30 年 9 月 1 日～30 日
調 査 員	萩原宏季				

平成31年度（令和元年度）

首席調査員兼班長	櫻井完介	調査員	倉橋裕真	平成31年4月1日～30日
次席調査員	野内智一郎	調査員	近藤洋	令和元年8月1日～11月30日

令和2年度

首席調査員兼班長	埴厚宜	調査員	荒井保雄	令和2年8月1日～8月31日
次席調査員	田村雅樹	調査員	植木貴志	令和2年4月1日～5月31日
				令和2年7月1日～7月31日

- 4 整理と本書の執筆・編集は、令和4・5年度が整理課長本橋弘巳、令和6年度が整理課長櫻井完介のもと、以下の者が担当した。

次席調査員	田村雅樹	令和5年4月1日～令和7年3月31日
次席調査員	江原美奈子	令和5年4月1日～8月31日
次席調査員	柳瀬彬	令和5年4月1日～5月31日
調査員	近江屋成陽	令和5年1月1日～3月31日、令和5年10月1日～10月31日
調査員	植木貴志	令和5年9月1日～9月30日
調査員	根本佑	令和5年10月1日～10月31日
調査員	市毛美津子	令和5年11月1日～11月30日、令和6年1月1日～3月31日
調査員	天野早苗	令和6年4月1日～4月30日
調査員	櫻井明理	令和6年7月1日～8月31日

- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

次席調査員	田村雅樹	第3章第3節3(2)・4(3)～(6)・(8)・(13)・5(4)	第4章
次席調査員	江原美奈子	第3章第3節1・2(1)(2)・3(1)(5)・4(1)(2)(13)・5(1)(2)(3)	
次席調査員	柳瀬彬	第3章第3節3(5)・4(13)	
調査員	近江屋成陽	第1章～第3章第2節・第3節3(1)・(4)・4(1)～(3)(6)～(8)(13)・5(2)(3)	
調査員	根本佑	第3章第3節4(13)	
調査員	植木貴志	第3章第3節4(13)	
調査員	市毛美津子	第3章第3節4(13)	
調査員	天野早苗	第3節4(1)(12)	
調査員	櫻井明理	第3節3(3)・4(9)(10)(14)	

- 6 本書の作成にあたり、木製品の保存処理と樹種同定、金属製品の保存処理、植物遺体の同定は、株式会社吉田生物研究所に委託した。銭貨の剥離作業と保存処理は、株式会社イビスクに委託した。出土人骨の分析は、国立科学博物館人類研究部の中山なな氏、梶ヶ山真里氏、坂上和弘氏に委託した。樹種同定と植物遺体の同定、出土人骨の分析結果については付章で掲載した。また、室町時代から江戸時代の集落跡や屋敷跡については、葛飾区郷土と天文の博物館学芸員永越信吾氏にご教示をいただいた。

- 7 当遺跡の出土遺物と実測図・写真などは、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、X = + 7,160 m、Y = + 20,080 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に県遺跡地図(2022)に基づく、遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図、遺構・遺物一覧などで使用した記号は次のとおりである。






遺構 FP - 炉跡 HT - 方形竪穴遺構 P - ピット PG - ピット群 SA - 柱穴列 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡・堀跡 SE - 井戸跡 SF - 道路跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 TP - 陥し穴 UP - 地下式坑
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 道路跡・焼土・赤彩・施釉陶器・溶解ガラス化  火床面・炉床面・黒色処理・赤漆・茶漆
 竈部材・粘土・炭化材・炭化物・黒漆  整地遺構・柱痕跡・柱あたり・煤・油煙・金泥
 須恵器断面
● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ■ 瓦 ▲ 木製品 - - - - 硬化面

- 4 土層解説と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

ローム-ロームブロック 焼土-焼土ブロック 粘土-粘土ブロック

A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 O' - 極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

粘-粘性 締-締まり

A - 強い B - 普通 C - 弱い O' - 極めて

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、遺物一覧、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号とその他必要と思われる事項を記した。

- 6 遺構の「主軸」は、長軸（径）を通る軸線とし、主軸方向は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

- 7 本書の作成にあたり、遺構名を変更、欠番にしたものは、以下のとおりである。

変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
SB20	→ 欠番	SB21P9	→ SB21P 6	PG19P318	→ SB21P10B	SB22P 4	→ SB22P 2	SB22P 2	→ SB22P 8
SB21P 4	→ SB21P 1	SB21P10	→ SB21P 7	SB21P 1	→ SB21P11A	SB22P 5	→ SB22P 3	SB23P 5	→ SB23P 1
SB21P 5	→ SB21P 2	SB21P11	→ SB21P 8	SB19P124	→ SB21P11B	SB22P 6	→ SB22P 4	SB23P 6	→ SB23P 2
SB21P 6	→ SB21P 3	SB21P12	→ SB21P 9A	SB19P41	→ SB21P12	SB22P 7	→ SB22P 5	SB23P 7	→ SB23P 3
SB21P 7	→ SB21P 4	PG19P37	→ SB21P 9B	SB21P 3	→ SB21P13	SB22P 8	→ SB22P 6	SB23P 8	→ SB23P 4
PG19P89	→ SB21P 5	SB21P13	→ SB21P10A	SB22P 3	→ SB22P 1	SB22P 1	→ SB22P 7	SB23P 9	→ SB23P 5

変更前	変更後
SB23P10	→ SB23P 6
SB23P11	→ 欠番
SB23P12	→ SB23P 7
SB23P13	→ SB23P 8
SB23P14	→ SB23P 9
SB23P15	→ SB23P10
SB23P 1	→ SB23P11
SB23P 2	→ SB23P12
SB23P 3	→ SB23P13
SB23P 4	→ SB23P14
SB24P 5	→ SB24P 1
SB24P 6	→ SB24P 2
SB24P 7	→ SB24P 3
SB24P 8	→ SB24P 4
SB24P 9	→ SB24P 5
SB24P10	→ SB24P 6
SB24P11	→ SB24P 7
SB24P12	→ SB24P 8
SB24P 1	→ SB24P 9
SB24P 2	→ SB24P10
SB24P 3	→ SB24P11
SB24P 4	→ SB24P12
SB25P 1	→ PG20P487
SB25P 2	→ PG20P488
SB25P 3	→ PG20P489
SB25P 4	→ PG20P490
SB25P 5	→ PG20P491
SB25P 6	→ PG20P492
SB25P 7	→ PG20P505
SB25P 8	→ PG20P506
SB25P 9	→ PG20P507
SB25P10	→ PG20P496
SB25P11	→ PG20P497
PG19P257	→ SB26P 1
SB26P 4	→ SB26P 2
SB26P 5	→ SB26P 3
SB26P 6	→ SB26P 4
SB26P 7	→ SB26P 5
SK1066	→ SB26P 6
SB26P 8	→ SB26P 7
SB26P 9	→ SB26P 8
SB26P10	→ SB26P 9
SB26P11	→ 欠番
SB26P12	→ SB26P10
SB26P13	→ SB26P11
SB26P 1	→ SB26P12
SB26P 2	→ SB26P13
SB26P 3	→ 欠番
SB27P 1	→ SB27P 4
SB27P 2	→ SB27P 5
SB27P 3	→ SB27P 6
SB27P 4	→ SB27P 7
SB27P 5	→ SB27P 8
SB27P 6	→ SB27P 9
SB27P 7	→ SB27P10
SB27P 8	→ SB27P 1
SB27P 9	→ SB27P 2
SB27P10	→ SB27P 3
SB31P 6	→ SB31P 1
SB31P 8	→ SB31P 2

変更前	変更後
SB31P14	→ SB31P 3
SB31P13	→ SB31P 4
SB31P12	→ SB31P 5
SB31P11	→ SB31P 6
SB31P10	→ SB31P 7
SB31P 9	→ SB31P 8
SB31P 6	→ SB31P 9
SB31P 1	→ SB31P10
SB31P 2	→ SB31P11
PG38P44	→ SB31P12
PG38P187	→ SB31P13
PG38P63	→ SB31P14
PG38P65	→ SB31P15
PG38P50	→ SB31P16
PG38P99	→ SB31P17
PG38P97	→ SB31P18
PG38P98	→ SB31P19
PG38P24	→ SB31P20
PG38P140	→ SB31P21
PG38P57	→ SB31P22
PG38P107・108	→ SB31P23
PG38P 1	→ SB31P24
PG38P101・102	→ SB31P25
PG38P340	→ SB31P26
PG38P341	→ SB31P27
PG38P25	→ SB31P28
PG38P 6・21	→ SB31P29
PG38P45	→ SB31P30
PG47P217	→ SB32P 1
PG47P159	→ SB32P 2
SB32P18	→ SB32P 3
SB32P41	→ SB32P 4
SB32P42	→ SB32P 5
SB32P43	→ SB32P 6
PG47P21	→ SB32P 7
PG47P207	→ SB32P 8
PG47P486	→ SB32P 9
PG47P424	→ SB32P10
PG47P131	→ SB32P11
PG47P42	→ SB32P12
PG47P213	→ SB32P13
PG47P209	→ SB32P14
PG47P186	→ SB32P15
PG47P185	→ SB32P16
PG47P184	→ SB32P17
SB32P 3	→ SB32P18
PG47P489	→ SB32P19
PG47P490	→ SB32P20
PG47P349	→ SB32P21
PG47P446	→ SB32P22
PG47P445	→ SB32P23
PG47P413	→ SB32P24
PG47P415	→ SB32P25
PG47P20	→ SB32P26
PG47P22	→ SB32P27
PG47P484	→ SB32P28
PG47P60	→ SB32P29
PG47P61	→ SB32P30
PG47P423	→ SB32P31
PG47P496	→ SB32P32

変更前	変更後
PG47P495	→ SB32P33
PG47P253	→ SB32P34
PG47P252	→ SB32P35
PG47P464	→ SB32P36
PG47P36	→ SB32P37
PG47P347	→ SB32P38
PG47P230	→ SB32P39
PG47P465	→ SB32P40
SB32P 4	→ SB32P41
SB32P 5	→ SB32P42
SB32P 6	→ SB32P43
PG47P157	→ SB32P44
PG47P255	→ SB32P45
SB33P 5	→ SB33P 1
SB33P13	→ SB33P 2
SB33P18	→ SB33P 3
SB33P23	→ SB33P 4
SB33P21	→ SB33P 5
SB33P19	→ SB33P 6
SB33P14	→ SB33P 7
SB33P 9	→ SB33P 8
SB33P 3	→ SB33P 9
SB33P 4	→ SB33P10
SB33P11	→ SB33P11
SB33P16	→ SB33P12
PG44P122	→ SB33P13
PG41P23	→ SB34P 2
PG41P172	→ SB34P 3
PG41P37	→ SB34P 4
PG41P54	→ SB34P 5
PG41P355	→ SB34P 6
PG41P231	→ SB34P 7
PG41P164	→ SB34P 8
PG41P127	→ SB34P 9
PG41P40	→ SB34P10
PG47P313	→ SB35P 1
PG47P78	→ SB35P 2
PG47P19	→ SB35P 3
PG47P26	→ SB35P 4
PG47P 4	→ SB35P 5
PG47P 8	→ SB35P 6
PG47P32	→ SB35P 7
PG47P 2	→ SB35P 8
SB36P11	→ SB36P 1
SB36P 1	→ SB36P 2
SB36P 2	→ SB36P 3
SB36P 3	→ SB36P 4
SB36P 4	→ SB36P 5
SB36P 7	→ SB36P 8
SB36P 8	→ SB36P 9
SB36P 9	→ SB36P10
SB36P10	→ SB36P11
SK2320	→ SB37P 1
SK2209	→ SB37P 2
SK2222	→ SB37P 3
SK2668	→ SB37P 4
SK2456	→ SB37P 5
SK2457	→ SB37P 6
SK2453	→ SB37P 7
SK2693	→ SB37P 8

変更前	変更後
SK2540	→ SB37P 9
SK2669	→ SB37P10
SK2325	→ SB37P11
SB38P 1	→ SB38P 1
SB38P 2	→ SB38P 2
SB38P 3	→ SB38P 3
SB38P 5	→ SB38P 4
SB38P 6	→ SB38P 5
SB38P 7	→ SB38P 6
SB38P 8	→ SB38P 7
SB38P 9	→ SB38P 8
SB38P10	→ SB38P 9
SB39	→ 欠番
SB40P 1	→ SB40P 1
SB40P 7	→ SB40P 2
SB41P 2	→ SB40P 3
SB42P 6	→ SB40P 4
SB43P 3	→ SB40P 5
SB44P 8	→ SB40P 6
SB45P 4	→ SB40P 7
SB46P 5	→ SB40P 8
HT10	→ SK1221
HT11	→ SK1374
HT12	→ HT12A・B
HT15	→ SK2160
HT16	→ SK1344
HT17	→ SK2952
HT18	→ SK2951
HT19	→ SK2217
HT21	→ SK2950
HT22	→ SK2227
HT24	→ SK2949
HT25	→ SK2159
HT26	→ SK2234
HT27	→ SK2238
HT28	→ SK2239
HT29	→ SK2240
HT30	→ SK2241
HT37	→ SK2874
UP13	→ SK2947
UP16	→ SK2936・2938・2943
UP18	→ SK2145
UP22	→ SK2940・2944
UP23	→ SK2937・2939
UP24	→ SK2945・2946
SX 7	→ SK2944
SX11	→ 欠番
SX12	→ 第7号 整地遺構
SX13	→ 第4号 整地遺構
SX14	→ 欠番
SX15	→ 欠番
SX16	→ 欠番
SE30	→ SK862
SE116	→ SE224
SE196	→ SK2244
SF 8	→ 欠番
SF 9	→ 欠番
SF10	→ 欠番
SF14	→ SD66

変更前	変更後
SD26	→ SD12
SD27	→ SD22
SD30	→ SD23
SD63	→ SD63A SD63B
SD69	→ SD70
SD70	→ SD69
SD81	→ SD81A・ SD81B
SD86	→ SD86A・ SD86 B
SD87	→ SD73
SD89	→ SD69
SD94	→ 欠番
SD96	→ SD96A・ SD96B
SD107	→ SD107A・ SD107B
SD119	→ SD96A・B
SD120	→ 欠番
SD157	→ 第6号 整地遺構
SD161	→ SD161A・ SD161B
SD162	→ SD162A・ SD162B
SD164	→ SD149
SD165	→ SD300
SD167	→ 欠番
SD168	→ SD149
SD175	→ SD190
SD176	→ SD63A
SD179	→ SD63A
SD182	→ SD63A
SD183	→ 第3号 段切状遺構
SD184	→ SD63A
SD186	→ SD63A
SD187	→ SD187A・ SD187B
SD188	→ SK1702
SD197	→ SD185
SD205	→ SD98
SD207	→ SK2953
SD210	→ SD80
SD226	→ SD217
SD230	→ SD225
SD231	→ SD225
SD234	→ 第6号 整地遺構
SD237	→ 第6号 整地遺構
SD242	→ SD162A
SD265	→ SD166
SD287	→ 欠番
SD288	→ 欠番
SD295	→ SD166
PG44P51	→ SA 7 P 1
PG44P52	→ SA 7 P 2
PG44P78	→ SA 7 P 3
PG44P161	→ SA 7 P 4
FP 3	→ FP 3 A・B
FP 5	→ 欠番
FP 6	→ 欠番
FP 7	→ 欠番
FP11	→ 欠番
FP12	→ 欠番
FP13	→ 欠番
SK791	→ SK794
SK801	→ SK799

SK809	→ SK807
SK811	→ SK817
SK815	→ 欠番
SK818	→ SK838
SK824	→ 欠番
SK836	→ SK835
SK844	→ 欠番
SK850	→ 欠番
SK863	→ SK849
SK873	→ SE38
SK899	→ SK880
SK1222	→ SK1378
SK1247	→ 第1号 火葬施設
SK1291	→ SK1374
SK1329	→ 欠番
SK1360	→ 欠番
SK1376	→ 欠番
SK1393	→ 欠番
SK1395	→ SK1394
SK1399	→ 欠番
SK1414	→ SK1415
SK1425	→ SK1401
SK1450	→ SK1415
SK1452	→ 欠番
SK1453	→ 欠番
SK1454	→ SK1454A・ B
SK1485	→ PG32P51
SK1505	→ SI 116P5
SK1506	→ SI 116P4
SK1521	→ SI 116P3
SK1539	→ 欠番
SK1627	→ 欠番
SK1660	→ FP14
SK1671	→ 欠番
SK1672	→ SD178
SK1678	→ 欠番
SK1748	→ PG41P128
SK1870	→ 欠番
SK1885	→ 欠番
SK1886	→ 欠番
SK1901	→ 欠番
SK1911	→ 欠番
SK1933	→ SD196
SK1936	→ SD196
SK1938	→ SD196
SK1940	→ SD196
SK1945	→ PG41P410
SK1950	→ 欠番
SK2005	→ SK2003
SK2025	→ 欠番
SK2037	→ 欠番
SK2054	→ 欠番
SK2162	SK1344
SK2232	→ SB38P 2
SK2285	→ PG53P19
SK2287	→ PG41P425
SK2301	→ 欠番
SK2309	→ PG41P426
SK2450	→ SA18P 1
SK2525	→ SA19P 6

SK2526	→ SA19P 5
SK2527	→ SA19P 4
SK2663	→ SA18P 2
SK2702	→ 欠番
SK2766	→ 第30号 土坑墓
SK2767	→ 第31号 土坑墓
SK2768	→ 第32号 土坑墓
SK2769	→ 第33号 土坑墓
SK2770	→ 第34号 土坑墓
SK2771	→ 第35号 土坑墓
SK2780	→ 第36号 土坑墓
SK2790	→ 第3号 火葬施設
SK2826	→ PG72P 8
SK2853	→ 第2号 火葬施設
SK2913	→ 欠番
SK2941	→ UP26
SK2942	→ UP26
SK2955	→ FP13
PG 7	→ PG79
PG 9	→ PG80
PG16P 1	→ PG14P151
PG16P 2	→ PG14P152
PG16P 3	→ PG14P153
PG16P 4	→ PG14P154
PG16P 5	→ PG14P155
PG16P 6	→ PG14P156
PG16P 7	→ PG14P157
PG18	→ 欠番
SD180P27	→ PG39P25
SD180P 1	→ PG39P34
SD180P 2	→ PG39P35
SD180P 3	→ PG39P36
SD180P 4	→ PG39P37
SD180P 5	→ PG39P38
SD180P 6	→ PG39P39
SD180P 7	→ PG39P40
SD180P25	→ PG39P42
SD180P 8	PG39P46
SD180P 9	→ PG39P47
SD180P10	→ PG39P48
SD180P11	→ PG39P49
SD180P12	→ PG39P50
SD180P13	→ PG39P51
SD180P14	→ PG39P52
SD180P15	→ PG39P53
SD180P16	→ PG39P54
SD180P17	→ PG39P55
SD180P18	→ PG39P56
SD180P19	→ PG39P57
SD180P20	→ PG39P58
SD180P21	→ PG39P59
SD180P22	→ PG39P60
SD180P23	→ PG39P61
SD180P24	→ PG39P62
SD180P26	→ PG39P43
SD63AP28	→ PG39P64
SD63AP 1	→ PG41P416
SD63AP 2	→ PG41P417
SD63AP 3	→ PG41P418

SD63AP 4	→ PG41P419
SD63AP 5	→ PG41P420
PG41P228	→ PG42P44
PG41P229	→ PG42P45
PG41P238	→ PG42P46
PG41P239	→ PG42P47
PG41P240	→ PG42P48
PG41P241	→ PG42P49
PG41P242	→ PG42P50
PG41P243	→ PG42P51
PG41P244	→ PG42P52
PG41P104	→ PG42P53
PG41P304	→ PG42P54
PG41P305	→ PG42P55
PG41P391	→ PG42P56
PG41P392	→ PG42P57
PG41P393	→ PG42P58
PG41P394	→ PG42P59
PG41P396	→ PG42P60
PG41P397	→ PG42P61
PG41P398	→ PG42P62
PG41P399	→ PG42P63
PG41P400	→ PG42P64
PG41P401	→ PG42P65
PG41P402	→ PG42P66
PG41P404	→ PG42P68
PG41P405	→ PG42P69
PG41P408	→ PG42P70
PG41P252	→ PG42P71
PG41P403	→ PG42P72
PG46P 1	→ PG47P504
PG46P 2	→ PG47P505
PG46P 3	→ PG47P506
PG46P 4	→ PG47P507
PG46P 5	→ PG47P508
PG46P 6	→ PG47P509
PG46P 7	→ PG47P510
PG46P 8	→ PG47P511
PG46P 9	→ PG47P512
PG46P10	→ PG47P513
PG46P11	→ PG47P514
PG46P12	→ PG47P515
PG46P13	→ PG47P516
PG46P14	→ PG47P517
PG46P15	→ PG47P518
PG46P16	→ PG47P519
PG46P17	→ PG47P520
PG46P18	→ PG47P521
PG46P19	→ PG47P522
PG46P20	→ PG47P523
PG46P21	→ PG47P524
PG46P22	→ PG47P525
PG46P23	→ PG47P526
PG46P24	→ PG47P527
PG46P25	→ PG47P528
PG46P26	→ PG47P529
PG46P27	→ PG47P530
PG46P28	→ PG47P531
PG46P29	→ PG47P532
PG46P30	→ PG47P533

PG46P31	→ PG47P534
PG46P32	→ PG47P535
PG46P33	→ PG47P536
PG46P34	→ PG47P537
PG46P35	→ PG47P538
PG46P36	→ PG47P539
PG46P37	→ PG47P540
PG46P38	→ PG47P541
PG46P39	→ PG47P542
PG46P40	→ PG47P543
PG46P41	→ PG47P544
PG46P42	→ PG47P545
PG46P43	→ PG47P546
PG46P44	→ PG47P547
PG46P45	→ PG47P548
PG46P46	→ PG47P549
PG46P47	→ PG47P550
PG46P48	→ PG47P551
PG46P49	→ PG47P552
PG46P50	→ PG47P553
PG46P51	→ PG47P554
PG46P52	→ PG47P555
PG46P53	→ PG47P556
PG46P54	→ PG47P557
PG46P55	→ PG47P558
PG46P56	→ PG47P559
PG46P57	→ PG47P560
PG46P58	→ PG47P561
PG46P59	→ PG47P562
PG46P60	→ PG47P563
PG46P61	→ PG47P564
PG46P62	→ PG47P565
PG46P63	→ PG47P566
PG46P64	→ PG47P567
PG46P65	→ PG47P568
PG46P66	→ PG47P569
PG46P67	→ PG47P570
PG46P68	→ PG47P571
PG46P69	→ PG47P572
PG46P70	→ PG47P573
PG46P71	→ PG47P574
PG46P72	→ PG47P575
PG46P73	→ PG47P576
PG46P74	→ PG47P577
PG46P75	→ PG47P578
PG46P76	→ PG47P579
PG46P77	→ PG47P580
PG46P78	→ PG47P581
PG46P79	→ PG47P582
PG46P80	→ PG47P583
PG46P81	→ PG47P584
PG47P369	→ PG48P116
PG47P381	→ PG48P118
PG47P384	→ PG48P119
PG47P385	→ PG48P120
PG37P386	→ PG48P121
PG37P389	→ PG48P122
PG37P390	→ PG48P123
PG47P461	→ PG49P26
PG47P462	→ PG49P27

PG47P463	→ PG49P28
PG48P75	→ 欠番
PG48P76	→ 欠番
PG41P431	→ PG53P19
PG41P432	→ PG53P20
PG41P433	→ PG53P21
PG41P434	→ PG53P22
PG41P435	→ PG53P23
PG41P436	→ PG53P24
PG41P437	→ PG53P25
PG41P438	→ PG53P26
PG41P439	→ PG53P27
PG41P440	→ PG53P28
PG41P441	→ PG53P29
PG41P442	→ PG53P30
PG53P20	→ 欠番
PG75	→ 欠番

目 次

－ 上 卷 －

序

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第2章 位置と環境	3
第1節 位置と地形	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴建物跡	11
(2) 陥し穴	12
2 古墳時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴建物跡	13
(2) 土 坑	33
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	36
(1) 竪穴建物跡	36
(2) 井戸跡	60
(3) 道路跡	64
(4) 溝 跡	66
(5) 土 坑	67
4 室町時代から江戸時代の遺構と遺物	76
(1) 掘立柱建物跡	76
(2) 方形竪穴遺構	104
(3) 地下式坑	115
(4) 段切状遺構	137
(5) 整地遺構	139
(6) 井戸跡	143
(7) 道路跡	282

－中巻－

(8) 溝跡・堀跡	285
(9) 柱穴列	418
(10) 炉跡	423
(11) 土坑墓	427
(12) 火葬施設	449
(13) 土坑	452

－下巻－

(14) ピット群	649
5 時期不明の遺構と遺物	734
(1) 竪穴建物跡	734
(2) 井戸跡	735
(3) 土 坑	737
(4) 遺構外出土遺物	743
第4章 総 括	745
付 章	763
写真図版	PL 1～100
抄 録	
付 図	

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長あてに島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は、平成6年9月19日から27日に現地踏査を、平成21年12月15・16日、平成22年8月10・11日、9月1日、11月17日、平成27年11月10・11日、12月25日、平成28年11月29日と令和元年12月3日、茨城県教育委員会は試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成22年12月28日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県つくばまちづくりセンター長あてに、事業地内に島名本田遺跡が所在すること、その取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成28年1月29日と平成29年1月4日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、事業地内に島名本田遺跡が所在すること、その取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和2年1月14日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所つくば支所長あてに、事業地内に島名本田遺跡が所在すること、その取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成23年2月14日、茨城県つくばまちづくりセンター長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成23年3月1日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県つくばまちづくりセンター長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するように通知した。

平成28年1月29日と平成30年2月27日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成28年2月3日と平成30年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するように通知した。

平成23年7月21日、平成29年2月27日、平成30年2月28日、平成31年2月22日、令和2年1月29日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係わる埋蔵文化財調査の実施について協議書を提出した。平成23年7月21日の変更協議時と平成29年2月28日、平成30年2月28日、平成31年2月25日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、島名本田遺跡について、発掘調査の範囲とその面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団（平成23年度まで財団法人茨城県教育財団）を紹介した。平成2年2月26日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所つくば支所長あてに、島名本田遺跡について、発掘調査の範囲とその面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、平成23年9月1日から平成24年3月31日まで調査を実施した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、平成29年4月1日から9月30日、平成30年4月1日から平成31年3月31日、平成31年4月1日から令和元年11月30日、令和2年4月1日から5月31日と7月1日から8月31日まで調査を実施した。

第2節 調 査 経 過

島名本田遺跡の調査は、平成23年9月1日から3月31日までの7か月間、平成29年4月1日から9月30日までの6か月間、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの7か月間、平成31年4月1日から令和元年11月30日までの8か月間、令和2年4月1日から5月31日までの2か月間と7月1日から8月31日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成23年度

工程 \ 期間	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認							
遺構調査							
遺物洗浄 写真整理							
補足調査 撤収							

平成29年度

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備 表土除去 遺構確認						
遺構調査						
遺物洗浄 写真整理						
補足調査 撤収						

平成30年度

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認												
遺構調査												
遺物洗浄 写真整理												
補足調査 撤収												

平成31年度

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査準備 表土除去 遺構確認								
遺構調査								
遺物洗浄 写真整理								
補足調査 撤収								

令和2年度

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月
調査準備 表土除去 遺構確認					
遺構調査					
遺物洗浄 写真整理					
補足調査 撤収					

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

島名本田遺跡は、茨城県つくば市島名字本田 1092 番地ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端として、その南東へ延びる標高 20 ～ 25 m の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦へ流入する桜川、西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため、台地は複雑に開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を含む海成層の成田層を基盤として、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒沙層である竜ヶ崎層、さらに灰白色の粘土層である常総粘土層、そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の島名地区は、谷田川と西谷田川に開析された、狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は、谷田川から延びた谷津に面した標高 20 ～ 23 m の台地に立地し、遺跡の範囲は南北約 500 m、南西約 250 m である。

第2節 歴史的環境

島名本田遺跡周辺の台地には、縄文時代から近世にかけての遺跡が数多く存在している²⁾。特に谷田川・西谷田川流域の遺跡のうち、旧石器時代から古代の遺跡については、『島名本田遺跡』（茨城県教育財団文化財調査報告第 454 集）³⁾の中で触れているので、ここでは中・近世の遺跡について概観してみたい。

島名地区周辺は、平安時代末期に八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ、鎌倉時代以降は小田氏の支配下となる。鎌倉時代から戦国時代まで小田氏の居城となった小田城跡は、筑波山地南端の宝鏡山南裾、桜川左岸低地内より 1.5 m ほど高い段丘上に位置している⁴⁾。3 重の堀と曲輪が良好に残る平城で、昭和 10 年に国の史跡に指定されている。室町時代には小田氏支配下の平井出氏が面野井城〈28〉を構えて、当地域を治めたと言われている。島名本田遺跡は、5 世紀中葉から集落が営まれはじめ、8 世紀前葉にピークを迎える。その後は集落規模を縮小しながら 10 世紀中葉まで継続するが、それ以降は土器焼成遺構などのわずかな遺構が確認できるのみで、集落的には一度衰退する⁵⁾。

この流れは谷を挟んで東に対峙し、嶋名郷で公的な役割を果たしたと考えられる島名熊の山遺跡〈2〉でも概ね同様で、集落規模を縮小しながら 11 世紀代まで集落が営まれている。永仁五年（1297 年）には当遺跡の谷を挟んだ東方に妙徳寺が開山する。島名熊の山遺跡では、妙徳寺のある台地西側を中心に、中・近世の遺構が数多く確認されている。当遺跡と同様に溝や堀によって小区画がなされているが、特筆されるのは 13 世紀末から 14 世紀初頭の梵鐘鑄造遺構や、15 世紀後半の土塁を伴う方形区画である。方形区画は幅 3.5 m の薬研堀で囲まれた方半町（一辺約 60 m）の区画で、内部に建物跡などは確認できなかったが、中世の中心的な屋敷跡である可能性がある。また、妙徳寺正面から延びる 16 世紀代の参道と推定される側溝跡があり、この周辺では墓域が形成されている⁶⁾。当遺跡と島名熊の山遺跡は、古墳時代以降から近世に至るまで、谷を挟んで

関連し合う遺跡として捉えられる。

関東地方では、13世紀から14世紀にかけて、複数の居住区画が集合する集落跡が見られるようになり、つくば市域でも多くの集落跡が確認されている。当遺跡から南東約1kmに位置する島名前野東遺跡〈8〉では、方一町に巡る方形区画堀と掘立柱建物群からなる2つの方形居館跡が確認されている。時期は13世紀後半から15世紀で、掘立柱建物跡の中には中門廊的施設を有するものと礎盤石を持つものなどがみられる。方形居館が廃絶したあとは、地下式坑と火葬土坑などからなる墓域へと変遷したようである⁷⁾。また梶内向山遺跡でも、13世紀から14世紀にかけての区画溝と礎石建物を含む掘立柱建物群が数期にわたって変遷している。16



第1図 島名本田遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の 1 「谷田部」)

世紀後半以降は区画溝を伴う墓域となっている⁸⁾。桜川右岸低地の小泉館跡では15世紀に堀に囲まれた3か所の曲輪があり、曲輪Ⅰからは礎石を持つ大型の掘立柱建物跡が確認されている⁹⁾。関東地方の中世集落について研究されている永越信吾氏によると、14世紀後半までに成立した集落は、多くが15世紀前半にその多くが廃絶し、15世紀後半になって新たに成立した集落が目立つことから、15世紀代に集落の再編があったことを指摘されている¹⁰⁾。つくば市域においても、15世紀後半から16世紀にかけて方形かL字型の区画溝と堀

第1表 島名本田遺跡周辺遺跡一覧

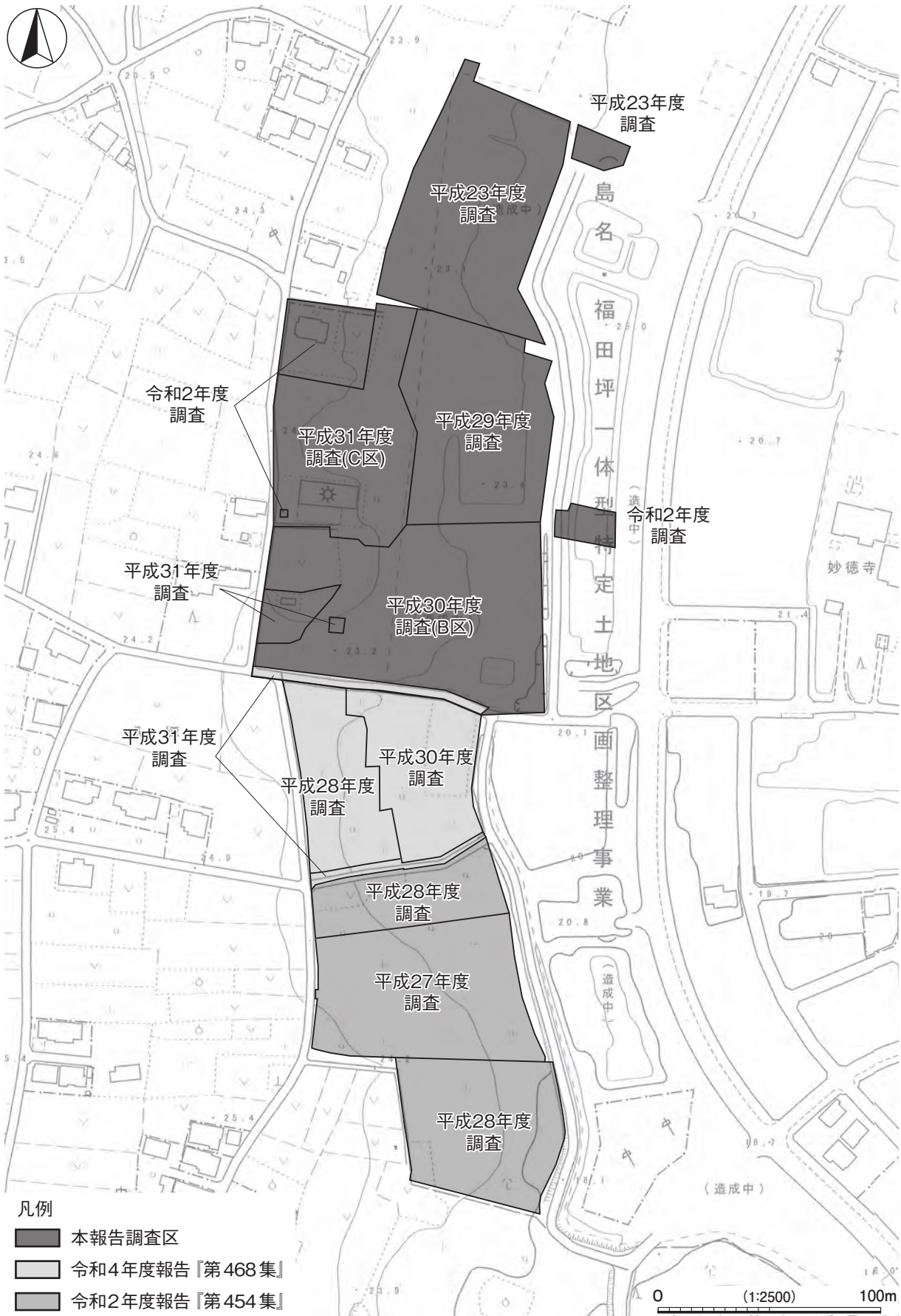
遺跡番号	遺 跡 名	時 代							遺跡番号	遺 跡 名	時 代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山	江戸
①	島名本田遺跡		○		○	○	○	○	34	水堀道後前遺跡					○		
2	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○	35	大和田氏屋敷跡						○	○
3	島名熊の山古墳群				○				36	平北田遺跡				○			
4	島名八幡前遺跡	○	○		○	○	○	○	37	平後遺跡				○		○	○
5	島名薬師遺跡				○				38	大白碕西ノ裏遺跡				○			
6	島名中代遺跡		○		○	○	○	○	39	大白碕桜下遺跡				○			
7	島名前野遺跡		○		○				40	大白碕民部山遺跡				○			
8	島名前野東遺跡				○	○	○		41	小白碕民部山遺跡				○			
9	島名前野古墳				○				42	小白碕水表遺跡				○			
10	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○	43	真瀬西原塚						○	○
11	島名一町田西遺跡		○						44	真瀬中畑遺跡		○		○			○
12	島名境松遺跡	○	○		○				45	真瀬新田谷津遺跡		○					
13	島名タカドロ遺跡		○		○				46	真瀬新田古墳群				○			
14	島名榎内南遺跡	○			○	○			47	真瀬中道古墳		○		○			
15	島名榎内古墳群				○				48	真瀬堀附南遺跡		○		○			
16	島名榎内西古墳				○				49	真瀬山田遺跡		○		○	○		
17	島名榎内遺跡				○				50	真瀬堀附北遺跡				○			
18	島名ツバタ遺跡	○	○		○		○	○	51	真瀬山田北遺跡		○		○			
19	島名関ノ台遺跡				○				52	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
20	島名関ノ台古墳群				○				53	下河原崎高山遺跡		○	○	○			
21	島名関ノ台塚						○	○	54	下河原崎高山古墳群				○			
22	島名関ノ台南A遺跡				○	○			55	下河原崎高山窯跡				○			
23	島名関ノ台南B遺跡	○	○			○		○	56	下河原崎谷中台遺跡	○	○		○	○		
24	高田和田台遺跡				○				57	下河原崎古墳群				○			
25	高田遺跡					○		○	58	元宮本前山遺跡				○	○		
26	高田原山遺跡				○	○			59	元中北東藤四郎遺跡	○	○		○			
27	面野井西ノ台塚						○	○	60	上河原崎前山遺跡	○			○			
28	面野井城跡						○		61	元中北鹿島明神古墳				○			
29	面野井古墳群				○				62	上河原崎本田遺跡				○	○		○
30	面野井南遺跡				○	○	○	○	63	上河原崎小山台古墳				○			
31	水堀下道遺跡				○	○			64	上河原崎八幡脇遺跡				○	○		
32	水堀遺跡				○				65	中別府宮前遺跡				○	○	○	○
33	水堀屋敷添遺跡		○		○												

立柱建物跡、井戸跡、土坑などで構成される屋敷跡を伴う集落跡が確認できる。つくば市東部の金田西坪B遺跡では、複数の区画溝を伴う屋敷跡が15世紀中葉から16世紀代に4期にわたる変遷が捉えられている¹¹⁾。同じく桜川右岸の上野古屋敷遺跡は、複数次にわたる調査で、舌状台地上の集落跡の大部分を調査した例である。一辺30～40mの小区画による複数の屋敷跡からなる集落であるが、掘立柱建物跡では桁行2間、梁間1間から桁行5間、梁間1間の小規模なものが多く、前段階にあるような礎石を有する建物や居館を思わせる区画は確認されていない¹²⁾。また出土する陶磁器類、土器類のうち、嗜好品的なものは僅かで日用品が多いことなどから、永越氏は「土豪クラスの居住していない集落」と考えている¹³⁾。当遺跡と金田西坪B遺跡も、遺構の種類と配置、遺物の構成などは、上野古屋敷遺跡に類似している部分があり、参考となる。

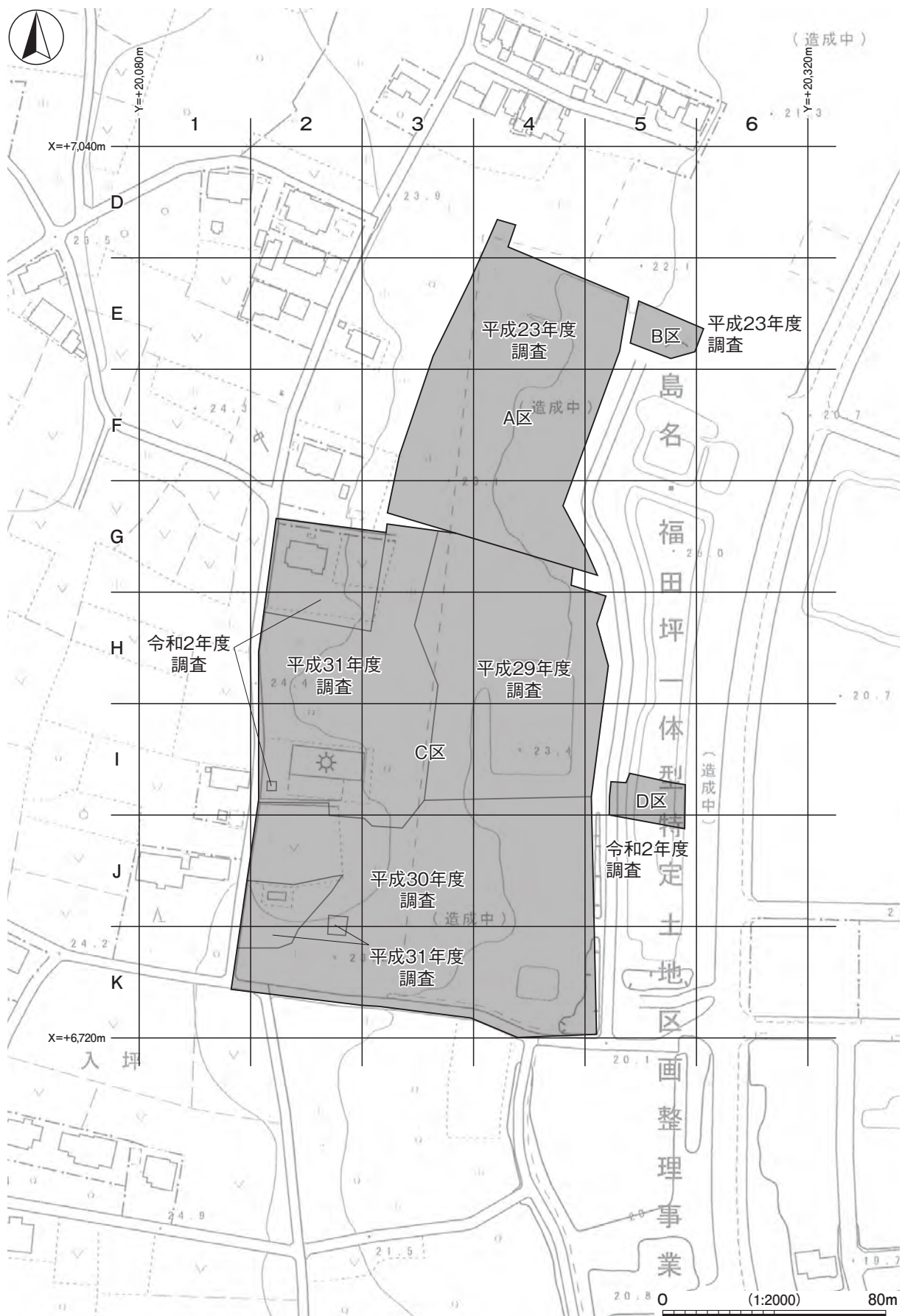
萱丸地区にある古屋敷遺跡は、17世紀後葉を中心とした溝で区画された屋敷跡で、区画内には掘立柱建物跡と井戸跡などがみられる。遺物は15世紀末に比定できる陶磁器類も出土しており、15世紀後半に再編された中世集落から近世集落への連続的な移行を示している¹⁴⁾。小野川左岸の新牧田遺跡では、15世紀後半から19世紀前半の区画溝を伴う大規模な墓域が確認されている¹⁵⁾。つくば市域において、これらの中世に成立した集落は、近世以前に廃絶する集落と近世まで継続する集落があり、その社会背景を視野に入れながら消長を検討していく必要がある。

註

- 1) 大山年次監修 1977年 『茨城県 地質のガイド』 コロナ社
日本の地質「関東地方」編集会 2007年 『日本の地質3 関東地方』 共立出版
- 2) 茨城県教育庁文化課編 2001年 『茨城県遺跡地図』 茨城県教育委員会
- 3) 江原美奈子ほか 2021年 『鳥名本田遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第454集
- 4) 石橋充 1999年 『史跡小田城跡－第29・31次調査（本丸跡確認調査Ⅰ）概要報告－』 つくば市教育委員会
- 5) 江原美奈子ほか 2023年 『鳥名本田遺跡2』 茨城県教育財団文化財調査報告第468集
- 6) 酒井雄一ほか 2007年 『鳥名熊の山遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第280集
早川麗司 2009年 『鳥名熊の山遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第322集
仲村浩一郎ほか 2012年 『鳥名熊の山遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第360集
- 7) 寺門千勝ほか 2000年 『鳥名前野東遺跡 鳥名境松遺跡 谷田部漆遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第191集
- 8) 川村満博ほか 2003年 『梶内向山遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第199集
- 9) 山本賢一郎ほか 1989年 『小泉館跡－発掘調査概報－』 つくば市教育委員会
矢ノ倉正男 1995年 『小泉館跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第97集
- 10) 永越信吾 2014年 「関東における中世集落の再編－15世紀代を中心として－」『総研大学文化科学研究』第10号
- 11) 野田良直 2020年 『金田西坪B遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第443集
- 12) 三谷正ほか 2007年 『上野古屋敷遺跡1』 茨城県教育財団文化財調査報告第285集
- 13) 10)と同じ
- 14) 白田正子ほか 1998年 『三度山遺跡 古屋敷遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告第132集
- 15) 小川和博ほか 2014年 『新牧田遺跡』 エム・ケー株式会社（有）日考研茨城 つくば市教育委員会



第2図 島名本田遺跡調査区（発掘調査）区割図（つくば市都市計画図2,500分の1から作成）



第3図 島名本田遺跡調査区（整理報告）区割設定図（つくば市都市計画図2,500分の1から作成）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

島名本田遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高20～23mの台地上に立地している。当遺跡は平成23年度から令和2年度までに断続的に7次の調査が行われており、今回報告する調査区は、遺跡の北部に位置する平成23年度、平成29年度、平成30年度北部（B区）、平成31年度北部（C区）、令和2年度にそれぞれ調査が行われた区域である。調査面積は、平成23年度が7,486㎡、平成29年度が5,052㎡、平成30年度北部（B区）が7,438㎡、平成31年度北部（C区）が4,689㎡、令和2年度が2,109㎡で、調査前の現況は畑地、田、用水路、山林、荒蕉地、市道、宅地である。なお、報告にあたっては、区割りを再編成した（第3図）。

調査の結果、竪穴建物跡20棟（縄文時代1、古墳時代9、奈良・平安時代9、時期不明1）、掘立柱建物跡17棟（室町から江戸時代）、方形竪穴遺構11棟（室町から江戸時代）、地下式坑24基（室町から江戸時代）、段切状遺構1か所（室町から江戸時代）、整地遺構4か所（室町から江戸時代）、井戸跡174基（奈良・平安時代5、室町から江戸時代166、時期不明3）、道路跡2条（奈良・平安時代1、室町から江戸時代1）、溝跡・堀跡183条（奈良・平安時代1条、室町から江戸時代182条）、柱穴列10条（室町から江戸時代）、炉跡12基（室町から江戸時代）、土坑墓34基（江戸時代）、火葬施設3基（室町時代）、陥し穴1基（縄文時代）、土坑1,935基（古墳時代14、奈良・平安時代25、室町から江戸時代1,864、時期不明32）、ピット群50か所（室町から江戸時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に306箱出土している。遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高台付皿・鉢・甕・甑）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・捏鉢・長頸瓶・甕・甑）、灰釉陶器（壺）、土師質土器（皿・播鉢・香炉・風炉・内耳鍋・甕）、瓦質土器（播鉢・火鉢）、陶器（碗・天目茶碗・皿・水滴・花瓶・鉢・播鉢・甕）、磁器（碗・皿）、土製品（羽口・土鈴）、石器・石製品（砥石・硯・石臼・茶臼・五輪塔・宝篋印塔・板碑）、木製品（椀・皿・曲物・羽子板・鋏・臼・桶・下駄・杓文字・包丁柄・杭）、金属製品（包丁・権・鉄砲玉・釘・煙管）、銭貨（永楽通寶・寛永通寶・文久通寶）、自然遺物（馬骨・種子）などである。

第2節 基本層序

調査区A区の台地平坦部（E4a1区）に設定したテストピットと、調査区D区の台地緩斜面部に所在する第211号井戸跡の掘り方調査時に基本層序（第4図）の観察を行った。

第Ⅰ層は、黒褐色を呈する表土である。層厚は18～26cmである。

第Ⅱ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、層厚は8～14cmである。

第Ⅲ層は、暗褐色を呈するハードローム層で、第2黒色帯に相当する。粘性は普通で締まりは極めて強く、赤色粒子と黒色粒子を微量含む。層厚は24～36cmである。

第Ⅳ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは第3層同様極めて強く、層厚は14～17cmである。

第Ⅴ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性と締まりがともに強く、クラックが発達している。層厚は24～55cmである。

第Ⅵ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性と締まりがともに強く、上層にクラックが発達している。層厚は6～33cmである。

第Ⅶ層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性と締まりがともに強く、層厚は14～29cmである。

第Ⅷ層は、にぶい黄褐色を呈する粘土漸移層である。粘性と締まりがともに強く、粘土小ブロックを中量含む。層厚は8～22cmである。

第Ⅸ層は、黄褐色を呈する粘土層である。粘性と締まりがともに極めて強く、粘土小ブロックを中量含む。層厚は16～24cmである。

第Ⅹ層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性と締まりがともに極めて強く、粘土小ブロックを多量に含み、黄橙色の粒子が斑状に入る。層厚は8～20cmである。

第Ⅺ層は、にぶい黄橙色を呈する常総粘土層と考えられる。粘性と締まりがともに極めて強く、黄橙色の粒子が斑状に入る。層厚42～44cmである。

第Ⅻ層は、青灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、グライ化している。層厚は21～25cmである。

第Ⅼ層は、黄灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、粘土粒子を微量に含んでいる。層厚は19～24cmである。

第Ⅽ層は、青灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、グライ化している。褐色の細砂粒がラミナ状に堆積する。層厚は24～26cmである。

第Ⅾ層は、黄灰色を呈する砂質粘土層である。粘性と締まりがともに強く、褐色の細砂粒がラミナ状に堆積する。層厚は30～34cmである。

第Ⅿ層は、黄灰色を呈する砂粒混じりの砂質粘土層である。粘性は普通で締まりは強く、褐色の細砂粒や鉄粒子を中量含んでいる。層厚は14～16cmである。

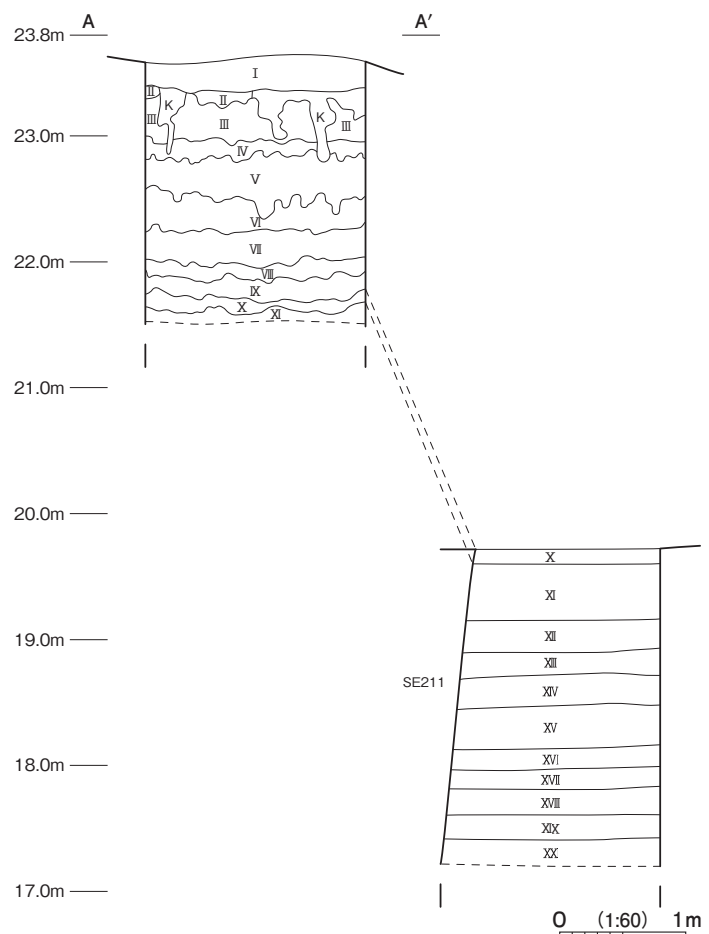
第ⅰ層は、灰色を呈する砂質粘土層である。粘性は弱く締まりは強い。褐色の細砂粒や鉄粒子を中量含んでいる。層厚は14～16cmである。

第ⅱ層は、緑灰色を呈する砂層である。粘性は弱く締まりは普通である。層厚は18～20cmである。

第ⅲ層は、緑灰色を呈する砂層である。粘性は弱く締まりはやや弱い。貝殻の小片を微量に含む。層厚は17～20cmである。

第ⅳ層は、明緑灰色を呈する砂層である。粘性は弱く締まりはやや強い。層厚は20cmまでを確認した。

遺構は、第Ⅱ～Ⅹ層の上面で確認した。



第4図 基本土層図（全体図参照）

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

竪穴建物跡1棟、陥し穴1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

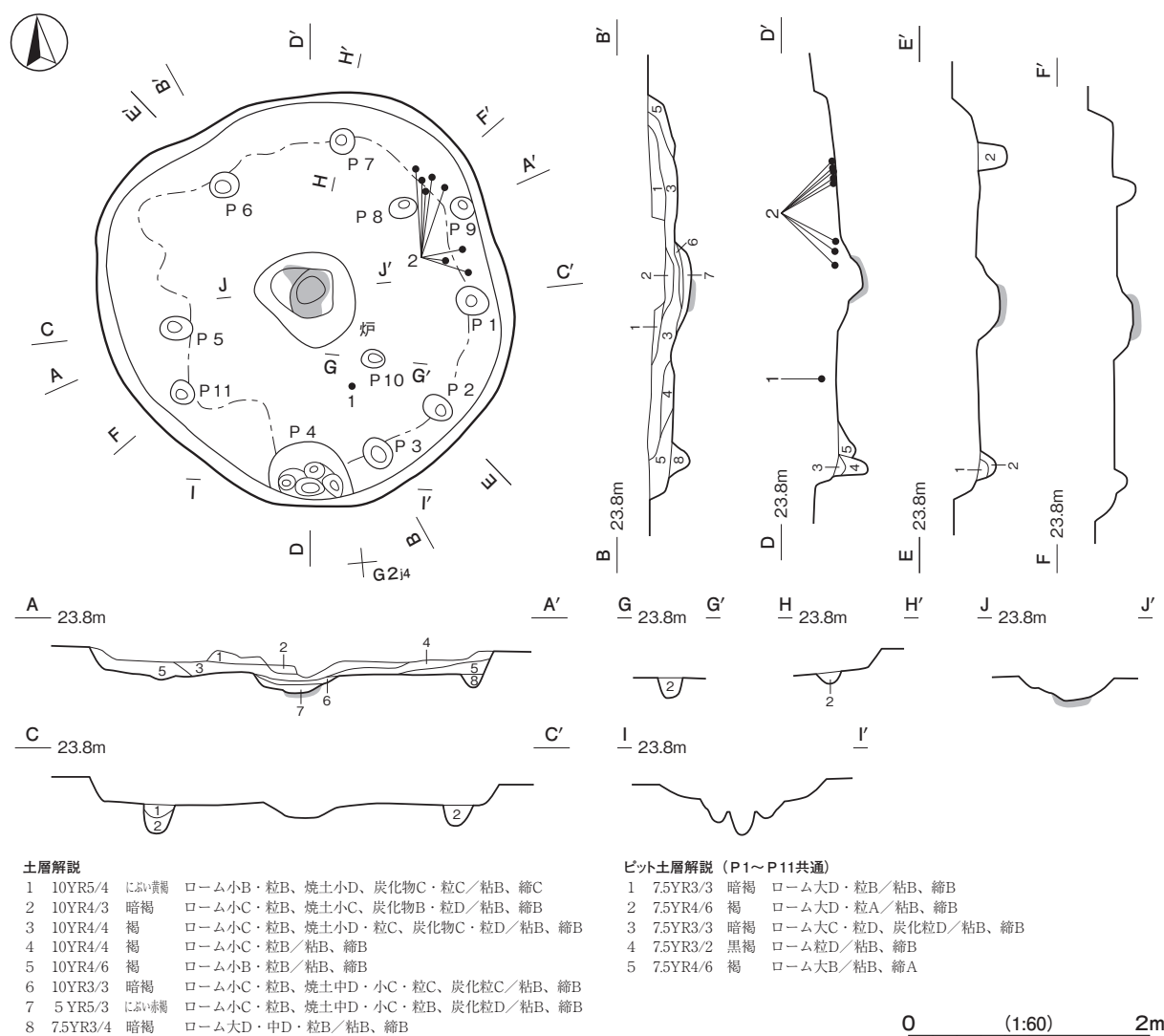
第128号竪穴建物跡（第5・6図 第2表 PL 7・53）

位置 調査区C区北西部のG2i3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.60m、短径3.40mの不整円形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ14～27cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、炉の周辺からピットで囲まれた部分が硬化している。

炉 中央部に位置している。長径80cm、短径70cmの不整楕円形で、深さ15cmほどの皿状を呈した地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。



第5図 第128号竪穴建物跡実測図

ピット 11か所。P 1～P 3・P 5～P 9・P11は、径20～30cm、深さ10～30cmで、位置と形状から主柱穴である。南壁際に位置するP 4は、長径70cm、短径60cm、深さ20cmの楕円形で、底面に深さ15～30cmの小ピット状の凹凸がある。位置と形状から、出入口施設に伴うピットである。P10は径20cm、深さ16cmで、性格不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、炭化物などを含む褐色土が周囲から流入しており、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢）が出土している。1は中央部南壁寄りの覆土下層から出土している。2は東壁際中央部の床面上に分散して出土したものが接合している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉の加曽利EⅢ式期と考えられる。



第6図 第128号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2表 第128号竪穴建物跡出土遺物一覧（第6図 PL53）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英・黒色粒子・細礫	にぶい橙	普通	内外面磨き	覆土下層	5% PL53
2	縄文土器	深鉢	—	(14.3)	—	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	地文縦位RL単節縄文 幅広い磨消縄文	床面	10% PL53

(2) 陥し穴

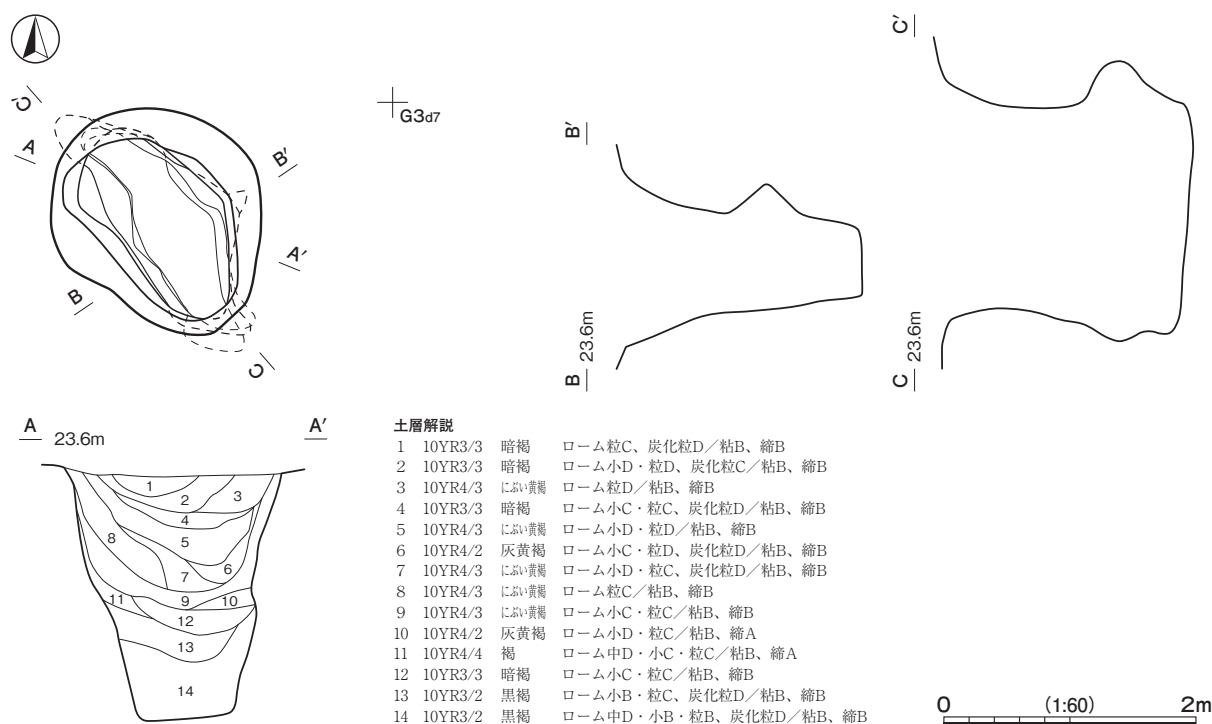
第1号陥し穴（第7図 PL 7）

位置 調査区A区南部のG 3 d6区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.97 m、短径1.68 mの楕円形で、長径方向はN－35°－Wである。深さは196cmで、壁上部はやや外傾し、中部はほぼ直立している。また、下部は北西壁の一部と、北東壁と南東壁の3か所は、奥行12～30cmほど内彎している。底面は平坦で、平面形はやや不整な長楕円形を呈している。

覆土 14層に分層できる。第1～3層は、周囲の流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第4層以下はロームブロックを含んでいることから、人為堆積である。

所見 出土遺物がないため、時期は不明であるが、特徴的な形状から、縄文時代の陥し穴と考えられる。



第7図 第1号陥し穴実測図

2 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡9棟、土坑14基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第112号竪穴建物跡（第8・9図 第3表 PL 7・53）

位置 調査区C区西部のJ2c5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1334・1350・1375・1434～1437号土坑、第300号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.03m、短軸4.67mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ10cmほどで、ほぼ直立している。

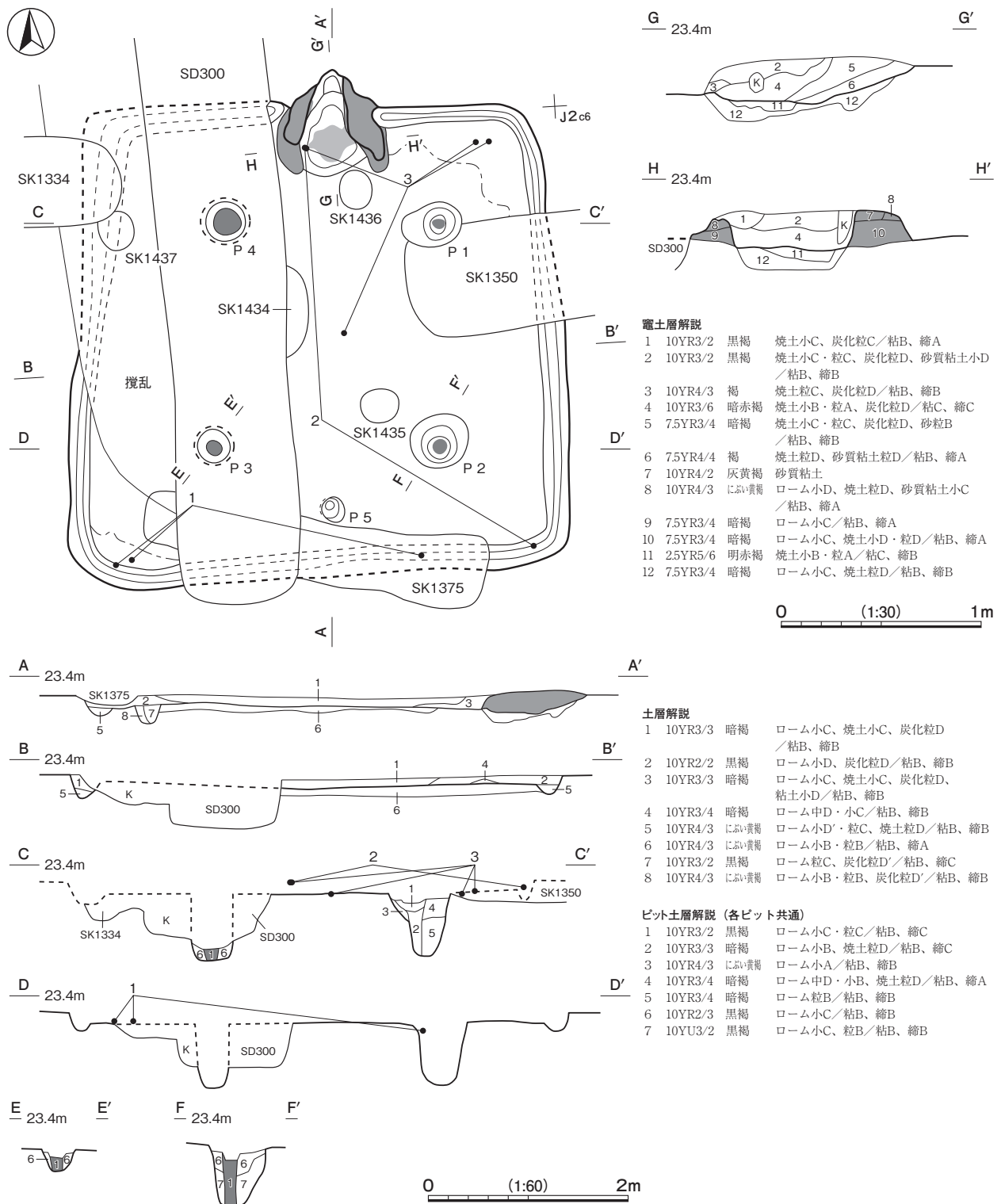
床 ほぼ平坦で、コーナー部付近を除いて硬化している。貼床は、ロームブロックを含む第6層を5～10cm埋土して構築している。壁溝は確認できた範囲で全周している。

竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃烧部幅は50cmである。竈は地山を10cmほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックと焼土粒子を含む第11・12層を埋土して整地している。袖部は、地山上に第7～10層を積み上げて構築している。火床部は床面を僅かに掘りくぼめている。火床面は第11層上面で、不整形に赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている

ピット 5か所。P1・P2は深さ63・67cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は第165号溝に掘り込まれているが、床面からの深さは60・68cmと推定でき、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土はP2～P4の第

1層は柱痕跡、第3～7層は掘方の埋土である。いずれの底面からも硬化した径12～30cmの柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。P1・P5の覆土は、柱抜き取り後の流入土である。

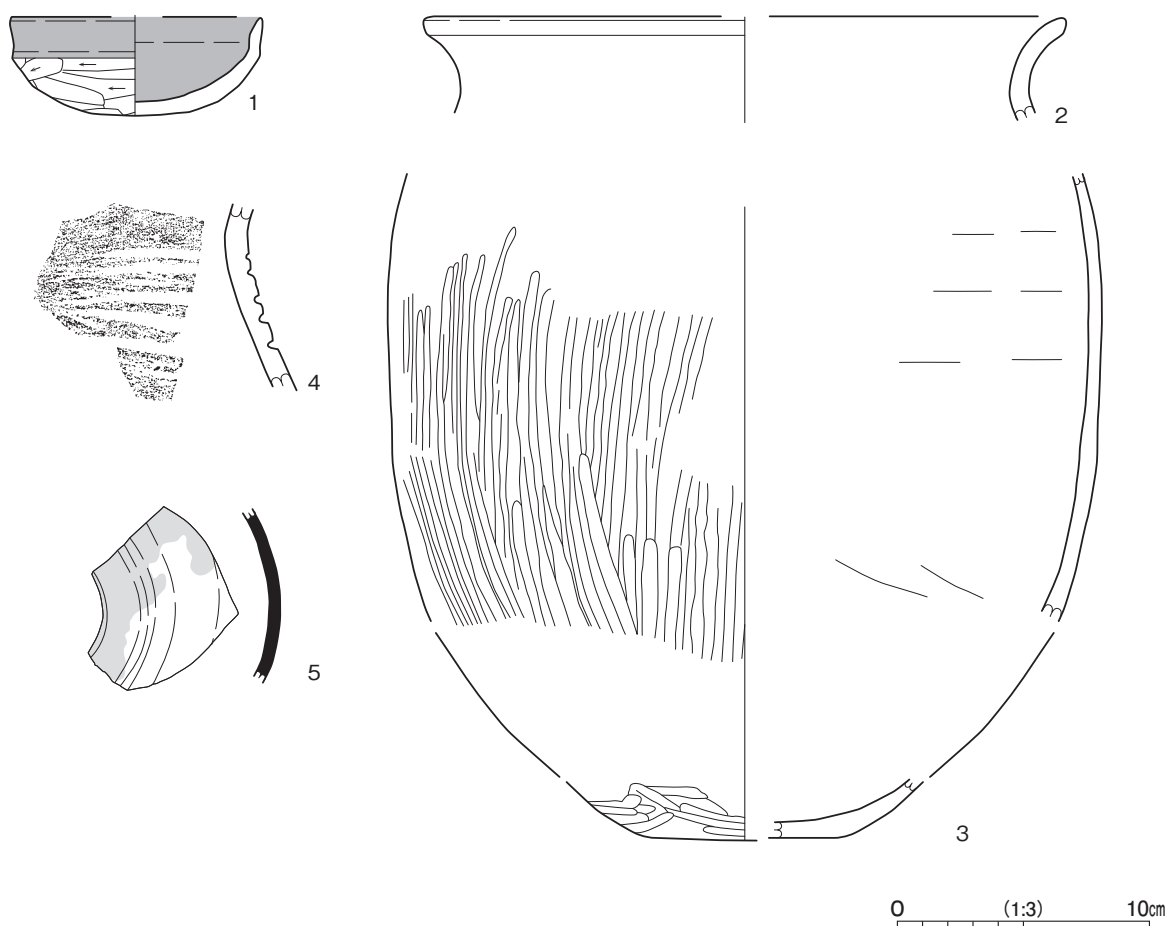
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む暗褐色土が主体で、周辺からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。第7・8層はP5の堆積土である。



第8図 第112号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 19 点（坏 2、甕 17）、須恵器片 1 点（長頸瓶）が出土している。ほかに混入した土師質土器片 1 点が出土している。遺物は全体的に少量で、後世の遺構に掘り込まれていないコーナー部を中心に出土している。1 は南壁際の床面付近に、3 は北東コーナー部から竈前面の床面付近に散在した 4 点が接合したものである。2 は南東コーナー部の覆土上層と竈上面から出土した 2 点が接合している。4 は P 1 の覆土中から出土したもので、土師器甕の体部片を砥石に転用している。5 は南東部の覆土中から出土したもので、東海系の長頸瓶の一部である。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前半と考えられる。



第 9 図 第 112 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3 表 第 112 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 9 図 PL53）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[9.8]	3.9	—	長石・石英	黒褐	普通	口縁部横ナデ 外面黒色処理 体部外面ヘラ削り 内面横ナデ 黒色処理	床面	50% PL53
2	土師器	甕	[25.2]	(4.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部弱い摘まみ上げ 内外面横ナデ	覆土上層	5%
3	土師器	甕	—	(26.3)	[8.4]	長石・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	40%
4	土師器	甕	—	(7.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横ナデ 刃物痕 内面ヘラナデ	P 1 覆土	5% PL53 砥石転用
5	須恵器	長頸瓶	—	(6.8)	—	長石	灰黄	良好	ロクロナデ 釉暗オリーブ	南東部 覆土	5% PL53 東海系

第 113 号竪穴建物跡 (第 10・11 図 PL 7・8)

位置 調査区 C 区西部の I 2 i8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.43 m、短軸 3.12 m の方形で、主軸方向は N - 2° - E である。壁は高さ 7 ~ 24cm で、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から主柱穴で囲まれた範囲が硬化している。貼床は、南東コーナー部を一段深く土坑状に掘り込み、ロームブロックを含む第 9・10 層を 5 ~ 15cm 埋土して構築している。壁溝は全周している。

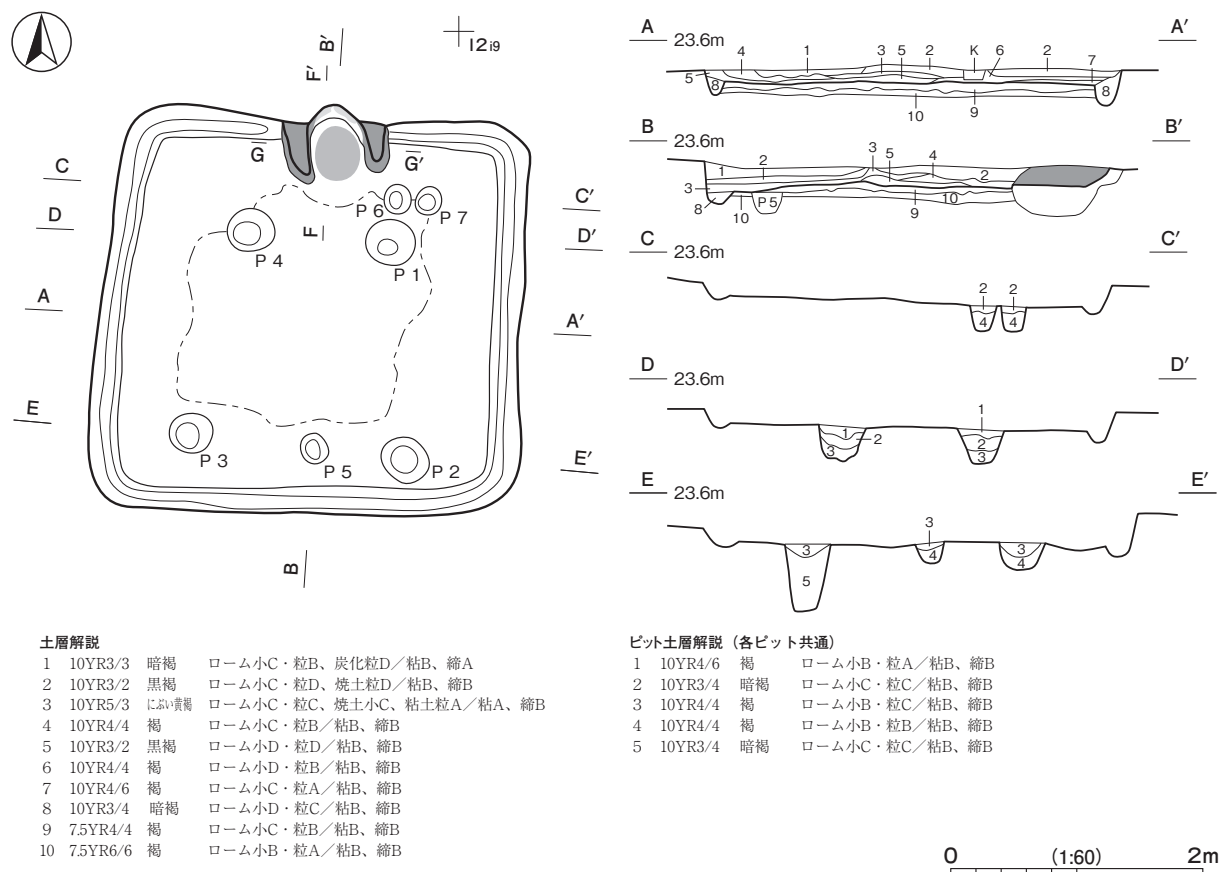
竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで 86cm で、燃焼部幅は 40cm である。竈は地山を 50cm ほど円形に掘りくぼめ、ロームブロックを含む第 7 ~ 10 層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第 5・6 層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 8 層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm ほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 7 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 22 ~ 54cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 20cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 は深さ 20cm で、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

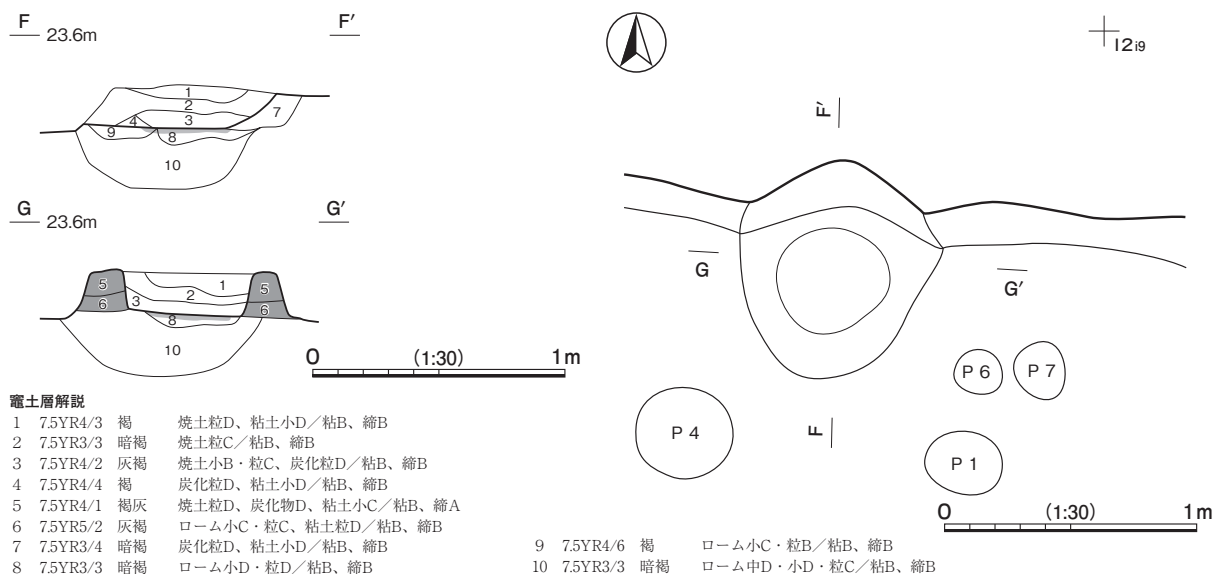
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックを含む褐色土や粘土粒子を多く含む黄褐色土と、黒褐色土が不規則に堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 1、甕 3) が出土している。ほかに混入した土師質土器片 1 点が出土している。遺物は少量で、細片のため図示できないが、土師器の坏片が北西部の覆土上層から、甕片が竈掘方内から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前半と推定できる。



第 10 図 第 113 号竪穴建物跡実測図(1)



第 11 図 第 113 号竪穴建物跡実測図(2)

第 115 号竪穴建物跡 (第 12 図 PL 8)

位置 調査区 C 区西部の J 2 b9 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1331・1403・1426・1444・1447・1451・1462・1487 号土坑、第 34 号ピット群の P 8～P11・P15 に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.64 m、短軸 5.44 m の方形で、主軸方向は N - 7° - E である。壁は高さ 10～20cm で、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、東・西壁際を除いた中央部が硬化している。壁溝は確認できた範囲で全周している。

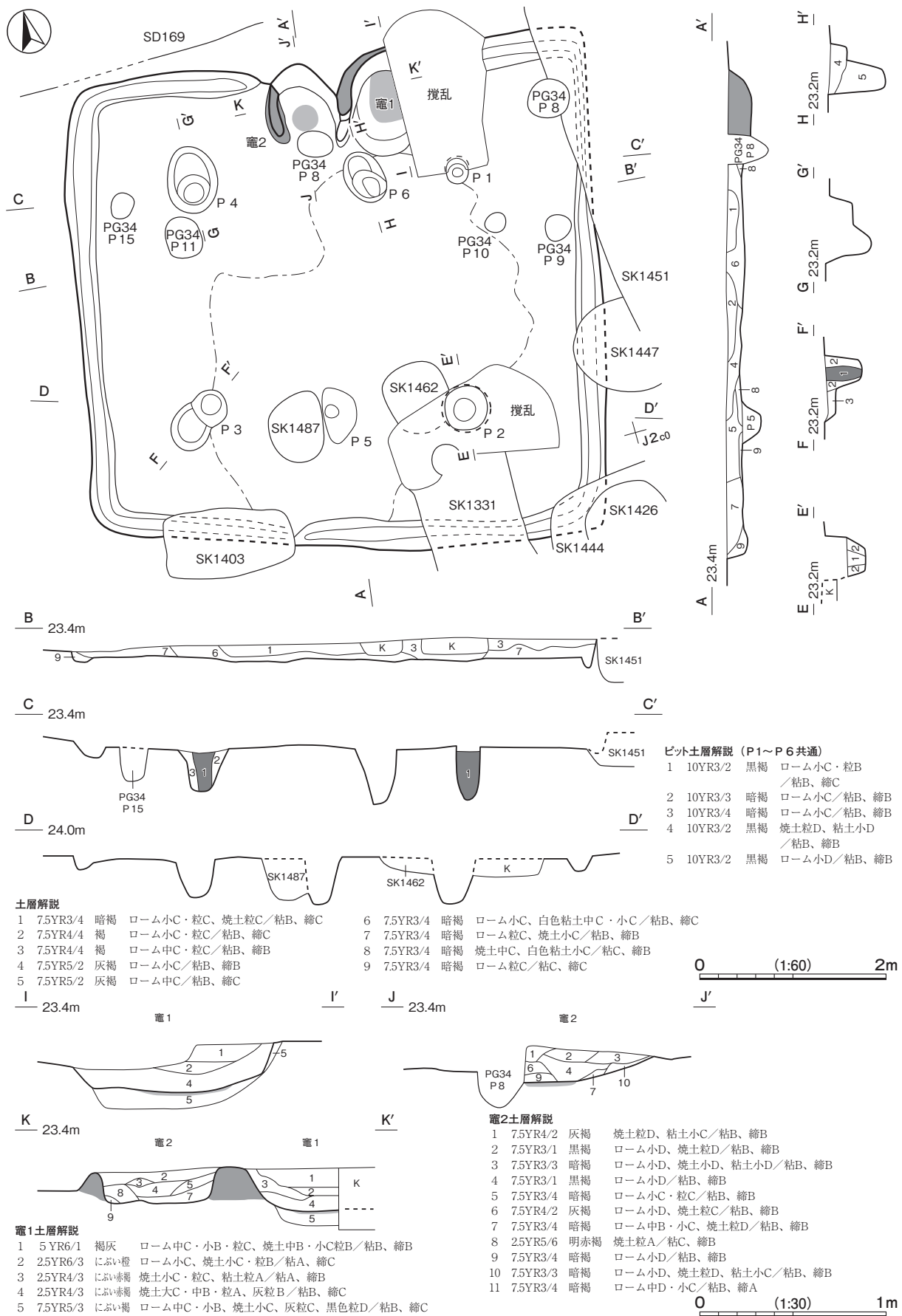
竈 2 か所。遺存状態から、竈 1 から竈 2 へ作り替えている。竈 1 は北壁中央部やや東寄りに位置し、攪乱と竈 2 への作り替えのため、袖部は遺存していなかった。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で、確認できた燃焼部幅は 50cm である。地山を 10cm ほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロック・灰粒などを含む第 5 層を埋土して整地している。火床部は床面から 10cm ほど皿状に掘りくぼめている。火床面は第 5 層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に 10cm ほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部の上部に沿って、幅 5～10cm の白色粘土が残存している。竈 2 は北壁中央部に位置し、規模は焚口部から煙道部まで 100cm で、燃焼部幅は 50cm である。袖部は地山上に白色粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 4・9 層の下面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に 10cm ほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 6 か所。P 1～P 4 は深さ 40～60cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 50cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。竈 1 の前に位置する P 6 は深さ 60cm で、性格は不明である。覆土は第 1 層が柱痕跡、第 2・3 層が掘方埋土、第 4・5 層が柱抜き取り後の流入土である。

覆土 9 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、粘土ブロックを含む暗褐色土や灰褐色土が主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

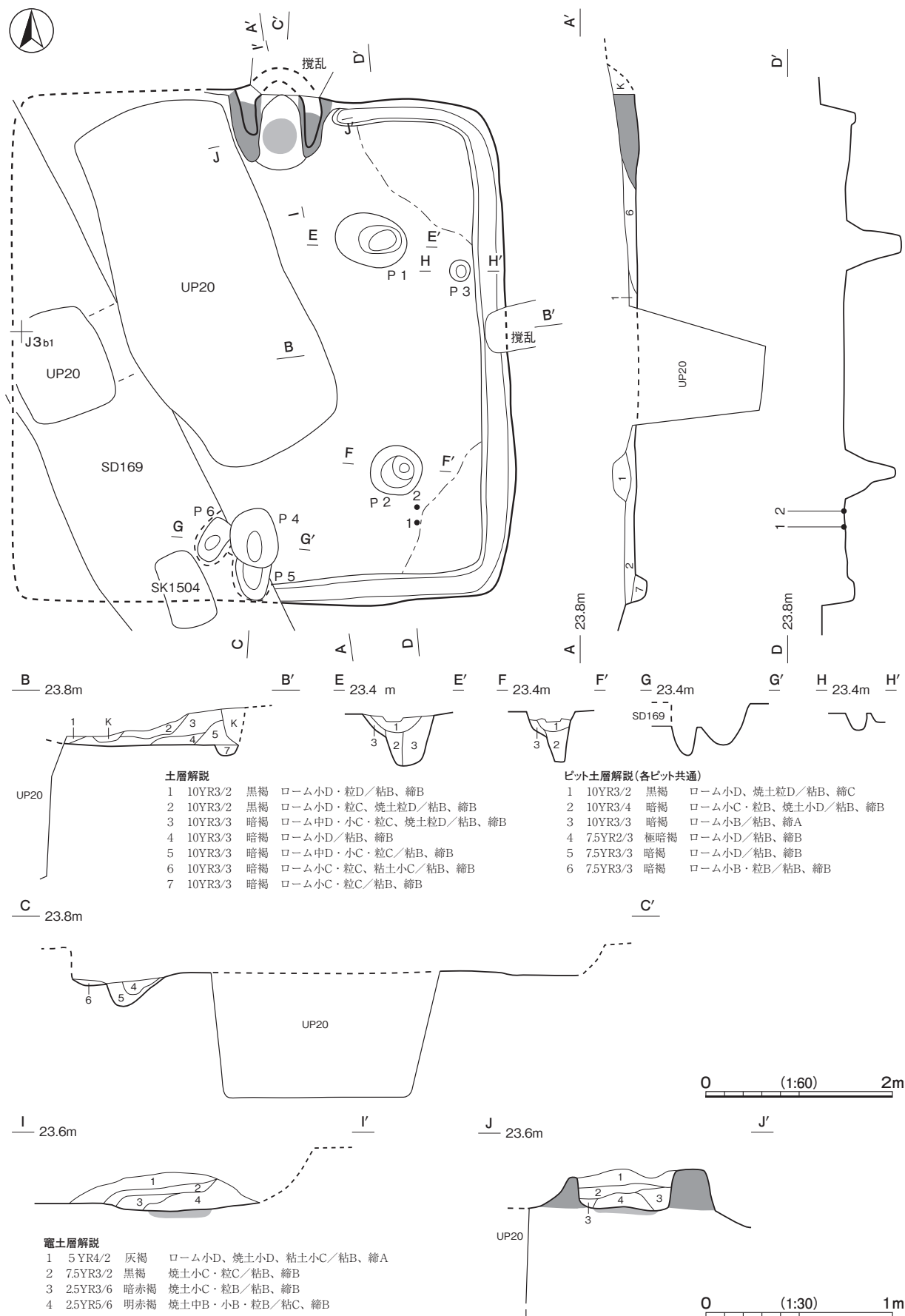
遺物出土状況 土師器片 34 点 (坏 8、甕 26)、須恵器片 1 点 (坏) が出土している。ほかに混入した土師質土器片 3 点が出土している。遺物は少量で、細片のため図示できないが、覆土の全体に散在している。土師器の坏片が竈 2 の袖部や覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前半と推定できる。



第12図 第115号竪穴建物跡実測図

第 116 号竪穴建物跡 (第 13・14 図 第 4 表 PL 8・53)



第 13 図 第 116 号竪穴建物跡実測図

位置 調査区C区西部のJ 3a1区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号地下式坑、第1504号土坑、第169号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が中世の遺構群に掘り込まれているため、確認できた規模は南北軸5.40 m、東西軸3.40 mである。方形と推定され、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ10～40cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、北東・南東コーナー部を除いて硬化している。壁溝は確認できた範囲で全周している。

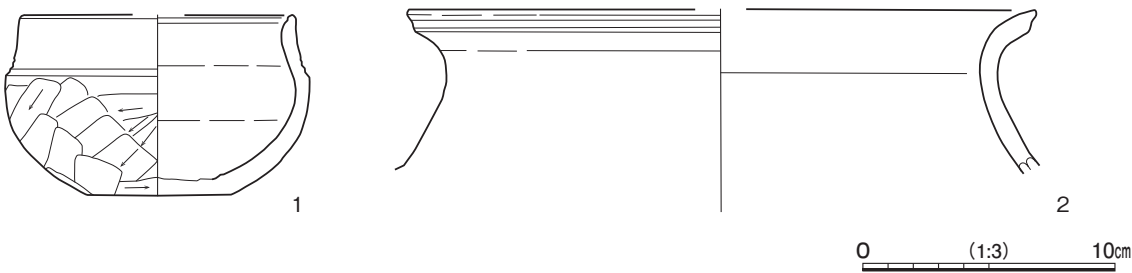
竈 北壁中央部に位置していると推定できる。煙道部が攪乱のため、確認できた規模は焚口部から煙道部側に80cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は、地山の上に白色粘土を積み上げて構築している。火床部は床面をわずかに掘り込んでいる。火床面は第4層下面で、楕円形に赤変硬化している。

ピット 6か所。P 1・P 2は深さ56・60cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 4～P 6は深さ15～38cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられるが、重複などは不明である。P 3は深さ18cmで、性格は不明である。覆土は第1・2・4～6層が柱抜き取り後の流入土、第3層が掘方埋土である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土が主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片59点（坏7、甕52）、須恵器片2点（蓋、短頸壺カ）、凝灰岩製砥石1点が出土している。ほかに混入した土師質土器片1点、磁器3点、石器1点が出土している。遺物は東部の覆土上層から多く出土している。1・2は、南東コーナー部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第14図 第116号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4表 第116号竪穴建物跡出土遺物一覧(第14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[10.8]	7.1	5.7	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部・底部ヘラ削り 内面口縁部～体部上半横ナデ 下半～底部ヘラナデ	床面	60% PL53
2	土師器	甕	[25.0]	(6.5)	—	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁部摘まみ上げ 外面横ナデ 内面口縁部横ナデ 頸部ヘラナデ	床面	10% PL53

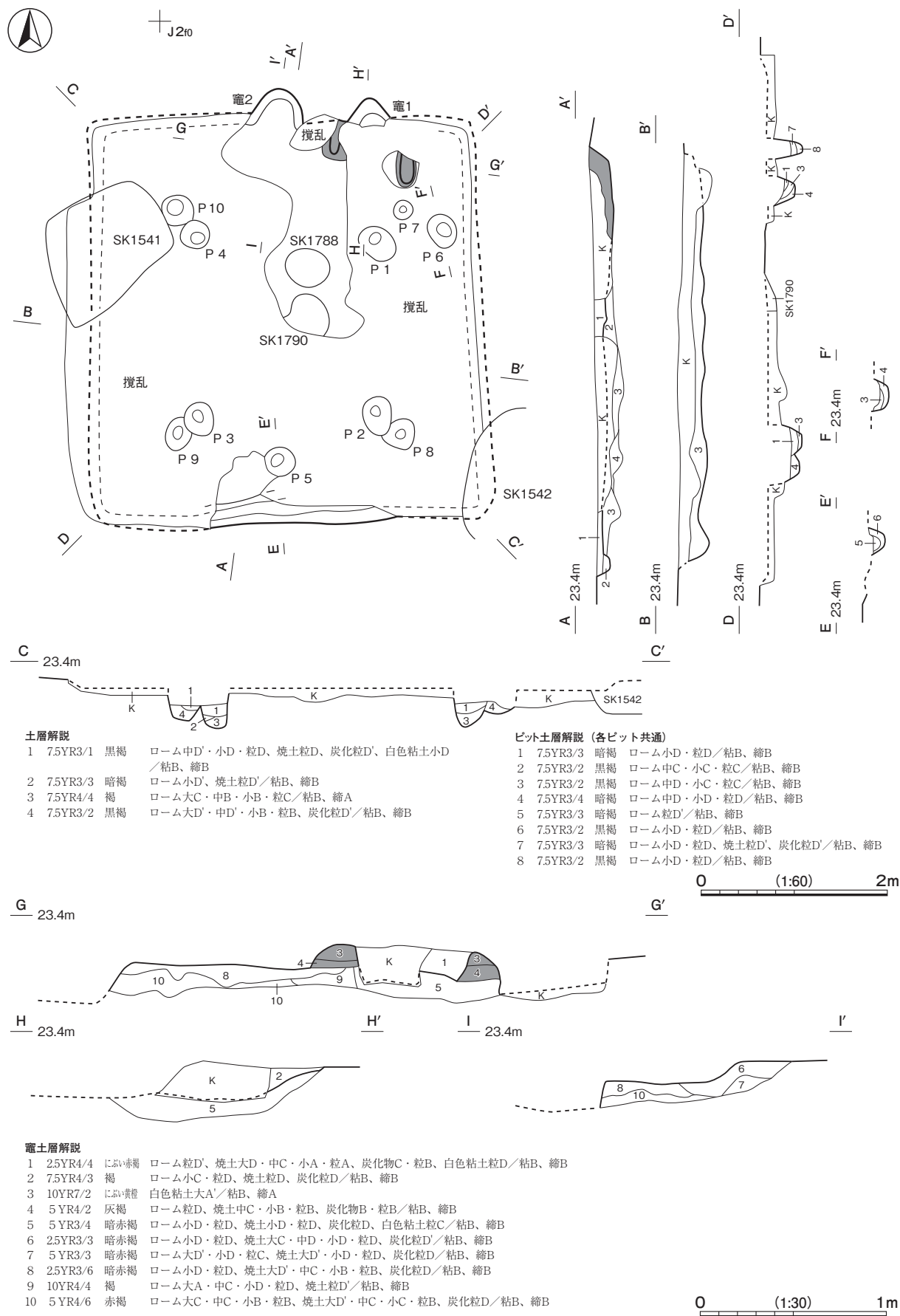
第117号竪穴建物跡（第15・16図 PL 8・9）

位置 調査区C区西部のJ 2f0区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

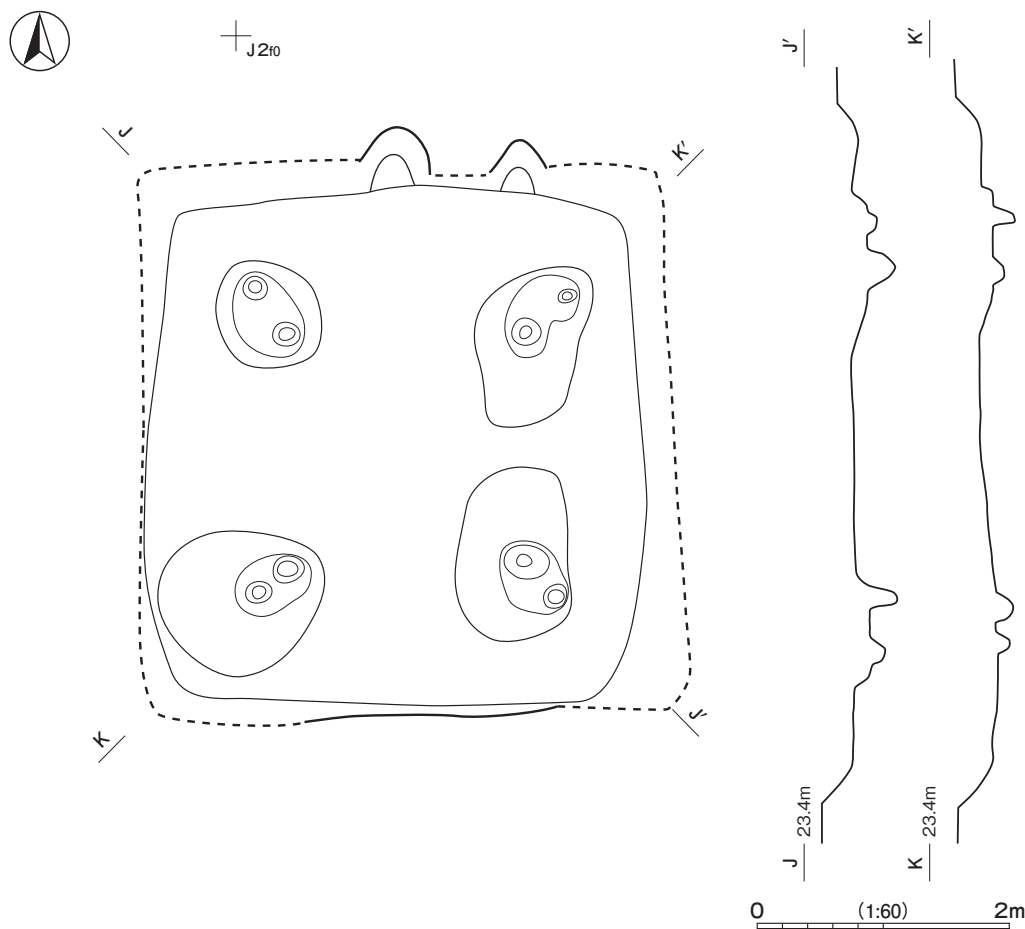
重複関係 第1541・1542・1788・1790号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大半が攪乱を受けているため、南壁側と竈一部などを確認した。確認できた規模は、南壁から竈2の煙道部までは4.66 m、掘方の長軸は4.42 m、短軸は4.35 mである。方形と推定され、主軸方向はN-6°-Eである。壁は高さ6cmほどで、外傾している。

床 攪乱のため、硬化面は確認できなかった。貼床は、ロームブロックを含む第3・4層を10～15cm埋土



第 15 図 第 117 号竪穴建物跡実測図



第 16 図 第 117 号竪穴建物跡掘方実測図

して構築している。特に主柱穴付近は、土坑状を呈している。壁溝は、確認できた南壁直下に巡っている。

竈 2か所。遺存状態から、竈2から竈1へ作り替えている。竈1は北壁東寄りに位置し、攪乱のため、袖部と煙道の一部を確認した。確認できた規模は、燃烧部幅が約50cmで、地山を10～15cmほど掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第5層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第3・4層を積み上げて構築している。火床部は攪乱のため不明である。煙道部は壁外へ30～40cm張り出し、緩やかに立ち上がっている。竈2北壁中央部に位置し、攪乱のため、煙道部と掘方の整地面を確認した。掘方は地山を15～20cm掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第8～10層で埋土して整地している。煙道部は壁外に30cmほど張り出し、整地面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 10か所。P1～P4・P7～P10は、床面からの深さが30～40cmと推定でき、配置から主柱穴と考えられる。重複関係からP7～P10からP1～P4へ作り替えられたものと推定される。P5は床面からの深さが24cmと推定でき、竈2に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ26cmで、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 2層に分層できる。部分的な確認のため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片10点（甕）が、竈の覆土中と掘方覆土中から出土している。ほかに本跡を掘り込んでいる攪乱中から、土師器片26点（坏3、甕23）、須恵器片10点（坏2、甕8）、土師質土器片1点が出土している。いずれも細片である。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と推定できる。

第 118 号竪穴建物跡 (第 17～19 図 第 5 表 PL 9・53・54)

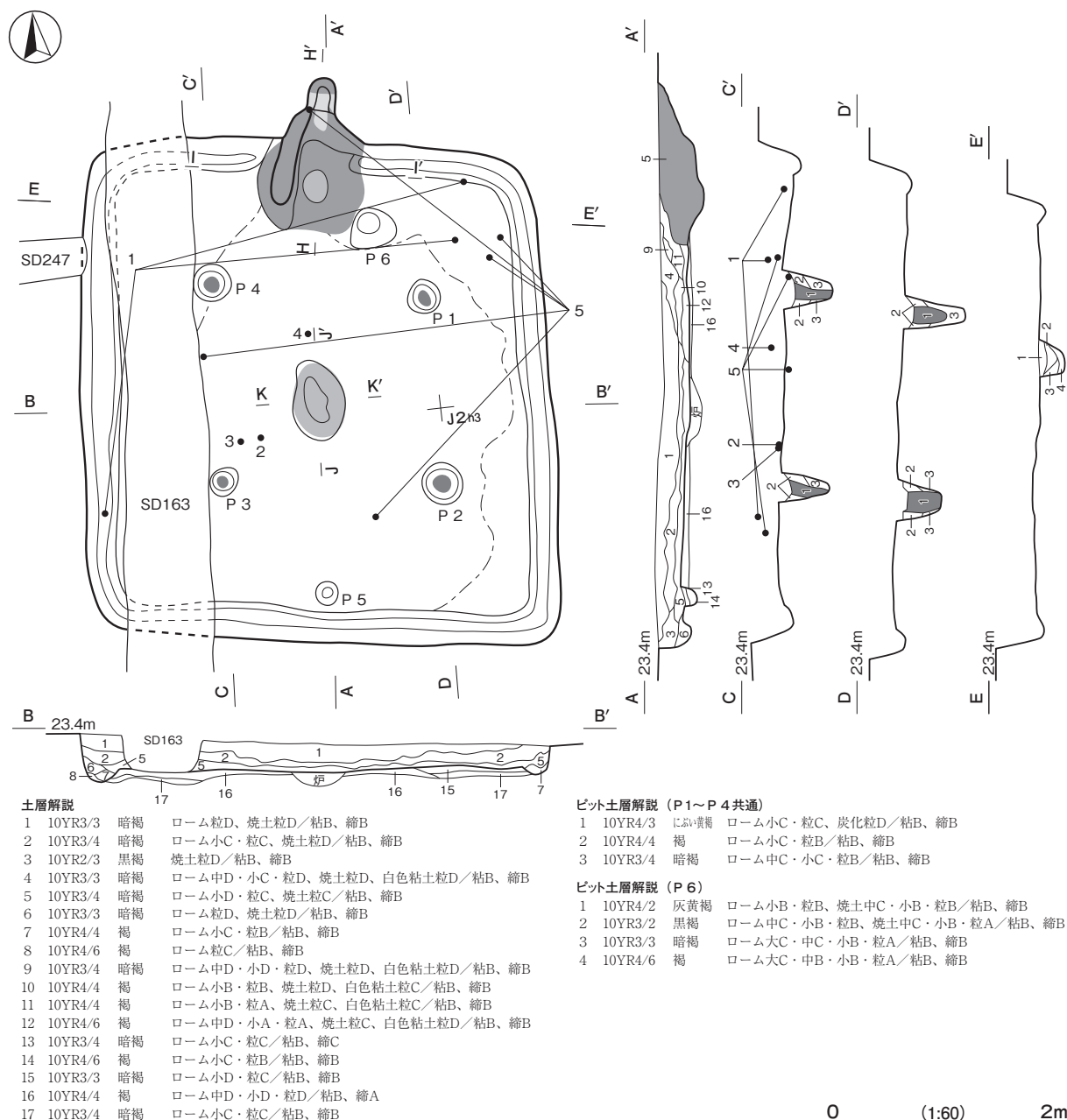
位置 調査区 C 区西部の J 2g2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 163・247 号溝に掘り込まれている。

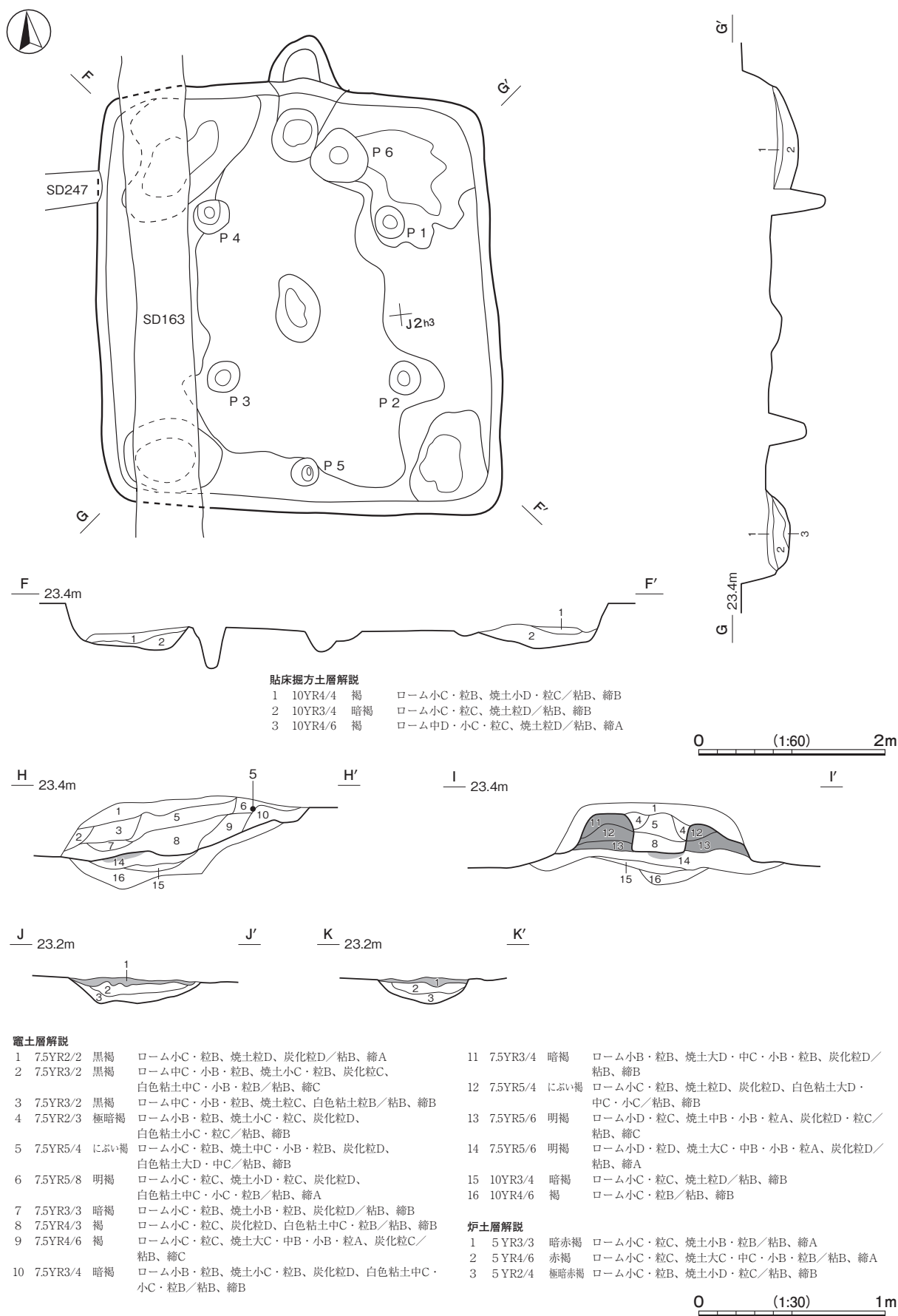
規模と形状 長軸 4.54 m、短軸 4.30 m の方形で、主軸方向は N - 5° - E である。壁は高さ 22 ～ 30cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、東・西壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、四隅を一段深く土坑状に掘り込み、ロームブロックや焼土粒子を含む暗褐色土などを 20 ～ 25cm 埋土して、その他はロームブロックやローム粒子を含む第 15 ～ 17 層を 3 ～ 15cm 埋土して構築している。確認できた範囲で壁溝は巡っている。

竈 北壁中央部に位置している。天井部は大きく崩落しており、右袖部は残存していない。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で、想定される燃焼部幅は 60cm ほどである。竈は地山を 10 ～ 15cm ほど楕円形に掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第 14 ～ 16 層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第 11 ～



第 17 図 第 118 号竪穴建物跡実測図



第 18 図 第 118 号竪穴建物跡・掘方実測図

13層を積み上げて構築している。火床部は床面より5cmほど上位に位置している。火床面は第14層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、壁外に60cmほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。煙道部先端の壁面が被熱により、赤変硬化している。

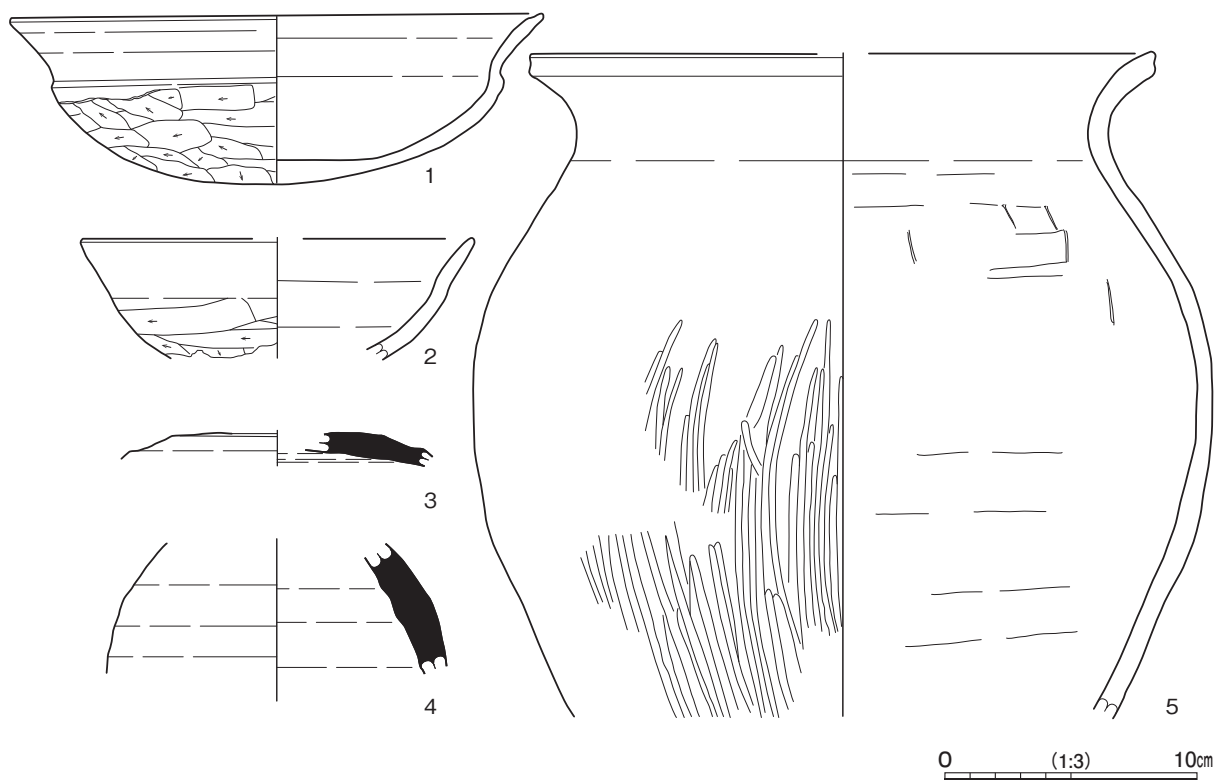
炉 中央部に位置している。長径74cm、短径48cmの楕円形で、床面からの深さ15cmほどの地床炉である。火床面は第1層上面で、赤変硬化している。

ピット 6か所。P1～P4は深さ42～58cmで、規模や配置から主柱穴である。第1層は柱痕跡、第2・3層は掘方の埋土である。いずれの底面からも、硬化した径10～15cmの柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。P5は深さが16cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は柱抜き取り後の流入土である。P6は深さ26cmで、性格は不明である。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土を主体とし、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。第4・8～12層は白色粘土粒子を含む褐色土を主体とし、崩落した竈構築土である。第13・14層はP5の覆土である。

遺物出土状況 土師器片109点（坏23、鉢3、甕82、甑1）、須恵器片8点（坏2、蓋5、壺1）、焼成粘土塊1点、鉄滓1点が出土している。遺物は中央部と北東コーナー部の覆土上層から多く出土している。1は北東コーナー付近の下層から出土した2点と、南西コーナー付近の覆土上層から出土した1点が接合したものである。2・3は中央部の炉西側の床面から、4は中央部の覆土下層から、それぞれ出土している。5は中央部西寄りの床面から出土した1点と、覆土中に散らばった4点が接合している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。中央部に非常によく硬化した炉跡があること、少量の鉄滓が出土していることなどから、鍛冶工房の可能性が考えられる。



第19図 第118号竪穴建物跡出土遺物実測図

第5表 第118号竪穴建物跡出土遺物一覧（第19図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[21.0]	6.8	－	長石・石英・黒色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	北東コーナー覆土下層・南西コーナー部覆土上層	90% PL53
2	土師器	坏	[15.4]	(4.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中央部床面	10%
3	須恵器	蓋	－	(1.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部床面	20% 新治窯
4	須恵器	壺	－	(5.2)	－	長石	灰黄	普通	ロクロナデ 外面灰オリーブの自然釉	中央部覆土下層	10% PL54 東海系カ
5	土師器	甕	[24.8]	(24.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈・西部上層北東部・南部床面	20% PL54

第122号竪穴建物跡（第20図 第6表 PL10）

位置 調査区C区西部のI 2d9区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2443号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 遺構確認面がほぼ床面であるため、北部では一部を除いて壁が確認できなかった。長軸4.57m、短軸3.84mの長方形で、主軸方向はN－84°－Wである。残存する南部の壁は高さ4～8cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南部が硬化している。貼床は、ロームブロックやローム粒子を多く含む第4・5層を5～10cm埋土して構築している。確認できた範囲で壁溝は巡っている。

竈 西壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、攪乱のため確認できた燃焼部幅は50cmほどである。地山を10cmほど隅丸長方形に掘りくぼめ、ロームブロックやローム粒子を多く含む第6層を埋土して整地している。袖部は、地山の上に第4・5層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第6層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど張り出し、火床面から外傾して立ち上がっている。

ピット 5か所。P1～P4は深さが30～76cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ30cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

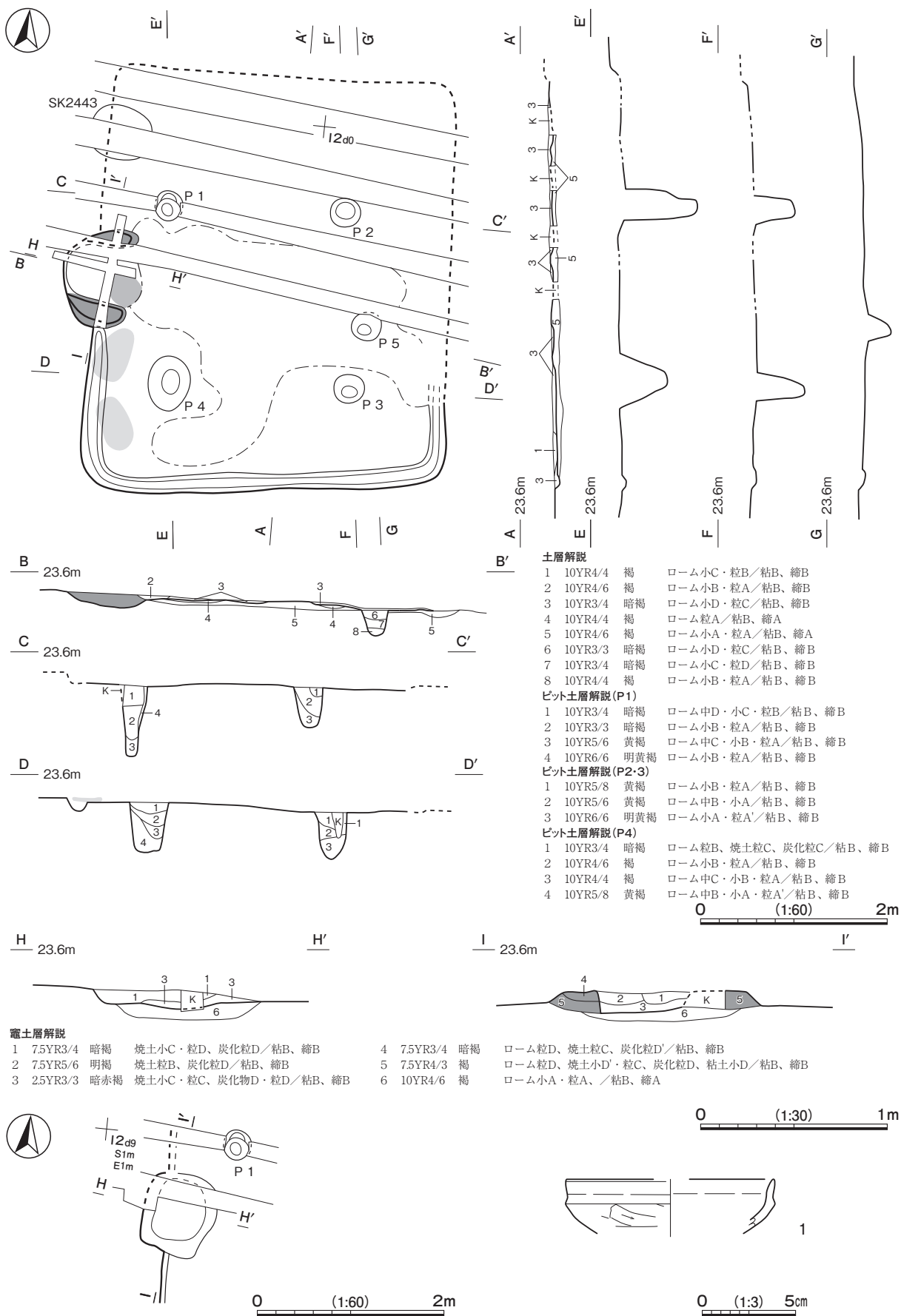
覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。また、長径60cm、短径30～36cm、厚さ3～5cmの焼土が、西壁際の床面に堆積している。第6～8層はP5の覆土で、柱抜き取り後の流入土である。

遺物出土状況 土師器片7点（坏2、甕5）が出土している。ほかに混入した土師質土器片1点、陶器片1点が出土している。遺物は少量で、いずれも細片である。1は南西部の掘方内から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半と推定できる。

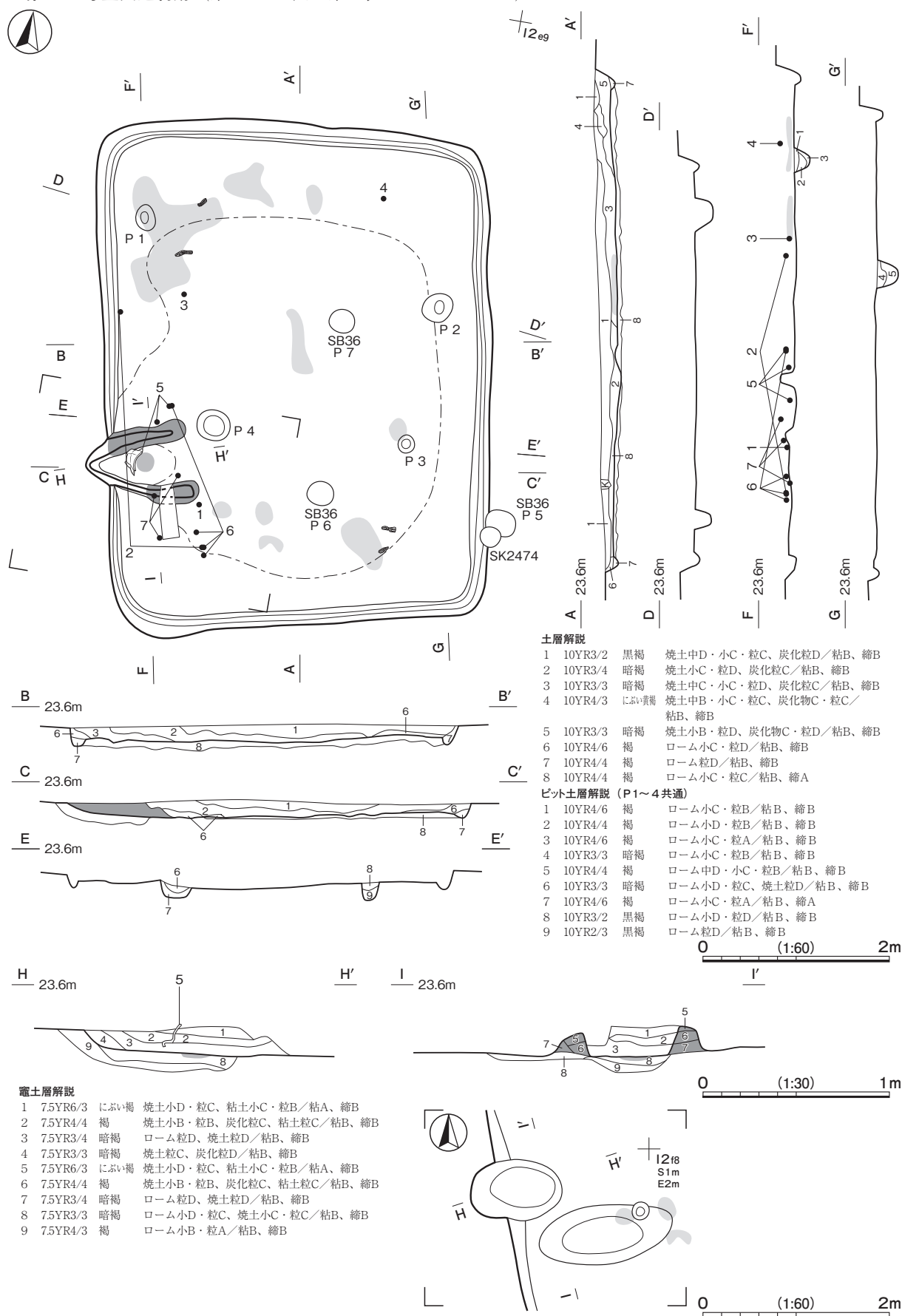
第6表 第122号竪穴建物跡出土遺物一覧（第20図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[11.2]	(2.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面横ナデ	南西部掘方	5%



第20図 第122号竪穴建物跡・出土遺物実測図

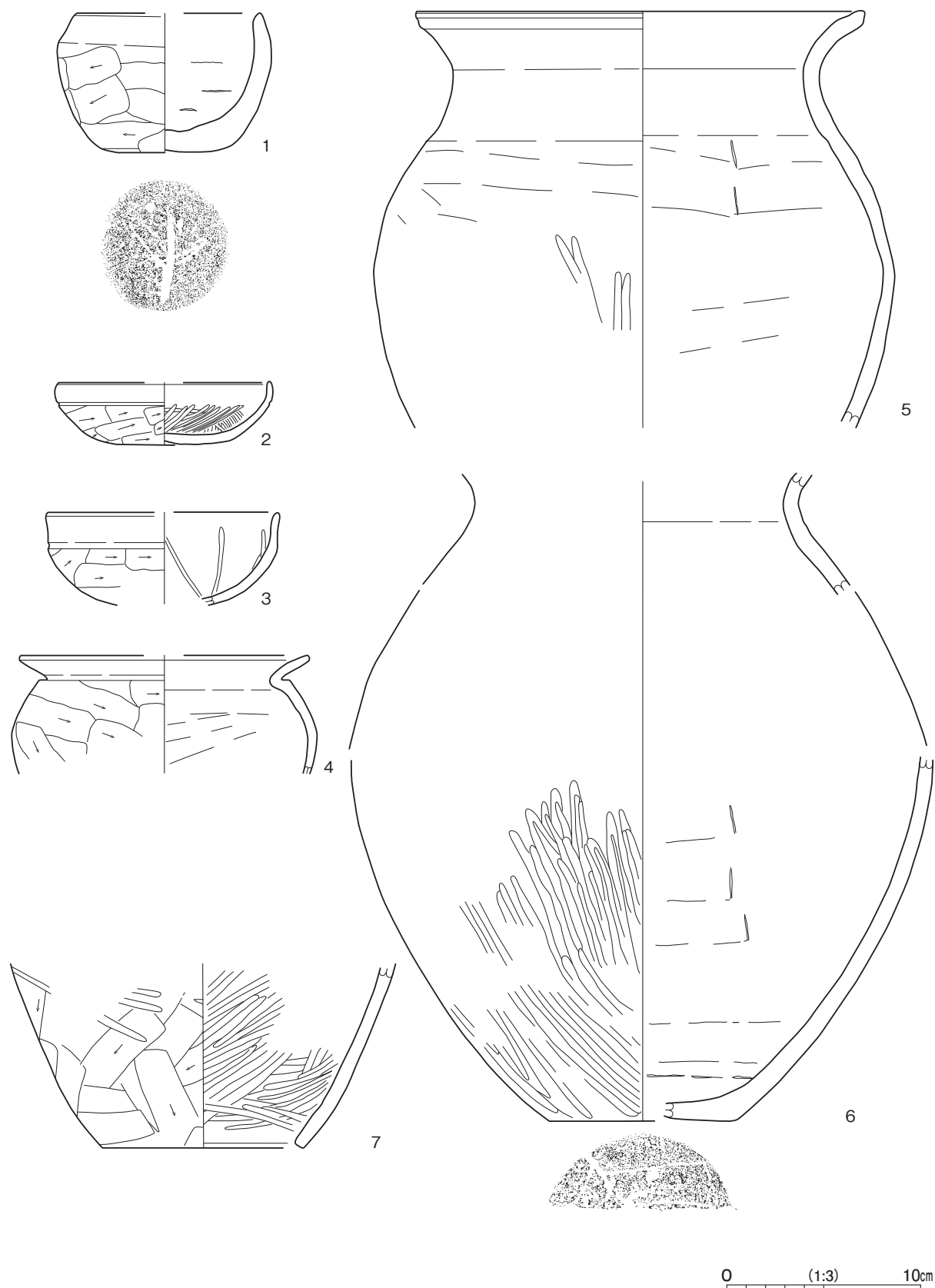
第 123 号竪穴建物跡 (第 21・22 図 第 7 表 PL10・53・54)



第 21 図 第 123 号竪穴建物跡実測図

位置 調査区C区西部のI 2e8区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号掘立柱建物、第2474号土坑に掘り込まれている。



第22図 第123号竪穴建物跡出土遺物実測図

規模と形状 長軸 5.55 m、短軸 4.15 m の長方形で、主軸方向は N - 103° - W である。壁は高さ 8 ～ 20cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、ロームブロックやローム粒子を含む第 8 層を 5 ～ 10cm 埋土して構築している。壁溝は全周している。

竈 西壁やや南寄りに位置している。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で、燃焼部幅は 40cm である。地山を 10cm ほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックやローム粒子、焼土ブロックを含む第 8 ・ 9 層を埋土して整地している。袖部は、整地層の上に第 5 ～ 7 層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 8 層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm ほど張り出し、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 4 か所。P 3 は深さが 20cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 1 ・ P 2 ・ P 4 は深さ 20 ～ 25cm で、不規則な位置にあり、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 7 層に分層できる。第 1 ～ 5 層は、焼土ブロックや炭化物・炭化粒子を含む暗褐色主体の土で人為堆積で、壁際にロームブロックを含む第 6 ・ 7 層は、周囲から流れ込むように堆積していることから自然堆積である。また、中央部の床面上と、北西部・南部の覆土下層を中心に、厚さ 3 ～ 10cm の焼土が堆積している。

遺物出土状況 土師器片 94 点（坏 6、椀 1、甕 84、甗 3）が出土している。ほかに混入した陶器片 1 点が出土している。遺物は中央部から南部の覆土中、特に竈周辺の覆土下層から多く出土している。1 は竈左袖部前の床面から、6 は覆土下層からそれぞれ出土している。2 は竈左袖部前と西壁際の 2 点が接合したものである。5 は竈の崩落土中に逆位で出土した破片と、右袖部脇の位置した 2 点が接合している。7 は竈付近の 2 点と南西部の 1 点が接合したものである。また、北西部と南部の覆土下層から炭化材が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前半と考えられる。遺物などの出土状況から、建物廃絶後ほどなくして焼土や炭化材、土器片などを廃棄したものと考えられる。

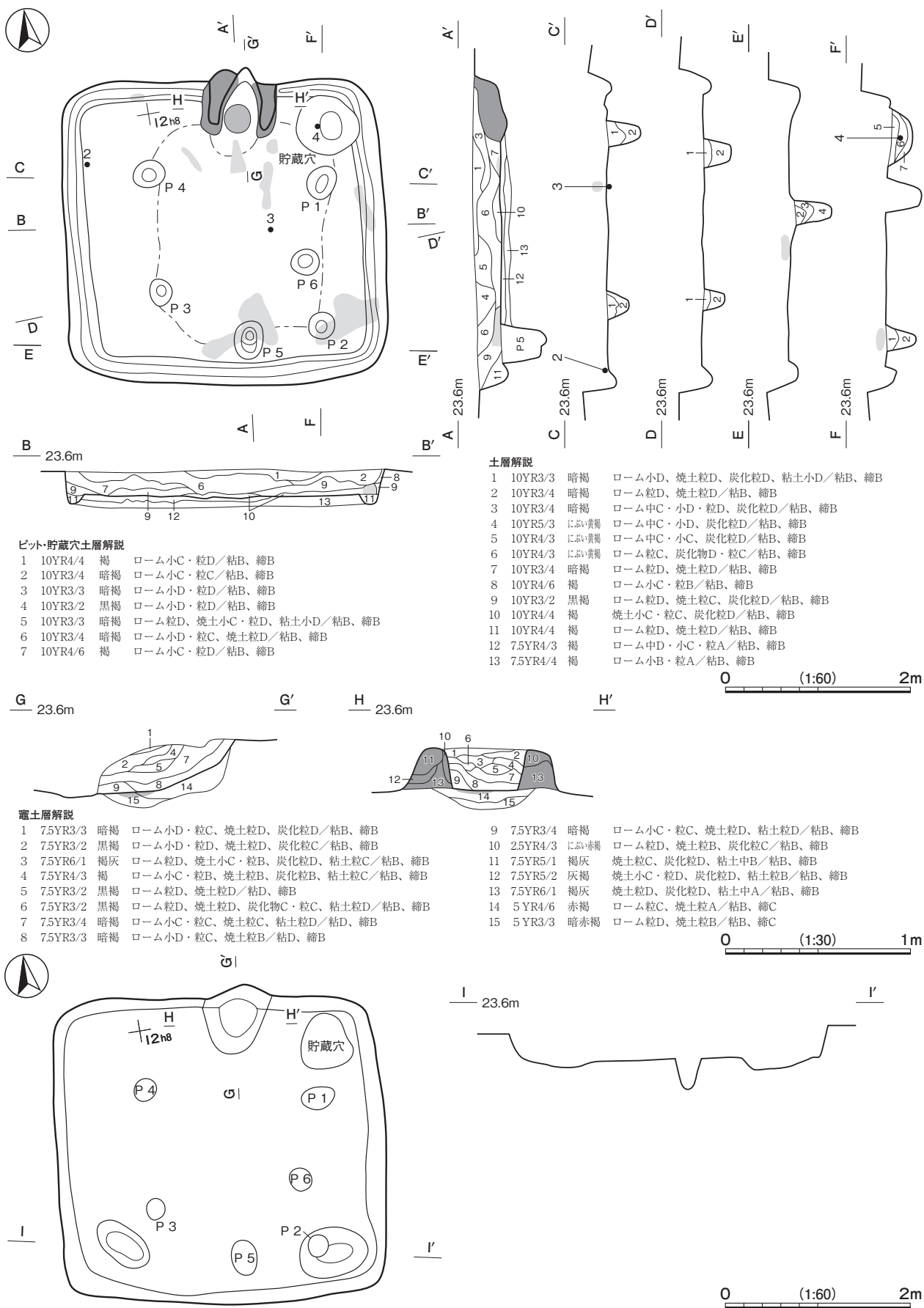
第 7 表 第 123 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 22 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	椀	[9.5]	7.2	4.4	長石・石英・黒色粒子・細礫	明赤褐	普通	口縁部横ナデ デ 底部木葉痕 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 内外面とも磨減	南西部 覆土下層	95% PL53
2	土師器	坏	[10.8]	3.2	－	長石・石英	赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	北西部・南西部 覆土下層	20% PL54
3	土師器	坏	[12.0]	(4.8)	－	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデのヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面放射状	北西部 覆土下層	20%
4	土師器	甕	[14.8]	(6.1)	－	長石・石英・細礫	灰褐	普通	口縁部横ナデ デ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	北東部 覆土上層	10%
5	土師器	甕	23.1	(21.5)	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁部弱い摘まみ上げ 内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈付近 覆土下層	30% PL54
6	土師器	甕	－	(33.5)	[9.6]	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	南西部 覆土下層	40%
7	土師器	甗	－	(9.5)	[10.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後一部ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	竈付近 覆土下層	20%

第 125 号竪穴建物跡（第 23・24 図 第 8 ・ 9 表 PL10・11・54）

位置 調査区 C 区西部の I 2h8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.47 m、短軸 3.28 m の方形で、主軸方向は N - 8° - E である。壁は高さ 25cm ほどで、外傾している。



第 23 図 第 125 号竪穴建物跡実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、南東コーナー部と南西コーナー部を一段深く土坑状に掘り込み、ロームブロックやローム粒子を含む第12・13層を15cmほど埋土して構築している。壁溝は全周している。

竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅は40cmである。地山を20cmほど楕円形に掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第14・15層を埋土して整地している。袖部は、地山と第14・15層の上に第10～13層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第14・15層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、壁外に20cmほど張り出し、火床面から外傾して立ち上がっている。

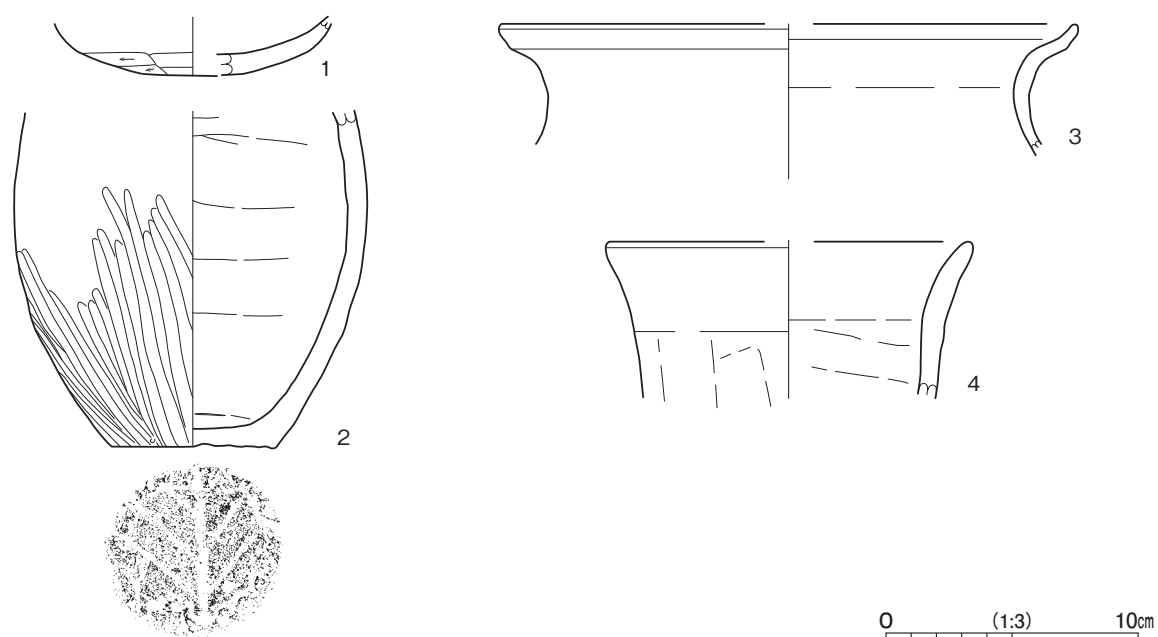
ピット 6か所。P1～P4は深さが24～38cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ45cmで、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ28cmで、不規則な位置にあることから、性格は不明である。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。径70cmの円形で、深さ28cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。3層に分層でき、ロームブロックや焼土粒子、粘土ブロックを含んでいることから、人為堆積である。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、炭化物を含む層が、不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。また、中央部から東部の覆土下層から床面にかけて、厚さ5～10cmの焼土が堆積している。

遺物出土状況 土師器片26点（坏4、甕21、甑1）、鉄滓1点が出土している。遺物は主に東部から南部の覆土中から出土している。1は竈の覆土中から、2は北部西壁際の床面付近から横位で、3は中央部の床面から、4は貯蔵穴の中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。焼土が壁溝やピットを覆うように堆積していること、貯蔵穴の覆土上層に焼土ブロックが含まれていることなどから、建物廃絶後ほどなくして焼土や土器片を廃棄したものと考えられる。



第24図 第125号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8表 第125号竪穴建物跡出土遺物一覧（第24図）

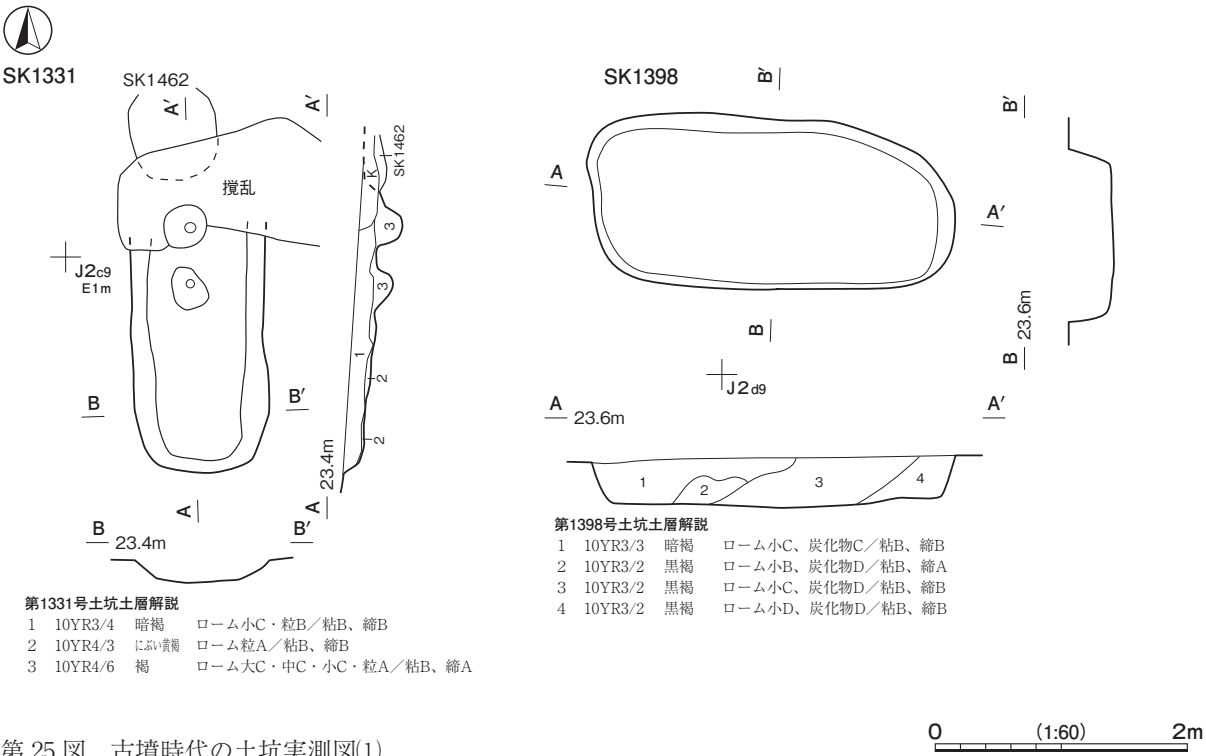
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	－	(23)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土	10%
2	土師器	甕	－	(134)	6.4	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	北西部 覆土下層	40% PL54
3	土師器	甕	[23.0]	(5.2)	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラナデ	中央部床面	5%
4	土師器	甕カ	[14.2]	(6.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部内外面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土中層	5%

第9表 古墳時代竪穴建物跡一覧

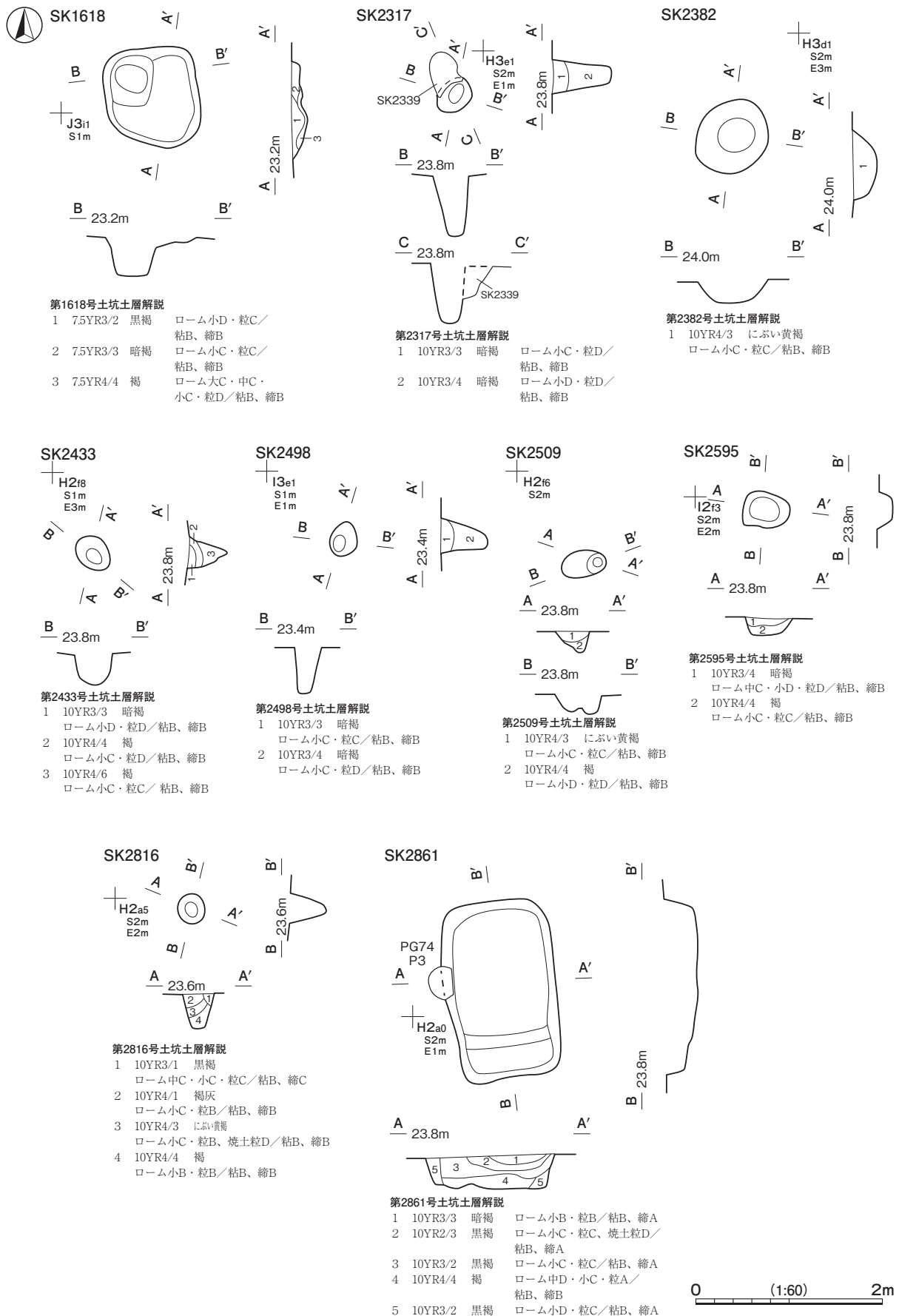
番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模	壁 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径(m)				主柱穴	出入口	ピット	炬・竈	貯蔵穴				
112	J 2 c5	N－4°－E	方 形	5.03 × 4.67	10	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	自然	土師器 須恵器	7世紀前半	本跡→SK1334・1350・1375・1434 ～1437、SD300
113	I 2 i8	N－2°－E	方 形	3.43 × 3.12	7～24	平坦	全周	4	1	2	北壁	－	人為	土師器	7世紀前半	
115	J 2 b9	N－7°－E	方 形	5.64 × 5.44	10～20	平坦	全周	4	1	1	北壁 2	－	自然	土師器 須恵器	7世紀前半	本跡→SK1331・1403・1426・1444・1447・1451・1462・1487、PG34
116	J 3 a1	N－4°－E	[方形]	5.40 × (3.40)	10～40	平坦	全周	2	3	1	北壁	－	自然	土師器 須恵器 砥石	7世紀前半	本跡→UP20、SK1504、SD169
117	J 2 f0	N－6°－E	[方形]	(4.42) × (4.35)	6	平坦	一部	8	1	1	北壁 2	－	－	土師器 須恵器	7世紀前半	本跡→SK1541・1542・1788・1790
118	J 2 g2	N－5°－E	方 形	4.54 × 4.30	22～30	平坦	全周	4	1	1	中壁1、 北壁1	－	自然	土師器 須恵器 焼成粘土塊 鉄滓	7世紀後半	本跡→SD163・247
122	I 2 d9	N－84°－W	長方形	4.57 × 3.84	4～8	平坦	一部	4	1	－	西壁	－	－	土師器	6世紀後半	本跡→SK2443
123	I 2 e8	N－103°－W	長方形	5.55 × 4.15	8～20	平坦	全周	－	1	3	西壁	－	自然	土師器	7世紀前半	本跡→SB36、SK2474
125	I 2 h8	N－8°－E	方 形	3.47 × 3.28	25	平坦	全周	4	1	1	北壁	1	人為	土師器 鉄滓	7世紀前半	

(2) 土坑

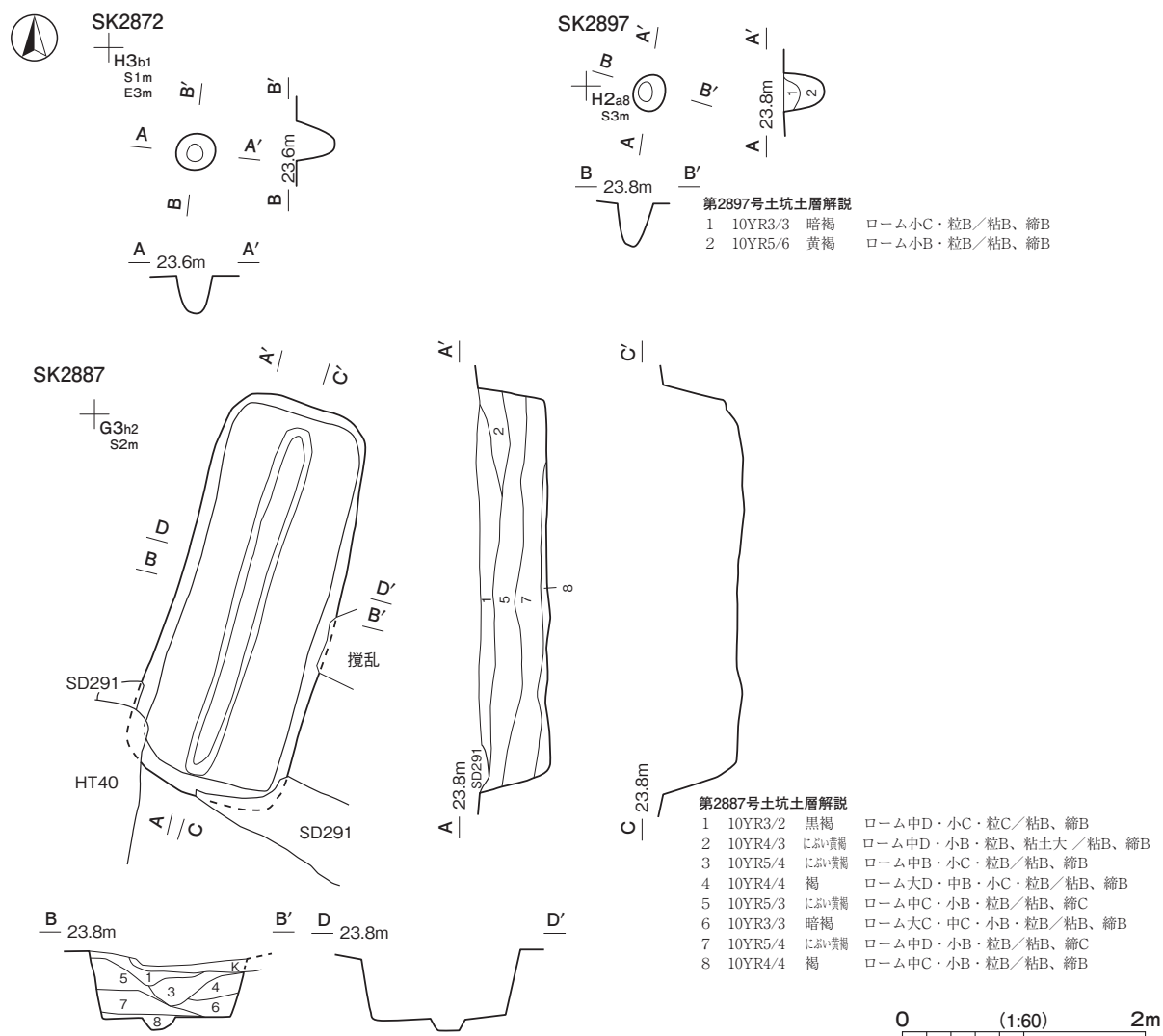
土坑 14 基を確認した。実測図と一覧で掲載する。



第25図 古墳時代の土坑実測図(1)



第 26 図 古墳時代の土坑実測図(2)



第 27 図 古墳時代の土坑実測図(3)

第 10 表 古墳時代土坑一覧

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
1331	J 2 c9	N - 1° - W	[楕円形]	(2.13) × 1.06	15	外傾	皿状	自然	土師器	後期	SI115→本跡 →SK1462
1398	J 2 c8	N - 85° - W	楕円形	2.95 × 1.38	38	外傾	平坦	人為	土師器	後期	
1618	J 3 i1	N - 7° - W	隅丸方形	1.08 × 0.98	8 ~ 16	外傾	凹凸	自然	須恵器	後期	
2317	H 3 e1	N - 40° - E	楕円形	0.43 × 0.33	64	直立	皿状	自然	土師器	後期	本跡→SK2339
2382	H 3 d1	N - 25° - E	楕円形	0.82 × 0.72	24	外傾	皿状	人為	土師器	後期	
2433	H 2 f8	N - 47° - W	楕円形	0.42 × 0.32	33	直立	皿状	自然	土師器	後期	
2498	I 3 e1	N - 7° - E	楕円形	0.35 × 0.27	48	直立	平坦	自然	土師器	後期	
2509	H 2 f6	N - 75° - E	楕円形	0.50 × 0.29	22	外傾	凹凸	自然	土師器	後期	
2595	I 2 f3	N - 82° - W	楕円形	0.50 × 0.36	16	外傾	平坦	自然	土師器	後期	
2816	H 2 a5	-	円形	0.32 × 0.30	38	外傾	皿状	人為	土師器	後期	
2861	H 2 a0	N - 9° - W	隅丸長方形	1.94 × 1.18	40	外傾	平坦/ 有段	人為	土師器	後期	本跡→PG74
2872	H 3 b1	-	円形	0.33 × 0.32	32	直立	皿状	-	土師器	後期	
2887	G 3 h2	N - 19° - E	長方形	3.34 × 1.35	53	外傾	平坦	自然	土師器 須恵器	後期	本跡→HT40、 SD291
2897	H 2 a8	-	円形	0.30 × 0.28	34	直立	平坦	人為	土師器 須恵器	後期	

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡9棟、井戸跡5基、道路跡1条、溝跡1条、土坑25基を確認した。以下、遺構と遺物について掲載する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第28～30図 第11表 PL12・54・55）

位置 調査区A区北西部のD4j4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.10m、短軸3.02mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁は高さ7cmで、外傾している。

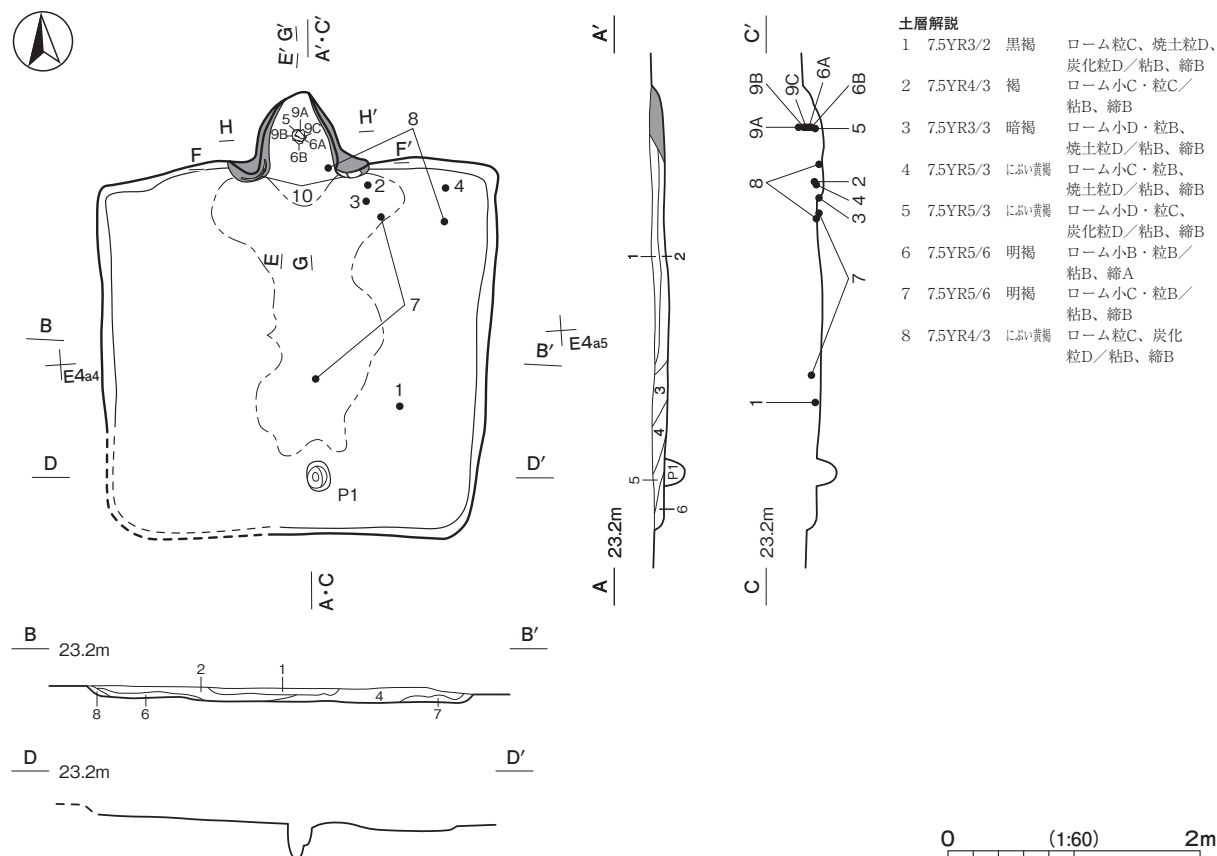
床 ほほ平坦で、竈前方部から南部にかけて細長く硬化している。

竈 北壁中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで109cmで、煙道部幅は50cmである。袖部は、地山の上に焼土ブロック、ローム粒子、砂質粘土粒子を含む第7層で構築している。竈内側の壁面にも袖部と同様な構築土を貼り付けている。また、竈の補強材として、須恵器甕の体部片を両袖の前方部に貼り付けている。煙道部は壁外に55cmほど張り出し、火床部は7cmほど掘りくぼめ、ロームブロック、焼土ブロックなどを含む第8層を埋土して整地している。火床面は、赤変硬化していない。

ピット P1は長径24cm、短径18cm、深さ26cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロック・粒子を含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。

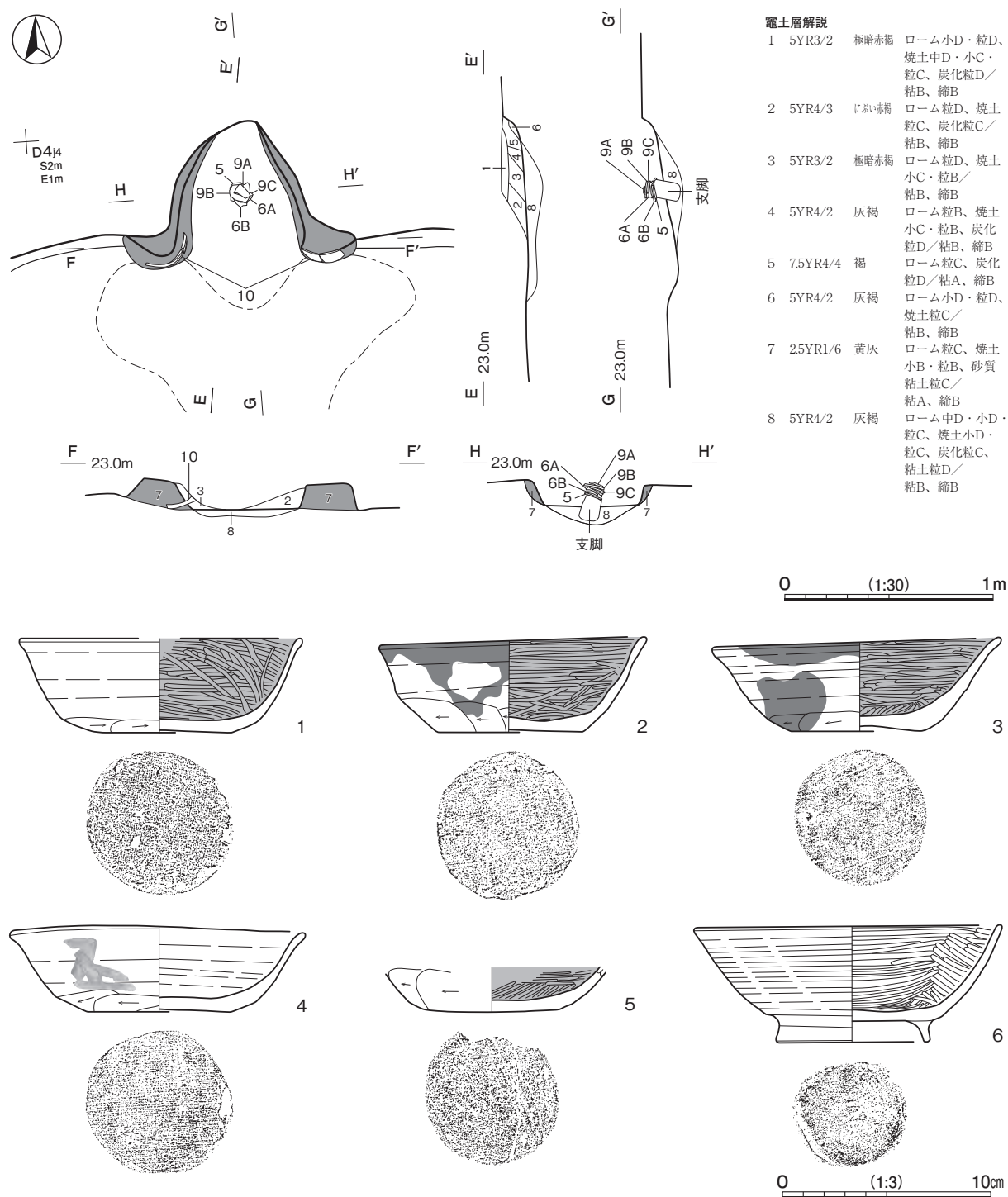
遺物出土状況 土師器片65点(坏20、高台付坏2、甕43)、須恵器片7点(坏3、甕3、甑1)、灰釉陶器片1点(壺)、土製品1点(支脚)、金属製品1点(刀子)が覆土の全域から散在した状態で出土している。特に、竈内や右



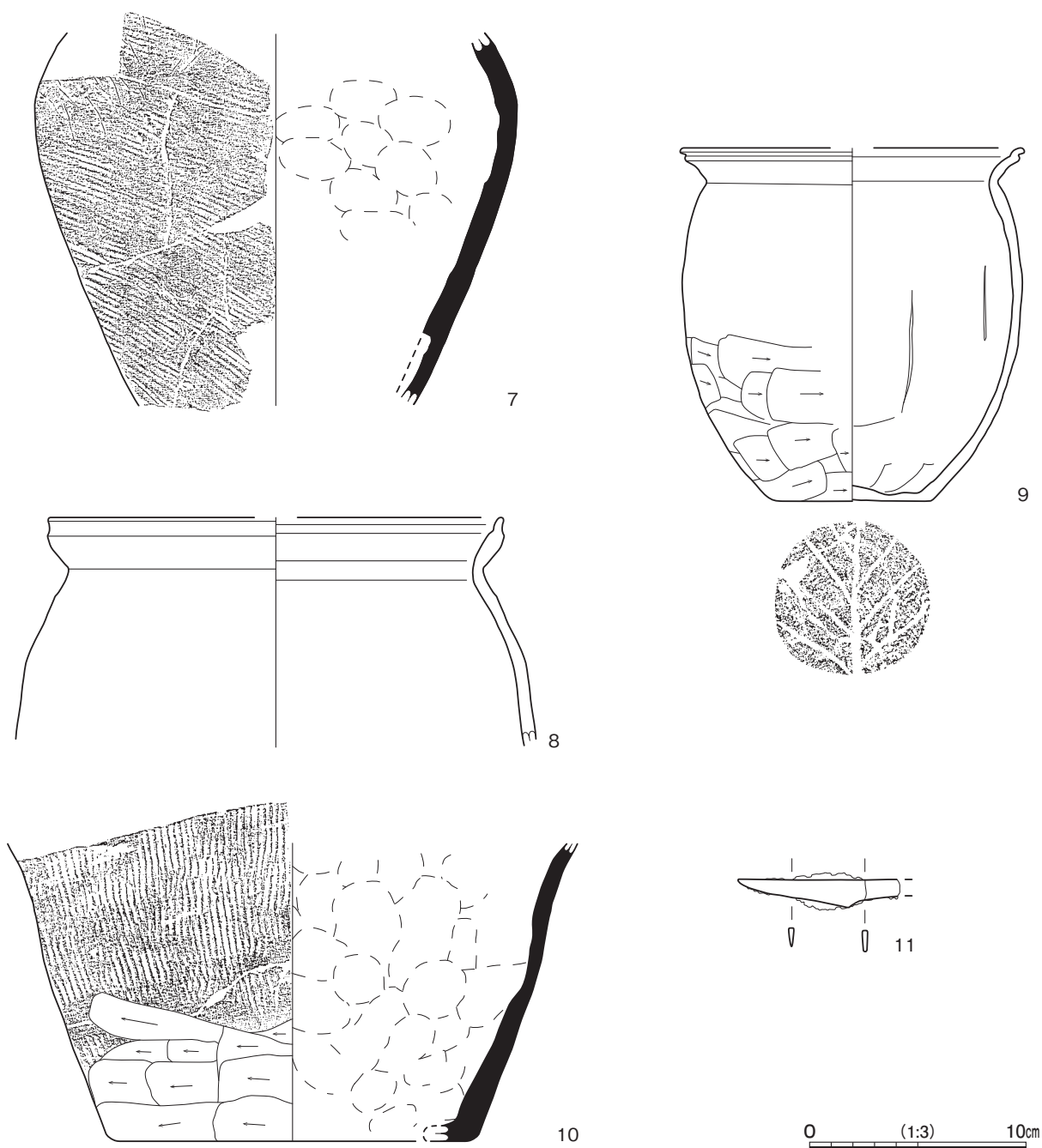
第28図 第1号竪穴建物跡実測図

袖部付近に遺物が集中している。1は南東部、2・3は竈右袖前、4は北東コーナー部の覆土下層から、それぞれ正位の状態で出土している。7は北東部と南部、8は北東部と竈内の覆土下層から、逆位の状態で出土した破片が、それぞれ接合している。また、5・6・9は重ねた状態で支脚の上から出土しており、接合している。10は竈両袖の補強材として使われた破片が接合している。なお、支脚は被熱を受けて脆く、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。竈の支脚は被熱を受けているが、支脚の上に重ねた土器片には被熱の痕跡がない。また、火床面が赤変硬化していないことから、意図的な火床面の掻き出しが行われたと考えられる。支脚上部への土器片の積み上げを含め、竈祭祀の可能性がある。



第 29 図 第 1 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 30 図 第 1 号竪穴建物跡遺物実測図

第 11 表 第 1 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 29・30 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[13.4]	4.6	6.9	長石・石英・雲母・礫	黄灰	二次被熱	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後部分的な黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	南東部覆土下層	70% PL54
2	土師器	坏	12.6	4.6	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	北東部覆土下層	90% PL54 煤付着
3	土師器	坏	13.8	4.5	6.4	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	北東部覆土下層	90% PL54 煤付着
4	土師器	坏	14.2	4.2	7.0	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り 墨書「丕」	北東部覆土下層	80% PL 5
5	土師器	坏	—	(2.1)	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後部分的な黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈内	20%

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
6	土師器	高台付坏	14.7	5.6	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子・細礫	にぶい褐	普通	ロクロ成形 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼付	竈内	60%
7	須恵器	甕	－	(17.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面横位平行叩き 内面横位ヘラナデ後外面平行叩きによる指頭痕	北東部・南部覆土下層	10% 新治窯
8	土師器	甕	[21.0]	(10.6)	－	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	内外面横位ヘラナデ	北東部・竈覆土下層	20%
9	土師器	甕	[15.6]	16.4	7.2	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部内外面横位ナデ 体部外面上半横位ナデ 下半面横位ヘラ削り 内面縦位ヘラナデ 底部木葉痕	竈覆土下層	50% PL54
10	須恵器	甗	－	(13.8)	[16.2]	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	体部外面縦位の並行叩き 下半横位ヘラ削り 内面横位ヘラナデ後外面平行叩きによる指頭痕	竈覆土下層	40% PL55 新治窯

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
11	刀子	(7.5)	1.3	0.3	(7.41)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形 片関	覆土	PL55

第2号竪穴建物跡（第31・32図 第12表 PL12・55）

位置 調査区A区北西部のE 4 e3 区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路、第4・5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が第4号溝に掘り込まれているため、確認できた規模は、東西軸3.27 m、南北軸3.22 mである。平面形は、方形ないし長方形と推定でき、主軸方向はN－90°－Eである。壁は高さ4～14 cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、竈1の前方部から西部にかけて細長く硬化している。確認した範囲で壁溝が巡っている。

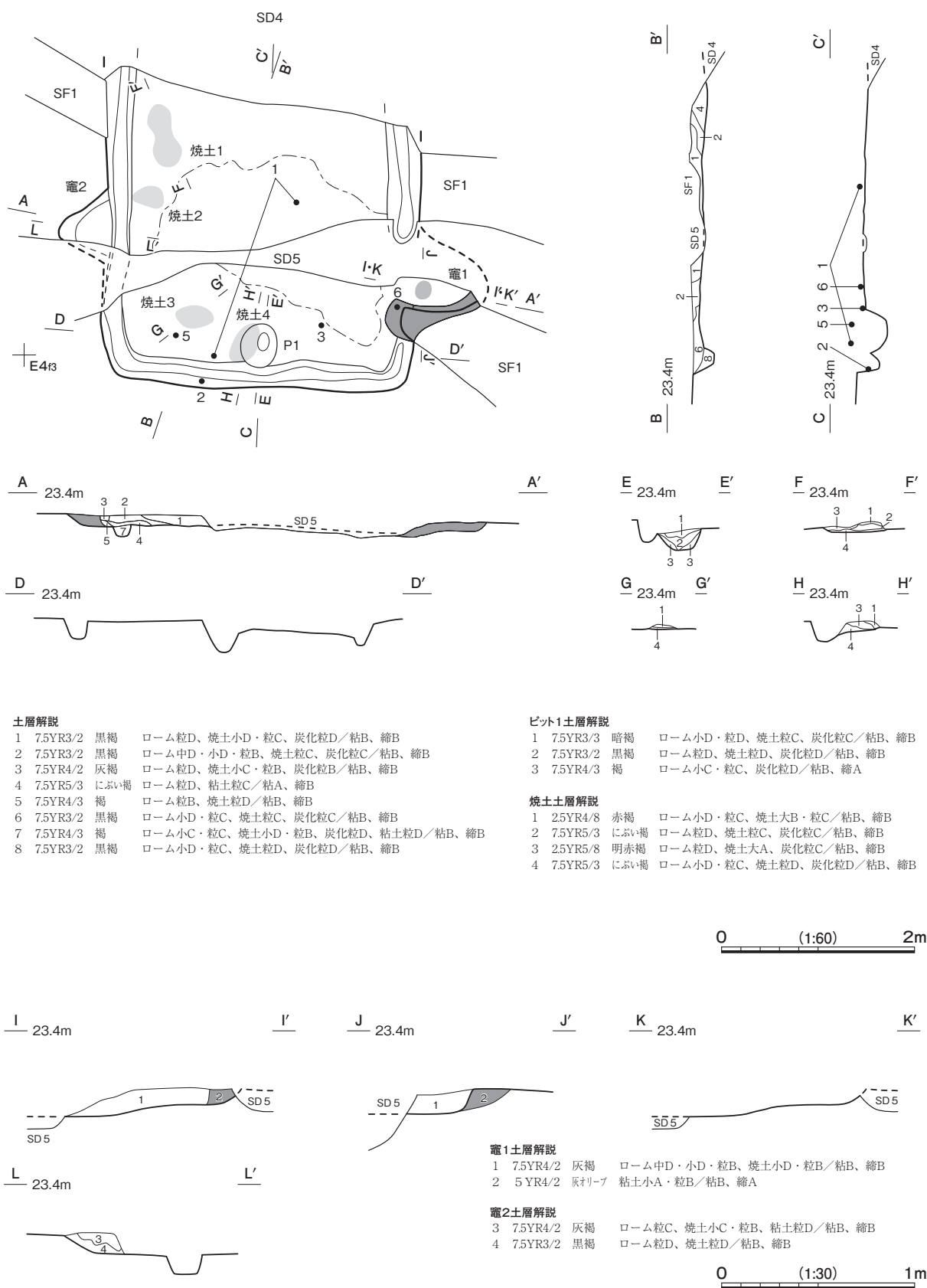
竈 2か所。竈1は東壁の南寄りに位置している。北側半分は、第5号溝に掘り込まれている。規模は焚口部から煙道部まで85 cmで、煙道部幅は不明である。袖部は、地山の上に粘土ブロックや粘土粒子を含む第2層で構築している。竈内側の壁面にも袖部と同様な構築土を貼り付けている。煙道部は壁外に60 cmほど張り出し、火床部は床面と同じ高さである。火床面は、被熱を受けて赤変硬化している。竈2は西壁の南寄りに位置している。煙道部は壁外に58 cmほど張り出ししている。焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子などを含む第3・4層で埋土している。壁溝が巡り、埋め戻していることから、竈2から竈1へ造り替えたものと考えられる。

ピット P 1は長径42 cm、短径36 cm、深さ19 cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

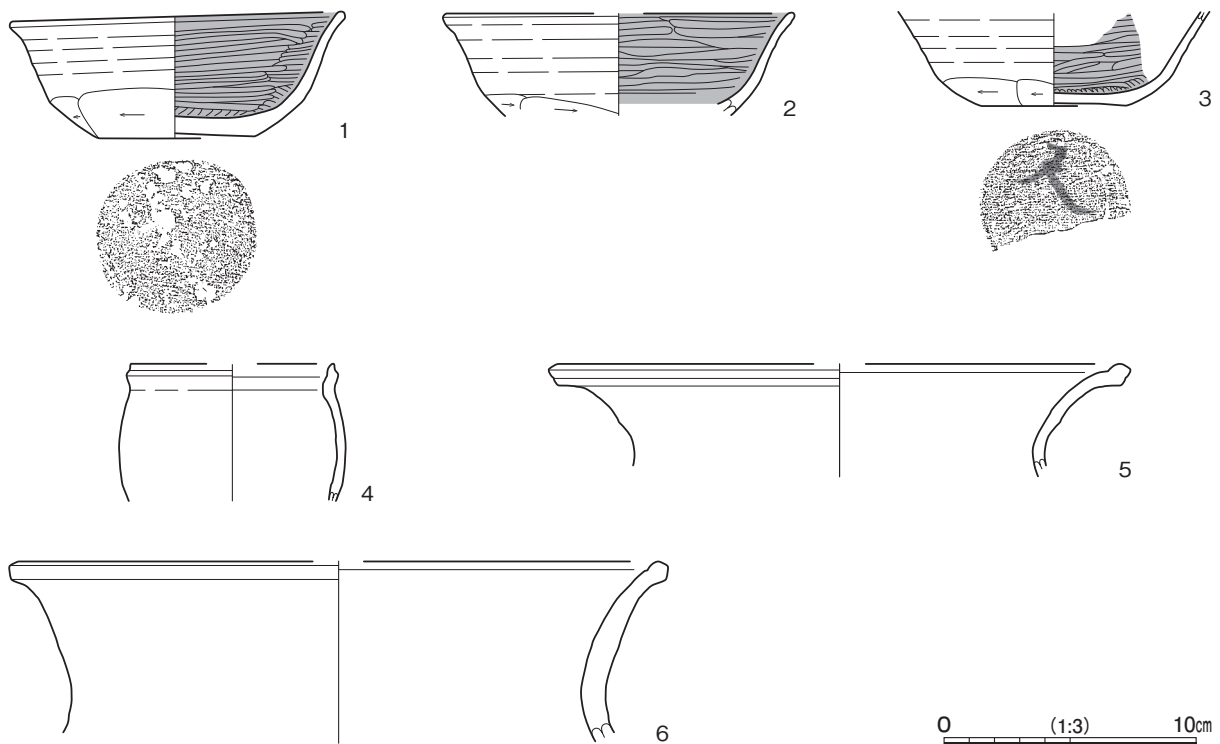
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。また、南部中央から西部壁際の4か所で、覆土下層から焼土がまとまって出土している。廃絶後の廃棄と考えられる。

遺物出土状況 土師器片105点（坏26、高台付皿1、甕78）、灰釉陶器片1点（壺）、金属製品1点（刀子カ）が、南壁際の覆土下層からまとまって出土している。灰釉陶器片と金属製品は細片のため、図示できなかった。1は中央部の床面と南部の覆土上層から、それぞれ出土した破片が接合している。2は南部の壁溝内から、4は竈内の覆土中から、6は竈1の袖部上面からそれぞれ出土している。3は南部の床面、5は南西コーナー部の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第31図 第2号竈穴建物跡実測図



第 32 図 第 2 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 12 表 第 2 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 32 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	13.2	5.0	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	中央部床面南部覆土上層	80% PL55
2	土師器	坏	[13.6]	(4.1)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理	壁溝内	20%
3	土師器	坏	—	(3.7)	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	南部床面	30% PL55
4	土師器	甕	[4.0]	(5.4)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内外面横位ヘラナデ	竈内覆土	20%
5	土師器	甕	[22.4]	(4.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横位ヘラナデ	南西部覆土上層	5 %
6	土師器	甕	[25.4]	(7.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面横位ヘラナデ	竈袖	5 %

第 3 号竪穴建物跡（第 33・34 図 PL12・55）

位置 調査区 A 区北西部の E 4 g2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2 号井戸跡を掘り込んでいる。

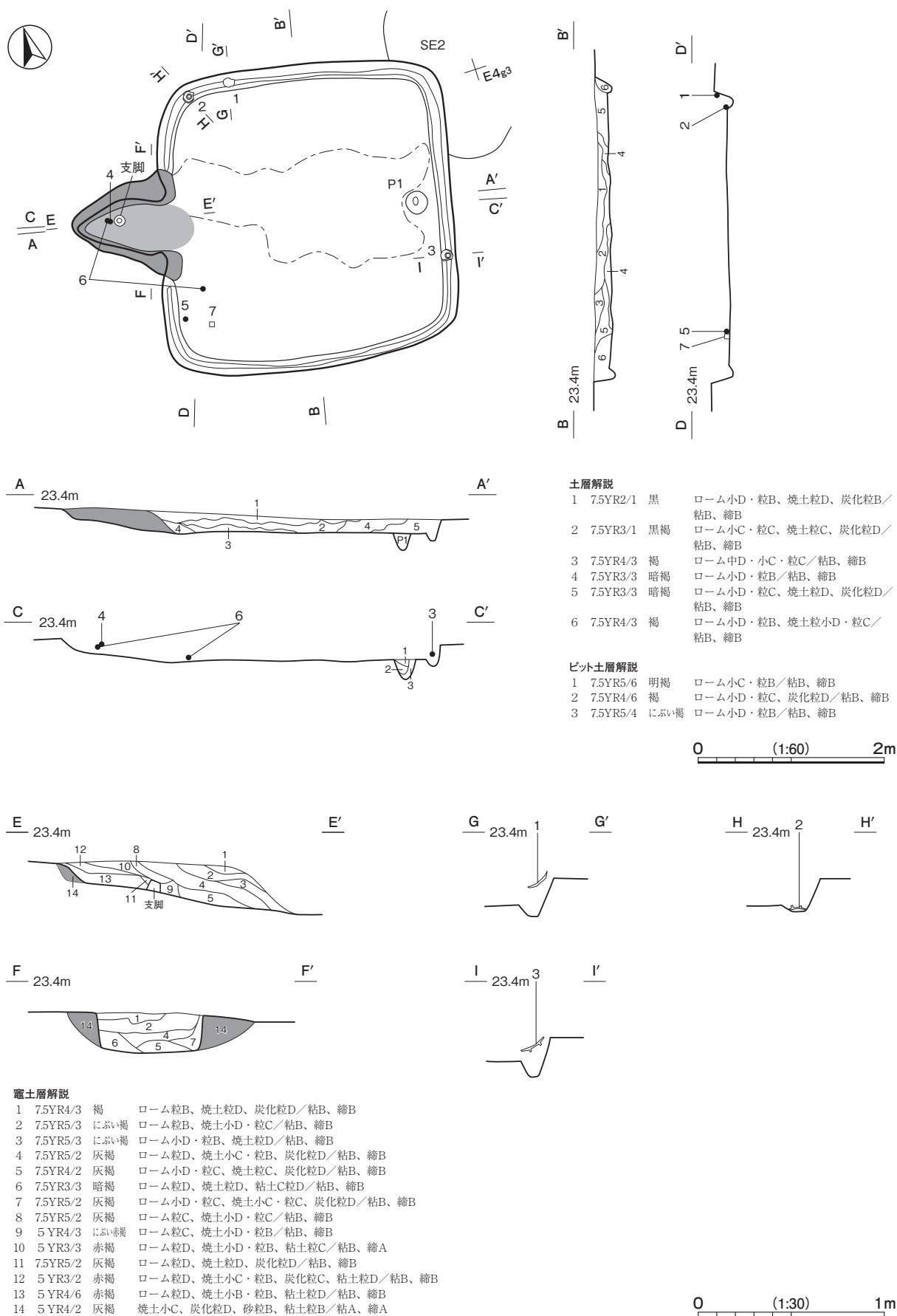
規模と形状 規模は、長軸 3.28 m、短軸 3.18 m の方形で、長軸方向は N - 62° - W である。壁は高さ 14 ~ 18 cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、竈前方部から南西部にかけて細長く硬化している。壁溝が全周している。

竈 北西壁の中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで 132 cm で、煙道部幅は 48 cm である。袖部は、遺存していないが、竈内側の壁面には、砂質粘土粒子、焼土ブロック、ロームブロックを含む構築土を貼り付けている。煙道部は壁外に 95 cm ほど張り出し、火床部は床面と同じ高さである。火床面は、赤変硬化している。

ピット P 1 は、径 24 cm、深さ 21 cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

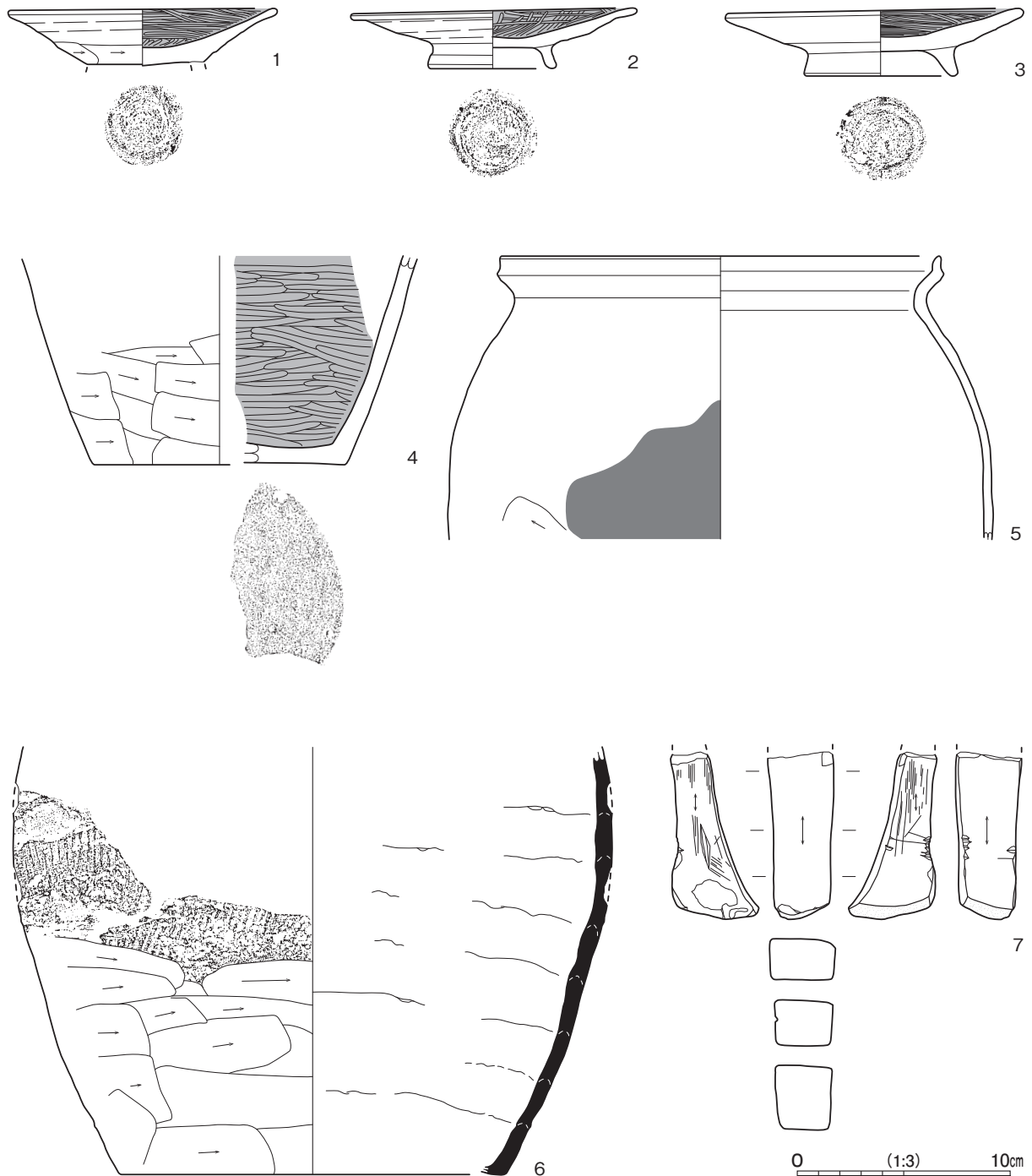
覆土 6 層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。



第33図 第3号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 231 点（坏 44、高台付皿 3、鉢 1、甕 182、甑 1）、須恵器片 11 点（坏 4、甕 5、甑 2）、土製品 1 点（支脚）、石器 1 点（砂岩製砥石）が、覆土の全域から散在した状態で出土している。1 は北壁西側寄りの覆土上層、2 は北西コーナー部の壁溝内から逆位の状態で、3 は東壁南寄りの覆土上層、4 は竈内、5・7 は南西コーナー部の覆土下層から、それぞれ出土している。また、6 は南西コーナー部の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。なお、支脚は被熱を受けて脆く、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 34 図 第 3 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 13 表 第 3 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 34 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	高台付皿	12.6	(2.7)	－	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	ロクロ成形 外面下端横位手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部ヘラ切り高台部貼付（高台部欠損）	北壁 覆土上層	80% PL55
2	土師器	高台付皿	13.4	2.8	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形 外面下端横位手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部ヘラ切り後高台部貼付	北西コーナー部 壁溝内	80% PL55
3	土師器	高台付皿	13.7	3.2	7.0	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 外面下端横位手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部ヘラ切り後高台部貼付	東壁 覆土上層	90% PL55
4	土師器	鉢	－	(9.9)	[12.0]	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	体部外面上半横位ヘラナデ 下端横位ヘラ削り 内面ヘラ磨き後黒色処理 底部ヘラ削り	覆土下層	20%
5	土師器	甕	[20.6]	(13.3)	－	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口唇部摘上 口縁部内外面横位ナデ 体部外面ヘラナデ 下半横位ヘラ削り 内面ヘラナデ	北西コーナー部 覆土下層	20% PL55 外面煤付着
6	須恵器	甌	－	(20.2)	[18.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面上半縦位平行叩き 下半横位ヘラ削り 内面横位ヘラナデ 輪積み痕	南西コーナー部 覆土下層・竈内	20%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	材 質	特 徴	出土位置	備 考
7	砥石	(7.9)	3.1	4.2	(105.93)	砂岩	砥面四面 縦・斜位擦痕 筋状の研磨痕 端部欠損	北西コーナー部 覆土下層	PL55

第 4 号竪穴建物跡（第 35・36 図 第 14 表 PL13）

位置 調査区 A 区中央部の F 4 b2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 規模は、長軸 4.53 m、短軸 4.42 m で、形状から、方形である。主軸方向は N－9°－E である。壁は高さ 20cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化している。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで 78cm で、煙道部幅は 40cm である。袖部は、地山の上に砂粒、粘土粒、ロームブロックを含む第 10 層で構築している。煙道部は壁外に張り出ず、袖部と同様な構築土を煙道部の壁面に貼り付けている。火床部は床面と同じ高さである。火床面は、赤変硬化している。

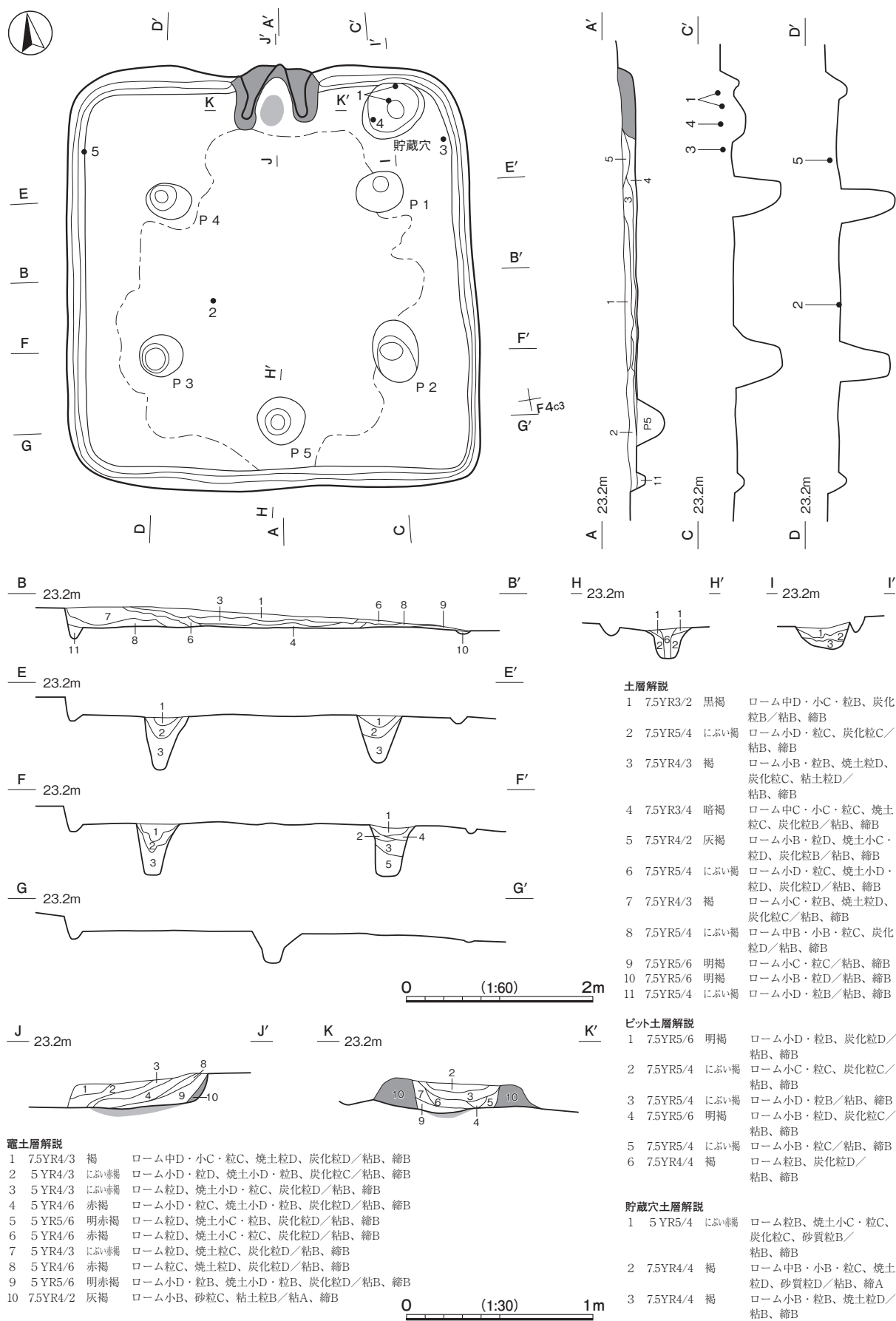
ピット 5 か所。P 1～P 4 は径 46～57cm、深さ 48～57cm で、規模と配置から支柱穴である。P 5 は長径 53cm、短径 52cm、深さ 31cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 70cm、短径 56cm の楕円形で、底面は深さ 27cm で、南西部が高さ 11cm ほどの段を有している。壁は外傾している。3 層に分層でき、各層にロームブロックを含んでいることから、人為堆積である。

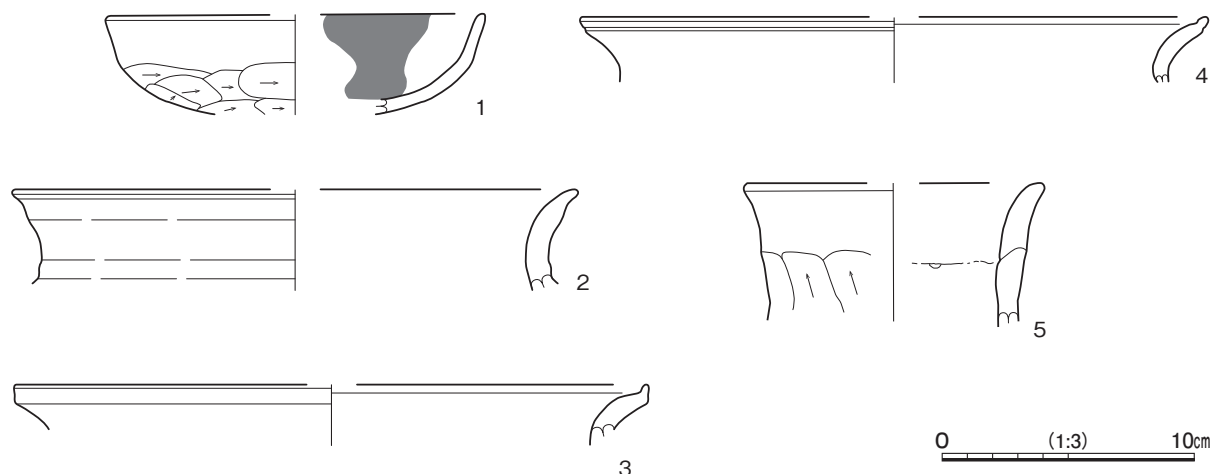
覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 73 点（坏 7、甕 64、甌 1、手捏 1）、須恵器片 11 点（坏 6、甕 5）が、覆土の全域から散在した状態で出土している。1 は貯蔵穴内の覆土上層から出土した破片が接合したものである。2 は中央部やや西寄りの床面、3 は北東コーナー部の壁際の覆土下層、4 は貯蔵穴内の覆土上層、5 は北西壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。



第 35 図 第 4 号竪穴建物跡実測図



第 36 図 第 4 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 14 表 第 4 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 36 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[15.0]	(4.0)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位へラ削り 内面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	30% 煤付着
2	土師器	甕	[22.4]	(4.0)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ	中央部 床面	5 %
3	土師器	甕	[25.0]	(2.4)	—	長石・石英・ 雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部摘み上げ「常総型」 口縁部内外面横位 ナデ	北東コーナー部 覆土下層	5 %
4	土師器	甕	[24.8]	(2.6)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部内外面沈線 口縁部内外面横位ナデ	貯蔵穴 覆土上層	5 %
5	土師器	甕	[11.6]	(5.7)	—	長石・石英・ 雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部内外面横位ナデ 体部外面縦位へラ削り 内面ナデ 輪積痕	北西壁際 覆土下層	5 %

第 5 号竪穴建物跡（第 37・38 図 第 15 表 PL13・56）

位置 調査区 A 区中央部の F 4 e1 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東部から南部中央にかけて削平されているため、確認できた規模は、東西軸 4.07 m、南北軸 3.92 m である。形状から方形と推定でき、主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 12cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、竈前方部から支柱穴に囲まれた範囲が硬化している。壁下に壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで 62cm で、煙道部幅は 48cm である。袖部は、地山の上にロームブロック・粒子、焼土粒子などを含む第 7・8 層で構築している。煙道部は壁外に 15cm ほど張り出し、袖部と同様な構築土を煙道部の壁面にも貼り付けている。火床部は床面と同じ高さである。火床面は、赤変硬化している。

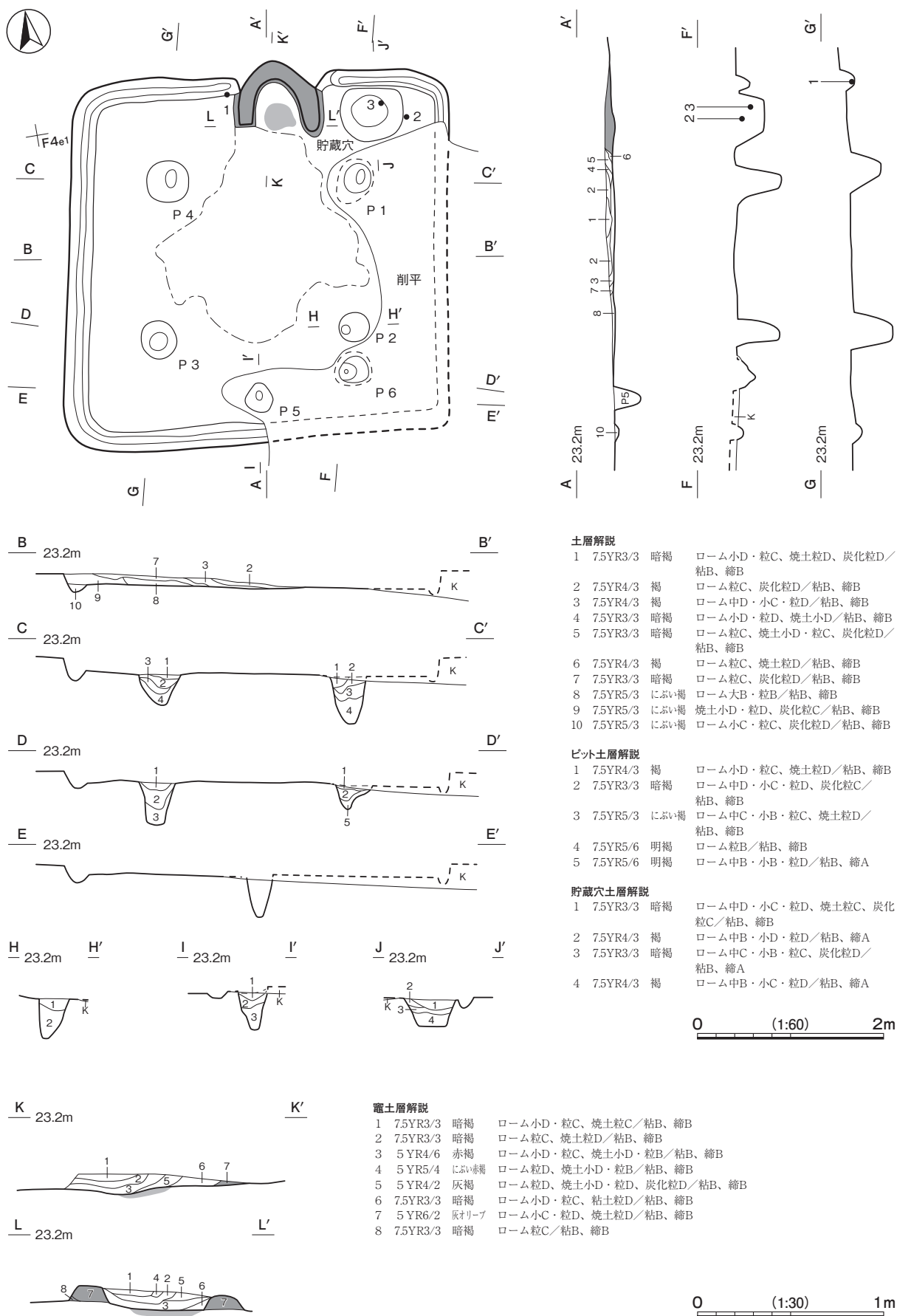
ピット 6 か所。P 1～P 4 は、径 33～52cm、深さ 33～44cm で、規模と配置から支柱穴である。P 5 は、径 31cm、深さ 48cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は、長径 40cm、短径 34cm、深さ 26cm で、性格は不明である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 64cm、短径 54cm の楕円形で、深さ 29cm である。壁は外傾し、底面は平坦である。4 層に分層でき、各層にロームブロックを含んでいることから、人為堆積である。

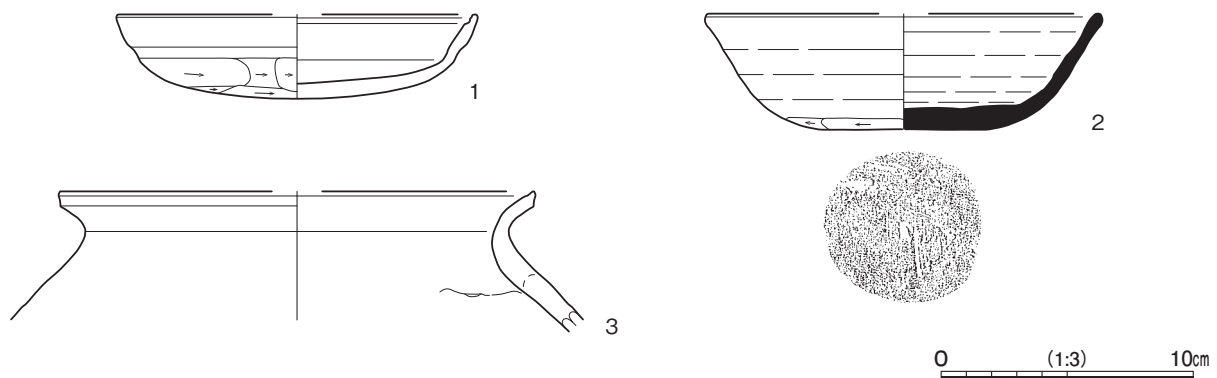
覆土 10 層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片 23 点（坏 3、甕 20）、須恵器片 4 点（坏 3、甕 1）が、覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。1 は竈脇の壁溝内から、2 は北東コーナー部の床面から、3 は貯蔵穴内の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。



第 37 図 第 5 号竪穴建物跡実測図



第 38 図 第 5 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 15 表 第 5 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 38 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	(14.2)	3.3	3.0	長石・石英・黒色 粒子・細礫	橙	普通	口唇部内面沈線 体部内外面横位ナデ 下端 沈線 底部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	壁溝内	70% PL56
2	須恵器	坏	(15.8)	4.6	6.0	長石・石英・雲母・ 黒色粒子・細礫	灰黄褐	普通	体部下端部一方向の手持ちヘラ削り底面外面ヘラ 切り後多方向の手持ちヘラ削り	北東コーナー部 床面	40% PL56 新治窯
3	土師器	甕	[18.8]	(5.6)	—	長石・石英・雲母・ 細礫	にぶい橙	普通	内外面横位ヘラナデ・輪積痕	貯蔵穴 覆土中層	5 %

第 114 号竪穴建物跡（第 39・40 図 第 16 表 PL13・56）

位置 調査区 C 区西部の I 3j2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.30 m、短軸 2.98 m の方形で、長軸方向は N - 4° - W である。壁は高さ 45cm ほどで、外傾している。

床 やや凹凸があり、硬化していない。

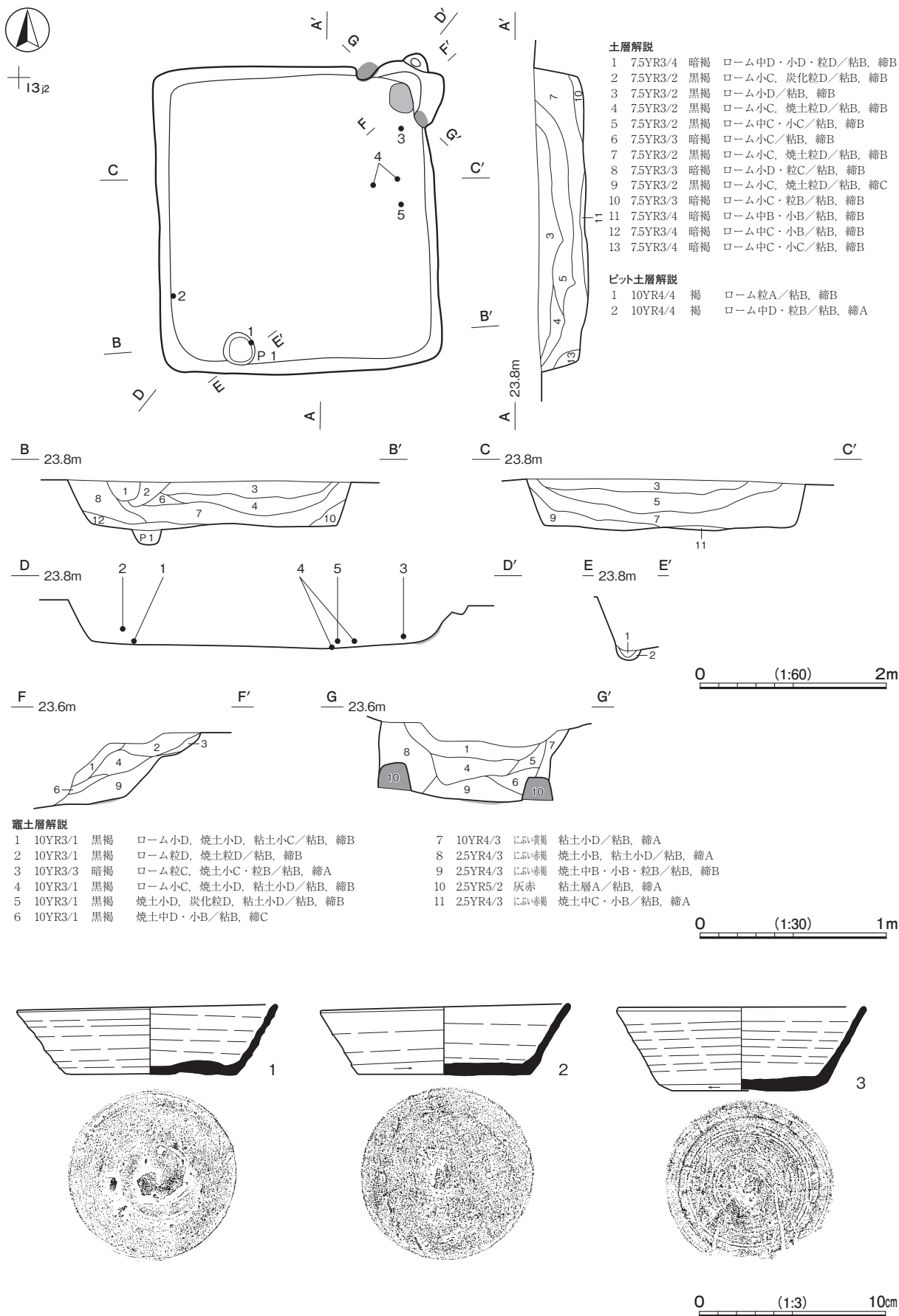
竈 北東コーナー部に位置している。規模は焚口部から煙道部まで 80cm で、燃烧部幅は 60cm である。袖部は一部が残存するのみで、地山の上に第 10 層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 9 層下面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm ほど張り出し、火床面から外傾して立ち上がっている。

ピット 1 か所。P 1 は深さが 14cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は柱抜き取り後の流入土である。

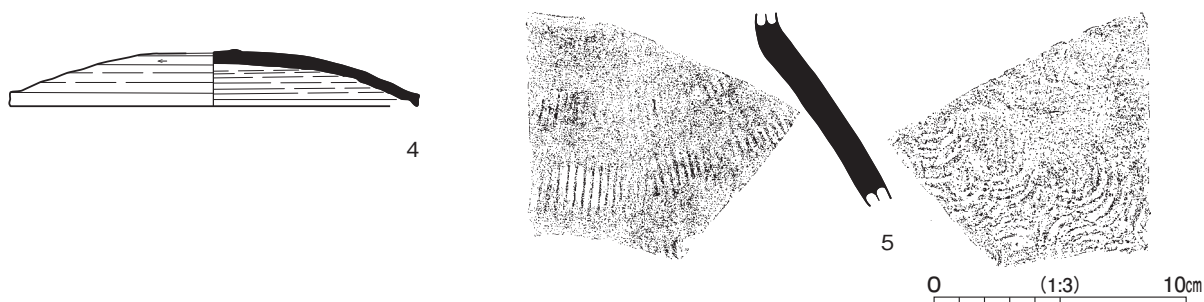
覆土 13 層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を含む黒褐土や暗褐土が主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 21 点（坏 3、甕 18）、須恵器片 9 点（坏 6、蓋 2、甕 1）が出土している。ほかに混入した陶器片 1 点が出土している。遺物は南東コーナー部付近と、竈周辺の覆土下層から床面にかけて多く出土している。1 は南西部の P 1 付近の床面から逆位で、2 は南西コーナー部壁際の下層から横位で、3 は竈の焚口部の覆土下層から逆位で、5 は東部の覆土下層から、それぞれ出土している。4 は竈の右袖部前の覆土下層から床面にかけて出土した 2 点が接合している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。



第 39 図 第 114 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 40 図 第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 16 表 第 114 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 39・40 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	13.9	3.7	9.0	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	P 1 付近床面	100% PL56 新治窯
2	須恵器	坏	13.4	3.8	9.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	南西コーナー部覆土下層	100% PL56 新治窯
3	須恵器	坏	13.2	4.5	7.5	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	竈焚口部覆土下層	70% PL56 新治窯
4	須恵器	蓋	16.1	(2.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り 摘部欠損	竈右袖部前覆土下層・床面	90% PL56 新治窯
5	須恵器	甕	—	(7.7)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面縦位平行叩き 内面同心円文当て具	東部覆土下層	5% PL56 新治窯

第 120 号竪穴建物跡（第 41・42 図 第 17 表 PL13）

位置 調査区 C 区西部の H 2 j6 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2442・2472 号土坑、第 166 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸 3.38 m、南北軸 3.38 m の方形で、主軸方向は N - 13° - E である。壁は高さ 19 ～ 31cm で、外傾している。

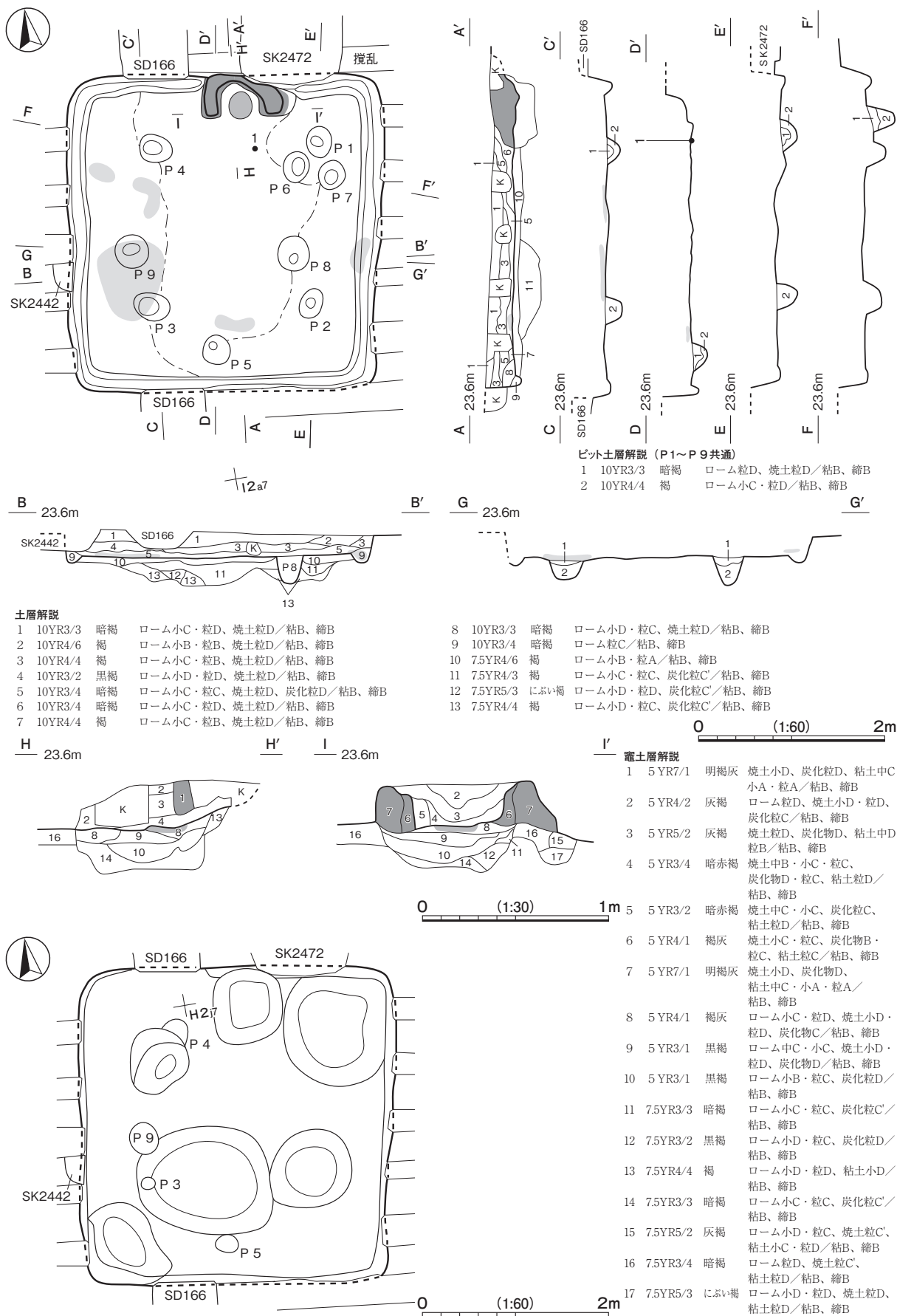
床 ほぼ平坦で、東・西壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、北東コーナー部や南西部などを一段深く土坑状に掘り込み、第 10 ～ 13 層を 8 ～ 30cm 埋土して構築している。壁溝は全周している。

竈 北壁中央部に位置している。焚口部付近と煙道部付近が攪乱のため、確認できた規模は燃烧部幅が 55cm ほどで、火床面から煙道部方向は 50cm ほどである。竈は地山を 20cm ほど楕円形に掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化物、焼土粒子を含む第 8 ～ 17 層を埋土して整地している。袖部は、整地層の上に第 6・7 層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 8 層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 9 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 15 ～ 23cm で、規模や配置から主柱穴である。P 5 は深さが 20cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 は深さ 15cm・28cm で、P 1 に近接する位置にあり、P 1 の補助的な柱穴などの可能性がある。P 8・P 9 は深さ 30cm・21cm で、柱筋はずれているが、建物の中間付近に位置していることから、上屋構造に関連する柱穴の可能性がある。覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 9 層に分層できる。ロームブロックやローム粒子、焼土粒子を含む層が、不規則に堆積していることから、人為堆積である。また、東・西・南壁側の覆土下層から床面にかけてと東壁際の壁溝内に、厚さ 5 ～ 10cm の焼土が堆積している。

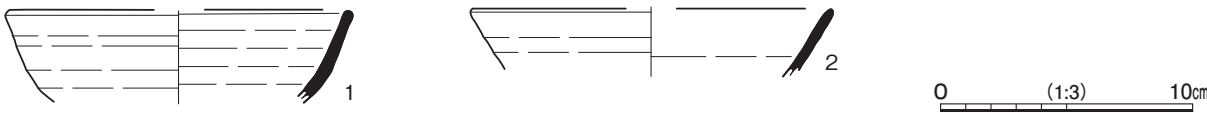
遺物出土状況 土師器片 26 点（坏 2、甕 23、甗 1）、須恵器片 3 点（坏 2、蓋 1）が出土している。ほかに混入した黒色安山岩製の剥片 1 点が出土している。遺物は少量で、主に覆土中から出土している。1 は竈前面の床面から、2 は南東部の覆土中から、それぞれ出土している。また、南壁側の覆土下層から床面にかけて炭



第 41 図 第 120 号竪穴建物跡実測図

化材が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。遺物の出土状況から、建物廃絶後まもなく焼土や炭化材、土器片などを廃棄したものと考えられる。



第 42 図 第 120 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 17 表 第 120 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 42 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	[13.4]	(3.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ	竈前床面	10%新治窯
2	須恵器	坏	[14.4]	(2.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	南東部覆土	10%新治窯

第 121 号竪穴建物跡（第 43 図 第 18 表 PL13・56）

位置 調査区 C 区西部の I 2 a6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2460・2471 号土坑、第 166 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 攪乱と重複のため、確認できた規模は南北軸 3.10 m、東西軸 2.80 m の長方形で、主軸方向は N－6°－E である。掘方の規模は、南北軸 3.40 m、東西軸 3.50 m である。壁は高さ 30～38 cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁際まで、帯状に硬化している。貼床は、ロームブロックを多く含む第 9・10 層を 20 cm ほど埋土して構築している。確認できた範囲で壁溝は巡っている。

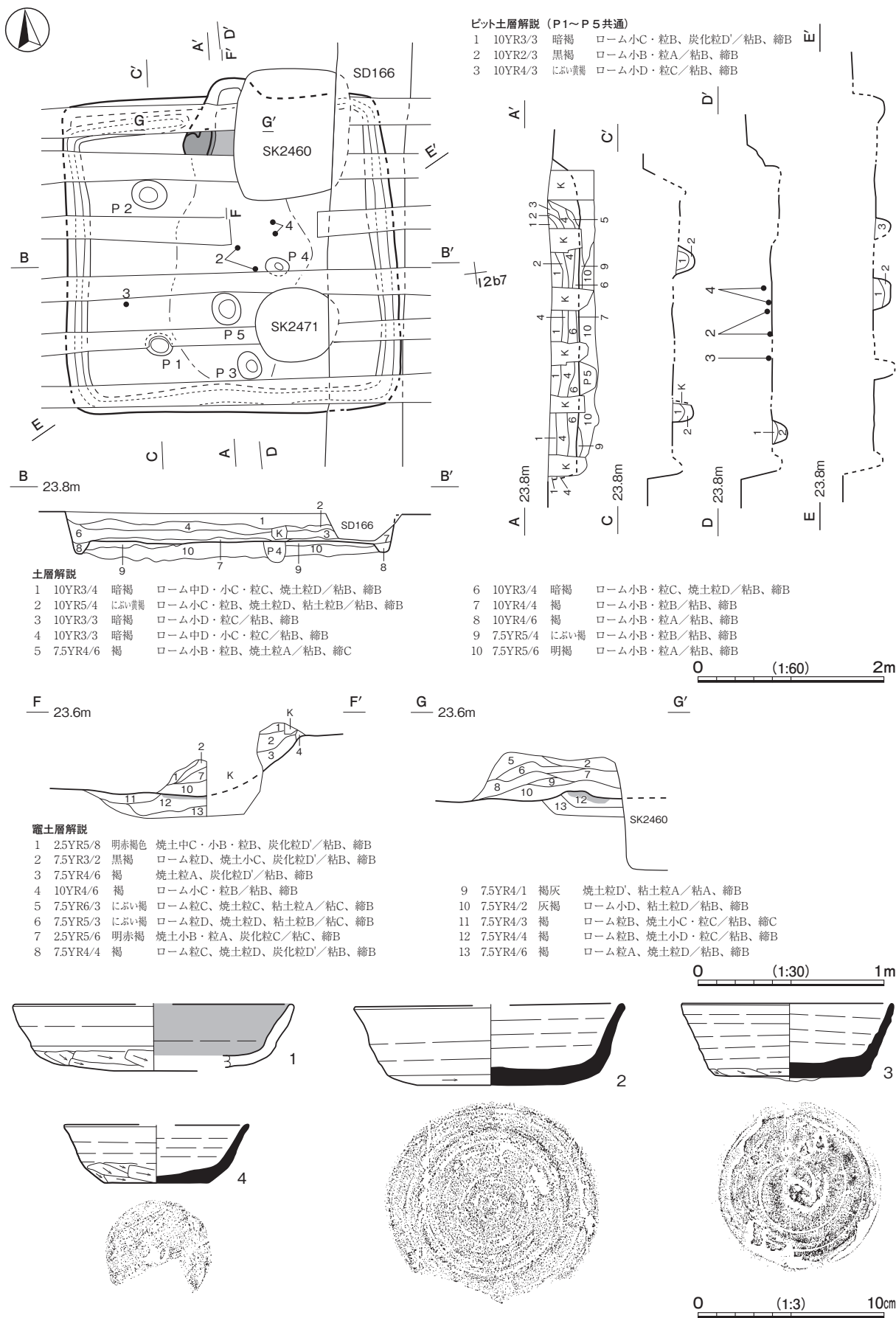
竈 北壁中央部に位置している。竈は上部と中央から東側と焚口部付近が攪乱や重複のため、火床面と煙道部の一部を確認したのみである。確認できた規模は、燃烧部幅は 20 cm ほどで、火床面から煙道部方向は 85 cm ほどである。竈は地山を 15 cm ほど楕円形に掘りくぼめ、ローム粒子や焼土ブロックを含む第 11～13 層を埋土して整地している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 12 層上面で、赤変硬化している。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。

ピット 5 か所。P 1・P 2 は深さ 23 cm・22 cm で、規模や配置から主柱穴である。P 3 は深さが 19 cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 4・P 5 は深さがいずれも 18 cm で、性格は不明である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックやローム粒子、焼土粒子を含む暗褐色土を主体で、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 41 点（坏 13、甕 28）、須恵器片 6 点（坏 5、蓋 1）が出土している。ほかに流入した瓦片 1 点が出土している。遺物は少量で、主に中央付近の覆土下層から出土している。1 は南西部の覆土から、2・4 は中央部の床面から、3 は南西部の床面から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。



第 43 図 第 121 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 18 表 第 121 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 43 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[15.0]	(3.4)	9.8	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 内面黒色処理	南西部 覆土	20%
2	須恵器	坏	[14.5]	4.4	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部下端～底部回転ヘラ削り	中央部 床面	70% PL56 新治窯
3	須恵器	坏	11.5	4.2	8.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	南西部 床面	70% PL56 新治窯
4	須恵器	坏	[9.9]	3.1	5.5	長石・石英・雲母・細礫	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	中央部 床面	60% 新治窯

第 124A 号竪穴建物跡（第 44・45 図 第 19 表 PL13）

位置 調査区 C 区西部の I 3 fl 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 204 号井戸、第 263・264 号溝、第 2560 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形と土層の堆積状況から 2 回の拡張を確認し、拡張前が 124C 号、1 回目の拡張が 124B 号、2 回目の拡張が 124A 号とした。第 124A 号竪穴建物跡は、南北軸 4.64 m、東西軸 4.72 m の方形で、第 124B 号竪穴建物跡を西へ 30cm、南へ 20cm ほど拡張している。主軸方向は N - 14° - E である。壁は高さ 12cm ほどで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた中央部が硬化している。貼床は、第 124B 号竪穴建物の床面にロームブロックを含む第 14 層を 5 cm ほど埋土して構築している。壁溝は、北壁から西壁にかけてと南壁の一部に巡っている。

竈 北壁中央部に位置している。焚口部付近が攪乱のため、確認できた規模は、火床面から煙道部まで 100cm ほどで、推定される燃烧部幅は 60cm ほどである。竈は地山を 10cm ほど楕円形に掘りくぼめ、ロームブロックを多く含む第 8～10 層を埋土して整地している。袖部は、整地面の上に第 6・7 層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は第 11 層上面で、楕円形に赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がっている。

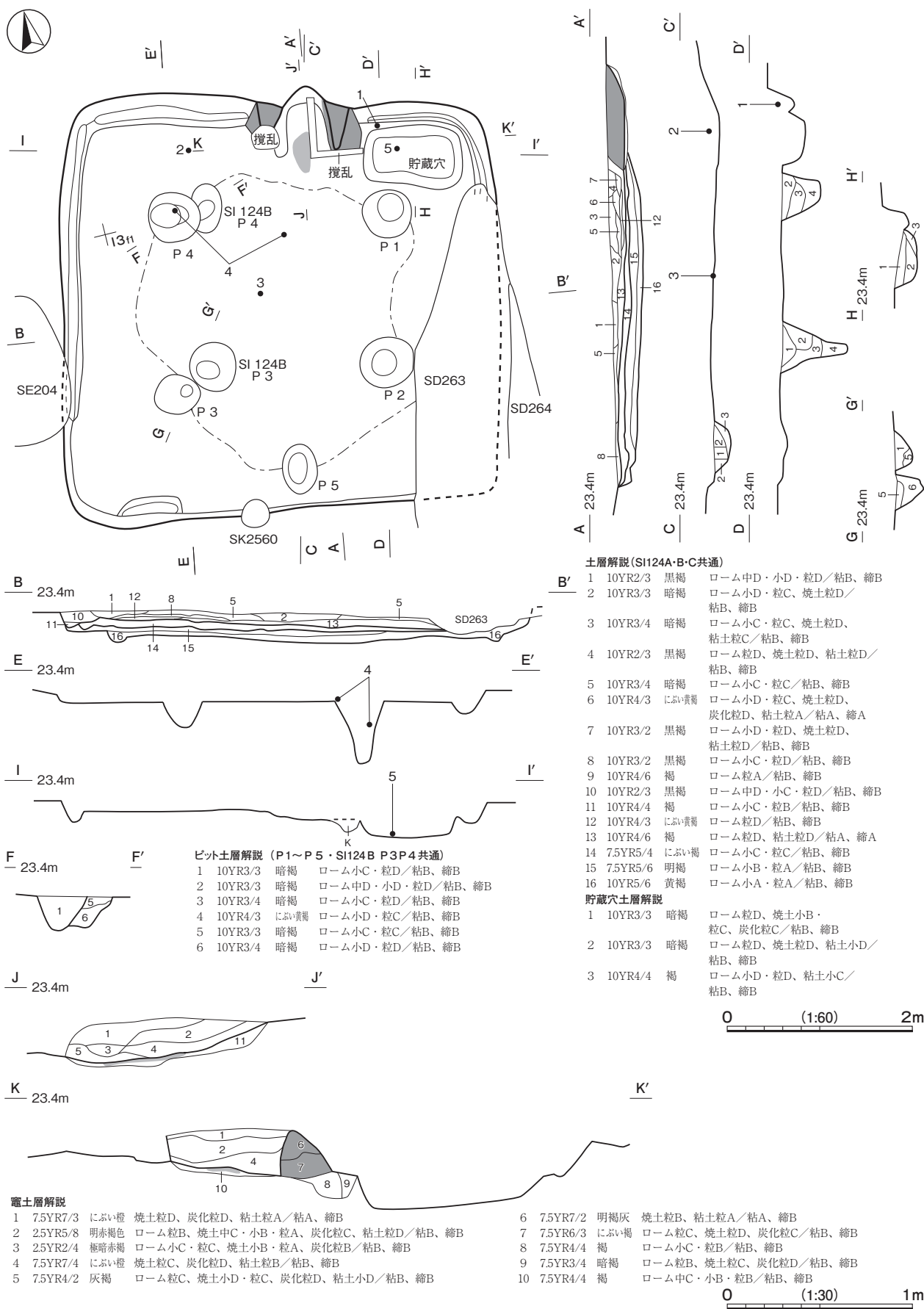
ピット 5 か所。P 1～P 4 は深さ 30～70cm で、規模や配置から支柱穴である。P 5 は深さが 22cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。なお、P 3～P 5 は第 124B 号竪穴建物の P 3～P 5 の外側に位置している。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 110cm、短軸 66cm の隅丸長方形で、深さは 25cm である。底面は平坦で、壁は外傾している。3 層に分層でき、ロームブロックや粘土ブロック、焼土粒子を含む暗褐土を主体とし、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、人為堆積である。

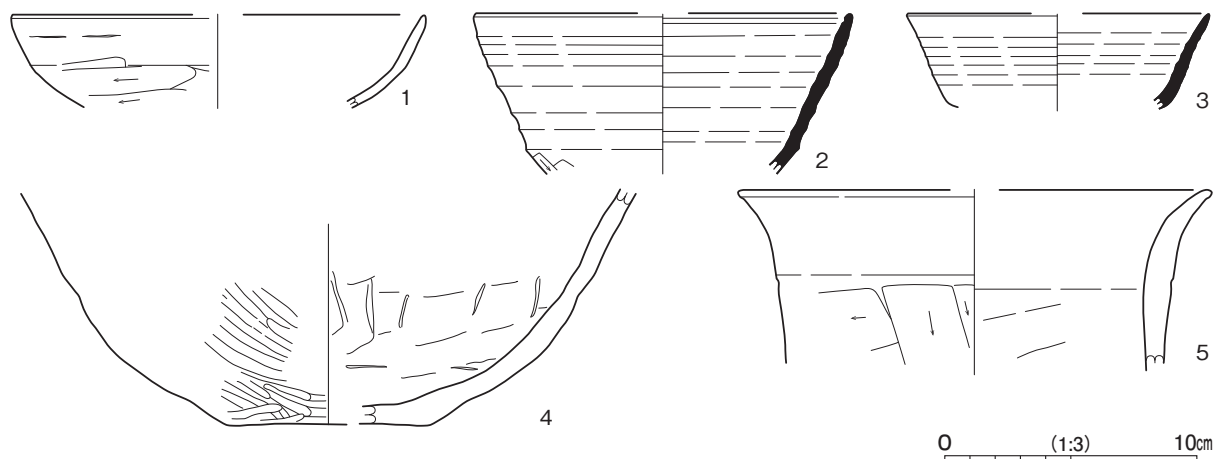
覆土 13 層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を少量含む黒褐土を主体とし、不規則に堆積していることから、人為堆積である。第 3～7 層は崩落した竈の構築土である。

遺物出土状況 土師器片 57 点（坏 14、甕 41、甗 2）、須恵器片 6 点（坏 5、蓋 1）が出土している。遺物は少量で、竈前面から中央部付近の覆土下層から出土している。3 は、中央部の床面から出土している。4 は、P 4 の覆土上層と竈前面の覆土下層から出土した 2 点が接合している。5 は、貯蔵穴の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第 44 図 第 124A ～ C 号竪穴建物跡実測図



第 45 図 第 124A 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 19 表 第 124A 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 45 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[15.6]	(3.7)	—	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	北部覆土下層	10%
2	須恵器	坏	[15.0]	(6.3)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	北西部覆土下層	5% 新治窯
3	須恵器	坏	[12.0]	(3.8)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ	中央部床面	5% 新治窯
4	土師器	甕	—	(9.3)	[8.1]	長石・石英・雲母・細砂	明赤褐	普通	体部外面・底部ヘラ磨き 内面ヘラナデ	P4 上層・中央部覆土下層	10%
5	土師器	甕	[18.6]	(7.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土下層	5%

第 124B 号竪穴建物跡（第 44・46 図 第 20 表）

位置 調査区 C 区西部の I 3fl 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 204 号井戸、第 263・264 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 平面形と覆土の堆積状況から 2 回の拡張が想定されたため、新しい方から 124A・124B・124C とする。第 124B 号竪穴建物跡は、長軸 4.45 m、短軸 4.35 m の方形で、第 124C 号竪穴建物を西・南へ 20cm ほど拡張している。主軸方向は N - 12° - E である。壁は高さ 14 ~ 34cm で、外傾している。

床 ほば平坦で、中央部南側、P 2 から P 5 付近にかけて硬化している。貼床は、第 124C 号竪穴建物跡のコーナー部付近を土坑状に掘り込み、ロームブロックを含む第 15・16 層を用いて、15cm ほど埋土して構築している。確認できた範囲で、壁溝は北東コーナー部を除いて巡っている。

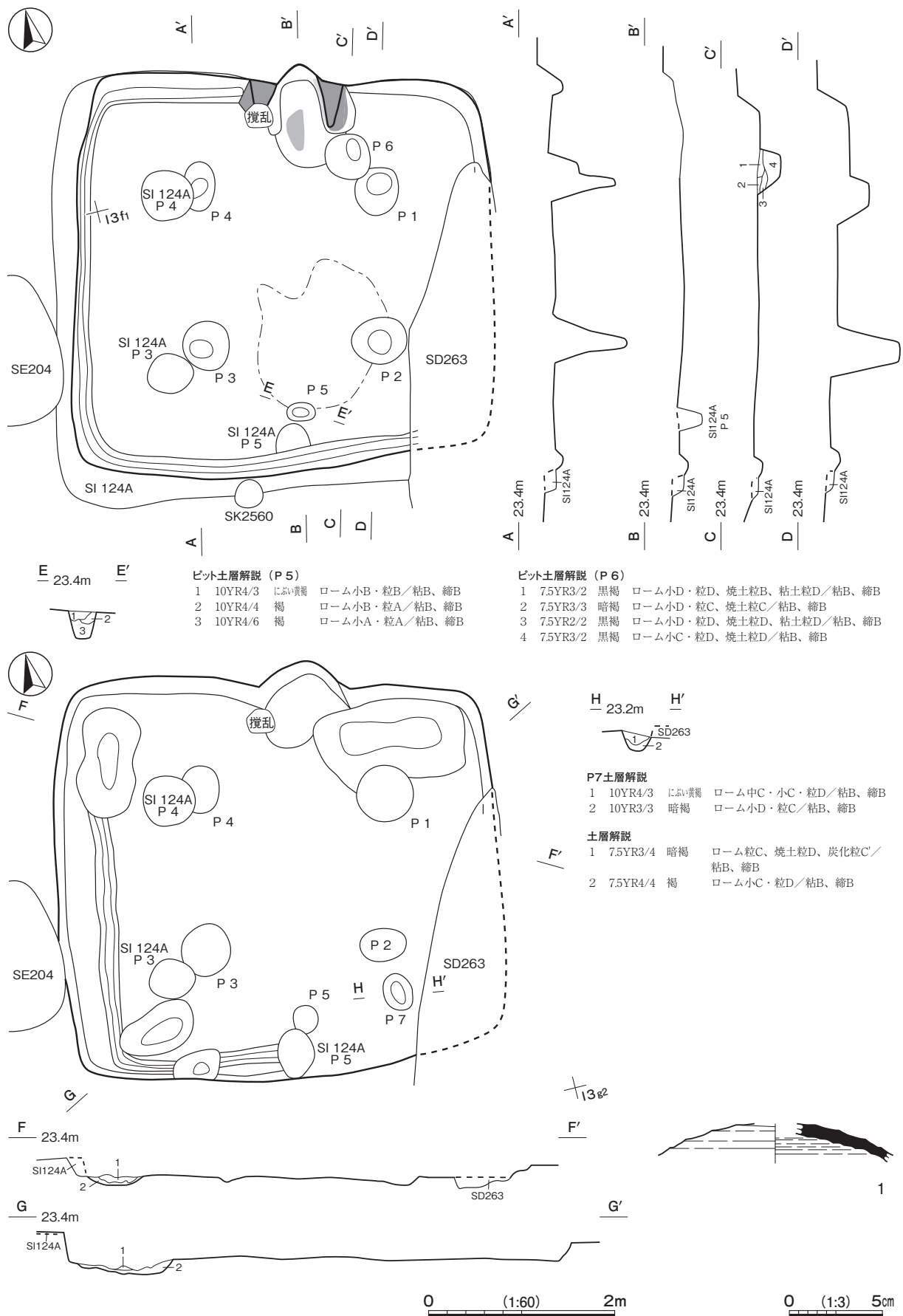
竈 北壁中央部に位置している。拡張時に作り替えていない。

ピット 7 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 33 ~ 75cm で、規模や配置から主柱穴である。P 5 は深さが 28cm で、竈に対峙した位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 26cm で、性格は不明である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P 7 は深さ 24cm で、掘方底面で確認したものである。性格は不明である。なお、P 1 ~ P 5 は、第 124C 号竪穴建物の P 1 ~ P 5 とほぼ同位置である。

覆土 単一層。第 14 層は、第 124A 号竪穴建物構築時の貼床である。

遺物出土状況 土師器片 10 点（坏 1、甕 9）、須恵器片 1 点（蓋）が出土している。遺物は少量で、いずれも細片である。1 は P 5 の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と拡張の事実から、第 124A 号竪穴建物よりも古い 8 世紀前葉と考えられる。



第 46 図 第 124B 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 20 表 第 124B 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 46 図）

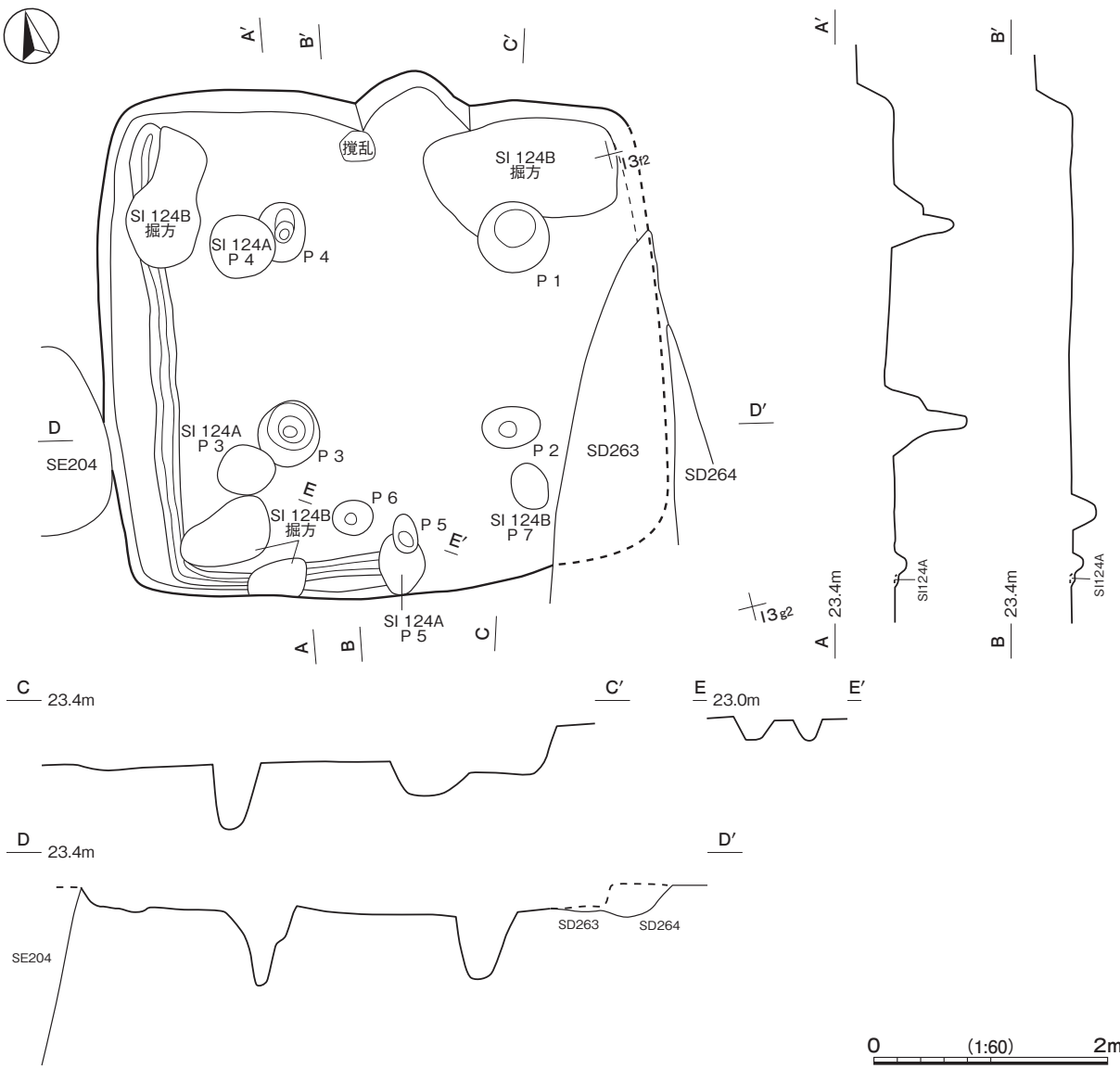
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	蓋	—	(21)	—	長石・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	P 5 覆土	20% 新治窯

第 124C 号竪穴建物跡（第 44・47 図）

位置 調査区 C 区西部の I 3 f1 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 204 号井戸、第 263・264 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 平面形と覆土の堆積状況から 2 回の拡張が想定されたため、新しい方から 124A・124B・124C とする。第 124B 号竪穴建物の掘方調査で、第 124B 号竪穴建物の西壁から 50cm ほど東側と南壁から 10cm ほど北側の位置に、L 字状に巡る壁溝を確認したため、拡張前の竪穴建物跡と判断した。規模は長軸 4.68 m、



第 47 図 第 124C 号竪穴建物跡実測図

短軸 4.30 m の方形で、主軸方向は N - 12° - E である。壁は高さ 10 ～ 22cm で、外傾している。

床 やや凹凸があるものの、ほぼ平坦である。確認できた範囲で壁溝は、西壁と南壁の一部に巡っている。

竈 北壁中央部に位置している。袖部などが残存していないが、煙道部の掘り方が第 124A・B 号竪穴建物と一致することから、拡張時に作り替えしていないと推定できる。

ピット 6 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 28 ～ 70cm で、規模や配置から主柱穴である。P 5 は深さが 18cm で、竈に直面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 20cm で、性格は不明である。

覆土 2 層に分層できる。第 15・16 層は、第 124B 号竪穴建物構築時の貼床である。

所見 時期は、拡張の事実から、第 124A・B 号竪穴建物跡よりも古い 8 世紀前葉と推定できる。

第 21 表 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規 模	壁 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設						覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴					
1	D 4j4	N - 2° - E	方形	3.10 × 3.02	7	平坦	-	-	1	-	北壁	-	人為	土師器 灰釉陶器	須恵器 支脚 刀子	9世紀後葉	
2	E 4e3	N - 90° - E	[方形/ 長方形]	3.27 × (3.22)	4 ~ 14	平坦	[ほぼ 全周]	-	1	-	東壁 西壁	-	人為	土師器 刀子	灰釉陶器	9世紀後葉	本跡→SF 1、SD 4・5
3	E 4g2	N - 62° - W	方形	3.28 × 3.18	14 ~ 18	平坦	全周	-	1	-	北西 壁	-	人為	土師器 脚 砥石	須恵器 支	9世紀後葉	SE2 → 本跡
4	F 4b2	N - 9° - E	方形	4.53 × 4.42	20	平坦	全周	4	1	-	北壁	1	人為	土師器	須恵器	8世紀中葉	
5	F 4e1	N - 10° - E	[方形]	(4.07) × 3.92	12	平坦	[ほぼ 全周]	4	1	1	北壁	1	不明	土師器	須恵器	8世紀中葉	
114	I 3j2	N - 4° - W	方 形	3.30 × 2.98	45	凹凸	-	-	1	-	北東 コー ナー	-	自然	土師器	須恵器	8世紀中葉	
120	H 2j6	N - 13° - E	方 形	3.38 × 3.38	9 ~ 31	平坦	全周	4	1	4	北壁	-	人為	土師器	須恵器	8世紀代	本跡→SK2442・ 2472、SD166
121	I 2a6	N - 6° - E	方 形	3.10 × 2.80	30 ~ 38	平坦	全周	2	1	2	北壁	-	自然	土師器	須恵器	8世紀中葉	本跡→SK2460・ 2471、SD166
124A	I 3f1	N - 14° - E	方 形	4.65 × 4.72	12	平坦	一部	4	1	-	北壁	1	人為	土師器	須恵器	8世紀前葉	SI124B・C → 本跡 → SE204、SD263・ 264、SK2560
124B	I 3f1	N - 12° - E	方 形	4.45 × 4.35	14 ~ 34	平坦	一部	4	1	2	北壁	-	人為	土師器	須恵器	8世紀前葉	SI124C → 本跡 → SI124A、SE204、 SD263・264
124C	I 3f1	N - 12° - E	方 形	4.68 × 4.30	10 ~ 22	凹凸	一部	4	1	-	北壁	-	人為	-	-	8世紀前葉	本跡→SI124A・B、 SE204、SD263・ 264

(2) 井戸跡

第1号井戸跡（第48図 第22表 PL14・56）

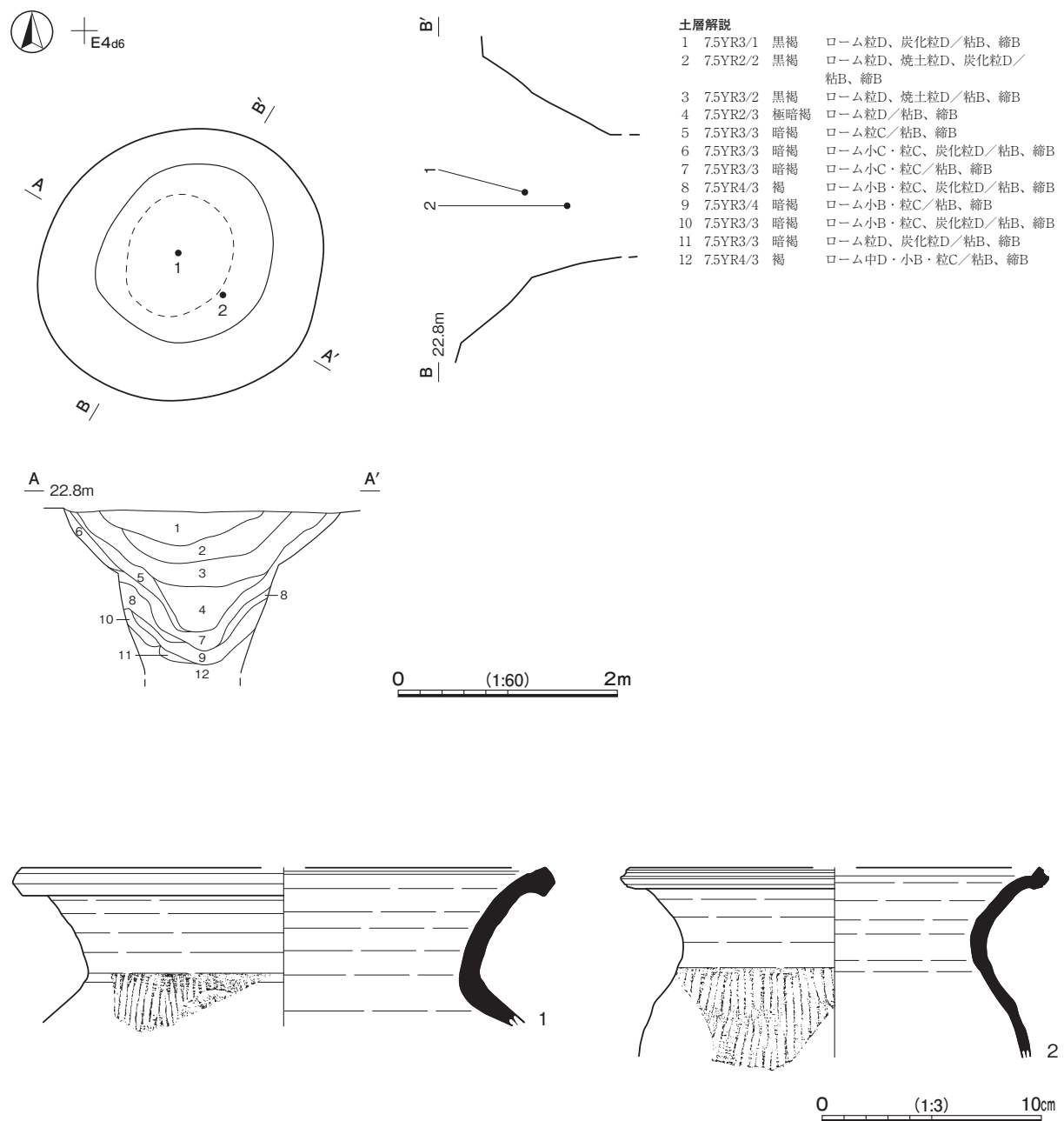
位置 調査区A区北部のE 4 d6区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.68 m、短径2.54 mの円形で、漏斗状を呈している。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ150 cmまでの調査とした。

覆土 12層を確認した。第1～4層は含有物が少なく、周囲からの流入した堆積状況から、自然堆積で、第5～12層は、各層にロームブロックなどをやや多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片2点（甕）が覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉までに廃絶している。



第48図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第 22 表 第 1 号井戸跡出土遺物一覧（第 48 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	甕	[24.0]	(7.7)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	ロクロ成形 折返し口縁 体部外面平行叩き	覆土中層	10% 新治窯
2	須恵器	甕	[18.8]	(8.6)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	ロクロ成形 折返し口縁 体部外面平行叩き	覆土中層	10% PL56 新治窯

第 2 号井戸跡（第 49 図 PL14）

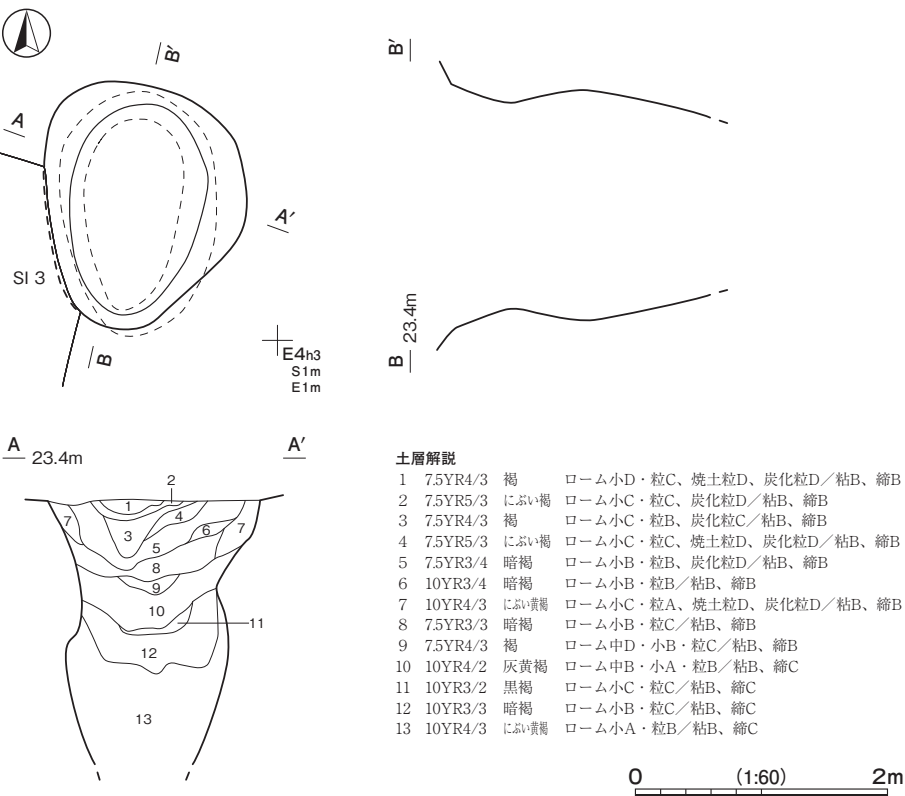
位置 調査区 A 区北部の E 4 f2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.93 m、短径 1.63 m の楕円形で、下部は内彎して立ち上がり、確認面から深さ 5 ～ 75 cm でくびれて、外傾している。断面形は、壺状を呈している。長径方向は N－5°－E である。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ 205 cm までの調査とした。

覆土 13 層を確認した。各層にロームブロックを多く含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。

所見 出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、9 世紀後葉の第 3 号竪穴建物に掘り込まれていることから、古代と考えられる。



第 49 図 第 2 号井戸跡実測図

第 162 号井戸跡（第 50 図 第 23 表 PL14）

位置 調査区 C 区南東部の J 4 b0 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

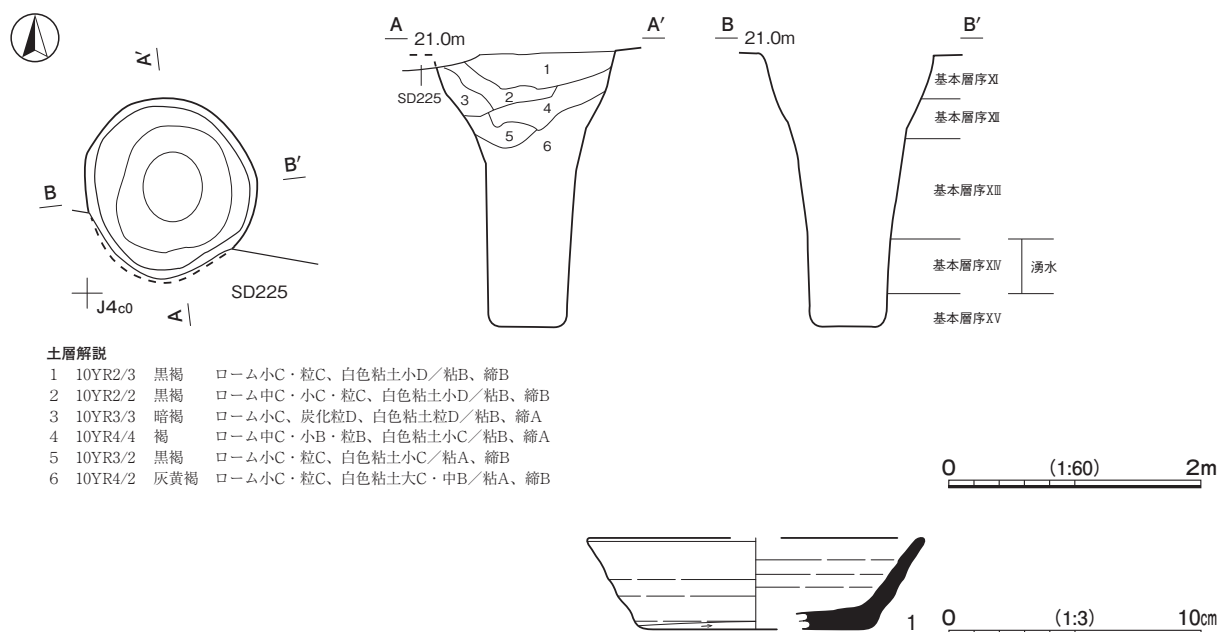
重複関係 第 225 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径 1.43 m、短径 1.41 m である。平面形は円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 60cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.04 m、短径 0.90m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 217cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 140 ～ 190cm ほどの基本層序第 XIV 層付近で、底面は基本層序第 XV 層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 6 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片 1 点（杯）、土製品 1 点（土玉）、砂岩片 1 点（99.45g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。



第 50 図 第 162 号井戸跡・出土遺物実測図

第 23 表 第 162 号井戸跡出土遺物一覧（第 50 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	杯	[13.2]	5.0	[9.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 体部下端ヘラ削り 底部一方向のナデ	覆土	20% 新治窯

第 201 号井戸跡（第 51 図 第 24 表）

位置 調査区 C 区南部の I 3 f2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

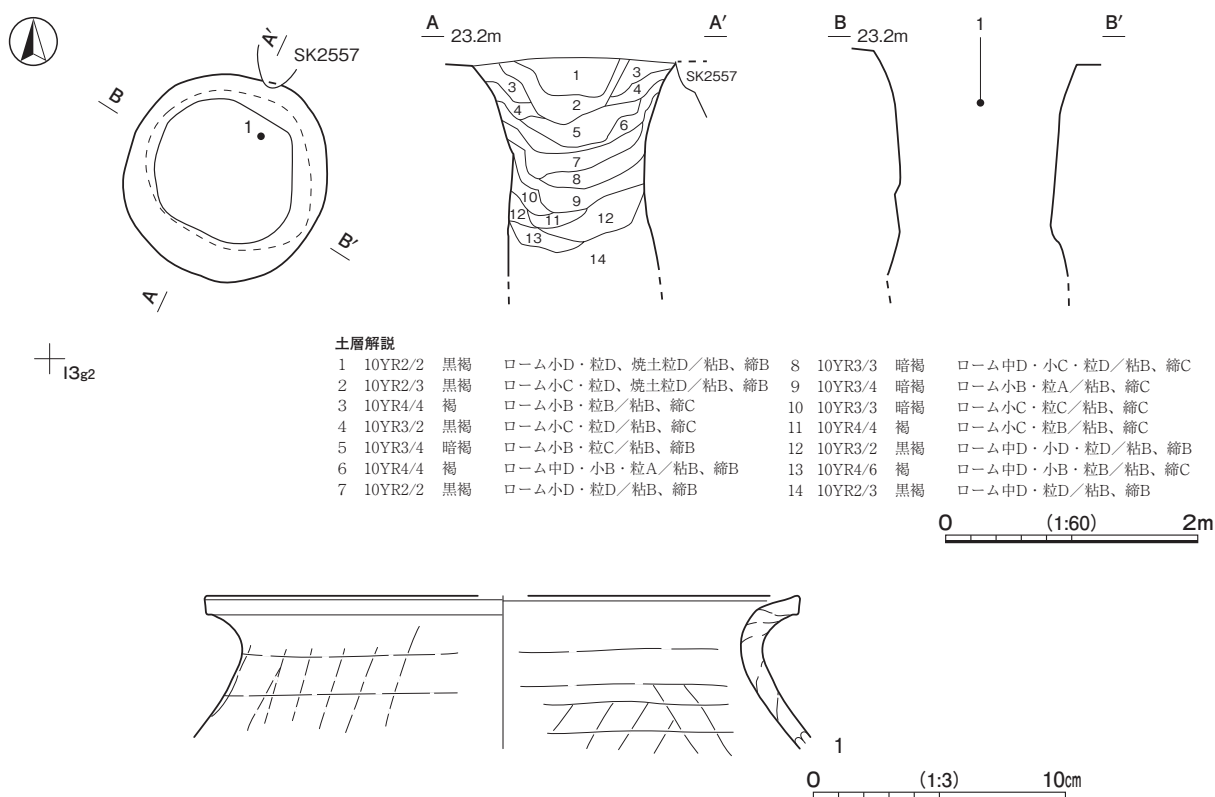
重複関係 第 2557 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.67 m、短径 1.64 m の円形で、断面形は円筒状である。壁の中部は、崩落のため全面が抉れている。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 178cm までの調査とした。

覆土 14 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 3 点(坏 1、甕 2)が出土している。1 は中央部北東寄りの覆土上層から出土している。

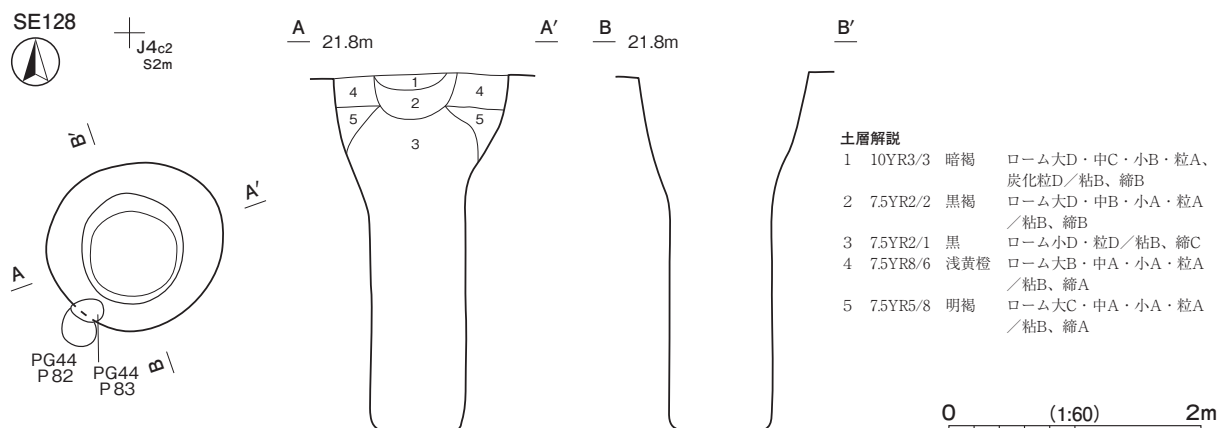
所見 時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 51 図 第 201 号井戸跡・出土遺物実測図

第 24 表 第 201 号井戸跡出土遺物一覧（第 51 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	甕	[23.6]	(6.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・横位ナデ 内面横・斜位ナデ	覆土上層	10%



第 52 図 奈良・平安時代その他の井戸実測図

第 25 表 奈良・平安時代井戸跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	E 4 d6	—	円形	2.68 × 2.54	(150)	漏斗状	—	自然 人為	須恵器	
2	E 4 f2	N - 5° - E	楕円形	1.93 × 1.63	(205)	壺状	—	人為		本跡→SI 3
128	J 4 c2	—	円形	1.42 × 1.32	2.84	漏斗状	平坦	人為	須恵器	本跡→PG44P83 PG44と重複
162	J 4 b0	—	[円形]	(1.43) × 1.41	217	漏斗状	平坦	人為	須恵器 土玉	本跡→SD225
201	I 3 f2	—	円形	1.67 × 1.64	(178)	円筒状	—	人為	土師器	本跡→SK2557

(3) 道路跡

第 7 号道路跡 (第 53 図 第 26 表 PL14)

位置 調査区 C 区北部の G 3 f7 ~ G 4 h8 区、標高 22 ~ 23 m ほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 16・67 号溝、第 714・720・725・726・728・729・733・736・737 号土坑、第 14 号ピット群 P61 に掘り込まれている。

規模と形状 東側が攪乱を受け、西側は平成 31 年度の調査で継続する本跡が確認できなかったため、確認できた長さは 43.96 m、幅は 1.22 ~ 1.62 m で、平均 1.42 m である。深さは 20 ~ 33 cm で、断面の形状は、逆台形や皿状である。調査区東の G 4 h8 区から緩斜面を上り、北西方向 (N - 79 - W) へ直線状に延びている。側壁下の一部に幅 30 ~ 35 cm、深さ 5 ~ 25 cm の側溝が掘り込まれている。

路面 地山のハードローム層まで掘り下げ、路面としている。

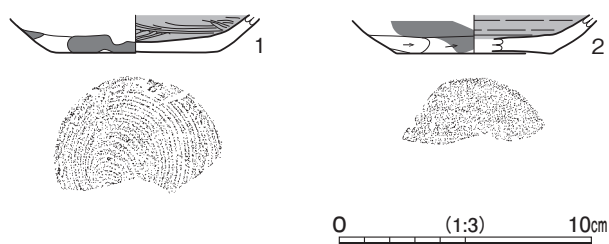
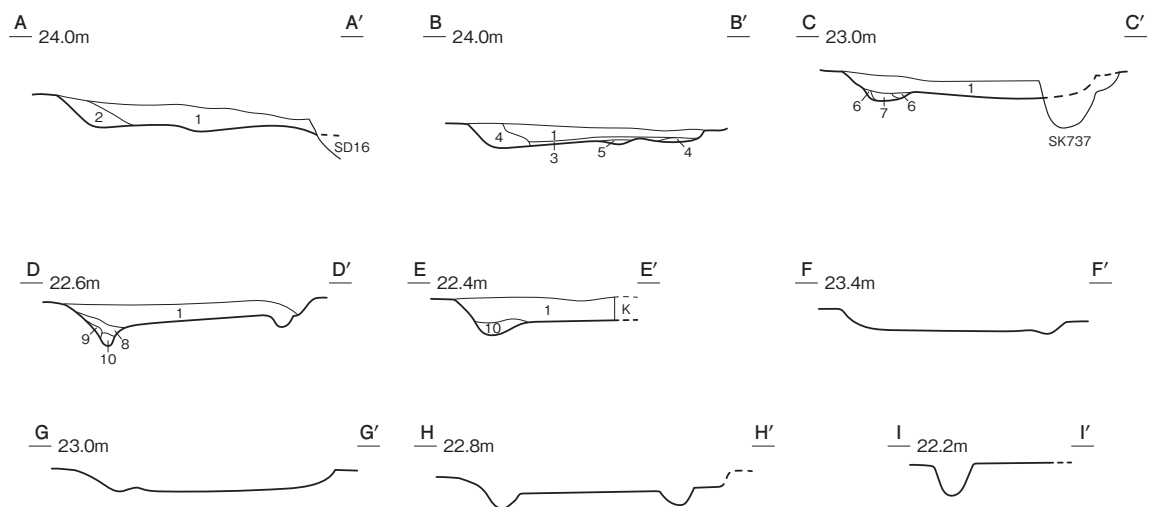
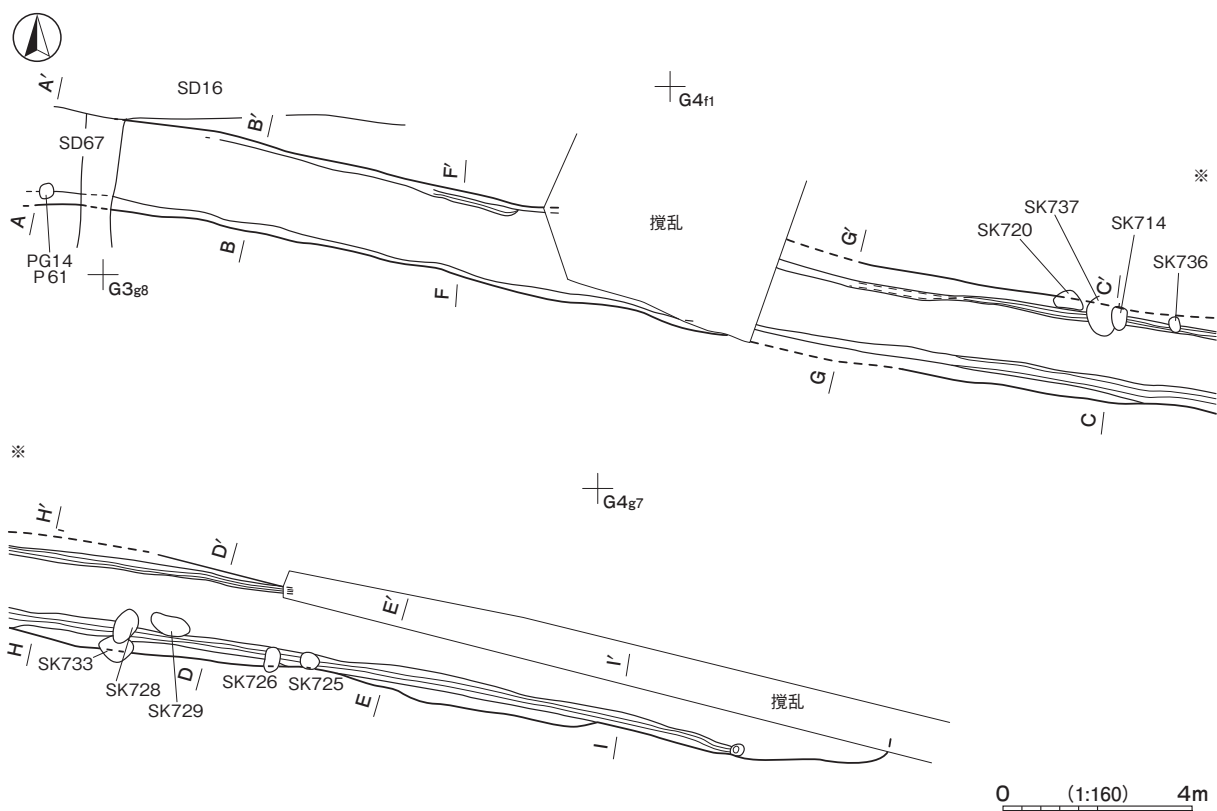
覆土 10 層に分層できる。いずれも周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。6 ~ 10 層が側溝の覆土である。

遺物出土状況 土師器片 38 点 (坏 16、皿 2、甕 20)、須恵器片 17 点 (坏 11、蓋 1、長頸瓶 1、甕 4) が出土している。ほかに混入した土師質土器片 3 点、陶器片 1 点が出土している。1・2 は覆土から出土している。

所見 時期は出土遺物から、9 世紀後葉の廃絶と考えられる。

第 26 表 第 7 号道路跡出土遺物一覧 (第 53 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	—	(1.5)	6.5	長石	明褐	普通	体部内面黒色処理・ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土	30% 煤付着
2	土師器	坏	—	(1.5)	[6.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内面黒色処理 体部下端~底部外面手持ちヘラ削り	覆土	20% 煤付着



土層解説(A-A')~(E-E')共通

- | | | | |
|----|----------|----|-------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小C・粒C/粘C、締C |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム粒B/粘C、締C |
| 3 | 7.5YR5/6 | 明褐 | ローム大B/粘B、締C |
| 4 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中B/粘B、締B |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐 | ローム小C/粘B、締C |
| 6 | 7.5YR5/6 | 明褐 | ローム大C・小B/粘B、締B |
| 7 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C/粘B、締B |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中D・小C・粒C/粘B、締B |
| 9 | 7.5YR4/3 | 褐 | ローム大D・中C/粘B、締B |
| 10 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小C・粒C/粘B、締A |

第 53 図 第 7 号道路跡・出土遺物実測図

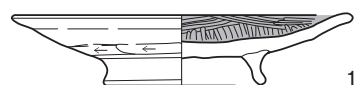
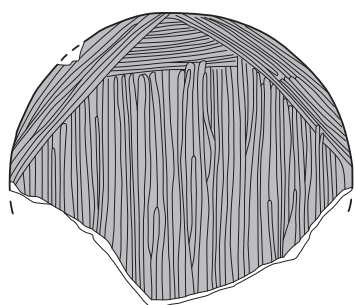
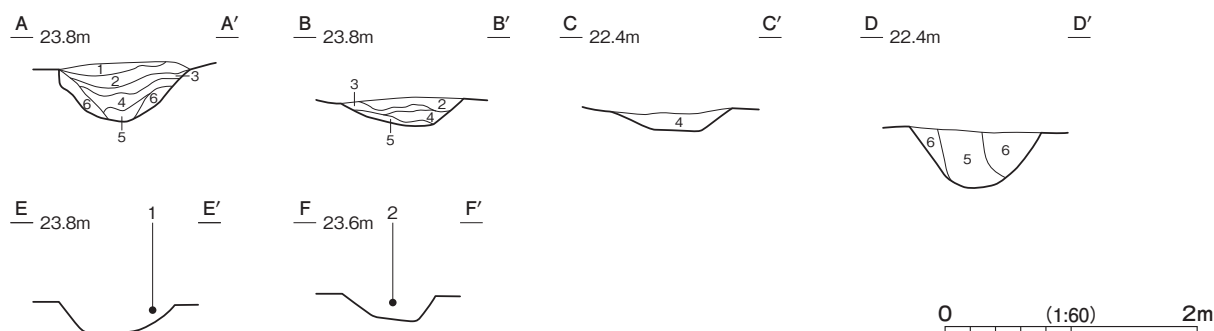
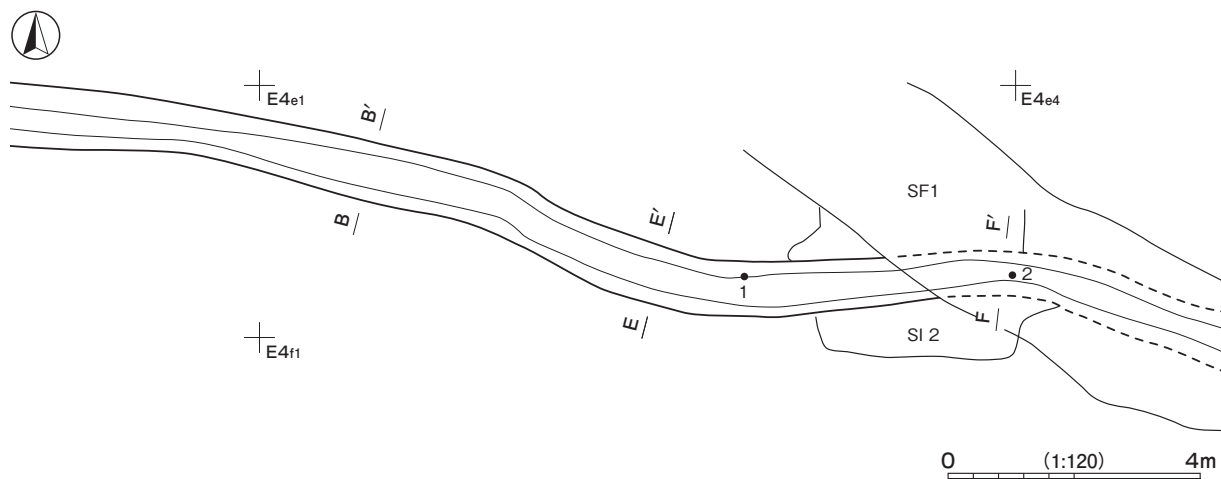
(4) 溝跡

第5号溝跡 (第54図 第27表 PL14・57)

位置 調査区A区北部のE 3e9～E 5j3区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

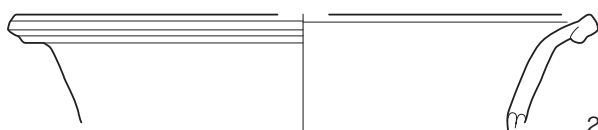
重複関係 第2号竪穴建物跡を掘り込み、第2号溝、第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 東・西両側が調査区域外のため、確認できた長さは58.88 mで、上幅0.64～0.80 m、下幅0.16～0.24 m、深さ14～23 cmである。E 4e9区から緩やかに蛇行し、南東方向(N-67°-W)へ延びている。断面形は浅いU字状や逆台形状である。地形に沿って、西部から東部へ緩やかに下っている。



土層解説

- | | | |
|---|---------------|------------------------|
| 1 | 7.5YR4/3 褐 | ローム小D・粒C、炭化粒D/粘B、締B |
| 2 | 7.5YR4/3 褐 | ローム小C・粒C、炭化粒C/粘B、締B |
| 3 | 7.5YR5/3 にぶい褐 | ローム中D・小C・粒B、炭化粒C/粘B、締B |
| 4 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム中D・小D・粒B/粘B、締B |
| 5 | 7.5YR3/2 黒褐 | ローム中D・小B・粒C/粘B、締A |
| 6 | 7.5YR5/3 にぶい褐 | ローム小B・粒C、炭化粒D/粘B、締A |



0 (1:3) 10cm

第54図 第5号溝跡・出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片4点（坏1、高台付皿1、甕2）が出土している。1は北部の覆土上層から正位の状態で、2は北部の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第 27 表 第 5 号溝跡出土遺物一覧（第 54 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	高台付皿	13.3	2.8	[6.3]	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	ロクロナデ 体部下端横位ヘラ削り 底部下端横位ヘラ削り 底部ヘラ切り後高台貼り付け 内底面ヘラ磨き後黒色処理	北部覆土上層	80% PL57
2	土師器	甕	[22.8]	(4.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	折返し二重口縁 内外面横位ナデ	北部覆土中層	5%

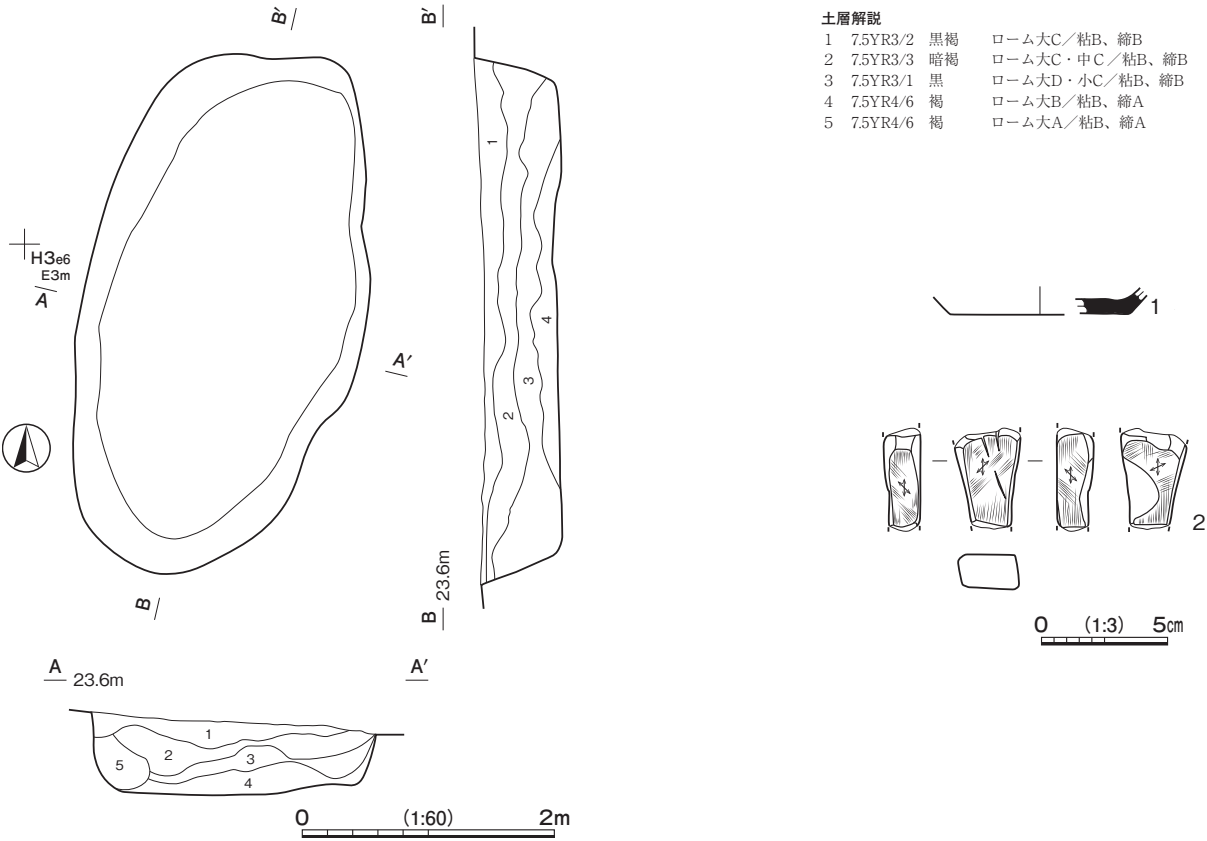
(5) 土坑

25基を確認した。そのうち、特徴的なものについては記述し、その他については実測図と一覧で掲載する。

第 685 号土坑（第 55 図 第 28 表 PL14）

位置 調査区 C 区北部の H 3 f6 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 4.24 m、短径 2.28 m の楕円形で、長径方向は N－12°－E である。深さは 76cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。



第 55 図 第 685 号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 10 点（坏 2、甕 8）、須恵器片 6 点（坏 2、甕 4）、石器 1 点（凝灰岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師質土器片 4 点が出土している。1・2 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後半と考えられる。

第 28 表 第 685 号土坑出土遺物一覧（第 55 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	－	(1.1)	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土	5% 新治窯

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	(4.0)	(2.6)	(1.5)	(18.26)	凝灰岩	砥面 4 面 各面 2 方向の研磨痕 表面擦痕	覆土	

第 918 号土坑（第 56 図 第 29 表 PL15）

位置 調査区 C 区中央部の I 3a8 区、標高 22 m の緩斜面部に位置している。

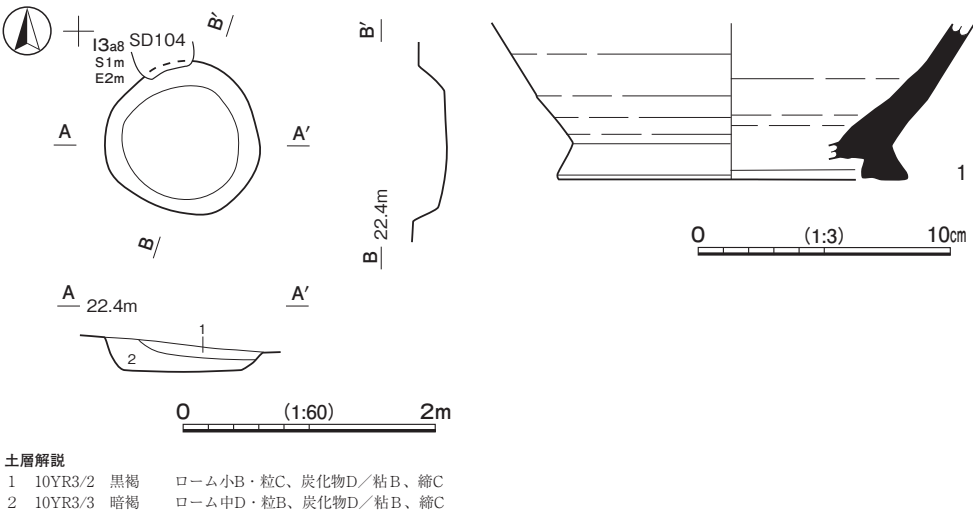
重複関係 第 104 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.24 m、短径 1.20 m の円形である。深さは 24cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックや炭化粒子を含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片 1 点（長頸瓶）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀末～8 世紀前葉と考えられる。



第 56 図 第 918 号土坑・出土遺物実測図

第 29 表 第 918 号土坑出土遺物一覧（第 56 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	長頸瓶	－	(6.2)	[13.8]	長石・石英・ 黒色粒子	灰黄褐	普通	ロクロナデ 高台貼付け 底部内面自然釉	覆土	10%

第 1523 号土坑（第 57 図 第 30 表）

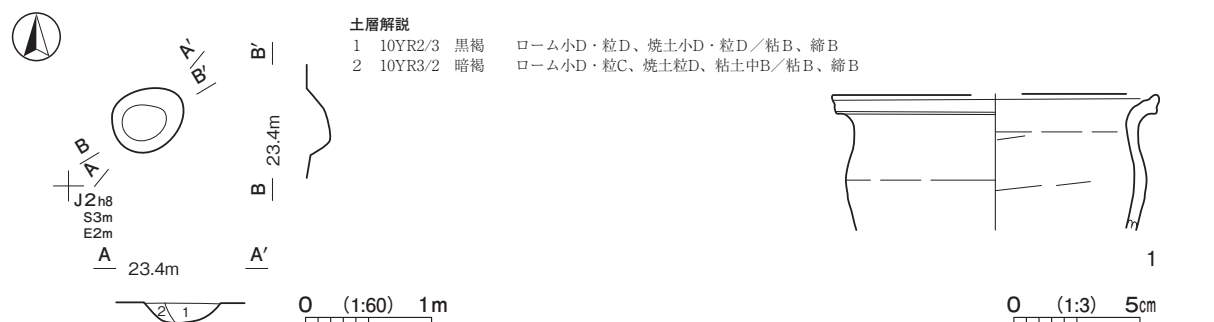
位置 調査区 C 区南西部の J 2h8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.59 m、短径 0.51 m の楕円形で、長径方向は N - 52° - E である。深さは 16cm で、底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。各層に焼土ブロックや粘土ブロックを含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 5 点（甕）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀代と考えられる。



第 57 図 第 1523 号土坑・出土遺物実測図

第 30 表 第 1523 号土坑出土遺物一覧（第 57 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	甕	[13.0]	(5.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラナデ 外面ナデ	覆土	5 %

第 1697 号土坑（第 58 図 第 31 表 PL15）

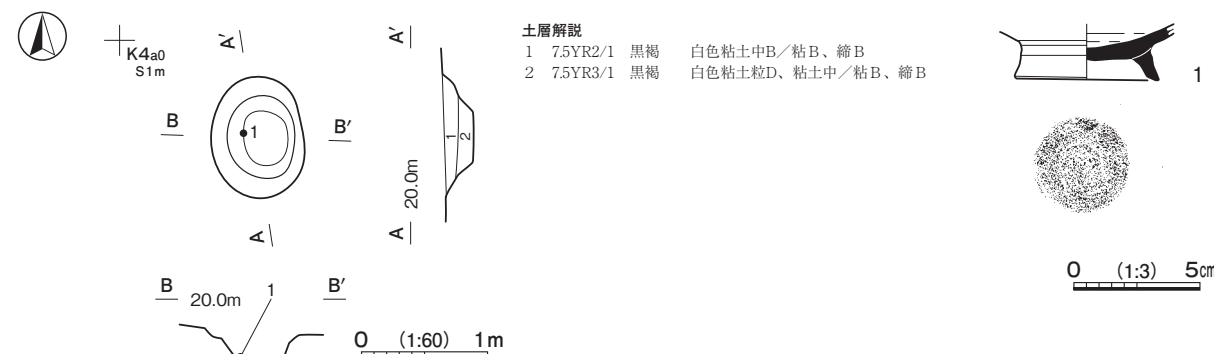
位置 調査区 C 区南東部の K 4a9 区、標高 20 m ほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.73 m の楕円形で、長径方向は N - 10° - W である。深さは 30cm で、底面は平坦である。壁は底面から外傾し、中位で段を有している。

覆土 2 層に分層できる。第 1 層に白色粘土ブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 須恵器片 1 点（高台付坏）が西部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 58 図 第 1697 号土坑・出土遺物実測図

第 31 表 第 1697 号土坑出土遺物一覧（第 58 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	[5.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口クロナデ	西部底面	20% 新治窯

第 2040 号土坑（第 59 図 第 32 表 PL15）

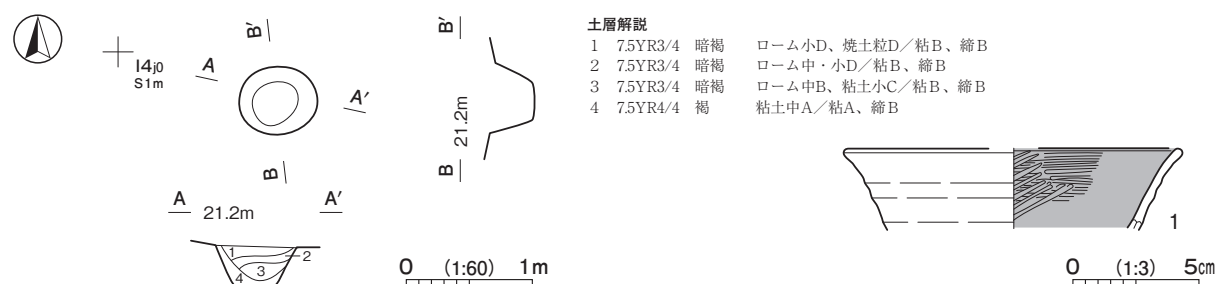
位置 調査区 C 区東部の I 4 j0 区、標高 21 m ほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径 0.64 m、短径 0.54 m の楕円形で、長径方向は N - 84° - E である。深さは 36cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 4 層に分層できる。第 3・4 層にロームブロックや粘土ブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 1 点（坏）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀前半と考えられる。



第 59 図 第 2040 号土坑・出土遺物実測図

第 32 表 第 2040 号土坑出土遺物一覧（第 59 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[13.2]	(3.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土	5 %

第 2047 号土坑（第 60 図 第 33 表 PL15）

位置 調査区 C 区南東部の J 4 d5 区、標高 21 m ほどの低地部に位置している。

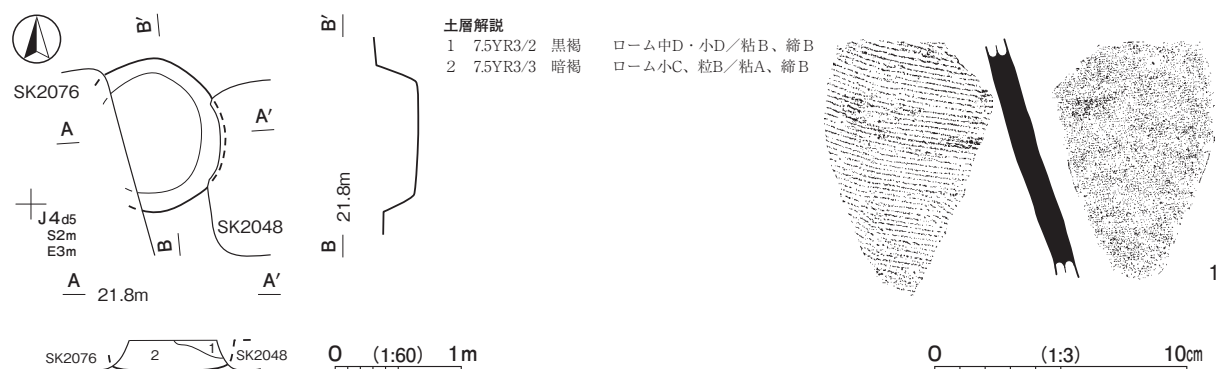
重複関係 第 2048・ 2076 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複のため、南北径は 1.20 m で、確認できた東西径は 0.84 m である。楕円形と推定され、南北軸方向は N - 17° - W である。深さは 34cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 須恵器片 1 点（甕）が南壁際の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀代と考えられる。



第 60 図 第 2047 号土坑・出土遺物実測図

第 33 表 第 2047 号土坑出土遺物一覧（第 60 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	甕	—	(9.5)	—	長石・雲母	褐灰	普通	外面横位平行叩き 内面当て具痕	南壁際 覆土	5% 新治窯

第 2171 号土坑（第 61 図 第 34 表 PL15）

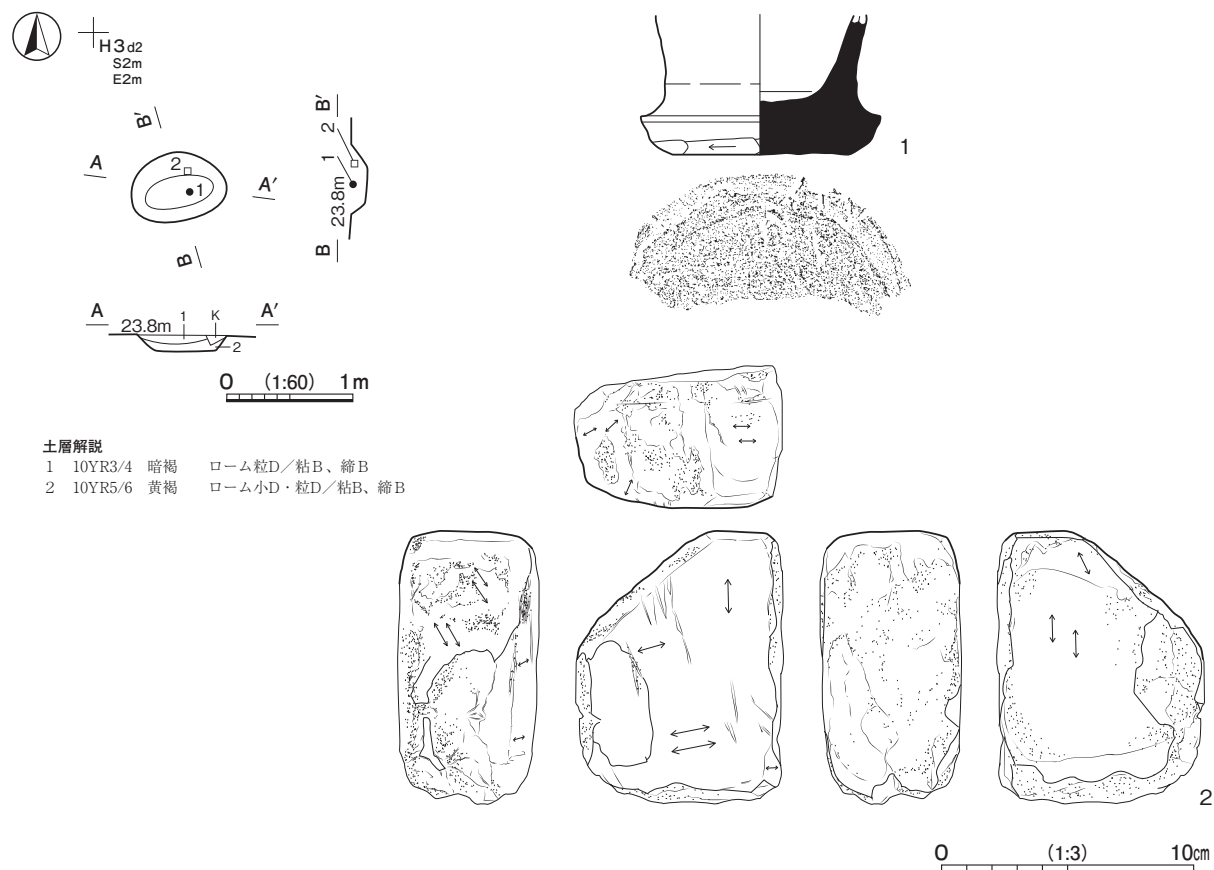
位置 調査区 C 区北西部の H 3 d2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.75 m、短径 0.53 m の楕円形で、長径方向は N - 73° - E である。深さは 13 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 中央部の覆土上層から須恵器片 1 点（捏鉢）が、北東部の覆土上層から砂岩製砥石 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 61 図 第 2171 号土坑出土遺物実測図

第 34 表 第 2171 号土坑出土遺物一覧（第 61 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	捏鉢	—	(5.5)	[7.0]	長石・石英・細礫	暗灰黄	普通	下端部手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	中央部 覆土上層	25% 新治窯カ

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	10.8	8.2	5.6	825.25	砂岩	砥面 4 面 断面 V 字状の研磨痕 二次焼成	北東部 覆土上層	

第 2355 号土坑（第 62 図 第 35 表 PL15）

位置 調査区 C 区中央部の I 3 c1 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

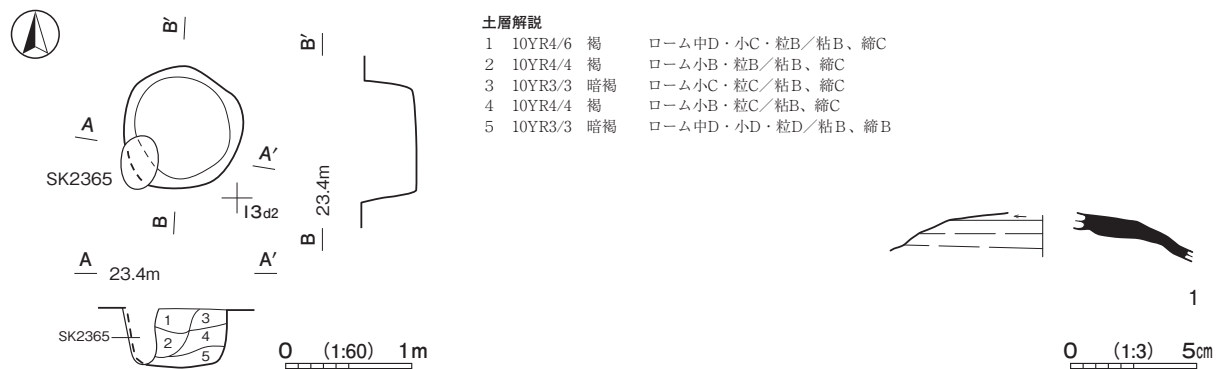
重複関係 第 2365 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.96 m の円形である。深さは 45cm で、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 5 層に分層できる。第 1・2 層はピット状の人為堆積、第 3～5 層は周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 覆土中から須恵器片 1 点（蓋）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀代と考えられる。



第 62 図 第 2355 号土坑・出土遺物実測図

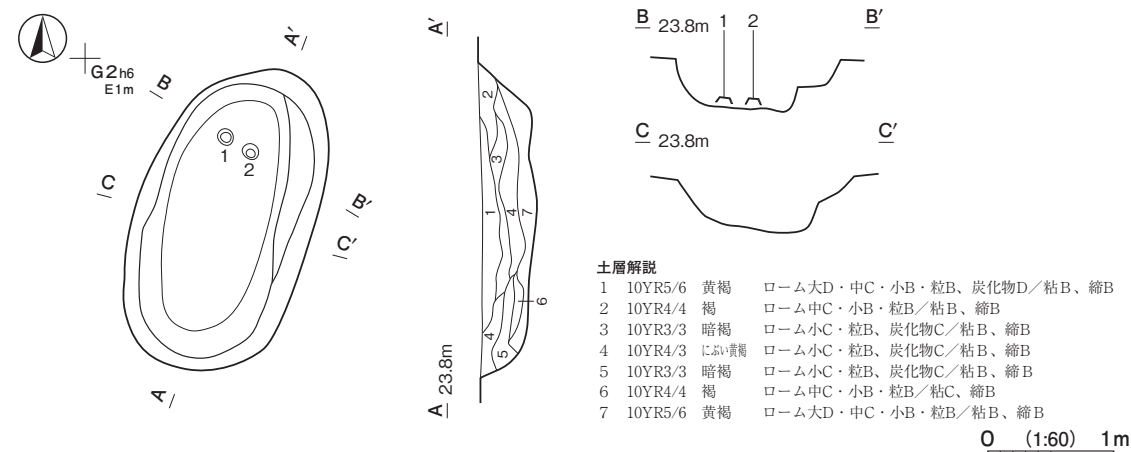
第 35 表 第 2355 号土坑出土遺物一覧（第 62 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	蓋	—	(1.9)	—	長石・石英・雲母	浅黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	45% 新治窯

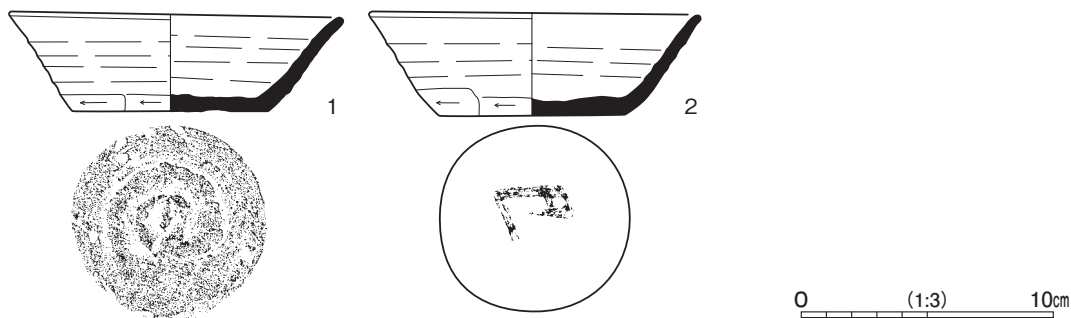
第 2813 号土坑（第 63・64 図 第 36 表 PL15・57）

位置 調査区 C 区北西部の G 2 h6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.50 m、短径 1.41 m の楕円形で、長径方向は N - 20° - E である。深さは 48cm で、底面は凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっているが、北東部は底面から 20cm のところで段を有している。



第 63 図 第 2813 号土坑実測図



第 64 図 第 2813 号土坑出土遺物実測図

覆土 7層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含む黄褐色土を主体とし、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 5 点（甕）、須恵器片 3 点（坏 2、蓋 1）が出土している。1・2 は完形の須恵器の坏で、北部の床面から 2 点が逆位で並べられたような状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。完形の須恵器坏 2 点の遺棄状況から、土坑墓の可能性はある。

第 36 表 第 2813 号土坑出土遺物一覧（第 64 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	13.2	3.9	7.7	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	北部底面	100% 新治窯 PL57
2	須恵器	坏	13.2	4.1	7.4	長石・石英・雲母・細礫	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 墨書「区」	北部底面	100% 新治窯 PL57

第 2842 号土坑（第 65 図 第 37 表 PL51）

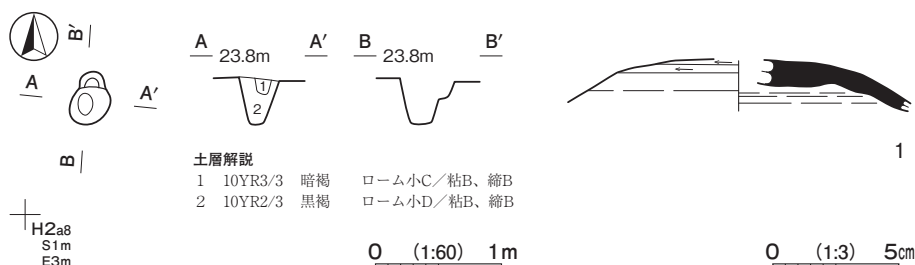
位置 調査区 C 区北西部の H 2 a8 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.42 m、短径 0.33 m の不整楕円形で、主軸方向は N - 13° - E である。深さは 36cm で、底面は皿状である。壁は直立しているが、北部では底面から 20cm のところで段を有している。

覆土 2 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 2 点（甕）、須恵器片 4 点（坏 1、蓋 3）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀代と考えられる。



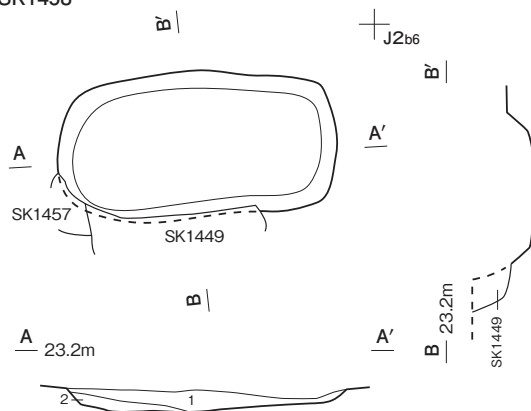
第 65 図 第 2842 号土坑・出土遺物実測図

第 37 表 第 2842 号土坑出土遺物一覧（第 65 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	須恵器	蓋	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	5% 新治窯



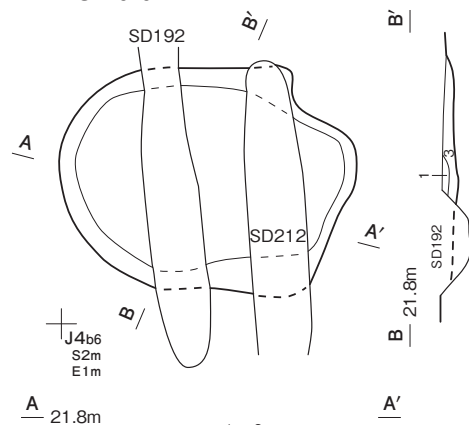
SK1458



第1458号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小C、黒色土小D／粘B、締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム中D・小D、粘土大／粘B、締B

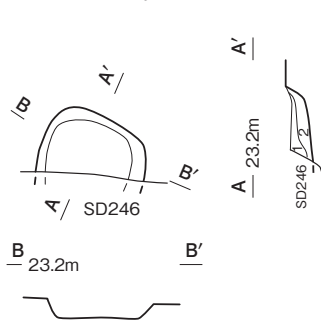
SK2020



第2020号土坑土層解説

- 1 7.5YR3/4 暗褐 ローム粒D／粘B、締A
- 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム粒D／粘B、締A
- 3 10YR4/6 褐 粘土中B／粘A、締A
- 4 10YR3/4 暗褐 ローム粒B、粘土小C／粘B、締A

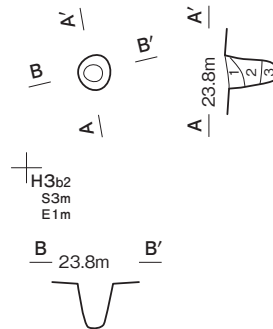
SK2143



第2143号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐 ローム小C・粒C、焼土小C・粒B、粘土粒B／粘B、締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小B・粒B／粘B、締B

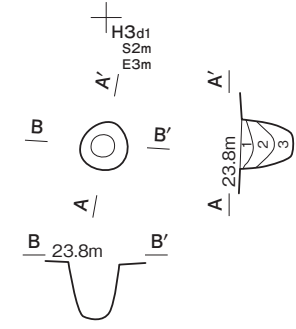
SK2154



第2154号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小D・粒C／粘B、締A
- 2 10YR2/3 黒褐 ローム小・粒B／粘B、締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒B／粘B、締B

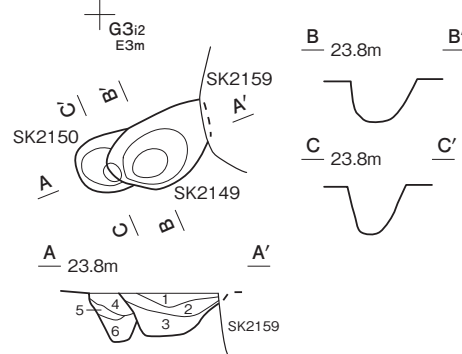
SK2174



第2174号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐 ローム粒D／粘B、締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム小・粒D／粘B、締B
- 3 10YR4/4 褐 ローム小D・粒C／粘B、締B

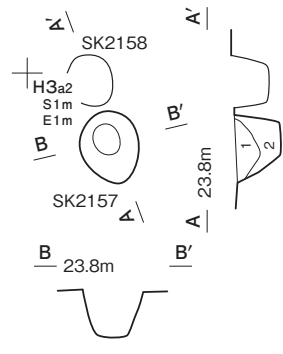
SK2149・2150



第2149・2150号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 ローム中C・小C・粒B／粘B、締B
- 2 10YR2/2 黒褐 ローム中C・小B・粒B／粘B、締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム大D・中C・小B・粒B／粘A、締A
- 4 10YR4/4 褐 ローム小B・粒B／粘B、締B
- 5 10YR3/4 暗褐 ローム中C・小B・粒B／粘B、締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小B・粒A／粘B、締B

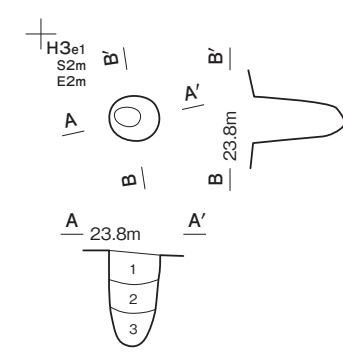
SK2157



第2157号土坑土層解説

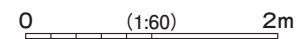
- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小C・粒C／粘B、締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム小C・粒B／粘B、締B

SK2182



第2182号土坑土層解説

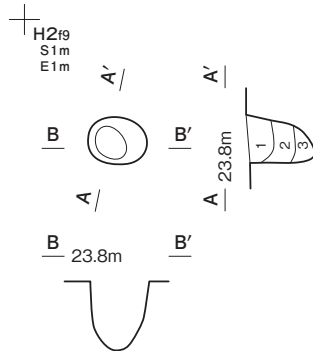
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒D／粘B、締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小D・粒D／粘B、締B
- 3 10YR2/2 黒褐 ローム小D・粒C／粘B、締B



第 66 図 奈良・平安時代のその他の土坑実測図(1)



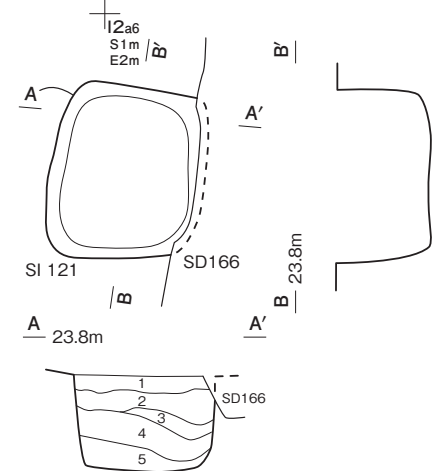
SK2445



第2445号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|----------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐 | ローム中C・小C・粒D
粘B、締B |
| 2 | 10YR3/3 暗褐 | ローム中B・小D・粒C
粘B、締B |
| 3 | 10YR3/4 暗褐 | ローム小C・粒C
粘B、締B |

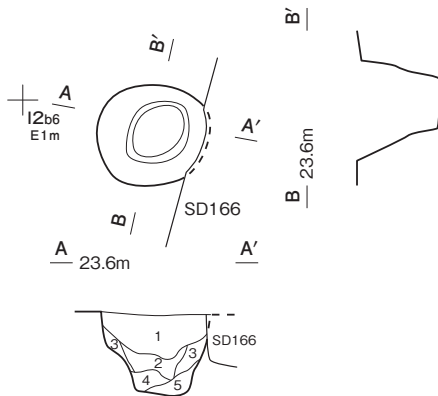
SK2460



第2460号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|------------------|
| 1 | 10YR3/4 暗褐 | ローム小C・粒D粘B、締B |
| 2 | 10YR3/4 暗褐 | ローム中D・小・粒C粘B、締B |
| 3 | 10YR4/4 褐 | ローム中C・小C・粒B粘B、締B |
| 4 | 10YR4/4 褐 | ローム中C・小B・粒B粘B、締B |
| 5 | 10YR4/6 褐 | ローム中C・小B・粒A粘B、締B |

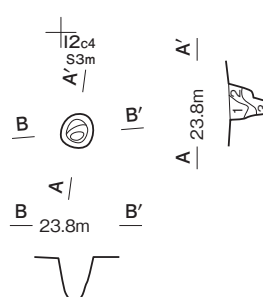
SK2471



第2471号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐 | ローム中C・小D・粒D粘B、締B |
| 2 | 10YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒B粘B、締B |
| 3 | 10YR4/4 褐 | ローム小D・粒D粘B、締B |
| 4 | 10YR3/4 暗褐 | ローム小C・粒C粘B、締B |
| 5 | 10YR4/4 褐 | ローム小C・粒B粘B、締B |

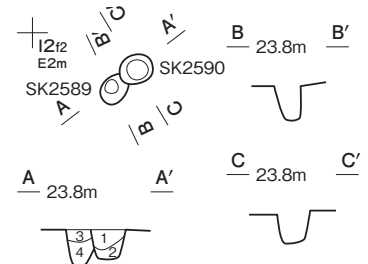
SK2582



第2582号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|-------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐 | ローム小C・粒C
粘B、締B |
| 2 | 10YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒C
粘B、締B |
| 3 | 10YR3/4 暗褐 | ローム小C・粒D
粘B、締B |

SK2589・2590



第2589・2590号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|----------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐 | ローム中D・小C・粒D
粘B、締B |
| 2 | 10YR3/4 暗褐 | ローム小D・粒C
粘B、締B |
| 3 | 10YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒D
粘B、締B |
| 4 | 10YR4/4 褐 | ローム小D・粒C
粘B、締B |

0 (1:60) 2m

第 67 図 奈良・平安時代のその他の土坑実測図(2)

第 38 表 奈良・平安時代土坑一覧 (第 66・67 図)

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	時 期	備 考
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
685	H 3 e6	N - 12° - E	楕円形	4.24 × 2.28	76	外頭	平坦	人為	砥石	8世紀後半	
918	I 3 a8	-	円形	1.24 × 1.20	24	外頭	平坦	人為	須恵器	7世紀末～ 8世紀前葉	本跡→SK1449・ 1457、SD104
1458	J 2 b5	N - 85° - E	長方形	2.21 × 1.07	20	外頭	平坦	自然		8世紀代	本跡→SK1449・ 1457
1523	J 2 h8	N - 52° - E	楕円形	0.59 × 0.51	16	外傾	皿状	人為	土師器	8世紀代	
1697	K 4 a9	N - 10° - W	楕円形	0.98 × 0.73	30	外傾／ 有段	平坦	人為	須恵器	9世紀代	
2020	J 4 b6	N - 78° - W	不整楕円形	2.25 × 1.75	12	外傾	平坦	人為	土師器 須恵器	平安時代	本跡→SD192・212、 SB37と重複
2040	I 4 j0	N - 84° - E	楕円形	0.64 × 0.54	36	外傾	平坦	人為	土師器	9世紀前半	

番号	位 置	長径(軸) 方向	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	時 期	備 考
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
2047	J 4 d5	N - 17° - W	[楕円形]	1.20 × (0.84)	34	外傾	平坦	自然	須恵器	8世紀代	本跡→SK2048・2076
2143	K 2 b3	N - 23° - E	[楕円形]	0.86 × (0.56)	15	外傾	平坦	自然	土師器	奈良時代	SI119→本跡→SD246
2149	G 3 i2	N - 65° - E	[楕円形]	(0.73) × 0.54	33	外傾	平坦	人為		平安時代カ	SK2150→本跡→SK2159
2150	G 3 i2	N - 23° - W	[楕円形]	0.47 × (0.35)	37	外傾	平坦	自然	土師器	平安時代カ	本跡→SK2149
2154	H 3 b2	-	円形	0.27 × 0.26	40	直立	皿状	自然	土師器	平安時代カ	
2157	H 3 a2	N - 12° - W	楕円形	0.58 × 0.47	36	外傾	平坦	自然	土師器	平安時代カ	
2171	H 3 d2	N - 73° - E	楕円形	0.75 × 0.53	13	外傾	平坦	自然	須恵器 砂岩製砥石	9世紀代	
2174	H 3 d1	-	円形	0.37 × 0.36	43	直立	平坦	自然	土師器	平安時代カ	
2182	H 3 e1	-	円形	0.40 × 0.37	72	直立	皿状	自然	須恵器	平安時代	
2355	I 3 c1	-	円形	0.98 × 0.96	45	直立	平坦	自然/人為	須恵器	8世紀代	本跡→SK2365
2445	H 2 f9	N - 69° - W	楕円形	0.46 × 0.37	55	直立	皿状	自然	土師器	奈良時代	
2460	I 2 a6	N - 12° - E	[長方形]	1.41 × (1.14)	75	直立	平坦	人為	土師器	平安時代カ	SI121→本跡→SD166
2471	I 2 b6	-	円形	0.88 × (0.81)	65	外傾	平坦	人為	土師器	平安時代カ	SI121→本跡→SD166
2582	I 2 c4	-	円形	0.26 × 0.26	33	直立/有段	皿状	自然	土師器	平安時代	
2589	I 2 f2	N - 46° - E	[楕円形]	(0.21) × 0.21	27	直立	皿状	自然		平安時代	本跡→SK2590
2590	I 2 f2	-	円形	0.25 × 0.23	25	直立	皿状	自然	須恵器	平安時代	SK2589→本跡
2813	G 2 h6	N - 20° - E	楕円形	2.50 × 1.41	48	外傾/有段	凹凸	人為	土師器 須恵器	8世紀後葉	
2842	H 2 a8	N - 13° - E	不整楕円形	0.42 × 0.33	36	直立/有段	皿状	自然	土師器 須恵器	8世紀代	

4 室町時代から江戸時代の遺構と遺物

掘立柱建物跡 17 棟、方形竪穴遺構 11 棟、地下式坑 24 基、段切状遺構 1 か所、整地遺構 4 か所、井戸跡 166 基、道路跡 1 条、溝跡・堀跡 182 条、柱穴列 10 条、炉跡 12 基、土坑墓 34 基、火葬施設 3 基、土坑 1,864 基、ピット群 50 か所を確認した。以下、遺構と遺物について掲載する。

(1) 掘立柱建物跡

第 1 号掘立柱建物跡 (第 68 図 PL16)

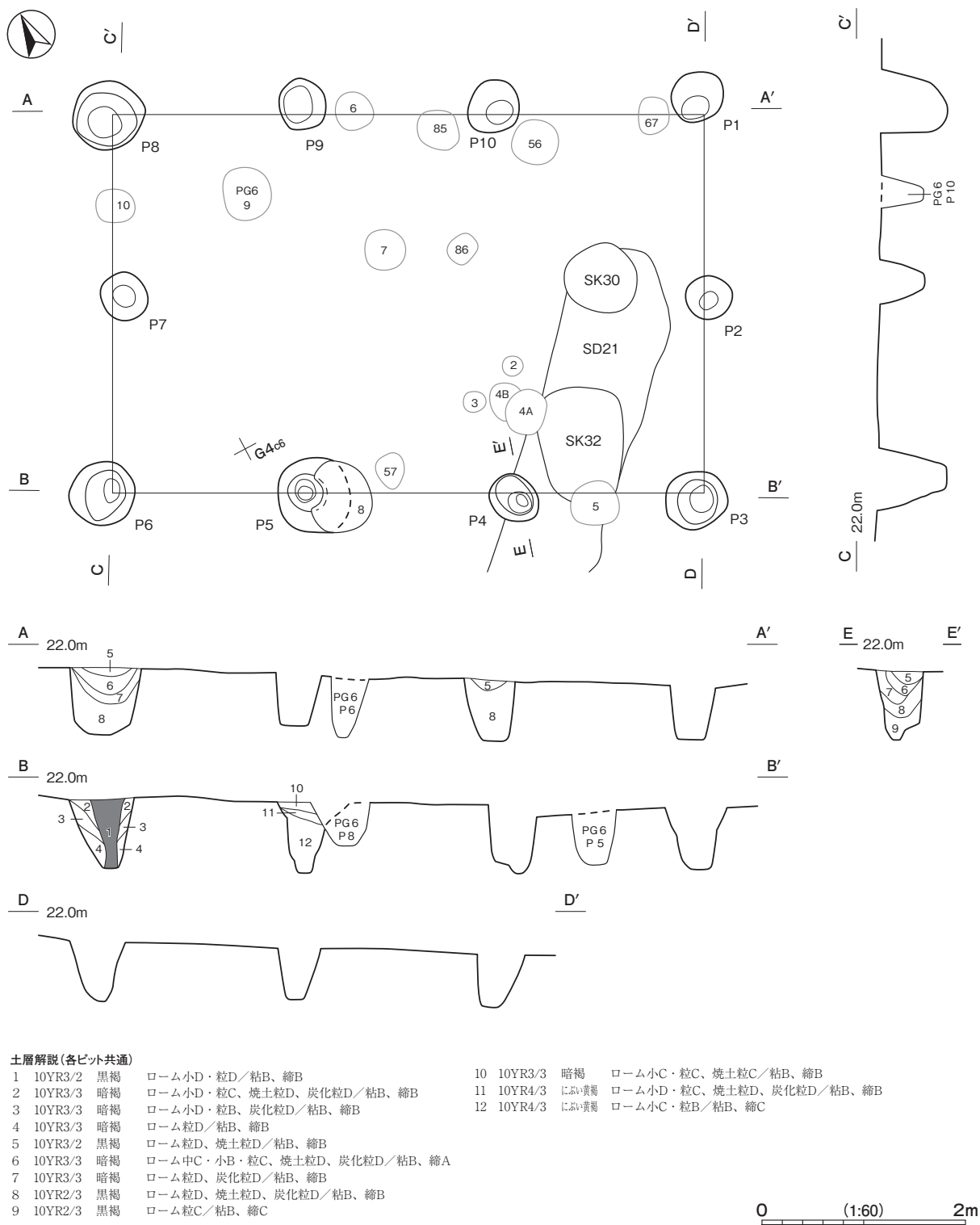
位置 調査区 A 区南部の G 4 b6 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6 号ピット群 P 8 に掘り込まれ、第 21 号溝跡を掘り込んでいる。本跡内に存在している第 6 号ピット群 P 1～P 7・P 9・P 10、第 30・32 号土坑との関係は、直接の重複がないため、不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向は N - 62° - W の東西棟である。規模は桁行約 5.80 m、梁行約 3.65 m で、面積は 21.17㎡である。柱間寸法は、南桁行が西から 1.80 m、2.10 m、1.80 m、北桁行が西から 1.95 m、2.00 m、2.00 m、東梁行が北から 1.80 m、1.95 m、西梁行が北から 1.80 m、1.90 m で、ほぼ等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 42～72cm、短径 38～48cm である。深さは 51～69cm で、掘方の断面形は U 字状や逆台形状である。P 6 の第 1 層は柱痕跡、第 2～4 層は、掘方の埋土である。また、P 4、P 5、P 8、P 10 の覆土は、第 5～12 層で周囲からの流入土である。

所見 時期は第 6 号ピット群との関係や第 13・17・19 号溝などの区画内に存在することから、16 世紀前半と考えられる。第 2 号掘立柱建物跡と規模や桁行方向が類似していることから、関連した建物の可能性がある。



第 68 図 第 1 号掘立柱建物跡実測図

第 2 号掘立柱建物跡 (第 69 図 PL16)

位置 調査区 A 区南部の G 4 e6 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

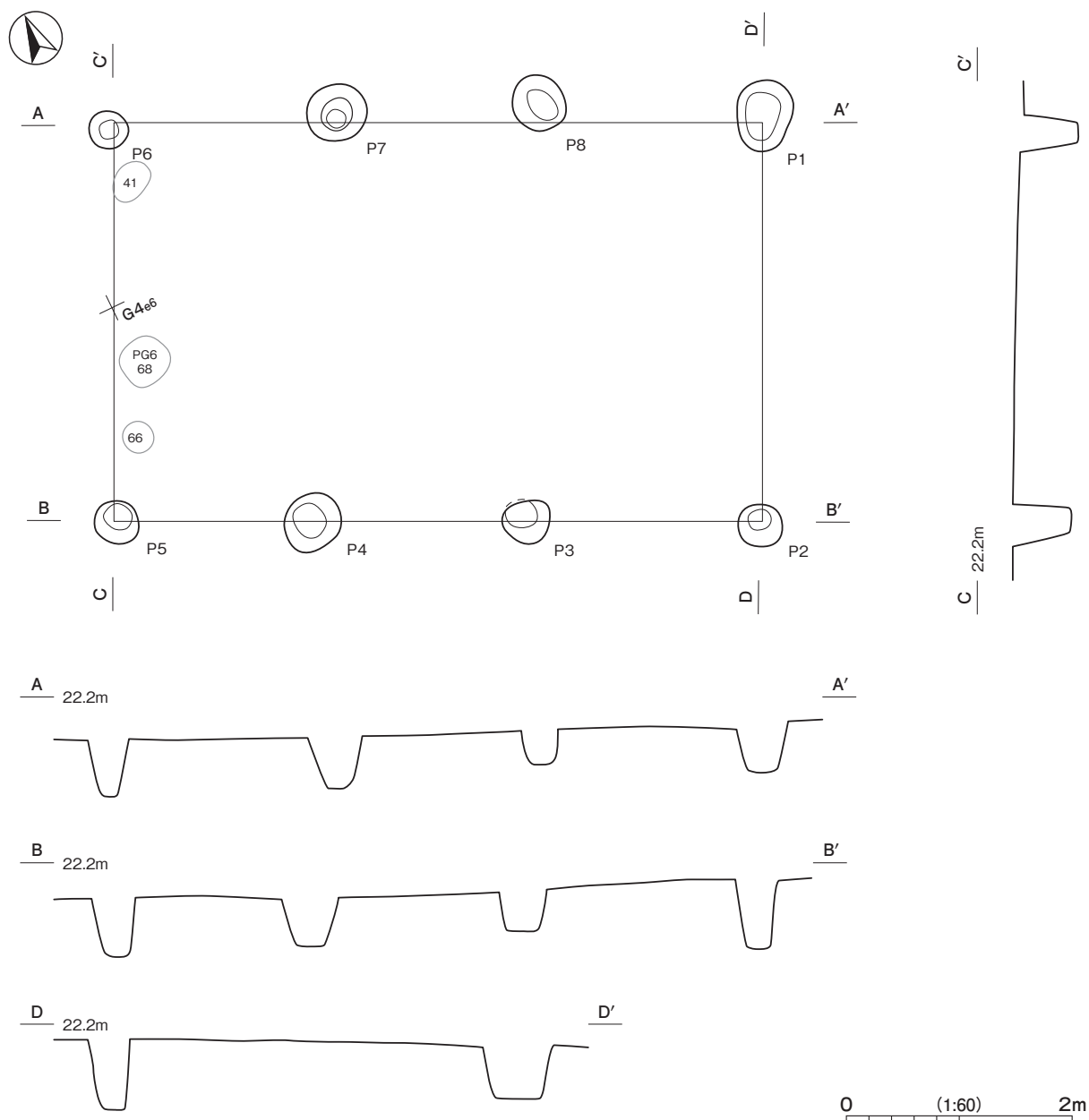
重複関係 本跡内に存在している第 6 号ピット群との関係は、直接の重複がないため、不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物で、桁行方向は N - 67° - W の東西棟である。規模は桁行約 5.75

m、梁行約 3.55 m で、面積は 20.41m²である。柱間寸法は、南桁行が西から 1.75 m、1.80 m、2.10 m、北桁行が西から 2.00 m、1.90 m、1.90 m、東梁行が北から 3.55 m、西梁行が北から 3.55 m で、ほぼ等間隔に配置され、柱筋は揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 34 ～ 61cm、短径 34 ～ 48cm である。深さは 22 ～ 64cm で、掘方の断面形は U 字状や逆台形状である。

所見 出土遺物はないが、第 13・17・19 号溝などの区画内に位置することから 16 世紀前半と考えられる。



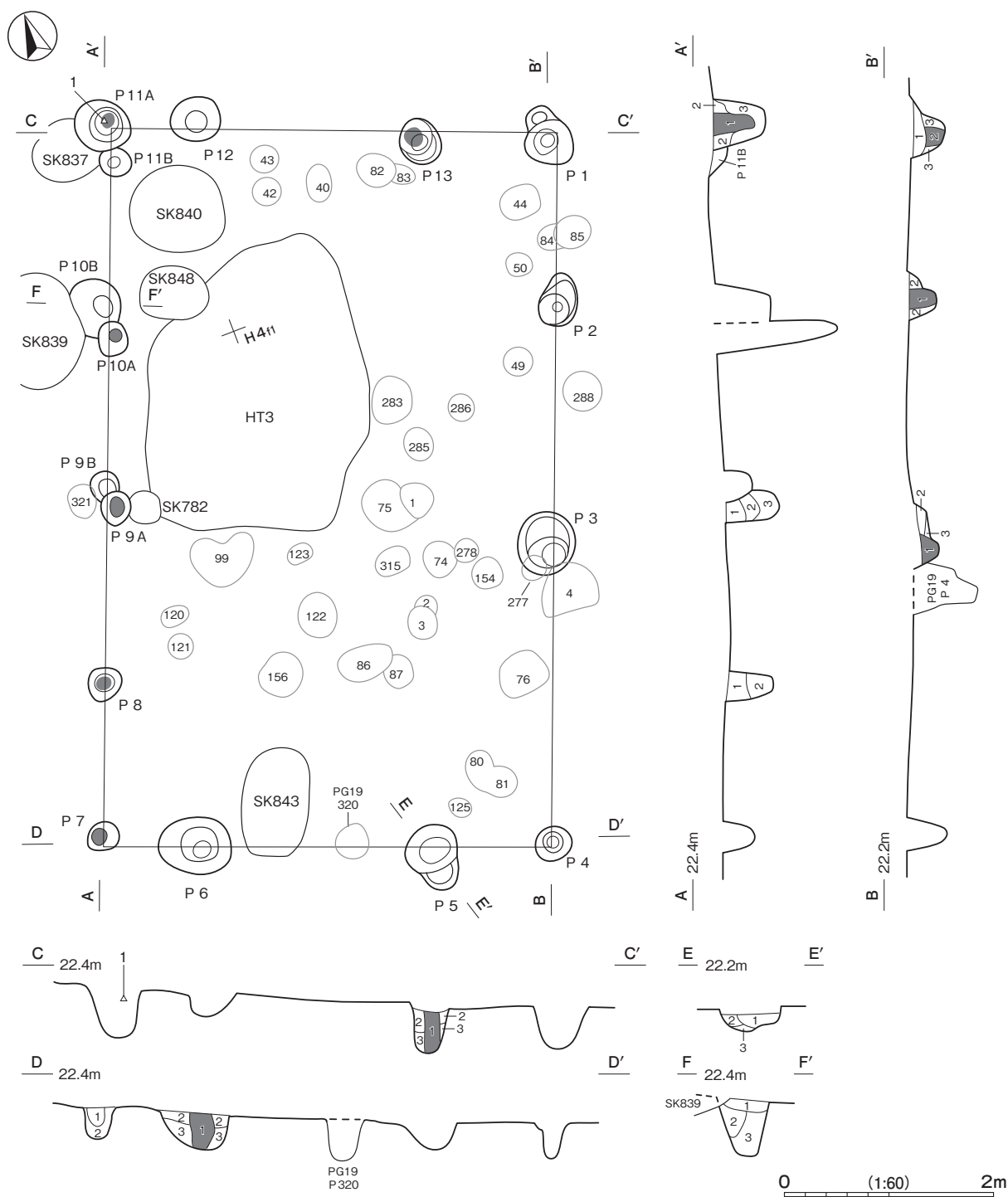
第 69 図 第 2 号掘立柱建物跡実測図

第 21 号掘立柱建物跡 (第 70・71 図 第 39 表)

位置 調査区 C 区北東部の H 4 f1 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 839 号土坑に掘り込まれ、第 837 号土坑を掘り込んでいる。第 3 号方形竪穴遺構、第 782・840・843・848 号土坑、第 19 号ピット群との関係は不明である。

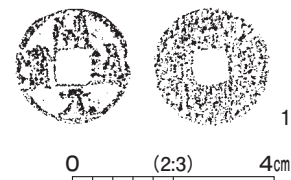
規模と構造 桁行 4 間、梁行 3 間の側柱建物で、桁行方向が $N - 21^{\circ} - E$ の南北棟である。規模は、桁行 6.80 m、梁行 4.23 m で、面積は 28.76 m^2 である。柱間寸法は、西桁行が北から 1.90 m、1.70 m、1.70 m、1.50 m、東桁



第 70 図 第 21 号掘立柱建物跡実測図

P1土層解説		
1	7.5YR4/3 褐	ローム中C・小A・粒A、炭化物粒D／粘C、縮A
2	7.5YR3/3 暗褐	ローム小D・粒D／粘C、縮A
3	7.5YR4/3 褐	ローム中C・小A・粒A／粘C、縮A
P2土層解説		
1	7.5YR3/3 暗褐	ローム中D・小D・粒D、焼土粒D、炭化物粒D／粘C、縮A
2	7.5YR4/3 褐	ローム大C・中A・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D／粘A、縮A
P3土層解説		
1	7.5YR3/1 黒褐	ローム中C・小C・粒A、灰白色粘土中C／粘C、縮B
2	7.5YR4/3 褐	ローム中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D／粘C、縮A
3	7.5YR5/6 明褐	ローム大C・中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D／粘B、縮A
P5・7・8・9A・10B土層解説		
1	7.5YR4/3 褐	ローム大C・中A・小A・粒A／粘B、縮B
2	7.5YR3/3 暗褐	ローム小A・粒A、灰白色粘土中C／粘A、縮A
3	7.5YR5/6 明褐	ローム中C・小A・粒A／粘B、縮A
P6土層解説		
1	7.5YR3/1 黒褐	ローム大C・中C・小A・粒A／粘C、縮C
2	7.5YR3/3 暗褐	ローム大C・中A・小A・粒A／粘C、縮A
3	7.5YR5/6 明褐	ローム大B・中A・小A・粒A／粘C、縮A

P11A土層解説		
1	7.5YR3/3 暗褐	ローム粒D、焼土粒D、炭化物粒D／粘C、縮C
2	7.5YR4/3 褐	ローム中C・小A・粒A／粘C、縮A
3	7.5YR3/3 暗褐	ローム大C・中A・小A・粒A／粘C、縮A
P13土層解説		
1	7.5YR3/3 暗褐	ローム小D・粒A、炭化物粒D／粘C、縮C
2	7.5YR4/3 褐	ローム小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D／粘C、縮A
3	7.5YR5/6 暗褐	ローム大C・中A・小A・粒A／粘C、縮A



第 71 図 第 21 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

行が北から 1.70 m、2.40 m、2.70 m で、梁行は北梁行が西から 0.90 m、2.00 m、1.33 m、南梁行が西から 0.90 m、2.10 m、1.23 m である。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 13 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 30 ～ 68cm、短径 26 ～ 55cm、深さ 20 ～ 115cm である。P 9 ～ P 11 は、2 基のピットが重複しており、それぞれを A・B とした。P 9 A・P10A・P11A が P 9 B・P10B・P11B を掘り込んでおり、建て替えが考えられる。覆土は P 1 が第 1 層が柱抜き取り後の流入土、第 2 層が柱痕跡、第 3 層が掘方への埋土である。P 2 は第 1 層が柱痕跡、第 2 層が掘方への埋土である。P 3・P 6・P11A・P13 は第 1 層が柱痕跡、第 2・3 層が掘方への埋土である。P 5・P 7～P10A は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P 7～P 9 A・P10A・P11A・P13 の底面で、径 10 ～ 15cm の円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 P11A の覆土上層から銭貨 1 点（開元通寶）が、P13 の覆土中層から鉄滓 1 点（55.33 g）が、それぞれ出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、須恵器片 1 点が、P 6 の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物が少ないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16 世紀～17 世紀前葉と推定できる。

第 39 表 第 21 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 71 図）

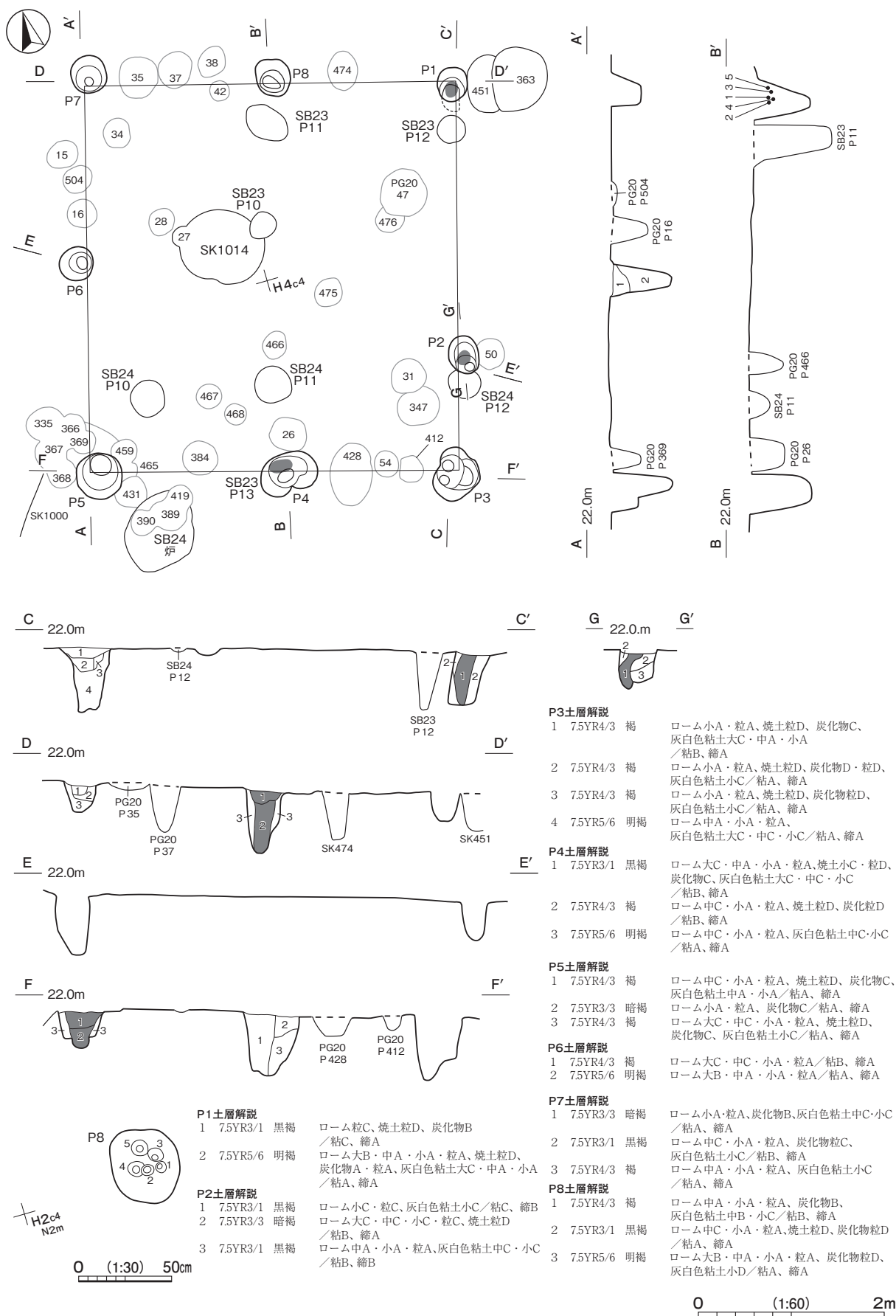
番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
1	開元通寶	2.3	0.7	0.1	2.09	銅	621	渡来銭	P11 覆土上層	

第 22 号掘立柱建物跡（第 72・73 図 第 40 表 PL16・57）

位置 調査区 C 区北東部の H 4 c4 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 23・24 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第 1000・1014 号土坑、第 20 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N - 16° - E の南北棟である。規模は、桁行 4.20 m、梁行 4.00 m で、面積は 16.80㎡ である。柱間寸法は、西桁行が北から 1.98 m、2.22 m、東桁行が北から 3.00 m、



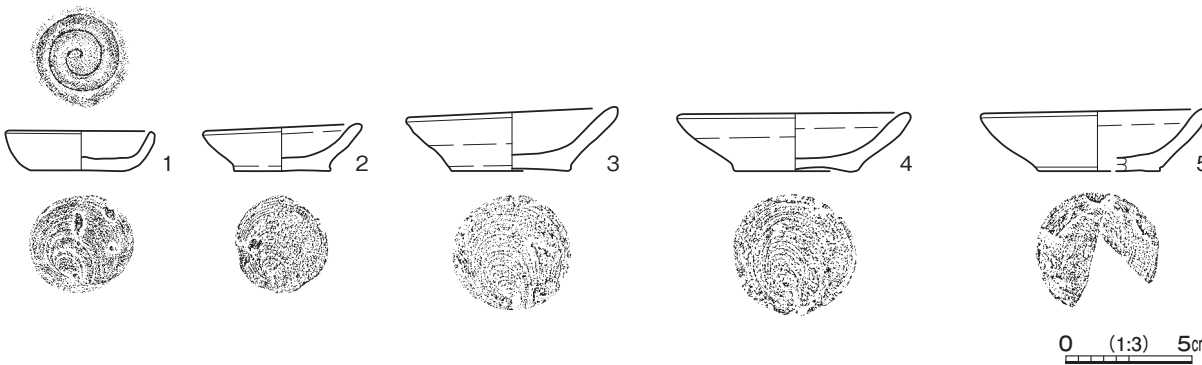
第 72 図 第 22 号掘立柱建物跡実測図

1.20 mで、梁行は北梁行が西から2.00 m、2.00 m、南梁行が西から2.10 m、1.90 mである。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 8か所。平面形は円形や楕円形で、長径38～50cm、短径32～50cm、深さ34～70cmである。覆土はP1・P2・P4の第1層が柱痕跡、第2・3層が掘方への埋土である。P5・P8は、第1・2層が柱痕跡、第3層が掘方への埋土である。P3・P6・P7は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P1・P2・P4の底面で、径10～15cmの円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器9点(皿)が、P1・P3～P5・P8の覆土から出土している。ほかに混入した須恵器片1点が出土している。1～5はP8の覆土上層に正位で置かれたような状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。P8の土師質土器皿の出土状況は、建物の廃絶に関わる祭祀の可能性はある。



第73図 第22号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第40表 第22号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	5.9	1.5	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面渦状の強いナデ	P8 覆土上層	100% PL57
2	土師質土器	皿	6.4	1.8	3.8	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P8 覆土上層	100% PL57
3	土師質土器	皿	8.3	2.5	4.6	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P8 覆土上層	100% PL57
4	土師質土器	皿	9.3	2.3	4.9	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P8 覆土上層	100% PL57
5	土師質土器	皿	9.1	2.5	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P8 覆土上層	80%

第23号掘立柱建物跡(第74・75図 第41表 PL16)

位置 調査区C区北東部のH4c5区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

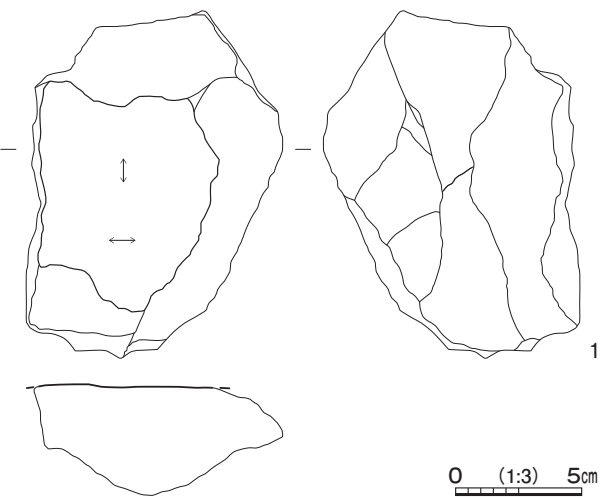
重複関係 第22号掘立柱建物に掘り込まれている。第24号掘立柱建物跡、第1014号土坑、第20号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物で、桁行方向がN-73°-Wの東西棟である。規模は、桁行7.30m、梁行3.64mで、面積は26.57㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から1.78m、1.98m、1.94m、1.60m、南桁行が西から1.94m、1.88m、2.32m、1.16mで、梁行は西梁行が北から1.10m、1.22m、1.32m、東梁行が北から0.90m、0.92m、1.82mである。柱筋はP9・P10がやや西にずれるもののほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 14 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 28 ～ 50cm、短径 26 ～ 42cm、深さ 32 ～ 91cm である。覆土は P 1 ～ P 3・P 5・P 6 の第 1 層が柱痕跡、第 2・3 層が掘方への埋土である。P 4・P 9・P11 ～ P 14 は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P 1 ～ P 3・P 7・P 8・P11・P 13・P 14 の底面で、径 10 ～ 15cm の円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 P 2 の覆土から砥石 1 点（砂岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点が P 3 の覆土から出土している。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16 世紀後半と推定できる。



第 75 図 第 23 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 41 表 第 23 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 75 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	砥石	(13.8)	(10.2)	(4.4)	(710.28)	砂岩	砥面 1 面 2 方向の研磨痕	P 3 覆土	60%

第 24 号掘立柱建物跡（第 76 図 第 42 表 PL16・57）

位置 調査区 C 区北東部の H 4 d4 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1023 号土坑を掘り込み、第 22 号掘立柱建物に掘り込まれている。第 23 号掘立柱建物跡、第 1000・1001 号土坑、第 20 号ピット群との関係は不明である。

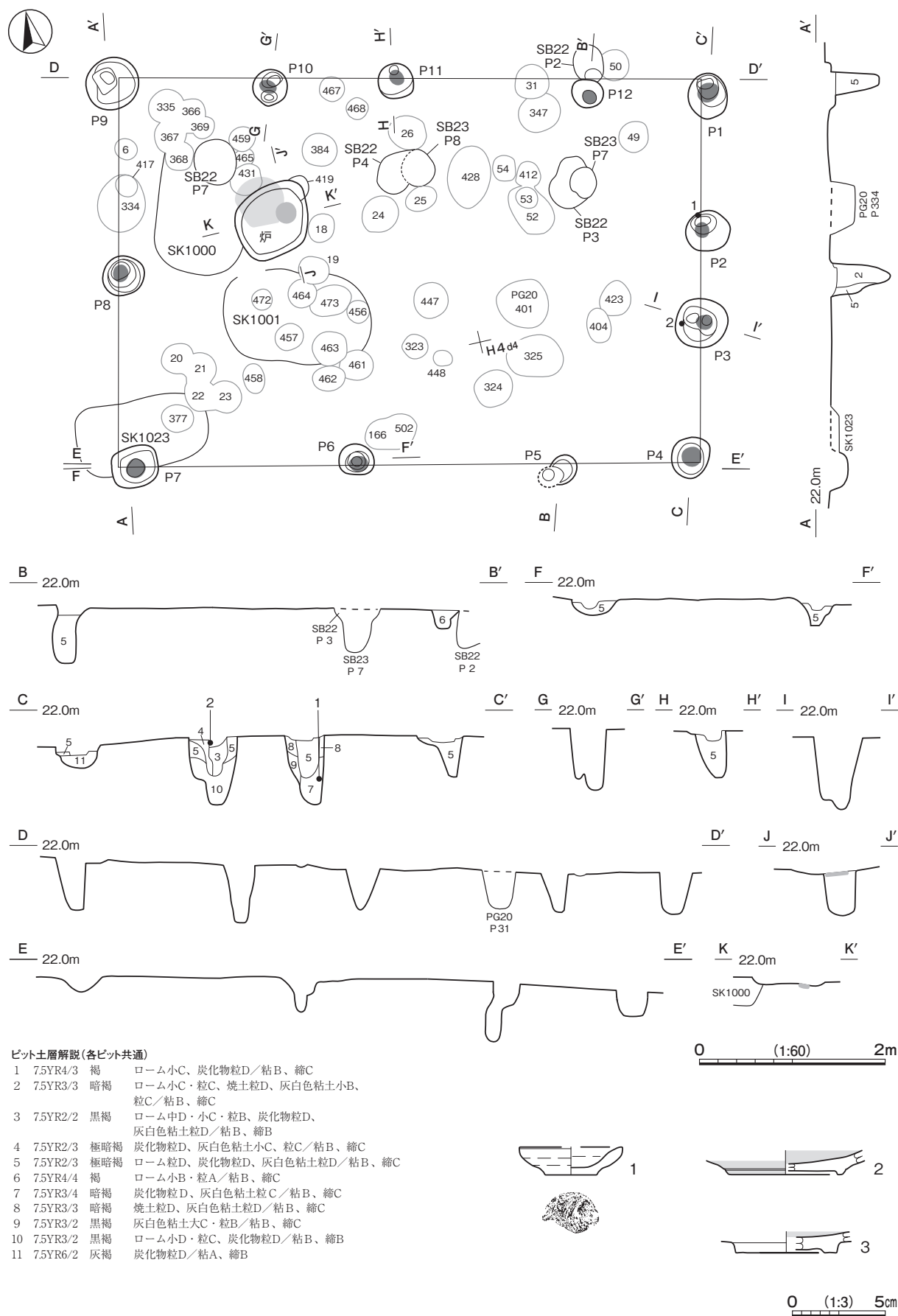
規模と構造 桁行 4 間、梁行 3 間の側柱建物で、桁行方向が N - 77° - W の東西棟である。規模は、桁行 6.28 m、梁行 4.14 m で、面積は 25.99㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から 1.60 m、1.40 m、2.10 m、1.18 m、南桁行が西から 2.60 m、2.20 m、1.48 m で、梁行は西梁行が北から 2.10 m、2.04 m、東梁行が北から 1.60 m、1.00 m、1.54 m である。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

炉 中央やや西寄りに位置している。長径 92cm、短径 80cm の楕円形で、深さ 10cm ほどの地床炉である。炉床面は東部の一部が赤変硬化している。また、掘方中央部から北に径 50cm の範囲で、焼土が分布している。

柱穴 12 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 38 ～ 58cm、短径 28 ～ 55cm、深さ 18 ～ 78cm である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P 1 ～ P 4・P 6 ～ P 8・P10 ～ P 12 の底面で、径 10 ～ 15cm の円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（皿 3、内耳鍋 1）、陶器片 2 点（皿）が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点が出土している。1 は P 2 の覆土下層から、2 は P 3 の覆土上層から、3 は P 3 の覆土から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物と重複関係から、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。



第 76 図 第 24 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 42 表 第 24 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 76 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[5.6]	1.5	[2.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P 2 覆土下層	50% PL57

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	皿	－	(1.3)	[6.2]	長石 灰白	底部削り出し 釉漬け掛け	長石釉	瀬戸・美濃	P 3 覆土上層	20%
3	陶器	皿	－	(1.1)	[5.6]	長石 暗灰黄	底部削り出し 内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	P 3 覆土	10%

第 26 号掘立柱建物跡（第 77・78 図 第 43 表 PL57）

位置 調査区 C 区北東部の H 4 g3 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 27 号掘立柱建物跡、第 19 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N - 24° - E の南北棟である。規模は、桁行 4.72 m、梁行 5.08 m で、面積は 23.97 m² である。柱間寸法は、西桁行が北から 2.00 m、1.70 m、1.02 m、東桁行が北から 1.18 m、1.46 m、2.08 m で、梁行は北梁行が西から 2.60 m、2.48 m、南梁行が西から 2.50 m、2.58 m である。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

炉 2 か所。炉 1 は北西コーナー部付近に位置している。長径 108cm、短径 90cm の楕円形で、深さ 15cm ほどの地床炉である。火床面は第 1 層上面で、赤変硬化している。炉 2 は、北部中央に位置している。長径 150cm、短径 72cm の楕円形で、深さ 15cm の地床炉である。火床面は第 1 層上面で、赤変硬化している。

柱穴 10 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 45～66cm、短径 44～62cm、深さ 28～70cm である。覆土は、P 7・P 8 の第 1 層が柱痕跡、第 2～5 層が掘方の埋土である。それ以外は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。P 1・P 3・P 4・P 7～P 10 の底面で、径 10～15cm の円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片 13 点（皿 4、挿鉢 1、内耳鍋 8）、陶器片 1 点（碗）、土製品 1 点（焼成粘土塊・9.20 g）、石器 1 点（砥石）、金属製品 1 点（煙管）、銭貨 1 点（不明）が出土している。1 は炉の北西部の床面から、2・3・6・8 は炉 1 の掘方から、4 は P 2 の覆土上層から、5 は P 3 の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。

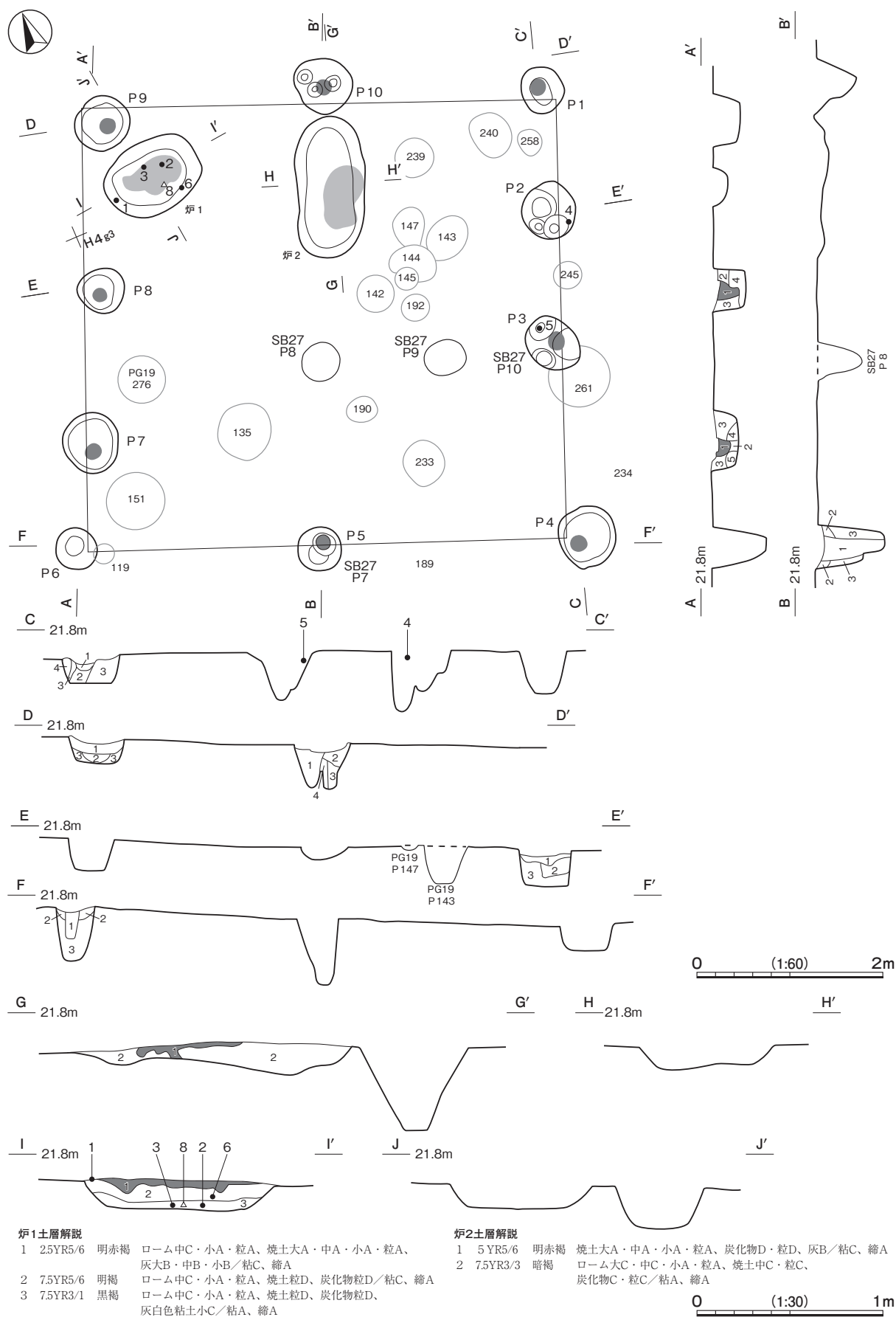
第 43 表 第 26 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 78 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.4	1.8	3.8	長石・石英	にぶい褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	北西部 床面	100% PL57
2	土師質土器	皿	[7.0]	1.8	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	炉 1 掘方埋土	50% 煤付着
3	土師質土器	皿	[8.8]	(3.0)	(4.0)	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ	炉 1 掘方埋土	20%
4	土師質土器	皿	－	(1.3)	3.7	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P 2 覆土上層	20%
6	土師質土器	内耳鍋	－	(5.5)	－	長石・石英・細礫	橙	普通	外面縦位ナデ 内面横位ナデ	炉 1 掘方埋土	5 %

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
5	陶器	碗	－	(2.1)	[3.0]	長石 淡黄	高台削り出し 漬け掛け	長石釉	瀬戸・美濃	P 3 覆土上層	20% PL57

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
7	砥石	(6.0)	(4.7)	1.0	(44.76)	粘板岩	研磨面 3 面 裏面剥離後刃物痕	覆土	60%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
8	煙管	(3.2)	(1.0)	(1.0)	(2.27)	銅	鴈首部カ	炉 1 掘方埋土	30%



第 77 図 第 26 号掘立柱建物跡実測図

P2土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土中C・小C／粘A、締A
- 2 7.5YR3/3 暗褐 焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土中D・小D／粘A、締A
- 3 7.5YR8/1 灰白 ローム大C・中C・小A・粒A、灰白色粘土大B・中B／粘A、締A

P4土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム粒A、焼土粒D、炭化物粒D／粘A、締A
- 2 7.5YR4/3 褐 ローム小A・粒A、灰白色粘土中C・小C／粘A、締A
- 3 7.5YR5/6 明褐 ローム小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D／粘A、締A
- 4 7.5YR8/1 灰白 ローム大C・中A・小A・粒A、灰白色粘土大A・中A・小A／粘A、締A

P5土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム小D・粒D、灰白色粘土小C／粘A、締A
- 2 7.5YR5/6 明褐 ローム小A・粒A／粘A、締A
- 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム大C・中C・小A・粒A／粘A、締A

P6土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム小C・粒C、灰白色粘土大C・中C・小C／粘A、締A
- 2 7.5YR5/6 明褐 ローム大C・中A・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒C、灰白色粘土小C／粘A、締A
- 3 7.5YR8/1 灰白 灰白色粘土大B・中B・小B／粘A、締A

P7土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム粒C、灰白色粘土小C／粘C、締A
- 2 7.5YR4/3 褐 ローム中C・小A・粒A／粘A、締A
- 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム大C・中C・小A・粒A、灰白色粘土小C／粘C、締A
- 4 7.5YR4/3 褐 ローム中C・小A・粒A／粘A、締A
- 5 7.5YR5/6 明褐 ローム大B・中A・小A・粒A／粘A、締A

P8土層解説

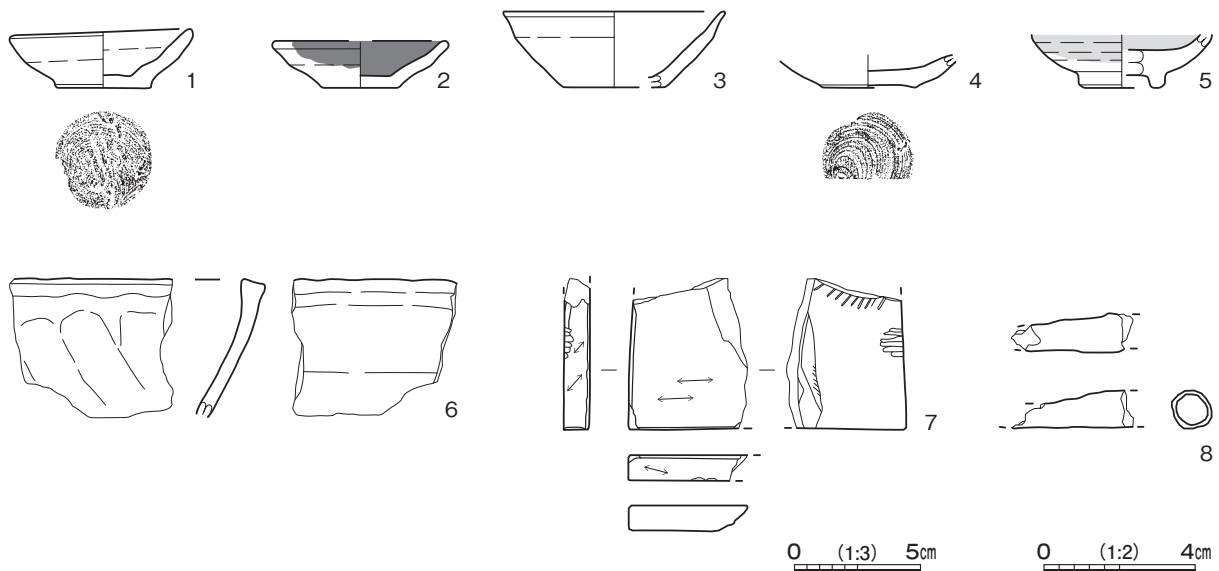
- 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土小C／粘C、締A
- 2 7.5YR5/6 明褐 ローム大C・中A・小A・粒A、灰白色粘土中C・小C／粘A、締A
- 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム大C・中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒C／粘C、締A
- 4 7.5YR5/6 明褐 ローム大C・中A・小A・粒A、灰白色粘土中C・小C／粘A、締A

P9土層解説

- 1 7.5YR3/3 暗褐 ローム小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D、黒色土大C／粘A、締A
- 2 7.5YR4/3 褐 ローム粒A、炭化物粒D、灰白色粘土小C／粘A、締A
- 3 7.5YR5/6 明褐 ローム中A・小A・粒A、灰白色粘土中C・小C／粘C、締A

P10土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化物粒D、灰白色粘土大C・中C・小C／粘B、締A
- 2 7.5YR4/3 褐 ローム中C・小A・粒A、灰白色粘土中C・小C／粘A、締A
- 3 7.5YR3/1 黒褐 ローム中C・小A・粒A、灰白色粘土小C／粘A、締A
- 4 7.5YR5/6 明褐 ローム小A・粒A、灰白色粘土中A・小A／粘A、締A



第 78 図 第 26 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 27 号掘立柱建物跡 (第 79 図 第 44 表 PL16)

位置 調査区 C 区北東部の H 4 h3 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

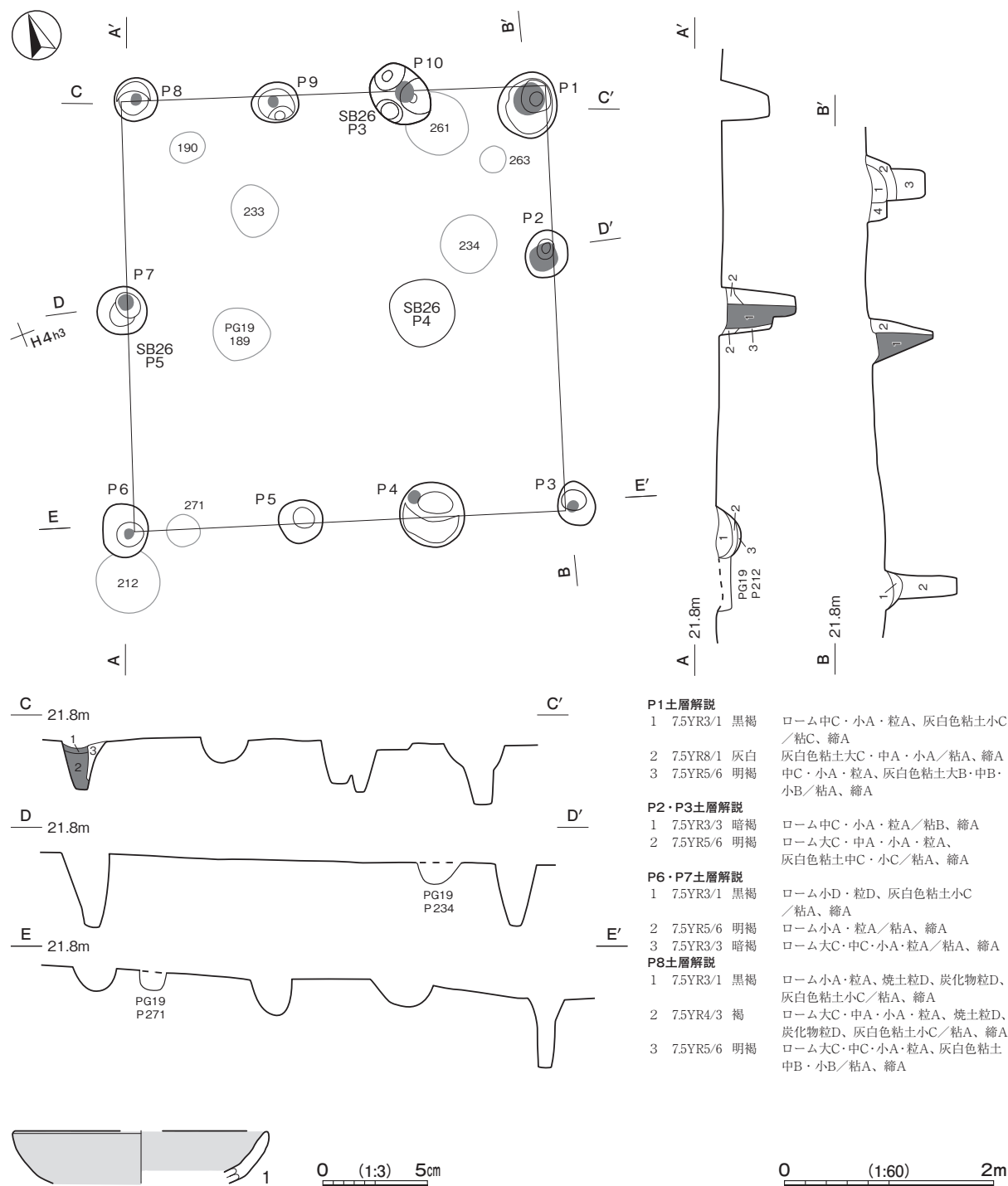
重複関係 第 26 号掘立柱建物跡、第 19 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 3 間の側柱建物で、桁行方向が N - 19° - E の南北棟である。規模は、桁行 4.04 m、梁行 4.10 m で、面積は 16.56 m² である。柱間寸法は、西桁行が北から 1.94 m、2.10 m、東桁行が北から 1.60 m、2.44 m で、梁行は北梁行が西から 1.50 m、1.20 m、1.40 m、南梁行が西から 1.60 m、1.10 m、1.40 m である。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 10 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 42 ~ 63 cm、短径 36 ~ 62 cm、深さ 25 ~ 70 cm である。覆土は、P 2 の第 1 層が柱痕跡、第 2 層が掘方への埋土、P 7 の第 1 層が柱痕跡、第 2・3 層が掘方への埋土、P 8 の第 1・2 層が柱痕跡、第 3 層が掘方への埋土である。ほかはいずれも、柱抜き取り後の流入土である。P 1 ~ P 4・P 6 ~ P 10 の底面で、径 10 ~ 15 cm の円形の柱あたりと考えられる硬化部分を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片 7 点（内耳鍋）、陶器片 1 点（皿）が出土している。1 は P 3 の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から、17 世紀前葉と推定される。



第 79 図 第 27 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 44 表 第 27 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 79 図）

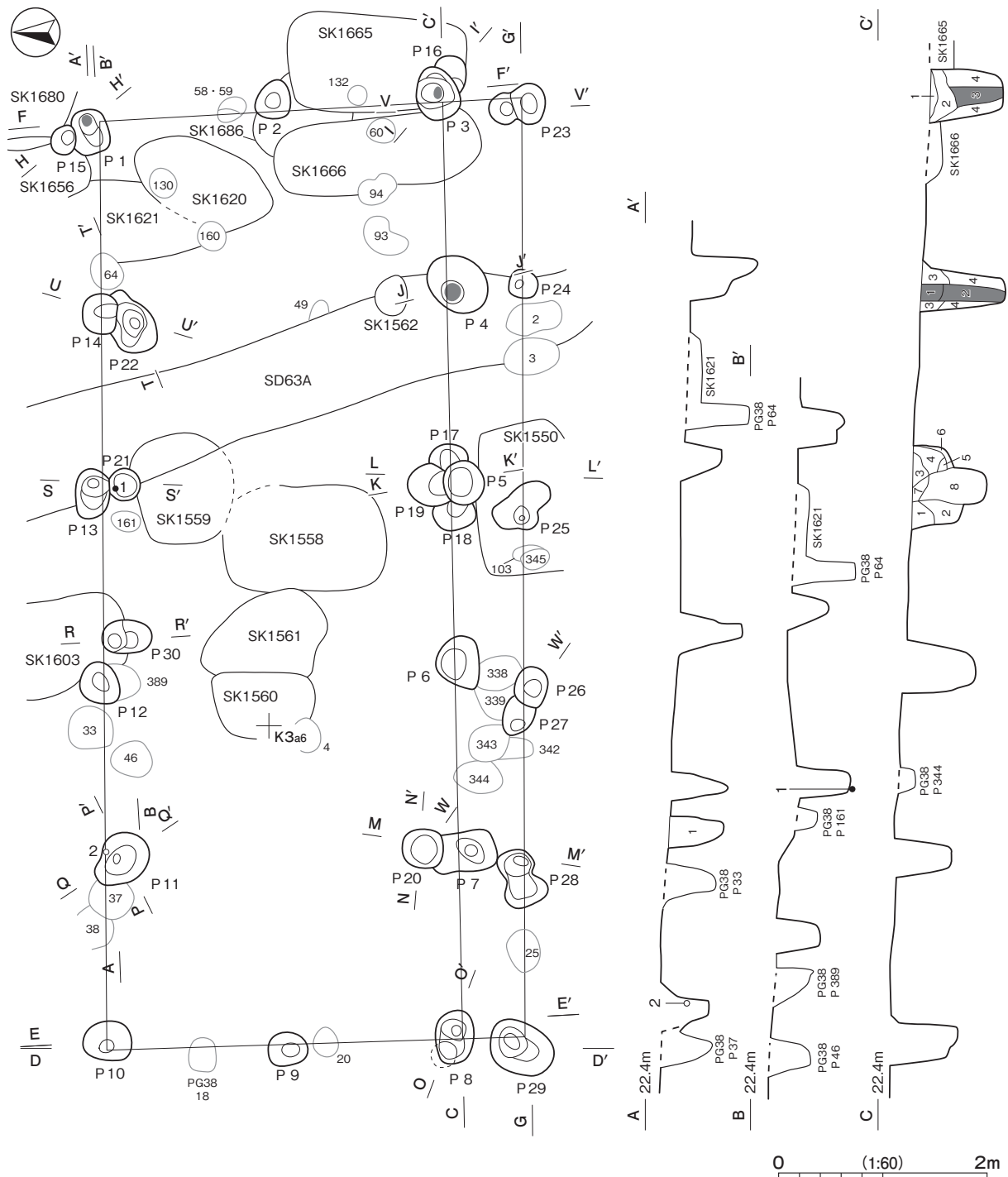
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	皿	[12.0]	(25)	—	長石 浅黄	内外面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	P 3 覆土	10%

第31号掘立柱建物跡 (第80～82図 第45表 PL16・57)

位置 調査区C区南部のJ3j6区、標高22mほどの台地平坦部から緩斜面部に位置している。

重複関係 第1603・1656号土坑、第63A号溝跡を掘り込んでいる。第1550・1558～1562・1620・1621・1665・1666・1680・1686号土坑、第38号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の身舎の南側に庇が付く側柱建物で、桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は、身舎が桁行8.94m、梁行3.42mで、面積は30.57㎡である。庇は南側に0.74mほど出ている。庇を含めた桁行は8.94m、梁行は4.12mで、面積は36.83㎡である。身舎の柱間寸法は、北桁行が西から1.82m、1.70m、1.90m、1.70m、1.82m、南桁行が西から1.82m、1.80m、1.74m、1.80m、1.78mで、梁行は東西



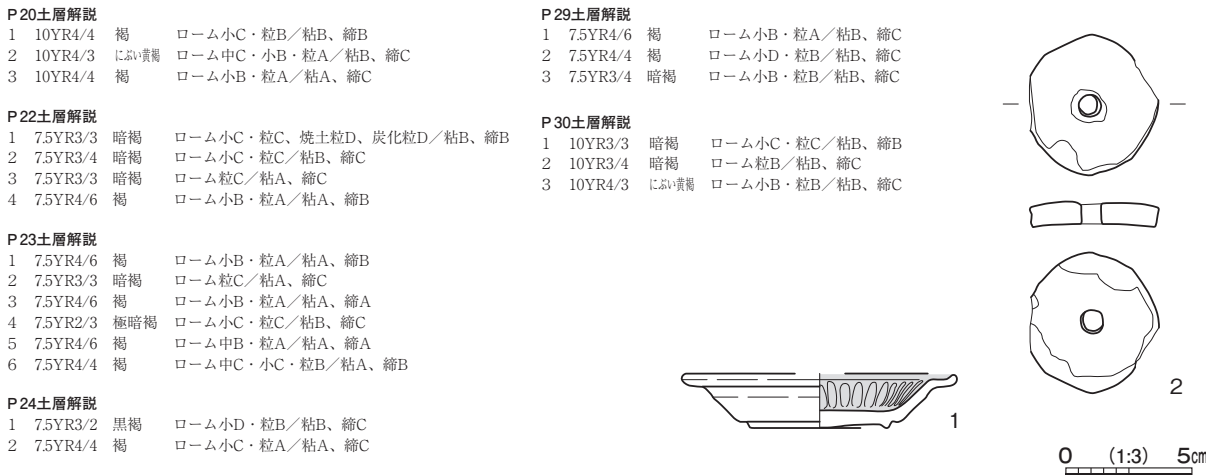
第80図 第31号掘立柱建物跡実測図(1)

ともが北から 1.77 m、1.65 mである。柱筋はほぼ揃っている。庇の柱間寸法は、西から 1.65 m、1.70 m、1.90 m、1.94 m、1.75 mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 30 か所。P 1 ～ P14 は身舎の柱穴である。平面形は円形や楕円形で、長径 40 ～ 65cm、短径 34 ～ 50cm、深さ 40 ～ 83cm である。P 1 ・ P 3 ・ P 5 ・ P 7 ・ P12 ～ P14 は P15 ～ P22 と重複しており、建て替えるに伴うピットの可能性がある。P23 ～ P29 は庇の柱穴である。平面形は円形や楕円形で、長径 26 ～ 68cm、短径 26 ～ 50cm、深さ 42 ～ 88cm である。覆土は、P 1 ・ P 3 の第 1 ・ 2 層は柱抜き取り後の流入土、第 3 層は柱痕跡、第 4 層は掘方への埋土、P 2 ・ P 4 の第 1 ・ 2 層は柱痕跡、第 3 ・ 4 層は掘方への埋土である。他はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（内耳鍋）、陶器片 1 点（折縁皿）、土製品 1 点（紡錘車）、鉄製品 1 点（不明）が P 7 ・ P11 ・ P21 から出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、須恵器片 1 点が出土している。1 は P21 の覆土下層から、2 は P11 の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、16 世紀後半と考えられる。



第 82 図 第 31 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 45 表 第 31 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 82 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	折縁皿	[10.6]	2.1	5.4	長石 淡黄	ロクロ成形 底部外面削り出し 内面ソギ・内禿	灰釉	瀬戸	P21 覆土下層	50% PL57

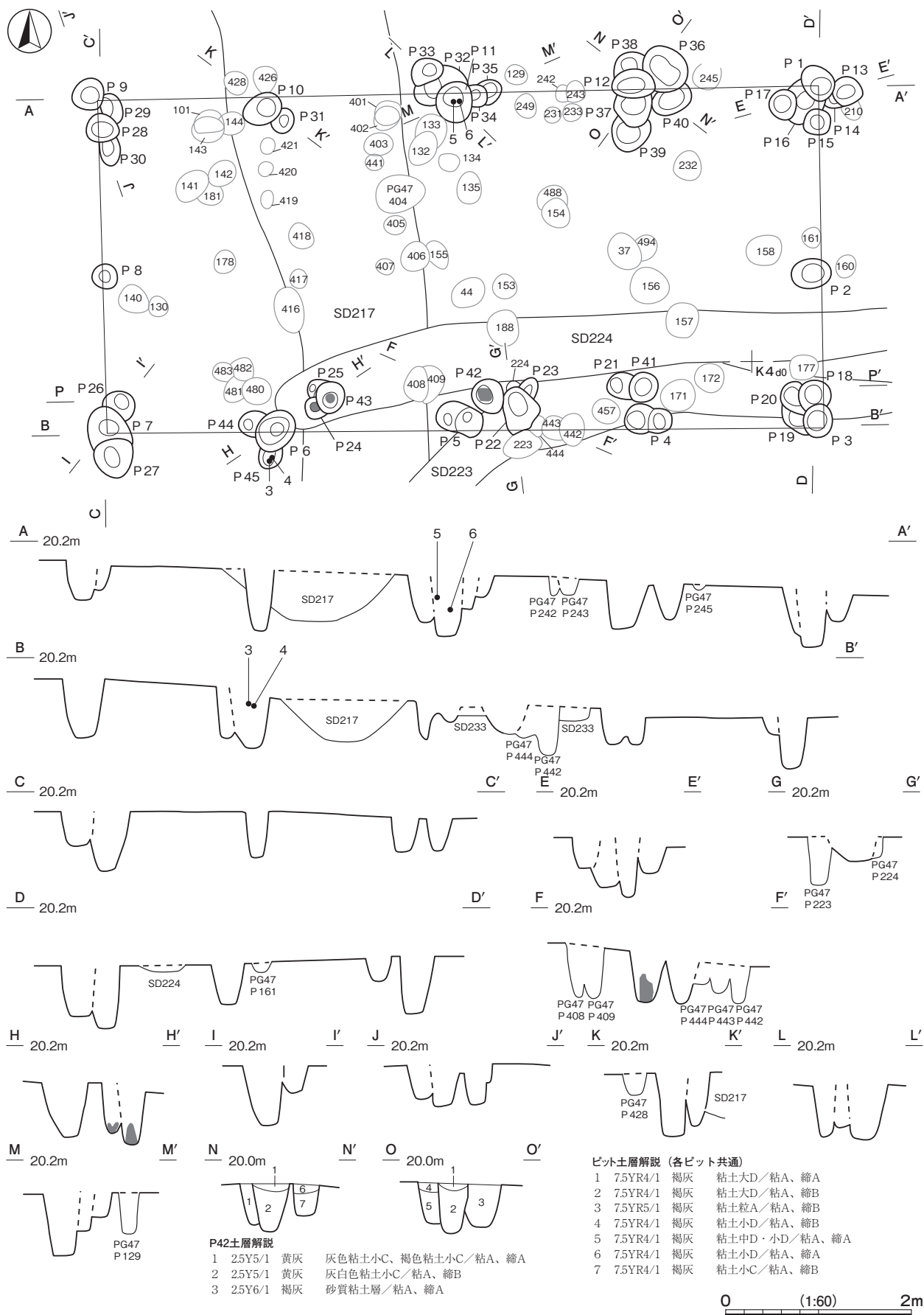
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
2	紡錘車	5.6	5.1	1.0	(33.13)	長石・石英・雲母	灰褐	土師質土器内耳鍋片再利用 周縁打ち欠き・研磨裏面からの穿孔	P11 覆土中層	100% PL57

第 32 号掘立柱建物跡（第 83・84 図 第 46 表 PL57）

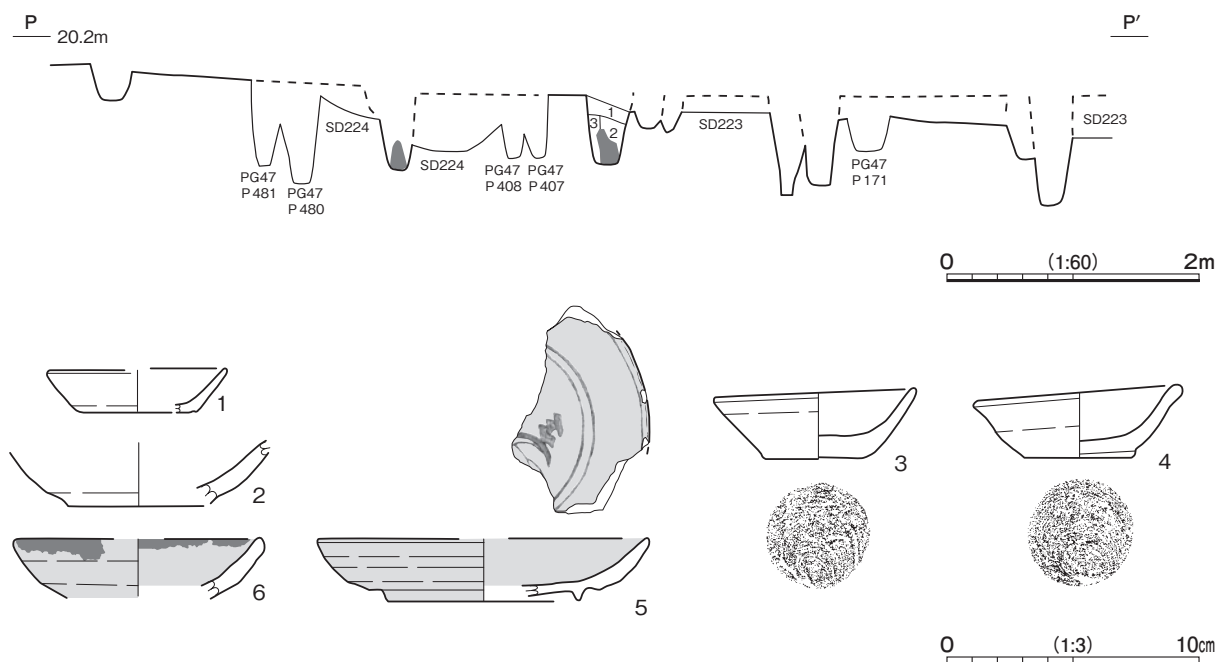
位置 調査区 C 区南東部の K 4 c8 区、標高 20 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 217・223・224 号溝、第 47 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 4 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N - 89° - E の東西棟である。規模は、桁行 7.76 m、梁行 3.60 m で、面積は 27.94㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から 1.82 m、2.00 m、1.90 m、2.04 m、南桁行が西から 1.84 m、2.06 m、1.90 m、1.96 m で、梁行は西梁行が北から 1.90 m、1.70 m、東梁行が北から 2.00 m、



第 83 図 第 32 号掘立柱建物跡実測図



第 84 図 第 32 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

1.60 mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 28 ～ 50cm、短径 26 ～ 46cm、深さ 36 ～ 68cm である。P 2・P 8を除き、いずれも 3 ～ 6 基の複数のピットと重複しており、それらを P13 ～ P45 とした。それぞれの重複関係は捉えることができなかったが、複数回の建て替えなどが考えられる。覆土は、P42 の第 1 層は柱抜き取り後の流入土、第 2 層は柱痕跡、第 3 層は掘方への埋土である。P12・P36 ～ P38・P40 は柱抜き取り後の流入土である。P24・P42・P43 の底面には、一辺 25 ～ 30cm の角材が残存している。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（皿 3、鍋 1）、陶器片 2 点（皿）が出土している。1 は P11、2 は P13 の覆土から、3 は P45 の覆土上層から、4 は P45 の覆土中層から、5・6 は P11 の覆土中層から、それぞれ出土している。

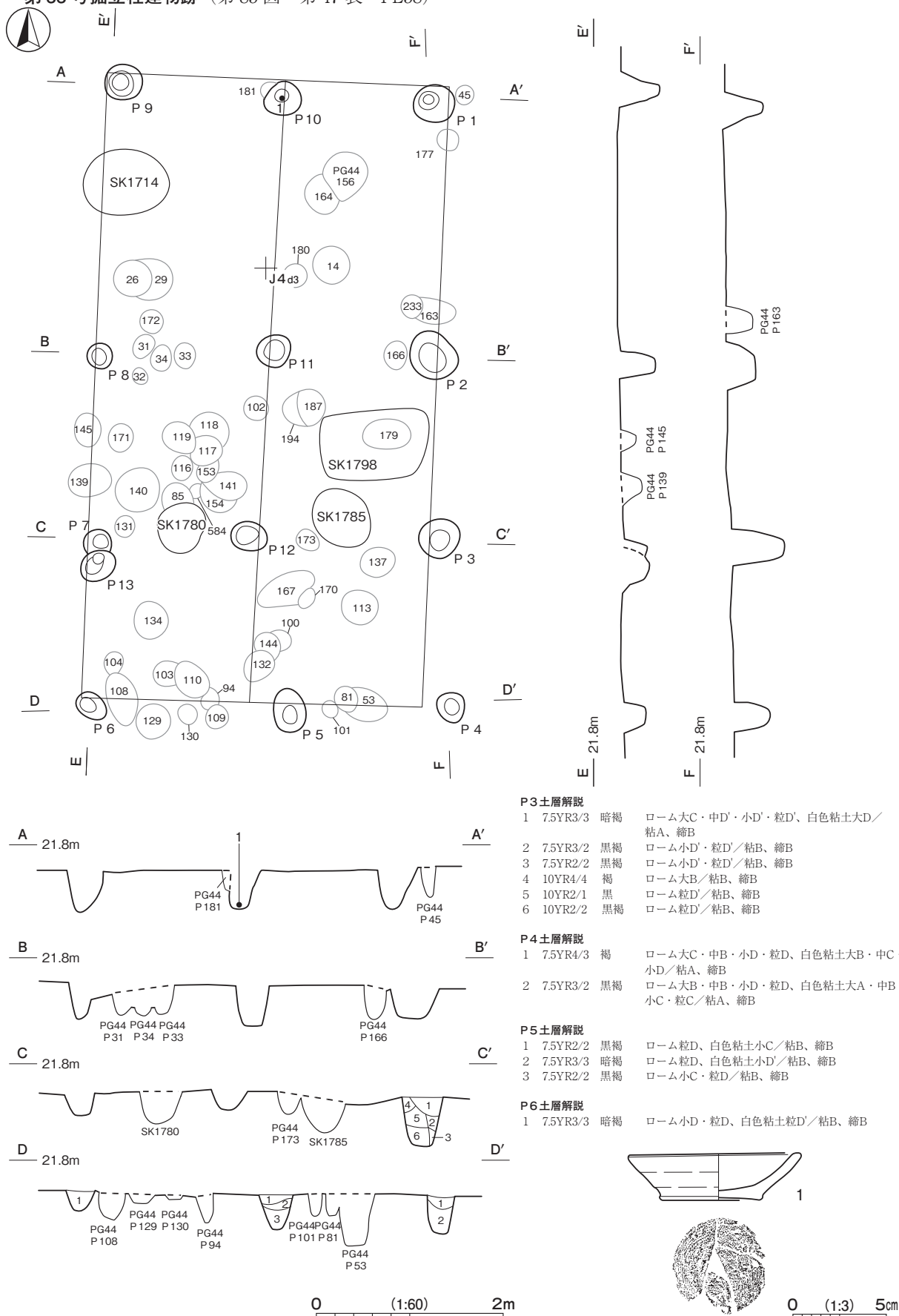
所見 時期は、出土土器から、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。

第 46 表 第 32 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 84 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[7.1]	1.7	[4.5]	長石・石英	明赤褐	普通	ロクロナデ	P11 覆土	5%
2	土師質土器	皿	—	(2.6)	[5.7]	長石・石英・赤 色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	P13 覆土	5%
3	土師質土器	皿	7.9	2.8	3.9	長石・石英	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	P45 覆土上層	100% PL57
4	土師質土器	皿	8.3	2.9	4.2	長石・石英	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	P45 覆土中層	95% PL57

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
5	陶器	鉄絵皿	[13.0]	2.5	[7.6]	緻密・淡黄	ロクロ成形 底部削り出し 内面鉄 絵 草花文カ	長石釉 鉄釉	瀬戸	P11 覆土中層	20% PL58
6	陶器	丸皿	[9.3]	(2.3)	—	緻密・オリーブ黄	ロクロ成形 底部削り出し 漬け掛 け	灰釉	瀬戸	P11 覆土中層	5% 油煙付着

第 33 号掘立柱建物跡 (第 85 図 第 47 表 PL58)



第 85 図 第 33 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

位置 調査区 C 区南東部の J 4 d3 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1714・1780・1785・1798 号土坑、第 44 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の総柱建物で、桁行方向が N - 3° - E の南北棟である。規模は、桁行 6.70 m、梁行 3.68 m で、面積は 24.66㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から 2.88 m、2.00 m、1.82 m、東桁行が北から 2.82 m、1.98 m、1.90 m で、梁行は北梁行が西から 1.84 m、1.84 m で、南梁行が西から 2.16 m、1.52 m である。桁行の北側で柱間が広く、P 4・P 5・P 12 が柱筋からやや外れている。

柱穴 13 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 28 ～ 54cm、短径 28 ～ 46cm、深さ 22 ～ 54cm である。P 7 は P13 と重複しており、建て替えなどに伴うピットの可能性がある。覆土は、P 3 ～ P 6 が柱抜き取り後の流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片 3 点（皿、鍋、播鉢）が P 3・P 5・P10 の覆土中から出土している。1 は P10 の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から、16 世紀後半と考えられる。

第 47 表 第 33 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 85 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	9.2	2.5	5.2	長石・石英・黒色粒子・細礫	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	P10 覆土下層	90% PL58

第 34 号掘立柱建物跡（第 86 図）

位置 調査区 C 区南部の J 3 d9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

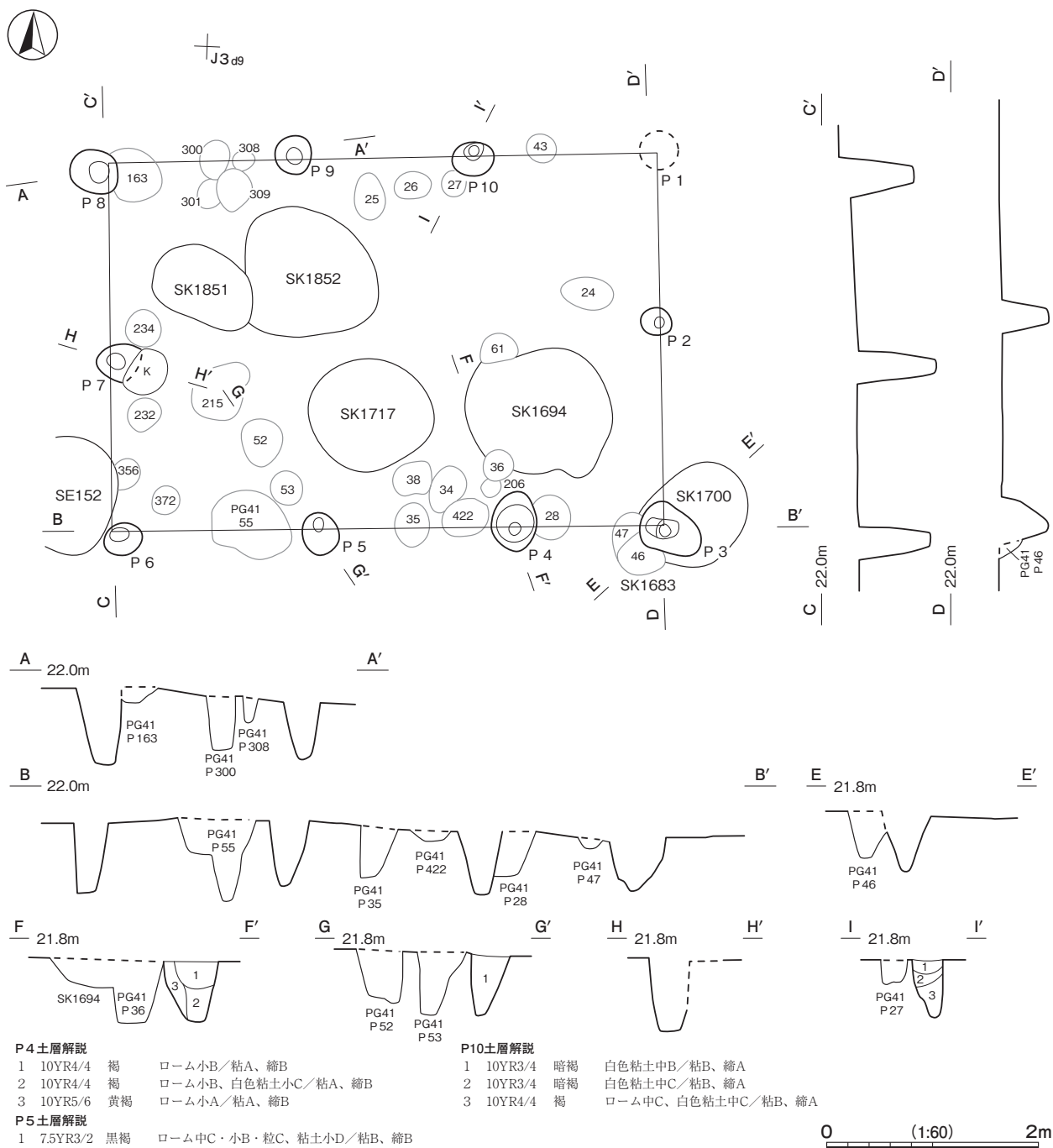
重複関係 第 1700 号土坑を掘り込んでいる。第 152 号井戸跡、第 1694・1717・1851・1852 号土坑、第 41 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N - 87° - E の東西棟である。規模は、桁行 5.22 m、梁行 3.50 m で、面積は 18.27㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から 1.80 m、1.70 m、1.72 m、南桁行が西から 1.96 m、1.83 m、1.43 m で、梁行は西梁行が北から 1.86 m、1.64 m で、東梁行が北から 1.56 m、1.94 m である。柱筋はほぼ揃っているが、柱間是不規則である。

柱穴 北桁行の 1 か所（P 1）を確認できず、9 か所である。平面形は円形や楕円形で、長径 30 ～ 60cm、短径 28 ～ 44cm、深さ 34 ～ 73cm である。P 3・P 4・P 7・P 8・P10 は、それぞれピットと重複しており、建て替えなどに伴うピットの可能性がある。覆土は、P 4・P 5・P10 が柱抜き取り後の流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片 3 点（鍋、播鉢、甕）が P 5・P 7 の覆土中から出土したが、いずれも細片である。

所見 時期は、出土遺物が少ないため不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16 世紀から 17 世紀前葉と推定できる。



第 86 図 第 34 号掘立柱建物跡実測図

第 35 号掘立柱建物跡（第 87 図 第 48 表）

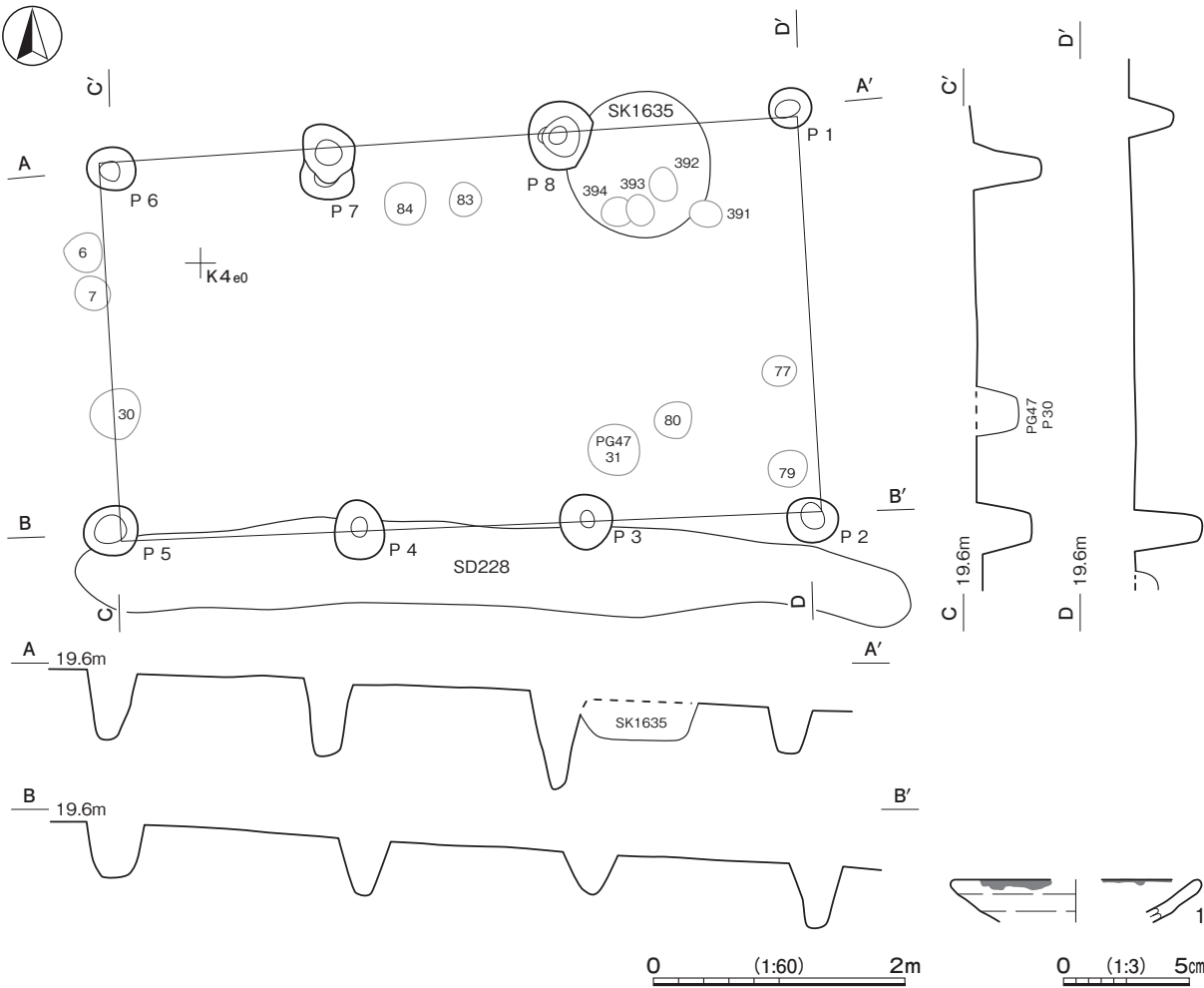
位置 調査区 C 区南東部の K 4e0 区、標高 19 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 1635 号土坑、第 228 号溝跡、第 47 号ピット群との関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物で、桁行方向が $N - 87^\circ - E$ の東西棟である。規模は、桁行 5.54 m、梁行 3.10 m で、面積は 17.17 m^2 である。柱間寸法は、北桁行が西から 1.80 m、1.86 m、1.88 m、南桁行が西から 1.86 m、1.84 m、1.84 m で、梁行は東・西梁行とも 3.10 m である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 30 ～ 50 cm、短径 24 ～ 40 cm、深さ 32 ～ 76 cm である。

遺物出土状況 土師質土器 5 点（皿 2、内耳鍋 3）、鉄滓 1 点が P 3・P 4・P 6・P 7 の覆土中から出土している。
 1 は P 4 の覆土中から出土している。
所見 時期は、出土土器から、16 世紀後半と考えられる。



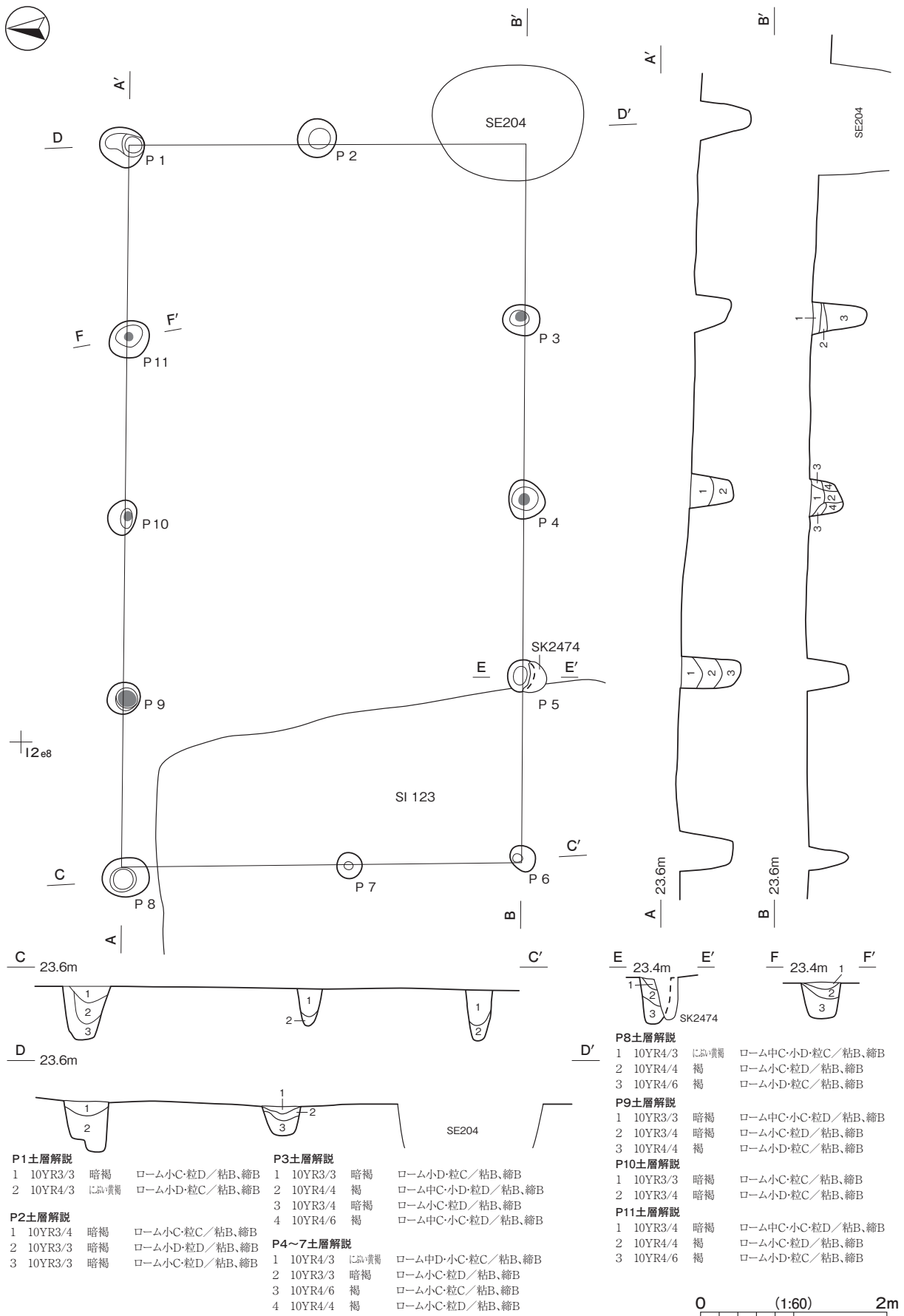
第 87 図 第 35 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 48 表 第 35 号掘立柱建物跡出土遺物一覧（第 87 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.7]	(1.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	P 4 覆土	5% 煤付着

第 36 号掘立柱建物跡（第 88 図 PL17）

位置 調査区 C 区西部中央の I 2 e9 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。
重複関係 第 123 号竪穴建物跡を掘り込み、第 204 号井戸、第 2474 号土坑に掘り込まれている。
規模と構造 桁行 4 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N－89°－W の東西棟である。規模は、桁行 7.70 m、梁行 4.30 m で、面積は 33.11㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から 1.80 m、1.90 m、1.95 m、2.05 m、南桁行が西から 1.95 m、1.94 m、1.96 m、1.85 m で、梁行は西梁行が北から 2.45 m、1.85 m、東梁行が北から 2.06 m、2.24 m である。柱筋はほぼ揃っているが、柱間寸法はややばらつきがある。
柱穴 南東部が第 204 号井戸跡に掘り込まれていることから、11 か所確認した。平面形は円形や楕円形で、長径 30～52cm、短径 25～40cm、深さ 22～64cm である。P 3・P 4・P 9～P 11 の底面で、径 10～



第 88 図 第 36 号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16 世紀から 17 世紀前半と推定できる。

位置 調査区 C 区北西部の H 2 f9 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。



P1土層解説				P4土層解説				P9土層解説			
1	10YR3/2	黒褐	ローム小D・粒D、焼土粒D／粘B、締B	1	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒D／粘B、締B	1	10YR3/3	暗褐	ローム小C・粒D／粘B、締B
2	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒D／粘B、締B	2	10YR2/3	黒褐	ローム粒D／粘B、締B	2	10YR3/4	暗褐	ローム小D・粒D／粘B、締B
3	10YR4/4	褐	ローム小C・粒B／粘B、締A	3	10YR3/3	暗褐	ローム小D・粒D／粘B、締B	P10土層解説			
P2土層解説				P5・6土層解説				1			
1	10YR3/4	暗褐	ローム小D・粒D／粘B、締B	1	10YR4/6	褐	ローム小B・粒A／粘B、締B	10YR4/6			
2	10YR4/4	褐	ローム小D・粒C／粘B、締B	2	10YR5/6	黄褐	ローム中C・小B・粒A／粘B、締B	褐			
P3土層解説				P7土層解説				2			
1	10YR3/4	暗褐	ローム粒D／粘B、締B	1	10YR2/3	黒褐	ローム小D・粒C／粘B、締B	10YR4/3			
2	10YR3/3	暗褐	ローム小D・粒C／粘B、締B	2	10YR2/2	黒褐	ローム小C・粒D／粘B、締B	にぶい黄褐			
3	10YR2/2	黒褐	ローム小C・粒C／粘B、締B	P8土層解説				3			
				1	10YR2/2	黒褐	ローム粒D／粘B、締B	10YR3/4			
				2	10YR4/6	褐	ローム小B・粒A／粘B、締B	暗褐			
								10YR3/2			
								暗褐			
								黒褐			
								ローム小D・粒D／粘B、締B			
								ローム粒D／粘B、締B			

第 90 図 第 37 号掘立柱建物跡実測図(2)

重複関係 P 3 が第 2221 号土坑に掘り込まれている。また、第 38 号掘立柱建物跡、第 18 号柱穴列、第 33 号地下式坑、第 2220・2321・2326・2330・2331・2333・2334・2335・2352・2394・2397・2405・2408・2409・2448・2449・2451・2454・2455・2649・2650・2653・2657・2658・2659・2664・2665・2666・2667・2674・2675・2694・2703・2704・2715・2720 号土坑との関係は不明である。

規模と構造 東梁行の柱穴が 1 か所確認できなかったが、桁行 3 間、梁行 3 間の側柱建物で、桁行方向が N－5°－W の南北棟である。規模は、桁行 6.26 m、梁行 6.18 m で、面積は 38.68㎡である。柱間寸法は、西桁行が北から 2.40 m、2.00 m、1.86 m、東桁行が北から 3.56 m、2.70 m で、梁行は北梁行が西から 1.70 m、2.30 m、2.18 m、南梁行が西から 1.70 m、3.12 m、1.36 m である。柱筋は、P 7 を除きほぼ揃っているが、柱間寸法はばらつきがある。

柱穴 東梁行の 1 か所が確認できなかったため、11 か所である。平面形は円形や楕円形で、長径 26～56cm、短径 24～44cm、深さ 20～72cm である。覆土は、P 1 が第 1・2 層が柱痕跡、第 3 層が掘方の埋土である。他はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16 世紀から 17 世紀前葉と推定できる。

第 38 号掘立柱建物跡（第 91 図 PL17）

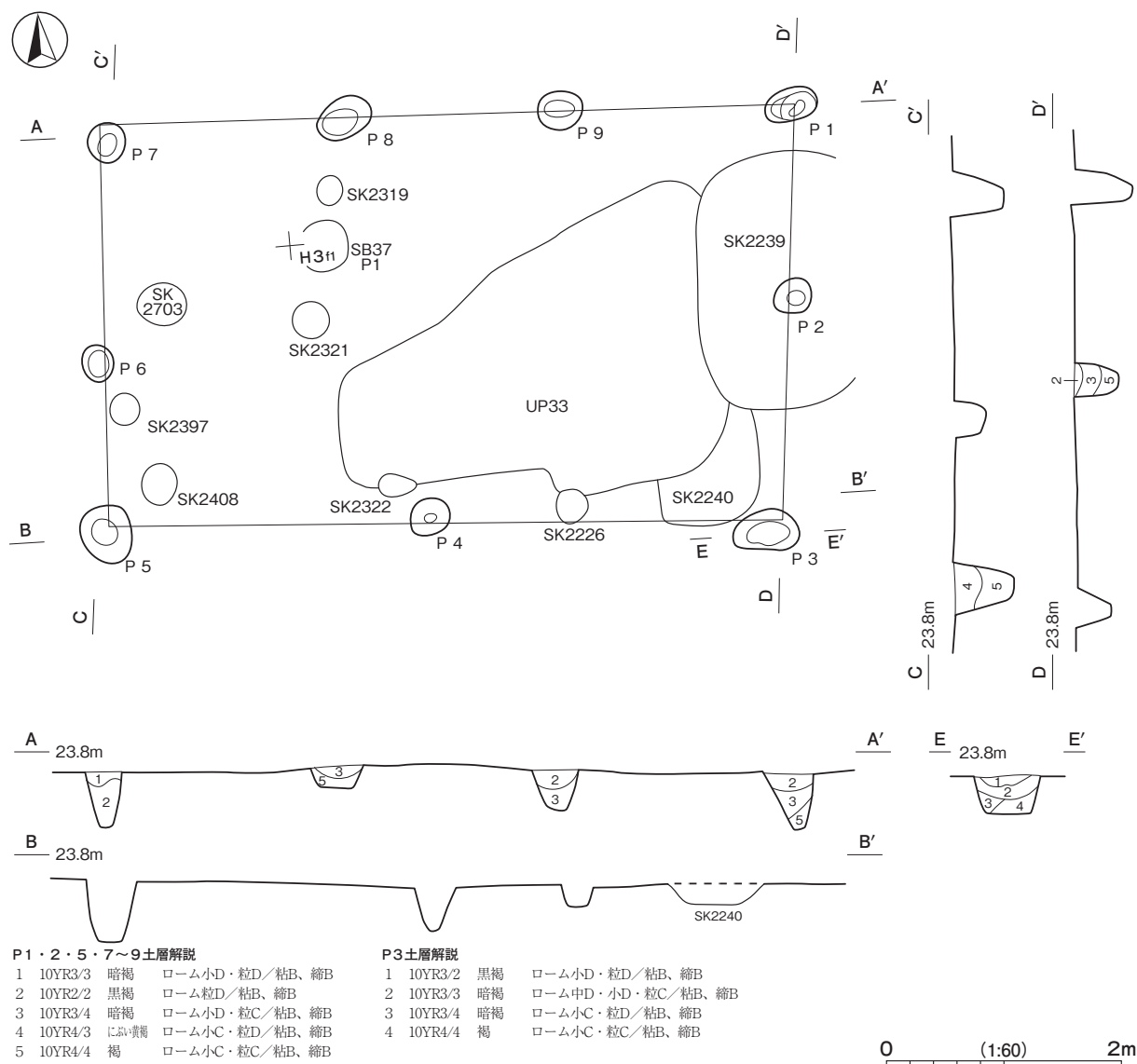
位置 調査区 C 区北西部の H 3 fl 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 P 2 が第 2239 号土坑を掘り込んでいる。また、第 37 号掘立柱建物跡、第 33 号地下式坑、第 2226・2240・2319・2321・2322・2397・2408・2703 号土坑との関係は不明である。

規模と構造 P 3 が柱筋から外れているが、北桁行 3 間、南桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N－87°－W の東西棟である。規模は、桁行 5.82 m、梁行 3.44 m で、面積は 20.02㎡である。柱間寸法は、北桁行が西から 2.02 m、1.85 m、1.95 m、南桁行が西から 2.76 m、3.06 m で、梁行は西梁行が北から 2.06 m、1.38 m、東梁行が北から 1.52 m、1.92 m である。柱筋は、P 3 を除きほぼ揃っているが、柱間寸法にばらつきがある。

柱穴 9 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 34～56cm、短径 28～44cm、深さ 20～52cm である。覆土は、いずれも柱抜き取り後の流入土である。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16 世紀から 17 世紀前葉と推定できる。



第 91 図 第 38 号掘立柱建物跡実測図

第 40 号掘立柱建物跡（第 92 図）

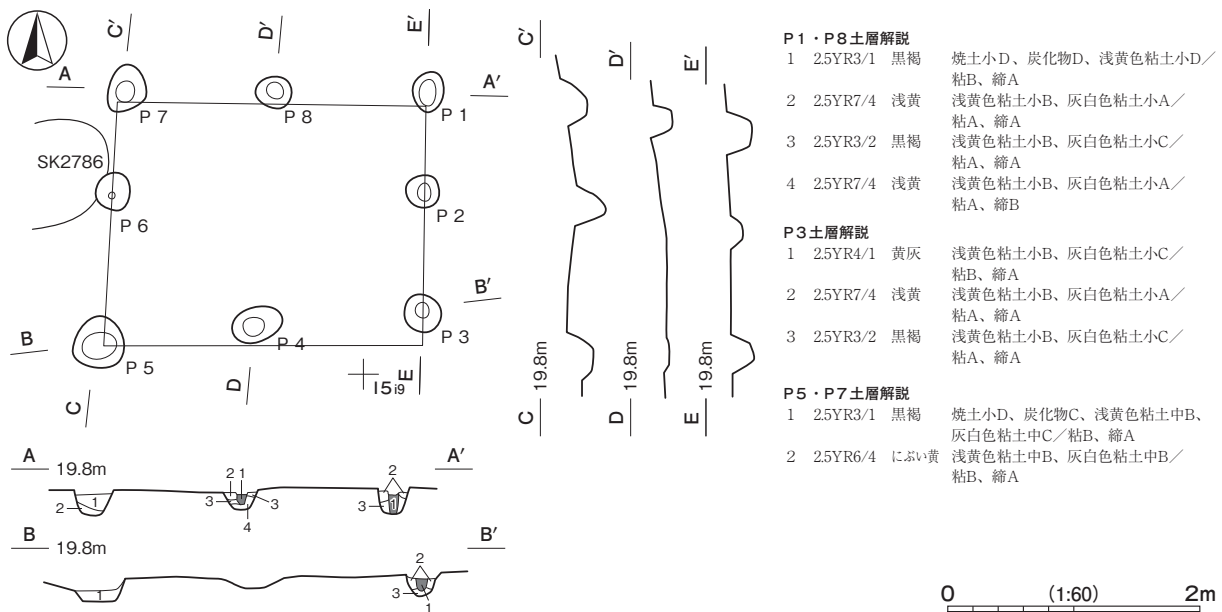
位置 調査区 D 区北東部の I 5 h8 区、標高 20 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 2786 号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物で、桁行方向が N - 88° - W の東西棟である。規模は、桁行 2.47 m、梁行 1.96 m で、面積は 4.84 m² である。柱間寸法は、北桁行が西から 1.25 m、1.22 m、南桁行が西から 1.20 m、1.27 m で、梁行は西梁行が北から 0.90 m、1.06 m、東梁行が北から 0.82 m、1.14 m である。柱筋は P 3・P 5 がややずれるものの、ほぼ揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は円形や楕円形で、長径 30 ～ 42 cm、短径 25 ～ 40 cm、深さ 10 ～ 26 cm である。覆土は、P 1・P 3・P 8 が第 1 層が柱痕跡、第 2 ～ 4 層が掘方の埋土である。P 5・P 7 は柱抜き取り後の流入土である。

所見 時期は、出土遺物がないため不明確であるが、周辺の遺構群との関係などから、16 世紀から 17 世紀前半と推定できる。



第 92 図 第 40 号掘立柱建物跡実測図

第 49 表 室町時代から江戸時代の掘立柱建物跡一覧

番号	位 置	桁行方向	柱間数		規 模	面 積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考
			桁×梁(間)	桁 × 梁 (m)			桁間 (m)	梁間 (m)	構造	柱穴数	平 面 形	深さ (cm)		
1	G 4 b6	N - 62° - W	3 × 2	5.80 × 3.65	21.17	1.80 ~ 2.10	1.80 ~ 1.95	側柱	10	円・楕円形	51 ~ 69	—	16 世紀前半	SD21 → 本跡 → PG 6P 8 SK30・32、PG 6 と重複
2	G 4 e6	N - 67° - W	3 × 1	5.75 × 3.35	20.41	1.75 ~ 2.10	3.55	側柱	8	円・楕円形	22 ~ 64	—	16 世紀前半	PG 6 と重複
21	H 4 f1	N - 21° - E	4 × 3	6.80 × 4.23	28.76	1.50 ~ 2.70	0.90 ~ 2.10	側柱	13	円・楕円形	20 ~ 115	銭貨	16 世紀から 17 世紀前葉	SK337 → 本跡 → SK782・839・ 840・843・930、HT3 PG19 と重複
22	H 4 c4	N - 16° - E	2 × 2	4.20 × 4.00	16.80	1.20 ~ 3.00	1.90 ~ 2.10	側柱	8	円・楕円形	34 ~ 70	土師質土器	16 世紀後半	SB23・24 → 本跡 SK1000・1014・PG20 と重複
23	H 4 c5	N - 73° - W	4 × 3	7.30 × 3.64	26.57	1.16 ~ 2.32	0.90 ~ 1.82	側柱	14	円・楕円形	32 ~ 91	土師質土器 砥石	16 世紀後半	本跡 → SB22 SB24・SK1014・PG20 と重複
24	H 4 d4	N - 77° - W	4 × 3	6.28 × 4.14	25.99	1.18 ~ 2.60	1.00 ~ 2.10	側柱	12	円・楕円形	18 ~ 78	土師質土器 陶器	16 世紀後葉から 17 世紀前葉	SK1023 → 本跡 → SB22 SB23、SK1000・1001、 PG20 と重複
26	H 4 g3	N - 24° - E	3 × 2	4.72 × 5.08	23.97	1.02 ~ 2.08	2.48 ~ 2.60	側柱	10	円・楕円形	28 ~ 70	土師質土器 陶器 焼成粘土塊 煙管 銭貨	16 世紀後葉から 17 世紀前葉	SB27・PG19 と重複
27	H 4 h3	N - 19° - E	2 × 3	4.04 × 4.10	16.56	1.60 ~ 2.44	1.10 ~ 1.60	側柱	10	円・楕円形	25 ~ 70	土師質土器 陶器	17 世紀前葉	SB26・PG19 と重複
31	J 3 j6	N - 87° - E	5 × 2	8.94 × 3.42	30.57	1.70 ~ 1.90	1.65 ~ 1.82	側柱	30	円・楕円形	40 ~ 83	土師質土器 陶器 紡錘 車 不明鉄 製品	16 世紀後半	SK1603・1656、SD63A → 本跡 SK1550・1558 ~ 1562・ 1620・1621・1665・1666・ 1680・1686、PG38 と重複
32	K 4 c8	N - 89° - E	4 × 2	7.76 × 3.60	27.94	1.82 ~ 2.06	1.60 ~ 2.00	側柱	12	円・楕円形	36 ~ 68	土師質土器 陶器	16 世紀後葉から 17 世紀前葉	SD217・223・224、 PG47 と重複
33	J 4 d3	N - 3° - E	3 × 2	6.70 × 3.68	24.66	1.82 ~ 2.88	1.52 ~ 2.16	総柱	13	円・楕円形	22 ~ 54	土師質土器	16 世紀後半	SK1714・1780・1785・ 1798、PG44 と重複
34	J 3 d9	N - 87° - E	3 × 2	5.22 × 3.50	18.27	1.43 ~ 1.96	1.56 ~ 1.94	側柱	9	円・楕円形	34 ~ 73	土師質土器	16 世紀から 17 世紀前葉	SK1700 → 本跡 SE152、SK1694・ 1717・1851・1852、 PG41 と重複
35	K 4 e0	N - 87° - E	3 × 1	5.54 × 3.10	17.17	1.80 ~ 1.88	3.10	側柱	8	円・楕円形	32 ~ 76	土師質土器 鉄滓	16 世紀後半	SD228、SK1635、 PG47 と重複
36	I 2 e9	N - 89° - W	4 × 2	7.70 × 4.30	33.11	1.80 ~ 2.05	1.85 ~ 2.45	側柱	11	円・楕円形	22 ~ 64	—	16 世紀から 17 世紀前葉	SI123 → 本跡 → SE204、 SK2474
37	H 2 f9	N - 5° - W	3 × 3	6.26 × 6.18	38.68	1.86 ~ 3.56	1.36 ~ 3.12	側柱	11	円・楕円形	20 ~ 72	—	16 世紀から 17 世紀前葉	本跡 → SK2221 SB38・SA18・UP33・ SK2220・2321・2326・ 2330・2331・2333 ~ 2335・2352・2394・2397・ 2405・2408・2409・2448・ 2449・2451・2454・2455・ 2649・2650・2653・2657 ~ 2659・2664 ~ 2667・ 2674・2675・2694・2703・ 2704・2715・2720 と重複
38	H 3 f1	N - 87° - W	3 × 2	5.82 × 3.44	20.02	1.85 ~ 3.06	1.38 ~ 2.06	側柱	9	円・楕円形	20 ~ 52	—	16 世紀から 17 世紀前葉	SK2239 → 本跡 UF33、SB37・SK2226・2239・ 2240・2319・2321・2322・ 2397・2408・2703 と重複
40	I 5 h8	N - 88° - W	2 × 2	2.47 × 1.96	4.84	1.20 ~ 1.27	0.82 ~ 1.14	側柱	8	円・楕円形	10 ~ 26	—	16 世紀から 17 世紀前葉	SK2786 → 本跡

(2) 方形竪穴遺構

第 1 号方形竪穴遺構（第 93 図 第 50 表）

位置 調査区 A 区南部の G 4 d3 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.98 m、短軸 1.46 m の長方形で、長軸方向は N - 54° - W である。壁は高さ 48cm で、外傾している。

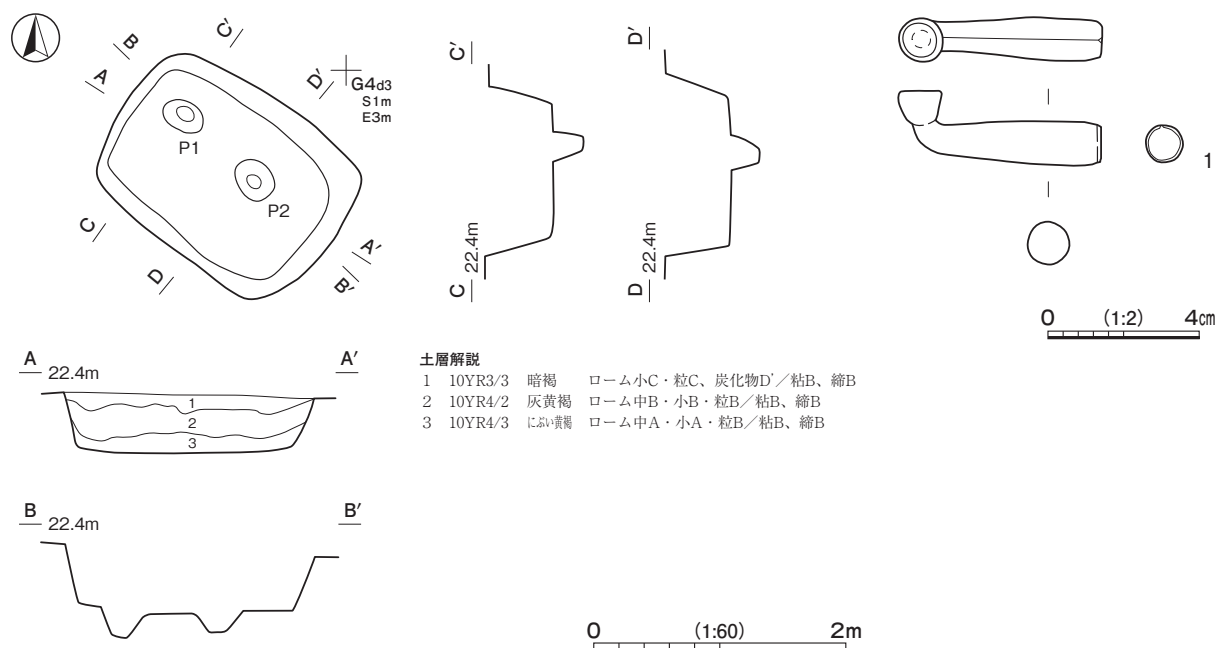
床 ほぼ平坦で、硬化していない。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

ピット 2 か所。深さ 22 ～ 27cm で、配置から柱穴と考えられる。

遺物出土状況 金属器 1 点（煙管）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、煙管の形状から、19 世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 93 図 第 1 号方形竪穴遺構実測図

第 50 表 第 1 号方形竪穴遺構遺物一覧（第 93 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	煙管	5.4	2.0	0.1	12.13	銅	雁首部 火皿径 1.2cm 鍛造後銅板巻き蛸付け	覆土	

第 2 号方形竪穴遺構（第 94 図 PL17）

位置 調査区 A 区南部の G 4 f2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 16 号溝に掘り込まれている。

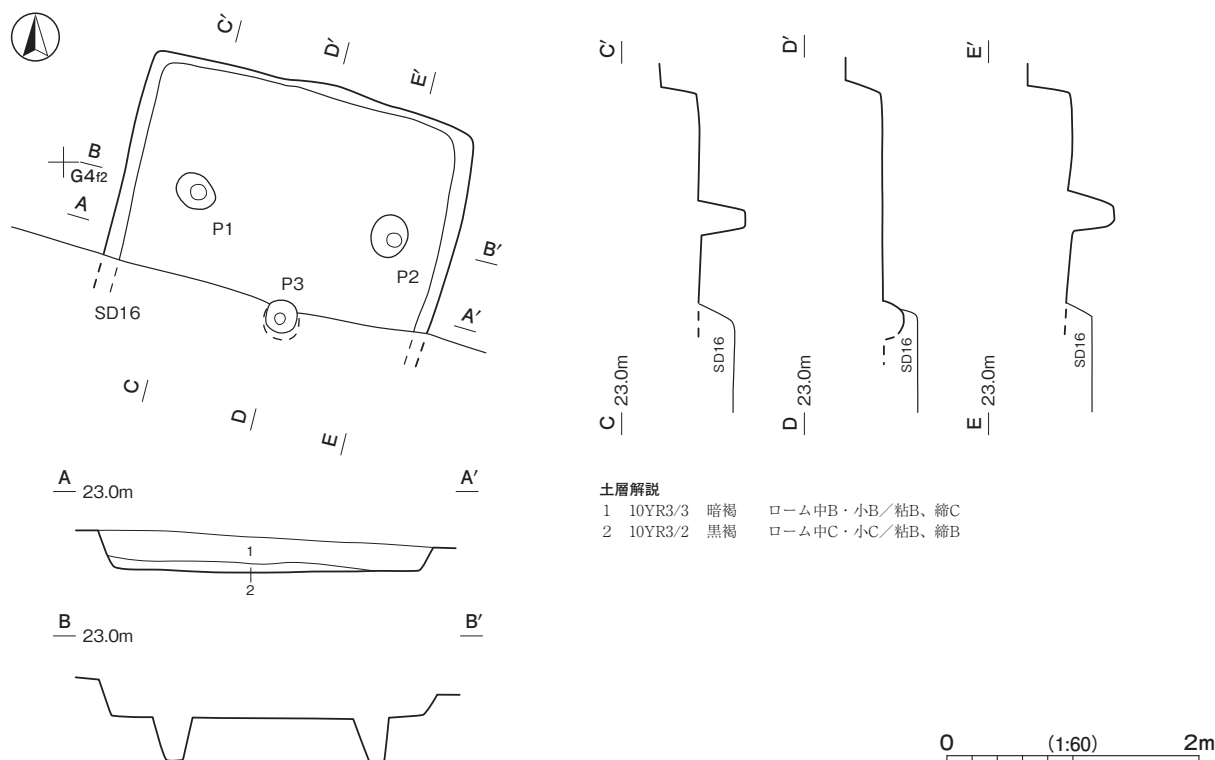
規模と形状 確認できた規模は、北東・南西軸 2.66 m、北西・短軸 1.75 m である。平面形は方形または長方形で、北東・南西軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 14 ～ 32cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面などは確認できなかった。

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ 14～38cmで、配置から柱穴と考えられる。P 3は深さ 14cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

所見 出土遺物がないため時期は不明であるが、第 16 号溝跡との重複関係や周辺に存在する第 1・2 号に関連する建物と考えられることから、16 世紀前半以前である。



第 94 図 第 2 号方形竪穴遺構実測図

第 3 号方形竪穴遺構 (第 95 図)

位置 調査区 C 区北部の H 3 f0 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 848 号土坑に掘り込まれている。第 21 号掘立柱建物跡、第 782 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 北壁側が攪乱のため、東西軸が 2.12 m、南北軸が 2.15 m ほどの長方形と推定でき、主軸方向は N - 67° - W である。壁は高さ 15～20cm で、外傾している。

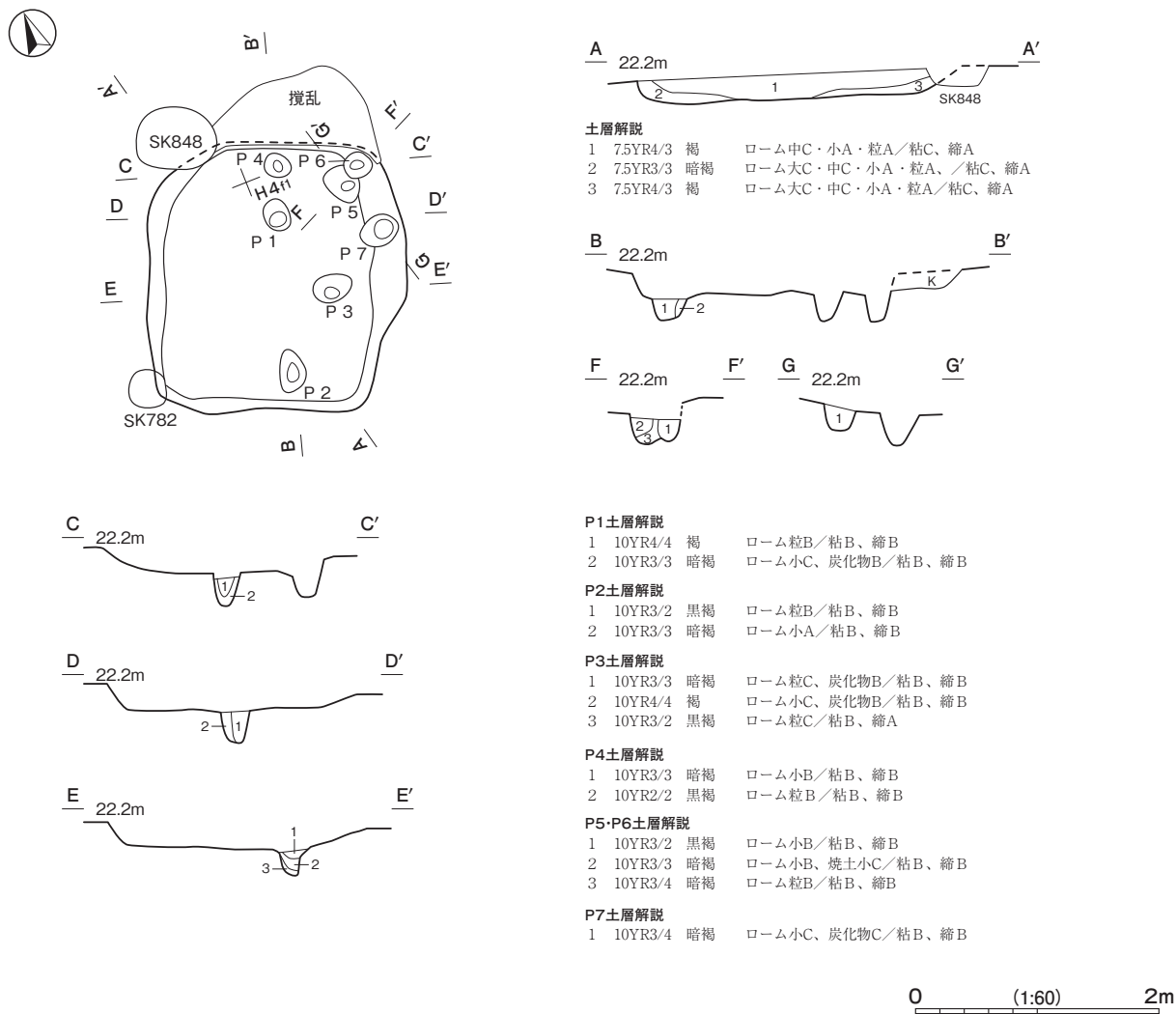
床 やや凹凸があり、北から南に向かって緩やかに傾斜し、南部が低くなっている。

ピット 7か所。P 1・P 2は深さ 28cm・22cm で、規模や位置から主柱穴である。P 3は深さ 24cm で、規模や位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 4～P 7は深さ 22～28cm で、壁際に位置している。覆土はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 5 点（鉢 1、内耳鍋 4）が出土している。いずれも覆土から出土し、細片である。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 95 図 第 3 号方形竪穴遺構実測図

第 4 号方形竪穴遺構（第 96 図 第 51 表）

位置 調査区 C 区北部の H 3 h0 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 867・895 号土坑、第 19 号ピット群 P108 との関係は不明である。

規模と形状 台形状の主室部と、長方形に張り出す出入口部からなる。規模は主室部が長軸 3.18m、短軸 2.25 m、出入口部の長軸は 1.15 m、短軸は 1.00 m で、出入口部を含めた東西軸は 3.36 m である。主軸方向は N - 87° - W である。壁は高さ 12 ~ 25cm で、外傾している。

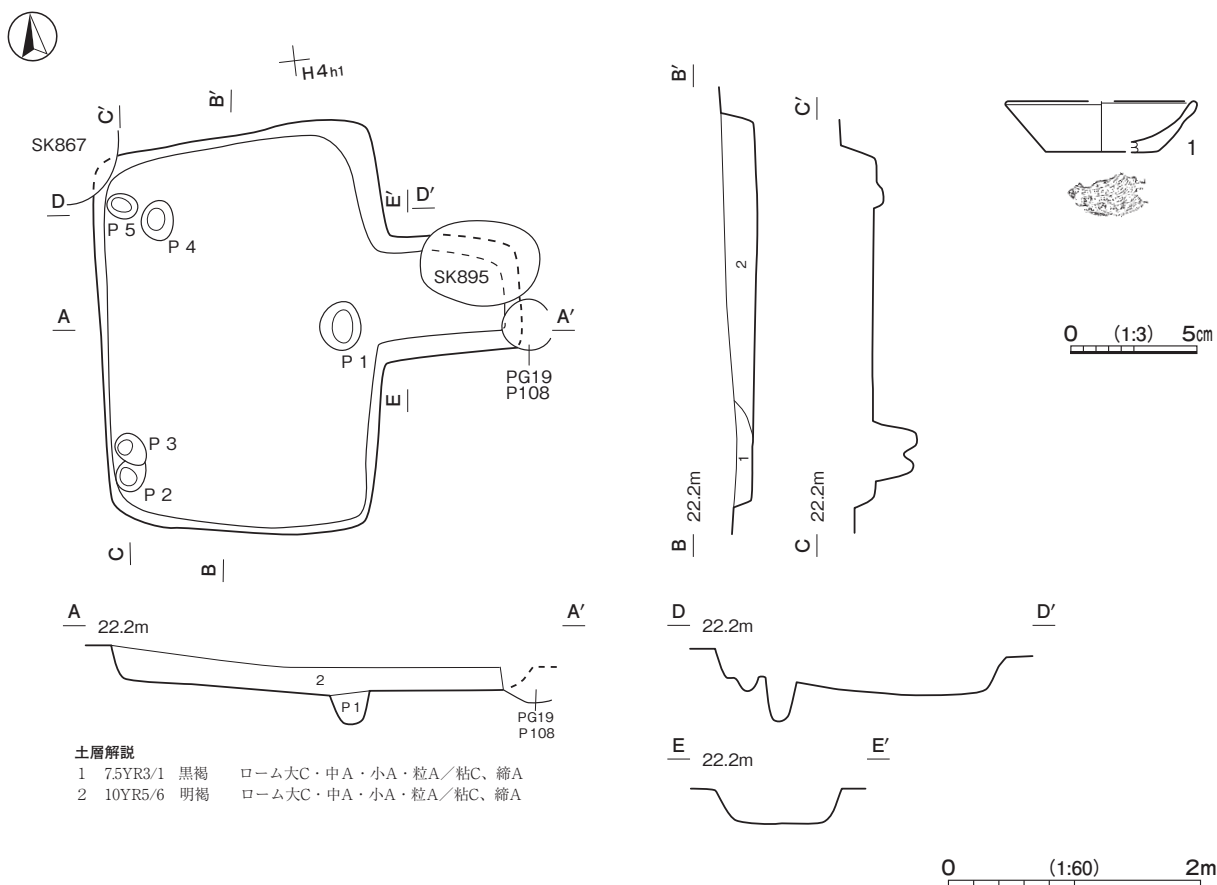
床 ほぼ平坦で、西から東に向かって緩やかに傾斜し、東部が低くなっている。

ピット 5 か所。P 1 は深さ 26cm で、ほぼ主軸上にある。P 2 ~ P 4 は深さ 13 ~ 35cm で、西壁際に位置している。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 8 点（皿 2、甕 4、内耳鍋 2）が出土している。1 は北西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 96 図 第 4 号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第 51 表 第 4 号方形竪穴遺構出土遺物一覧（第 96 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[7.6]	2.0	[4.4]	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	北西部覆土	5%

第 5 号方形竪穴遺構（第 97・98 図 第 52 表 PL58）

位置 調査区 C 区東部の I 4 fl 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.63m、短軸 2.72 m で、主軸方向は N - 18° - E の長方形である。壁は高さ 8 cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、南東コーナー部と西壁際の一部を除き、硬化している。

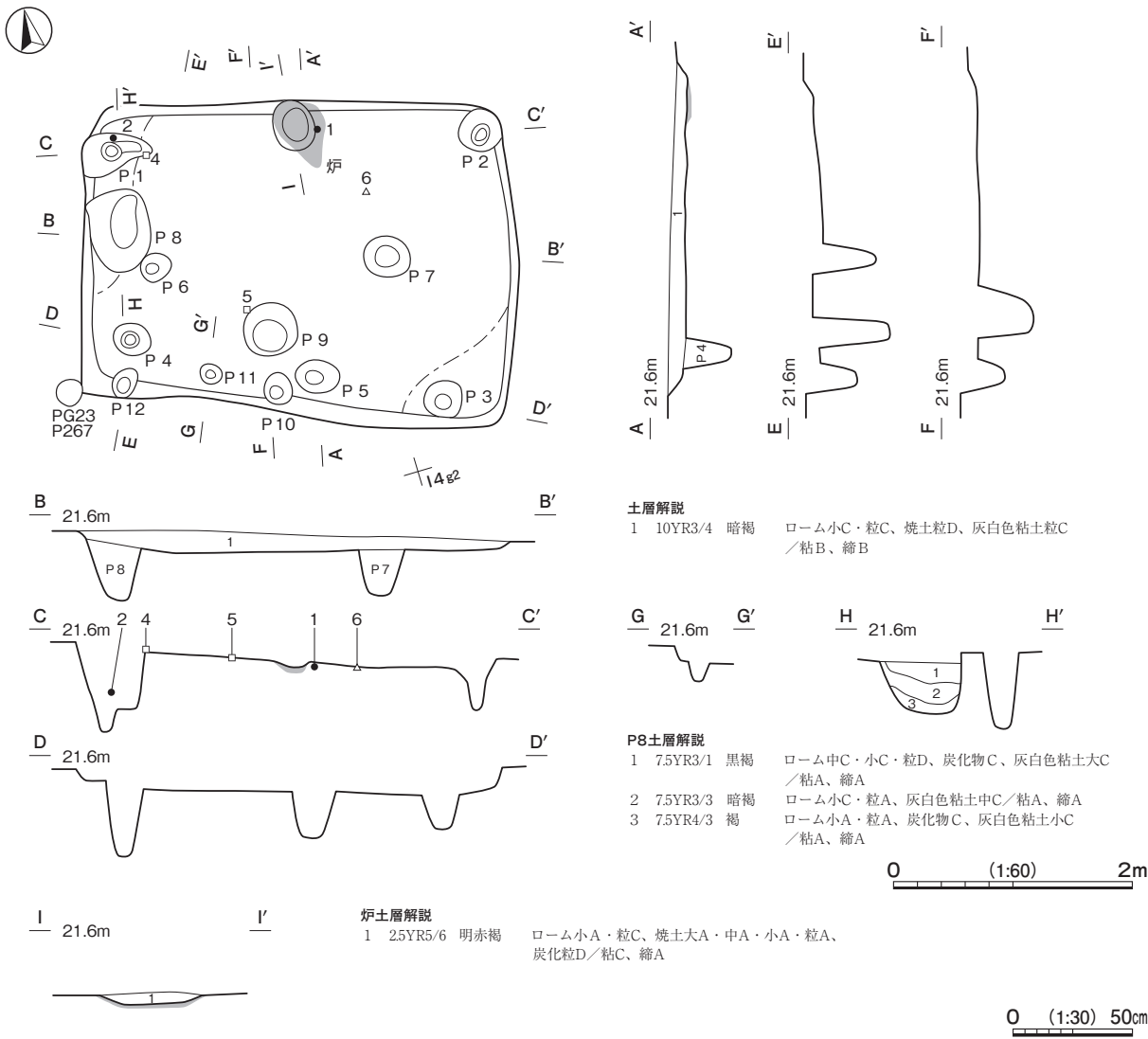
炉 北壁中央部に位置している。長径 46cm、短径 36cm の楕円形で、深さ 10cm ほどの地床炉である。炉床面は第 1 層下面で、赤変硬化している。

ピット 12 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 33 ～ 66cm で、規模や配置から支柱穴である。P 5 は深さ 38cm で、炉と対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 8 は長径 0.7 m、短径 0.52 m、深さ 43cm のやや大型のピットで、西壁中央部に位置している。覆土は柱抜き取り後の流入土である。P10 ～ P12 は深さ 18 ～ 30cm で、南壁際に位置しており、壁柱穴と考えられる。P 6 ・ P 7 ・ P 9 は、深さ 40 ～ 54cm で、性格は不明である。

覆土 単一層である。ロームブロック・粒子や焼土粒子、粘土粒子を含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 8 点（皿 5、内耳鍋 3）、陶器片 1 点（皿）、磁器片 1 点（碗）、石器 2 点（凝灰岩製砥石、斑レイ岩製台石カ）、銭貨 1 点が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。1 は炉の火床面から、2 は P 1 の覆土下層から、それぞれ出土している。4 は P 1 東側、P 9 西側、6 は北東部の床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。

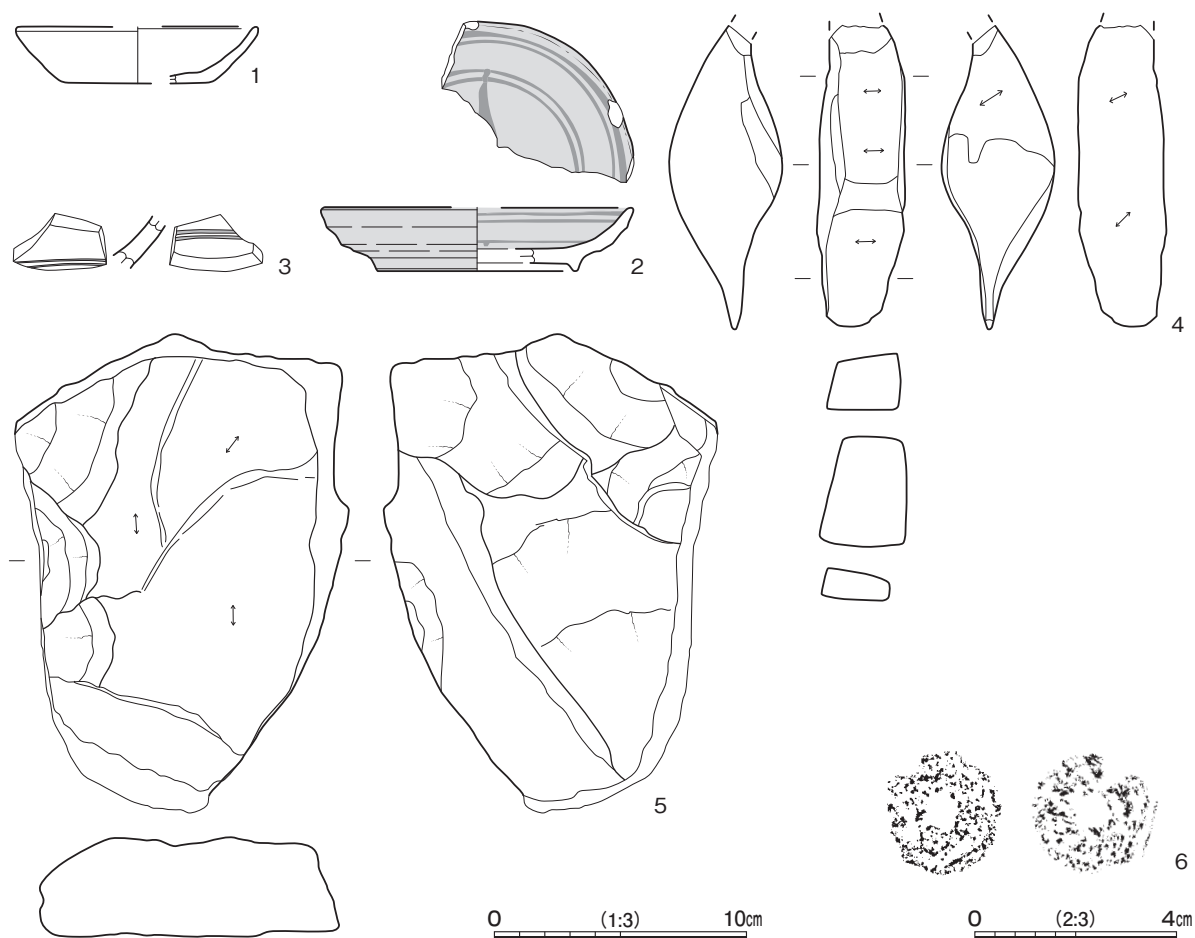


第 97 図 第 5 号方形竪穴遺構実測図

第 52 表 第 5 号方形竪穴遺構出土遺物一覧（第 98 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.4]	2.3	[5.4]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	炉火床面	30%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	皿	[12.4]	2.5	[8.0]	長石 灰白	高台削り出し 長石釉付け掛け 鉄絵	長石釉 鉄釉	瀬戸・美濃	P 1 下層	5 % PL58
3	磁器	碗	－	(2.1)	－	緻密 灰白	染付 二重圈円文	呉須 透明釉	肥前系	覆土	5 %



第 98 図 第 5 号方形竪穴遺構出土遺物実測図

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	砥石	(12.0)	3.5	4.5	(19263)	凝灰岩	砥面 3 面	P1 東側床面	PL58
5	砥石カ	(19.0)	(13.2)	3.9	(1650.0)	斑レイ岩	研磨面 1 面	P9 西側床面	PL58

番号	銭 種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特 徴	出土位置	備 考
6	不明	2.5	0.5	0.1	1.40	銅	－	表裏面磨減	北東部床面	

第 12A・B 号方形竪穴遺構（第 99 図 PL17）

位置 調査区 C 区南東部の J 4e7 区、標高 21 m ほどの低地部に位置している。

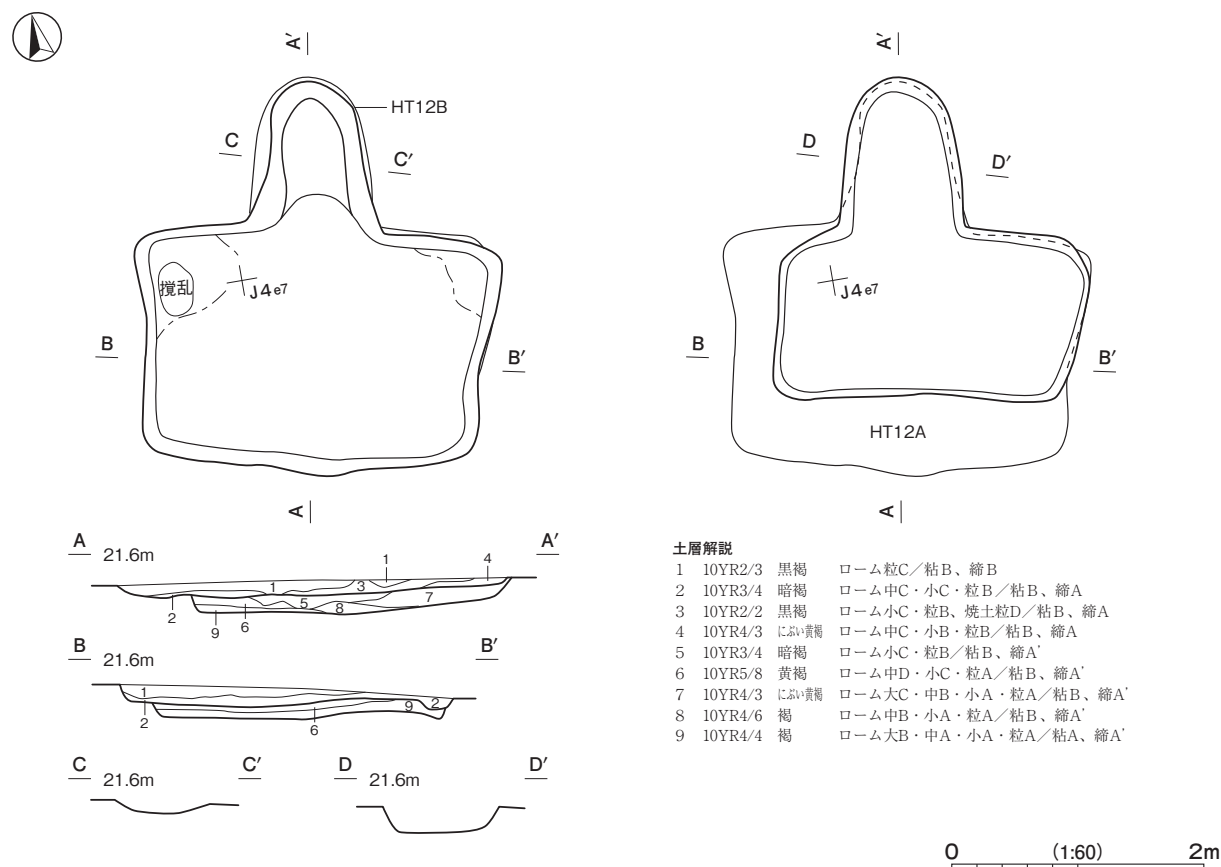
規模と形状 形状から 1 回の拡張を確認し、拡張前を第 12B 号、拡張後を第 12A 号と呼称した。いずれも長方形の主室部と、長楕円形に張り出す出入口部からなる。第 12 A 号の規模は、主室部が長軸 2.85m、短軸 1.94 m、出入口部が長径 1.20 m、短径 0.80 m で、出入口部を含めた南北軸は 3.10 m である。主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 10cm で、外傾している。第 12 B 号の規模は、主室部が長軸 2.42 m、短軸 1.32 m、出入口部が長径 1.20 m、短径 0.98 m で、出入口部を含めた南北軸は 2.54 m である。主軸方向は N - 10° - E である。壁は重複のため確認できた高さが 14cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、出入口部から主室部に向かって緩やかに傾斜し、南部が低くなっている。

覆土 第12A号は4層に分層できる。第1～4層は、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。第12B号は5層に分層できる。第5～9層は、各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片4点、須恵器片1点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第99図 第12A・B号方形竪穴遺構実測図

第13号方形竪穴遺構（第100図 PL17）

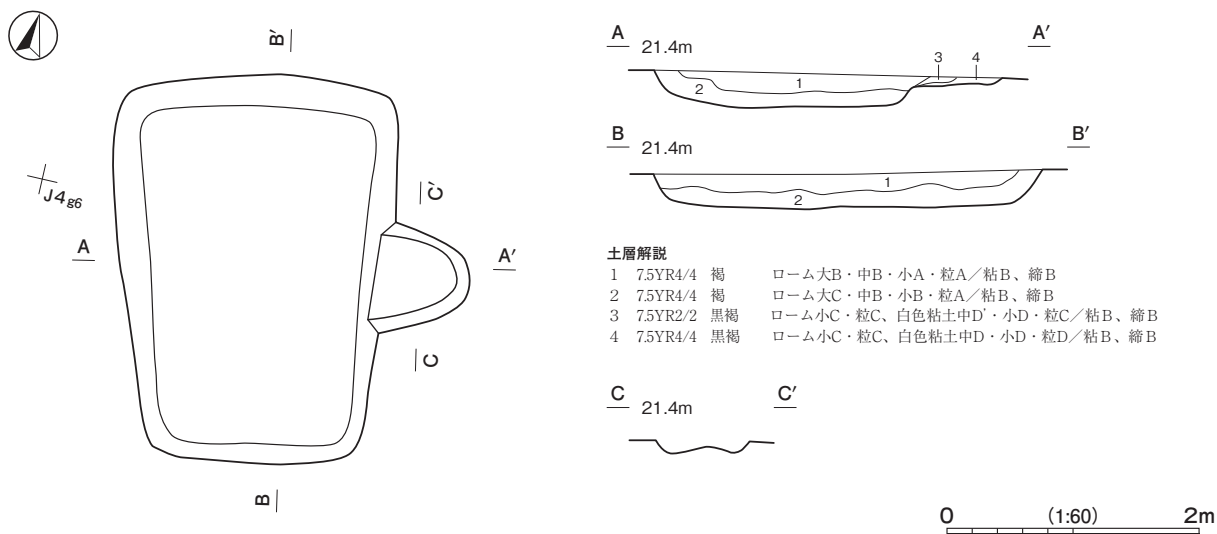
位置 調査区C区南東部のJ4g6区、標高21mほどの低地部に位置している。

規模と形状 長方形の主室部と、楕円形に張り出す出入口部からなる。規模は主室部が長軸3.06m、短軸1.78～2.26m、出入口部の長径は0.76m、短径は0.72mで、出入口部を含めた東西軸は2.76mである。主軸方向はN-13°-Wである。壁は高さ8～28cmで、外傾している。

床 主室部、出入口部ともにほぼ平坦で、主室部床面と出入口部は、16cmほどの段差がある。

覆土 4層に分層できる。主室部の第1・2層は、ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。出入口部の第3・4層は層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16世紀後葉から17世紀前葉と推定できる。



第 100 図 第 13 号方形竪穴遺構実測図

第 23 号方形竪穴遺構（第 101 図 PL17）

位置 調査区 C 区北部の G 3 i2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2153 号土坑に掘り込まれている。第 2147・2148 号土坑との関係は不明である。

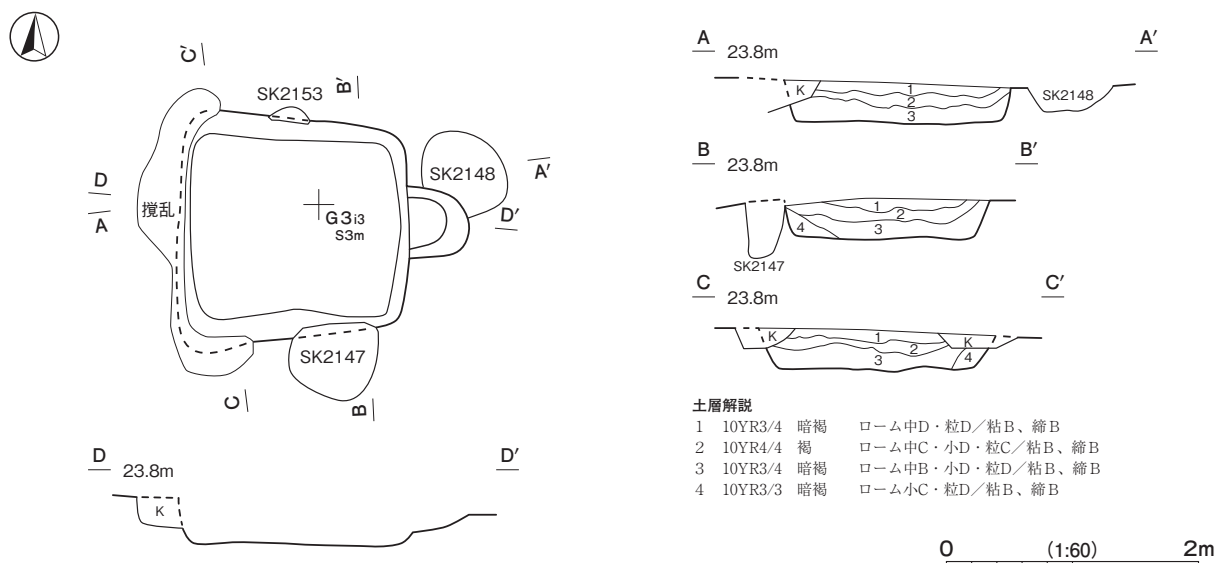
規模と形状 台形状の主室部と、楕円形に張り出す出入口部からなる。西部が攪乱のため、確認できた規模は主室部が長軸 1.56 ～ 1.92m、短軸 1.76 ～ 1.82 m、出入口部の長径は 0.56 m、短径は 0.46 m で、出入口部を含めた東西軸は 2.32 m と推定できる。主軸方向は N - 90° - E である。壁は高さ 10 ～ 30cm で、外傾している。

床 主室部は若干の凹凸があり、出入口部は主室部に向かって緩やかに下がっている。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子をやや多く含んでいるが、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片 4 点、須恵器片 2 点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と推定できる。



第 101 図 第 23 号方形竪穴遺構実測図

第 32 号方形竪穴遺構（第 102 図）

位置 調査区 C 区北西部の H 2e7 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 265 号溝に掘り込まれている。

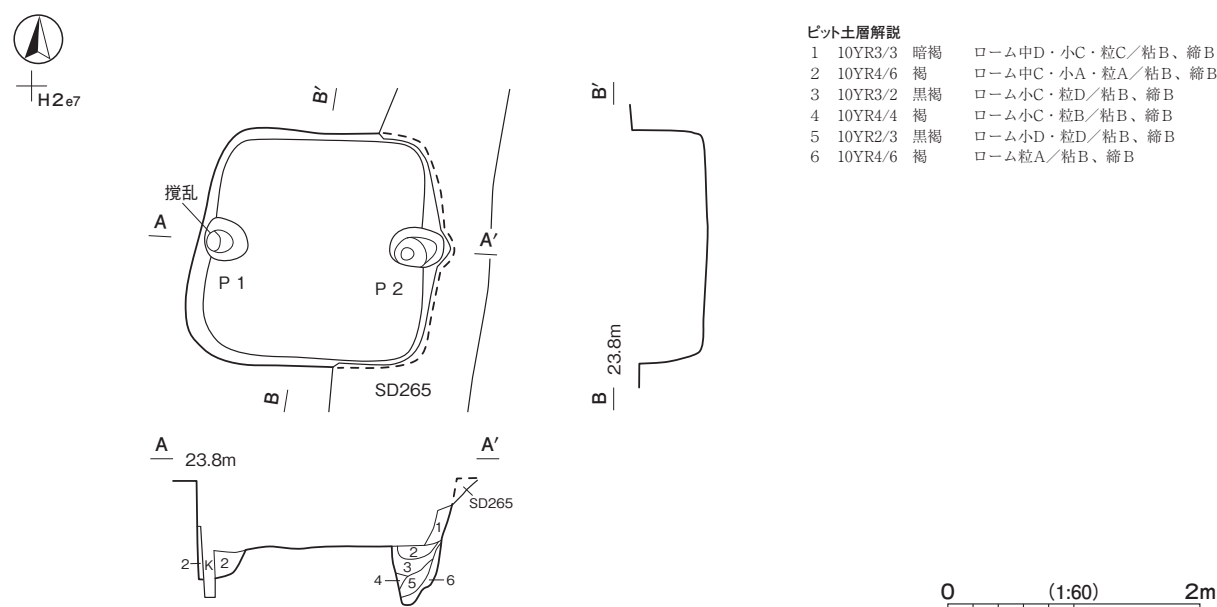
規模と形状 長軸 2.00m、短軸 1.88 m の方形で、南北軸方向は $N - 2^{\circ} - E$ である。壁は高さ 54cm で、直立している。

床 ほぼ平坦である。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 42cm で、規模や配置から主柱穴である。覆土は柱抜き取り後の流入土である。

覆土 東壁際で部分的に確認したのみで、堆積状況は不明である。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と推定できる。



第 102 図 第 32 号方形竪穴遺構実測図

第 39 号方形竪穴遺構（第 103 図 PL17）

位置 調査区 C 区北西部の G 2i0 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2876 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長方形の主室部と、方形に張り出す出入口部からなる。北西部が重複のため、確認できた規模は主室部が長軸 2.34m、短軸 2.06 m、出入口部の長軸は 0.66 m、短軸は 0.56 m で、出入口部を含めた東西軸は 2.66 m である。主軸方向は $N - 82^{\circ} - W$ である。壁は高さ 16 ～ 50cm で、直立している。

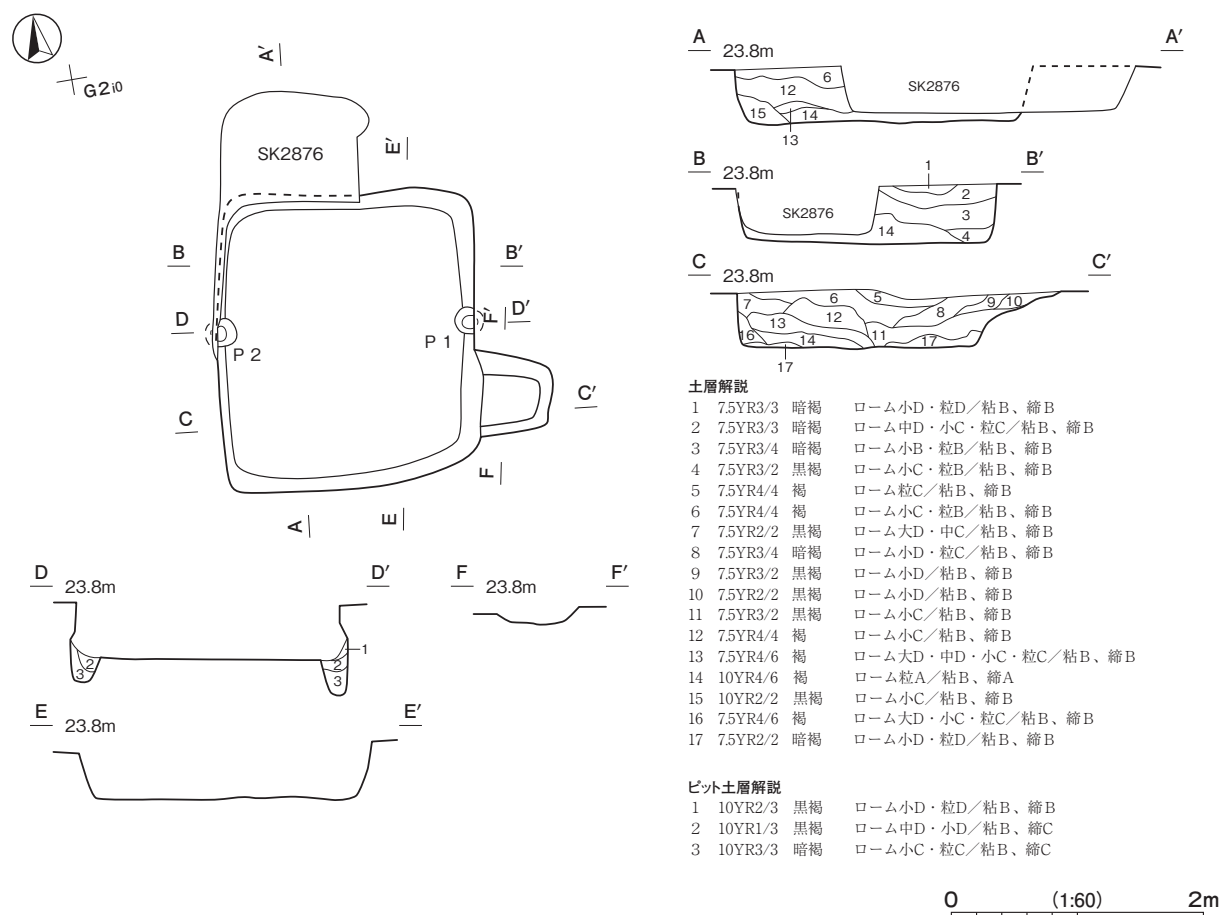
床 主室部、出入口部ともにほぼ平坦で、出入口部は主室部に向かって緩やかに下がっている。主室床面と出入口部は、25cm ほどの段差がある。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は、深さ 22・28cm で、規模や配置から主柱穴である。覆土は柱抜き取り後の流入土である。

覆土 17 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（内耳鍋）、陶器片 1 点（甕）が出土している。いずれも覆土中から出土し、細片である。ほかに混入した縄文土器片 8 点、土師器片 33 点、須恵器片 4 点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と推定できる。



第 103 図 第 39 号方形竪穴遺構実測図

第 40 号方形竪穴遺構（第 104 図）

位置 調査区 C 区北部の G 3 il 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2887 号土坑を掘り込み、第 291 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 方形の主室部と、南壁に楕円形に張り出す出入口部からなる。規模は主室部が長軸 2.44m、短軸 2.40 m、出入口部の長径は 0.74 m、短径は 0.64 m で、出入口部を含めた南北軸は 3.04 m である。主軸方向は N - 12° - E である。壁は高さ 42cm で、直立している。

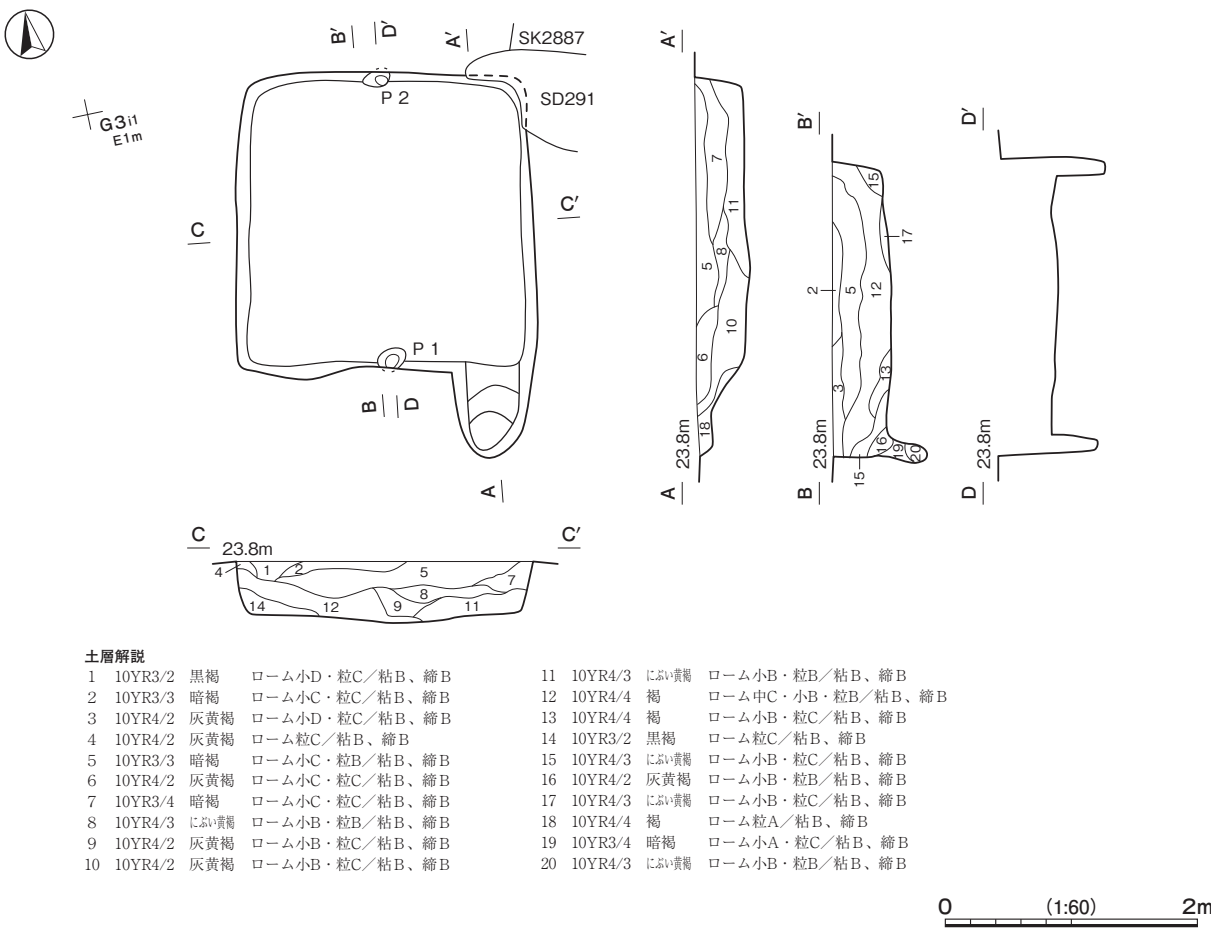
床 主室部はほぼ平坦で、出入口部は主室部に向かって緩やかに下がっている。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は、深さ 36cm・40cm で、規模や配置から主柱穴である。P 1 の覆土は柱抜き取り後の流入土である。

覆土 18 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した縄文土器片 4 点、土師器片 37 点、須恵器片 3 点が出土している。

所見 時期は、出土遺物がないことから不明確であるが、周囲の遺構群との関係などから、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と推定できる。



第 104 図 第 40 号方形堅穴遺構実測図

第 53 表 方形堅穴遺構一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	G 4 d3	N - 54° - W	長 方 形	1.98 × 1.46	48	平坦	-	2	-	-	-	-	人為	煙管	19 世紀代	
2	G 4 f2	N - 10° - E	[方 形] [長方形]	2.66 × (1.75)	14 ~ 32	平坦	-	2	-	1	-	-	人為		16 世紀前半以前	
3	H 3 f0	N - 67° - W	[長方形]	(2.15) × 2.12	15 ~ 20	凹凸	-	2	1	4	-	-	人為	土師質土器	16 世紀後半	本跡→ SK782・848、SB21
4	H 3 h0	N - 87° - W	台 形	3.18 × 2.25	12 ~ 25	平坦	-	-	-	5	-	-	人為	土師質土器	16 世紀後半	SK867・895、PG19P108 と重複
5	I 4 f1	N - 18° - E	長 方 形	3.63 × 2.72	8	平坦	-	4	1	7	炉1	-	人為	土師質土器 磁器 砥石 陶器 銭貨	16 世紀後葉から 17 世紀前葉	
12A	J 4 e7	N - 10° - E	長 方 形	2.85 × 1.94	10	平坦	-	-	-	-	-	-	自然		16 世紀から 17 世紀前葉	HT12B → 本跡
12B	J 4 e7	N - 10° - E	長 方 形	2.42 × 1.32	(14)	平坦	-	-	-	-	-	-	人為		16 世紀から 17 世紀前葉	本跡→ HT12A
13	J 4 g6	N - 13° - W	長 方 形	3.06 × 1.78 ~ 2.26	8 ~ 28	平坦	-	-	-	-	-	-	人為		16 世紀から 17 世紀前葉	
23	G 3 i2	N - 90° - E	台 形	1.56 ~ 1.92 × 1.76 ~ 1.82	10 ~ 30	凹凸	-	-	-	-	-	-	自然		16 世紀から 17 世紀前葉	本跡→ SK2153 SK2147・2148 と重複
32	H 2 e7	N - 2° - E	[方 形]	[2.00] × 1.88	54	平坦	-	2	-	-	-	-	-		16 世紀から 17 世紀前葉	本跡→ SD166
39	G 2 i0	N - 82° - W	長 方 形	2.34 × 2.06	16 ~ 50	平坦	-	2	-	-	-	-	人為	土師質土器 陶器	16 世紀から 17 世紀前葉	本跡→ SK2876
40	G 3 i1	N - 12° - E	方 形	2.44 × 2.40	42	平坦	-	2	-	-	-	-	人為		16 世紀から 17 世紀前葉	SK2887 → 本跡 → SD291

(3) 地下式坑

24 基を確認した。このうち 9 基について本文で説明し、その他については実測図と一覧のみを記載する。
なお、第 28 ～ 30 号地下式坑については、部分的な確認のため詳細は不明であるが、地下式坑と判断した。

第 1 号地下式坑（第 105 図）

位置 調査区 A 区南部の F 4j1 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 9・13 号溝に掘り込まれている。

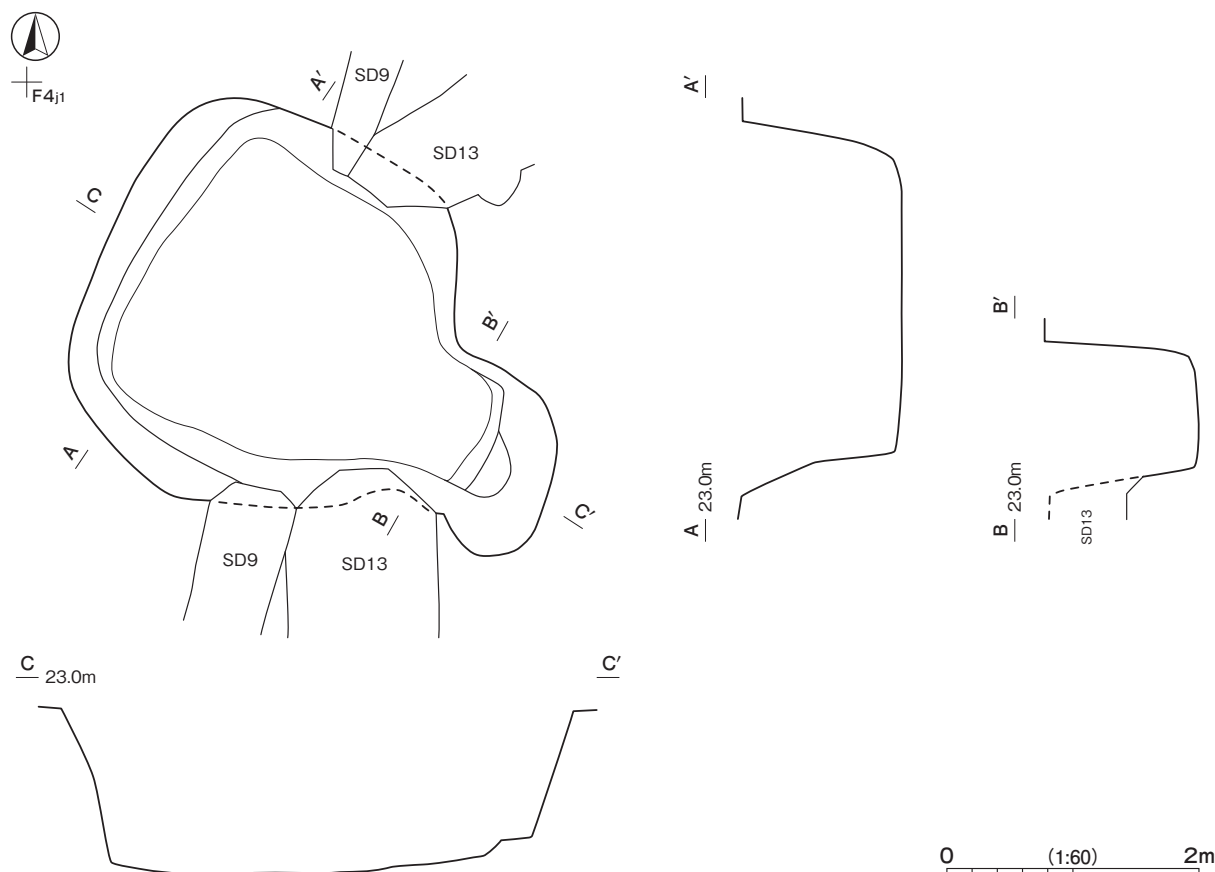
規模と形状 軸長は 4.02 m で、主軸方向は N - 58° - W である。

竪坑 主室の東壁中央部に位置し、奥行 0.60 m 横幅 1.34 m の半円形である。深さ 104 cm で、底面は平坦である。

主室 奥行 3.51 m、横幅 3.12 m の隅丸長方形である。壁は高さ 124 cm で、外傾している。竪坑と主室の境には 15 cm ほど段差があり、底面はその地点から主室の北西壁に向かって、緩やかに 10 cm ほど下っている。

覆土 ロームブロックと炭化物を多く含んでいることや不規則な堆積状況から、人為堆積である。調査中に覆土が崩落したため、記録することができなかった。

所見 出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。

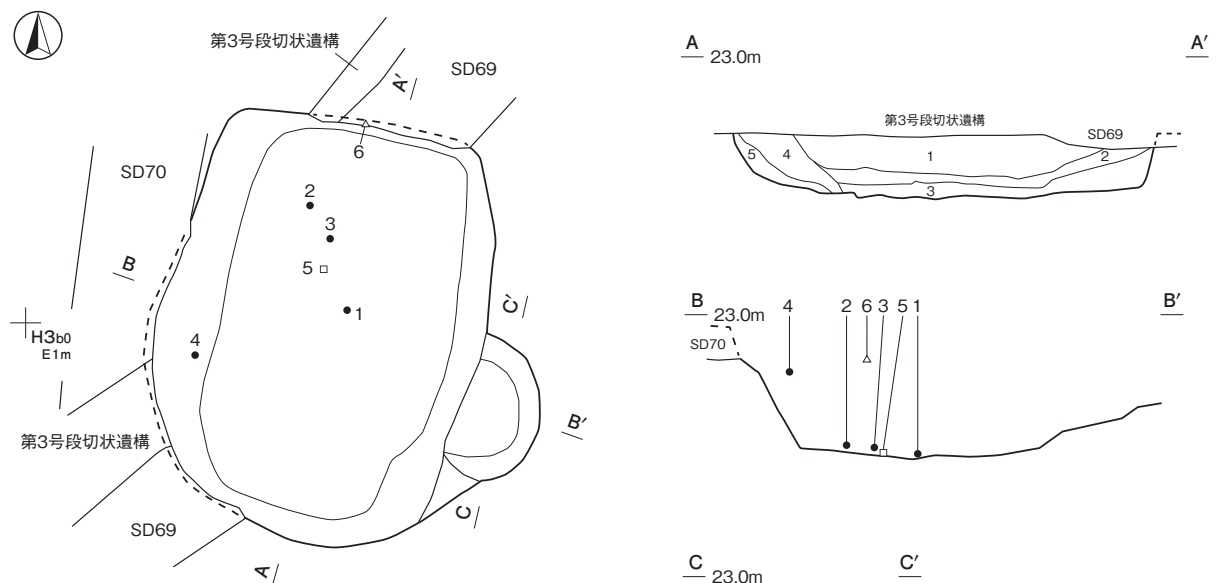


第 105 図 第 1 号地下式坑実測図

第9号地下式坑（第106図 第54表 PL18・58）

位置 調査区C区北東部のH3b0区、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

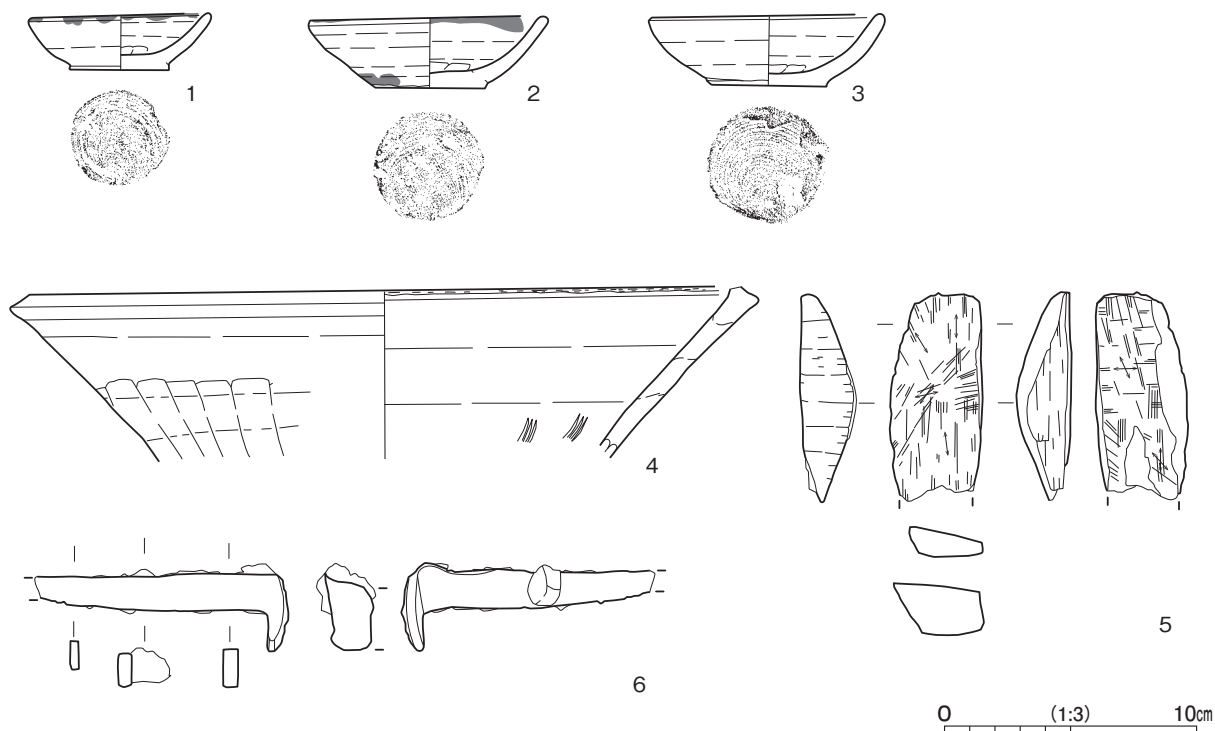
重複関係 第3号段切状遺構、第7号整地遺構、第69・70号溝に掘り込まれている。



土層解説

- | | | |
|---|------------|----------------------|
| 1 | 75YR2/1 黒 | ローム大C・中B・小A・粒A／粘C、締C |
| 2 | 75YR4/3 褐 | ローム小A・粒A／粘C、締C |
| 3 | 75YR4/3 褐 | ローム中C・小A・粒A／粘C、締C |
| 4 | 75YR5/6 明褐 | ローム大C・中C・小A・粒A／粘B、締C |
| 5 | 75YR4/3 褐 | ローム小A・粒A／粘C、締C |

0 (1:60) 2m



第106図 第9号地下式坑・出土遺物実測図

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は 3.23 m で、主軸方向は N - 75° - W である。

竪坑 主室の東壁中央部南寄りに位置している。残存する規模は奥行 0.62 m、横幅 1.08 m で、平面形は半円形と推定できる。残存する深さは 10 ～ 20cm で、壁は外傾していたと推定できる。底面は主室に向かって緩やかに下り傾斜している。

主室 残存する規模は奥行 2.54 m、横幅 3.30 m で、平面形は隅丸長方形と推測できる。確認した深さは 50cm で、壁は外傾している。竪坑と主室の境には 20cm ほどの段差があり、底面はほぼ平坦である。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 16 点（皿 5、播鉢 1、甕 10）、石器 1 点（砥石）、鉄製品 1 点（錠前カ）、鉄滓 1 点が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点が出土している。1 ～ 3・5 は主室中央部から北部の覆土下層から出土している。4 は主室西部、6 は主室北壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。

第 54 表 第 9 号地下式坑出土遺物一覧（第 106 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.0	2.3	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	100% PL58 油煙付着
2	土師質土器	皿	9.4	2.9	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	100% PL58 油煙付着
3	土師質土器	皿	9.2	2.9	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	80%
4	土師質土器	播鉢	[28.2]	(6.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦・横位ナデ 内面横位ナデ・櫛歯状工具による 3 条一単位の播目	覆土上層	10%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
5	砥石	(8.2)	3.7	2.2	(69.75)	凝灰岩	両面多方向の研磨痕 側面削り痕	覆土下層	PL58

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
6	錠前カ	(10.1)	3.5	0.3 ～ 0.6	(34.98)	鉄	一枚板 側面折り曲げ加工 断面長方形 裏面中央部支柱貼付	覆土上層	PL58

第 12 号地下式坑（第 107 図 第 55 表 PL18）

位置 調査区 C 区南西部の K 2 b7 区、標高 23 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2954 号土坑、第 148 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した軸長は 3.06 m で、主軸方向は N - 5° - W である。

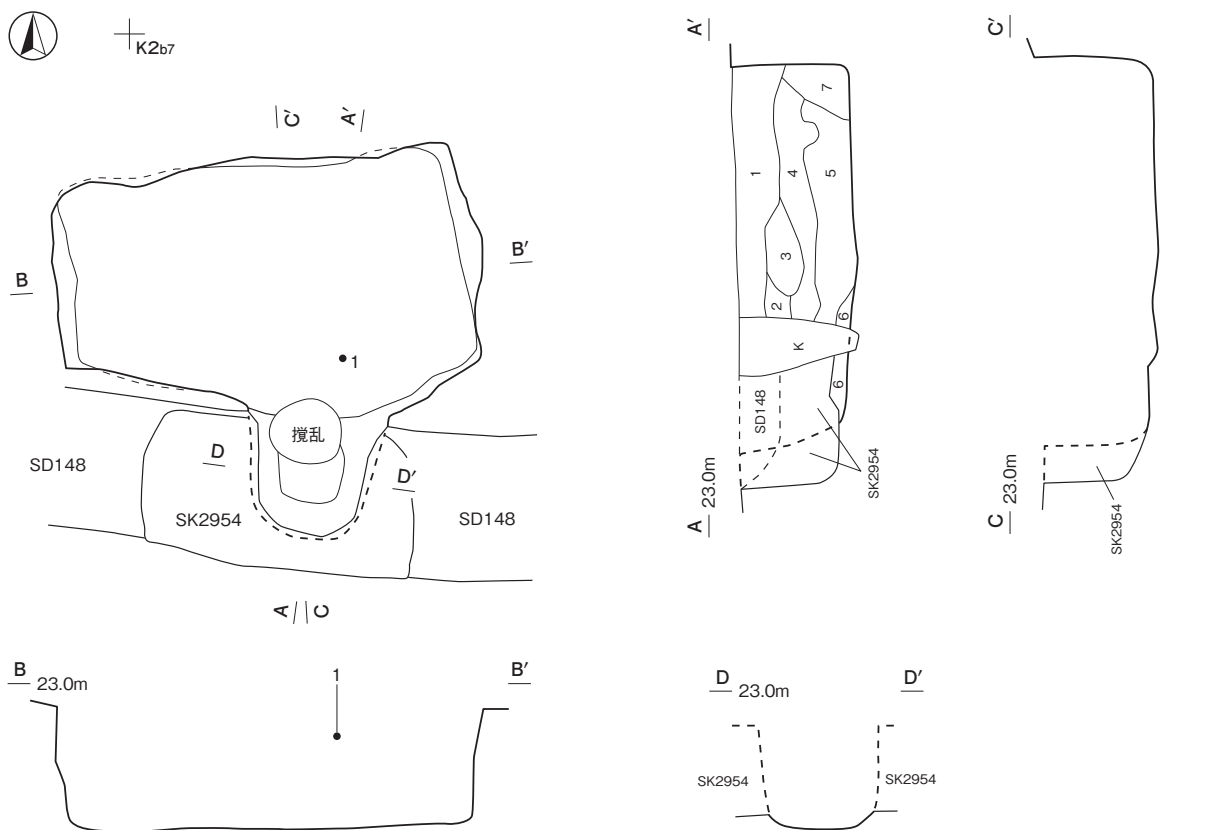
竪坑 主室の南壁中央部東寄りに位置している。残存する規模は奥行 1.00 m、横幅 0.84 m で、平面形は隅丸長方形と推定できる。残存する深さは 84cm、壁は直立していたと推測できる。底面は主室に向かって緩やかに下り傾斜している。

主室 奥行 2.06 m、横幅 3.34 m の不整な長方形である。深さは 96cm で、壁は直立している。底面はほぼ平坦で、竪坑との高低差はみられない。

覆土 7 層に分層できる。第 1 ～ 4 層は各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第 5 ～ 7 層は大型のロームブロックを含んでいることから、天井部の崩落土と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片 6 点（皿 1、内耳鍋 5）が出土している。ほかに混入した土師器片 15 点、須恵器片 8 点が出土している。1 は主室南部の覆土上層から出土している。

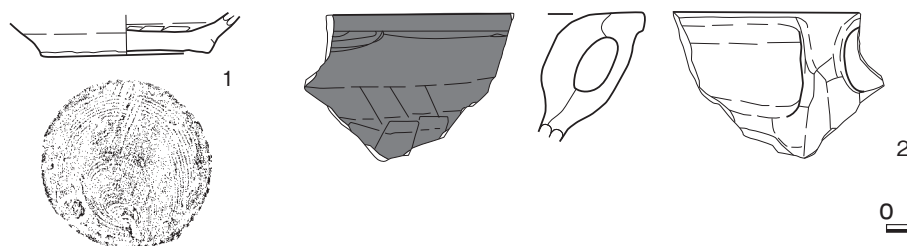
所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中C・小C・粒C、炭化粒D／粘C、締C |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム中A・小A・粒A／粘B、締C |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小D・粒C、炭化粒D／粘C、締C |
| 4 | 10YR4/6 | 褐 | ローム大B・粒A'／粘A、締B |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム大A'／粘A、締A |
| 6 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中B・小A・粒A／粘A、締A |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム大C・中B・小B・粒A'／粘B、締C |

0 (1:60) 2m



0 (1:3) 10cm

第 107 図 第 12 号地下式坑・出土遺物実測図

第 55 表 第 12 号地下式坑出土遺物一覧（第 107 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	—	(16)	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロナデ 底部回転条切り 内面ナデ	覆土上層	30%
2	土師質土器	内耳鍋	—	(5.8)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 内面耳部貼付 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5% 煤付着

第 14 号地下式坑（第 108・109 図 第 56 表 PL18）

位置 調査区 C 区南部の K 3b2 区、標高 23 m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 軸長は 3.60 m で、主軸方向は N - 10° - W である。

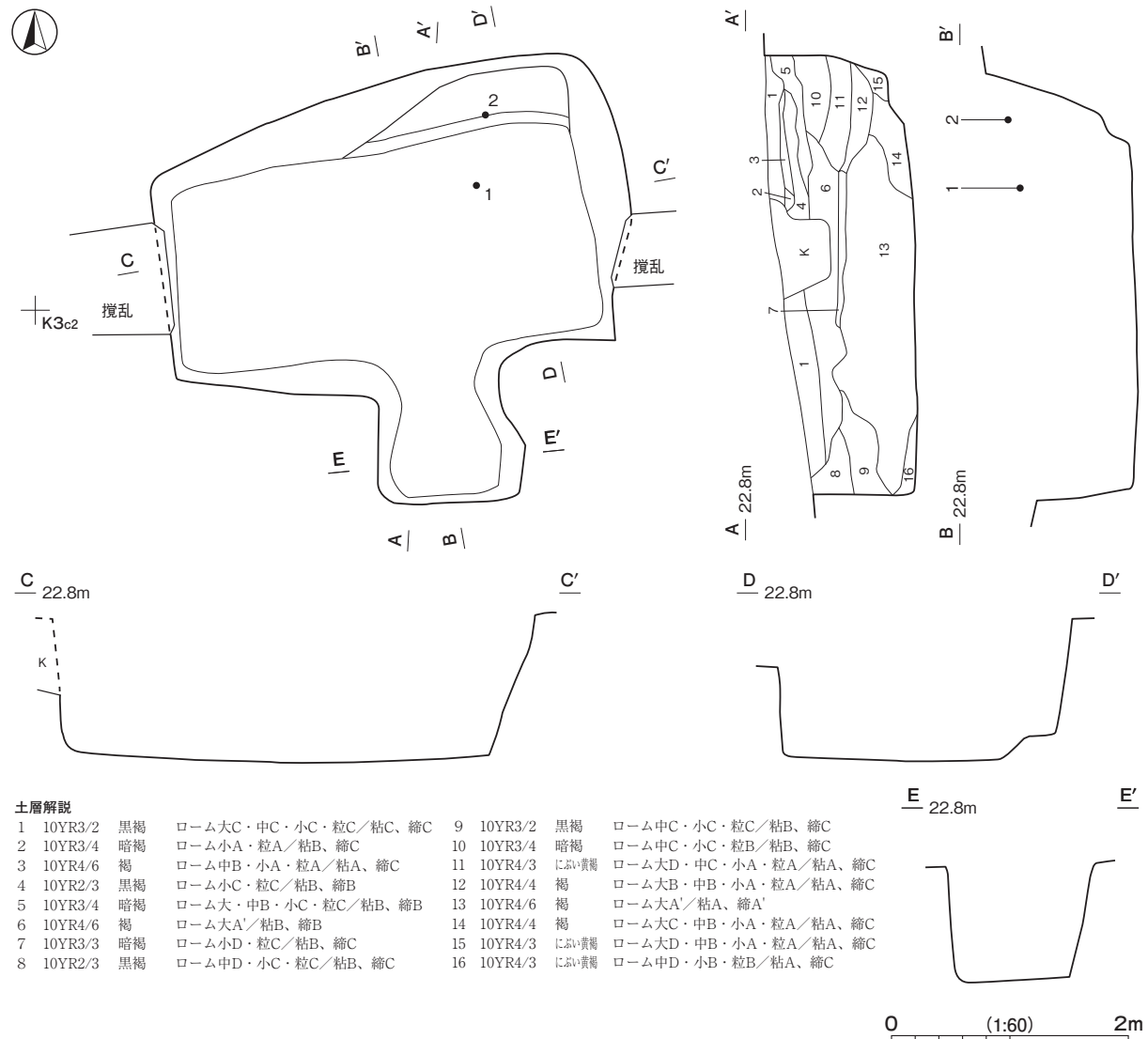
竪坑 主室の南壁中央部に位置し、奥行 1.04 m、横幅 1.26 m の隅丸方形である。深さは 84cm で、壁は直立している。底面は平坦である。

主室 奥行 2.40 m、横幅 4.00 m の隅丸長方形である。深さは 124cm で、壁は外傾している。底面は平坦で、竪坑との高低差はみられない。北壁東側に長さ 1.70 m、幅 0.30 m ほどの段を有している。底面からは 10 ～ 20cm ほど高くなっている。

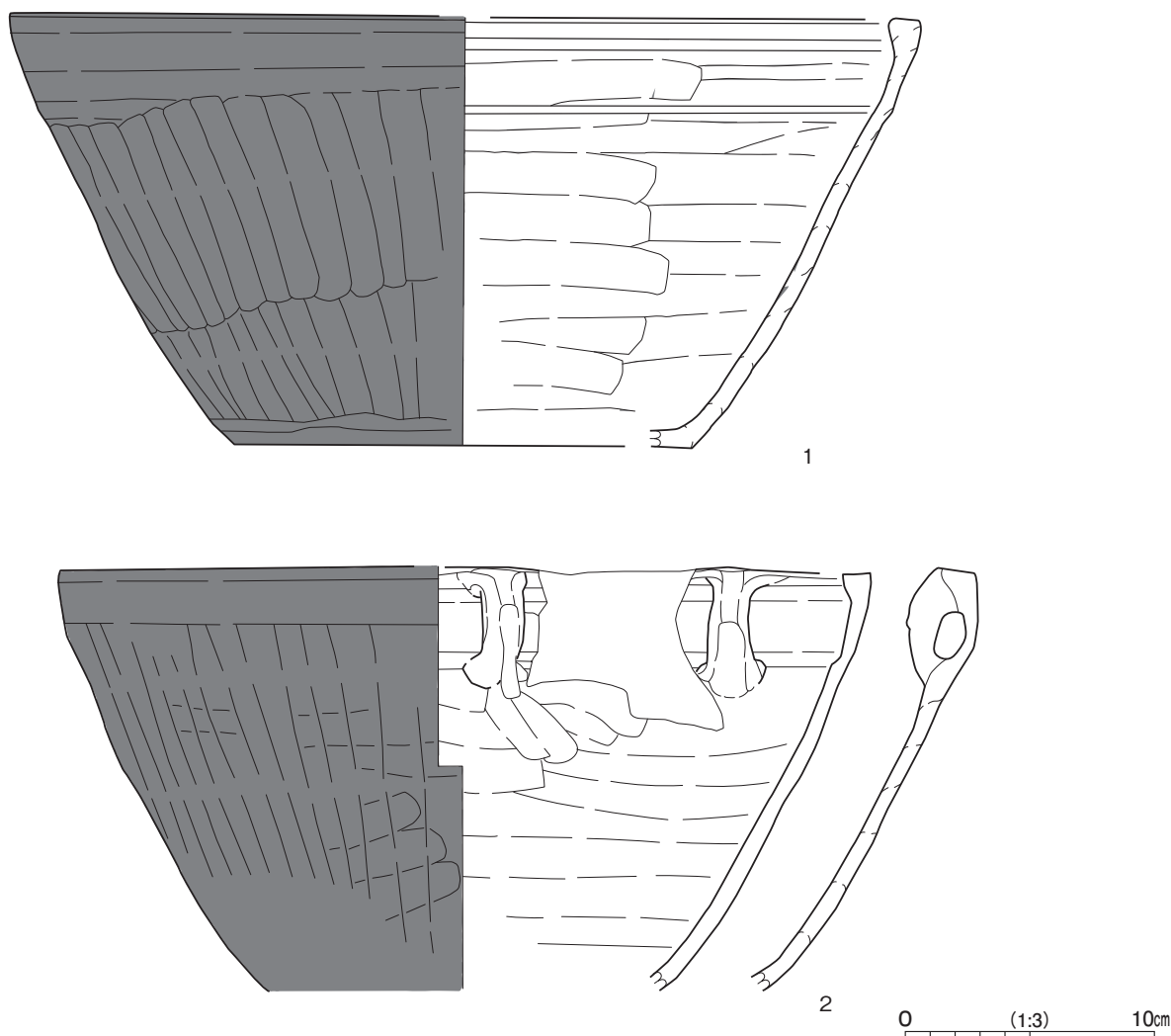
覆土 16 層に分層できる。第 1 ～ 12 層は各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第 13 ～ 15 層は大型のロームブロックを多く含んでいることから、天井部の崩落土である。第 16 層は竪坑からの流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片 30 点（内耳鍋）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、須恵器片 1 点が出土している。1・2 は主室北東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 108 図 第 14 号地下式坑実測図



第 109 図 第 14 号地下式坑・出土遺物実測図

第 56 表 第 14 号地下式坑出土遺物一覧（第 109 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	[36.4]	17.2	[18.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 内面返し成形 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	20% 煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	[32.6]	(17.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 内面返し成形 耳部貼付け 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	30% 煤付着

第 15 号地下式坑（第 110 図 第 57 表 PL18）

位置 調査区 C 区南部の K 2 b0 区、標高 23 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 重複している第 1293 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 軸長は 3.50 m で、主軸方向は N - 4° - E である。

竪坑 主室の南壁東端部に位置している。規模は奥行が 1.12 m、残存する横幅が 1.36 m で、平面形は隅丸長方形と推定できる。深さは 92cm で、壁は直立している。底面は平坦である。

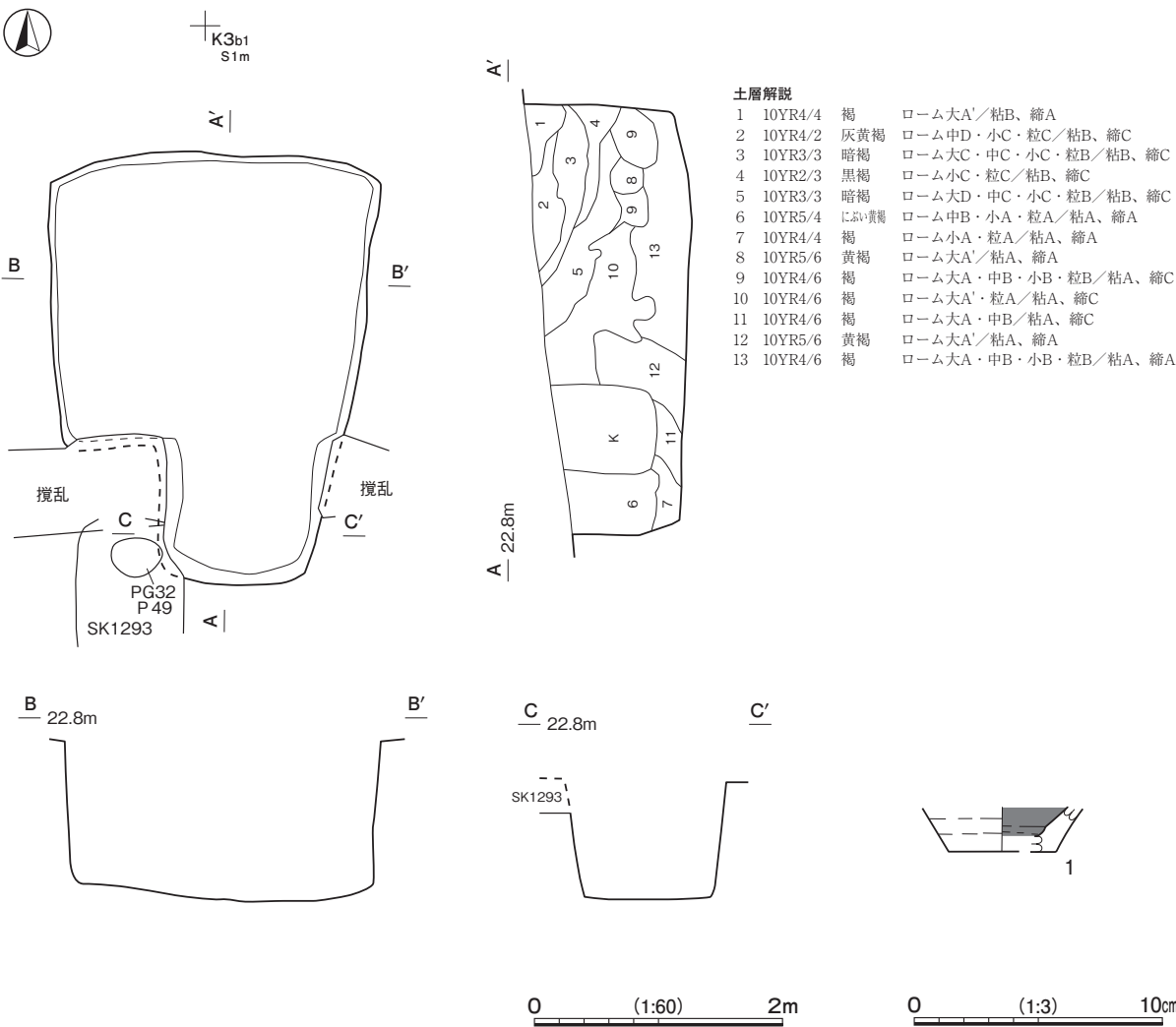
主室 奥行 2.38 m で、横幅 2.50 m の不整な方形である。深さは 128cm で、壁は直立している。底面は平坦で、竪坑との高低差はみられない。

覆土 13 層に分層できる。第 1 ～ 7 層は各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

第 11 ～ 13 層は各層に大型のロームブロックを多く含んでいることから、天井部の崩落土である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 110 図 第 15 号地下式坑・出土遺物実測図

第 57 表 第 15 号地下式坑出土遺物一覧（第 110 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	－	(1.9)	[4.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	5% 煤付着

第 17 号地下式坑（第 111・112 図 第 58 表 PL18・58）

位置 調査区 C 区南西部の J 2 c4 区、標高 23 m の台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1424 号土坑、第 149 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した軸長は 3.44 m で、主軸方向は N－88°－W である。

竪坑 主室の東壁中央部に位置している。規模は奥行が 1.20 m、残存する横幅が 1.40 m で、平面形は隅丸長方形である。深さは 134cm で、壁は直立している。底面は平坦である。

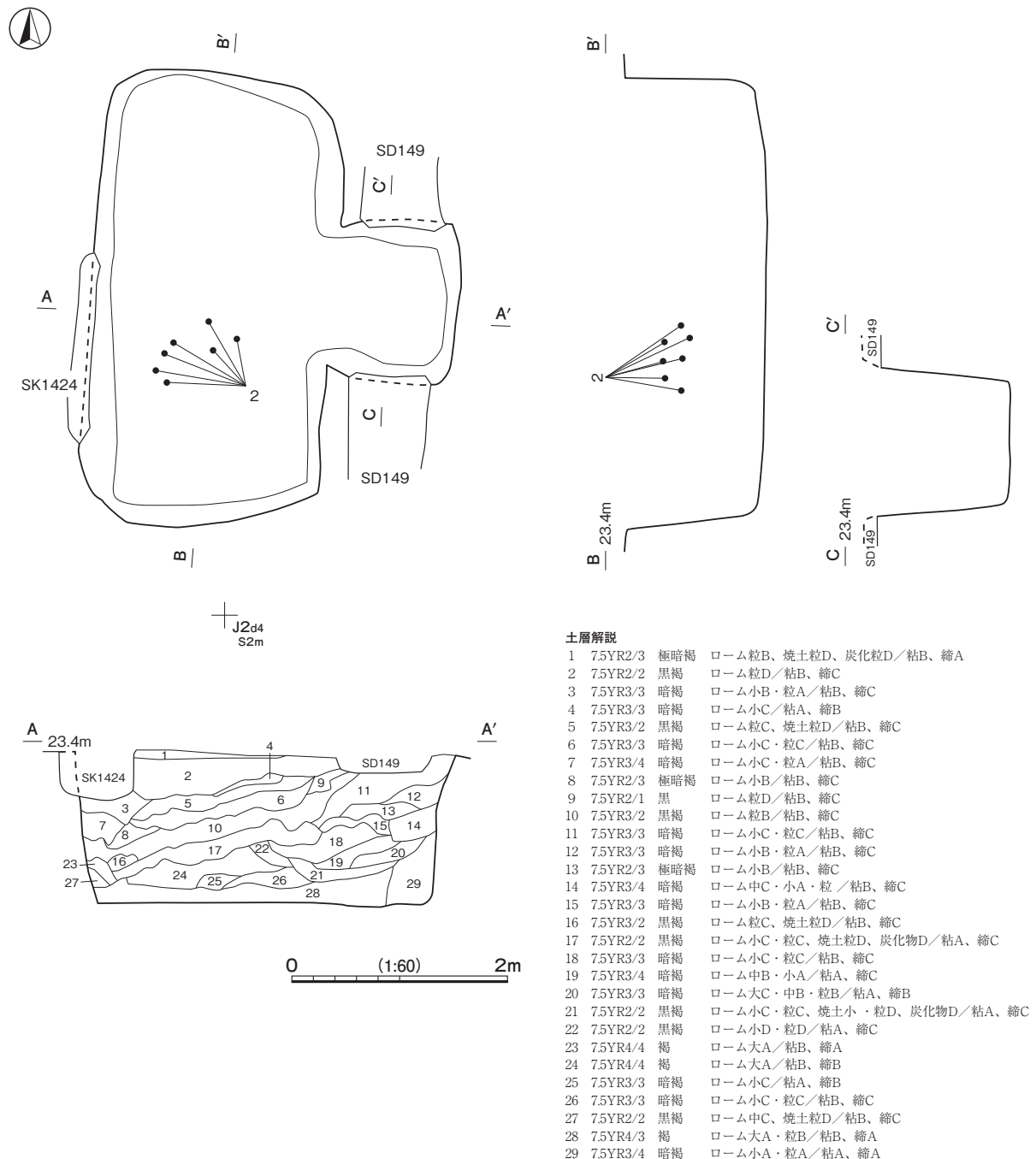
主室 規模は残存する奥行が 2.24 m、横幅が 4.20 m で、平面形は隅丸長方形である。深さは 134cm で、壁は

ほぼ直立している。底面は平坦で、主室との高低差はみられない。

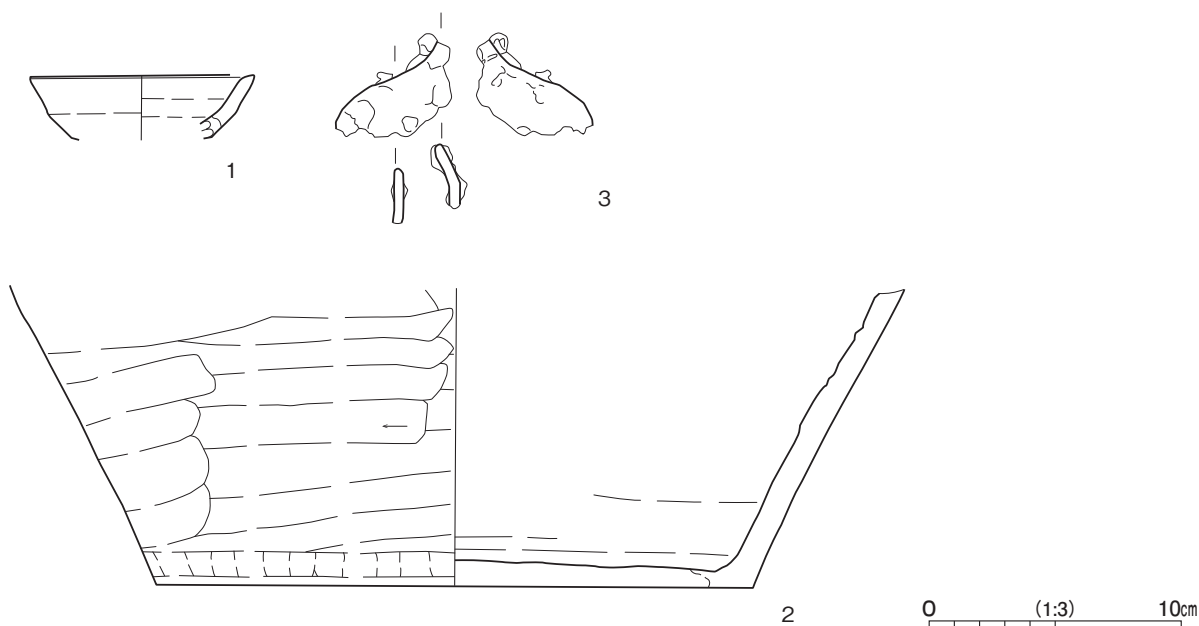
覆土 29層に分層できる。第1・2層はローム粒子を均質に含み、周囲から流入する堆積状況から自然堆積である。第3～27層は各層にロームブロックやローム粒子、焼土ブロックなどを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第28層は大型のロームブロックを多く含むことから、天井部の崩落土である。第29層は小型のロームブロックやローム粒子を多く含み、流入する堆積状況から竪坑壁の崩落土が混じる自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片 10点（皿1、内耳鍋2、甕7）、鉄製品1点（火打金カ）、椀状滓1点（11.95g）が出土している。2は主室中央部から北西寄りの覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第111図 第17号地下式坑実測図



第 112 図 第 17 号地下式坑出土遺物実測図

第 58 表 第 17 号地下式坑出土遺物一覧（第 112 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.0]	(2.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土	10%
2	土師質土器	甕	—	(11.8)	23.7	長石・石英・雲母	赤褐	普通	外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層・中層	40% PL58

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
3	火打金カ	(4.1)	(4.6)	0.4	(20.10)	鉄	鎌部欠損 把手部山形	覆土	

第 19 号地下式坑（第 113 図 第 59 表 PL19・58）

位置 調査区 C 区南西部の I 2 j6 区、標高 23 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 166 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は 5.00 m で、主軸方向は N - 3° - W である。

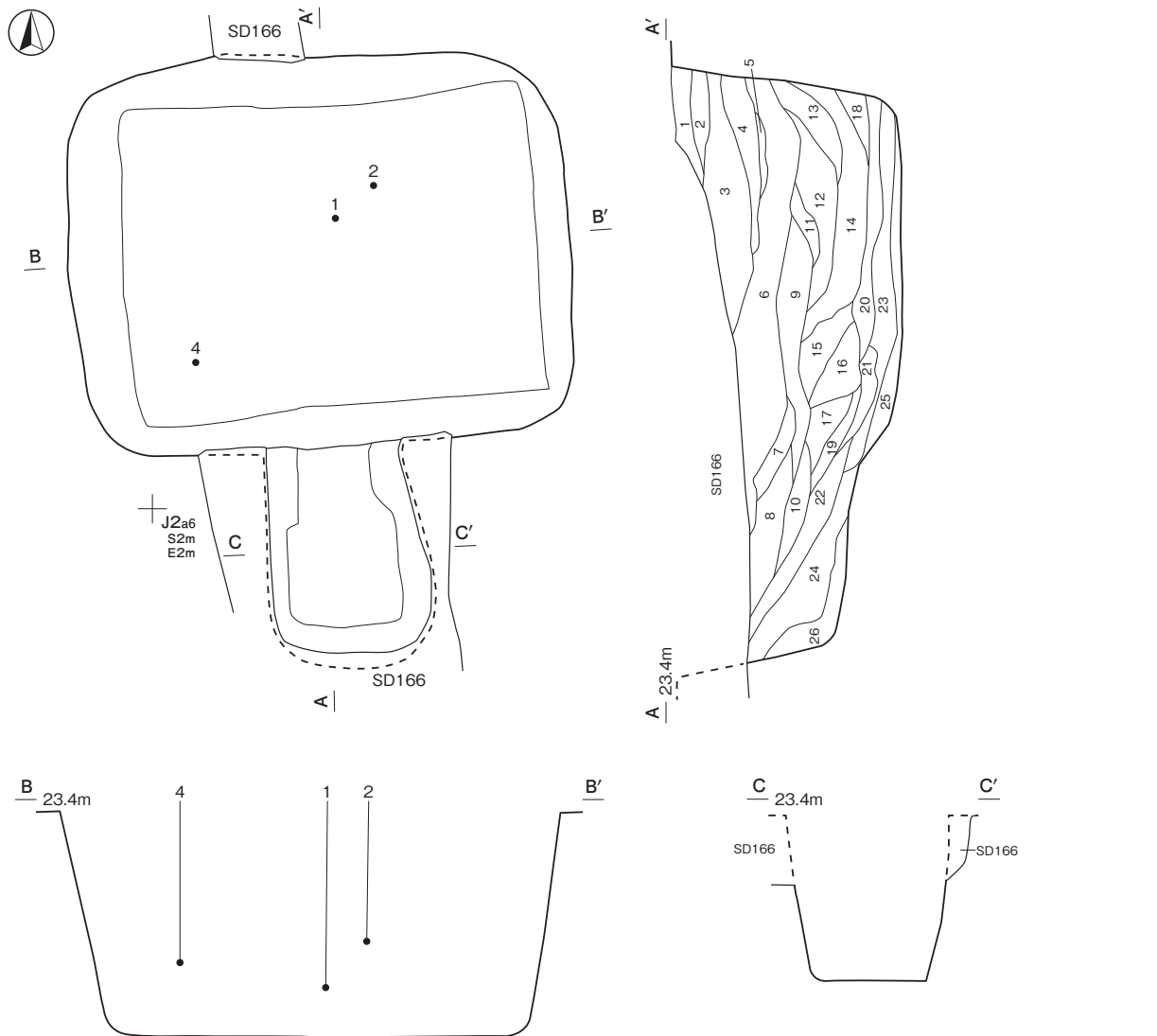
竪坑 主室の南壁中央部に位置している。残存する規模は奥行 1.74 m、横幅 1.30 m で、平面形は隅丸長方形と推測できる。深さは 145cm と推測でき、壁は外傾している。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 奥行 3.26 m、横幅 4.18 m の隅丸長方形である。深さは 188cm で、壁は外傾している。竪坑と主室の境には 30cm ほどの段差があり、底面は平坦である。

覆土 26 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器 4 点（皿）、陶器片 1 点（鉢カ）、自然遺物 88 点（馬歯）が出土している。1 は主室中央部付近の覆土下層、2 は主室中央部北東寄りの覆土中層、4 は主室南西部の覆土下層から、それぞれ出土している。馬歯は覆土中層から出土している。

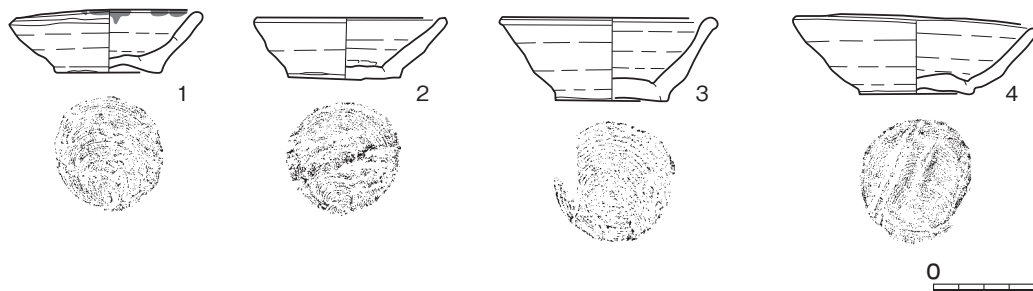
所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



土層解説

1 7.5YR3/1 黒褐	ローム中D／粘B、締B	14 7.5YR3/4 暗褐	ローム小D・粒D／粘B、締B
2 7.5YR3/2 黒褐	ローム小C・粒C／粘B、締B	15 7.5YR3/1 黒褐	ローム小・粒D／粘B、締B
3 7.5YR5/4 にふい褐	ローム中C・小A／粘B、締B	16 7.5YR3/4 暗褐	ローム粒B／粘B、締B
4 7.5YR4/4 褐	ローム中・小D・粒A／粘B、締B	17 7.5YR3/3 暗褐	ローム中・小D・粒B／粘B、締B
5 7.5YR4/4 褐	ローム小A・粒C／粘B、締B	18 7.5YR4/4 褐	ローム中・小A／粘B、締B
6 7.5YR4/3 褐	ローム小D・粒A／粘B、締B	19 7.5YR2/3 極暗褐	ローム小・粒B／粘B、締B
7 7.5YR2/2 黒褐	ローム中C・小C・粒C／粘B、締B	20 7.5YR2/3 黒褐	ローム中・小D／粘B、締B
8 7.5YR3/3 暗褐	ローム小B・粒B／粘B、締B	21 7.5YR2/3 極暗褐	ローム小D・粒B／粘B、締B
9 7.5YR3/3 暗褐	ローム中C・小B・粒C／粘B、締B	22 7.5YR2/3 極暗褐	ローム粒D／粘B、締B
10 7.5YR4/2 灰褐	ローム中D・小C・粒B／粘B、締B	23 7.5YR4/4 褐	ローム小C・粒B／粘B、締B
11 7.5YR3/2 黒褐	ローム小D／粘B、締B	24 7.5YR2/3 極暗褐	ローム中・小D・粒C／粘B、締B
12 7.5YR3/1 黒褐	ローム小A／粘B、締B	25 7.5YR2/3 極暗褐	ローム小・粒D／粘B、締B
13 7.5YR4/4 褐	ローム中D・小A／粘B、締B	26 7.5YR3/3 暗褐	ローム小・粒B／粘B、締B

0 (1:60) 2m



0 (1:3) 10cm

第113図 第19号地下式坑・出土遺物実測図

第 59 表 第 19 号地下式坑出土遺物一覧（第 113 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.7	2.5	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL58 油煙付着
2	土師質土器	皿	7.5	2.4	4.3	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土下層	95% PL58
3	土師質土器	皿	8.4	3.3	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	90% PL58
4	土師質土器	皿	9.4	3.2	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	95% PL58

第 26 号地下式坑（第 114・115 図 第 60 表 PL19・58・59）

位置 調査区 C 区東部の I 4j7 区、標高 22 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 167 号井戸、第 2033・2035 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は 2.70 m で、主軸方向は N - 22° - W である。

竪坑 主室の南壁中央部東寄りに位置している。残存している部分がほとんどないため、規模や形状は横幅 1.22 m のほかは不明である。深さは 108cm で、残存している底面は平坦である。

主室 奥行 2.70 m、横幅 4.20 m の長方形である。深さは 105cm で、壁は、内傾している西壁を除いて、直立もしくは外傾している。底面は竪坑に向かって傾斜している。北壁に張り出し部 2 基を確認した。張り出し部 1 は北壁西端部寄りに構築されている。奥行 1.20 m、横幅 1.60 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 33° - W である。深さは 80cm で、壁は外傾している。底面は平坦で、主室に向かって緩やかに傾斜している。張り出し部 2 は北壁中央部東寄りに構築されている。奥行 1.90 m、横幅 1.46 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 0° である。深さは 54cm で、壁は外傾している。底面は平坦で、主室に向かって緩やかに傾斜している。

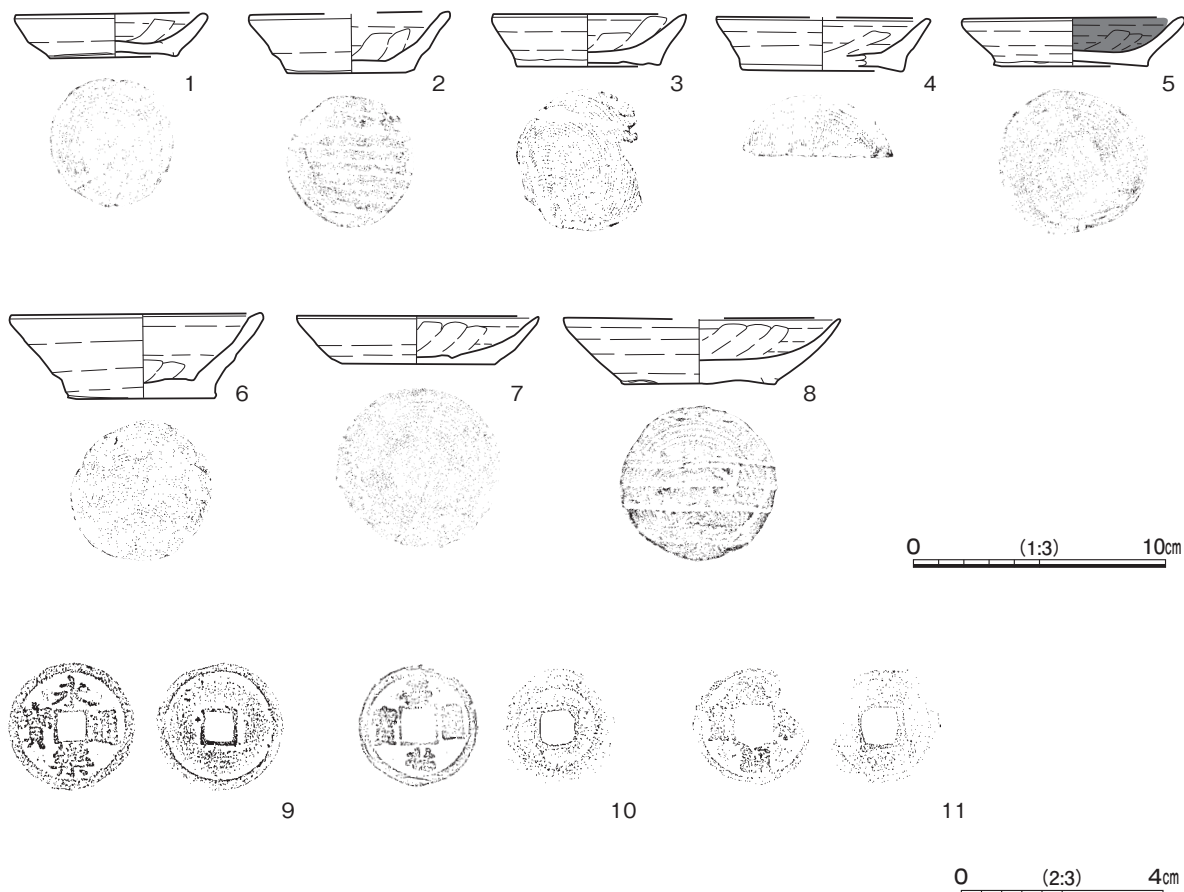
覆土 34 層に分層できる。第 1・2 層はローム粒子を均質に含み、周囲から流入する堆積状況から自然堆積である。第 3～33 層はロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。第 34 層は大型のロームブロックを含むことから、天井部の崩落土と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片 70 点（皿 60、掻鉢 4、内耳鍋 5、甕 1）、陶器片 9 点（皿 2、碗 1、瓶 3、片口鉢 1、甕 2）、土製品 6 点（羽口 1、焼成粘土塊 5）、銭貨 7 点が出土している。そのほか混入した土師器片 21 点、須恵器片 4 点、磁器片 1 点が出土している。1・4・6・11 は主室南東域、2・3・5 は西壁際、7・8 は主室北東域、10 は主室南部竪坑寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。

第 60 表 第 26 号地下式坑出土遺物一覧（第 115 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.5	1.7	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	100% PL58
2	土師質土器	皿	[7.9]	2.4	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	70% 被熱痕
3	土師質土器	皿	7.5	2.1	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	80% PL58
4	土師質土器	皿	[8.2]	2.1	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	40%
5	土師質土器	皿	8.7	1.9	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	80% PL59 煤付着
6	土師質土器	皿	9.8	3.3	5.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	100% PL59
7	土師質土器	皿	9.5	1.9	6.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	100% PL59
8	土師質土器	皿	[11.0]	2.6	6.1	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	60% PL59



第 115 図 第 26 号地下式坑実測図

番号	銭 種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鑄年	特 徴	出土位置	備 考
9	永樂通寶	2.5	0.5	0.1	2.40	銅	1408	明銭 真書体 無背	覆土中層	
10	嘉祐通寶	2.3	0.6	0.1	2.25	銅	1056	北宋銭 真書体 無背	覆土中層	
11	元祐通寶カ	2.2	0.7	0.08	1.78	銅	1086	北宋銭 行書体 無背	覆土中層	

第 27 号地下式坑（第 116 図 第 61 表 PL59）

位置 調査区 C 区南部の J 3 b5 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1628・1691 号土坑、第 63B・178 号溝、第 41 号ピット群 P 5・P419 に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた軸長は 3.80 m で、主軸方向は N - 65° - E である。

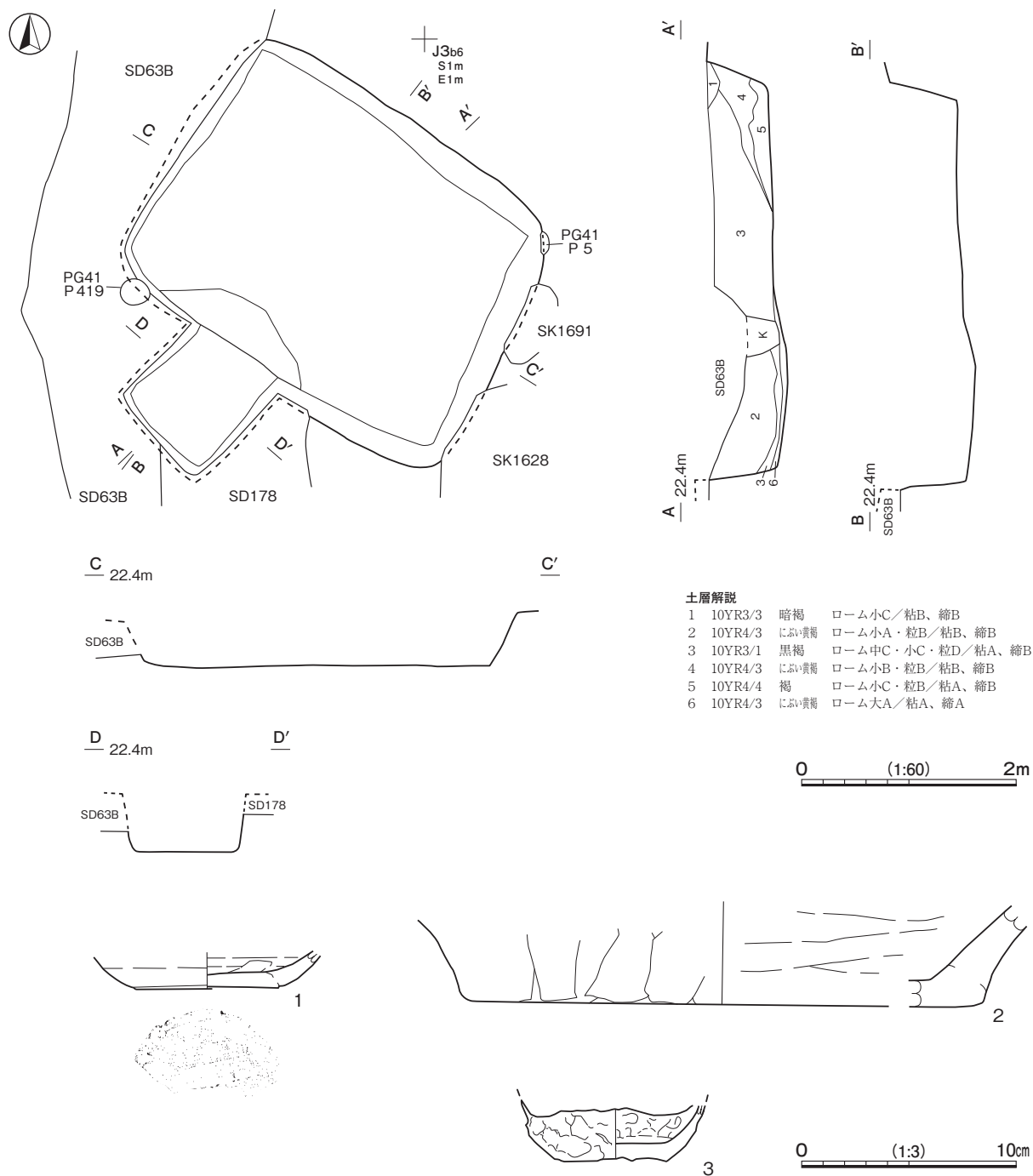
竪坑 主室の南西壁中央部北西寄りに位置し、奥行 1.06 m、横幅 1.16 m の方形と推測できる。深さは 72cm で、底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 規模は奥行が 2.74 m、残存する横幅が 3.54 m の長方形である。深さは 60cm で、壁は外傾している。竪坑と主室の境には 15cm ほどの段差があり、底面は平坦である。

覆土 6 層に分層できる。各層にロームブロックローム粒子を含み、不規則的な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 9 点（皿 1、鍋 8）、陶器片 2 点（瓶 1、捏鉢 1）、金属製品 1 点（碗形製品）、碗状滓 2 点（388.09g）が出土している。そのほか混入した土師器片 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



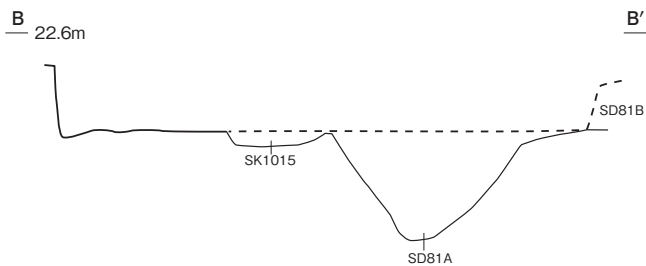
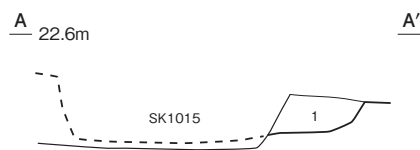
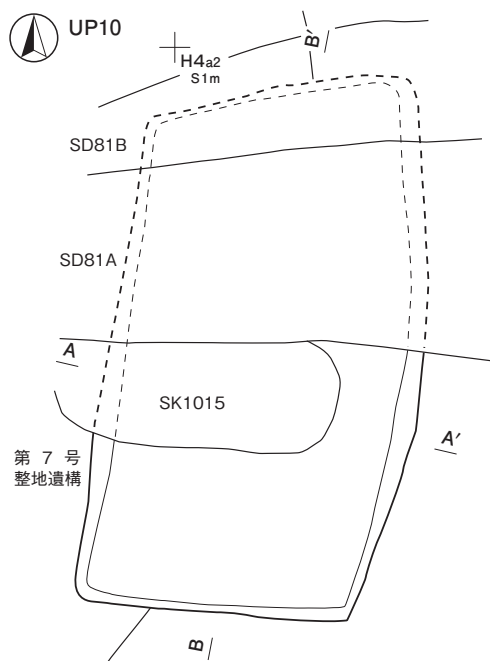
第116図 第27号地下式坑・出土遺物実測図

第61表 第27号地下式坑出土遺物一覧（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	—	(1.7)	[6.7]	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	30% 被熱痕

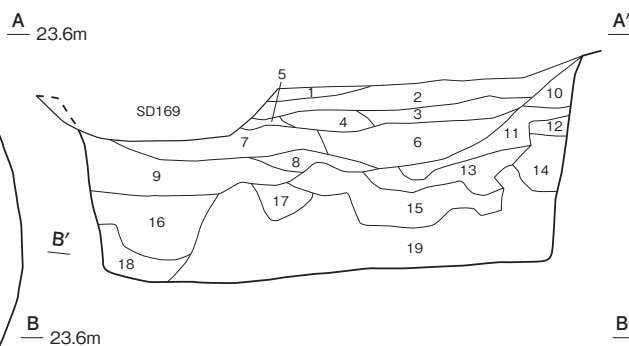
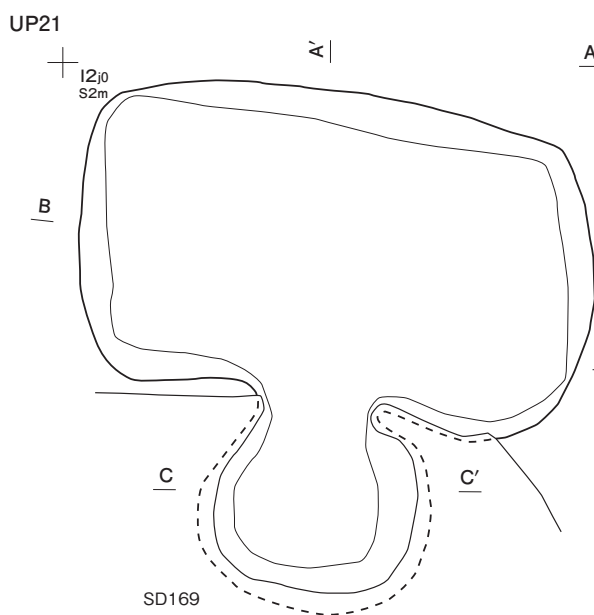
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
2	陶器	捏鉢	—	(4.8)	[22.8]	緻密・にぶい赤褐	体部外面下端削り 内面横位ナデ・ 磨耗	自然釉	常滑	覆土	10%

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	椀形製品	—	(2.9)	4.8	(137.59)	鉄	鋳造品 体部内外面研磨 底面研磨	覆土	PL59



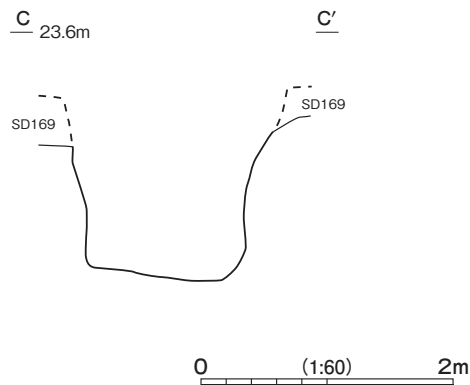
第10号地下式坑土層解説

1 7.5YR4/3 褐 ローム中C・小A・粒A／粘C、締A



第21号地下式坑土層解説

- | | | | |
|----|----------|-----|------------------------------|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム粒D／粘B、締A |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム小D・粒D、焼土粒D／粘B、締B |
| 3 | 7.5YR2/3 | 極暗褐 | ローム小D・粒C、焼土粒D／粘B、締B |
| 4 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム中D・小D・粒C／粘B、締B |
| 5 | 7.5YR2/3 | 極暗褐 | ローム小C・粒C／粘B、締B |
| 6 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム小D・粒D、焼土粒D／粘B、締B |
| 7 | 7.5YR4/3 | 褐 | ローム中D・小C・粒C／粘B、締B |
| 8 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | ローム小D・粒C／粘B、締B |
| 9 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム中D・小D／粘B、締B |
| 10 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム小D・粒A／粘B、締B |
| 11 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム中D・小D・粒D／粘B、締B |
| 12 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム大A／粘B、締A |
| 13 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム小B・粒C／粘B、締B |
| 14 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム小B・粒A／粘B、締A |
| 15 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム大A／粘B、締A |
| 16 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム中C・小C・粒B／粘B、締B |
| 17 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム中B・小C・粒D、焼土中D・小D・粒C／粘B、締C |
| 18 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒C／粘B、締B |
| 19 | 7.5YR4/3 | 褐 | ローム大A・中C／粘B、締C |

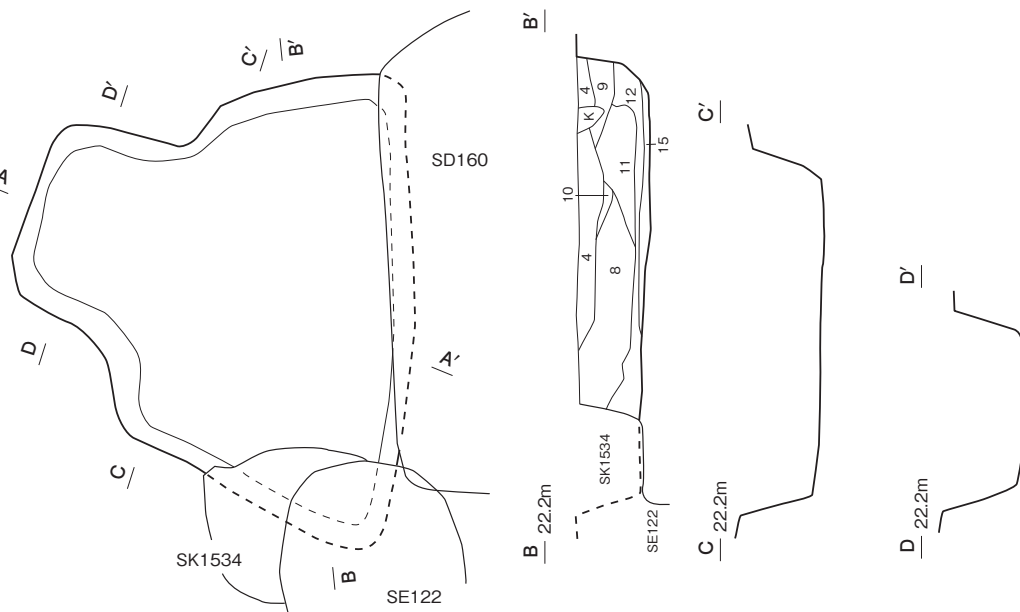


0 (1:60) 2m

第 117 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図 (1)



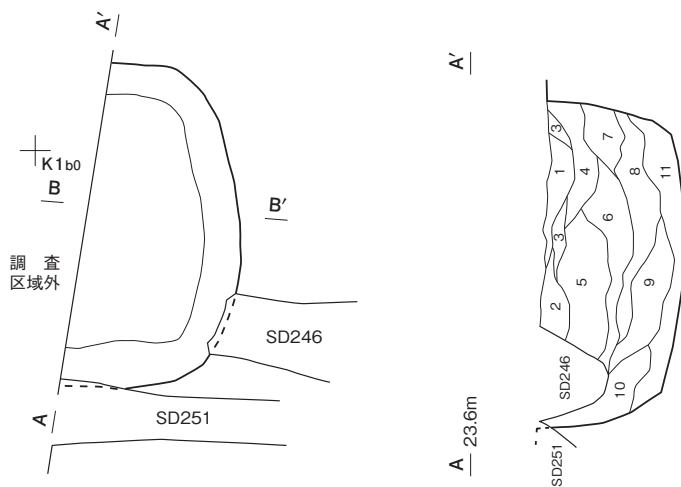
UP25

K3b7
S2m
E2m

第25号地下式坑土層解説

- | | | | |
|----|----------|-----|----------------------|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム小C・粒C/粘B、締B |
| 2 | 7.5YR2/3 | 極暗褐 | ローム小C・粒B/粘B、締B |
| 3 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム大C・中C・小B・粒A/粘A、締B |
| 4 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム粒A'、白色粘土中C/粘B、締B |
| 5 | 7.5YR3/4 | 暗褐 | ローム中D・小C・粒B/粘A、締B |
| 6 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム小B・粒D、焼土粒D/粘A、締B |
| 7 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム大C・中C・小C・粒B/粘B、締C |
| 8 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム中B・粒A/粘B、締C |
| 9 | 7.5YR4/6 | 褐 | ローム粒A'/粘A、締C |
| 10 | 7.5YR4/6 | 褐 | ローム大A・粒A/粘A、締A |
| 11 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム小C・粒A/粘A、締B |
| 12 | 7.5YR4/6 | 褐 | ローム大A'/粘A、締A |
| 13 | 7.5YR4/6 | 褐 | ローム大A'・中・小C/粘A、締A |
| 14 | 7.5YR4/6 | 褐 | ローム粒A、粘土粒D/粘A、締A |
| 15 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム小B・粒A/粘A、締B |

UP28



第28号地下式坑土層解説

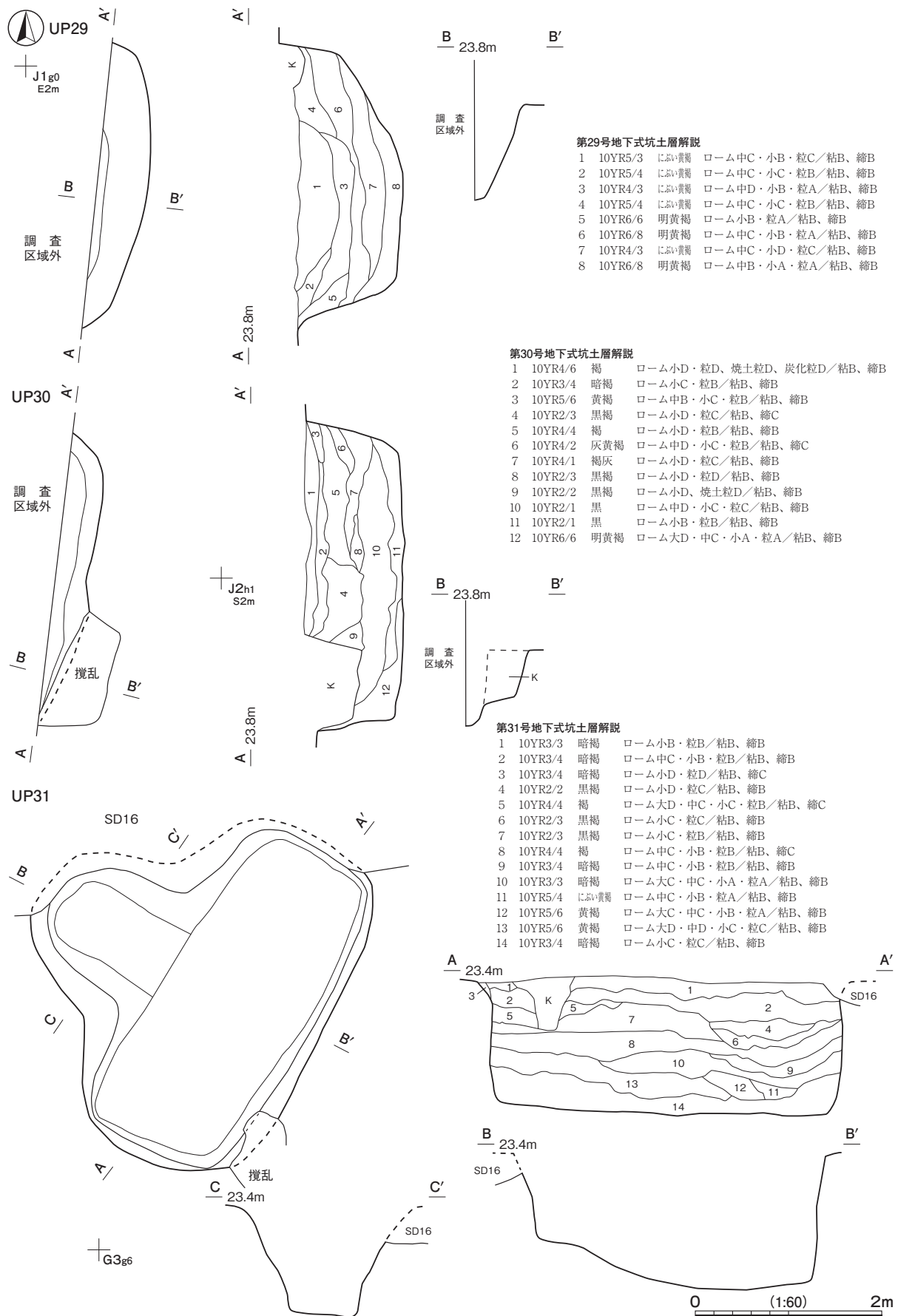
- | | | | |
|----|---------|----|---------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム中D・小C・粒C/粘B、締B |
| 2 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中D・小B・粒B/粘B、締B |
| 3 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中D・小C・粒B/粘B、締B |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム中D・小C・粒B/粘B、締B |
| 5 | 10YR4/4 | 褐 | ローム小D・粒D、焼土粒D/粘B、締B |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小D・粒C、焼土粒D/粘B、締B |
| 7 | 10YR4/4 | 褐 | ローム小C・粒B、焼土粒D/粘B、締B |
| 8 | 10YR4/4 | 褐 | ローム粒B/粘B、締B |
| 9 | 10YR4/6 | 褐 | ローム小B・粒A/粘B、締B |
| 10 | 10YR4/4 | 褐 | ローム小A・粒B/粘B、締B |
| 11 | 10YR4/6 | 褐 | ローム小A・粒A/粘B、締B |

B 23.6m

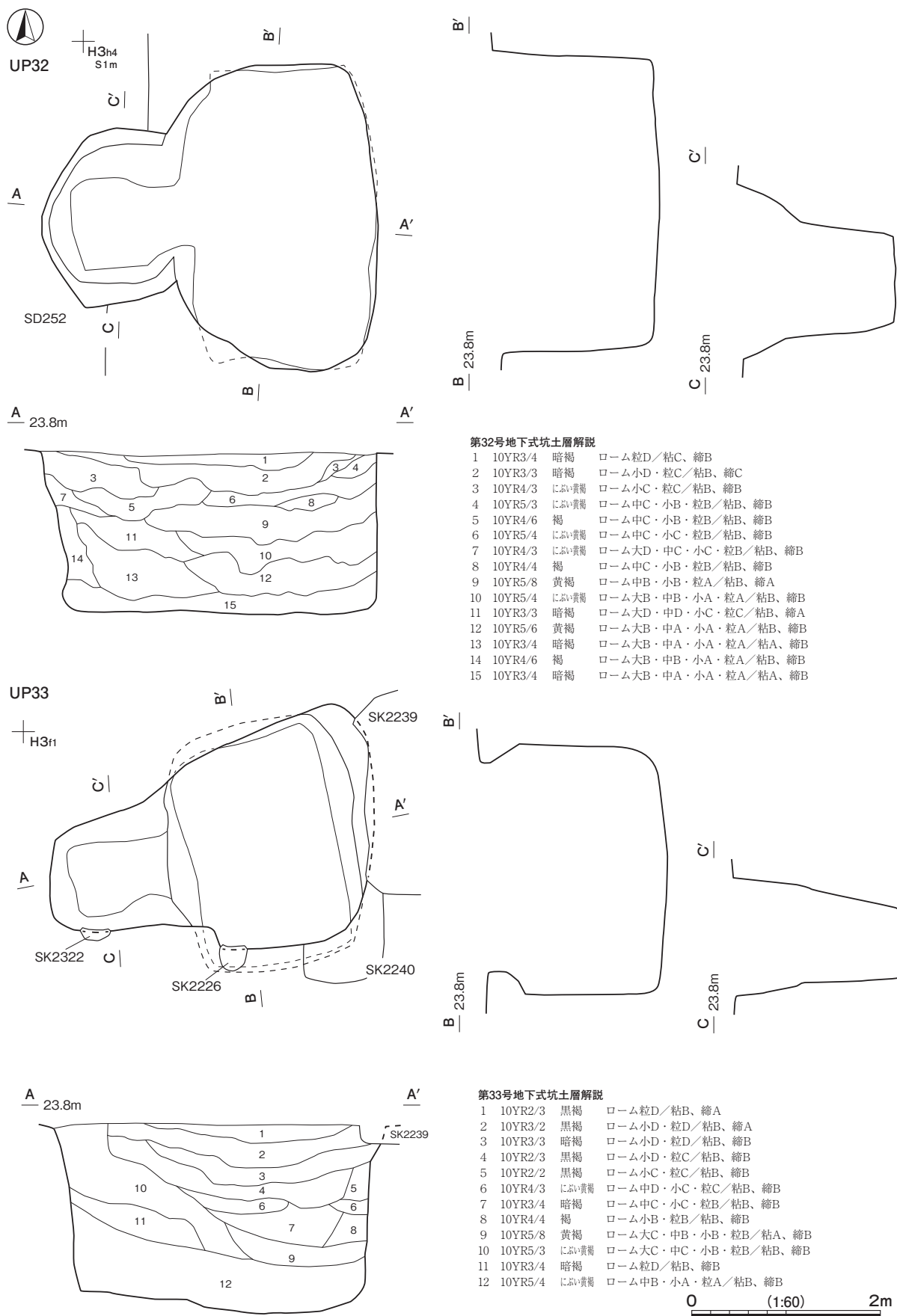
調査
区域外

0 (1:60) 2m

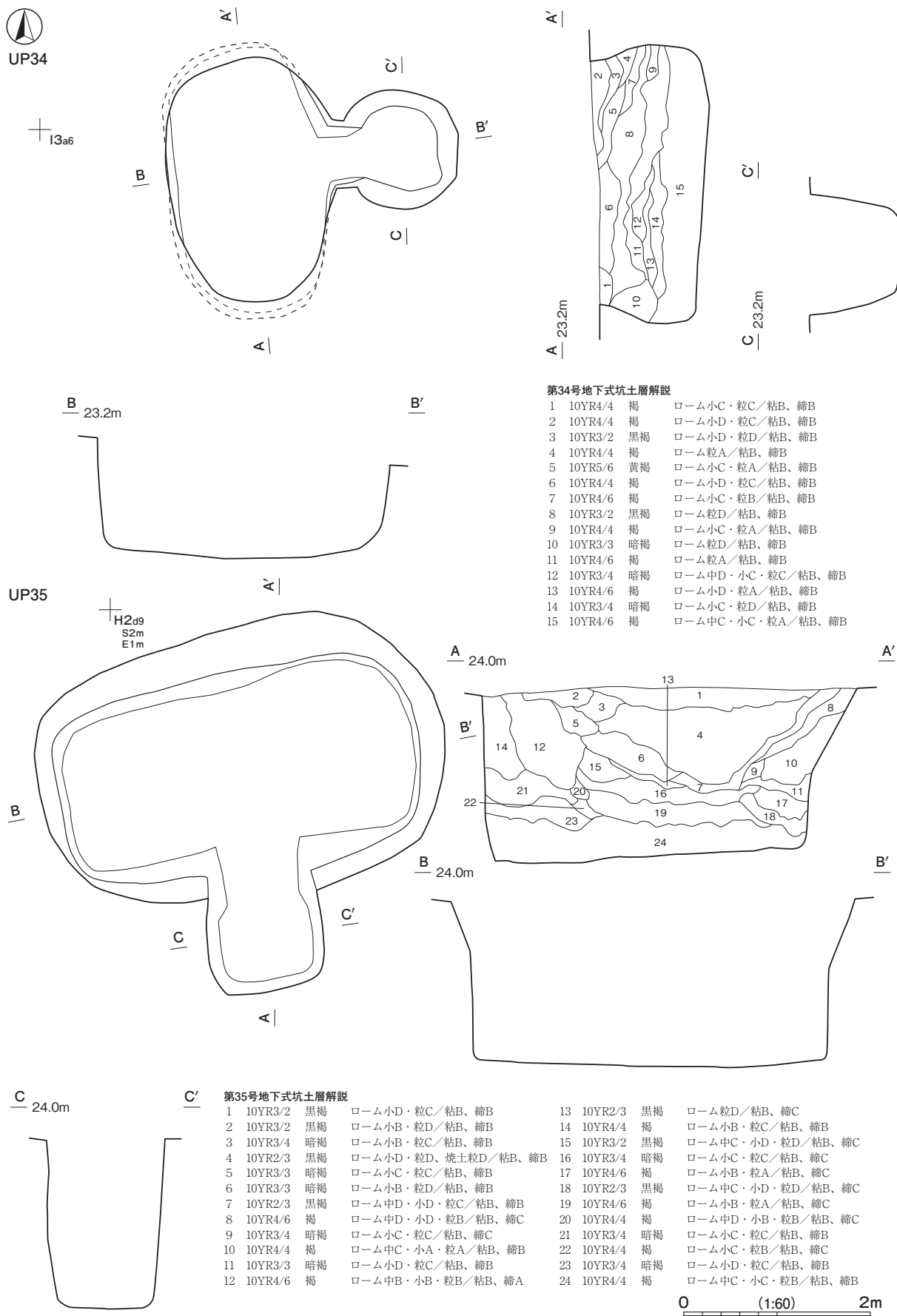
第 119 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(3)



第 120 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(4)



第 121 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(5)

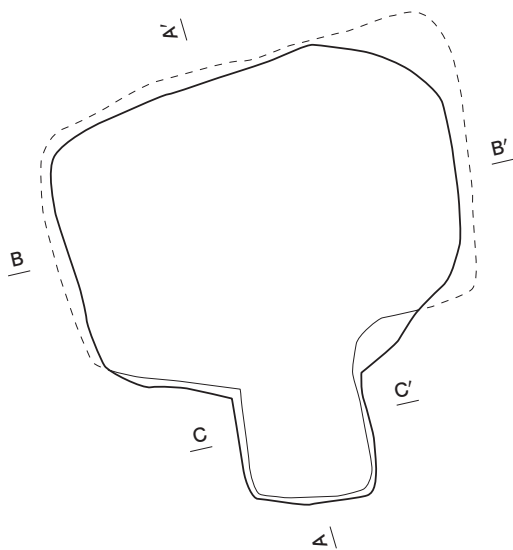


第 122 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(6)

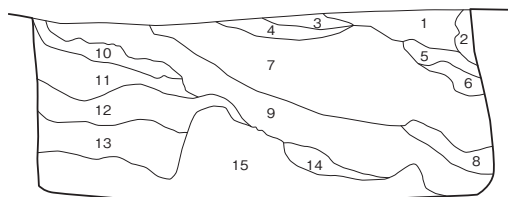


UP36

H2e6



A 23.8m

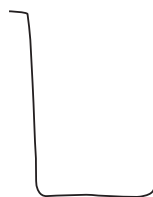


A'

第36号地下式坑土層解説

- | | | | |
|----|---------|-------|----------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小B・粒A／粘B、締B |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小B・粒A／粘B、締B |
| 3 | 10YR4/6 | 褐 | ローム大B・中B・小A・粒A／粘B、締B |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム中C・小B・粒B／粘B、締B |
| 5 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | ローム小A・粒A／粘B、締B |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中B・小B・粒B／粘B、締B |
| 7 | 10YR4/6 | 褐 | ローム大B・中A・小A・粒A／粘B、締B |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小B・粒B／粘B、締B |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒C／粘B、締B |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム中B・小B・粒A／粘B、締B |
| 11 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム大B・中B・小A・粒A／粘B、締B |
| 12 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中B・小A・粒A／粘B、締B |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム大A・中A・小A・粒A／粘B、締B |
| 14 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小B・粒A／粘B、締B |
| 15 | 10YR4/6 | 褐 | ローム小A・粒A／粘B、締A |

C 23.8m



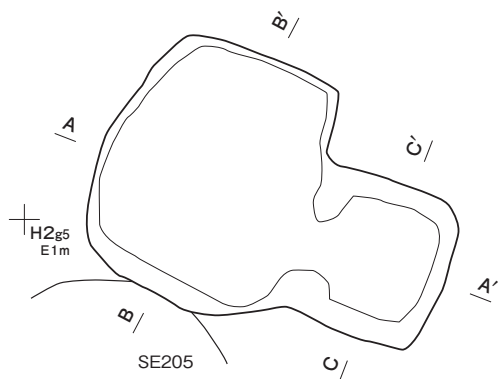
C'

B 23.8m

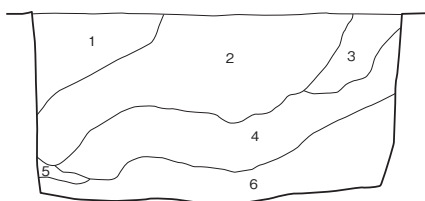


B'

UP37



A 23.8m



A'

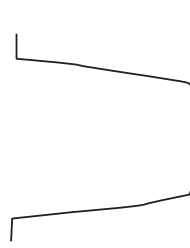
B'

B 23.8m



C'

C 23.8m



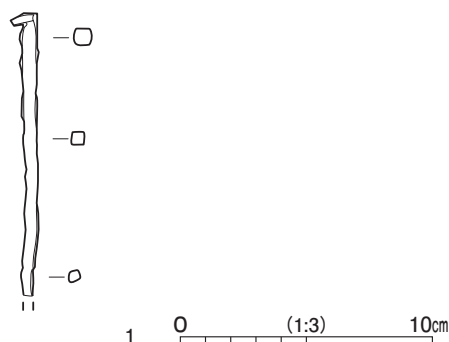
第37号地下式坑土層解説

- | | | | |
|---|---------|-------|----------------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム大B・中A・小B・粒B／粘A、締B |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム中D・小D・粒D／粘B、締C |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中C・小D・粒C／粘B、締B |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム中C・小C・粒D／粘B、締B |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小C・粒C／粘B、締B |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒D／粘A、締B |

0 (1:60) 2m

第 123 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑実測図(7)

UP21



第 124 図 室町時代から江戸時代のその他の地下式坑出土遺物実測図

第 62 表 第 21 号地下式坑出土遺物一覧（第 124 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	釘	(11.2)	1.1	0.6	(14.43)	鉄	釘頭打撃痕・扁平化 断面四角 先端部欠損	覆土	

第 63 表 室町時代から江戸時代地下式坑一覧

番号	位 置	軸方向	平面形		軸 長 (m)	堅 坑 規 模			主 室 規 模			覆 土	主な出土遺物	備 考
			堅坑	主室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
1	F 4 j1	N - 58° - W	半円形	隅丸長方形	4.02	0.60	1.34	104	3.51	3.12	124	人為	-	本跡→SD 9・13
9	H 3 a0	N - 75° - W	半円形	[隅丸長方形]	(3.23)	(0.62)	(1.08)	(10~20)	(2.54)	(3.30)	(50)	人為	土師質土器 砥石 錠前カ	本跡→第3号段切状遺構、第7号整地遺構、SD69・70
10	H 4 a2	-	-	[長方形]	-	-	-	-	2.48	4.28	50	人為	土師質土器 陶器 砥石	本跡→SD81A・B、SK1015、第7号整地遺構
11	G 4 i2	N - 8° - E	隅丸方形	[隅丸長方形]	3.80	1.20	1.72	76	2.60	(4.00)	90	人為 崩落土	陶器	
12	K 2 b7	N - 5° - W	[隅丸長方形]	長方形	(3.06)	(1.00)	(0.84)	(84)	2.06	3.34	96	人為 崩落土	土師質土器	本跡→SK2954、SD148
14	K 3 b2	N - 10° - W	隅丸方形	隅丸長方形	3.60	1.04	1.26	84	2.40	4.00	124	人為 崩落土、流入土	土師質土器	
15	K 2 b0	N - 4° - W	隅丸長方形	不整形	3.50	1.12	1.36	92	2.38	2.50	128	人為 崩落土	土師質土器	SK1293 と重複
17	J 2 c4	N - 88° - W	隅丸長方形	隅丸長方形	(3.44)	1.20	(1.40)	134	(2.24)	4.20	134	自然、人為 崩落土	土師質土器 不明鉄製品 椀状鉄	本跡→SK1424、SD149
19	I 2 j6	N - 3° - W	[隅丸長方形]	隅丸長方形	(5.00)	(1.74)	(1.30)	[145]	3.26	4.18	188	人為	土師質土器 陶器 馬歯	本跡→SD166
20	J 3 a1	N - 111° - W	隅丸長方形	長方形	(3.10)	(1.32)	(1.16)	170	1.78	4.00	170	人為 崩落土	土師質土器 陶器 羽口 椀状滓	SI116 →本跡→SD169
21	I 2 j0	N - 5° - E	[円形]	[隅丸長方形]	(4.00)	(1.58)	(1.60)	[152]	2.42	4.08	162	自然、人為 崩落土	土師質土器 陶器 釘 椀状滓	本跡→SD169
25	K 3 b8	N - 68° - W	隅丸長方形	[不整形隅丸長方形]	3.20	0.96	1.60	66	2.24	[3.68]	54	人為	土師質土器 椀状滓 鉄	本跡→SK1534、SE122、SD160
26	J 4 a7	N - 22° - W	-	長方形	(2.70)	-	1.22	108	2.70	4.20	105	自然、人為 崩落土	土師質土器 陶器 羽口 焼成粘土塊 銭貨	本跡→SE167、SK2033・2035 別室2基
27	J 3 b5	N - 65° - E	[方形]	[長方形]	(3.80)	(1.06)	[1.16]	72	2.74	(3.54)	60	人為	土師質土器 陶器 椀形製品 椀状滓	本跡→SK1628・1691、SD63A・178、PG41P5・P419
28	K 1 b0	-	-	[隅丸長方形] [隅丸方形]	-	-	-	-	2.56	(1.24)	110	人為 崩落土	-	本跡→SD246・251
29	J 1 g9	-	-	-	-	-	-	-	(2.98)	(0.55)	(110)	人為 崩落土	-	
30	J 1 h0	-	-	-	-	-	-	-	(3.18)	(0.40)	102	人為 崩落土	-	
31	G 3 f6	N - 65° - W	[隅丸方形]	[隅丸長方形]	(3.20)	(1.20)	(1.54)	98	2.00	(3.90)	146	人為	-	本跡→SD16
32	H 3 h4	N - 85° - W	楕円形	楕円形	3.55	1.40	1.85	170	2.15	3.24	170	人為 崩落土	土師質土器	SD252 →本跡
33	H 3 f1	N - 102° - W	隅丸方形	[隅丸長方形]	[3.50]	1.26	1.30	186	[2.24]	2.62	198	人為 崩落土	土師質土器	SK2240 →本跡→SK2226・2239・2322 SB38 と重複
34	I 3 a6	N - 84° - E	円形	楕円形	3.11	1.38	1.27	100	1.73	2.98	116	人為 崩落土	砥石	
35	H 2 d9	N - 174° - E	隅丸長方形	楕円形	3.89	1.28	1.25	185	2.61	4.38	178	人為 崩落土	陶器	
36	H 2 e6	N - 6° - W	隅丸方形	隅丸長方形	3.60	1.10	1.06	136	2.50	3.46	150	人為 崩落土	土師質土器 砥石	
37	H 2 f5	N - 113° - E	隅丸方形	隅丸長方形	2.93	1.10	1.28	143	1.83	[2.10]	148	人為	陶器	SE205 と重複

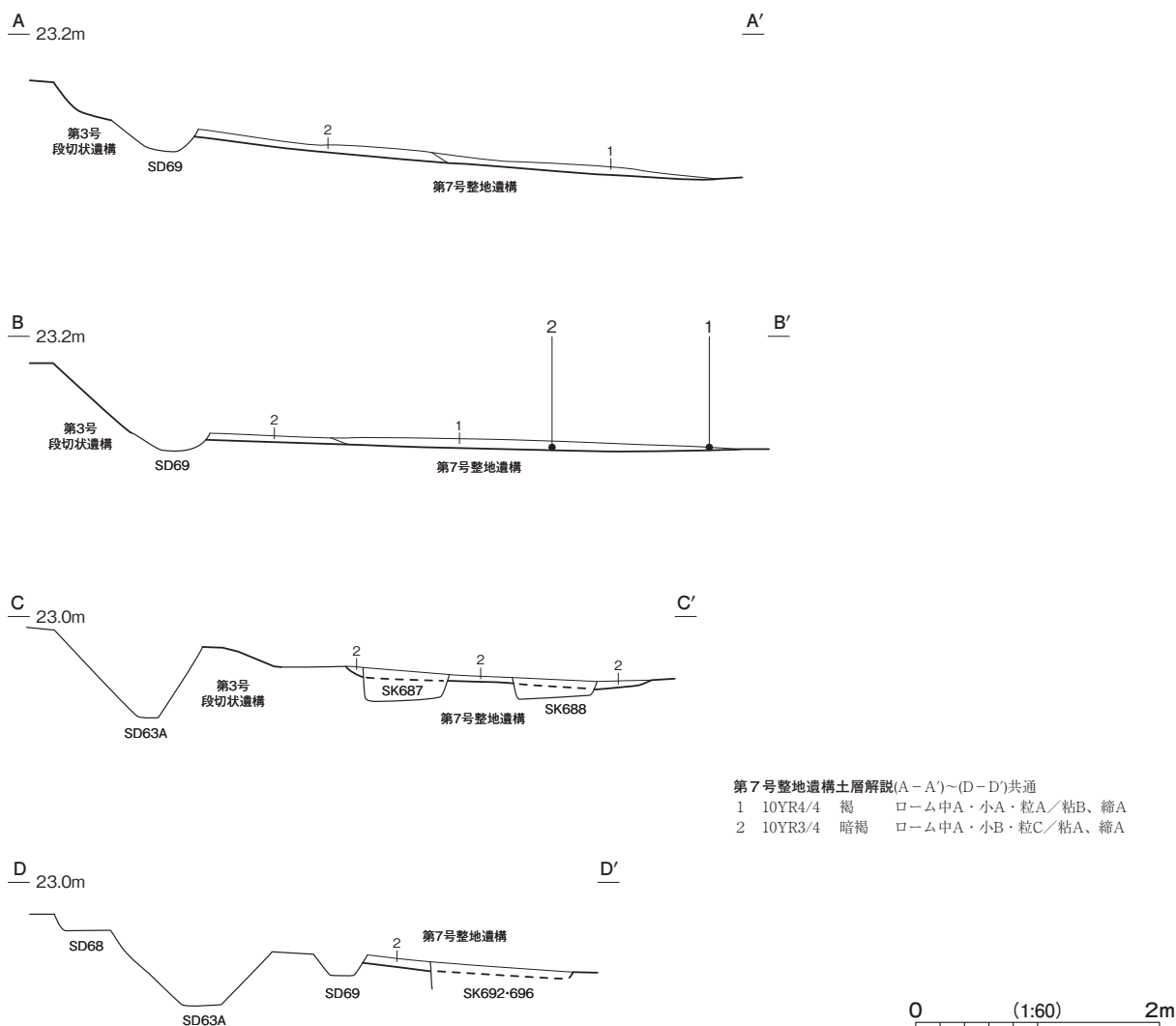
(4) 段切状遺構

第3号段切状遺構（第125・126図 PL19）

位置 調査区C区北東部のG4j2区から北部のH3e8区にかけて、標高22～23mほどの台地平坦部から緩斜面部にかけて位置している。



第125図 第3号段切状遺構・第7号整地遺構実測図(1)



第126図 第3号段切状遺構・第7号整地遺構実測図(2)

重複関係 第9号地下式坑、第70号溝跡を掘り込み、第63A・63B号溝に掘り込まれている。第69号溝は本跡の下端に沿って掘り込まれている。

規模と形状 調査区北西部から西部にかけての平坦部と調査区東域に向かって低くなっている緩斜面部の境に沿って掘削し、平坦面を構築している。H 3e8区から北東方向(N-35°-E)へ緩やかに蛇行しながら、攪乱を受けるG 4j2区まで延びている。確認できた長さは、28.6mである。壁は外傾もしくは有段で、壁高は20～60cmである。壁が最も高いH 3b9付近から、壁は北東・南西方向に向かって徐々に低くなっている。

所見 時期は、第9号地下式坑の廃絶年代や第63A・63B号溝の廃絶年代から、16世紀前葉の構築と考えられる。本跡の下端に沿って掘り込まれている第69号溝跡とは関連性が考えられ、同時期の構築年代と考えられる。

(5) 整地遺構

4 か所を確認した。このうち第7号整地遺構については、本文で説明し、その他の第4～6号整地遺構については実測図と一覧を記載する。第4号整地は第73号堀跡、79号溝跡、第5号整地は第217・225号溝跡、第6号整地遺構は第158・160・171・172・173・177溝跡の廃絶後の整地であり、覆土中には江戸時代の陶磁器や煙管が含まれている。

第7号整地遺構（第125～127図 第64表）

位置 調査区C区北東部のG4j2区から北部のH3h8区までの範囲に広がっている。標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

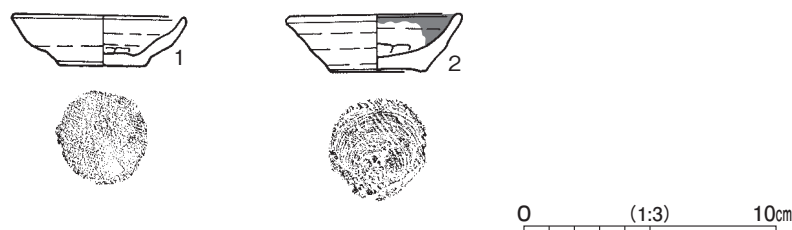
重複関係 第9・10号地下式坑の上面に構築し、第679・684・686～693・699・700～703・709・724・748・749・767・795～799・805・806・828・829・832～834・845・846・897・1015号土坑、第81A号堀、第81B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北端部に攪乱を受けるため、確認できた範囲は長さ37.4m、幅0.5～4.5mで、H3h8区からN-25°-Eの方向に弧状を呈している。層厚は5～10cmで、引き締まった第1・2層を整地し、構築してている。面積は、約130㎡である。

覆土 2層に分層できる。各層はロームブロックや粘土ブロックを含み、締まりが強い。第69号溝の北西側から、南東方向に堆積している。

遺物出土状況 土師質土器片19点（皿7、播鉢3、内耳鍋9）が出土している。ほかに混入した土師器片11点が出土している。

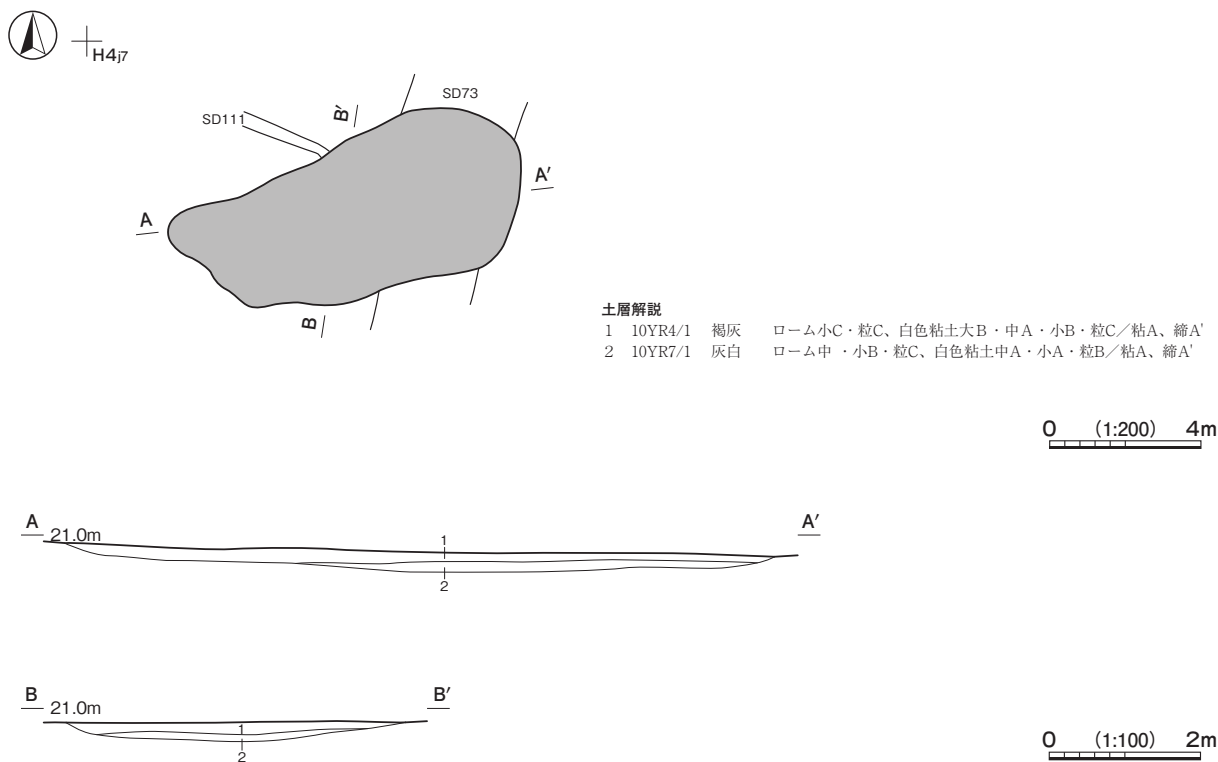
所見 時期は、出土土器や第3号段切状遺構、第69号溝跡の年代から16世紀前葉の構築と考えられる。整地の範囲が第69号溝跡に沿った南東側にあることから、第3号段切状遺構や第69号溝の掘削時の廃土を使用して整地をした可能性がある。



第127図 第7号整地遺構出土遺物実測図

第64表 第7号整地遺構出土遺物一覧（第127図）

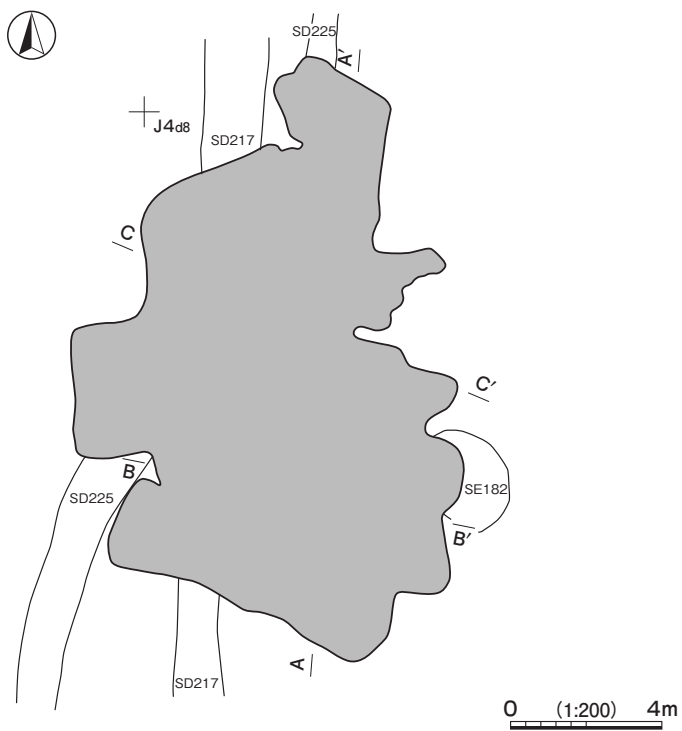
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.1	2.0	3.5	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部内外面ナデ	覆土下層	100%
2	土師質土器	皿	6.8	2.3	3.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナ デ	覆土下層	100% 油煙付着



第 128 図 第 4 号整地遺構実測図

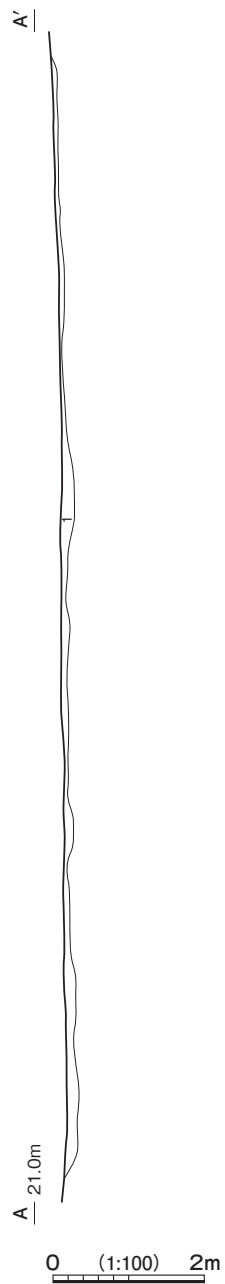
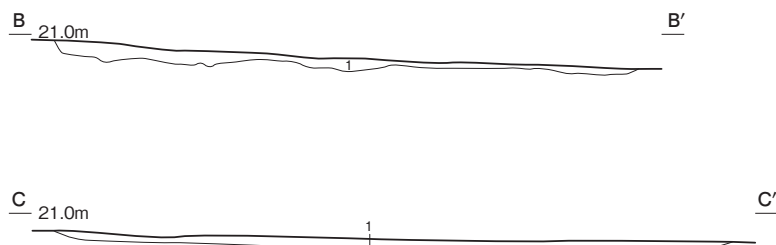
第 65 表 室町時代から江戸時代の整地遺構一覧

番号	位置	長軸方向	平面形	規模		面積 (㎡)	壁面	構築土	主な出土遺物	備考
				長さ×幅 (m)	層厚 (cm)					
4	I 4 a7 ~ H 4 j7	N - 84° - E	不整楕円形	9.0 × 0.9 ~ 4.4	5 ~ 28	約 30.0	-	2層	土師質土器 砥石 釘 煙管	SD73、SE78 → 本跡 SD111 と重複
5	J 4 c8 ~ J 4 g9	N - 5° - W	不整形	15.8 × 2.1 ~ 10.2	5 ~ 28	約 96.0	-	単一層	土師質土器 陶器 磁器 鎌カ 鉄滓	SE170・179・182、 SK1681・1693・ 1720・1757、 SD217・225、 PG48 →本跡
6	K 4 c1 ~ K 4 g2	N - 3° - E	[不整楕円形]	17.6 × 1.2 ~ 7.2	10 ~ 20	約 77	-	単一層	土師質土器 陶器 椀状滓	SE176、SK1637、 SD158・160・171・ 172・173・177 → 本跡
7	G 4 j2 ~ H 3 h8	N - 25° - E	弧状	37.4 × 0.5 ~ 4.5	5 ~ 10	約 130	-	2層	土師質土器	UP 9・10 →本跡 → SK679・684・686 ~ 693・699・700 ~ 703・ 709・724・748・749・ 767・795 ~ 799・805・ 806・828・829・832 ~ 834・845・846・897・ 1015、SD81A・B

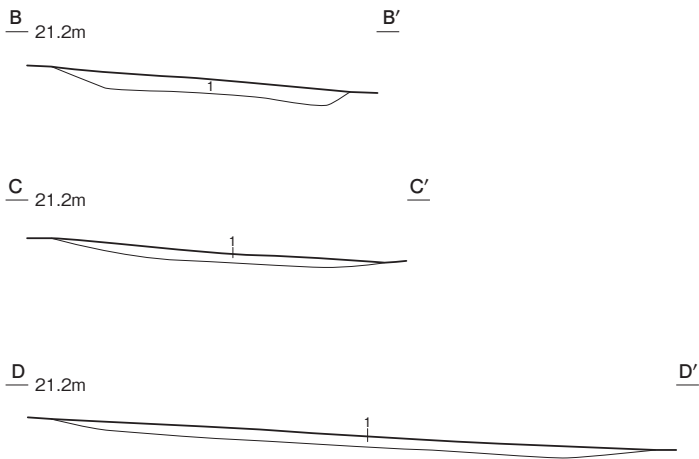
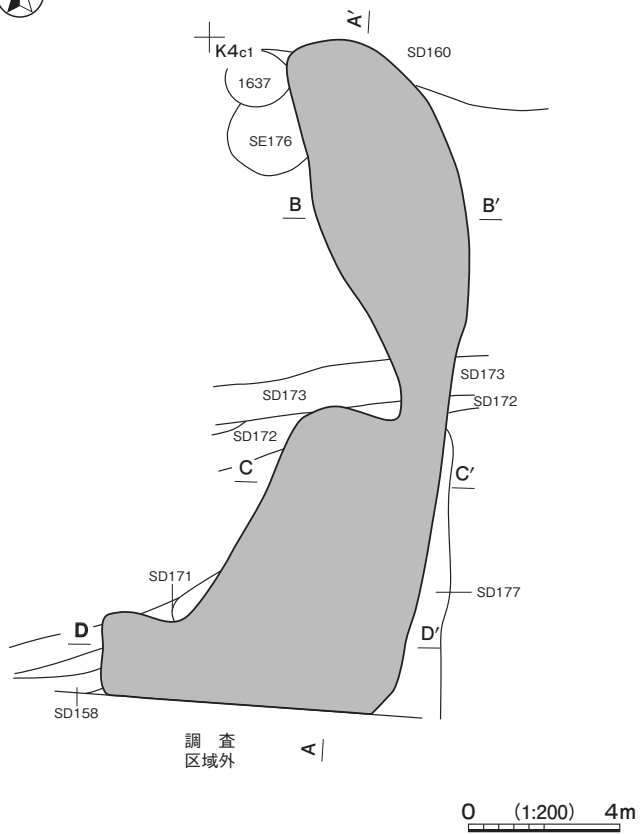


土層解説

1 10YR4/1 褐灰 白色粘土大A・中C・小B／粘A、締A'



第 129 図 第 5 号整地遺構実測図



土層解説

1 10YR7/2 にぶい黄橙 白色粘土中A・小B・粒C／粘A、締A'



第 130 図 第 6 号整地遺構実測図

(6) 井戸跡

166基のうち、特徴的な遺物が出土している77基について記述し、その他は実測図と一覧で掲載する。

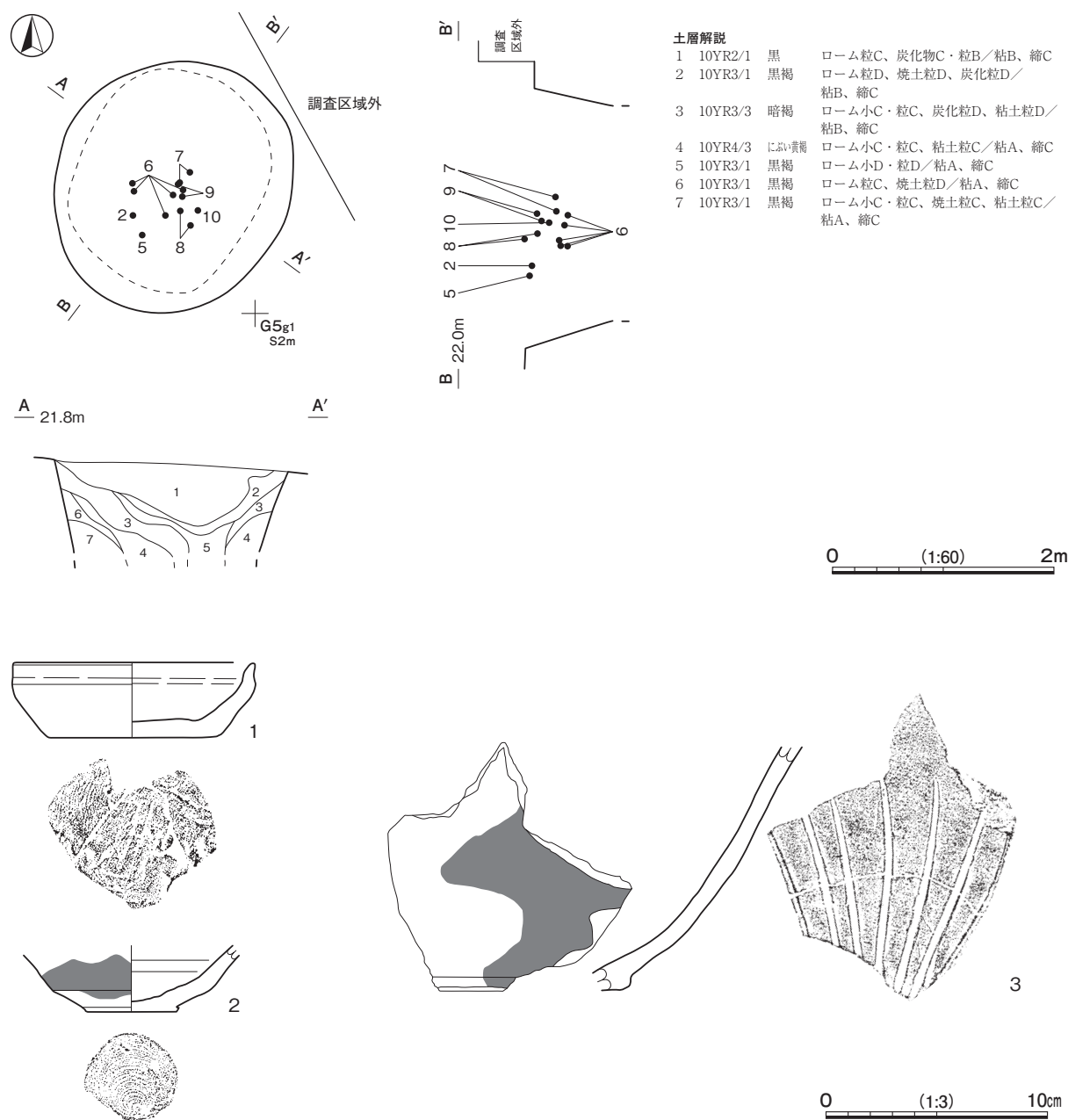
第5号井戸跡 (第131～133図 第66表 PL20・59)

位置 調査区 A 区南東部の G 4 g0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

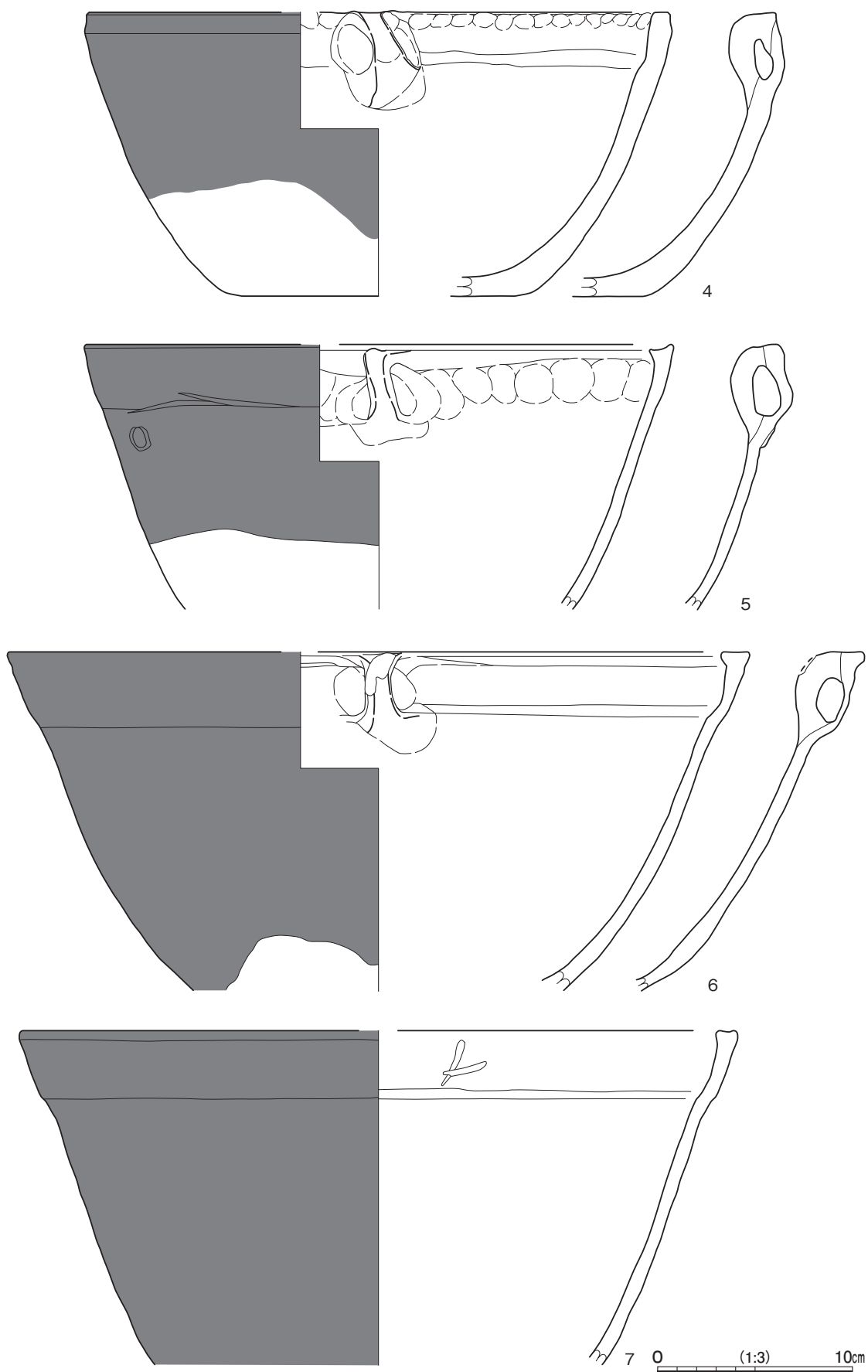
規模と形状 長径 2.34 m、短径 2.18 mの楕円形で、上部は、円筒状に掘り込み、下部の状況は不明である。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ 90cmまでの調査とした。

覆土 7層に分層できる。ロームブロック・粒子、炭化物を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

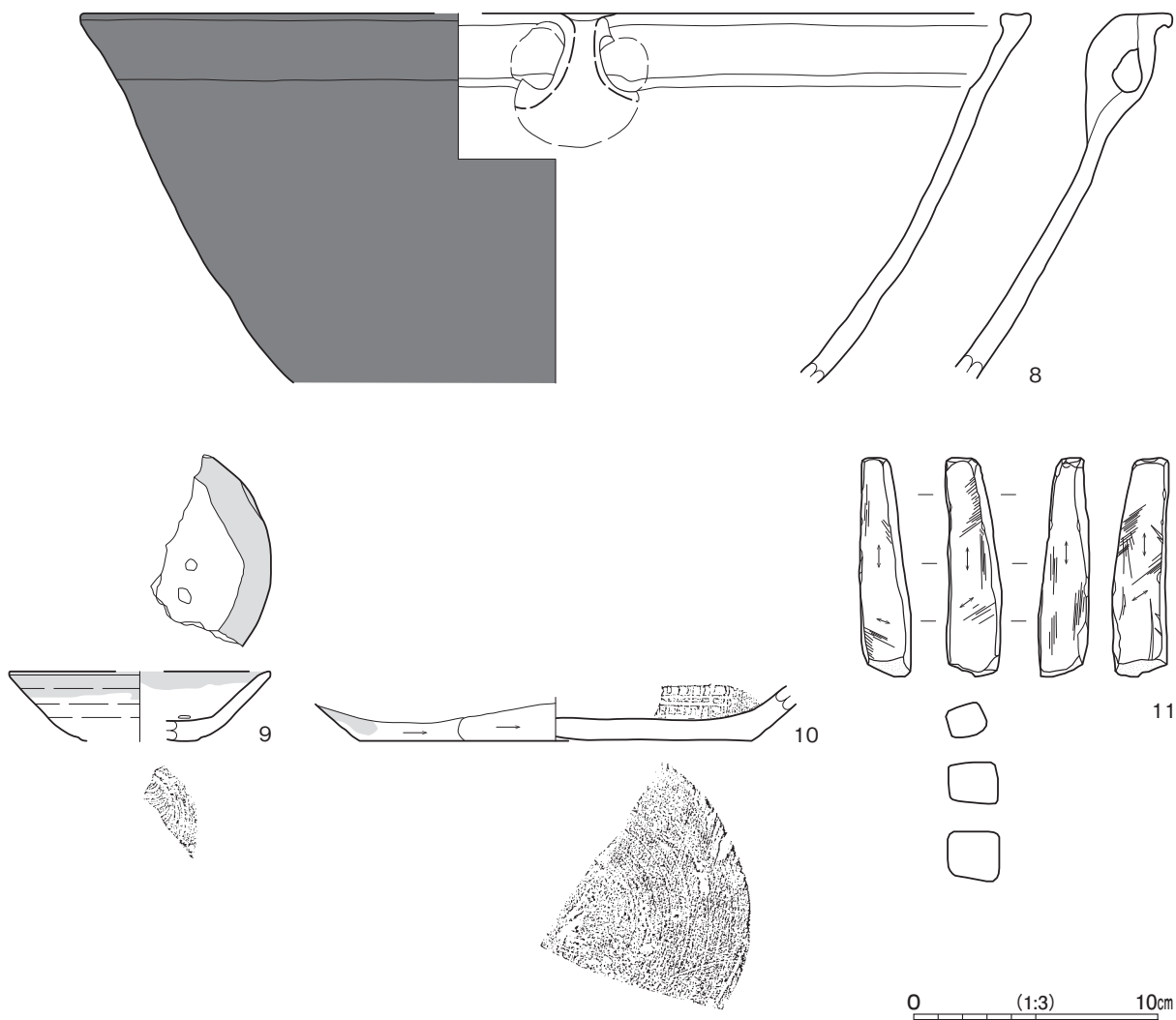
遺物出土狀況 土師質土器片 205 点（皿 12・内耳鍋 190・擂鉢 2・甕 1）、陶器片 9 点（皿 1・擂鉢 1・甕 7）



第 131 図 第 5 号井戸跡・出土遺物実測図



第 132 図 第 5 号井戸跡出土遺物実測図(1)



第 133 図 第 5 号井戸跡出土遺物実測図(2)

第 66 表 第 5 号井戸跡出土遺物一覧（第 131 ～ 133 図）

番号	種 別	器 種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	10.9	3.4	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り後ヘラナデ調整	覆土	50% PL59
2	土師質土器	皿	—	(3.6)	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土第 1 層	40% 煤付着
3	土師質土器	擂鉢	—	(11.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	1 条一単位の擂目	覆土	10% 煤付着
4	土師質土器	内耳鍋	[29.8]	14.6	[14.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口唇部内面指頭痕 1 耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ	覆土	40% 煤付着 PL59
5	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(13.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部内面指頭痕 1 耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ 耳部貫通先端部露出	覆土第 1 層	20% 煤付着
6	土師質土器	内耳鍋	[38.0]	(17.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	1 耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ	覆土第 1 層	20% 煤付着
7	土師質土器	内耳鍋	[36.6]	(17.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	内外面ナデ 口縁部内面ヘラ記号「メ」カ	覆土第 1 層	20% 煤付着
8	土師質土器	内耳鍋	[39.0]	(15.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	明褐	普通	1 耳残存 体部耳部取り付け後内外面ナデ	覆土第 1 層	30% 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉 薬	産 地	出土位置	備 考
9	陶器	縁釉皿	[10.8]	2.9	[4.8]	長石・石英・灰黄褐	ロクロ成形 底部回転糸切り 内底面トチン痕 漬け掛け	鉄釉	瀬戸・美濃	覆土第 1 層	30%
10	陶器	擂鉢	—	(2.3)	[16.2]	長石・灰白	10 条一単位の擂目に 2 条の交差の擂目 体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	灰釉	渥美カ	覆土第 1 層	40%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	材 質	特 徴	出土位置	備 考
11	砥石	9.0	2.3	2.1	57.57	砂岩	四面砥 縦・斜位擦痕 一部刃傷痕	覆土	

石器 2 点（砂岩製砥石）、雲母片岩片 1 点（板碑の一部）、鉄片 1 点（不明）が覆土第 1 層や覆土中から出土している。

1・3・4・11 は、覆土中、2・5～10 は、中央部から南部にかけてほぼ集中した状態で覆土第 1 層から、それぞれ出土している。

所見 廃絶の時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。

第 7 号井戸跡（第 134 図 PL20）

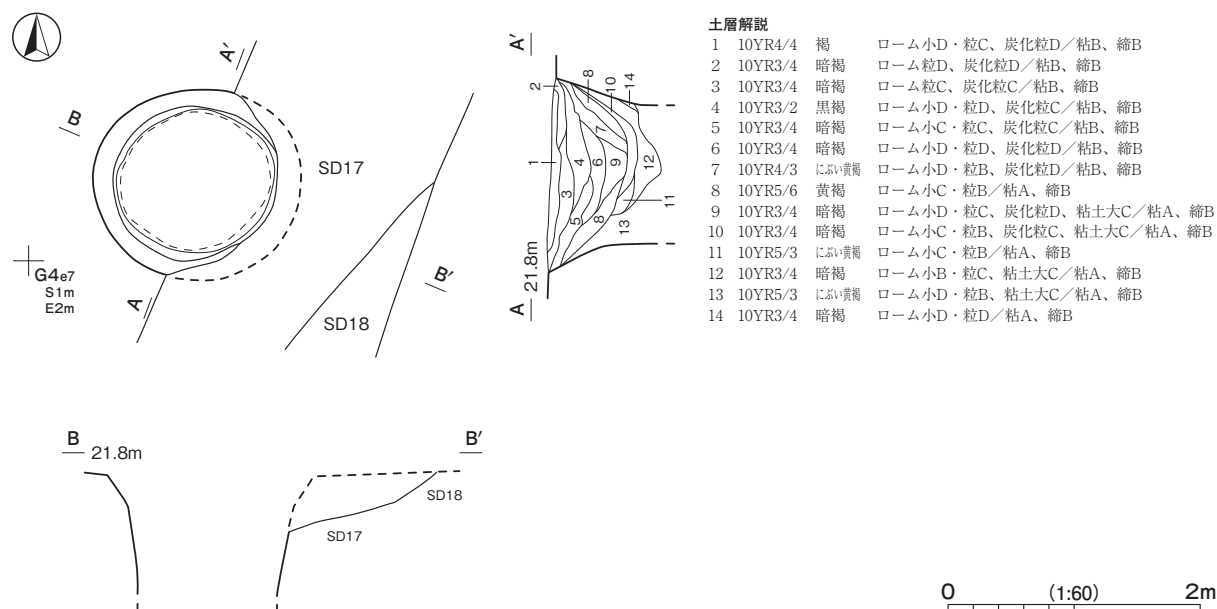
位置 調査区 A 区南東部の G 4e7 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 17 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた南北軸 1.54 m、東西軸 1.44 m で平面形状は、円形と推定でき、漏斗状を呈している。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から深さ 90cm までの調査とした。

覆土 14 層に分層できる。ロームブロック・粒子を含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

所見 遺物の出土がないため、時期は不明である。



第 134 図 第 7 号井戸跡実測図

第 22 号井戸跡（第 135 図 第 67 表 PL20・59）

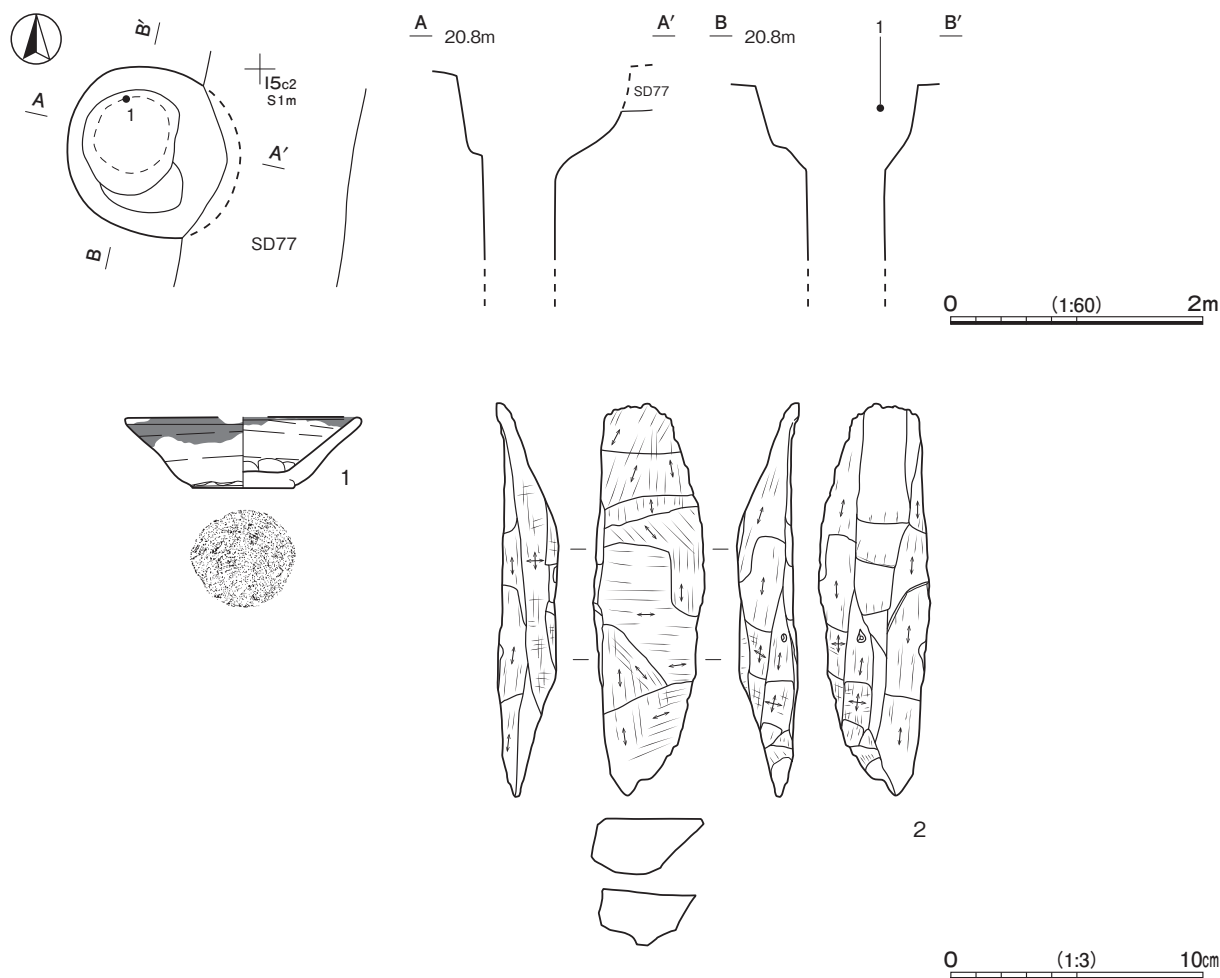
位置 調査区 C 区東部の I 5c1 区、標高 20 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 77 号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 確認できた規模は南北軸が 1.38 m で、東西軸は 1.40 m で、平面形は円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 70cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.70m の円筒状に掘り込んでいる。湧水や崩落の恐れがあったため、確認面から 140cm までの調査とした。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）、石器 1 点（凝灰岩製砥石）が出土している。1 は、北西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 135 図 第 22 号井戸跡・出土遺物実測図

第 67 表 第 22 号井戸跡出土遺物一覧（第 135 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.4]	2.8	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部内面横ナデ・外面回転糸切り	覆土上層	70% 煤付着

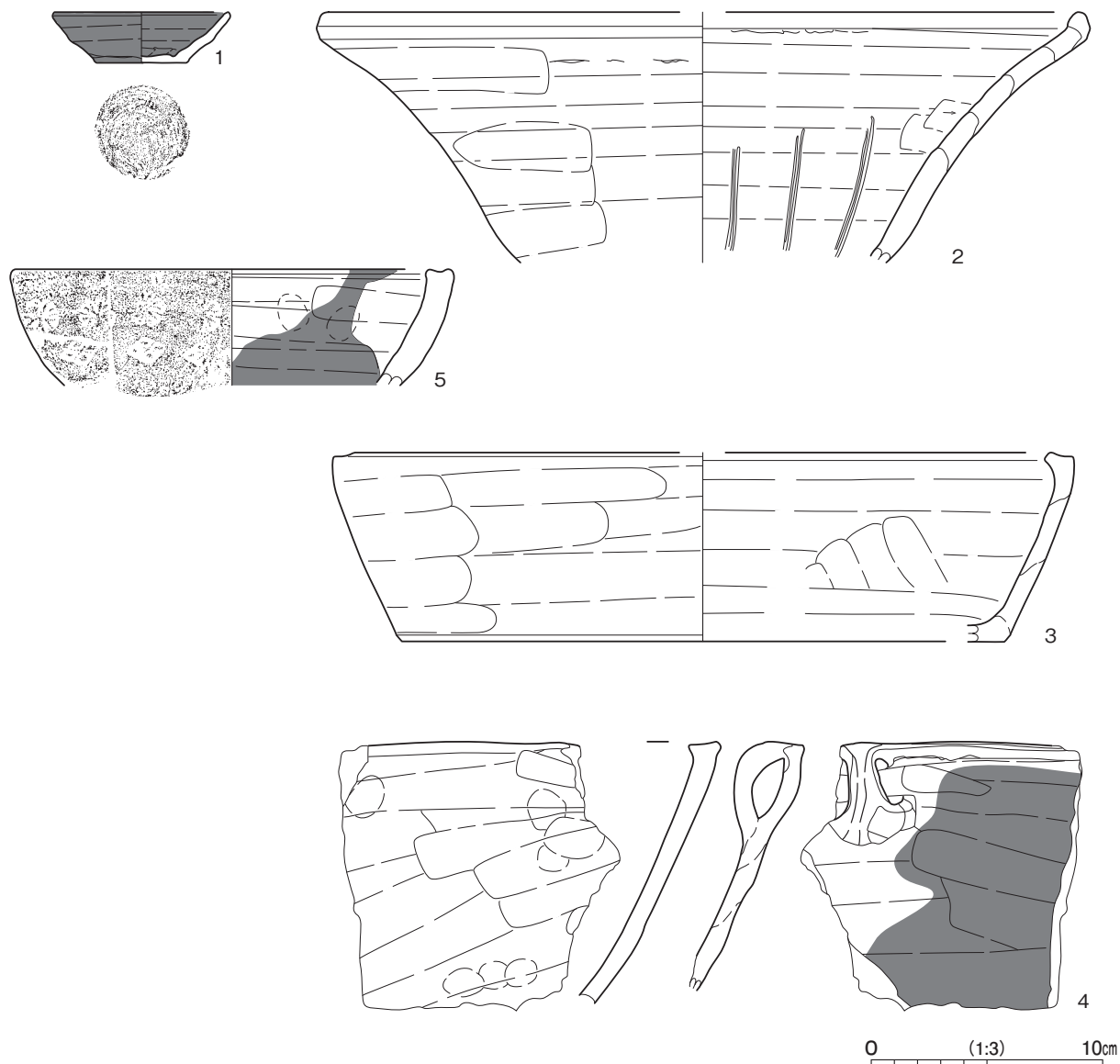
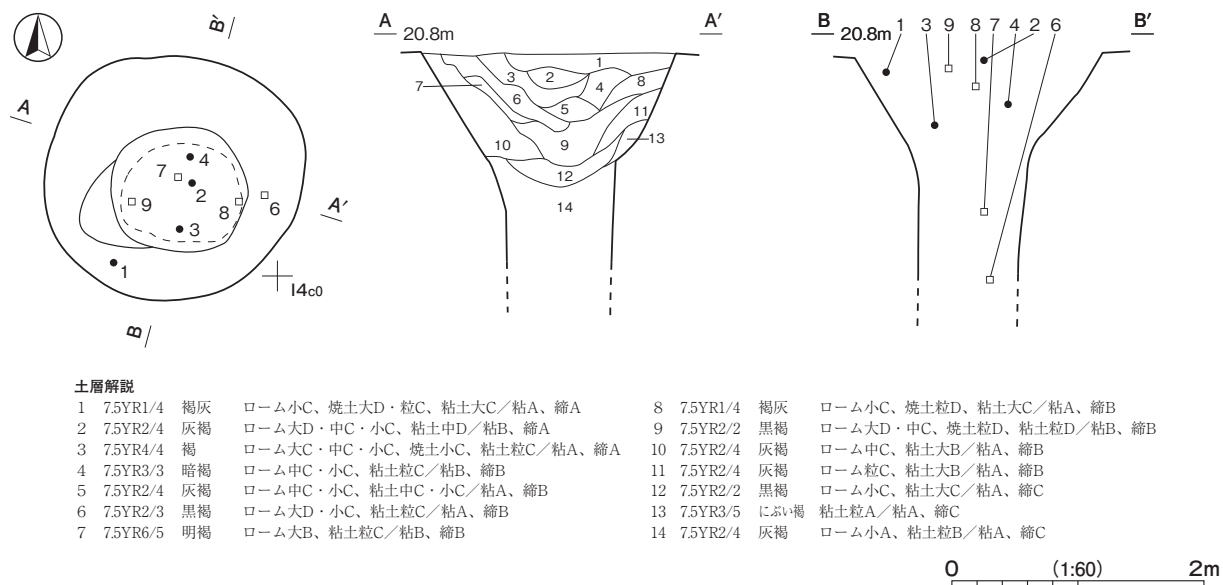
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	15.6	5.1	2.1	158.1	凝灰岩	砥面 4 面 表面多方向の研磨痕 側面・裏面多数の削り痕	覆土	PL59

第 23 号井戸跡（第 136・137 図 第 68 表 PL20・59）

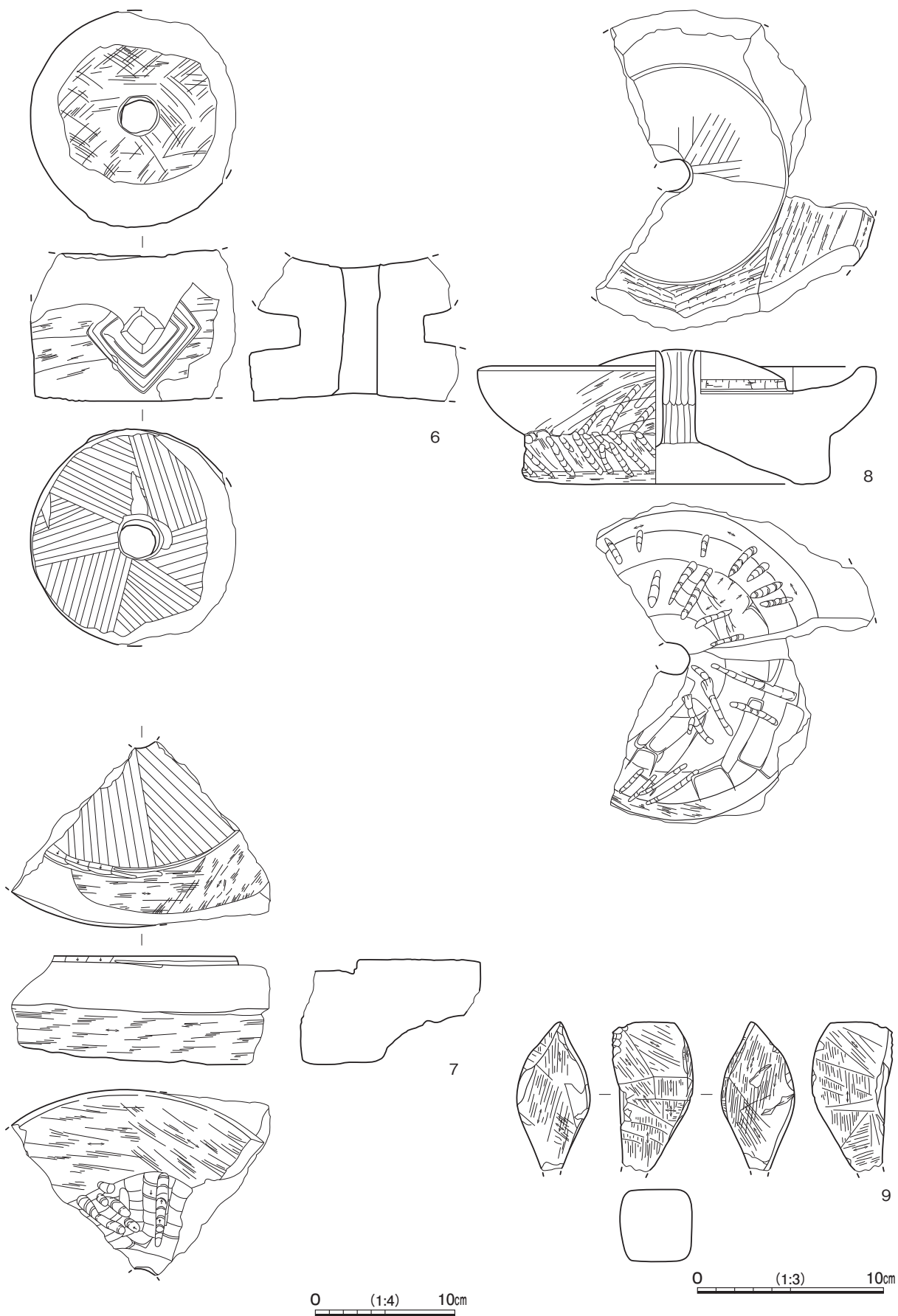
位置 調査区 C 区東部の I 4 b9 区、標高 20 m ほどの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 2.02 m、短径 1.98 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 70cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.06m、短径 0.98m の円筒状に掘り込んでいる。南西壁の一部が崩落している。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 180cm までの調査とした。

覆土 14 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。



第136図 第23号井戸跡・出土遺物実測図



第 137 図 第 23 号井戸跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 35 点（皿 1、搗鉢 4、内耳鍋 30）、瓦質土器片 1 点（香炉）、石器 4 点（安山岩製茶臼 3、凝灰岩製砥石 1）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点が出土している。1 は南壁際、2 ～ 4・8・9 は中央部周辺の覆土上層、7 は中央部の覆土中層、6 は東壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。8 は第 72 号堀跡から出土した茶臼と接合している。

所見 時期は、出土土器や接合した遺物の関係から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。第 72 号堀跡とは同時期の廃絶である。

第 68 表 第 23 号井戸跡出土遺物一覧（第 136・137 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.3	2.2	4.0	石英・雲母	黒褐	普通	口クロナデ 底部外回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80% PL59 油煙付着
2	土師質土器	搗鉢	[33.0]	(10.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内外面横位ナデ 内面櫛歯状工具による 2 条一単位の搗目	覆土上層	5 %
3	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	8.2	[26.0]	長石・雲母・ 白色粒子	褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位ナデ 内面横・斜位ナデ	覆土上層	5 %
4	土師質土器	内耳鍋	－	(11.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内面耳部貼付け 体部外面横位ナデ・指頭痕 内面横位ナデ	覆土上層	5 % 煤付着
5	瓦質土器	香炉	[19.2]	(5.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面横位ナデ 外面花卉・割菱の押型文	覆土	5 % PL59 被熱痕・煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
6	茶臼	(15.5)	(14.7)	(10.9)	(3.380)	安山岩	上白 上面多方向の研磨痕 下面 10 ～ 13 条一単位の搗目・軸孔二方向からの穿孔 側面菱形文削り出し・横位研磨痕・削り痕 把手孔 2 か所	覆土下層	PL59 被熱痕
7	茶臼	(13.4)	(18.5)	7.8	(1.590)	安山岩	下白 上面 11 条以上一単位の搗目・中央部二方向からの穿孔 下面窪み部削り痕・縁辺部研磨痕	覆土中層	PL59 被熱痕
8	茶臼	(23.0)	(20.0)	(9.3)	(1.480)	安山岩	下白 上面搗目不明瞭 下面窪み部削り痕・縁辺部研磨痕・中央部二方向からの穿孔 側面削り	覆土上層	PL59 被熱痕 SD72 と接合
9	砥石	(8.0)	4.3	3.9	(157.59)	凝灰岩	砥面 4 面 多方向の研磨痕	覆土上層	

第 24 号井戸跡（第 138・139 図 第 69 表 PL20・59・60）

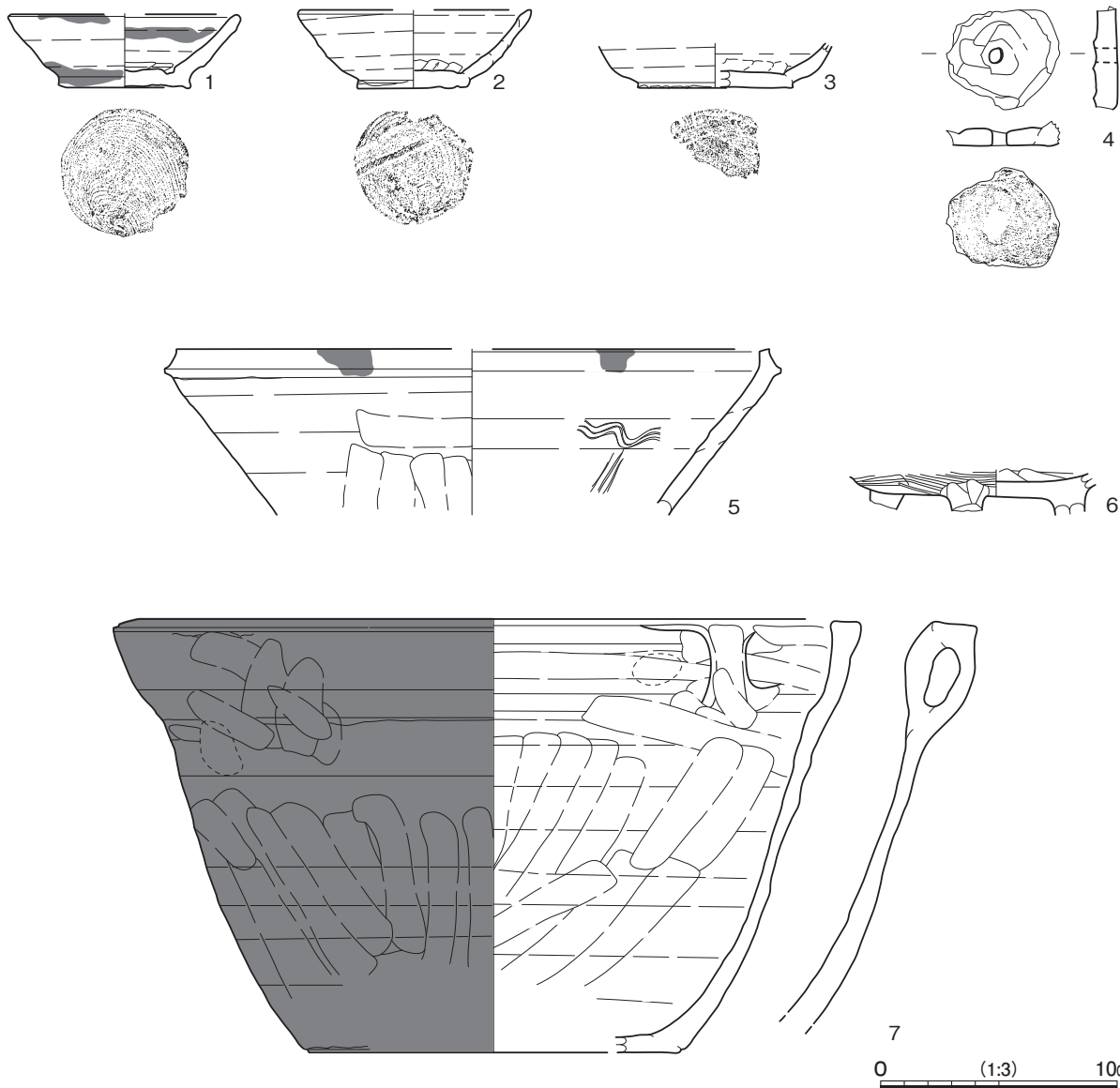
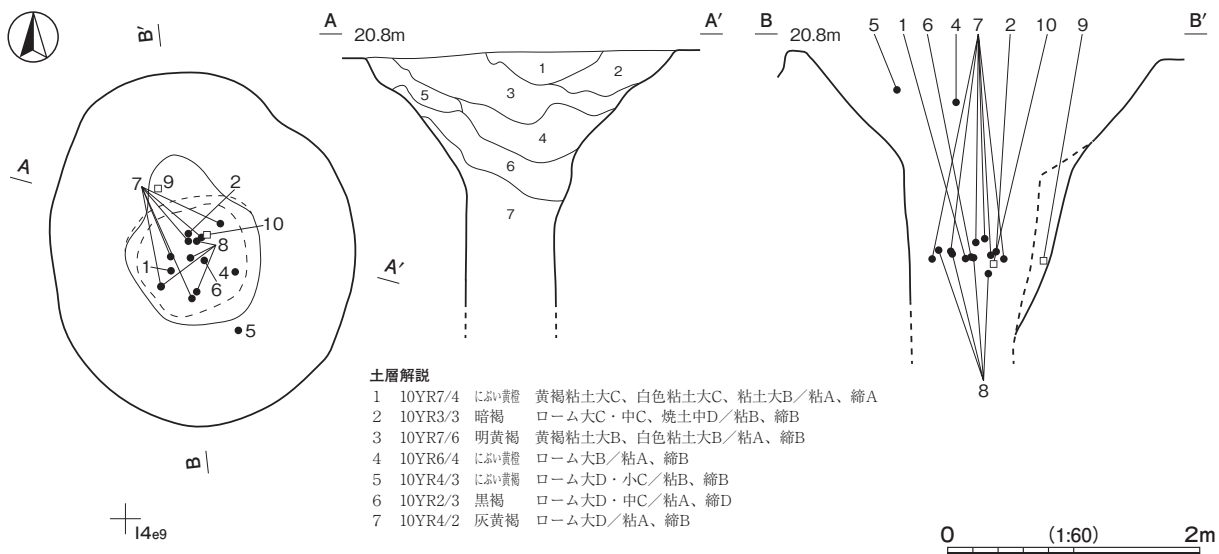
位置 調査区 C 区東部の I 4 d9 区、標高 20 m ほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径 2.84 m、短径 2.40 m の楕円形で、長径方向は N－8°－W である。断面形は漏斗状で、確認面から 90cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.10m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200cm までの調査とした。

覆土 7 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 63 点（皿 4、搗鉢 2、香炉 1、内耳鍋 56）、石器 2 点（凝灰岩製砥石、砂岩製石鉢）が出土している。ほかに混入した土師器 1 点が出土している。1・2・6 ～ 10 は、中央部の覆土中層から散在した状態で出土している。4 は中央部東寄りから、5 は南東部の覆土上層から、それぞれ出土している。埋め戻しに伴って廃棄したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 138 図 第 24 号井戸跡・出土遺物実測図

第 69 表 第 24 号井戸跡出土遺物一覧（第 138・139 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.9]	3.2	5.5	長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	90% PL59 煤付着
2	土師質土器	皿	[10.0]	3.3	4.9	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土中層	40%
3	土師質土器	皿	－	(1.9)	[6.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土	5 %
4	土師質土器	皿	－	(1.1)	(4.8)	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り 内面ナデ 底部中央部両方向からの穿孔・紡錘車転用カ	覆土上層	5 % 煤付着
5	土師質土器	搦鉢	[25.5]	(7.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面横位ナデ後縦位ナデ 内面横位ナデ・串状工具による 3 条一単位の搦目・波状文施文	覆土上層	40% 煤付着 口縁部研磨
6	土師質土器	香炉	－	(1.9)	－	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 体部外面下端磨き調整 底部回転糸切り・脚部貼付け 内面ナデ	覆土中層	5 % 被熱痕
7	土師質土器	内耳鍋	[30.5]	18.3	[15.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 体部内外面縦・横位ナデ	覆土中層	40% PL60 煤付着
8	土師質土器	内耳鍋	[38.0]	(13.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 体部内外面多方向ナデ	覆土中層	10% 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
9	石臼	(18.9)	(18.6)	9.6	3.86kg	安山岩	上面 3・4 条単位の磨目 下面削り痕 軸穴両面からの削りによる穿孔 側面縦位研磨痕	覆土中層	PL60 煤付着
10	石鉢	－	[19.6]	(7.2)	(956.55)	砂岩	外面縦位削り痕・叩き痕・研磨痕 内面研磨痕 底部削り痕・研磨痕	覆土中層	PL60 煤付着

第 26 号井戸跡（第 140・141 図 第 70 表 PL21・60）

位置 調査区 C 区北東部の H 4 g9 区、標高 21 m ほどの緩斜面部に位置している。

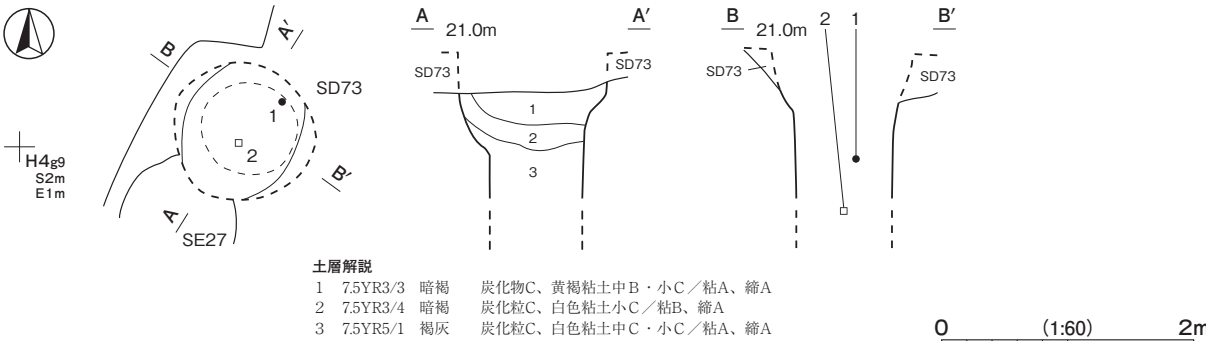
重複関係 第 27 号井戸跡を掘り込み、第 73 号堀に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第 73 号堀に掘り込まれているが、径 1.18 m の円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 40cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.90m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 124cm までの調査とした。

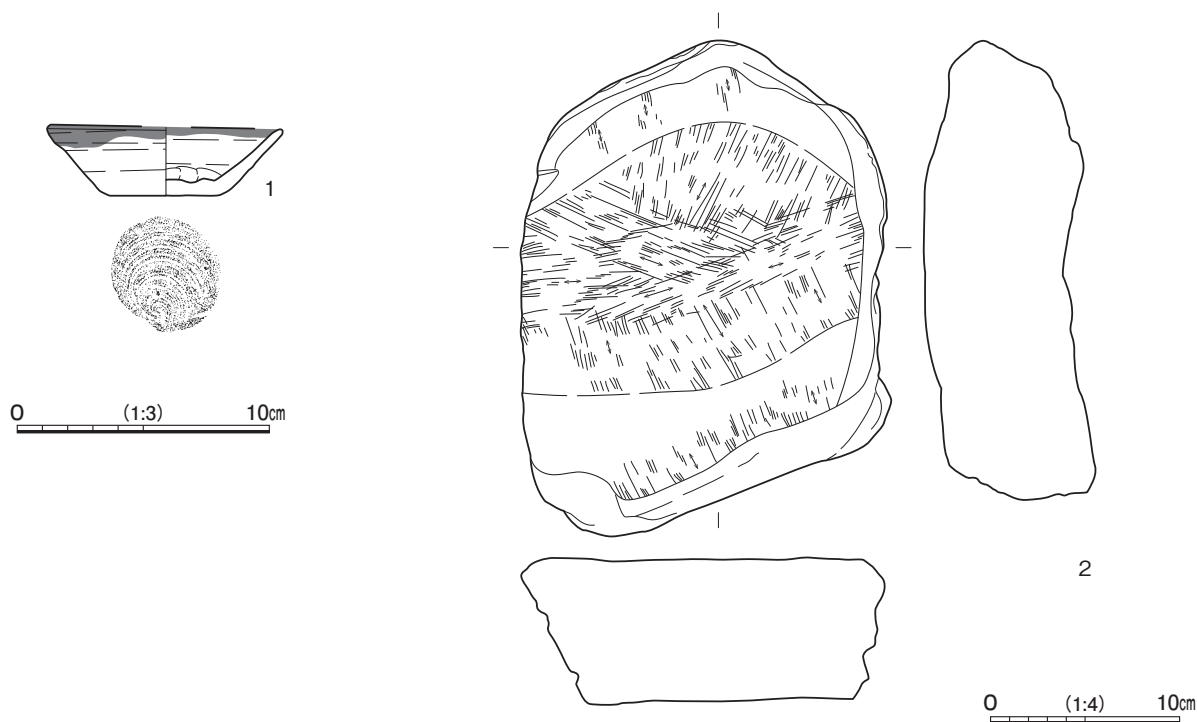
覆土 3 層を確認した。各層に粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 13 点（皿 3、内耳鍋 10）、石器 1 点（雲母片岩製砥石）が出土している。1 は北西部の覆土中層から、出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 140 図 第 26 号井戸跡実測図



第 141 図 第 26 号井戸跡出土遺物実測図

第 70 表 第 26 号井戸跡出土遺物一覧（第 141 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	9.4	2.8	4.3	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	95% PL60 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	26.5	19.6	9.1	6.870	雲母片岩	上面多方向の研磨痕	覆土中層	PL60

第 28 号井戸跡（第 142 図 第 71 表 PL21）

位置 調査区 C 区北東部の H 4 i9 区、標高 21 m ほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径 1.32 m、短径 1.30 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 70cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.80 m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 110cm までの調査とした。

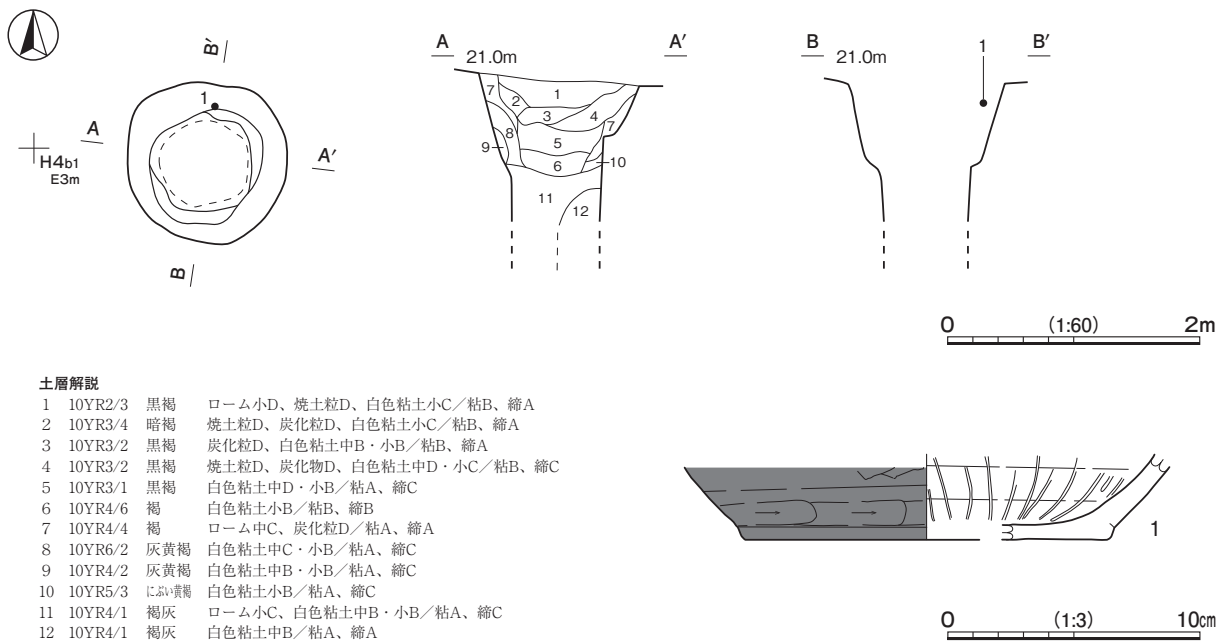
覆土 12 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 2 点（皿 1、掻鉢 1）が出土している。1 は北部の覆土上層から、出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。

第 71 表 第 28 号井戸跡出土遺物一覧（第 142 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	掻鉢	—	(3.4)	[14.4]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ナデ調整後、内面串状工具による 1 条一単位の掻目 内面ナデ 底部板目痕・一方向ナデ	覆土上層	5% 煤付着



第 142 図 第 28 号井戸跡・出土遺物実測図

第 29 号井戸跡 (第 143・144 図 第 72 表 PL21・60)

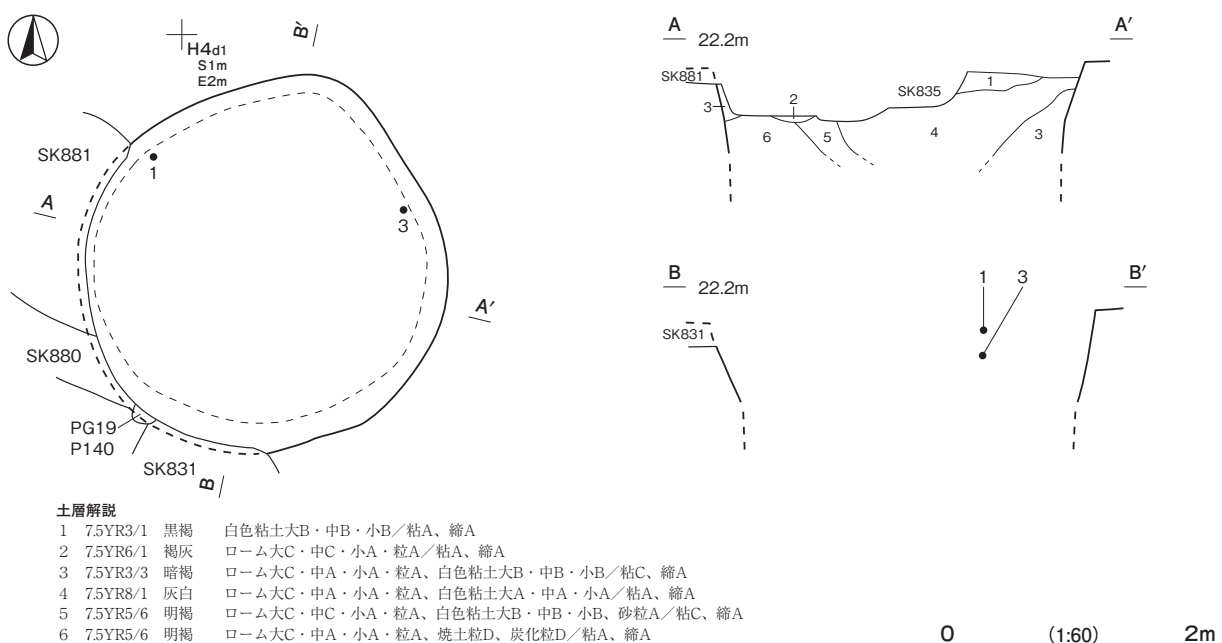
位置 調査区 C 区北東部の H 4 d1 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 831・835・880・881・883 号土坑に掘り込まれている。PG19P140 との関係は、不明である。

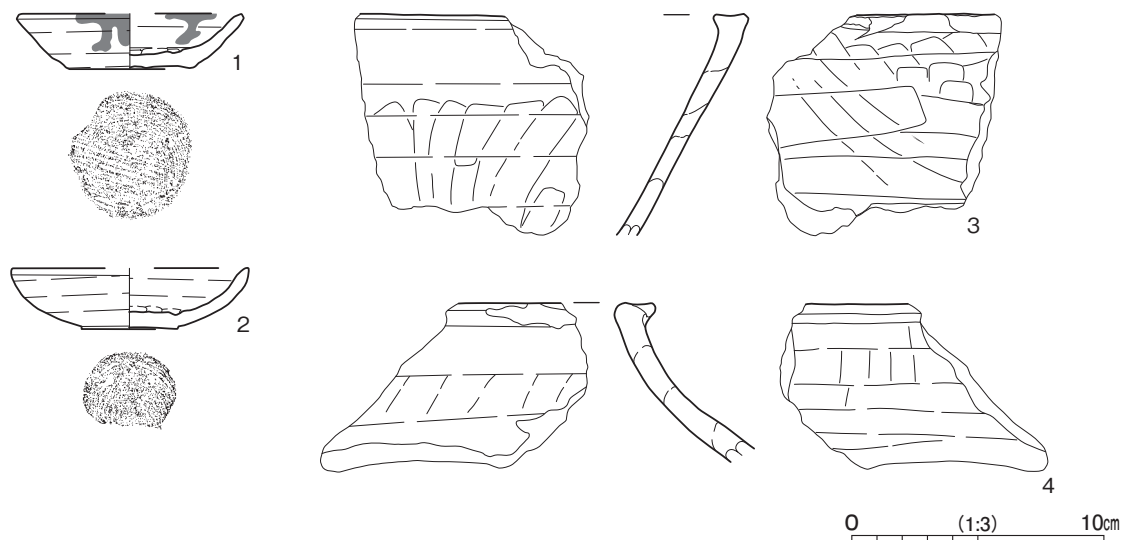
規模と形状 長径 3.10 m、短径 2.92 m の円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 80cm までの調査とした。

覆土 6 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 25 点 (皿 9、鉢 1、擂鉢 4、内耳鍋 10、甕 1)、鉄滓 1 点が出土している。ほ



第 143 図 第 29 号井戸跡実測図



第 144 図 第 29 号井戸跡出土遺物実測図

かに混入した土師器片 7 点が出土している。1 は北西部の壁際、3 は北東部の壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。

第 72 表 第 29 号井戸跡出土遺物一覧（第 144 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.0]	2.2	4.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土上層	70% PL60 煤付着
2	土師質土器	皿	[9.4]	2.4	3.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土	30%
3	土師質土器	鉢	—	(8.8)	—	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	体部外面縦位ナデ調整 内面縦・横位ナデ	覆土上層	10%
4	土師質土器	甕	—	(6.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ 内外面縦・横位ナデ	覆土	10%

第 31 号井戸跡（第 145 図 第 73 表 PL21・60）

位置 調査区 C 区北東部の H 4e1 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

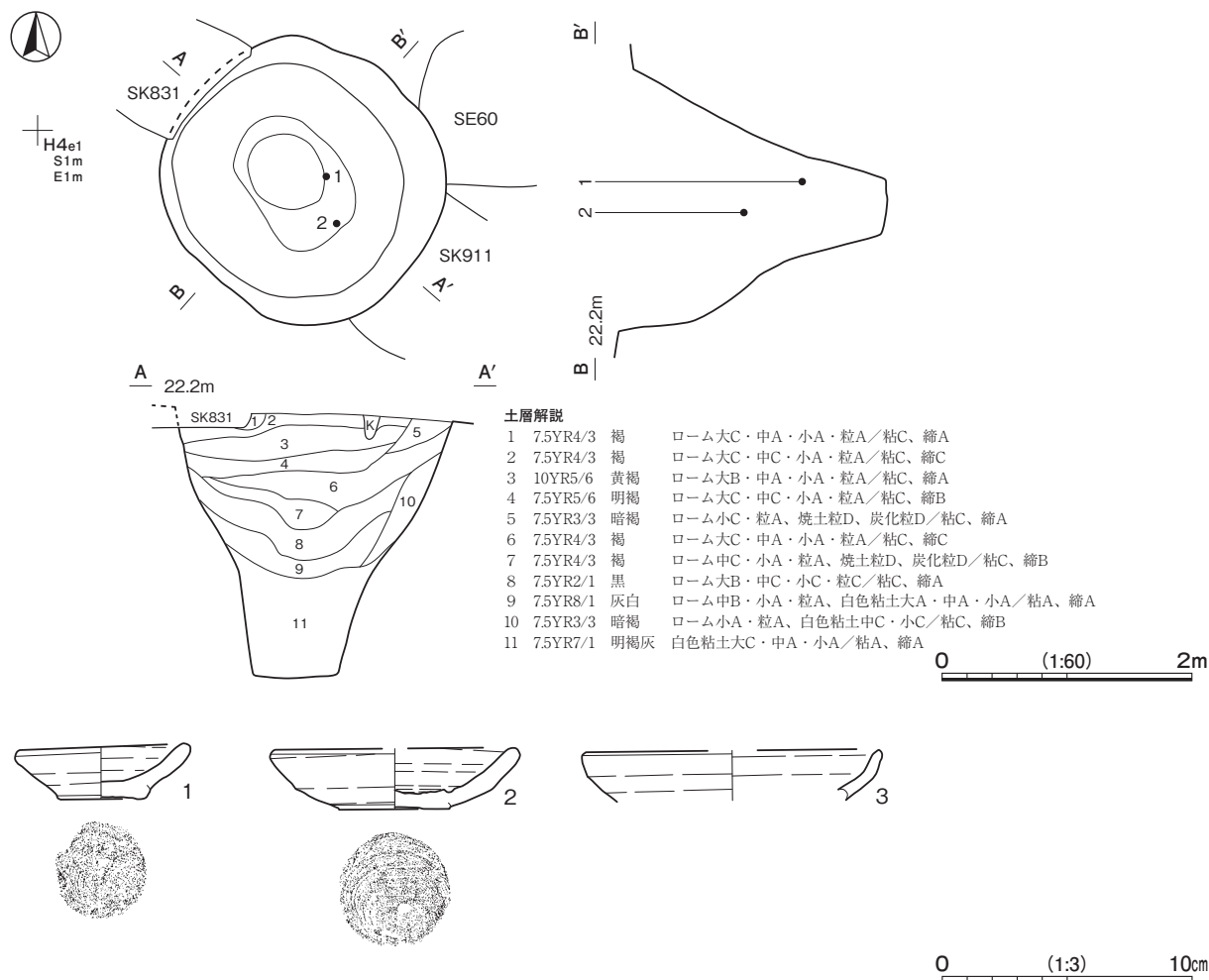
重複関係 第 911 号土坑を掘り込み、第 831 号土坑に掘り込まれている。第 60 号井戸跡との関係は、第 911 号土坑が第 60 号井戸を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 第 831 号土坑に掘り込まれているが、確認できた規模は長径 2.30 m、短径 2.28 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 120cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.10 m、短径 0.74m の円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 210cm で、底面はほぼ平坦である。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 23 点（皿 10、播鉢 1、内耳鍋 11、甕 1）、陶器片 1 点（皿）が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点が出土している。1 は中央部東寄りの覆土下層から、2 は中央部南東寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 本跡は規模と形状から、井戸跡と判断した。底面は白色粘土層まで達していることから、溜井戸の可能性はある。時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 145 図 第 31 号井戸跡・出土遺物実測図

第 73 表 第 31 号井戸跡出土遺物一覧（第 145 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	6.7	2.3	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL60
2	土師質土器	皿	10.5	2.4	4.4	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕	覆土中層	60% PL60

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	皿	[120]	(20)	—	長石・黒色粒子 灰黄色	ロクロ成形 内外面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	5% 被熱痕

第 32 号井戸跡（第 146 図 第 74 表 PL21・60）

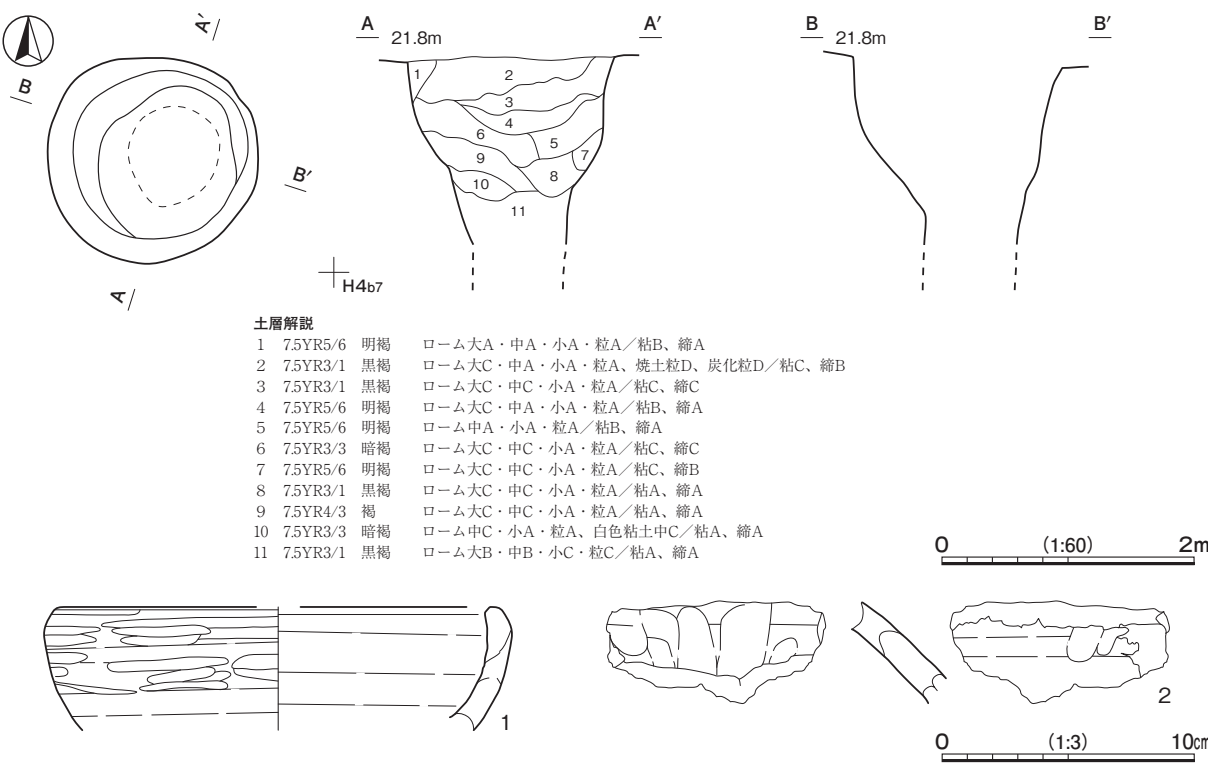
位置 調査区 C 区北東部の H 4 a6 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.72 m、短径 1.70 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 90 ～ 120 cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 0.92 m、短径 0.80 m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 144 cm までの調査とした。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 2 点（内耳鍋）、瓦質土器片 1 点（香炉カ）、陶器片 1 点（甕）が出土している。
ほかに混入した土師器片 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀代と考えられる。



第 146 図 第 32 号井戸跡・出土遺物実測図

第 74 表 第 32 号井戸跡出土遺物一覧（第 146 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	瓦質土器	香炉カ	[18.6]	(4.9)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ 外面磨き調整	覆土	5 % PL60 被熱痕

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	甕	－	(4.0)	－	緻密・にぶい赤褐	体部内外面縦位ナデ	自然釉	常滑	覆土	5 %

第 33 号井戸跡（第 147 図 第 75 表 PL21・60）

位置 調査区 C 区北部の H 3 i9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

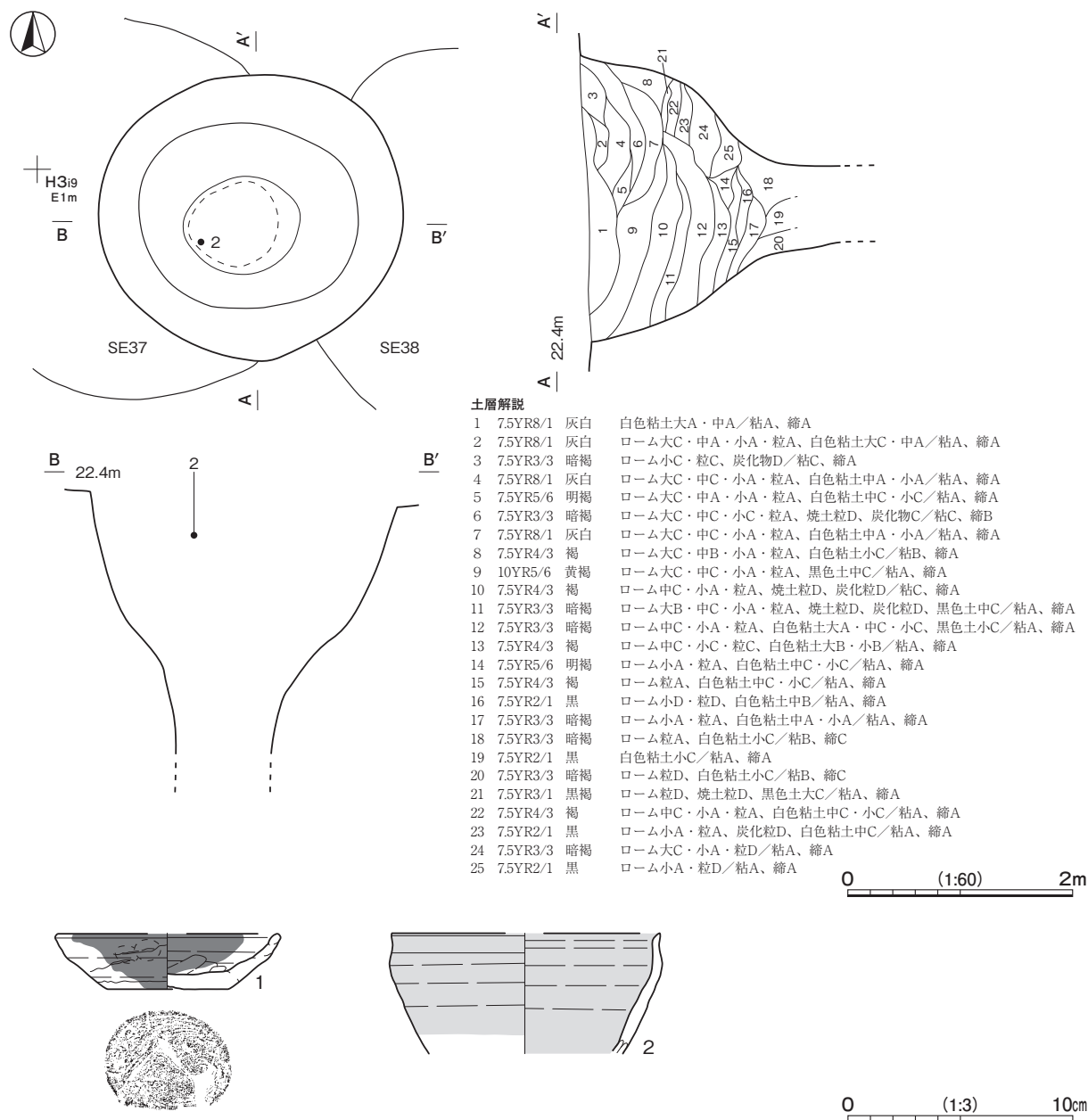
重複関係 第 37・38 号井戸跡を掘り込んでいます。

規模と形状 長径 2.72 m、短径 2.54 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 150cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.0 m、短径 0.88 m の円筒状に掘り込んでいます。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200cm までの調査とした。

覆土 25 層を確認した。第 1～20 層は井筒を抜き取った後の堆積土で、ロームブロックや粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。第 21～25 層は井筒を設置した際の埋め土である。

遺物出土状況 土師質土器片 8 点（皿 1、内耳鍋 7）、陶器片 1 点（天目茶碗）、鉄滓 1 点が出土している。ほかに混入した土師器片 6 点が出土している。2 は中央部南西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。



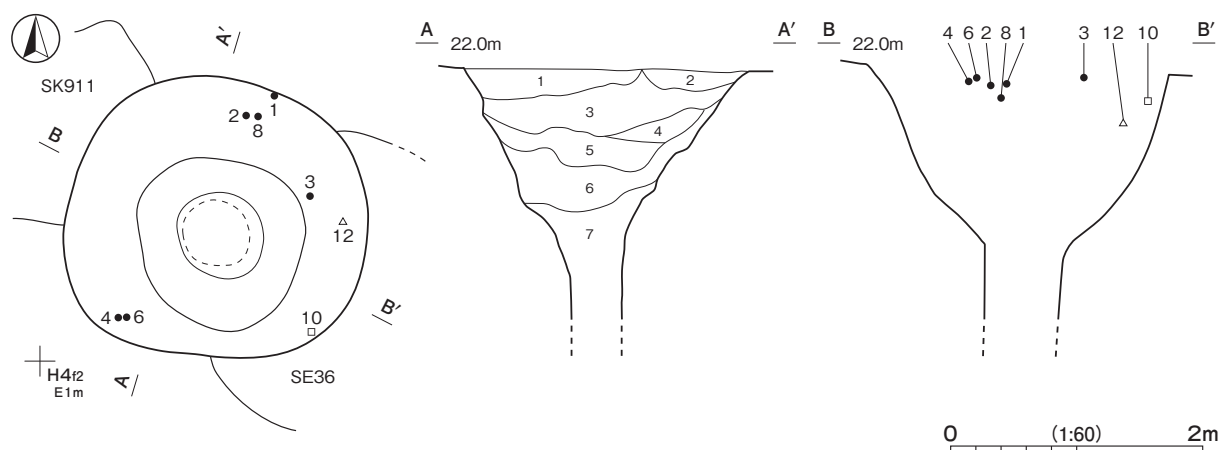
第 147 図 第 33 号井戸跡・出土遺物実測図

第 75 表 第 33 号井戸跡出土遺物一覧（第 147 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.8]	2.5	5.5	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部外面粘土紐巻き上げ痕・指頭痕 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土	70% PL60 煤付着

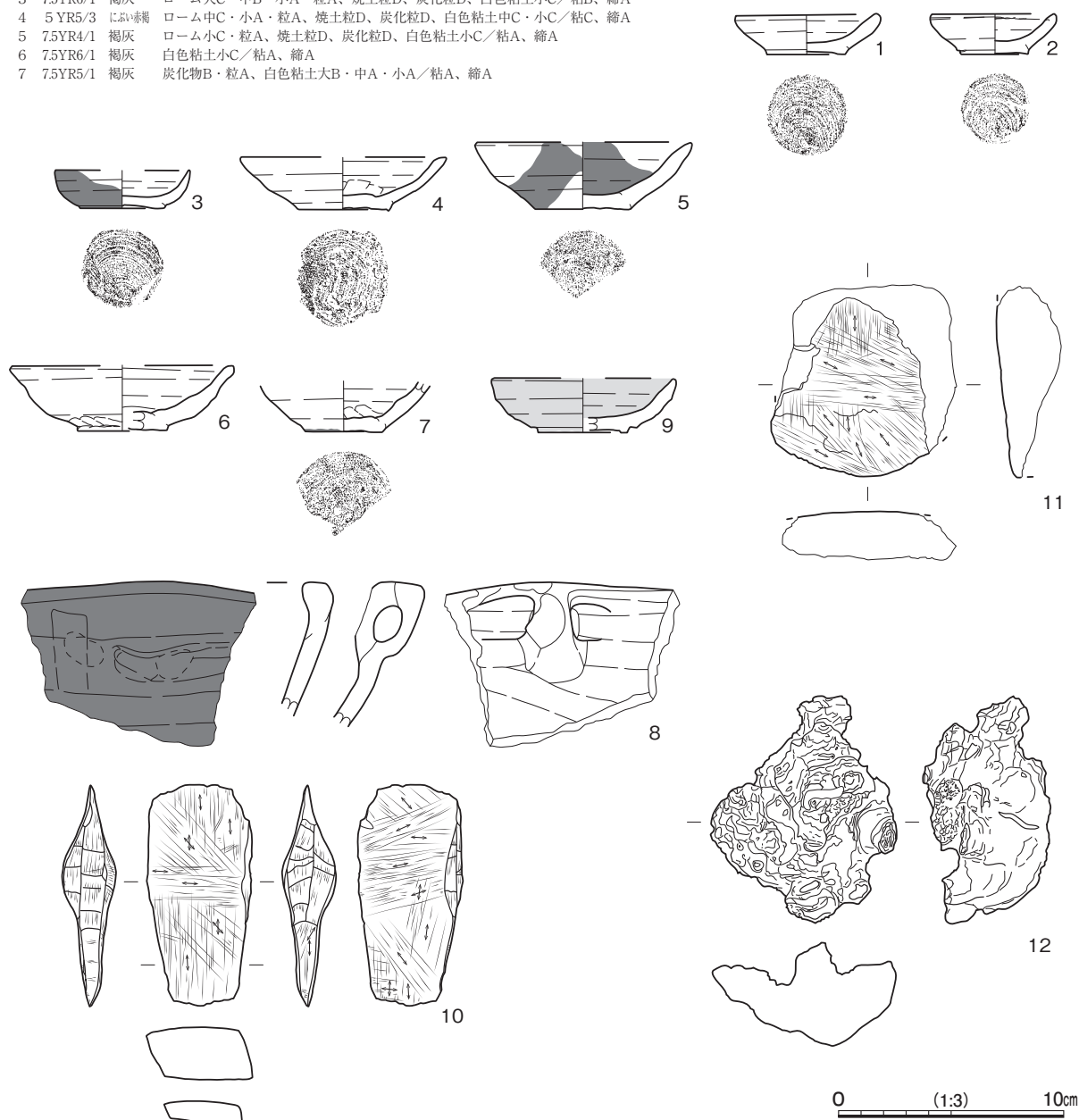
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	天目茶碗	[12.0]	(5.4)	—	緻密・淡黄	ロクロ成形 漬け掛け	黒釉	瀬戸・美濃	覆土上層	5 %

第 34 号井戸跡 (第 148 図 第 76 表 PL21・60)



土層解説

- | | |
|-----------------|---|
| 1 7.5YR8/2 灰白 | ローム大C・中A・小A・粒A、焼土大・中・小・粒D、炭化粒D、白色粘土大C・中B・小B/粘C、締A |
| 2 7.5YR6/1 褐灰 | ローム小D・粒D、白色粘土中A・小A/粘B、締A |
| 3 7.5YR6/1 褐灰 | ローム大C・中B・小A・粒A、焼土粒D、炭化粒D、白色粘土小C/粘B、締A |
| 4 5 YR5/3 に近い赤褐 | ローム中C・小A・粒A、焼土粒D、炭化粒D、白色粘土中C・小C/粘C、締A |
| 5 7.5YR4/1 褐灰 | ローム小C・粒A、焼土粒D、炭化粒D、白色粘土小C/粘A、締A |
| 6 7.5YR6/1 褐灰 | 白色粘土小C/粘A、締A |
| 7 7.5YR5/1 褐灰 | 炭化物B・粒A、白色粘土大B・中A・小A/粘A、締A |



第 148 図 第 34 号井戸跡・出土遺物実測図

位置 調査区 C 区北東部の H 4 e2 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 36 号井戸跡、第 911 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.44 m、短径 2.22 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 140cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 0.80m、短径 0.66m の円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200cm までの調査とした。

覆土 7 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 30 点（皿 11、搗鉢 2、内耳鍋 14、甕 3）、陶器片 2 点（碗、皿）、石器 2 点（凝灰岩製砥石、雲母片岩製砥石）、椀状滓 1 点が出土している。ほかに混入した土師器片 26 点、須恵器片 2 点が出土している。1・2・8 は北壁際、3・12 は東壁際、4・6 は南西壁際、10 は南東壁際の上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。椀状滓が出土していることから、周辺遺跡で鉄の生産がおこなわれている可能性がある。

第 76 表 第 34 号井戸跡出土遺物一覧（第 148 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	6.2	1.8	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL60
2	土師質土器	皿	5.5	1.8	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL60
3	土師質土器	皿	[5.8]	1.7	3.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL60 被熱痕・煤付着
4	土師質土器	皿	[9.2]	2.3	4.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80% PL60
5	土師質土器	皿	[9.6]	3.0	[4.0]	長石・石英・雲母・白色粒子	明褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	80% 煤付着
6	土師質土器	皿	[9.8]	2.9	[4.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 体部外面下端ナデ調整 底部回転糸切り	覆土上層	30%
7	土師質土器	皿	—	(2.2)	[3.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・ナデ調整 内面ナデ	覆土	40% 煤付着
8	土師質土器	内耳鍋	—	(7.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 外面ナデ調整・指頭痕 内面ナデ	覆土上層	5% 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
9	陶器	丸皿	[8.0]	2.4	[4.0]	緻密・淡黄	ロクロ成形 底部削り出し 漬け掛け	黄釉	瀬戸・美濃	覆土	30% PL60

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
10	砥石	9.8	4.7	2.3	99.09	凝灰岩	砥面 3 面 表裏面多方向の研磨痕 右側面多方向の削り痕・2 方向の研磨痕 左側面多数の削り痕	覆土上層	PL60 被熱痕
11	砥石	(8.5)	(8.2)	(2.8)	(239.45)	雲母片岩	砥面 1 面 表面多方向の研磨痕	覆土	被熱痕

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
12	椀状滓	10.1	8.2	4.6	243.30	鉄	底面砂・粘土付着 気泡多数	覆土上層	PL60

第 37 号井戸跡（第 149 図 第 77 表 PL22・60）

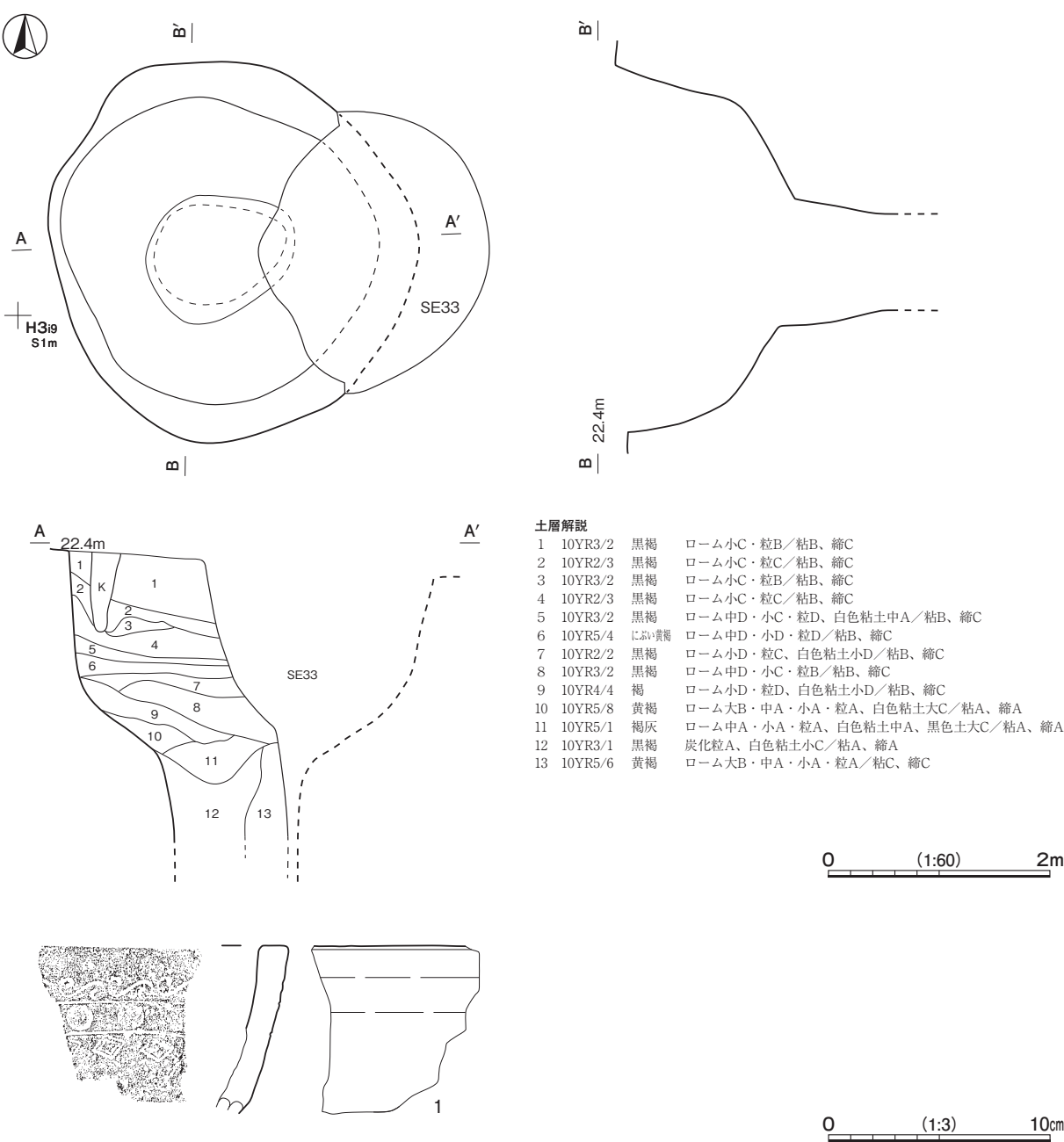
位置 調査区 C 区北部の H 3 i9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 33 号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 径 3.32 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 120cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.38m、短径 1.12m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200cm までの調査とした。

覆土 13 層を確認した。第 1～4 層はローム粒子を均質に含むことから、自然堆積である。第 5～13 層はロームブロックや粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（内耳鍋）、瓦質土器片 1 点（火鉢）、雲母片岩片 2 点が出土している。
所見 時期は、出土土器から 16 世紀代と考えられる。



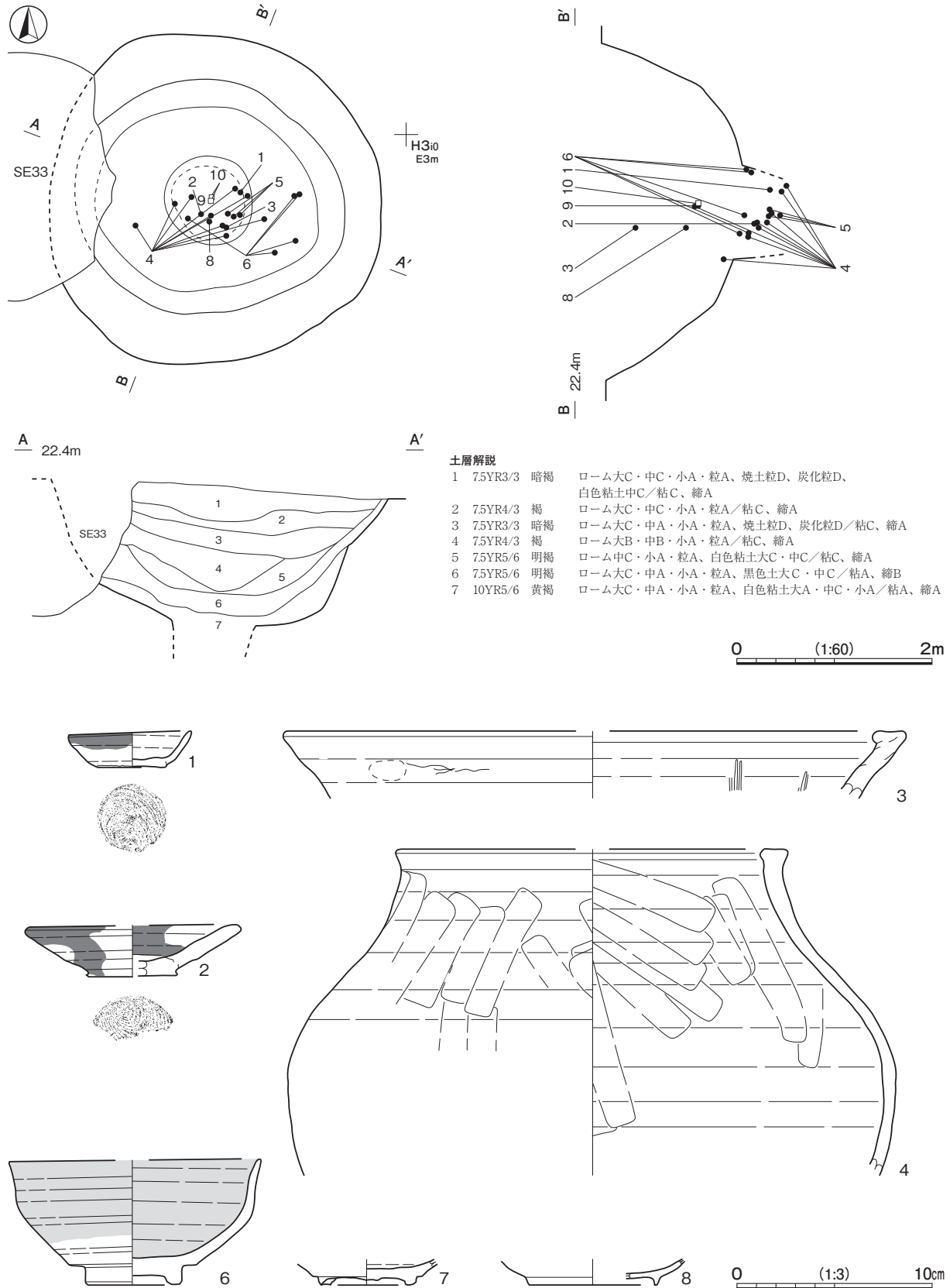
第 149 図 第 37 号井戸跡・出土遺物実測図

第 77 表 第 37 号井戸跡出土遺物一覧（第 149 図）

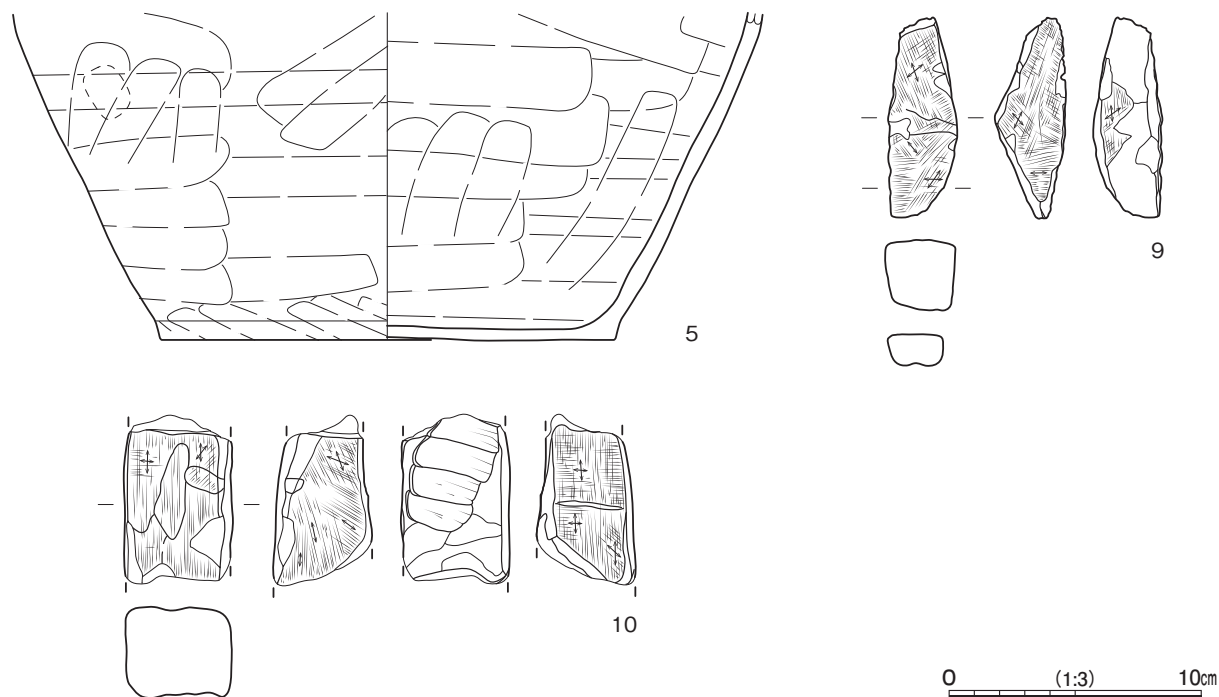
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	瓦質土器	火鉢	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面 2 条の沈線区画・上区唐草・中区丸文・下区菱文の押印文	覆土	5 % PL60

第 38 号井戸跡 (第 150・151 図 第 78 表 PL22・61)

位置 調査区 C 区北部の H 3 i0 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



第 150 図 第 38 号井戸跡・出土遺物実測図



第 151 図 第 38 号井戸跡出土遺物実測図

重複関係 第 33 号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径が 3.38 m、東西径は 2.96 m である。平面形は、円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 140cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 0.94 m、短径 0.90m の円筒状に掘り込んでいと推定できる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 142cm までの調査とした。

覆土 7 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 65 点（皿 2、播鉢 2、内耳鍋 10、甕 51）、陶器片 3 点（天目茶碗 1、甕 2）、磁器片 2 点（皿）、石器 2 点（凝灰岩製砥石、砂岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片 3 点が出土している。1・2・4～6 は覆土中層から、3・8～10 は覆土上層から、いずれも中央部を中心に散在した状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。

第 78 表 第 38 号井戸跡出土遺物一覧（第 150・151 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	6.2	1.9	3.4	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	100% PL61 煤付着
2	土師質土器	皿	[10.6]	2.6	[4.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	30% 煤付着
3	土師質土器	播鉢	[32.0]	(3.5)	—	長石・雲母・ 白色粒子	灰褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面輪積み痕・指頭痕 内 面串状工具による 3 条一単位の播目	覆土上層	5 %
4	土師質土器	甕	20.2	(16.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部横・斜位ナデ	覆土中層	40% PL61
5	土師質土器	甕	—	(13.1)	18.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面横・斜位ナデ・弱い縦位ナデ 内面横位ナデ・ 弱い縦位ナデ 底部内外面一方向ナデ	覆土中層	40% PL61

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
6	陶器	天目茶碗	12.9	6.4	4.7	緻密・浅黄橙	ロクロ成形 底部削り出し 漬け掛け	褐釉	瀬戸・美濃	覆土中層	50% PL61
7	磁器	皿	—	(1.5)	[5.0]	緻密・灰白	白磁 ロクロ成形 底部削り出し・割高台	長石釉	中国産 福建省系窯	覆土	5% PL61
8	磁器	皿	—	(1.4)	[6.8]	緻密・灰白	白磁 ロクロナデ 底部削り出し	透明釉	中国産 福建省系窯カ	覆土上層	10% PL61

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
9	砥石	2.8	(2.8)	8.0	(57.18)	凝灰岩	砥面3面 表面・側面多方向の研磨痕 裏面二方向の研磨痕	覆土上層	PL61
10	砥石	(6.8)	4.3	4.0	(147.78)	砂岩	砥面3面 表面・側面多方向の研磨痕 裏面削り痕	覆土上層	PL61

第 40 号井戸跡（第 152 図 第 79 表 PL22・61）

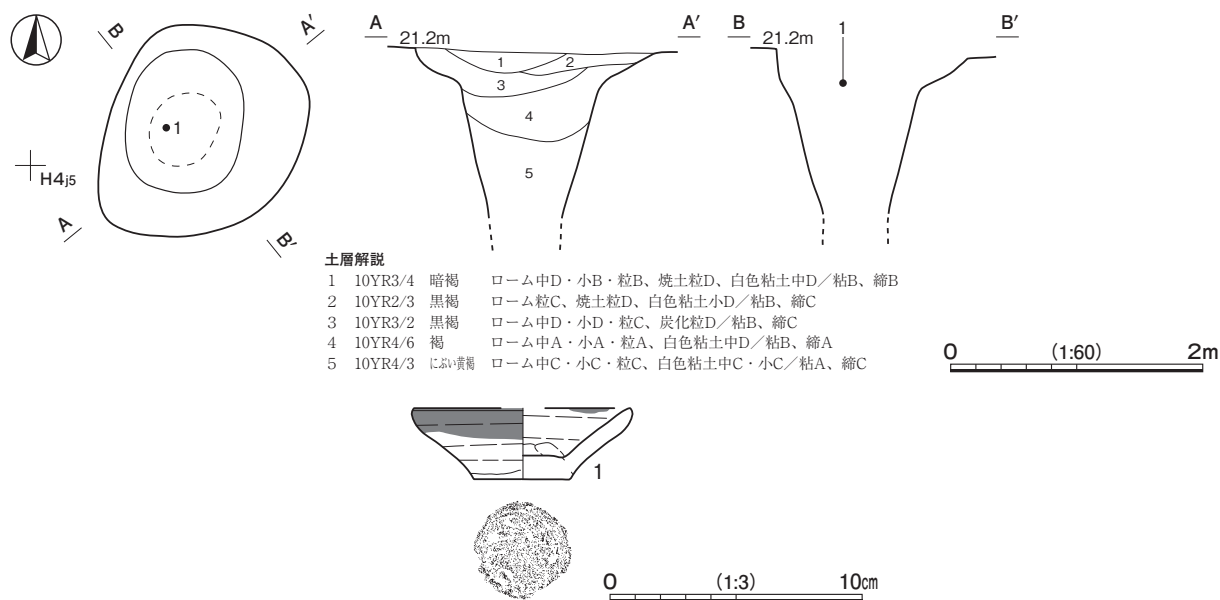
位置 調査区 C 区北東部の H 4 i5 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.90 m、短径 1.58 m の不整楕円形で、長径方向は N - 20° - E である。断面形は漏斗状で、確認面から 40cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.14 m、短径 0.92m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 140cm までの調査とした。

覆土 5 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 13 点（皿 1、播鉢 9、内耳鍋 3）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、須恵器片 1 点が出土している。1 は中央部西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉と考えられる。



第 152 図 第 40 号井戸跡・出土遺物実測図

第 79 表 第 40 号井戸跡出土遺物一覧（第 152 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[8.6]	2.9	[3.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外面下端ナデ調整 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土上層	60% PL61 煤付着

第 41 号井戸跡（第 153 図 第 80 表 PL61）

位置 調査区 C 区東部の I 4 i5 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

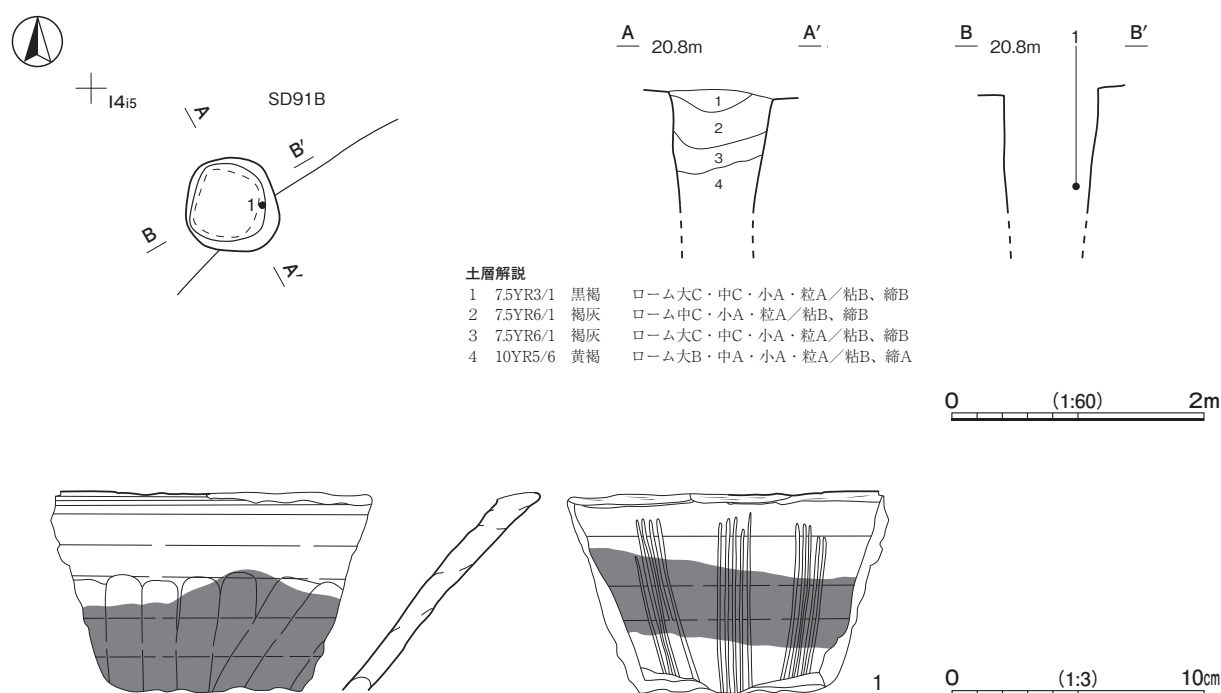
重複関係 第 91B 号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.80 m、短径 0.76 m の円形である。確認面からは、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 140cm までの調査とした。

覆土 4 層を確認した。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（搦鉢 1、内耳鍋 3）が出土している。1 は中央部南東寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、16 世紀後半以降に廃絶したものと考えられる。



第 153 図 第 41 号井戸跡・出土遺物実測図

第 80 表 第 41 号井戸跡出土遺物一覧（第 153 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	搦鉢	—	(7.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面弱い縦位ナデ 内面串状工具による 5 条一単位の襞目	覆土中層	5% PL61 煤付着 口縁部研 磨痕

第 42 号井戸跡（第 154 図 第 81 表 PL22・61）

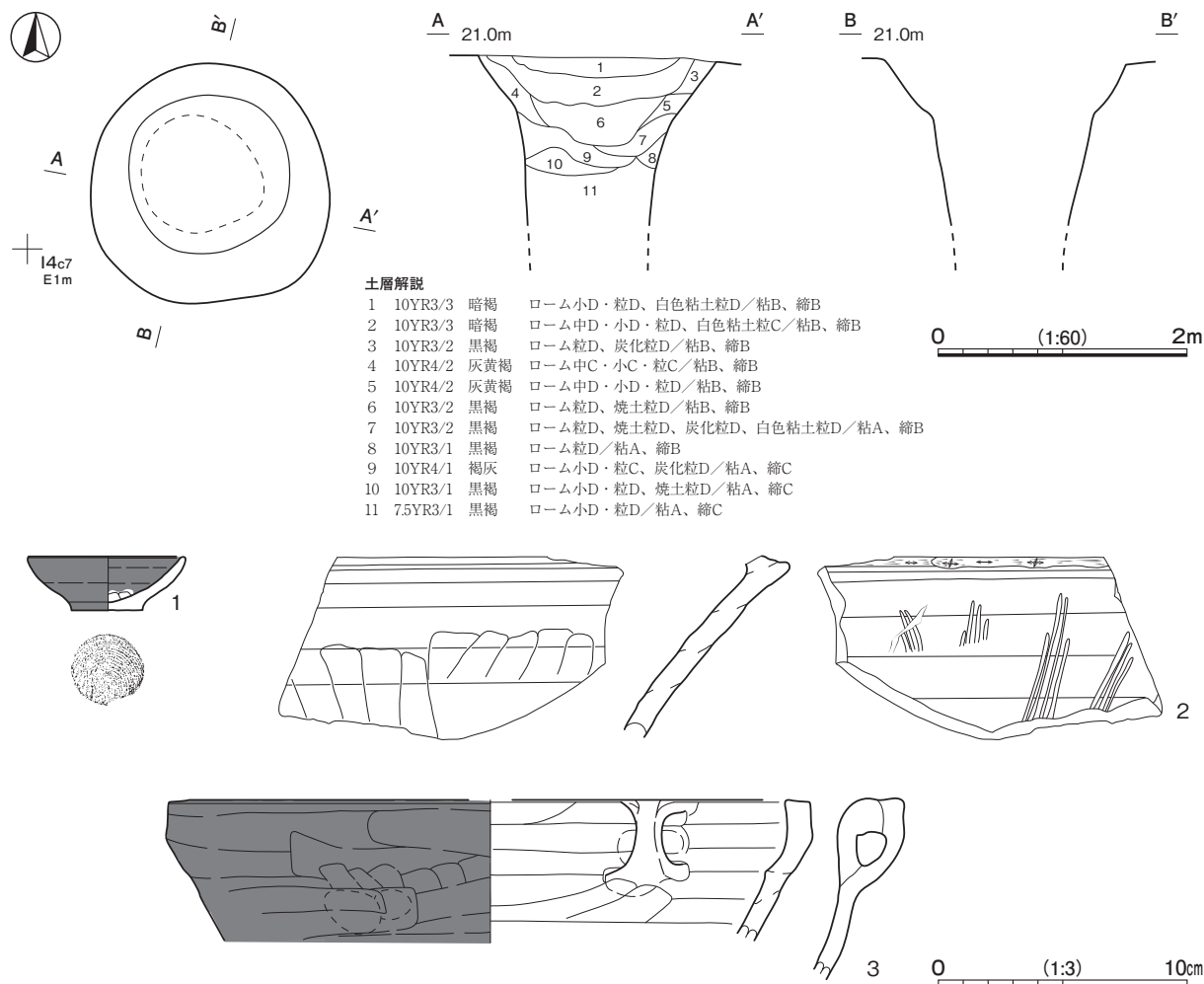
位置 調査区 C 区東部の I 4 b7 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.92 m、短径 1.90 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 40cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.30 m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 140cm までの調査とした。

覆土 11 層を確認した。各層にローム粒子を均質に含むことから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 19 点（皿 4、搥鉢 3、内耳鍋 1、甕 11）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前葉と考えられる。



第 154 図 第 42 号井戸跡・出土遺物実測図

第 81 表 第 42 号井戸跡出土遺物一覧（第 154 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[6.3]	2.1	2.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口クロナデ 底部回転条切り 内面ナデ	覆土	20% 油煙付着
2	土師質土器	搥鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い横位ナデ 内面串状工具による 4 条一単位の搥目	覆土	5 % PL61 口縁部研磨痕
3	土師質土器	内耳鍋	[26.0]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 体部内外面ナデ・指頭痕	覆土	5 % 煤付着

第 46 号井戸跡（第 155 図 第 82 表 PL22・61）

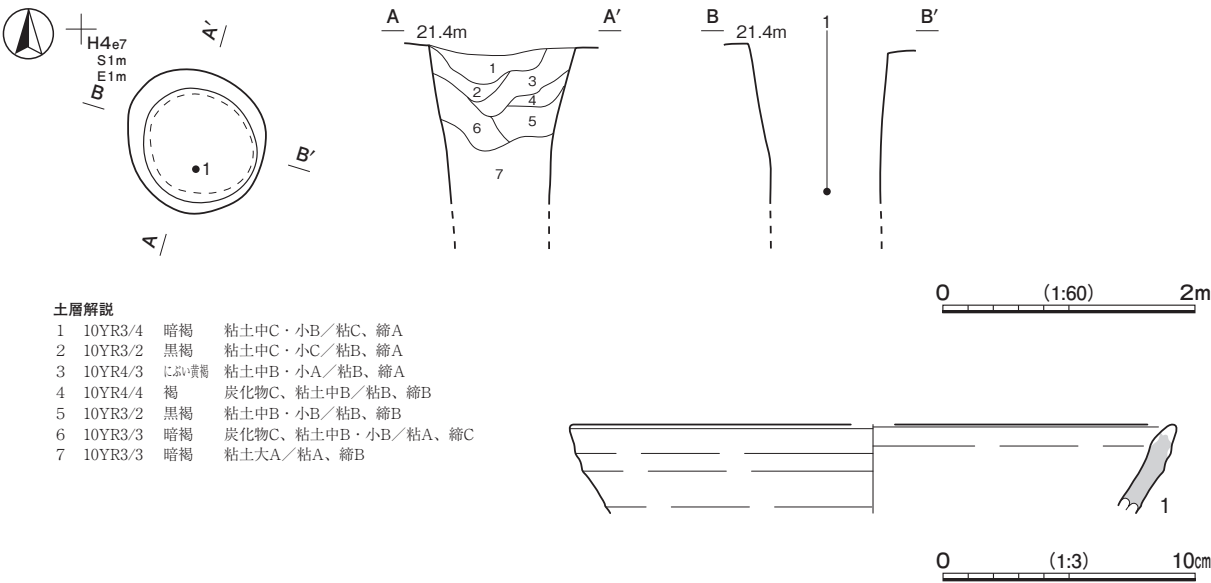
位置 調査区 C 区北東部の H 4 e7 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.18 m、短径 1.12 m の円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 134cm までの調査とした。

覆土 7層を確認した。各層に粘土ブロックなどを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿、内耳鍋）、陶器1点（碗形鉢カ）が出土している。1は中央部南寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第155図 第46号井戸跡・出土遺物実測図

第82表 第46号井戸跡出土遺物一覧（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗形鉢カ	[24.0]	(3.5)	—	緻密・オリーブ黄	ロクロ成形 漬け掛け	オリーブ灰	瀬戸・美濃	覆土中層	5% PL61 補修材（漆カ）付着

第47号井戸跡（第156図 第83表 PL61）

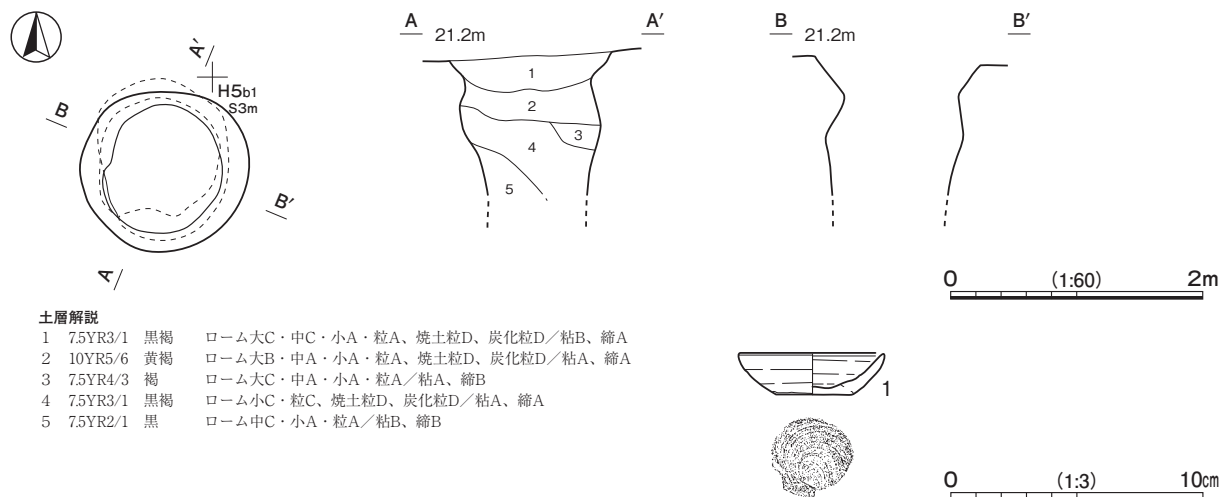
位置 調査区C区北東部のH5b1区、標高21mほどの低地部に位置している。

規模と形状 長径1.34m、短径1.26mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から30cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は円筒状に掘り込んでいと推定できるが、上部は袋状を呈しており、崩落によって抉られた可能性がある。円筒部分の径は0.98～0.90mである。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から110cmまでの調査とした。

覆土 5層を確認した。第1～3層はロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。第4・5層は部分的な確認のため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿、甕）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第 156 図 第 47 号井戸跡・出土遺物実測図

第 83 表 第 47 号井戸跡出土遺物一覧（第 155 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	5.7	1.7	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	100% PL61

第 48 号井戸跡（第 157 図 第 84 表 PL22）

位置 調査区 C 区中央部の I 3 a0 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 57 号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 2.18 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 110cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.10 m、短径 0.88m の楕円形で円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 170cm までの調査とした。

覆土 15 層を確認した。第 1～13 層は各層にロームブロックや粘土ブロック、炭化材などを含む不規則な堆積状況から、人為堆積である。第 14・15 層は各層にローム粒子や粘土粒子を均質に含むことから、自然堆積である。

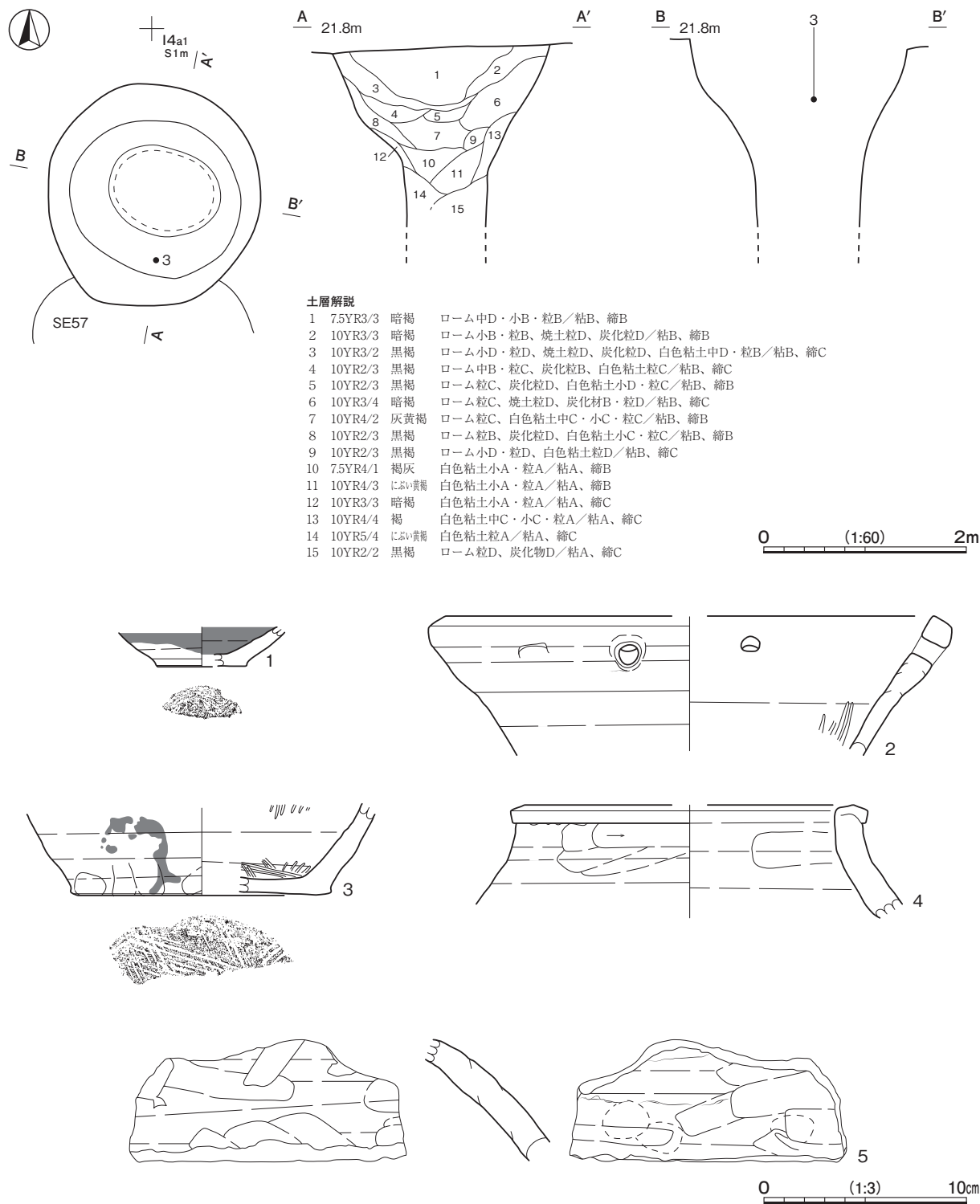
遺物出土状況 土師質土器片 85 点（皿 10、播鉢 6、内耳鍋 13、甕 56）、陶器片 1 点（甕）が出土している。3 は、中央部南寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。

第 84 表 第 48 号井戸跡出土遺物一覧（第 157 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	—	(1.9)	[4.5]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	5% 煤付着
2	土師質土器	播鉢	[24.0]	(6.9)	—	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 内面から一方向の穿孔 体部内面串状工具による 4 条一単位の播目	覆土	5%
3	土師質土器	播鉢	—	(4.5)	[12.8]	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面弱い縦位ナデ 内面串状工具による 6 条一単位の播目 底部外面板目張 内面二方向の播目単位	覆土上層	5% 煤付着
4	土師質土器	甕	[16.0]	(5.6)	—	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位ナデ	覆土	5%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
5	陶器	甕	—	(6.0)	—	緻密・にぶい赤褐	体部外面縦・斜位ナデ 内面横位ナデ・指頭痕	自然釉	常滑	覆土	5%



第157図 第48号井戸跡・出土遺物実測図

第 50 号井戸跡（第 158・159 図 第 85 表 PL61）

位置 調査区 C 区中央部の I 3 d9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

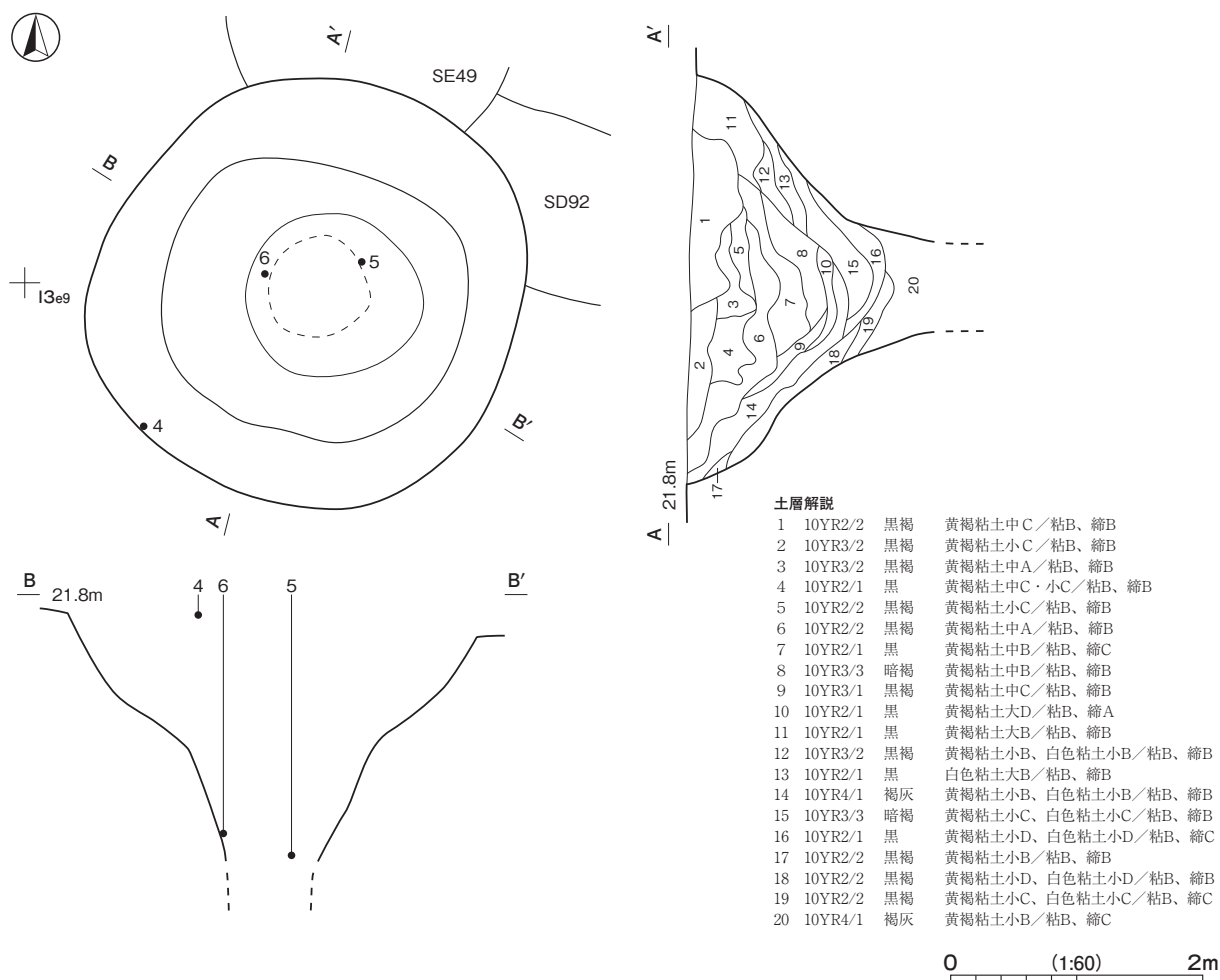
重複関係 第 49 号井戸跡を掘り込んでいる。第 92 溝跡との関係は不明である。

規模と形状 長径 3.40 m、短径 3.30 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 120cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.42 m、短径 1.34m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200cm までの調査とした。

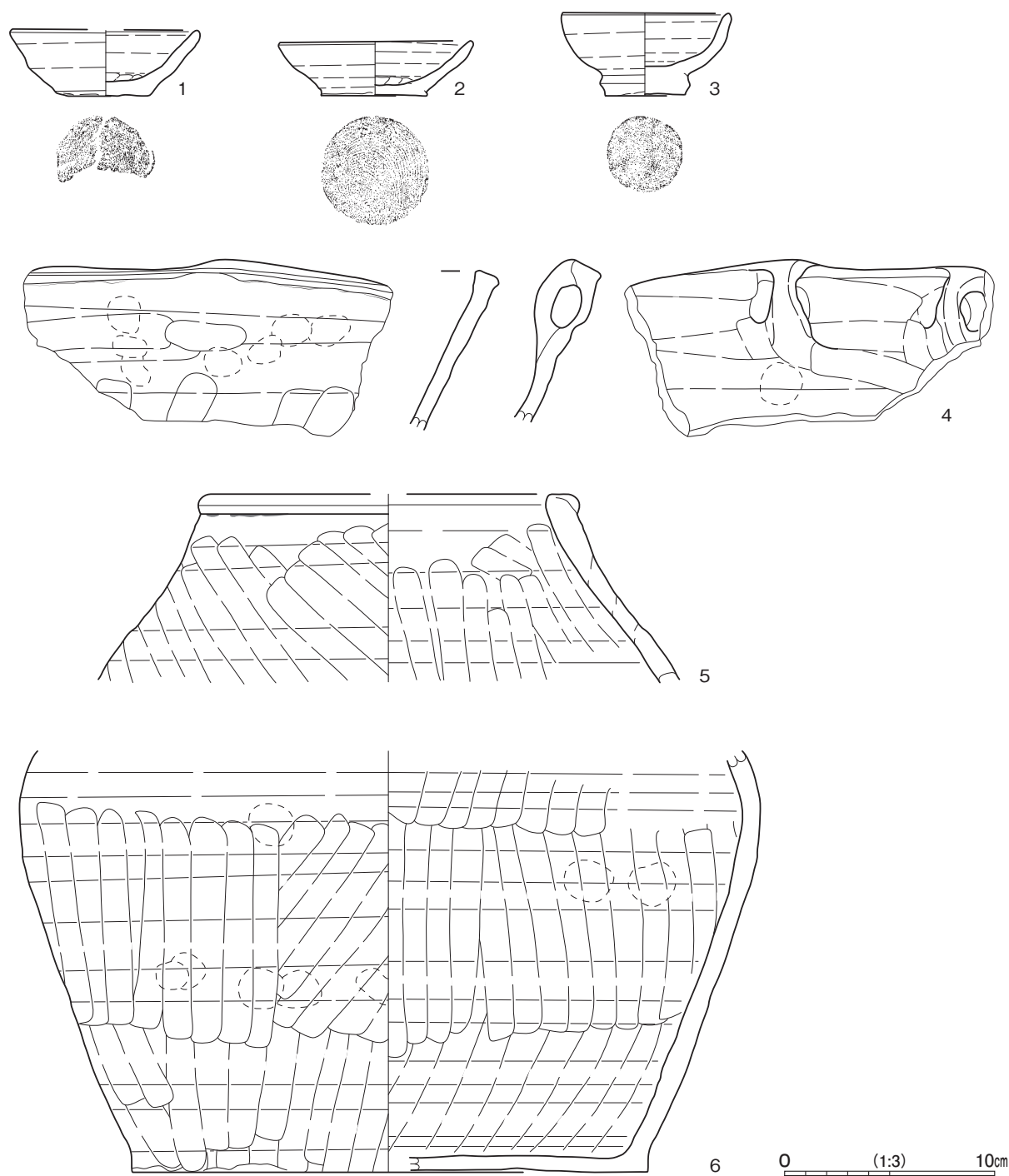
覆土 20 層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 62 点（皿 3、仏供 1、播鉢 20、内耳鍋 16、甕 22）、陶器片 1 点（碗）が出土している。4 は南西壁際の覆土上層から出土している。5 は中央部東寄り、6 は中央部西寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 158 図 第 50 号井戸跡実測図



第 159 図 第 50 号井戸跡出土遺物実測図

第 85 表 第 50 号井戸跡出土遺物一覧（第 159 図）

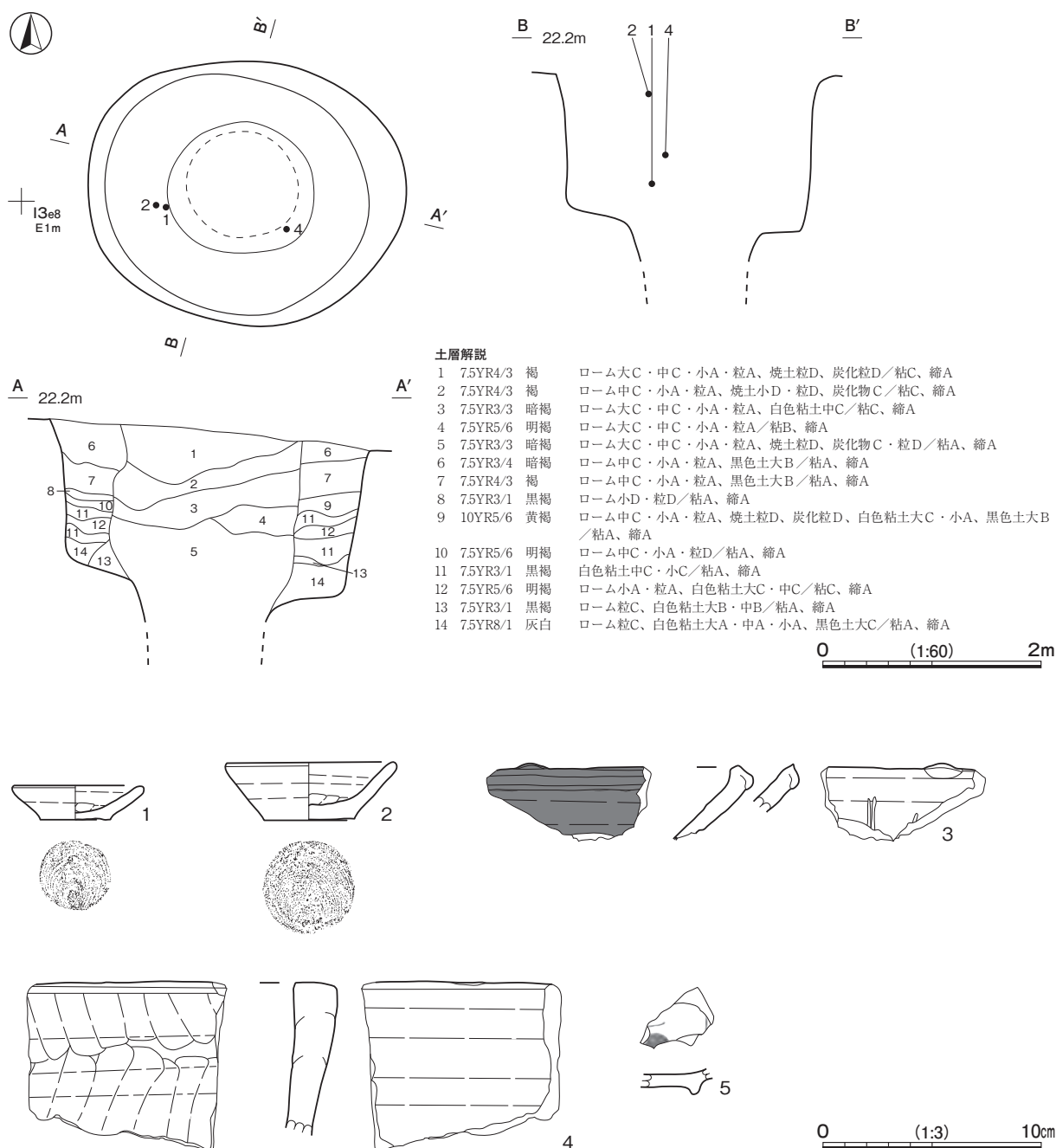
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	9.0	2.7	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	40%
2	土師質土器	皿	[8.9]	(3.1)	[4.5]	長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	40% PL61
3	土師質土器	仏供	7.8	3.9	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向ナデ	覆土	80% PL61
4	土師質土器	内耳鍋	—	(8.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け 内外面縦・横位ナデ・指頭痕	覆土上層	10%
5	土師質土器	甕	[16.2]	(9.0)	—	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内外面弱い縦・斜位ナデ	覆土中層	10% PL62
6	土師質土器	甕	—	(20.0)	[24.6]	長石・石英・金雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内外面弱い縦・斜位ナデ 底部板目痕	覆土中層	40% PL62

第 51 号井戸跡 (第 160 図 第 86 表 PL62)

位置 調査区 C 区中央部の I 3 d8 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している

規模と形状 長径 2.90 m、短径 2.42 m の楕円形で、長径方向は $N - 83^{\circ} - W$ である。断面形は逆凸字状で、確認面から 140cm までは円筒状に掘り込み、幅 44 ~ 64cm の平場を構築している。以下は長径 1.34 m、短径 1.12m の楕円形で円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 164cm までの調査とした。

覆土 14 層を確認した。第 1 ~ 5 層は井筒を抜き取った後の堆積で、ロームブロックや粘土ブロックなどを含



第 160 図 第 51 号井戸跡・出土遺物実測図

むことから、人為堆積である。第6～14層は井筒を設置した際の埋土である。

遺物出土状況 土師質土器片 16 点（皿 3、播鉢 3、内耳鍋 9、火鉢 1）、陶器片 3 点（碗 2、皿 1）、被熱痕を受けた雲母片岩片 2 点が出土している。1・2・4 はいずれも井筒を抜き取った後の覆土からの出土で、1・4 は中層から、2 は上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前半と考えられる。

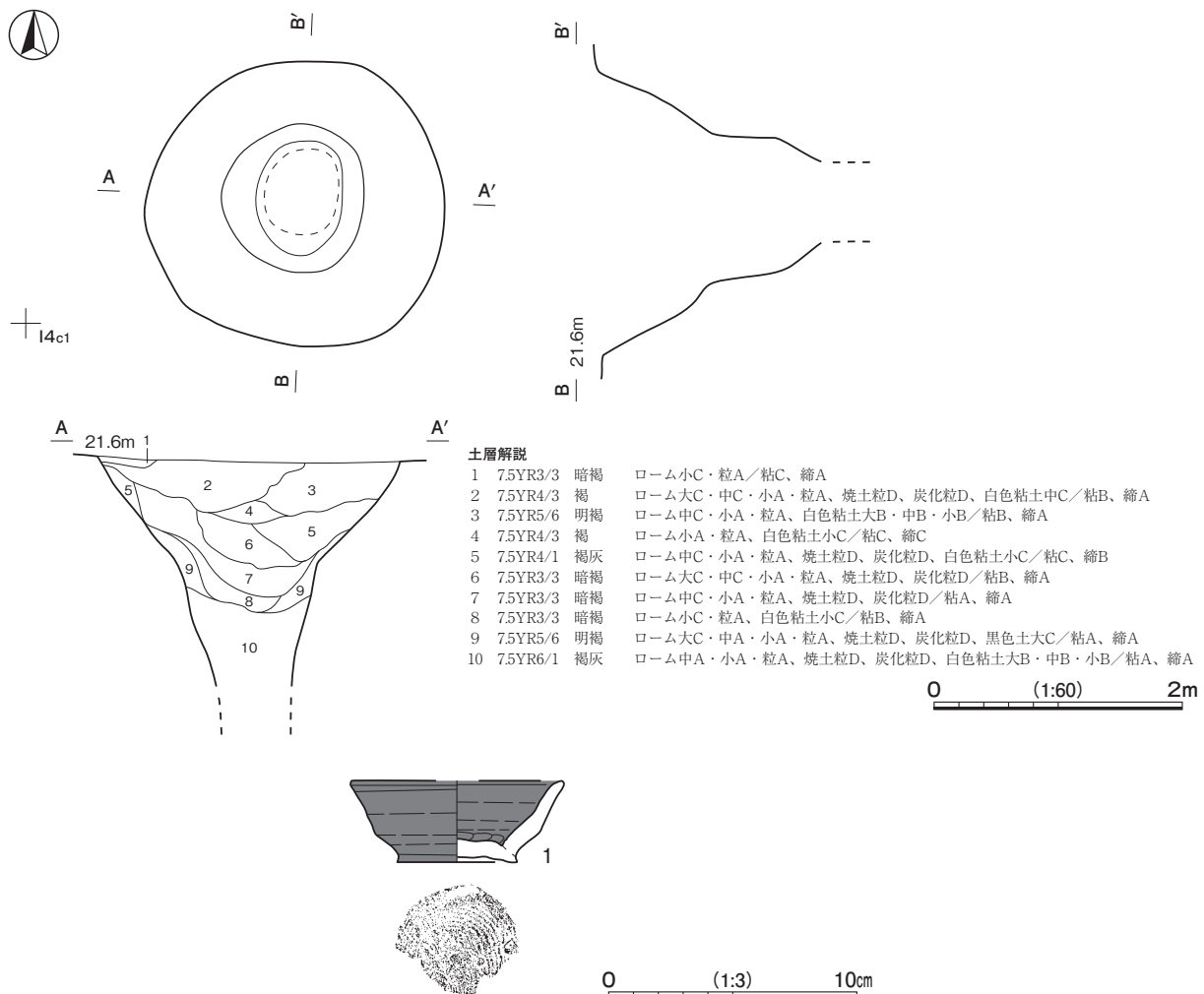
第 86 表 第 51 号井戸跡出土遺物一覧（第 160 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	6.0	1.6	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土中層	90% PL62
2	土師質土器	皿	7.7	2.7	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80%
3	土師質土器	播鉢	—	(3.4)	—	石英・雲母	灰黄	普通	口縁部折り返し・片口成形 体部内面串状工具による 2 条一単位の播目	覆土	5% 煤付着
4	土師質土器	火鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・金雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面弱い縦位ナデ	覆土中層	5% 被熱痕

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
5	陶器	皿	—	(1.2)	—	緻密・淡黄	ロクロ成形 長石釉施釉・鉄絵筆書き	長石釉 鉄釉	瀬戸・美濃	覆土	5%

第 52 号井戸跡（第 161 図 第 87 表）

位置 調査区 C 区東部の I 4 b1 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



第 161 図 第 52 号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 長径 2.40 m、短径 2.28 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 80cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.22 m、短径 1.14m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 180cm までの調査とした。

覆土 10 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 8 点（皿 1、内耳鍋 7）、被熱痕がある雲母片岩片 1 点が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。

第 87 表 第 52 号井戸跡出土遺物一覧（第 161 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[8.6]	3.3	[4.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	20% 油煙付着

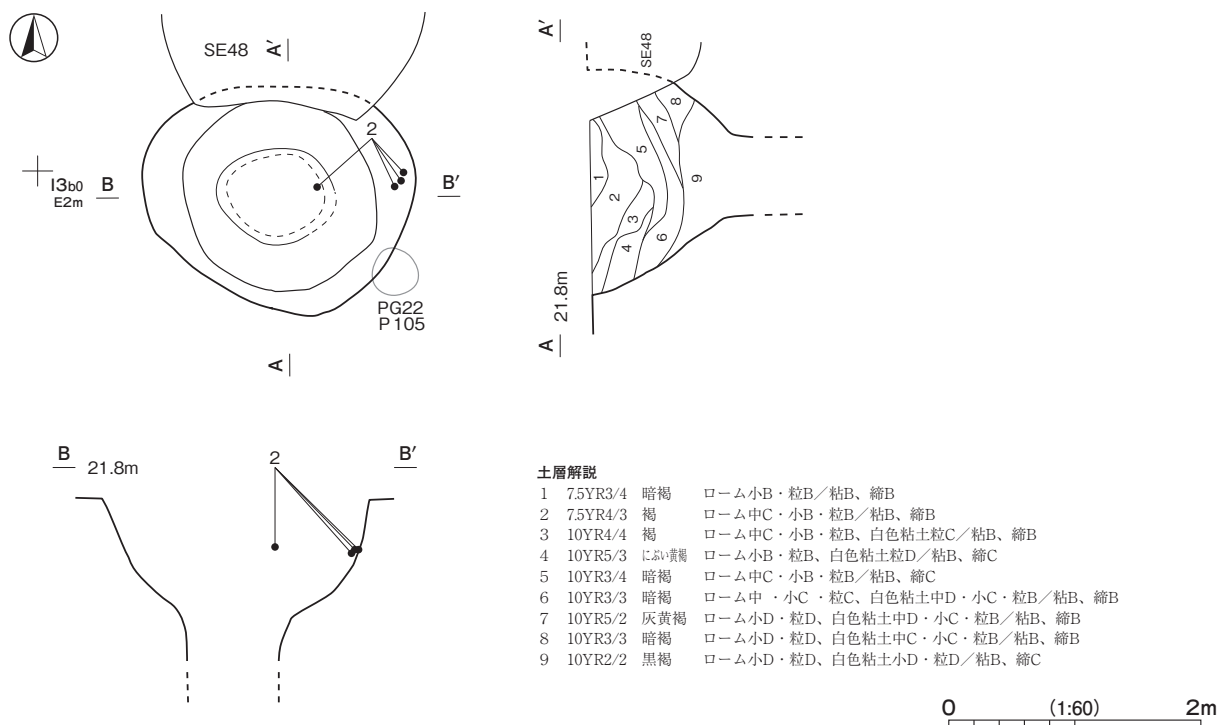
第 57 号井戸跡（第 162・163 図 第 88 表 PL22・62）

位置 調査区 C 区東部の I 3b0 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

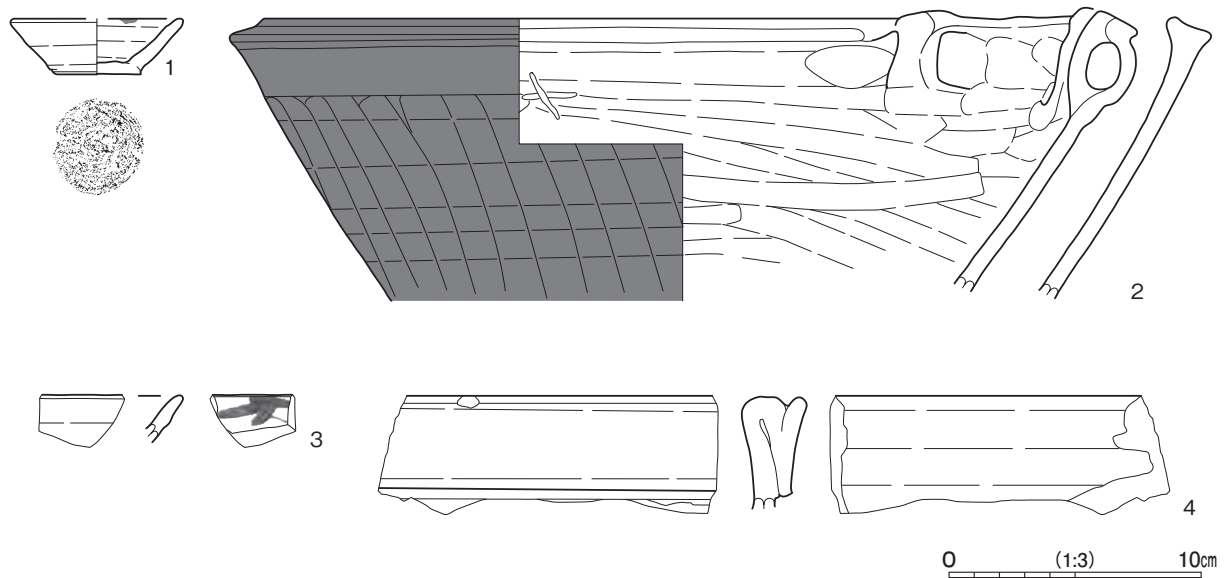
重複関係 第 48 号井戸、第 22 号ピット群の P105～P107・P170 との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径 2.14 m、短径 1.78 m である。平面形は楕円形と推定でき、長径方向は N-78°-E である。断面形は漏斗状で、確認面から 110cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 0.98 m、短径 0.78m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 170 cm までの調査とした。

覆土 9 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。



第 162 図 第 57 号井戸跡実測図



第 163 図 第 57 号井戸跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 29 点（皿 3、播鉢 7、内耳鍋 19）、陶器片 2 点（鉄絵皿、甕）が出土している。ほかに混入した土師器片 3 点、須恵器片 1 点が出土している。2 は中央部と東壁の覆土上層から、散在した状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前半と考えられる。4 は 15 世紀の甕の破片で、混入と思われるが、伝世したものが廃棄された可能性もあるため、本跡に伴う遺物として掲載した。

第 88 表 第 57 号井戸跡出土遺物一覧（第 163 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[6.8]	2.2	3.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	50% 煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	[33.6]	(11.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・×のヘラ書き 体部 外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	40% PL62 煤付着

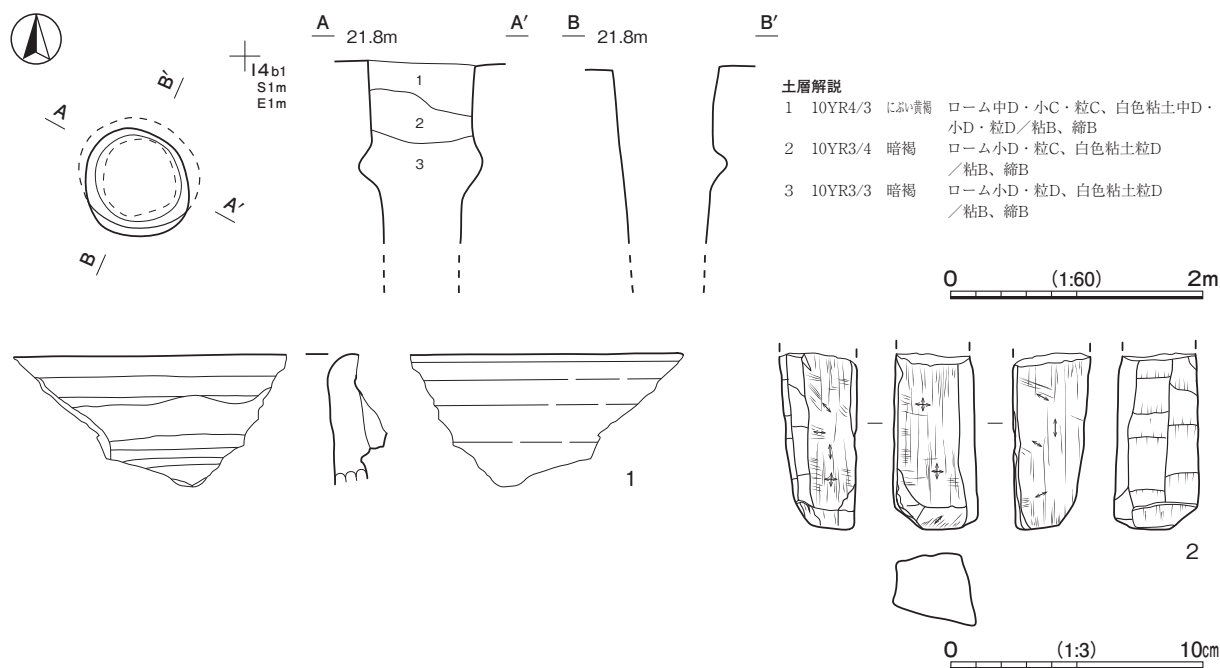
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	鉄絵皿	—	(1.9)	—	緻密・灰白	ロクロ成形 底部削り出し 長石釉 漬け掛け 内面鉄絵	鉄釉 長石釉	瀬戸	覆土	5 %
4	陶器	甕	—	(4.5)	—	緻密・褐灰	口縁部横ナデ・折り返し	自然釉	常滑	覆土	5 %

第 58 号井戸跡（第 164 図 第 89 表 PL22・62）

位置 調査区 C 区東部の I 4 b1 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.82 m の楕円形で、長径方向は N - 59° - W である。確認面から円筒状に掘り込んでいる。壁の中部は、崩落のため北半部に挟り込みがある。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 144cm までの調査とした。

覆土 3 層を確認した。各層はロームブロックや粘土ブロックの含有が少量であるため、自然堆積の可能性が高い。



第 164 図 第 58 号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（皿 1、内耳鍋 3）、陶器片 1 点（甕）、石器 1 点（凝灰岩製砥石）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。

第 89 表 第 58 号井戸跡出土遺物一覧（第 164 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	甕	—	(5.1)	—	緻密・灰褐	口縁部横ナデ・折り返し	自然釉	常滑	覆土	5 %

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	(7.0)	3.4	3.0	(100.23)	凝灰岩	砥面 3 面 上面・側面多方向の研磨痕 下面多数の削り痕	覆土	PL62

第 62 号井戸跡（第 165 図 第 90 表 PL23・62）

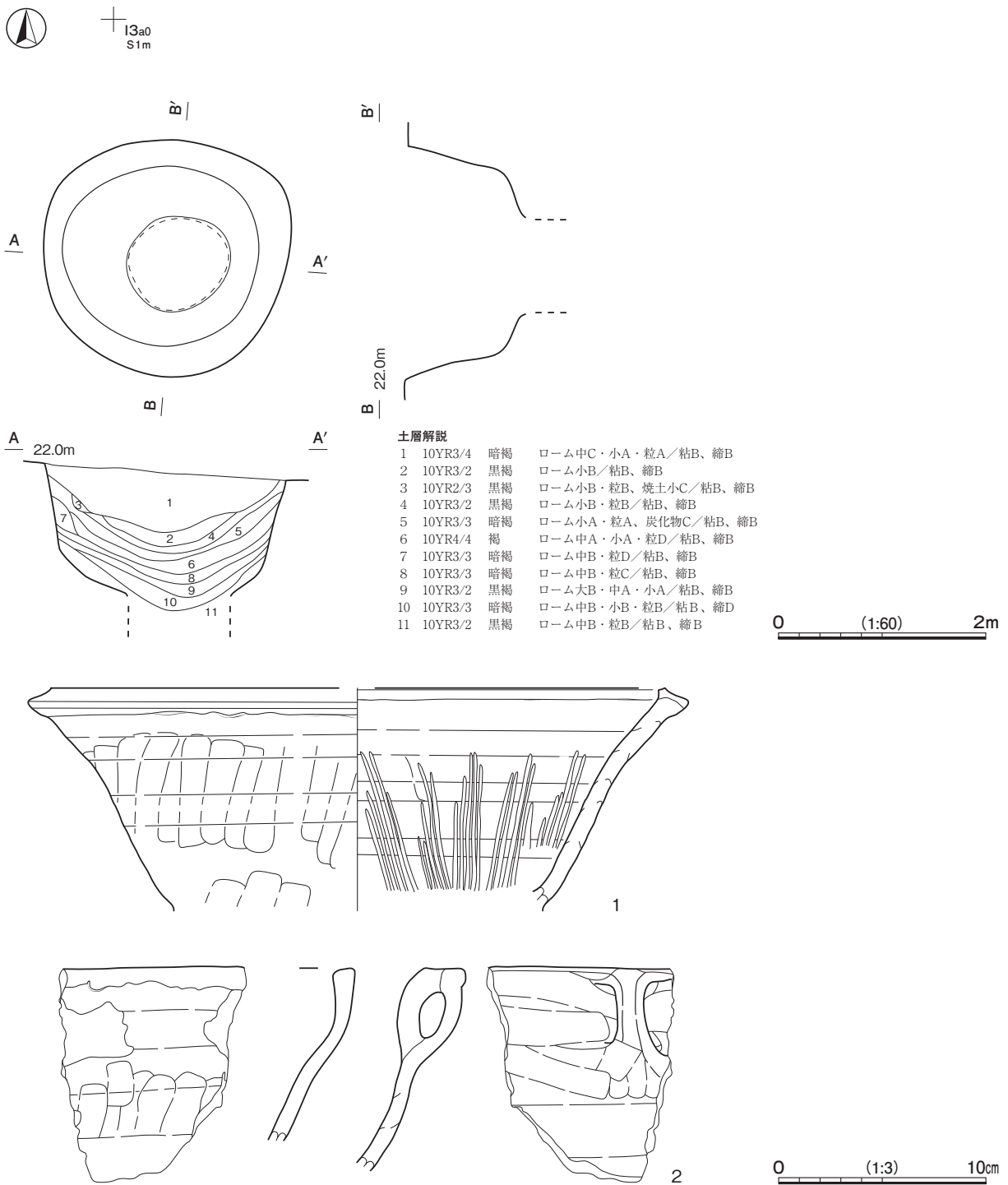
位置 調査区 C 区中央部の I 3 a0 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 2.34 m、短径 2.28 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 110cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.00 m、短径 0.96m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 120cm までの調査とした。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 14 点（播鉢 1、内耳鍋 13）、陶器片 1 点（甕）、石器 1 点（凝灰岩製砥石）が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 165 図 第 62 号井戸跡・出土遺物実測図

第 90 表 第 62 号井戸跡出土遺物一覧（第 165 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	搥鉢	[28.8]	(10.8)	—	石英・雲母 白色粒子	灰褐	普通	口縁部横ナデ・輪積痕 体部外面弱い縦位ナデ 内面串状工具による 5 条一単位の搥目	覆土	5 % PL62 口縁部研磨痕
2	土師質土器	内耳鍋	—	(10.3)	—	長石・石英・雲母	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け 体部外面弱い縦位 ナデ 内面縦・横位ナデ	覆土	5 %

第 63 号井戸跡 (第 166 図 第 91 表 PL23)

位置 調査区 C 区中央部の I 3 a9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

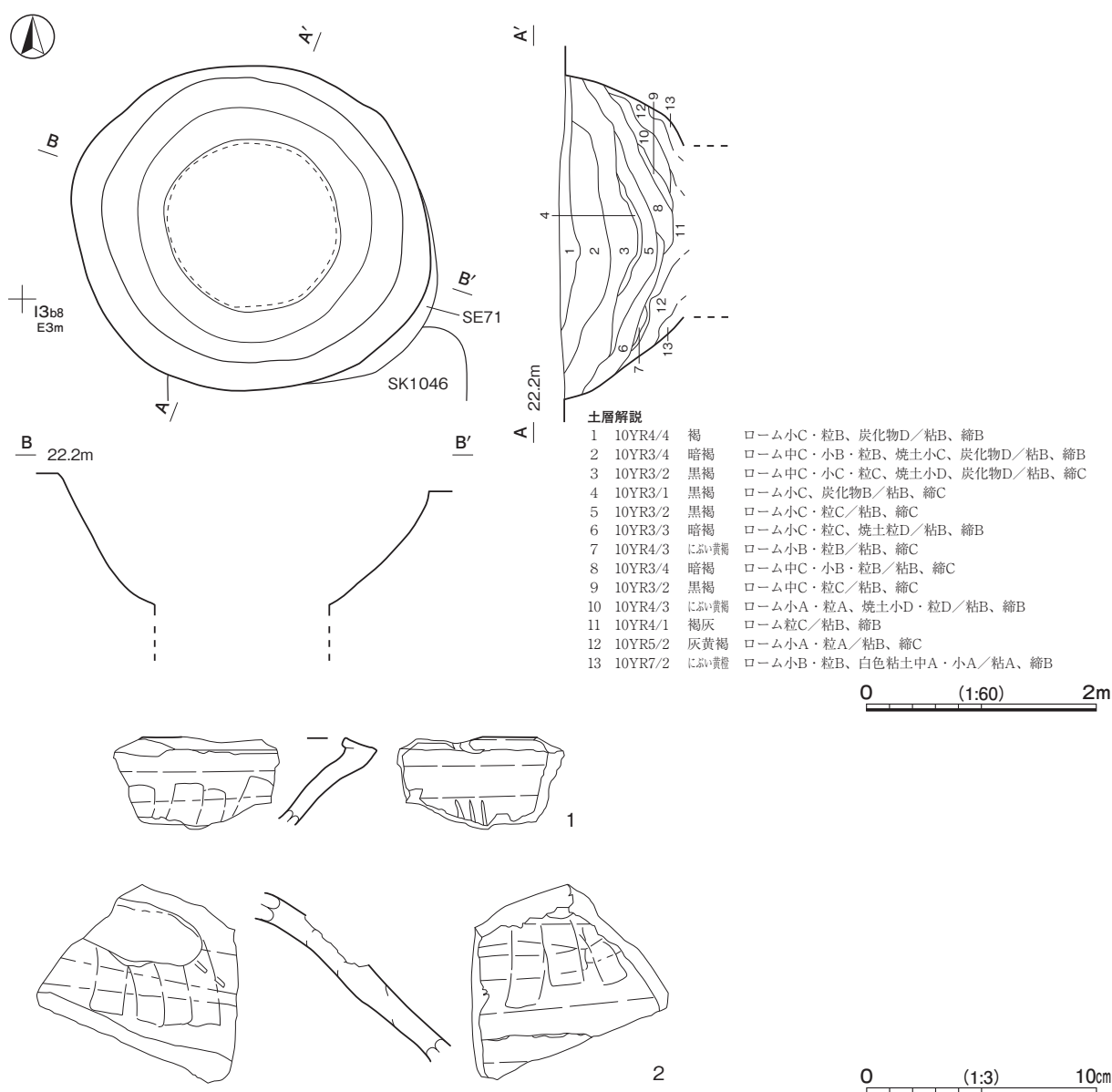
重複関係 第 71 号井戸跡、第 1046 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 3.20 m、短径 2.86 m の楕円形で、長径方向は N - 70° - W である。断面形は漏斗状で、確認面から 100cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.56 m、短径 1.50m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 110cm までの調査とした。

覆土 13 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロック、焼土、炭化物を含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 9 点 (播鉢 4、内耳鍋 5) が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、13 世紀後半の陶器片 (三耳壺) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。2 は 13 世紀後半の三耳壺の破片で、混入と思われるが、伝世したものが廃棄された可能性もあるため、本跡に伴う遺物として掲載した。



第 166 図 第 63 号井戸跡・出土遺物実測図

第 91 表 第 63 号井戸跡出土遺物一覧（第 166 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	播鉢	-	(38)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位ナデ内面串状工具による3条一単位の播目	覆土	5 %

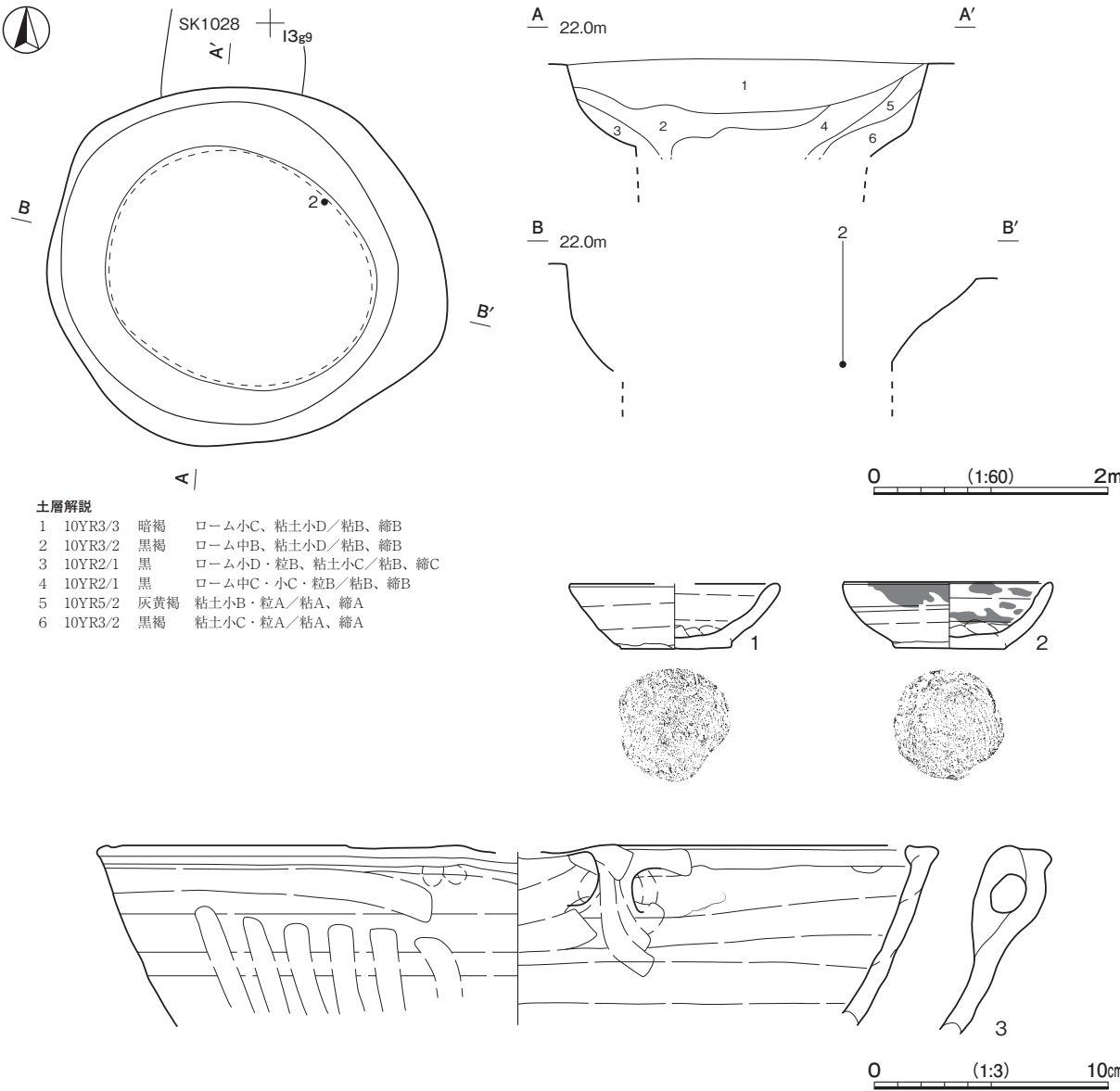
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	三耳壺	-	(8.5)	-	緻密・にぶい赤褐	体部外面弱い縦位ナデ・下駄歯状の圧痕・耳部分剥離	自然釉	常滑	覆土	5 %

第 64 号井戸跡（第 167 図 第 92 表 PL62）

位置 調査区 C 区中央部の I 3 g8 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1028 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 3.36 m、短径 3.20 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 70cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 2.38 m、短径 2.02m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 90cm までの調査とした。



第 167 図 第 64 号井戸跡・出土遺物実測図

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片6点（皿2、内耳鍋4）が出土している。2は中央部北東寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第92表 第64号井戸跡出土遺物一覧（第167図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[9.0]	2.7	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	80% PL62
2	土師質土器	皿	9.0	2.9	4.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80% PL62 油煙付着
3	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(7.0)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 体部外面縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5%

第65号井戸跡（第168図 第93表）

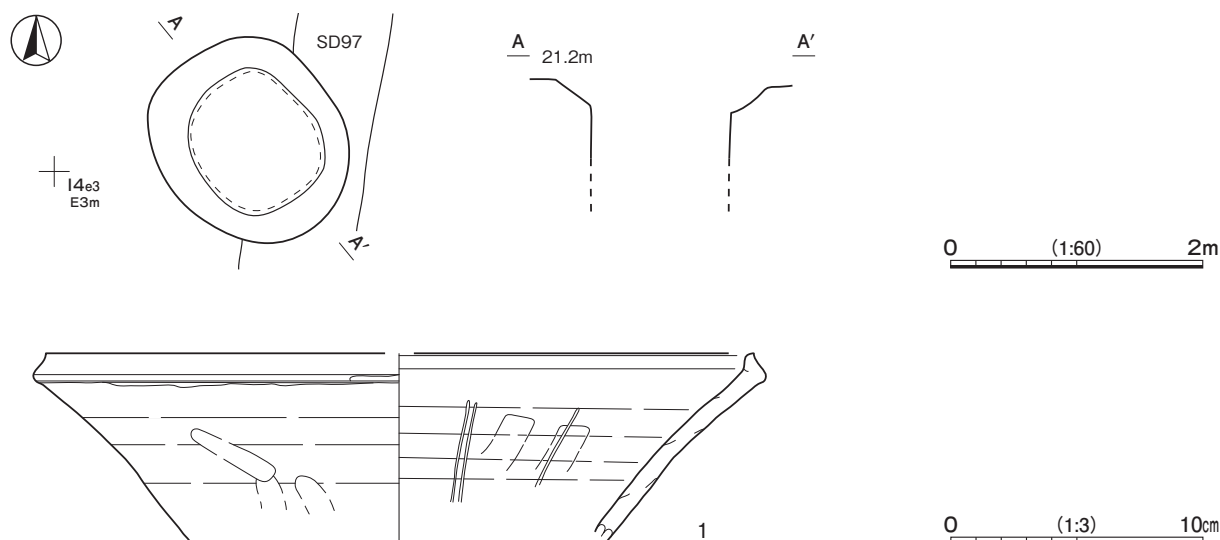
位置 調査区C区東部のI4d4区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第97号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径1.64m、短径1.46mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。断面形は漏斗状で、確認面から20cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.12m、短径0.98mの円筒状に掘り込んでいる。湧水のため、確認面から60cmまでの調査とした。

遺物出土状況 土師質土器片5点（掻鉢4、内耳鍋1）、陶器片1点（甕）が出土している。ほかに混入した土師器片5点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、1.50m以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第168図 第65号井戸跡・出土遺物実測図

第93表 第65号井戸跡出土遺物一覧（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	掻鉢	[28.8]	(7.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内外面ナデ調整 内面串状工具による2条一単位の掻目	覆土	5% 被熱痕

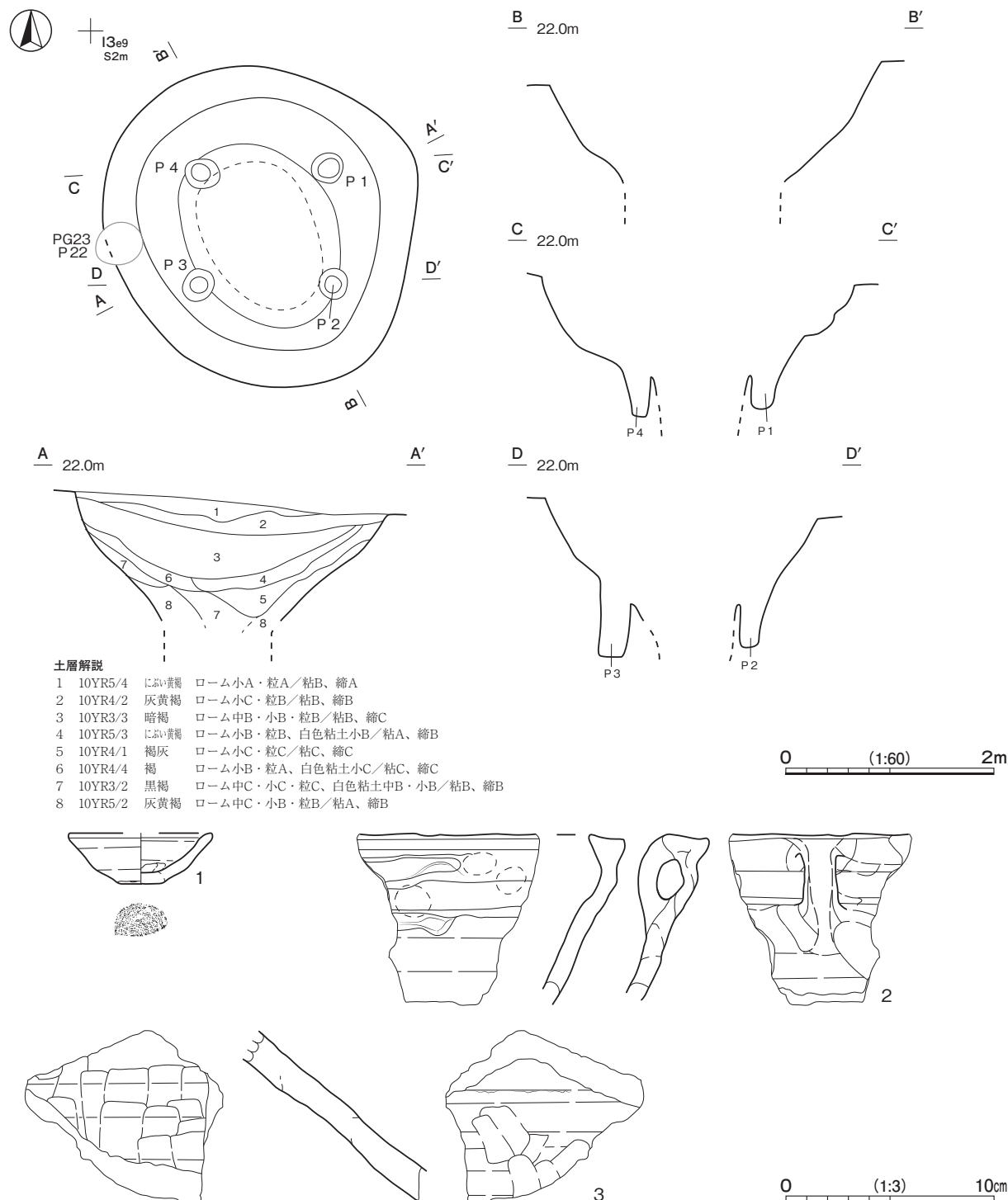
第 67 号井戸跡 (第 169 図 第 94 表 PL23)

位置 調査区 C 区中央部の I 3 e9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 23 号ピット群の P22 ~ P24 に掘り込まれている。

規模と形状 長径 3.20 m、短径 2.96 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 100cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.84 m、短径 1.44m の楕円形で円筒状に掘り込んでいと推定できる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 110cm までの調査とした。

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は長径 0.28 ~ 0.34 m、短径 0.28 ~ 0.30 m の円形で、確認面からの深さは 120 ~



第 169 図 第 67 号井戸跡・出土遺物実測図

142cmである。柱穴の間隔は東西 1.30 m、南北 1.10 mで、配置から上屋の柱穴と考えられる。

覆土 8層を確認した。第1・2層は各層にローム粒子を均質に含むことから、自然堆積である。第3～8層は各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片6点（皿1、播鉢1、内耳鍋4）、陶器1点（甕）が出土している。ほかに混入した土師器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

第94表 第67号井戸跡出土遺物一覧（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.4]	2.5	[2.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	5%
2	土師質土器	内耳鍋	—	(7.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ・内面耳部貼付け 体部内外面ナデ調整・指頭痕	覆土	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
3	陶器	甕	—	(8.2)	—	緻密・にぶい褐	体部内外面縦位ナデ	自然釉	常滑	覆土	5%

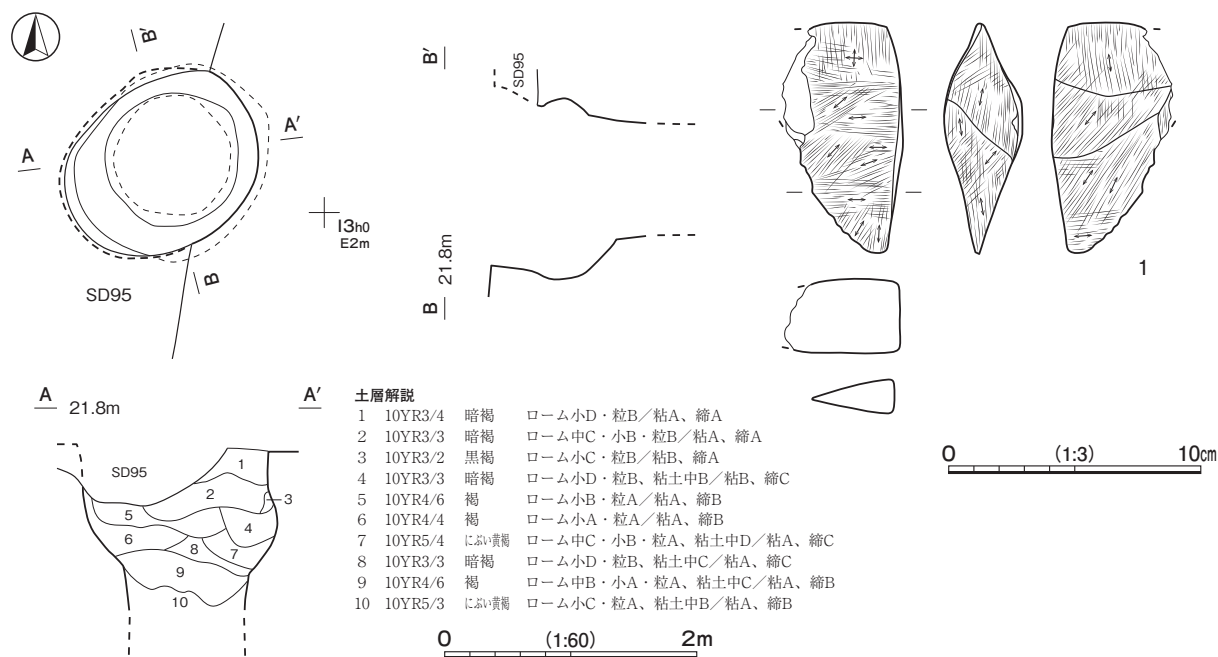
第69号井戸跡（第170図 第95表 PL23・62）

位置 調査区C区中央部のI3g0区、標高21mほどの低地部に位置している。

重複関係 第95号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.62m、短径1.22mの楕円形で、長径方向はN-33°-Eである。確認面から100cmまでは袋状を呈し、以下は長径1.06m、短径1.02mの円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から126cmまでの調査とした。

覆土 10層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。



第170図 第69号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（内耳鍋）、石器 1 点（凝灰岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器 2 点が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、16 世紀後半と考えられる。壁の上部が袋状を呈することから、崩落した可能性がある。

第 95 表 第 69 号井戸跡出土遺物一覧（第 170 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	砥石	9.2	(4.9)	3.1	(129.77)	凝灰岩	砥面 3 面 表裏面・右側面多方向の研磨痕	覆土	PL62

第 74 号井戸跡（第 171 図 第 96 表 PL62）

位置 調査区 C 区中央部の I 3 c0 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

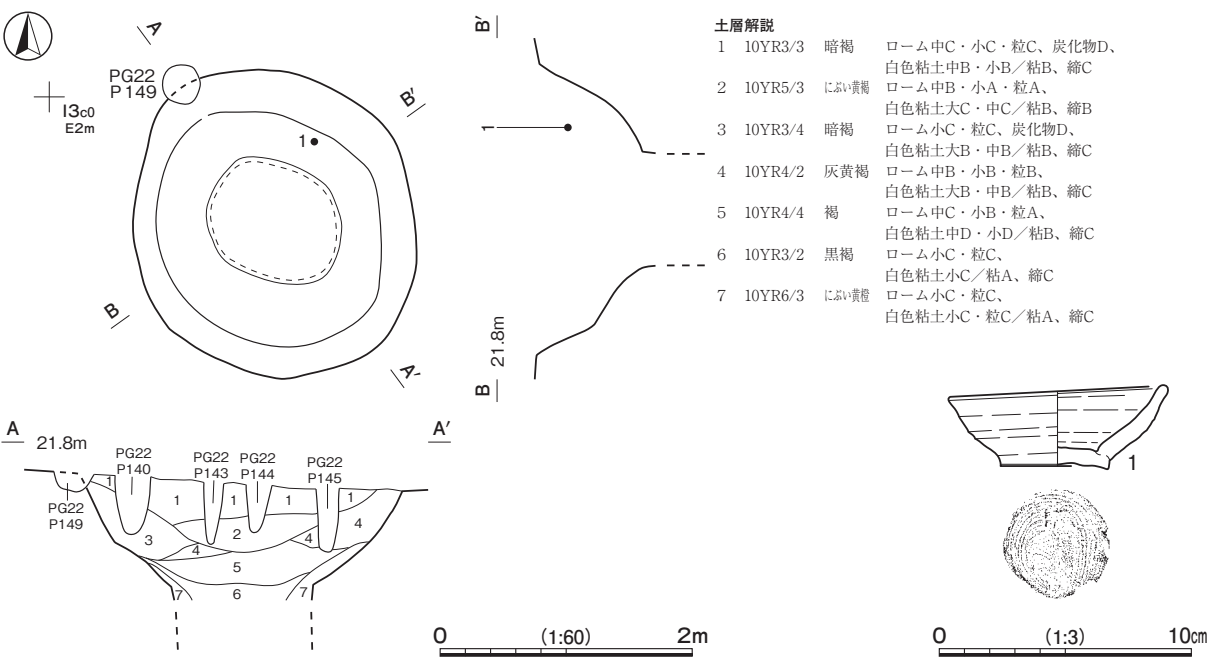
重複関係 第 22 号ピット群 P140・P143～P145・P149 に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.56 m、短径 2.32 m の楕円形で、長径方向は N - 35° - W である。断面形は漏斗状で、確認面から 80cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.02 m、短径 0.94m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 90cm までの調査とした。

覆土 7 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）が出土している。1 は中央部北東寄りの覆土上層から、出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、さらに 1.50 m 以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第 171 図 第 74 号井戸跡・出土遺物実測図

第 96 表 第 74 号井戸跡出土遺物一覧 (第 171 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	8.7	3.3	4.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL62

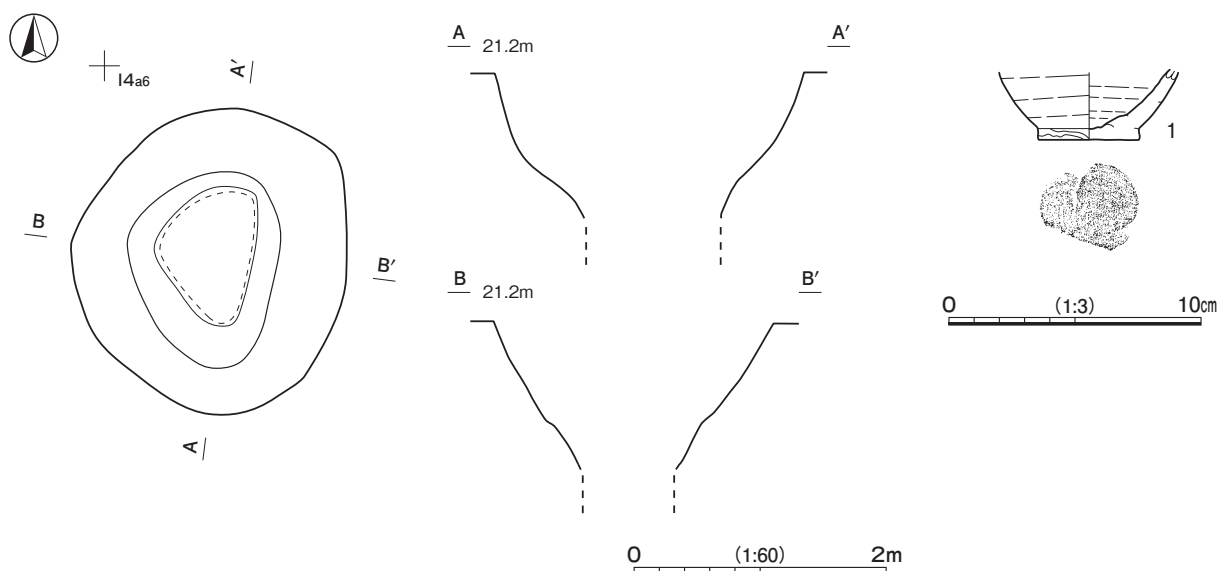
第 76 号井戸跡 (第 172 図 第 97 表 PL23)

位置 調査区 C 区東部の I 4 a6 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 2.40 m、短径 2.18 m の楕円形で、長径方向は N - 7° - E である。断面形は漏斗状で、確認面から 116cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.10 m、短径 0.78m の不整楕円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 120cm までの調査とした。

遺物出土状況 土師器片 5 点 (皿 3、内耳鍋 2) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 172 図 第 76 号井戸跡・出土遺物実測図

第 97 表 第 76 号井戸跡出土遺物一覧 (第 172 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	-	(2.7)	4.0	長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向ナデ	覆土	30%

第 79 号井戸跡 (第 173 図 第 98 表 PL62)

位置 調査区 C 区東部の I 4 f8 区、標高 21 m ほどの低地部に位置している。

重複関係 第 1003 号土坑、第 106 号溝跡を掘り込んでいる。

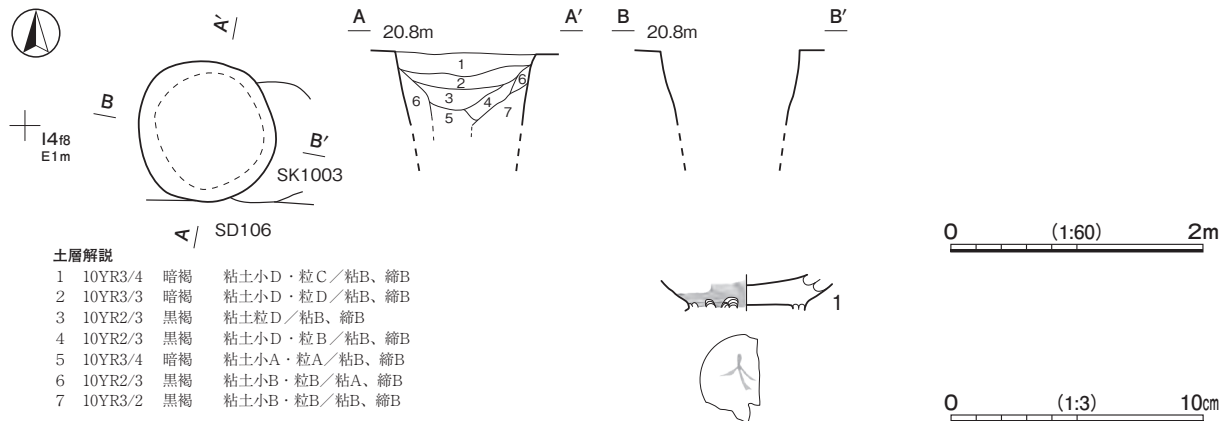
規模と形状 長径 1.16 m、短径 1.14 m の円形である。確認面から円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 52cm までの調査とした。

覆土 7 層を確認した。第 1 ~ 4 層は各層にローム粒子や粘土粒子を均質に含むことから、自然堆積である。第

5～7層は各層に粘土ブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 磁器片1点（染付碗）が出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀代と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、さらに1.50 m以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第173図 第79号井戸跡・出土遺物実測図

第98表 第79号井戸跡出土遺物一覧（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	—	(14)	—	緻密・灰白	染付 体部外面 圈・山・水・文・カ 底部外面 草花文	呉須 透明釉	波佐見・平戸系	覆土	5% PL62

第80号井戸跡（第174・175図 第99表 PL62）

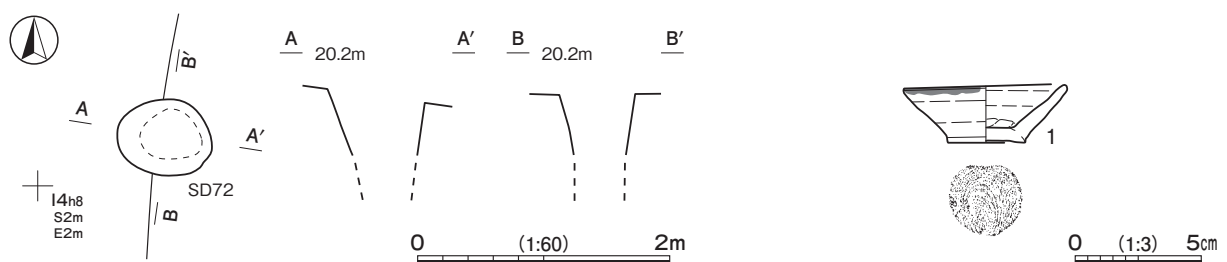
位置 調査区C区南東部のI4h8区、標高20 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第72号堀跡を掘り込んでいます。

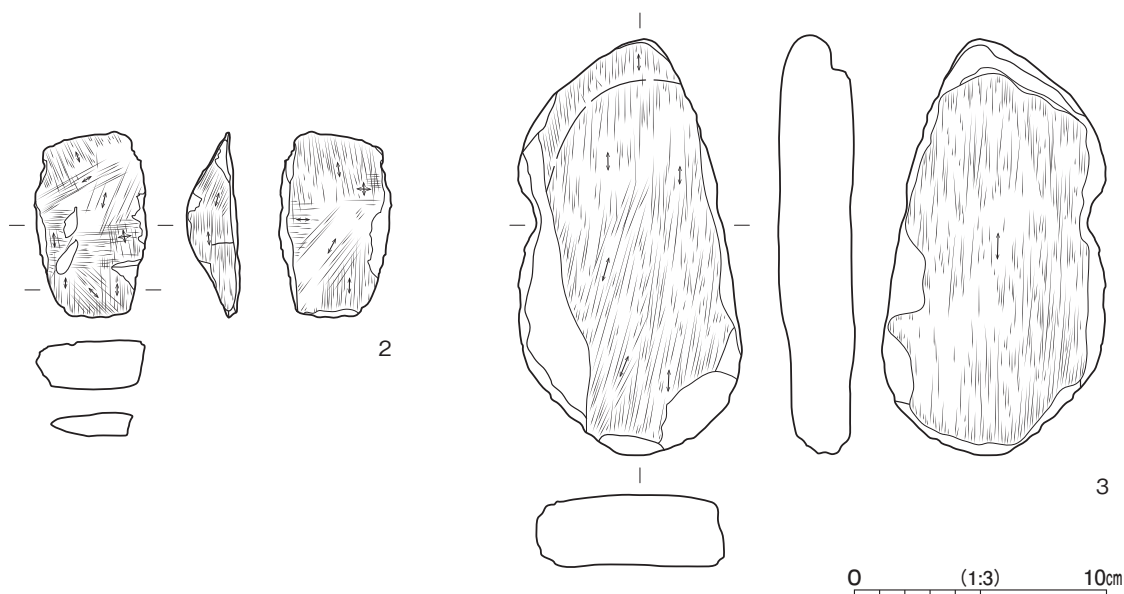
規模と形状 長径0.76 m、短径0.62 mの楕円形で、長径方向はN－80°－Wである。確認面から円筒状に掘り込んでいます。湧水と崩落の恐れがあったため、48cmまでの調査とした。

遺物出土状況 土師質土器片9点（皿8、播鉢1）、石器2点（凝灰岩製砥石、雲母片岩製砥石）が出土している。ほかに混入した須恵器片1点が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から17世紀前葉以降と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、さらに1.50 m以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第174図 第80号井戸跡・出土遺物実測図



第 175 図 第 80 号井戸跡出土遺物実測図

第 99 表 第 80 号井戸跡出土遺物一覧（第 174・175 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	6.5	2.4	3.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	90% PL62 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	7.4	(4.5)	2.2	(68.51)	凝灰岩	砥面 3 面 1 面欠損 表裏面多方向の研磨痕 側面 2 方向の研磨痕	覆土	PL62
3	砥石	(16.6)	(9.0)	3.0	(620.60)	雲母片岩	砥面 2 面 表面 2 方向の研磨痕 裏面 1 方向の研磨痕	覆土	PL62

第 107 号井戸跡（第 176 図 第 100 表 PL63）

位置 調査区 C 区南西部の K 2 a7 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

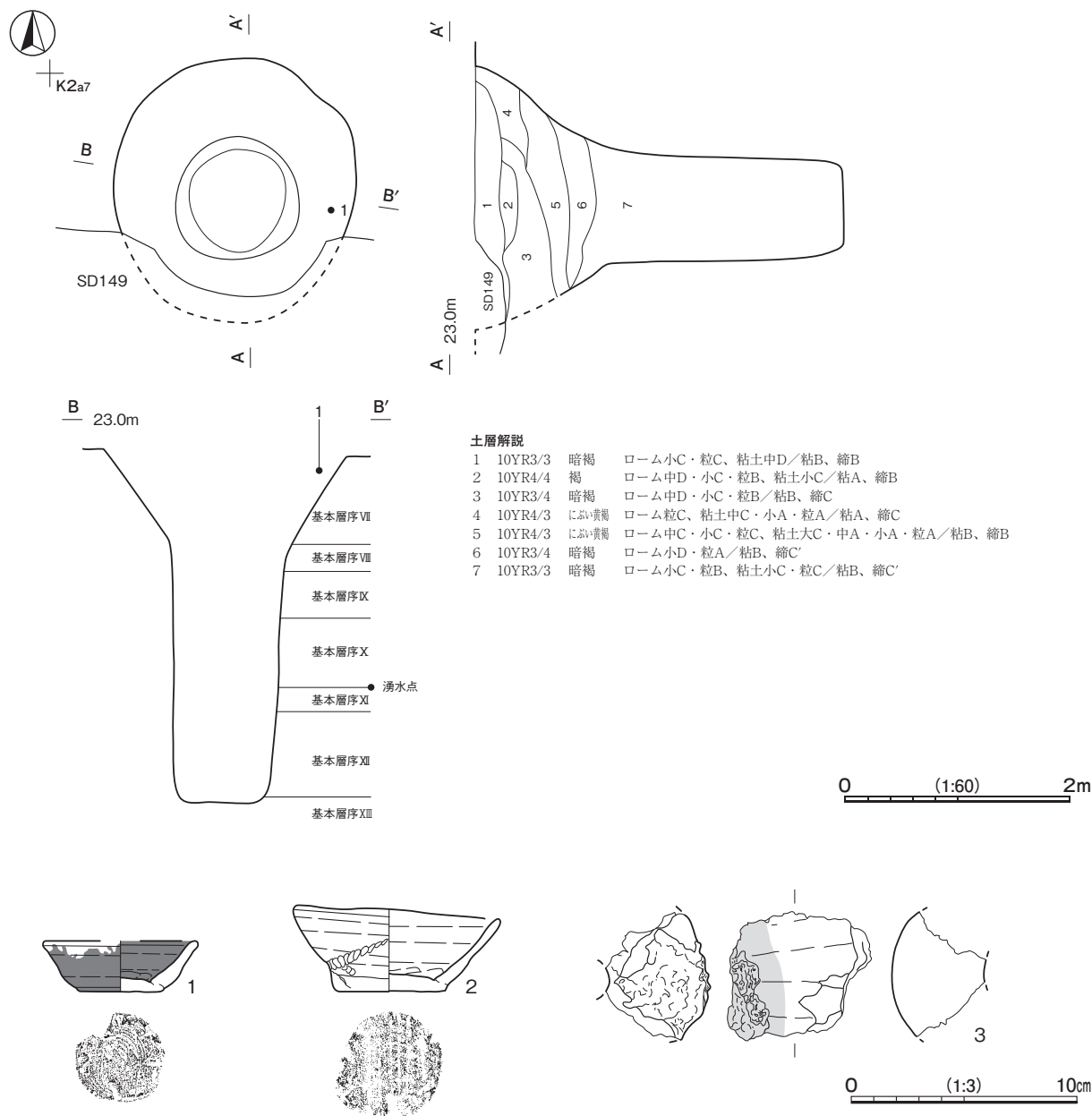
重複関係 第 149 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径 2.16 m、短径 2.06 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 100cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.10 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 326cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 230cm ほどの基本層序第 X 層と基本層序第 XI 層の境付近で、底面は基本層序第 XIII 層の上面まで掘り込んでいる。

覆土 7 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 14 点（皿 8、内耳鍋 6）、土製品 1 点（羽口）が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点、須恵器片 1 点が出土している。1 は南東部壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第176図 第107号井戸跡・出土遺物実測図

第100表 第107号井戸跡出土遺物一覧（第176図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.8]	2.3	3.8	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	60% 油煙付着
2	土師質土器	皿	9.1	3.8	4.8	金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部外面に縄目圧痕 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	95% PL63

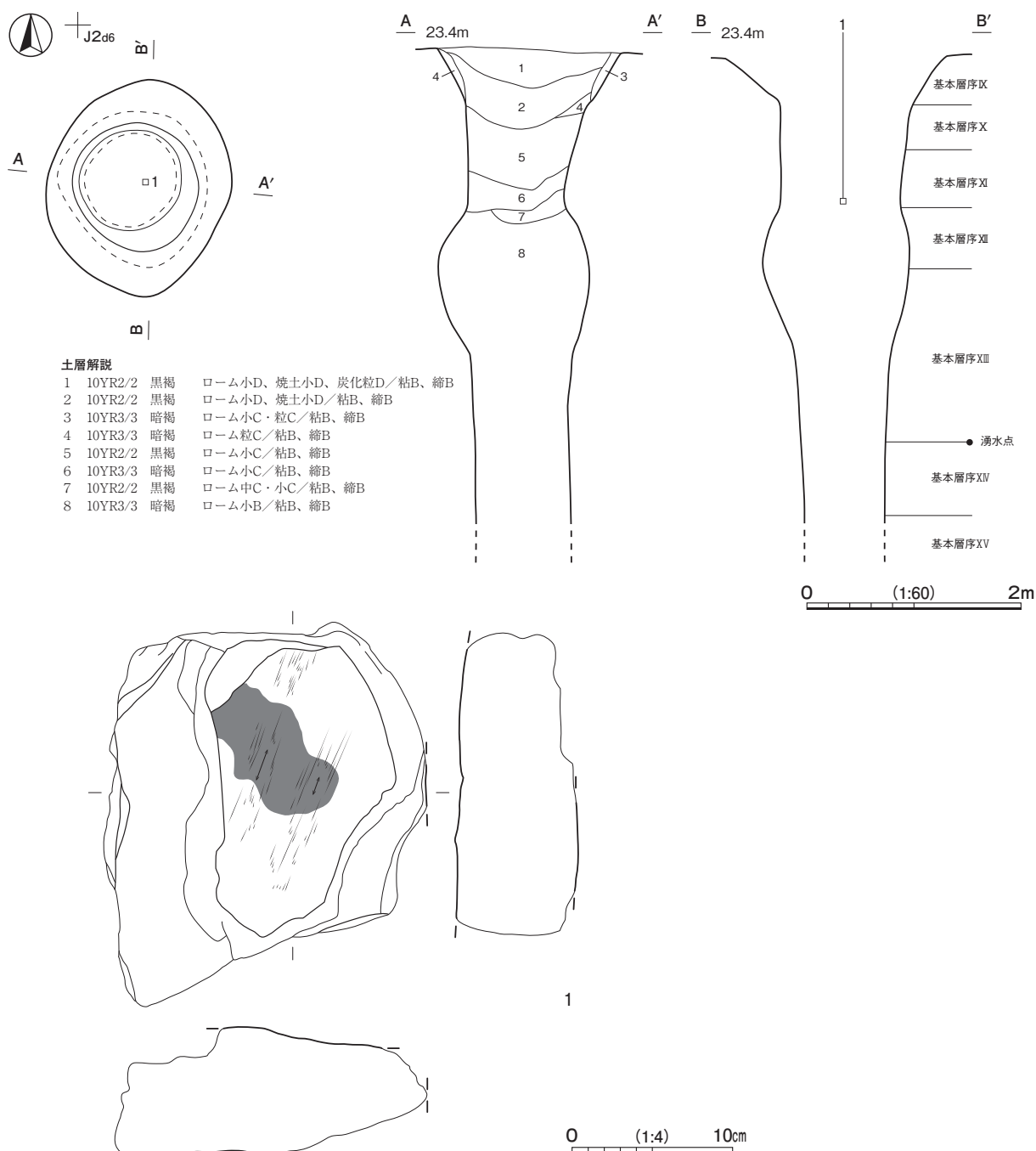
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	羽口	(6.4)	(5.5)	(5.8)	(104.87)	長石・石英・白色粒子	外面：赤灰 内面：にぶい赤褐	先端部溶解ガラス化 外面ナデ	覆土	5%

第 110 号井戸跡 (第 177 図 第 101 表 PL23)

位置 調査区 C 区南西部の J 2 d6 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.02 m、短径 1.70 m の楕円形で、長径方向は $N - 34^{\circ} - E$ である。断面形は漏斗状で、確認面から 50cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.00 m の円筒状に掘り込んでいる。壁の中部は、崩落のため全面が抉れている。重機を使用して安全に断ち割り調査を実施し、確認面から 428cm までを掘削したが、底面は確認できなかった。湧水点は、深さ 360cm ほどの基本層序第 XIII 層と基本層序第 XIV 層の境付近である。

覆土 8 層を確認した。第 1～4 層は各層に微量のロームブロックやローム粒子を含み、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第 5～8 層はロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。



第 177 図 第 110 号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（甕）、石器 1 点（雲母片岩製砥石カ）が出土している。1 は、中央部南東寄りの第 6 層から 7 層にかけて直立した状態で出土しており、投棄した際に突き刺さった可能性がある。

所見 時期は、出土土器や周辺の遺構の分布状況から室町時代から江戸時代の可能性がある。

第 101 表 第 110 号井戸跡出土遺物一覧（第 177 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	砥石カ	(23.9)	(20.2)	8.0	(51.5kg)	雲母片岩	上面弱い研磨痕	第 6・7 層	煤付着

第 111 号井戸跡（第 178 図 第 102 表 PL23・63）

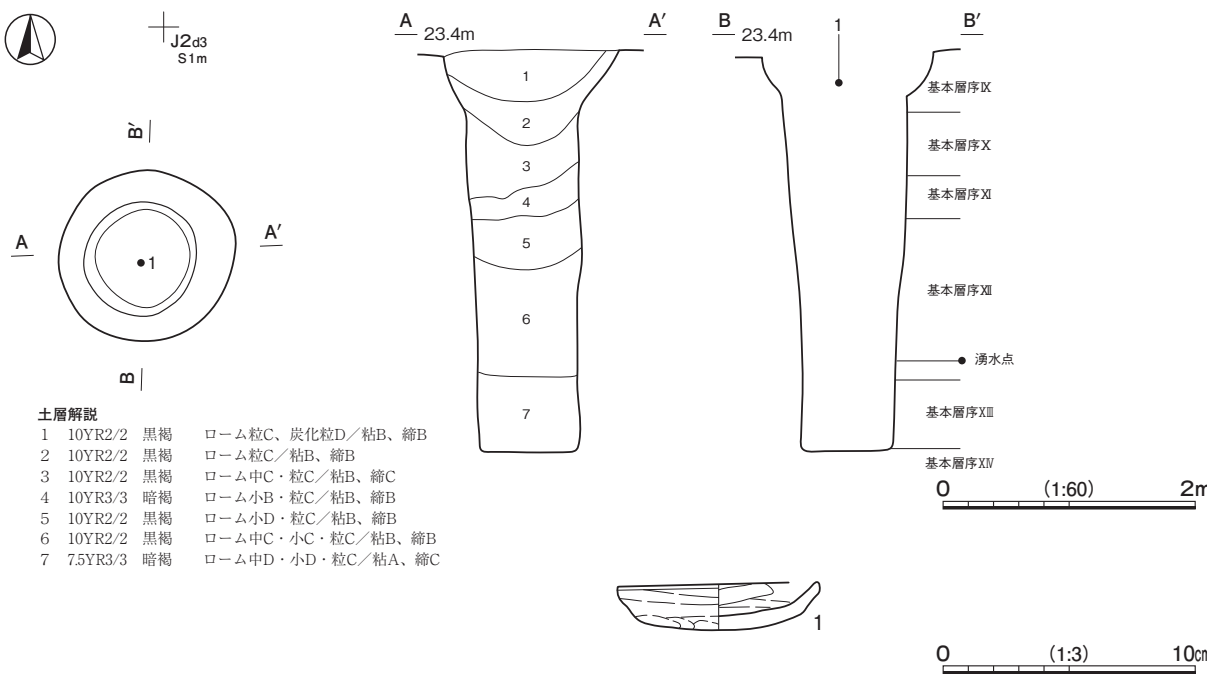
位置 調査区 C 区南西部の J 2 d2 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.40 m、短径 1.36 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 42cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.00 m、の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 316cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 260cm ほどの基本層序第Ⅻ層付近からで、底面は基本層序第Ⅳ層上面まで掘り込んでいる。

覆土 7 層を確認した。第 1・2 層はローム粒子を含み、周囲から流入する堆積状況から、自然堆積である。第 3～7 層は各層にロームブロックを含み、層厚の堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（皿 2、内耳鍋 2）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、須恵器片 1 点が出土している。1 は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。1 は手捏ねによる成形であることから、北条氏系土器の影響を受けている可能性がある。

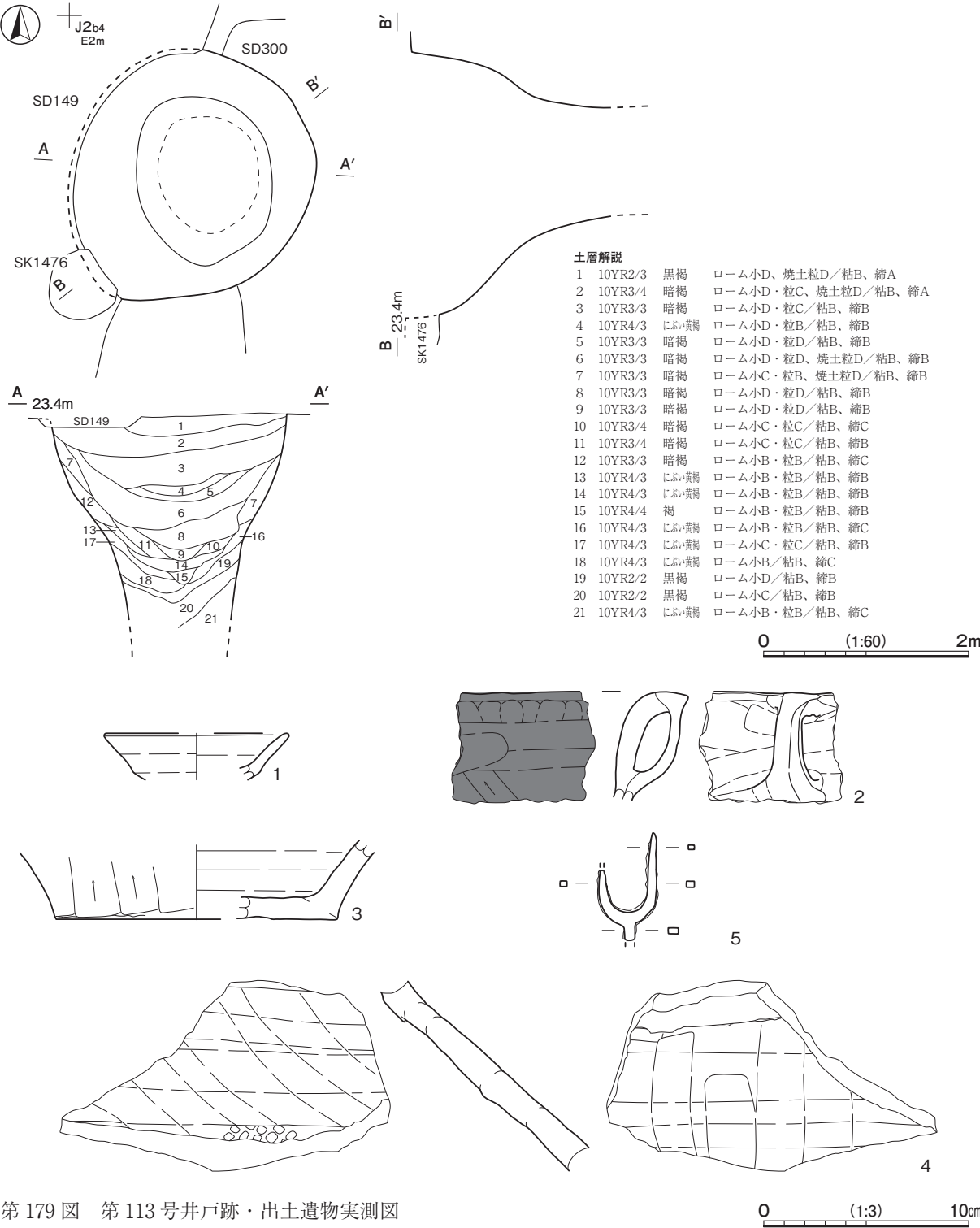


第 178 図 第 111 号井戸跡・出土遺物実測図

第 102 表 第 111 号井戸跡出土遺物一覧（第 178 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.9	1.9	－	長石	橙	普通	手捏ね 口縁部横位ナデ 底部ナデ	覆土上層	100% PL63

第 113 号井戸跡（第 179 図 第 103 表 PL23・24・63）
位置 調査区 C 区南西部の J 2 b4 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 179 図 第 113 号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第 300 号溝跡を掘り込み、第 149 号溝に掘り込まれている。第 1476 号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径 2.56 m、短径 2.28 m である。平面形は楕円形で、長径方向は N－50°－E である。断面形は漏斗状で、確認面から 120cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.62 m、短径 1.32m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200cm までの調査とした。

覆土 21 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 10 点（皿 1、内耳鍋 9）、陶器片 3 点（片口鉢 1、甕 2）、金属製品 1 点（鉄鏃）、自然遺物 18 点（馬歯）が出土している。ほかに混入した土師器片 6 点、須恵器片 2 点、時期が異なる陶器片 2 点が出土している。馬歯は覆土上層から出土しているものの、遺存状態が悪く、詳細な出土状況は不明である。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。4 は 15 世紀後半の甕片で混入と思われるが、伝世したものが廃棄された可能性もあるため、本跡に伴う遺物として掲載した。

第 103 表 第 113 号井戸跡出土遺物一覧（第 179 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[8.8]	(2.3)	－	長石・雲母	橙	普通	口クロナデ	覆土	5 %
2	土師質土器	内耳鍋	－	(5.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け ナデ 内面横位ナデ	覆土	5 % 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	片口鉢	－	(3.9)	[13.8]	緻密・灰褐	体部外面縦位削り	無釉	常滑	覆土	5 %
4	陶器	甕	－	(9.8)	－	緻密・にぶい赤褐	外面横・斜位ナデ 内面縦・横位ナデ	自然釉	常滑	覆土	5 % PL63

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
5	鉄鏃	(5.3)	2.8	0.3	6.40	鉄	雁股鏃 刃先端部一方欠損 鏃身部から茎部・断面長方形	覆土	PL63

第 114 号井戸跡（第 180 図 第 104 表 PL24）

位置 調査区 C 区南部の J 3j4 区、標高 23 m ほどの台地部に位置している。

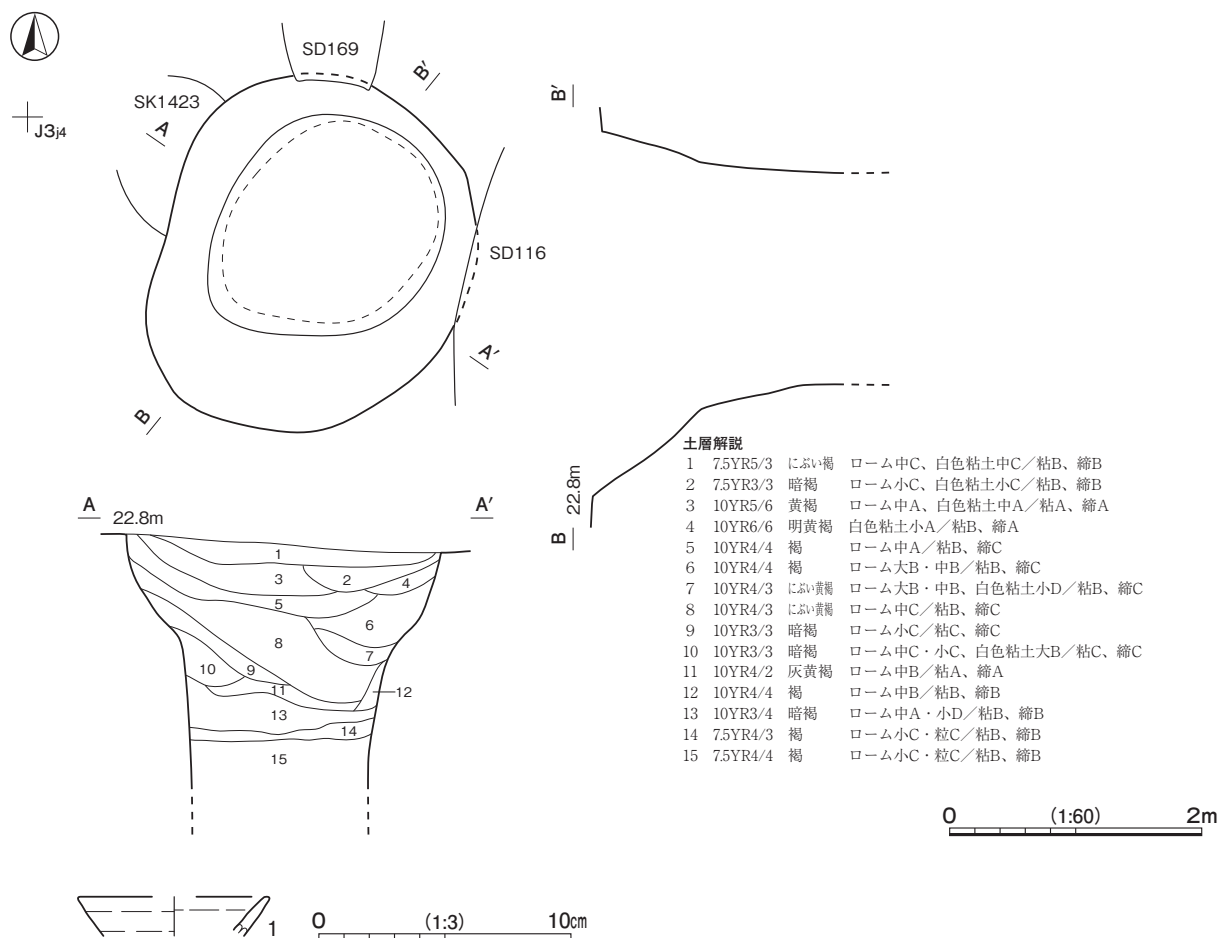
重複関係 第 1423 号土坑を掘り込んでいる。第 116・169 号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径 2.92 m、短径 2.50 m の楕円形で、長径方向は N－38°－E である。断面形は漏斗状で、確認面から 80cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 2.08 m、短径 1.70m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 200cm までの調査とした。

覆土 15 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（皿 1、内耳鍋 3）、陶器片 1 点（壺カ）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点（甕）、須恵器片 1 点（杯）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 180 図 第 114 号井戸跡・出土遺物実測図

第 104 表 第 114 号井戸跡出土遺物一覧（第 180 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[7.6]	(1.6)	—	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ	覆土	5 %

第 121 号井戸跡（第 181 図 第 105 表 PL24）

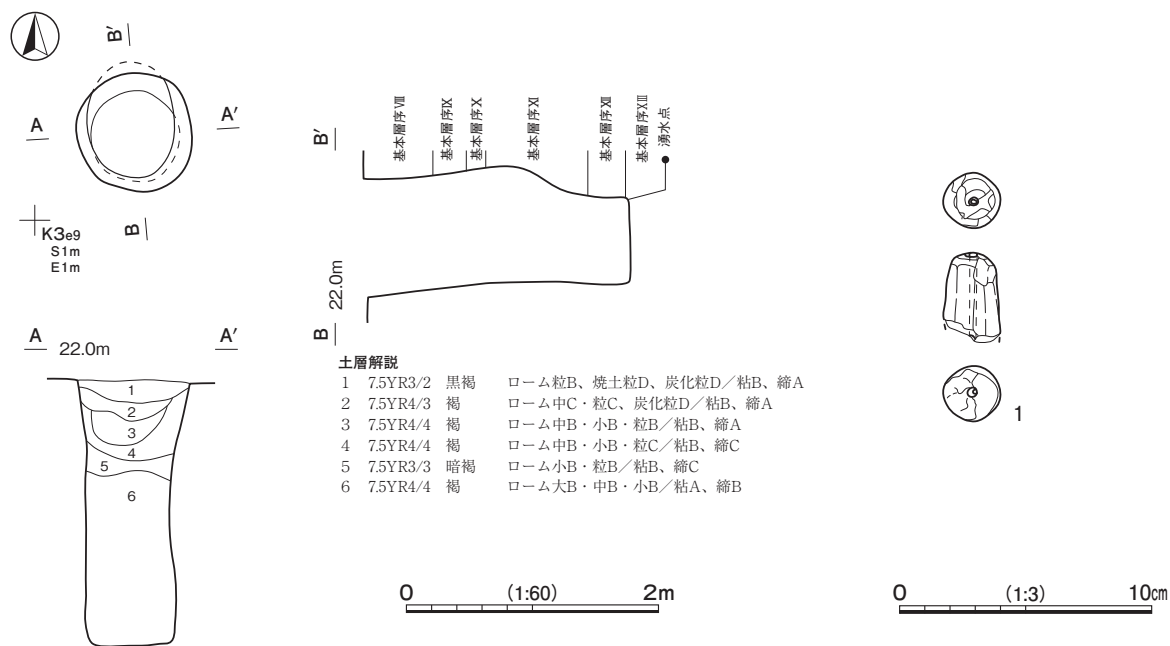
位置 調査区 C 区南部の K 3 e9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.96 m、短径 0.92 m の円形である。確認面から円筒状に掘り込んでいる。壁の中部は、崩落のため北壁が壊れている。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 210cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は底面で、基本層序第Ⅻ層の上位まで掘り込んでいる。

覆土 6 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 5 点（甕）、土製品 1 点（管状土錘）が出土している。

所見 時期は、出土土器から周辺の遺構の分布状況から室町時代から江戸時代の可能性がある。



第181図 第121号井戸跡・出土遺物実測図

第105表 第121号井戸跡出土遺物一覧（第181図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	管状土錘	(3.6)	2.3	2.3	(17.15)	長石・石英	橙	全面ナデ 端部平滑 孔径0.2～0.5cm・一方向からの穿孔	覆土	

第124号井戸跡（第182図 第106表 PL24・63）

位置 調査区C区南部のK3a8区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

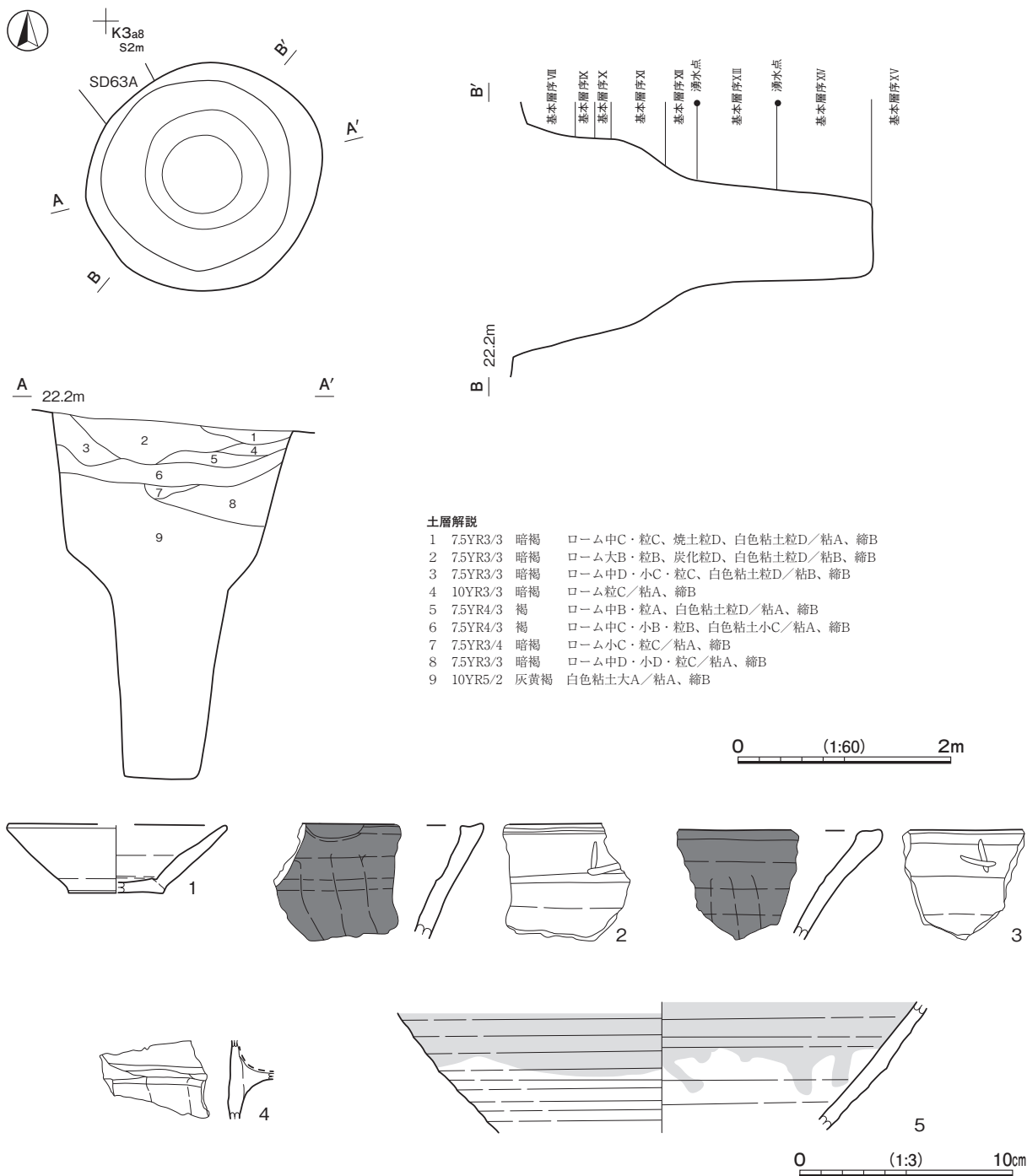
重複関係 第63A号溝跡との関係は不明である。

規模と形状 長径2.28m、短径2.12mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から160cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径1.14m、短径1.12mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは335cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ170cmほどの基本層序第Ⅻ層と基本層序第Ⅻ層の境付近と、深さ250cmほどの基本層序第Ⅻ層と基本層序第Ⅳ層の境付近の2地点で、底面は基本層序第Ⅴ層上面まで掘り込んでいる。

覆土 9層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片22点（皿3、播鉢4、内耳鍋14、羽釜1）、陶器片1点（皿）、土製品3点（羽口）、鉄滓19点（253.72g）が出土している。ほかに混入した土師器片2点が出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第 182 図 第 124 号井戸跡・出土遺物実測図

第 106 表 第 124 号井戸跡出土遺物一覧（第 182 図）

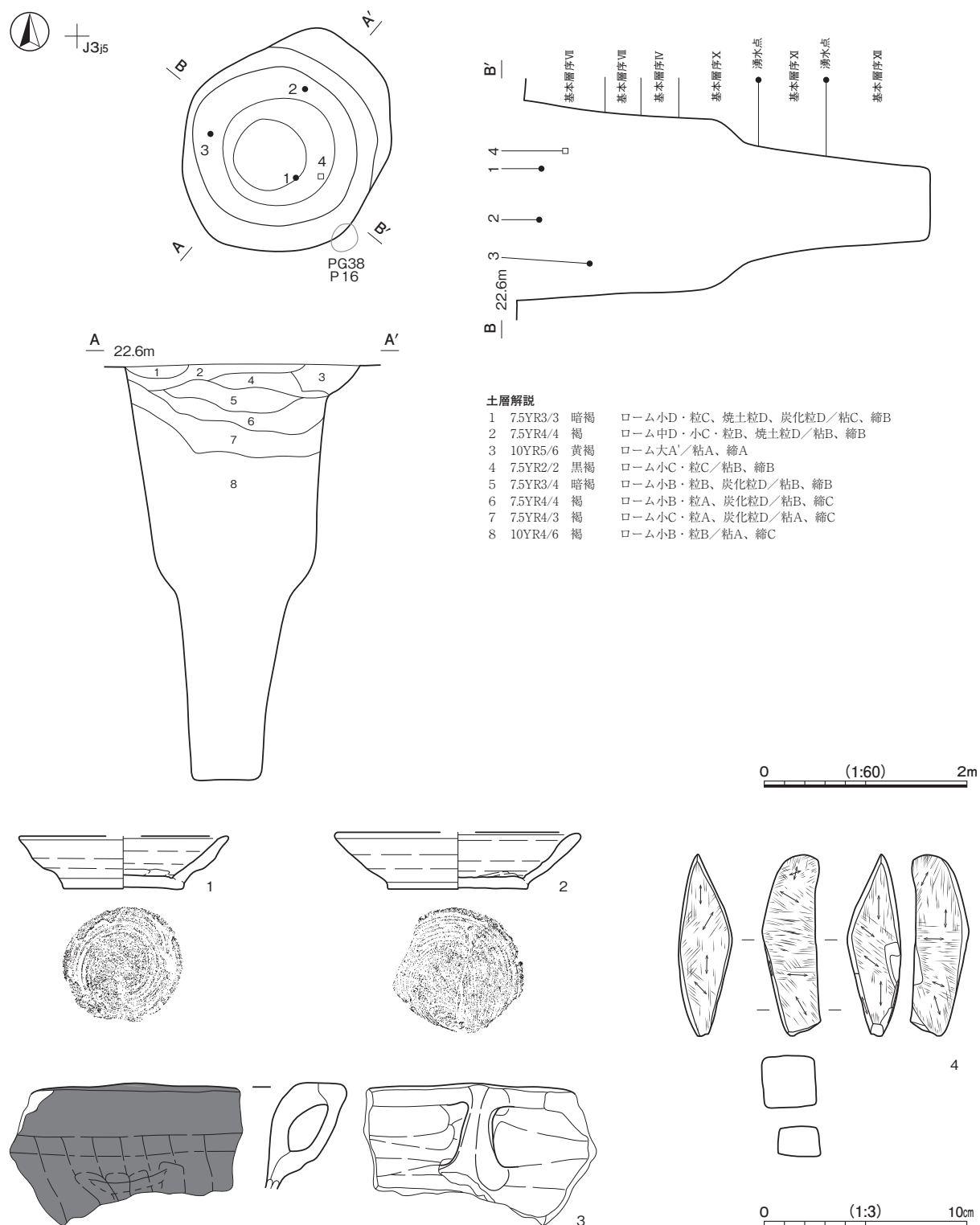
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[10.2]	3.3	[4.4]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	10%
2	土師質土器	内耳鍋	—	(5.5)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部横ナデ・内面弱い返し・十のヘラ書き 体部外面横位ナデ・弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5% PL63 煤付着
3	土師質土器	内耳鍋	—	(5.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ・内面弱い返し・十のヘラ書き 体部外面横位ナデ・弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5% 煤付着
4	土師質土器	羽釜	—	(3.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位ナデ・鋸部貼付け	覆土	5%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
5	陶器	皿	—	(6.0)	—	緻密・にぶい褐	直縁大皿カ 漬け掛け	ロクロ成形 内面ナデ	灰釉	瀬戸・美濃	覆土 5% PL63

第 125 号井戸跡 (第 183 図 第 107 表 PL24・63)

位置 調査区 C 区南部の J 3j5 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 38 号ピット群 P16 との関係は、不明である。



第 183 図 第 125 号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 長径 2.30 m、短径 2.00 m の楕円形で、長径方向は N - 33° - E である。断面形は漏斗状で、確認面から 220cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.88 m、短径 1.10m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 408cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 240cm ほどの基本層序第 X 層と基本層序第 XI 層の境付近からと、深さ 310cm ほどの基本層序第 XI 層と基本層序第 XII 層の境付近の 2 地点で、底面は基本層序第 XII 層の下位まで掘り込んでいる。

覆土 8 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 16 点（皿 2、内耳鍋 14）、陶器片 1 点（碗）、石器 2 点（凝灰岩製砥石、雲母片岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片 3 点、須恵器片 1 点が出土している。1・4 は中央部東寄り、2 は北壁寄り、3 西壁寄りの覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる

第 107 表 第 125 号井戸跡出土遺物一覧（第 183 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[10.2]	2.6	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	60% PL63
2	土師質土器	皿	[11.8]	2.8	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	30%
3	土師質土器	内耳鍋	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・指頭痕 体部外面横位ナデ・弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	5% 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	砥石	9.0	2.7	2.8	76.34	凝灰岩	砥面 4 面 多方向の研磨痕	覆土上層	PL63

第 126 号井戸跡（第 184 図 第 108 表 PL24）

位置 調査区 C 区南部の J 3e6 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

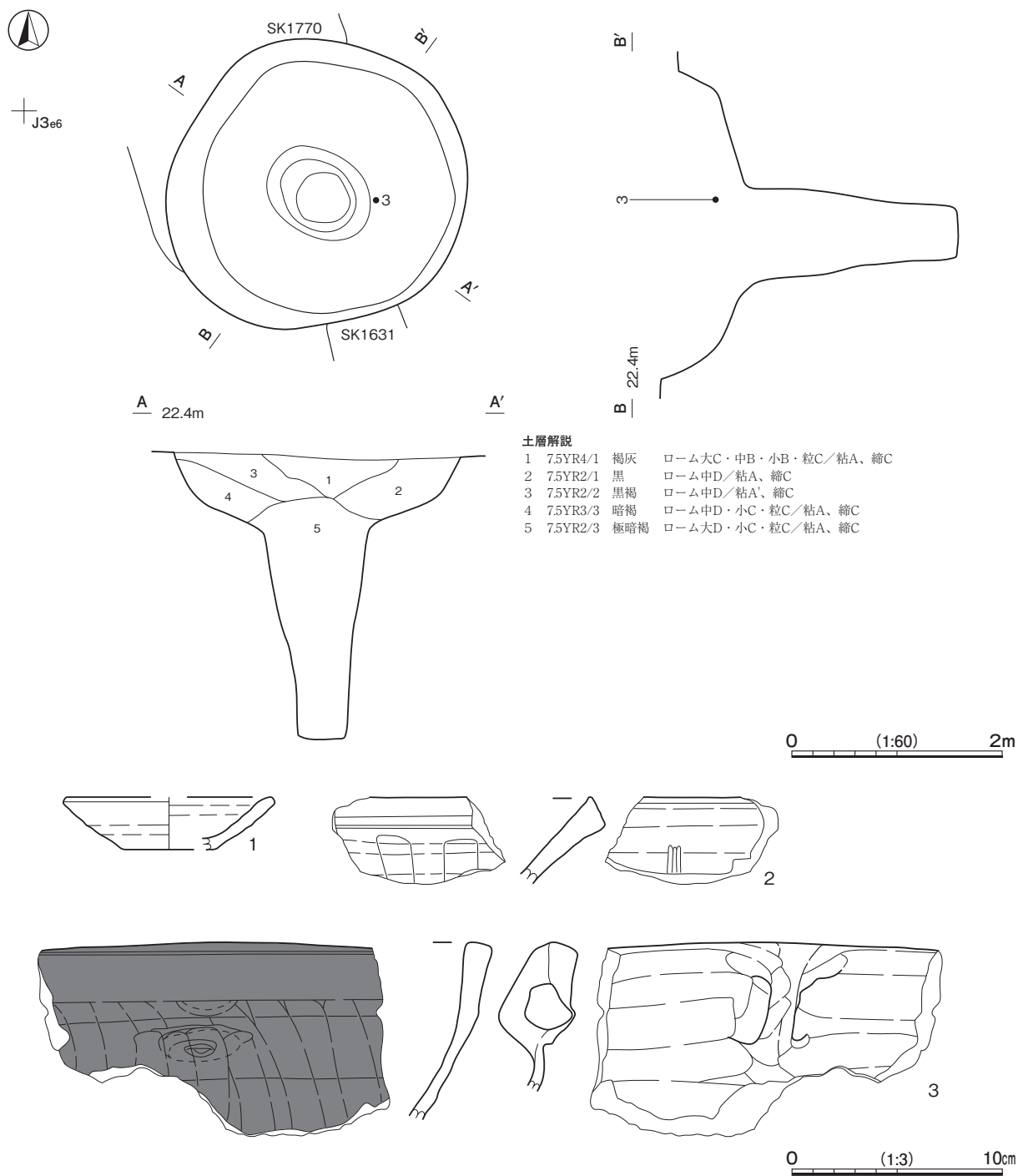
重複関係 第 1770 号土坑を掘り込んでいる。第 1631 号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 長径 2.90 m、短径 2.76 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 70cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.04 m、短径 0.80m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 270cm で、底面は円形を呈し、平坦である。崩落の恐れがあったため、湧水点の確認はできなかった。

覆土 5 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 25 点（皿 5、播鉢 10、内耳鍋 10）、磁器片 1 点（染付皿）、石器 2 点（花崗岩製宝篋印塔）、雲母片岩片 1 点が出土している。ほかに混入した土師器片 8 点、須恵器片 4 点が出土している。3 は、中央部東寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第184図 第126号井戸跡・出土遺物実測図

第108表 第126号井戸跡出土遺物一覧（第184図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[9.8]	2.5	[4.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口クロナデ 底部回転条切り	覆土	20%
2	土師質土器	搦鉢	—	(4.1)	—	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面串状工具による3条一単位の描目	覆土	5%
3	土師質土器	内耳鍋	—	(9.3)	—	長石・石英・金雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ・指頭痕 体部外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土上層	5% 煤付着

第 127 号井戸跡（第 185 図 第 109 表）

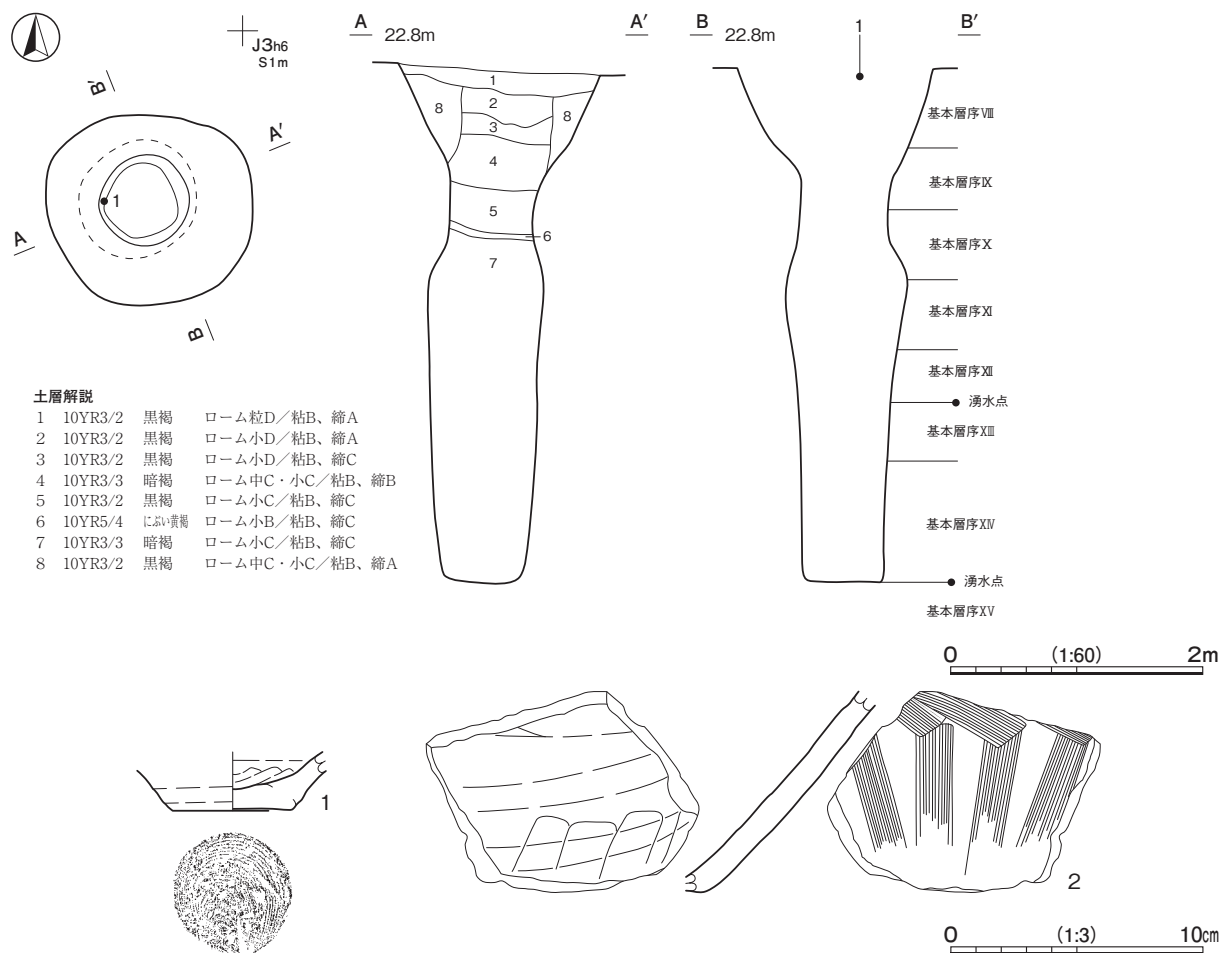
位置 調査区 C 区南部の J 3h5 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.66 m、短径 1.52 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 80cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.15 m、短径 1.10m の円筒状に掘り込んでいる。壁の中部は、崩落のため全面が抉れている。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 408cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 270cm ほどの基本層序第Ⅸ層と基本層序第Ⅹ層の境付近と底面からで、基本層序第Ⅹ層の上面まで掘り込んでいる。

覆土 8 層を確認した。第 1 層はローム粒子を含み、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第 2～7 層は各層にロームブロックを含み、筒状の堆積状況から、井筒を撤去した後の埋め戻しと考えられる。第 8 層はロームブロックを含む締まりの強い堆積状況であることから、井筒設置時の裏込めである。

遺物出土状況 土師質土器片 17 点（皿 1、播鉢 2、内耳鍋 14）、瓦質土器片 1 点（播鉢）、石器 1 点（安山岩製石臼）、雲母片岩片 1 点が出土している。1 は、中央部西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



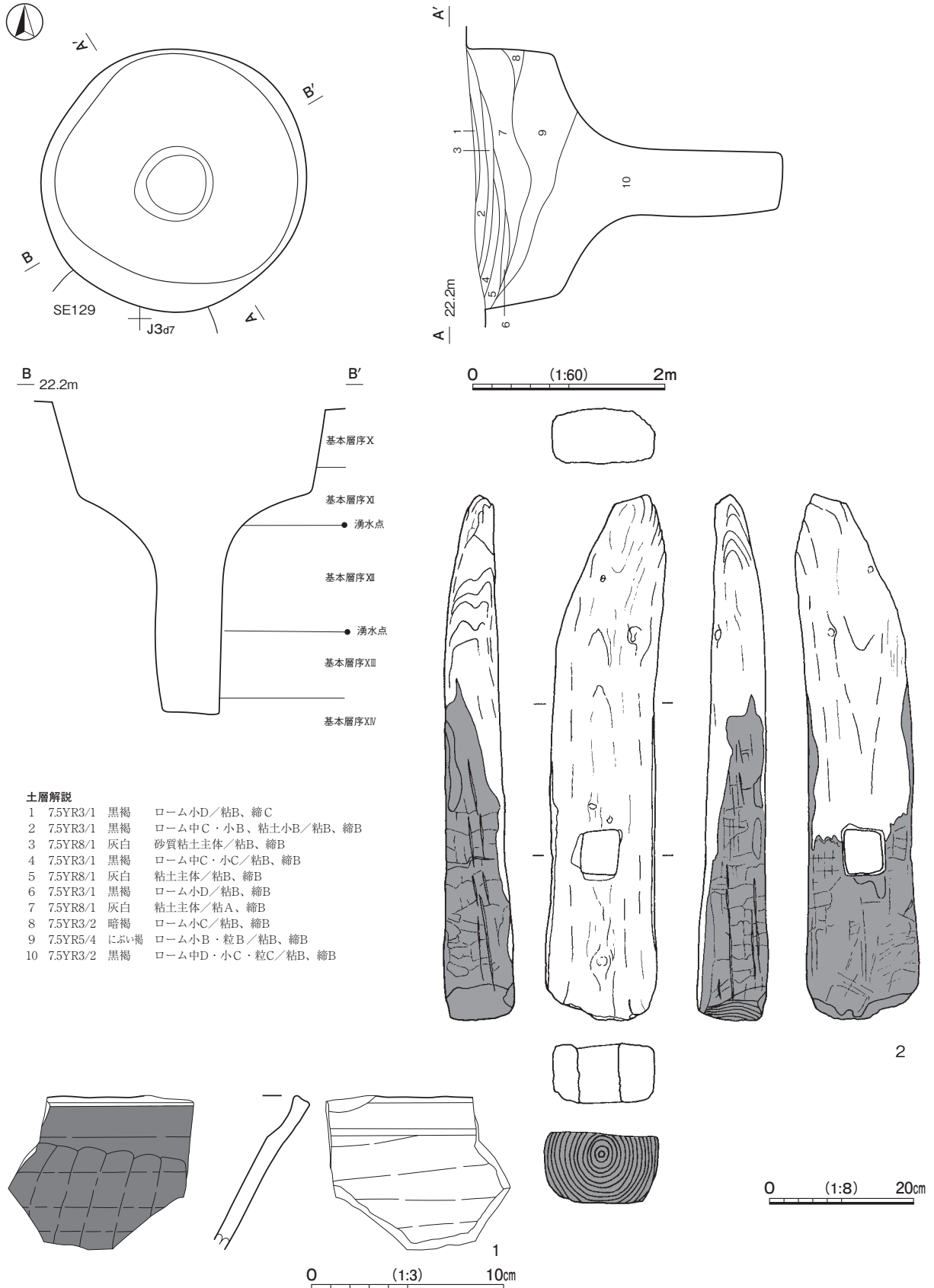
第 185 図 第 127 号井戸跡・出土遺物実測図

第 109 表 第 127 号井戸跡出土遺物一覧（第 185 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	—	(2.3)	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	30%
2	瓦質土器	播鉢	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面弱い縦位ナデ 内面ヘラ状工具による 11 条一単位の播目	覆土	5% 被熱痕

第 130 号井戸跡 (第 186 図 第 110 表 PL24・63)

位置 調査区 C 区南部の J 3 c7 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



第 186 図 第 130 号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第129号井戸跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径2.82m、短径2.72mの円形である。断面形は逆凸字状で、確認面から90cmまではほぼ垂直に掘り込み、以下は漏斗状に掘り込んでいる。円筒状の掘り込み口は径0.80mである。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは320cmほどで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ110cmほどの基本層序第Ⅺ層と基本層序第Ⅻ層の境付近と、深さ220cmほどの基本層序Ⅻ層と基本層序第Ⅼ層の境付近からで、底面は基本層序第Ⅽ層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 10層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器質土片3点（播鉢1、内耳鍋2）、木製品1点（部材）が出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

第110表 第130号井戸跡出土遺物一覧（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ・浅い返し成形 位ナデ 内面横位ナデ 体部外面弱い縦	覆土	5% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	樹種	特徴	出土位置	備考
2	部材	(72.8)	17.0	10.0	—	—	芯持ち材 切り出し・削り加工 7.2cm×5.2cmのホゾ穴加工	覆土	PL63 燃焼による煤

第131号井戸跡（第187図 第111表）

位置 調査区C区南部のJ3b6区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第143号井戸跡を掘り込み、第1828・1908・1913号土坑に掘り込まれている。第1830・1841・1894号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径2.26m、東西径2.28mである。平面形は円形と推定できる。断面形は緩やかな漏斗状で、確認面から170cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は長径2.00m、短径1.78mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは326cmで、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ200cmほどの基本層序第Ⅺ層と基本層序第Ⅻ層付近で、底面は基本層序第Ⅼ層の途中まで掘り込んでいる。

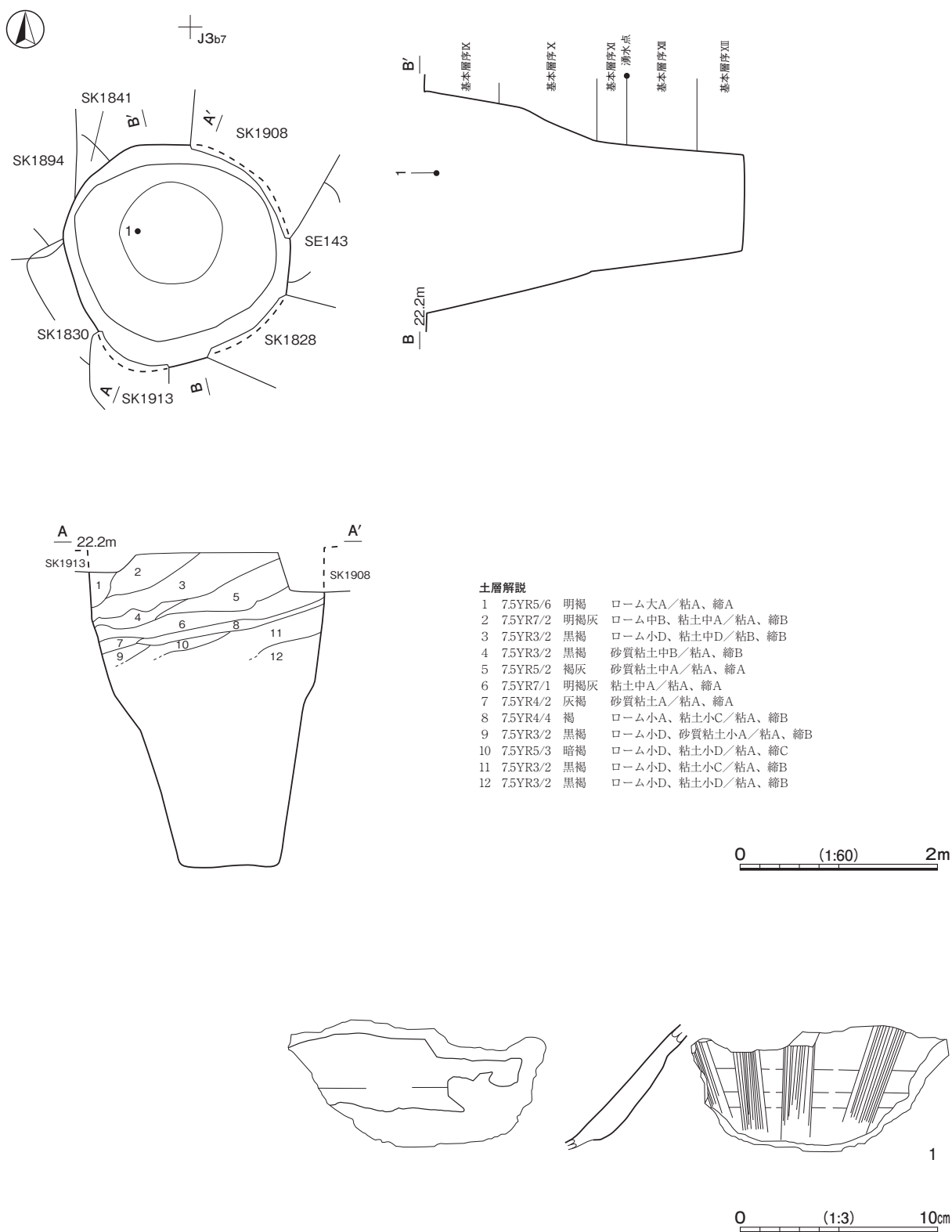
覆土 12層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器質土器片8点（皿1、播鉢5、内耳鍋2）、瓦質土器片1点（播鉢）、陶器片1点（甕）、花崗岩片3点（1,515.55g）が出土している。1は中央部西寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第111表 第131号井戸跡出土遺物一覧（第187図）

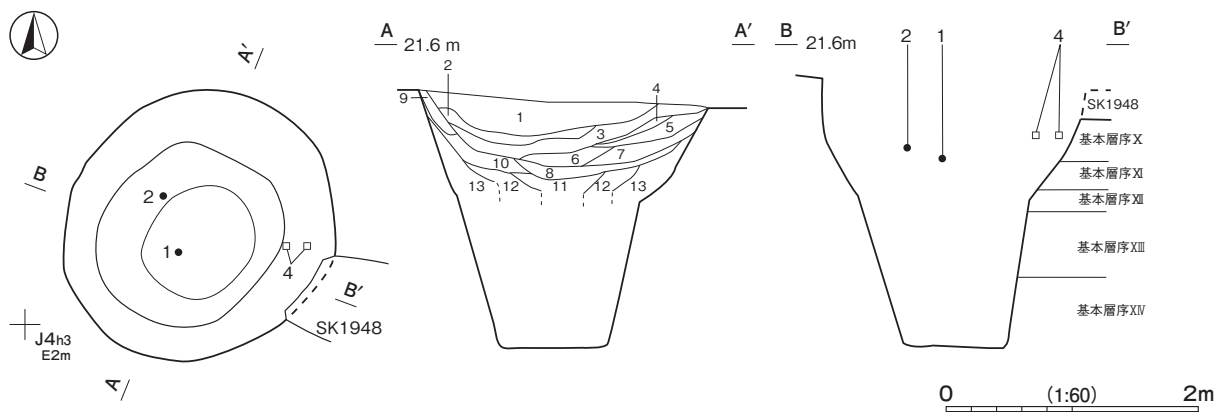
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	瓦質土器	播鉢	—	(6.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位ナデ 内面横位ナデ・板状状工具による12条一単位の播目	覆土上層	5% 被熱痕



第187図 第131号井戸跡・出土遺物実測図

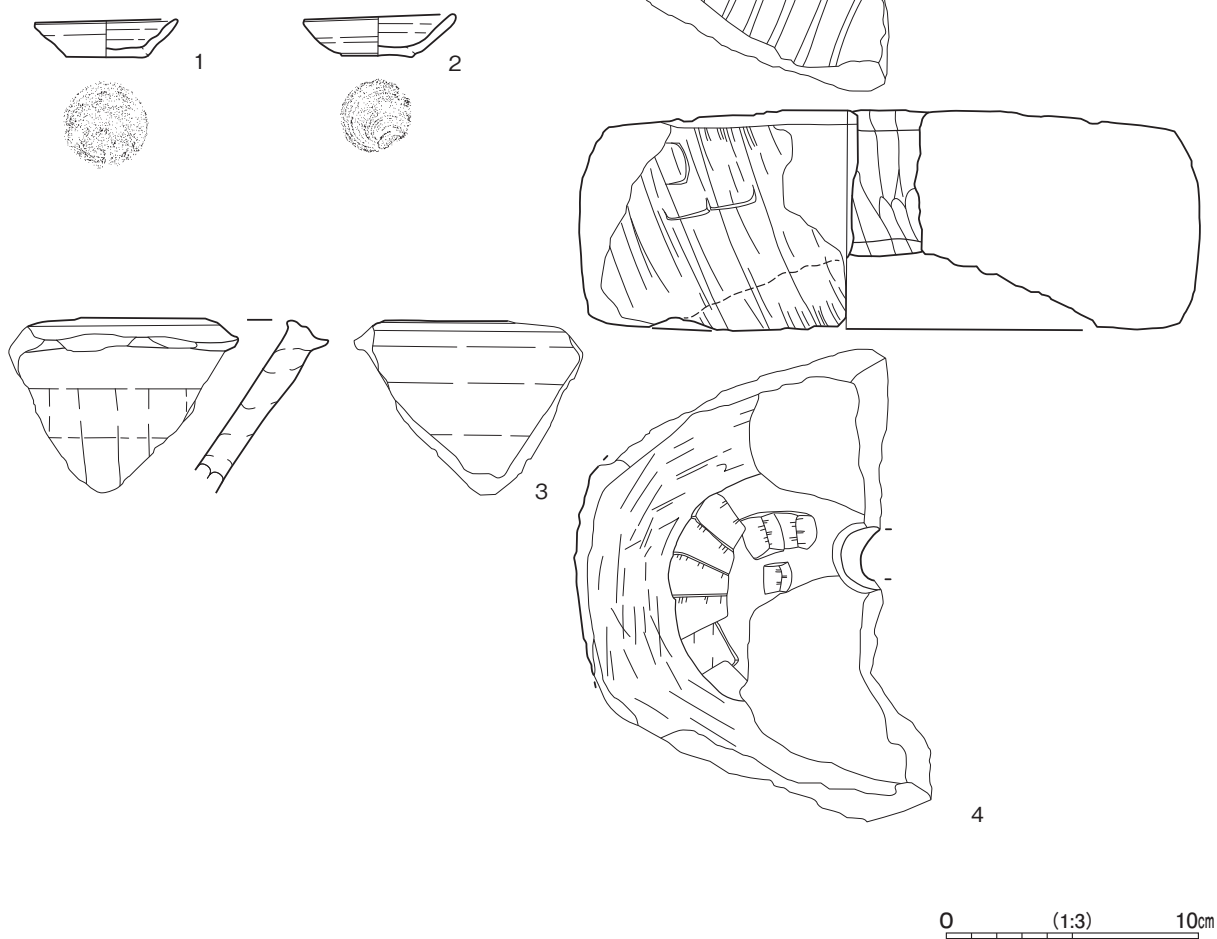
第132号井戸跡（第188図 第112表 PL24・63）

位置 調査区C区南東部のJ 4g3区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。



土層解説

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1 7.5YR3/3 暗褐 | ローム粒C、白色粘土大D／粘B、締B |
| 2 7.5YR2/1 黒 | ローム粒D／粘B、締B |
| 3 7.5YR2/2 黒褐 | ローム中D・小C・粒D、白色粘土小D／粘A、締B |
| 4 7.5YR2/1 黒 | ローム小D・粒D／粘B、締B |
| 5 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒D、白色粘土小D／粘B、締B |
| 6 7.5YR3/4 暗褐 | ローム大D、白色粘土大A・中B・小B／粘B、締B |
| 7 7.5YR2/2 黒褐 | ローム小D・粒D、白色粘土小D／粘B、締B |
| 8 7.5YR4/1 褐灰 | ローム小C・粒D、白色粘土中B・小B／粘A、締B |
| 9 7.5YR3/3 暗褐 | ローム粒D、白色粘土粒D／粘B、締B |
| 10 7.5YR6/1 灰褐 | 白色粘土大A／粘A、締B |
| 11 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒D、白色粘土中B・小C、砂C／粘A、締B |
| 12 7.5YR2/1 黒 | ローム粒D、白色粘土中B・小B／粘A、締A |
| 13 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒D、白色粘土中C／粘A、締A |



第 188 図 第 132 号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第 1948 号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 長径 2.18 m、短径 2.06 m の楕円形で、長径方向は N - 40° - E である。断面形は漏斗状で、確認面から 90cm まではほぼ垂直に掘り込み、以下は長径 1.40m、短径 1.30m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 210cm で、底面は楕円形を呈し、平坦である。基本層序第 XIV 層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 13 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 82 点（皿 33、播鉢 18、鉢 11、内耳鍋 20）、陶器片 1 点（播鉢）、磁器片 1 点（青磁碗）、石器 2 点（安山岩製石臼、砂岩製砥石）が出土している。ほかに混入した土師器片 6 点、須恵器片 1 点、磁器片 1 点、石器 1 点が出土している。1 は中央部西寄り、2 は中央部北西寄り、4 は東壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。小片のため図示できなかったが、磁器片は 14 世紀代の鎬連弁文を施した青磁碗で、伝製品の廃棄や混入と考えられる。

第 112 表 第 132 号井戸跡出土遺物一覧（第 188 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	5.6	1.6	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向のナデ	覆土上層	100% PL63
2	土師質土器	皿	6.0	1.8	2.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	100% PL63

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	片口鉢	－	(6.9)	－	緻密・橙	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面磨減	自然釉	常滑	覆土	5 %

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	石臼	(25.0)	(19.2)	11.7	(6.12kg)	安山岩	下臼 上面主溝 1 条に延びる副溝 7 条の播目 下面窪部割砕・削り痕 上縁部研磨痕 側面研磨痕・削り痕 軸孔両面からの穿孔	覆土上層	PL63

第 134 号井戸跡（第 189 図 第 113 表）

位置 調査区 C 区南部の J 3 a8 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

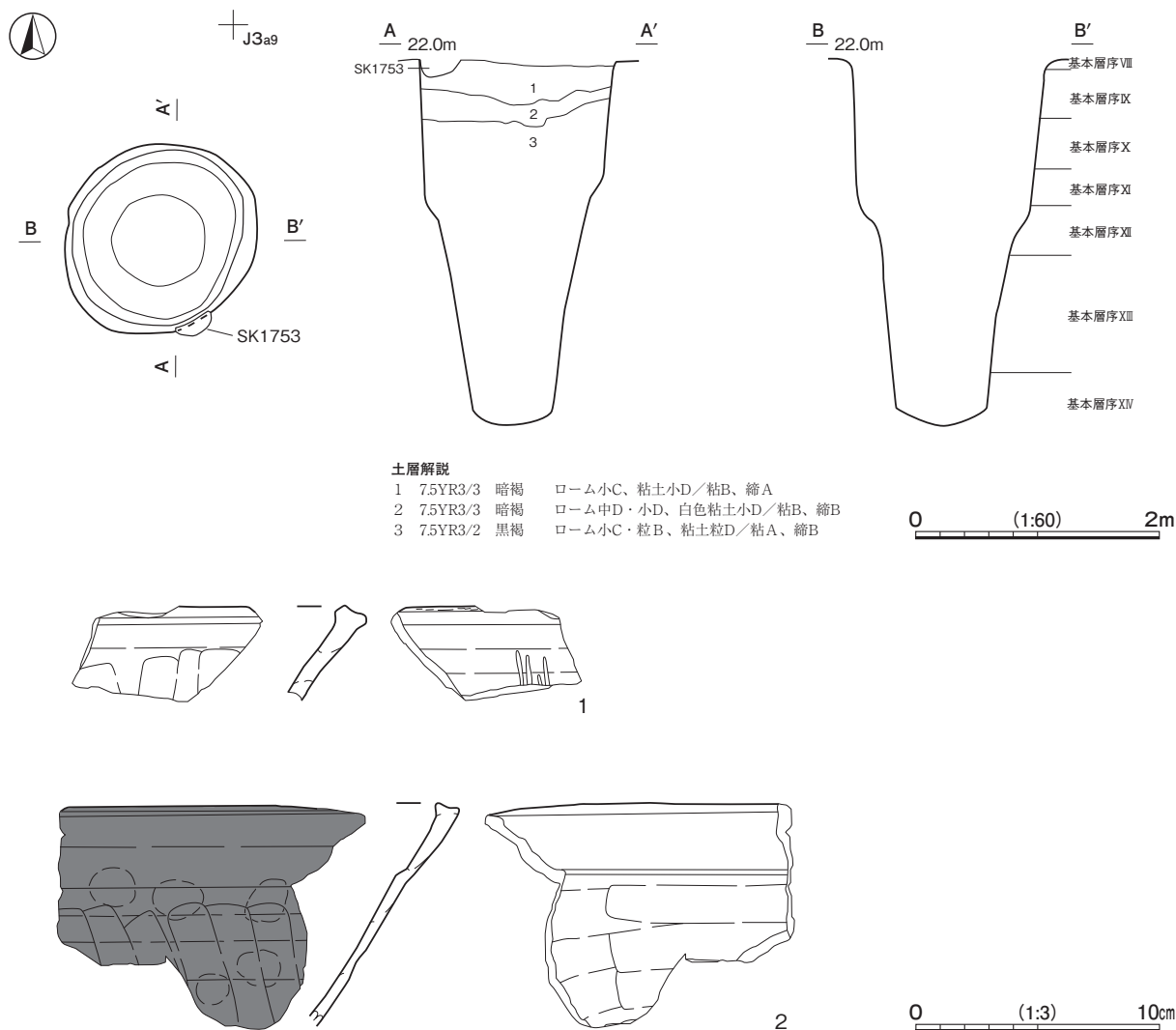
重複関係 第 1753 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.68 m、短径 1.56 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 130cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.34 m、短径 1.24m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 298cm で、底面は円形を呈し、皿状に窪んでいる。湧水点は、深さ 200cm ほどの基本層序第 XIII 層と基本層序第 XIV 層付近で、底面は基本層序第 XIV 層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 3 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、層厚でほぼ平坦な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 33 点（播鉢 1、内耳鍋 32）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 189 図 第 134 号井戸跡・出土遺物実測図

第 113 表 第 134 号井戸跡出土遺物一覧（第 189 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	播鉢	—	(3.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ・櫛歯状工具による 4 条の揃目	覆土	5 % 口縁部研磨痕
2	土師質土器	内耳鍋	—	(9.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ・指頭痕・浅い返し成形 面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ 体部外面	覆土	5 % 煤付着

第 136 号井戸跡（第 190 図 第 114 表 PL64）

位置 調査区 C 区南部の J 3 b9 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1738 号土坑を掘り込んでいる。第 1811 号土坑、第 41 号ピット群 P 59 との関係は、不明である。

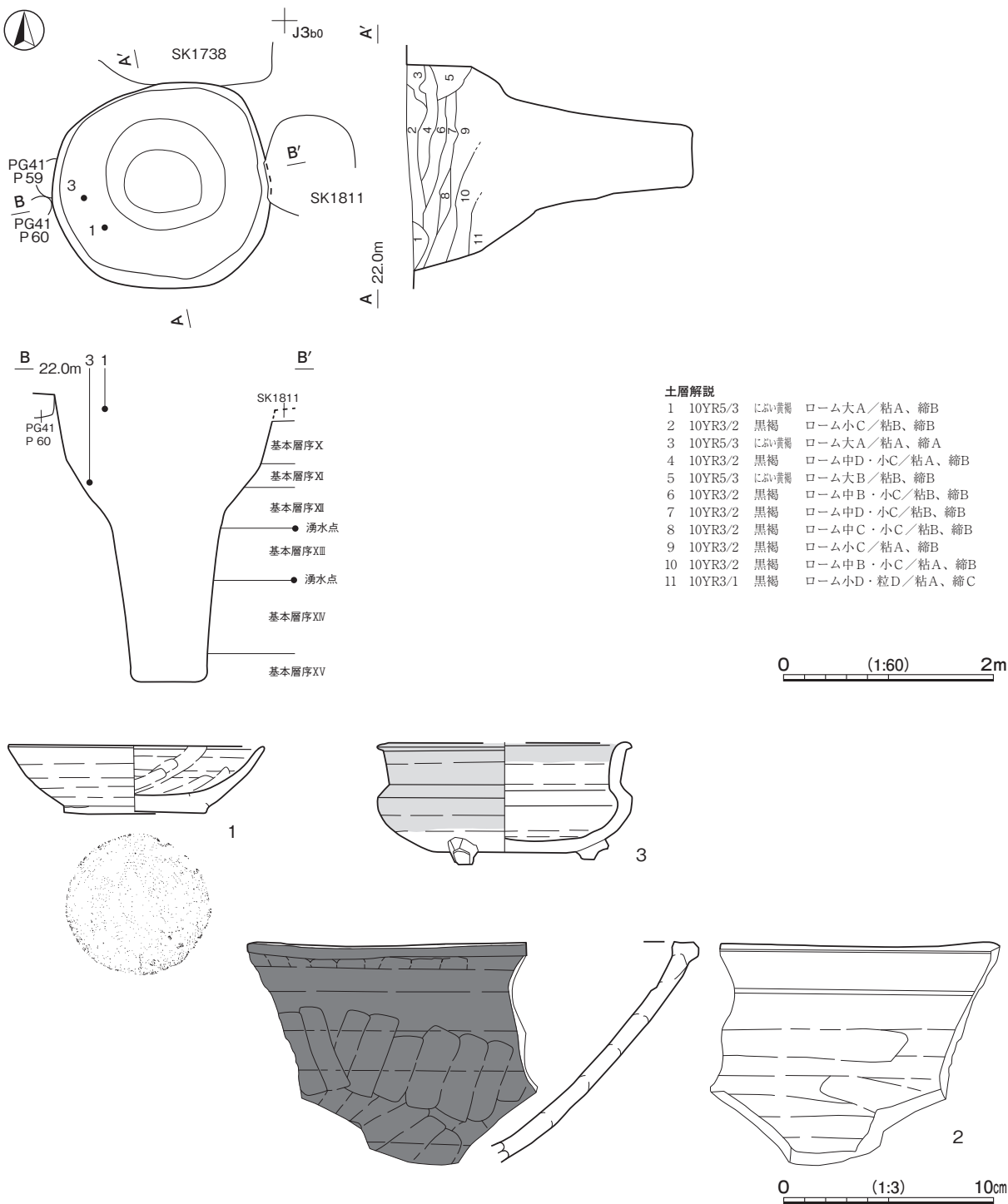
規模と形状 長径 2.08 m、短径 1.98 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 120cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.00m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 270cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 90cm ほどの基本層序第 XII 層と基本層序第 XIII 層の境付近と、深さ 150cm ほどの基本層序第 XIII 層と基本層序第 XIV 層の境付近の 2 点からで、底面は基本

層序第XV層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 11層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿1、内耳鍋1）、陶器片1点（腰袴形香炉）が出土している。1は南西壁寄りの覆土上層から、3は西壁際の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。3は15世紀前葉の香炉であることから伝製品と考えられ、本跡の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。



第190図 第136号井戸跡・出土遺物実測図

第 114 表 第 136 号井戸跡出土遺物一覧（第 190 図）

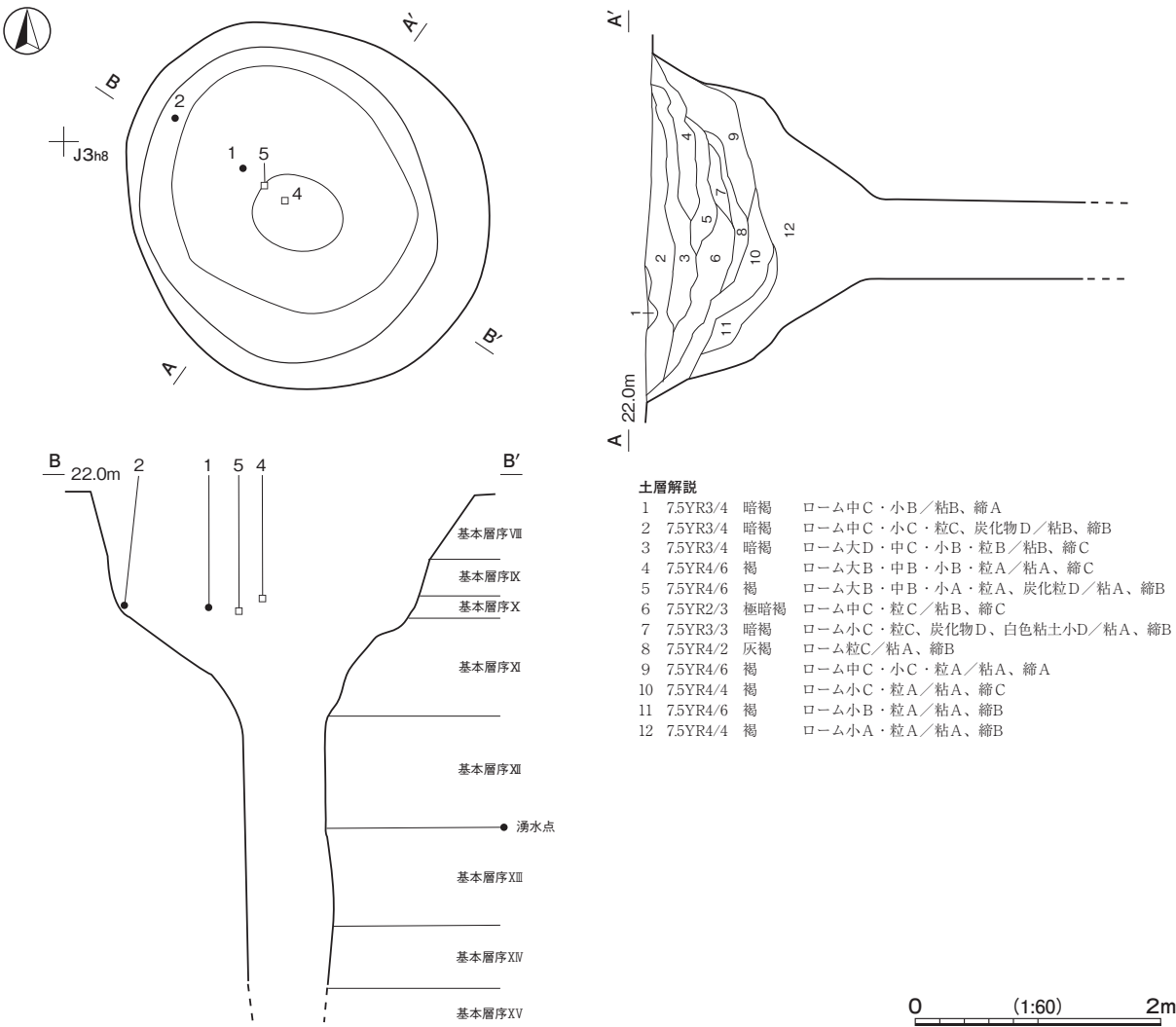
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	12.1	3.4	6.8	長石・石英・金雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土上層	80% PL64
2	土師質土器	内耳鍋	—	(10.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ・浅い返し成形 体部弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5% 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	腰袴形香炉	[11.2]	5.9	[7.2]	緻密・灰白	ロクロ成形 底部回転糸切り・脚部貼付け 漬け掛け	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中層	50% PL64

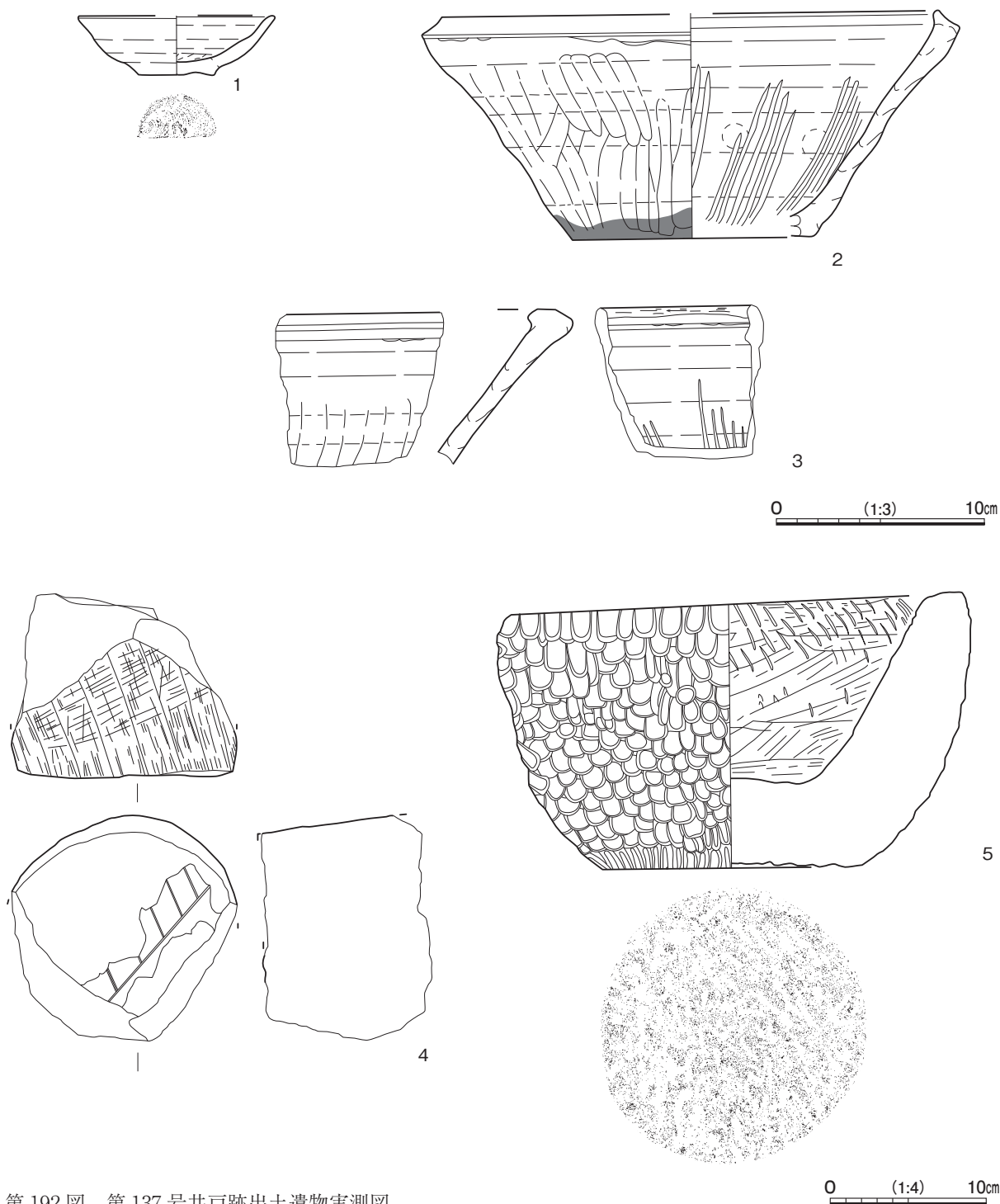
第 137 号井戸跡（第 191・192 図 第 115 表 PL25・64）

位置 調査区 C 区南部の J 3h8 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 3.12 m、短径 2.88 m の楕円形で、長径方向は N－52°－W である。断面形は漏斗状で、確認面から 120 cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.80 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して安全に断ち割り調査を実施したが、確認面から深さ 400 cm までの調査とした。湧水点は、深さ 360 cm ほどの基本層序第Ⅻ層と基本層序第Ⅼ層の境付近からである。



第 191 図 第 137 号井戸跡実測図



第 192 図 第 137 号井戸跡出土遺物実測図

覆土 12層を確認した。各層にロームブロックやローム粒子、粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 51 点（皿 1、播鉢 6、内耳鍋 43、甕 1）、石器 5 点（安山岩製石臼 1、安山岩製茶臼 1、花崗岩製竪臼 1、凝灰岩製砥石 1、砂岩製砥石 1）、雲母片岩片 3 点（888.50g）、金属製品 1 点（不明）が出土している。ほかに混入した土師器片 22 点、須恵器片 1 点が出土している。1・4・5 は中央部周辺、2 は北西壁際の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。

第 115 表 第 137 号井戸跡出土遺物一覧（第 192 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.2]	2.9	3.7	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・内面ナデ	覆土上層	30%
2	土師質土器	播鉢	[23.8]	10.8	[11.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面櫛歯状工具による 5 条 1 単位の播目	覆土上層	20% PL64 煤付着
3	土師質土器	播鉢	—	(7.4)	—	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面櫛歯状工具による 7 条の播目	覆土	5% PL64 口縁部に研磨痕

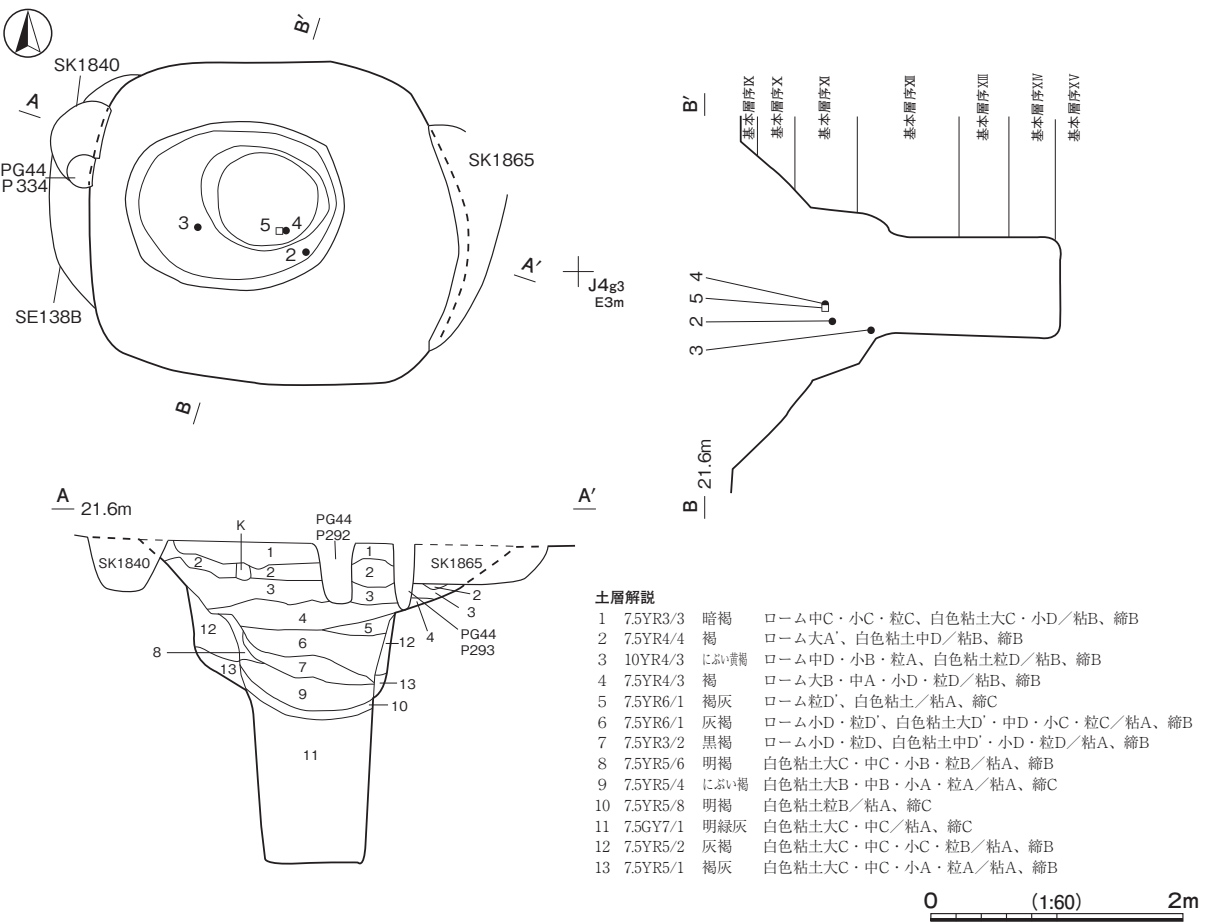
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	茶臼	(14.5)	(14.5)	(11.9)	(2450kg)	安山岩	上臼 上面破損 研磨痕 下面破損のため播目条数不明 側面 2 方向の	覆土上層	PL64 被熱痕
5	堅臼	28.9	16.5	16.8	16.67kg	花崗岩	口縁部上面研磨 研磨痕・削り痕 体部外面削り痕 内面研磨痕・削り痕 底部	覆土上層	PL64

第 138A 号井戸跡（第 193・194 図） 第 116 表 PL25・64）

位置 調査区 C 区南東部の J 4 f3 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 138B 号井戸跡を掘り込み、第 1840・1865 号土坑、第 44 号ピット群 P 292・293 に掘り込まれている。第 44 号ピット群 P334 との関係は、不明である。

規模と形状 長軸 2.95 m、短軸 2.55 m、深さ 68cm の隅丸長方形の掘り込み内に、長径 1.72 m、短径 1.35 m の楕円形を呈している。長径方向は N－90°である。断面形は漏斗状と推定でき、確認面から 118cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.04 m、短径 0.82m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 254cm で、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第 XV 層の上面まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

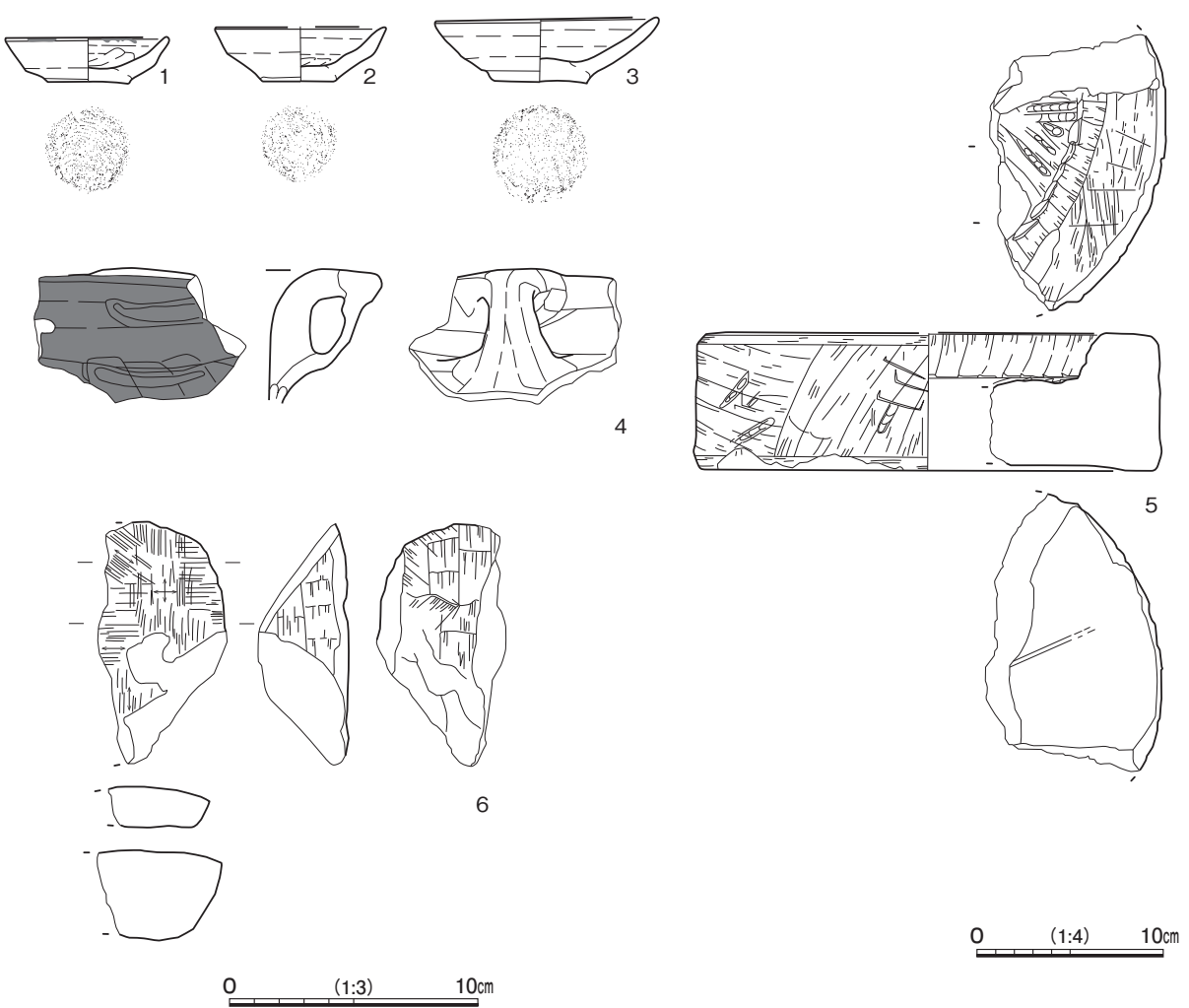


第 193 図 第 138A 号井戸跡実測図

覆土 13層を確認した。第1～11層は井筒を抜き取った後の堆積土で、粘土ブロックを多く含むことから人為堆積である。このうち第1～4層は掘り込みの埋め戻しに伴う覆土で、井筒の抜き取りの際に周辺を掘り込んだ痕跡と考えられる。第12・13層は、井筒を設置した際の埋め土である。

遺物出土状況 土師質土器片40点（皿15、掻鉢7、内耳鍋18）、陶器片1点（甕）、石品4点（安山岩製石臼1、凝灰岩製砥石2、砂岩製砥石1）、凝灰岩片5点（161.81g）、砂岩片1点（882.29g）、鉄滓1点（12.66g）が出土している。ほかに混入した土師器片2点、須恵器片4点が出土している。2は南西壁際、3は中央部南西寄り、4・5は中央部南東寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第194図 第138A号井戸跡出土遺物実測図

第116表 第138A号井戸跡出土遺物一覧（第194図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.6	1.9	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転条切り 内面ナデ	覆土	100% PL64 油煙付着
2	土師質土器	皿	6.8	2.2	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転条切り 内面ナデ	覆土中層	80%
3	土師質土器	皿	8.9	2.7	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転条切り 内面ナデ	覆土中層	90% PL64 被熱痕
4	土師質土器	内耳鍋	—	(2.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・指頭痕 体部外面 弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土中層	5% 煤付着

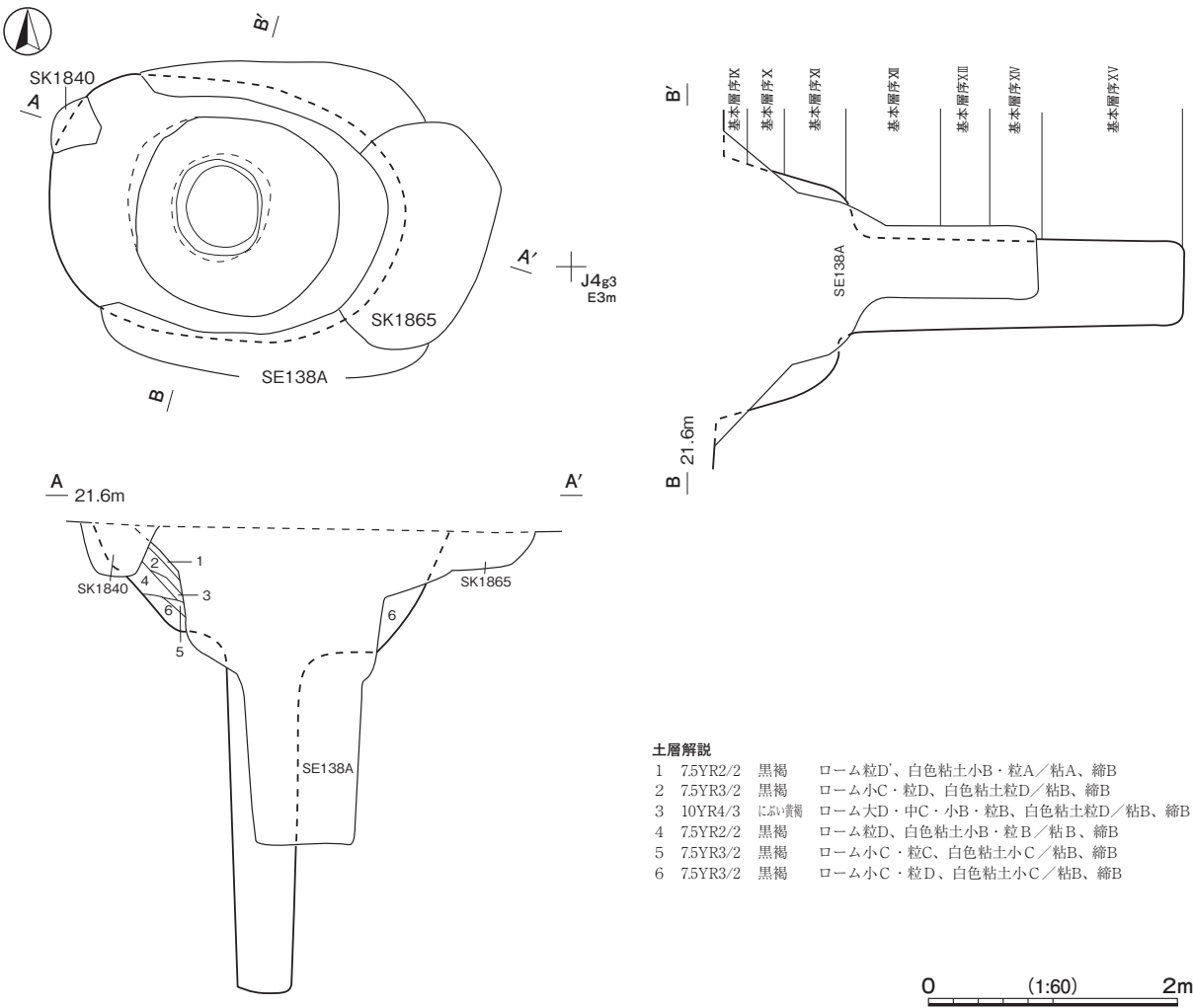
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
5	石臼	(14.9)	(9.5)	7.4	(125kg)	安山岩	上臼 上面上縁部研磨痕・削り痕・窪部削り痕 側面研磨痕・削り痕 下面磨減	覆土中層	
6	砥石	(10.2)	(5.2)	(3.7)	(161.81)	凝灰岩	砥面 1 面 表面多方向の研磨痕 裏面・側面削り痕	覆土	

第 138B 号井戸跡 (第 195 図 PL25)

位置 調査区 C 区南東部の J 4 f3 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 138A 号井戸、第 1840・1865 号土坑に掘り込まれている。第 44 号ピット群 P334 との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径 2.90 m、短径 1.88 m である。平面形は楕円形と推定でき、長径方向は N - 72° - W である。断面形は漏斗状と推定でき、確認面から 95cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は推定長径 0.86 m、推定短径 0.76m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 372cm で、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第 XV 層の底面まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。



第 195 図 第 138B 号井戸跡実測図

覆土 6層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

所見 時期は、重複関係から16世紀前半以前と考えられる。

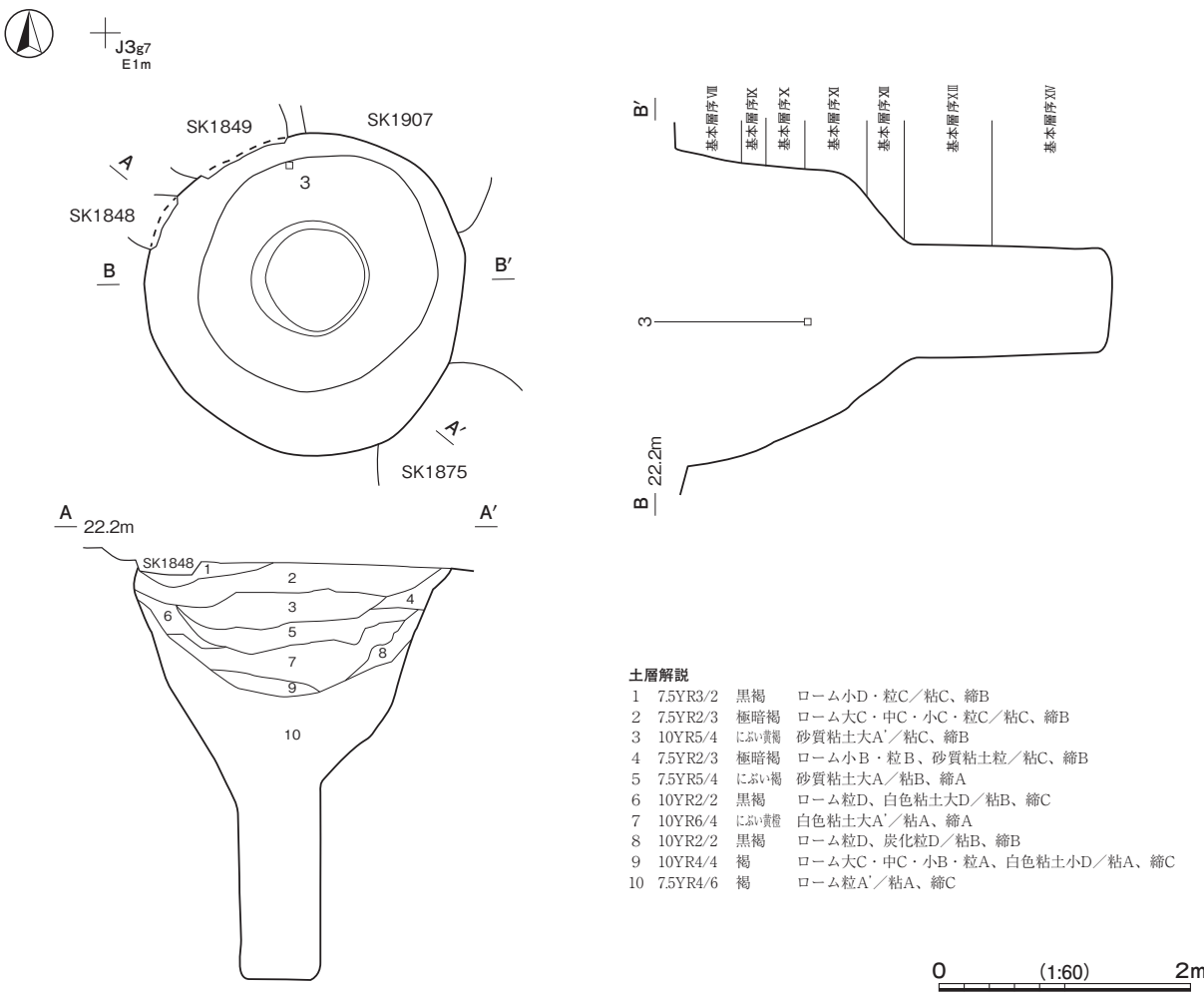
第140号井戸跡（第196・197図 第117表 PL25・64）

位置 調査区C区南部のJ3g7区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1875・1907号土坑を掘り込み、第1848・1849号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複しているが、長径2.54m、短径2.52mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から170cmまでは逆円錐状に掘り込み、以下は径0.96mの円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは332cmで、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第XIV層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

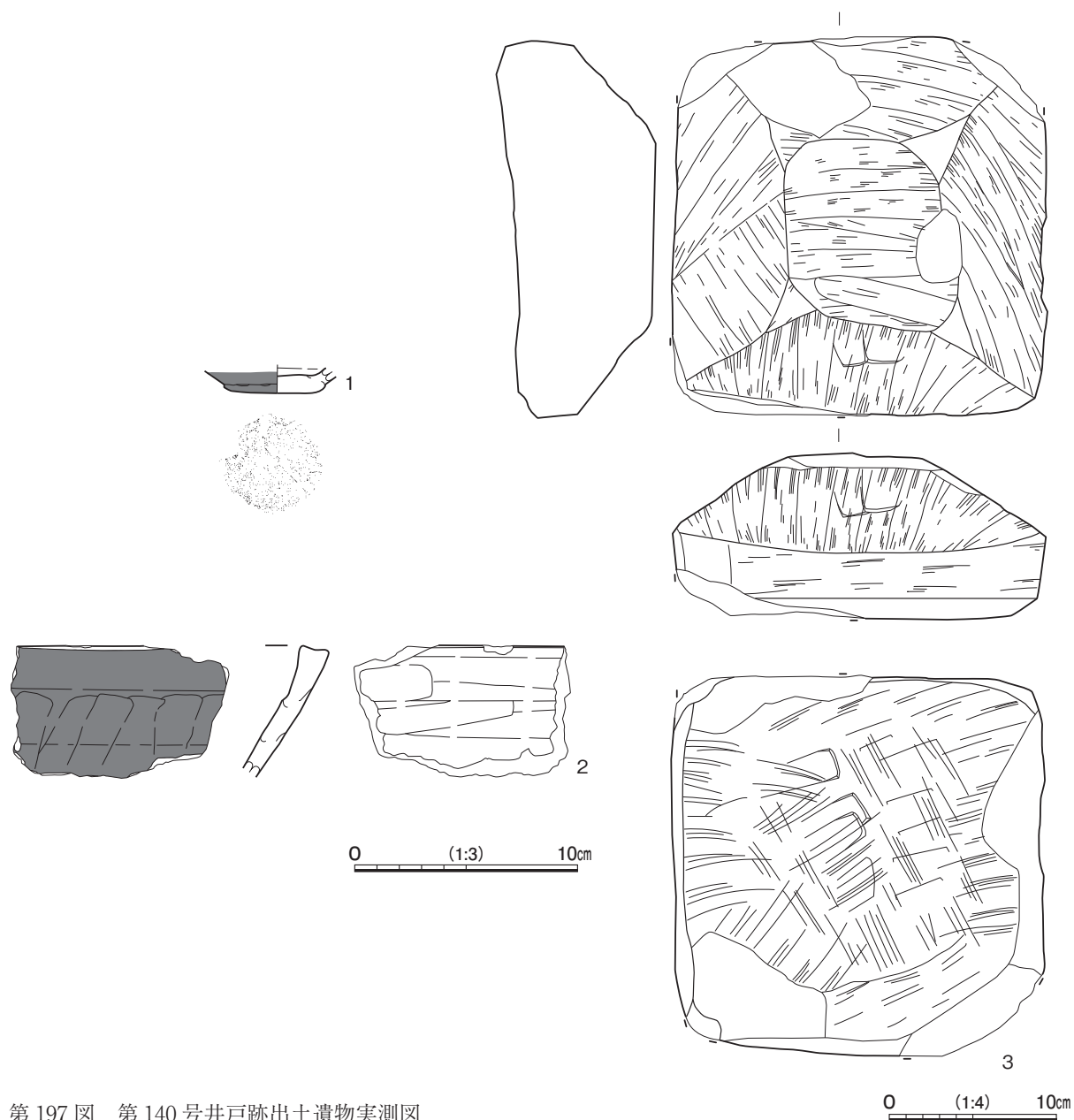
覆土 10層を確認した。各層にはロームブロックや粘土ブロックを含む層位が多く、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。



第196図 第140号井戸跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 10 点（捏鉢 1、内耳鍋 9）、石製品 1 点（花崗岩製五輪塔）、雲母片岩片 1 点（13,880 g）が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。3 は、北壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 197 図 第 140 号井戸跡出土遺物実測図

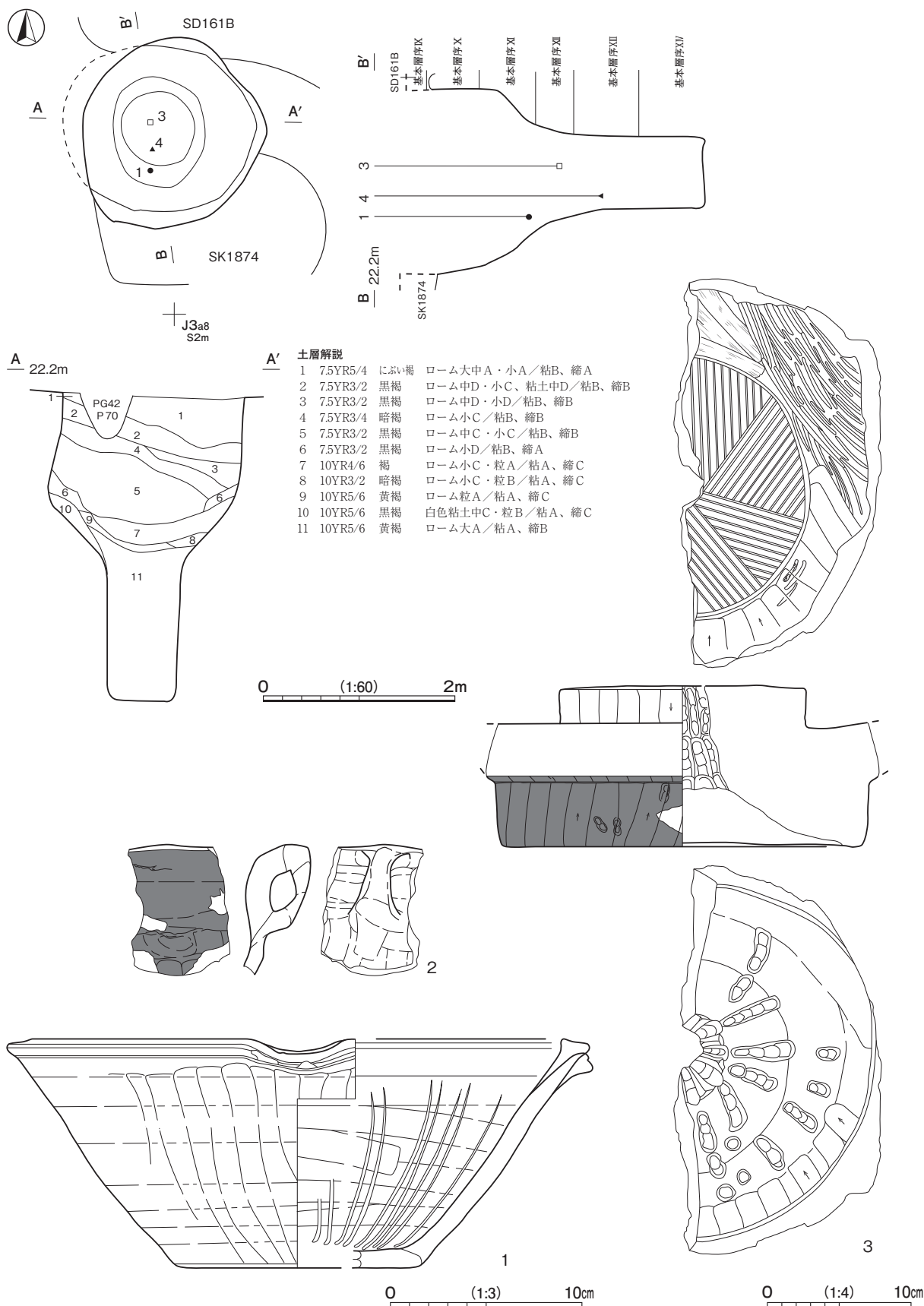
第 117 表 第 140 号井戸跡出土遺物一覧（第 197 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	－	(1.3)	4.1	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口クロナデ 底部回転糸切り	覆土	20% 油煙付着
2	土師質土器	内耳鍋	－	(5.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	口縁部横ナデ・浅い返し成形 体部外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5% 煤付着

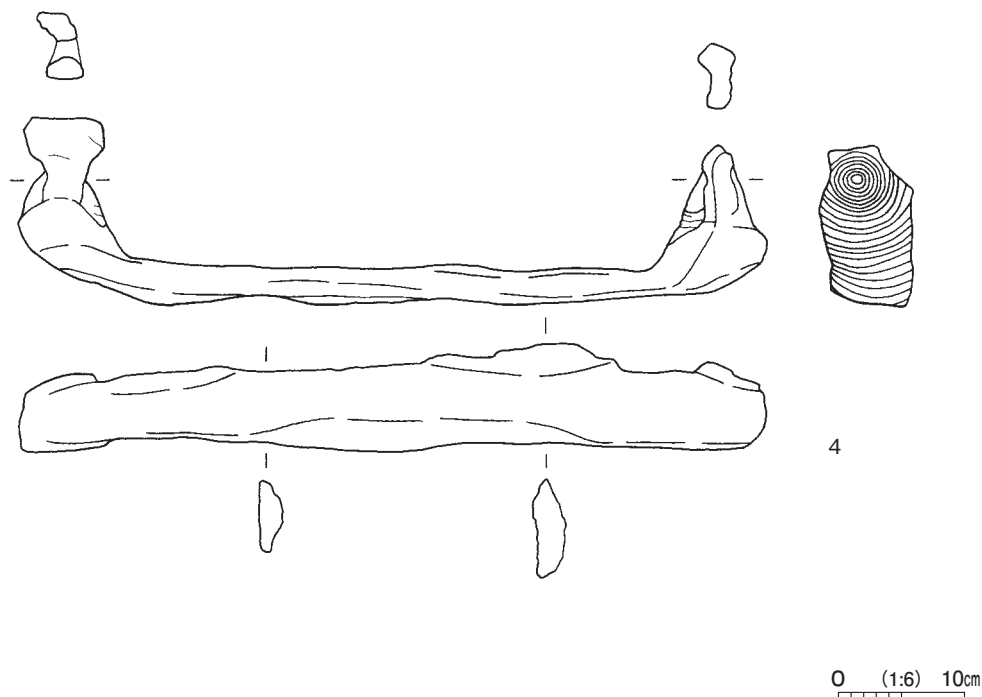
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
3	五輪塔	22.6	22.4	9.9	20.97kg	花崗岩	火輪 上面一方向の研磨痕 側面多方向の研磨痕・下端部横位の研磨痕 下面削り痕・多方向の研磨痕	覆土上層	PL64

第 141 号井戸跡 (第 198・199 図 第 118 表 PL25・64・65)

位置 調査区 C 区中央部の J 3a8 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



第 198 図 第 141 号井戸跡・出土遺物実測図



第 199 図 第 141 号井戸跡出土遺物実測図

重複関係 第 42 号ピット群 P70 に掘り込まれている。第 1874 号土坑、第 161B 号堀跡との関係は、不明である。

規模と形状 長径 2.00 m、短径 1.90 m の不整な円形である。断面形は確認面から 86cm まではほぼ垂直に、以下は漏斗状に掘り込んでいる。円筒状の掘り込み口は径 0.78m である。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 320cm で、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第 XIV 層まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 4 点（播鉢 1、内耳鍋 3）、石器 1 点（安山岩製茶臼）、木製品 1 点（不明）が出土している。1・3・4 は中央部周辺の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。

第 118 表 第 141 号井戸跡出土遺物一覧（第 198・199 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	播鉢	[27.8]	11.9	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ・片口成形 体部弱い縦位ナデ 内面横位ナデ・串状工具による 2 条一単位の播目	覆土中層	10% PL64
2	土師質土器	内耳鍋	—	(6.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・指頭痕 体部外面弱い縦位ナデ 内面縦位ナデ	覆土	5% 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
3	茶臼	(27.0)	(14.5)	11.2	(470kg)	安山岩	下臼 上面 8～13 条一単位の播目 受皿部割り痕・一部に研磨痕 下面削り・叩き痕 側面削り痕	覆土中層	PL65 被熱痕・煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
4	不明品	59.2	15.0	8.6	—	マツ科マツ属 二葉松類	芯持ち材 切り出し・削り加工	覆土中層	PL65

第 142 号井戸跡 (第 200 ～ 202 図 第 119 表 PL25・26・65・66)

位置 調査区 C 区南部の J 3g8 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

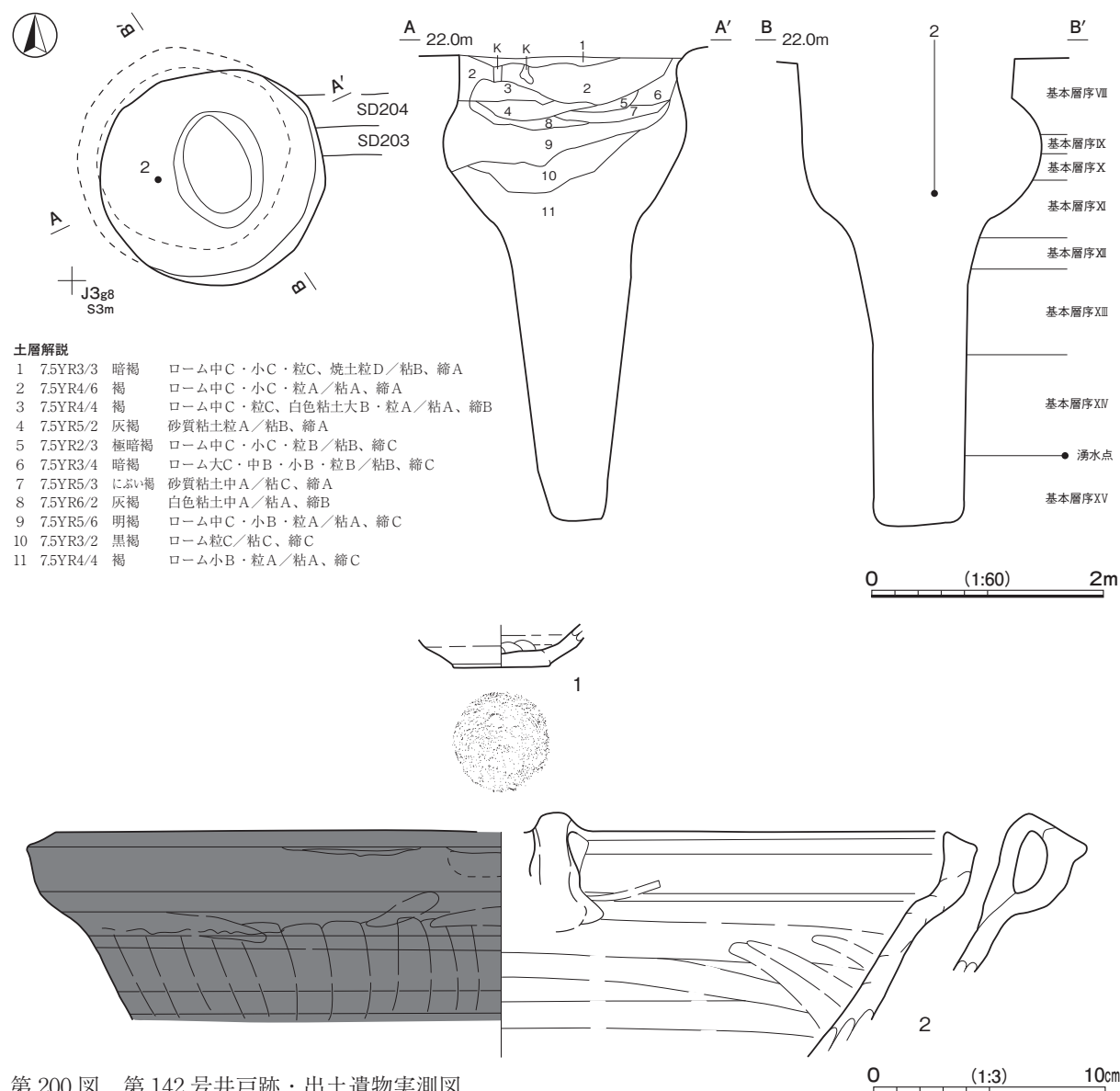
重複関係 第 203・204 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.88 m、短径 1.76 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 130cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.00m、短径 0.76m の円筒状に掘り込んでいる。壁の上部は、崩落のため西側半部が壊れている。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 400cm で、底面は楕円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 340cm ほどの基本層序第 XIV 層と基本層序第 XV 層の境付近からで、底面は基本層序第 XV 層の途中まで掘り込んでいる。

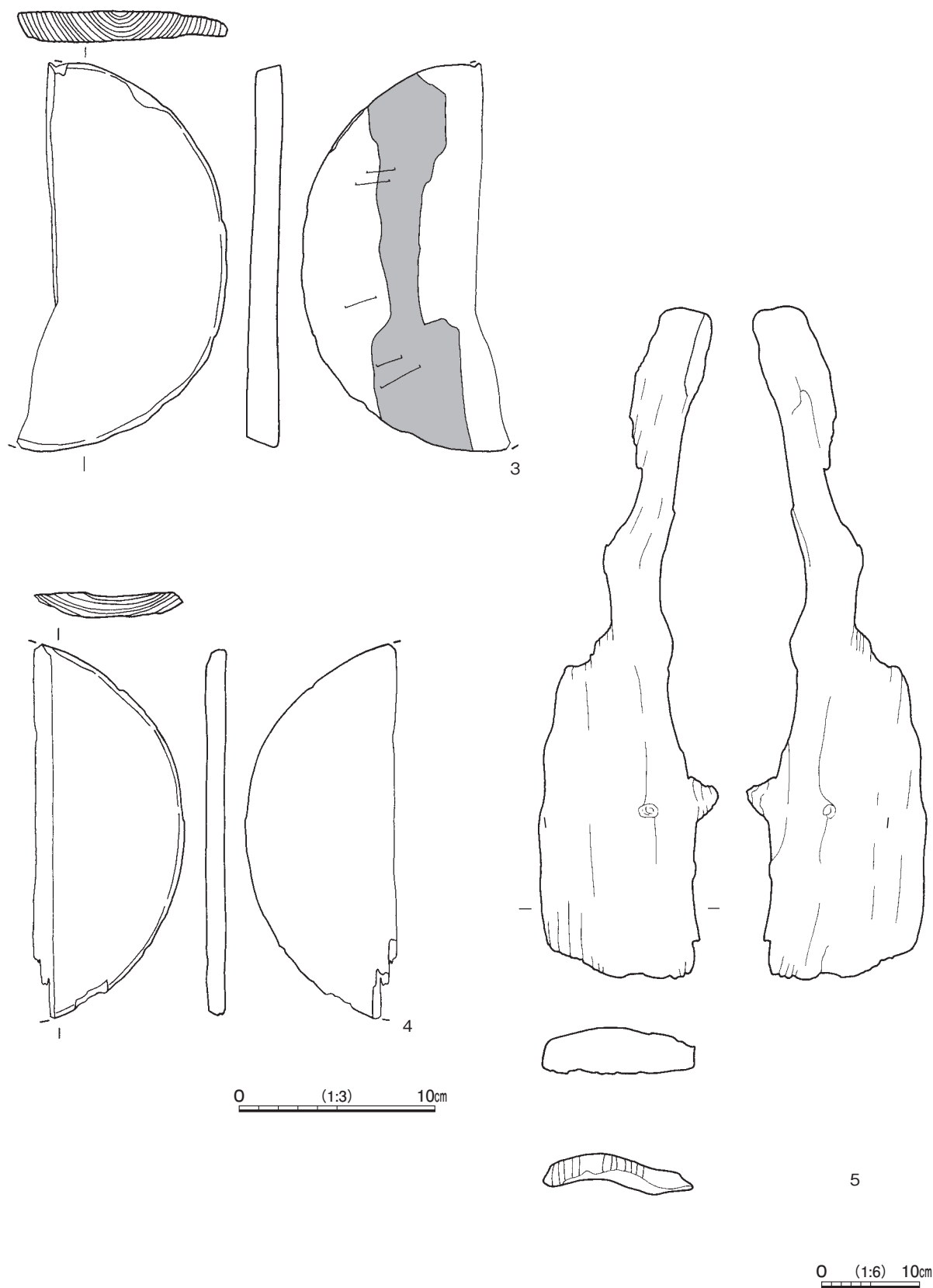
覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 12 点 (皿 2、播鉢 1、内耳鍋 9)、木製品 4 点 (曲物 2、不明品 2) が出土している。ほかに混入した土師器片 2 点が出土している。2 は、中央部西寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 200 図 第 142 号井戸跡・出土遺物実測図



第 201 図 第 142 号井戸跡出土遺物実測図(1)



6

0 (1:6) 10cm

第 202 図 第 142 号井戸跡出土遺物実測図(2)

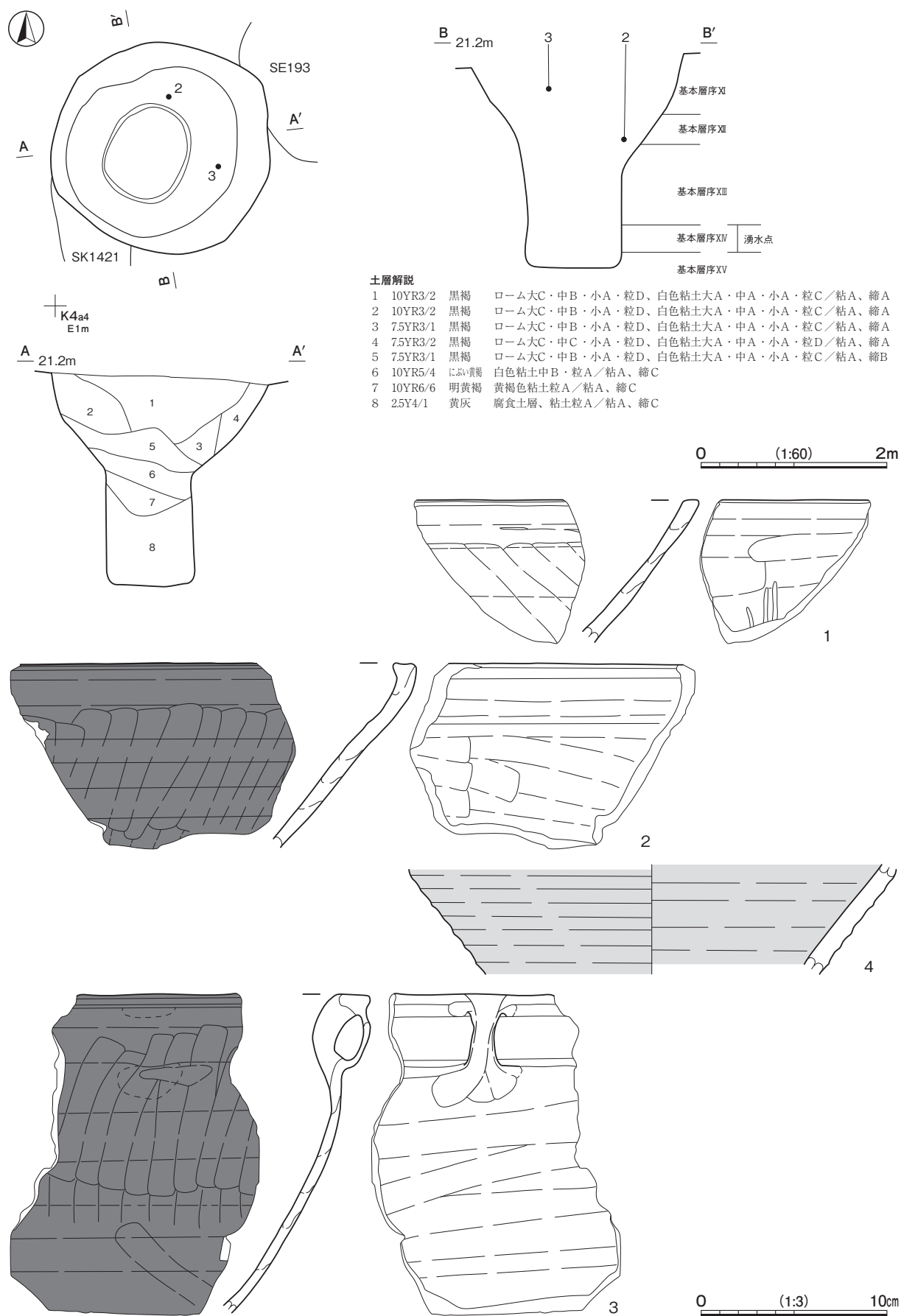
第 119 表 第 142 号井戸跡出土遺物一覧（第 200 ～ 202 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	—	(1.9)	[4.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・板目痕 内面ナデ	覆土	20%
2	土師質土器	内耳鍋	[38.4]	(9.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・深い返し成形 体部外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土中層	20% PL66 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
3	曲物	19.8	—	1.6	—	—	板目 蓋板カ 切り出し・削り加工 外面削り痕	覆土	PL65 漆付着カ
4	曲物	(19.1)	—	1.2	—	—	板目 底板カ 切り出し・削り加工 内外面劣化	覆土	
5	不明品	68.2	18.2	4.8	—	—	柾目 切り出し・削り加工 一部腐食	覆土	PL65
6	不明品	75.0	13.2	9.0	—	—	芯持ち材 切り出し・削り加工 一部未加工	覆土	PL65

第 145 号井戸跡（第 203 図 第 120 表 PL26・66）

位置 調査区 C 区南東部の J 4 j4 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



第203図 第145号井戸跡・出土遺物実測図

重複関係 第 193 号井戸跡を掘り込んでいる。第 1421 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径 2.28 m、短径 2.20 m の円形で、断面形は漏斗状である。確認面から 110cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.10m、短径 0.90m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 228cm で、底面は楕円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 190cm ほどの基本層序第 XIV 層中からで、底面は基本層序第 XV 層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 8 層を確認した。1～7 層はロームブロックや粘土ブロックを多量に含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。第 8 層は木片などを含む腐食土層である。

遺物出土状況 土師質土器片 54 点（播鉢 7、内耳鍋 33、甕 14）、陶器片 2 点（大皿、甕）が出土している。2 は北壁際の覆土中層から、3 は中央部東壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。4 は 15 世紀後葉の古瀬戸の大皿の破片であることから、伝製品の廃棄や混入と考えられる。

第 120 表 第 145 号井戸跡出土遺物一覧（第 203 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	播鉢	－	(7.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ 内面横ナデ・櫛歯状工具による 3 条の掘目	覆土	5 %
2	土師質土器	内耳鍋	－	(10.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ・浅い返し成形 体部外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土中層	5 % PL66 煤付着
3	土師質土器	内耳鍋	－	(17.3)	－	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・浅い返し成形 体部外面弱い縦・斜位ナデ 内面横ナデ	覆土上層	10% 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
4	陶器	大皿	－	(6.0)	－	緻密・灰白	ロクロ成形 漬け掛け	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	5 %

第 147 号井戸跡（第 204 図 第 121 表 PL26）

位置 調査区 C 区南東部の J 4 f4 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1974 号土坑、第 44 号ピット群 P489・P490・P502・P503・P509・P510 に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.24 m の円形で、断面形は漏斗状である。確認面から 80cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 90cm の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 250cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 140cm ほどの、基本層序第 XIII 層と基本層序第 XIV 層の境付近と、深さ 200cm ほどの基本層序第 XIV 層と基本層序第 XV 層の境付近の 2 地点からで、底面は基本層序第 XV 層まで掘り込んでいる。

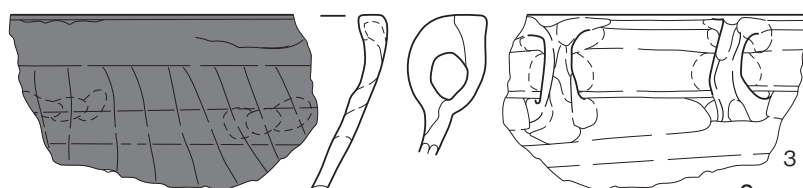
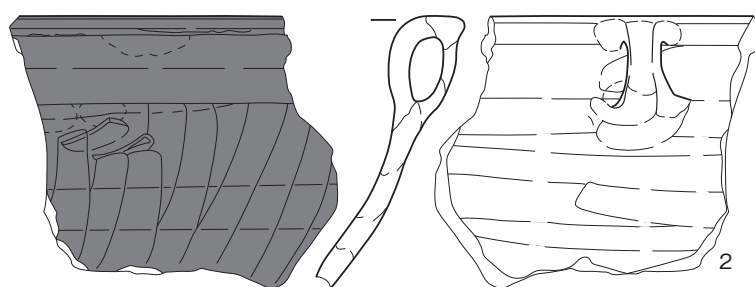
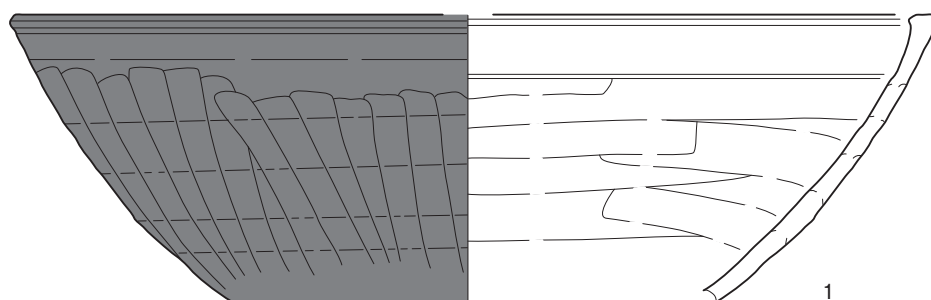
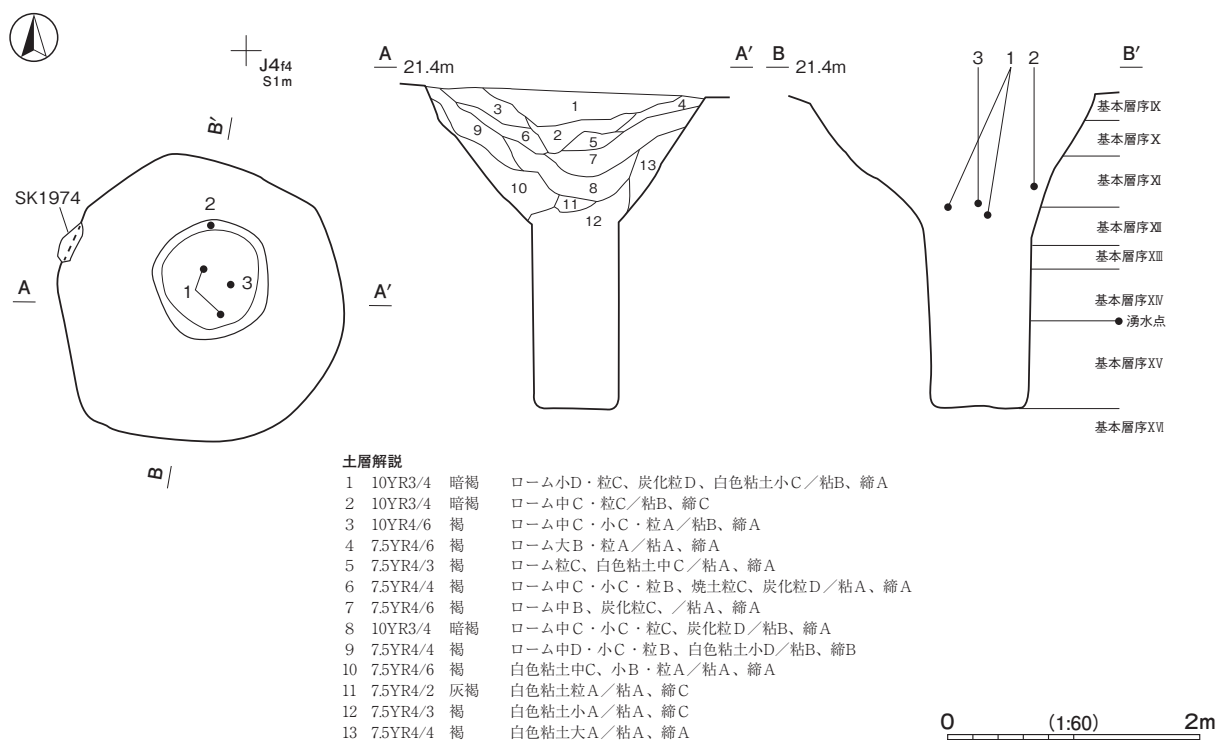
覆土 13 層を確認した。各層にロームブロックや白色粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 15 点（内耳鍋）、雲母片岩片 1 点（85.58g）が出土している。1・3 は中央部付近、2 は北壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。

第 121 表 第 147 号井戸跡出土遺物一覧（第 204 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(11.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	口縁部横ナデ 内面に弱い返し成形 体部外面弱い縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土中層	20% 煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	－	(10.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ・指頭痕 内面横位ナデ	覆土中層	10% 煤付着
3	土師質土器	内耳鍋	－	(7.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け 体部外面弱い縦位ナデ・指頭痕 内面横位ナデ	覆土中層	5 % 煤付着



0 (1:3) 10cm

第 204 図 第 147 号井戸跡・出土遺物実測図

位置 調査区C区南部のI3b7区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.62 m、短径 1.60 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 210cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.62 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 322cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 210cm ほどの基本層序第Ⅻ層と基本層序第Ⅺ層付近で、底面は基本層序第Ⅻ層の途中まで掘り込んでいる。

遺物出土状況 土師質土器片7点（皿1、掻鉢2、内耳鍋4）、瓦質土器片1点（掻鉢）、花崗岩片1点（14.08g）が出土している。ほかに混入した土師器片5点が出土している。

Archaeological site plan and stratigraphic profile of Site 1 (SK1828).

Site Plan: The plan view shows a circular feature with a central pit, labeled with coordinates A, A', B, B' and a scale of 22.2m. A north arrow is in the top left. A detailed stratigraphic profile is shown on the right, with layers numbered 1 to 6 and labeled with soil types and colors. A scale bar indicates 0 to 2m at 1:60.

Stratigraphic Profile: The profile shows the vertical sequence of layers. The layers are numbered 1 to 6, with corresponding soil types and colors listed in the legend. The profile also shows the location of the '湧水点' (Spring Point) and the '基本層序X' (Basic Sequence X) to '基本層序XIV' (Basic Sequence XIV).

Legend:

Layer	Soil Type	Color	Description
1	7.5YR3/3	暗褐	ローム小D / 粘B、締B
2	7.5YR3/3	暗褐	ローム小C / 粘B、締B
3	7.5YR3/2	黒褐	ローム中D・小C / 粘B、締B
4	7.5YR3/2	黒褐	ローム中D・小D / 粘B、締B
5	7.5YR3/2	暗褐	ローム中C / 粘B、締B
6	7.5YR3/3	黒褐	ローム小D / 粘B、締B

Scale: 0 to 2m (1:60) and 0 to 10cm (1:3).

第122表 第149号井戸跡出土遺物一覽 (第205図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.6]	2.7	[6.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	クロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	25% PL66
2	瓦質土器	播鉢	—	(3.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ 体部内面横位ナデ・板状工具による 11 条一単位の横目	覆土	5 % PL66

第 152 号井戸跡（第 206 図 第 123 表 PL26）

位置 調査区 C 区南部の J 3 e8 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

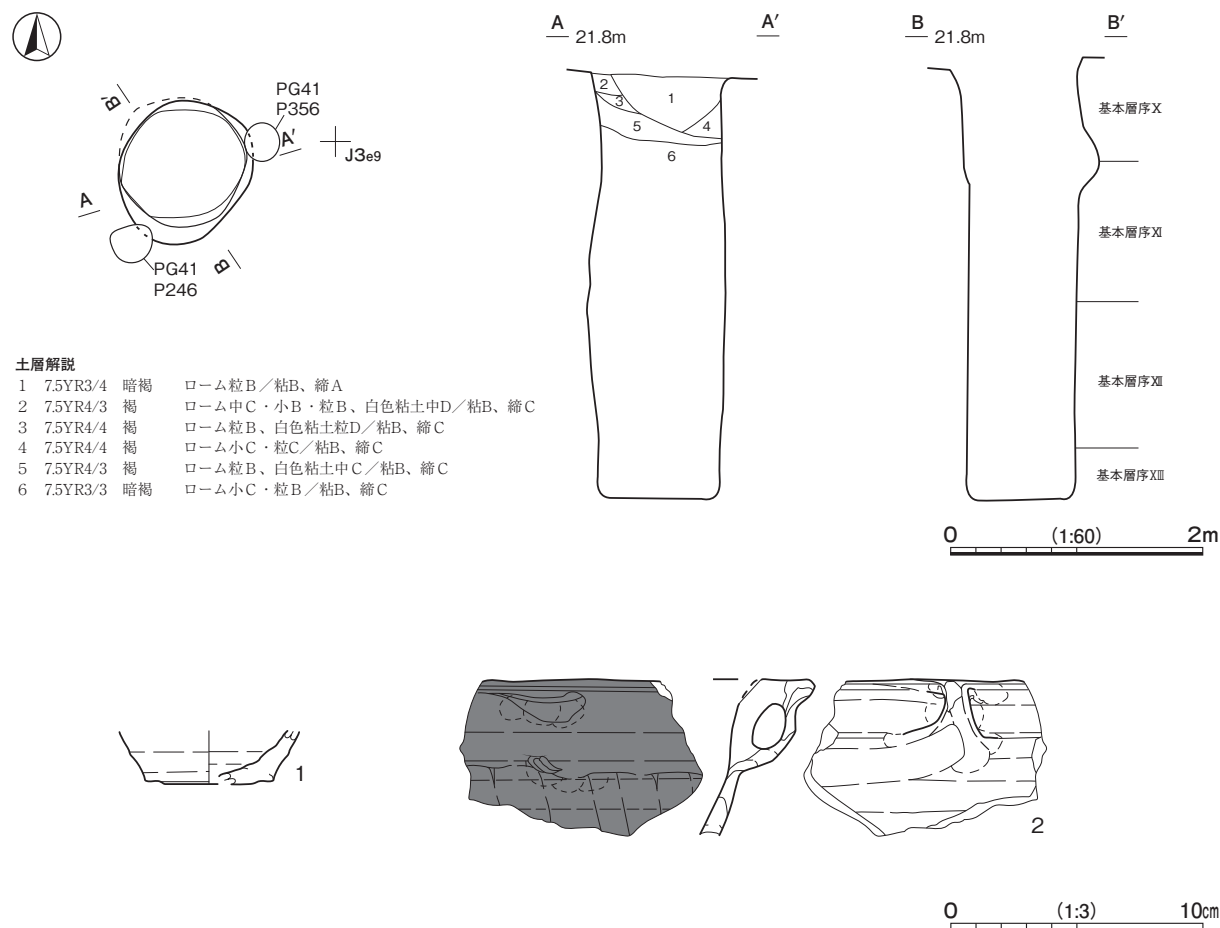
重複関係 第 41 号ピット群 P246・P356 に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.12 m、短径 1.00 m の楕円形で、長径方向は N - 42° - E である。断面形は円筒状である。壁の中部は、崩落のため北西部が欠れている。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 336 cm で、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第Ⅲ層まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 6 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 7 点（皿 1、播鉢 1、内耳鍋 5）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 206 図 第 152 号井戸跡・出土遺物実測図

第 123 表 第 152 号井戸跡出土遺物一覧（第 206 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	—	(2.1)	[5.2]	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	5 %
2	土師質土器	内耳鍋	—	(6.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け・内面返り成形 体 部外面縦位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5 % 煤付着

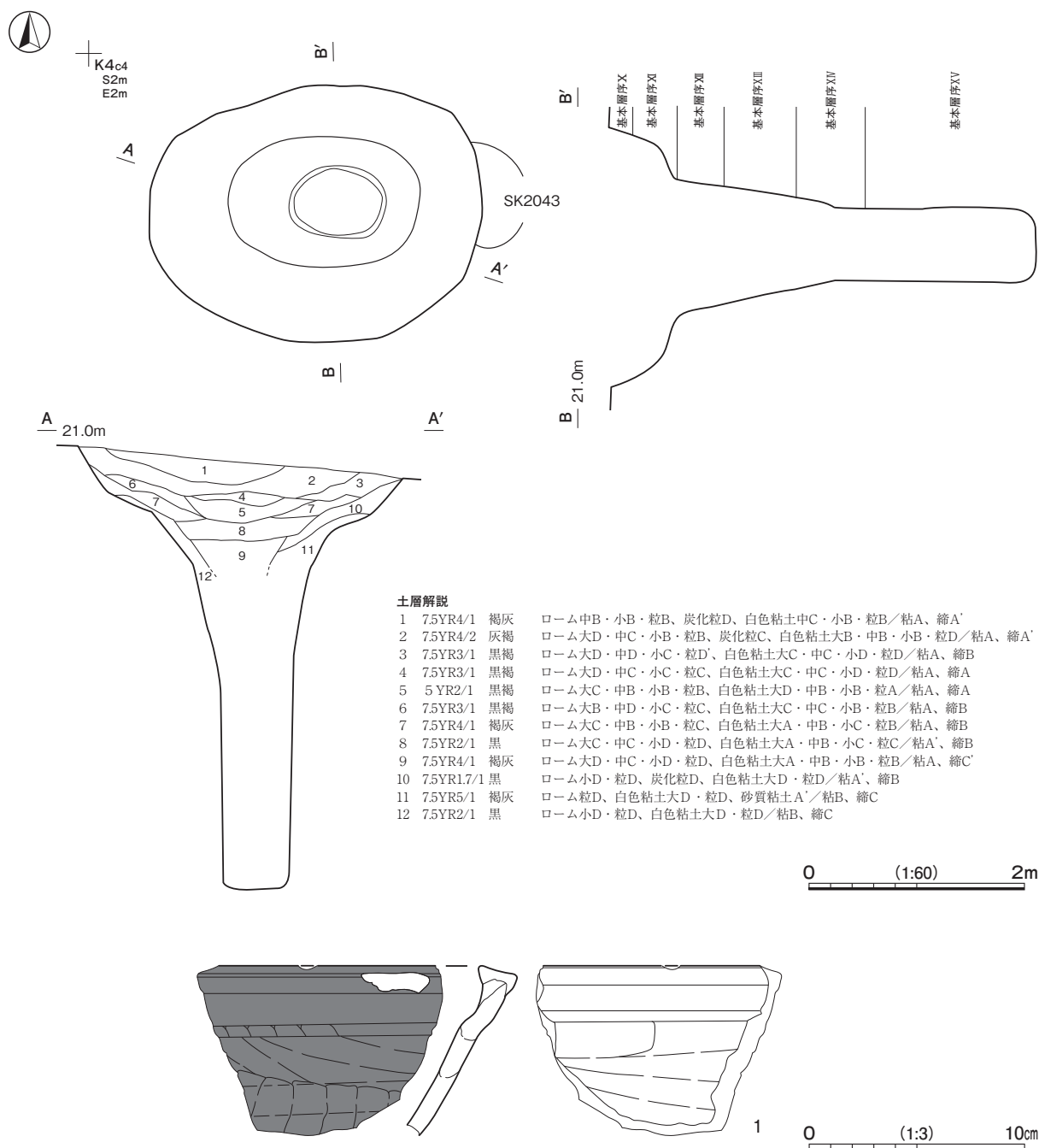
第 153 号井戸跡 (第 207 図 第 124 表 PL26・66)

位置 調査区 C 区南東部の K 4c5 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 2043 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 3.10 m、短径 2.41 m の楕円形で、長径方向は N - 88° - E である。断面形は漏斗状で、確認面から 50cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.78 m、短径 1.20m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 395cm で、底面は楕円形を呈し、平坦である。基本層序第 XV 層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 12 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。



第 207 図 第 153 号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 5 点（内耳鍋）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。

第 124 表 第 153 号井戸跡出土遺物一覧（第 207 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	—	(7.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ・内面返り成形 位ナデ 内面横位ナデ	覆土	10% PL66 煤付着

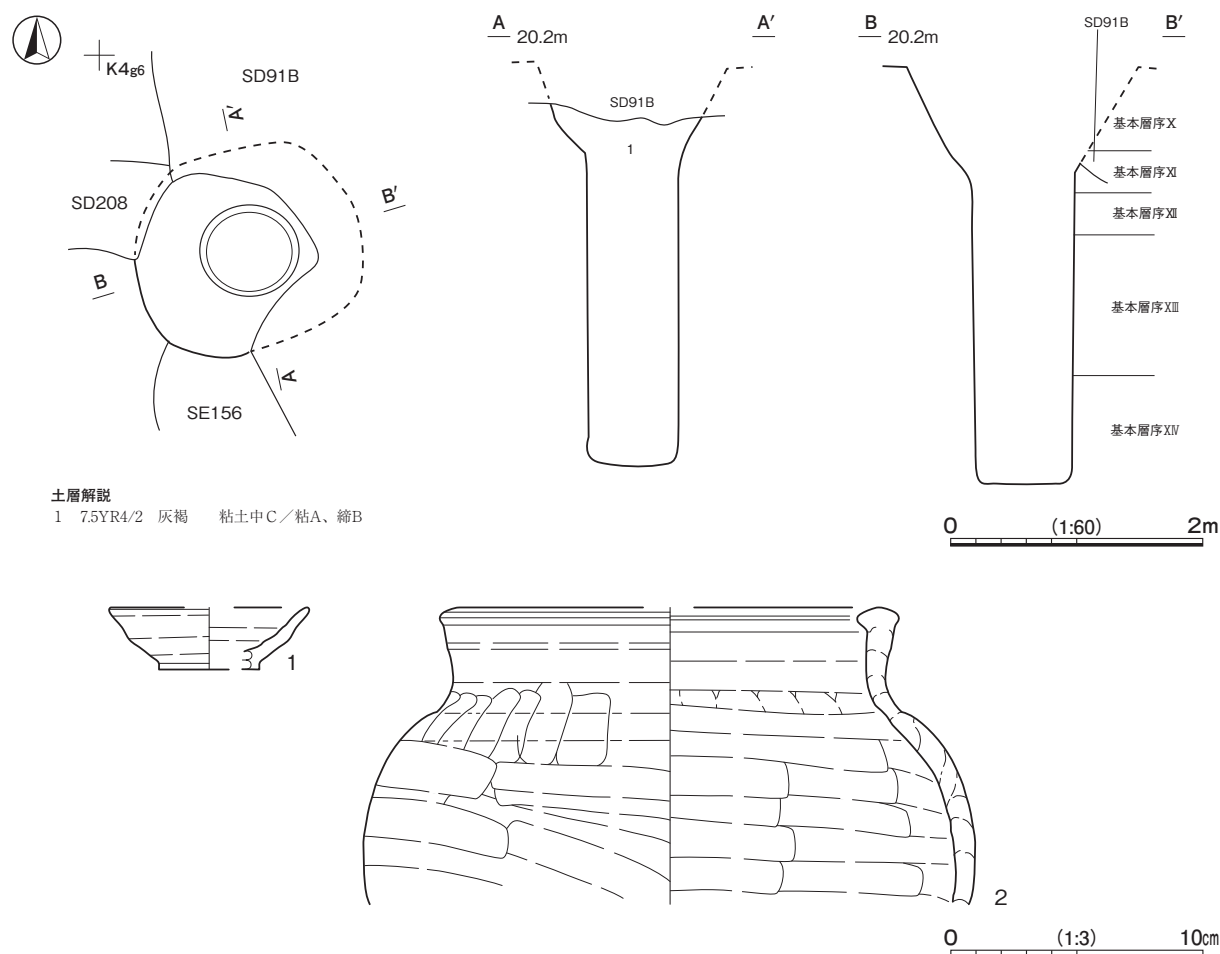
第 154 号井戸跡（第 208 図 第 125 表 PL66）

位置 調査区 C 区南東部の K 4 g6 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 156 号井戸跡を掘り込み、第 91A・B 号堀、第 208 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は南北径 1.43 m、東西径 1.45 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 80cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.82 m の円筒状に掘り込んである。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 316cm で、底面は円形を呈し、平坦である。基本層序第 XIV 層の途中まで掘り込んであるが、湧水点は不明である。

覆土 単一層を確認した。粘土ブロックを含むことから人為堆積である。



第 208 図 第 154 号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 21 点（皿 1、内耳鍋 17、壺 3）、陶器片 1 点（甕）、土製品 1 点（羽口）、石器 1 点（砥石）、雲母片岩片 1 点（40.87g）が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 15 世紀後半と考えられる。

第 125 表 第 154 号井戸跡出土遺物一覧（第 208 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[7.9]	2.5	[4.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土	5 %
2	土師質土器	壺	[16.6]	(11.8)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位ナデ 内面縦・横位ナデ	覆土	30% PL66

第 165 号井戸跡（第 209・210 図 第 126 表 PL27・66）

位置 調査区 C 区南東部の K 4 b9 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

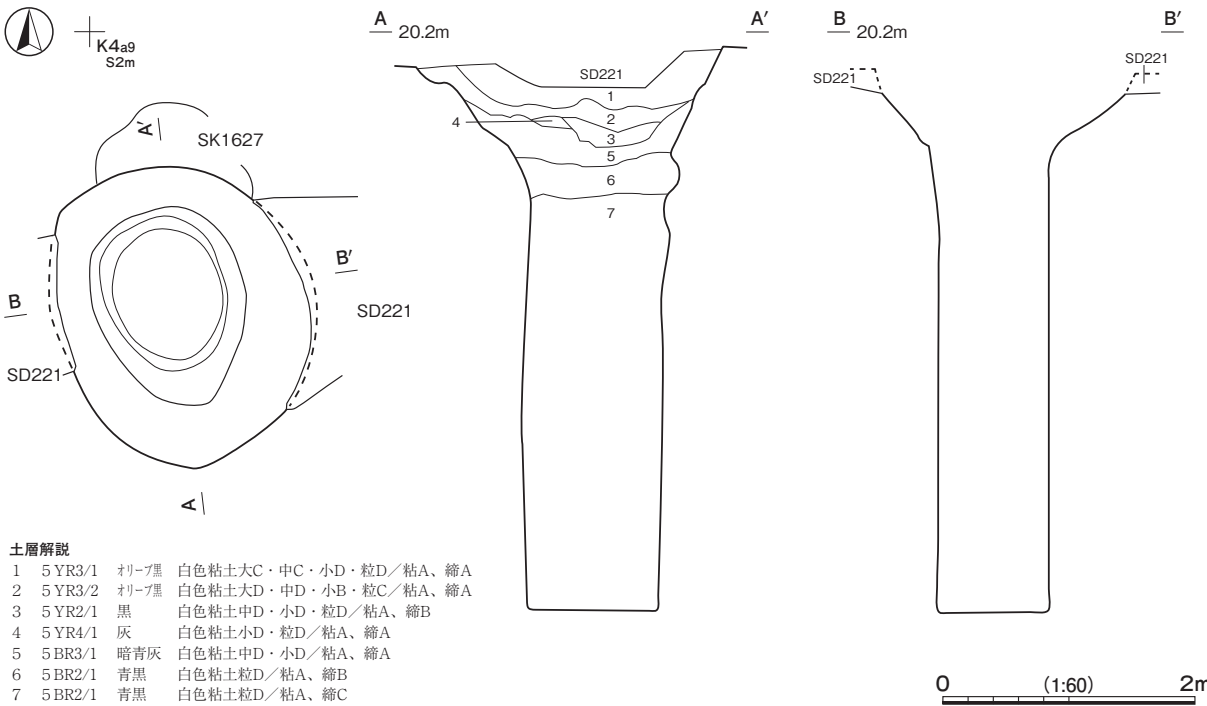
重複関係 第 1627 号土坑を掘り込み、第 221 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径 2.39 m、短径 1.92 m である。平面形は楕円形と推定でき、長径方向は N－7°－W である。断面形は漏斗状で、確認面から 110cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.12 m、短径 0.96m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 442cm で、底面は円形を呈し、平坦である。

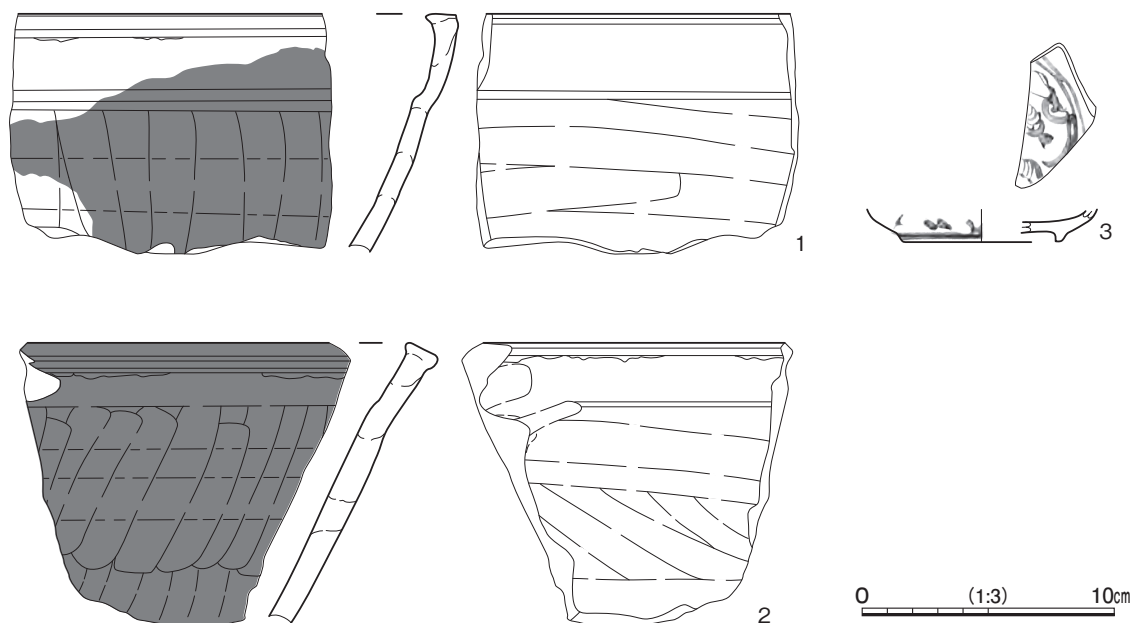
覆土 7 層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 2 点（内耳鍋）、磁器片 1 点（皿）、砂岩片 1 点（80.00g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前半と考えられる。



第 209 図 第 165 号井戸跡実測図



第 210 図 第 165 号井戸跡出土遺物実測図

第 126 表 第 165 号井戸跡出土遺物一覧（第 210 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	—	(9.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・内面返し成形位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5% PL66 煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	—	(11.5)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ・内面返し成形位ナデ 内面横位ナデ	覆土	5% PL66 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	磁器	皿	—	(1.3)	[6.0]	緻密・灰白	染付 底部削り出し 見込二重圏門・芭蕉葉文カ 外面圏門文・草花文カ	呉須 透明釉	中国産 福建省系窯カ	覆土	10% PL66

第 166 号井戸跡（第 211 図 第 127 表 PL27・67）

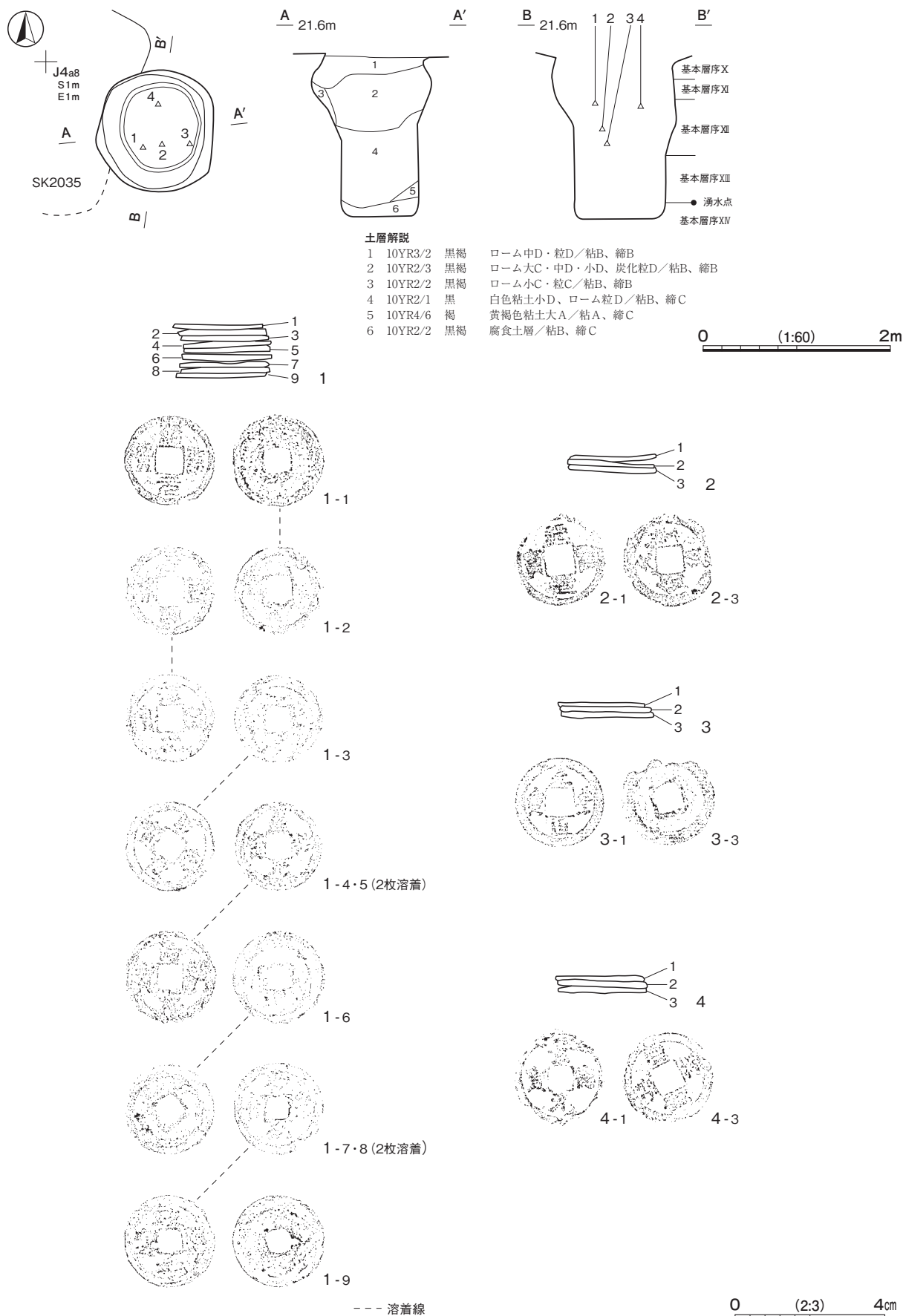
位置 調査区 C 区南東部の J 4 a8 区、標高 21 m ほどの台地傾斜面部に位置している。

重複関係 第 2035 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.24 m、短径 1.08 m の楕円形で、長径方向は N - 9° - W である。確認面から 30 ～ 70 cm までは崩落のため内湾状に抉れ、以下は円筒状に掘り込んでいる。確認面からの深さは 170 cm である。底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 110 cm ほどの基本層序第 XIII 層と基本層序第 XIV 層の境付近からで、底面は基本層序第 XIV 層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 6 層を確認した。第 1 ～ 5 層は、ロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積や厚い堆積がみられることから、人為堆積である。第 6 層は腐食土層である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）、銭貨 19 点が出土している。ほかに混入した土師器片 8 点、須恵器片 1 点が出土している。1 ～ 4 は中央部周辺の覆土中層から癒着した状態で出土している。1 については、保存処理委託の際に可能なものについては分離作業をおこなっている。



第211図 第166号井戸跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器や遺構の分布状況から、16世紀代と考えられる。多くの銭貨が出土していることから、本跡を廃絶する際に何らかの儀礼をおこなった可能性がある。

第 127 表 第 166 号井戸跡出土遺物一覧（第 211 図）

番号	銭 種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鑄年	特 徴	出土位置	備 考
1-1	紹聖通寶	2.4	0.7	0.1	2.31	銅	1049	北宋銭 篆書体	覆土中層	PL67
1-2	元豊通寶	2.3	0.7	0.2	3.83	銅	1078	北宋銭 篆書体	覆土中層	PL67
1-3	淳熙元寶	2.3	0.7	0.2	2.44	銅	1174	南宋銭 真書体 裏面月星	覆土中層	PL67
1-4	開元通寶	2.3	0.7	0.1	6.42	銅	960	唐銭 隸書体 1-5 と癒着	覆土中層	PL67
1-5	開元通寶	2.3	0.7	0.1		銅	960	唐銭 隸書体 1-4 と癒着	覆土中層	PL67
1-6	治平元寶	2.4	0.7	0.2	3.60	銅	1064	北宋銭 真書体	覆土中層	PL67
1-7	不明	2.4	0.7	0.1	7.43	銅	—	1-8 と癒着	覆土中層	PL67
1-8	聖宋元寶	2.4	0.6	0.1		銅	1101	北宋銭 行書体 1-7	覆土中層	PL67
1-9	政和通寶	2.4	0.6	0.1	2.93	銅	1111	北宋銭 隸書体 裏面に癒着痕	覆土中層	PL67
2-1	天聖元寶	2.4	0.8	0.1	7.62	銅	1023	北宋銭 篆書体 2-2・3 と癒着	覆土中層	PL67
2-2	不明	2.4	—	0.1		銅	—	2-1・3 と癒着	覆土中層	PL67
2-3	元豊通寶	2.4	0.7	0.1		銅	1078	北宋銭 行書体 2-2・3 と癒着	覆土中層	PL67
3-1	元豊通寶	2.3	0.8	0.1	7.09	銅	1078	北宋銭 行書体 3-1・2 と癒着	覆土中層	PL67
3-2	不明	2.4	—	0.1		銅	—	3-1・3 と癒着	覆土中層	PL67
3-3	不明	2.5	0.7	0.1		銅	—	3-1・2 と癒着	覆土中層	PL67
4-1	景德元寶	2.5	0.7	0.1	7.43	銅	1004	北宋銭 真書体 4-2・3 と癒着	覆土中層	PL67
4-2	不明	2.4	—	0.1		銅	—	4-1・3 と癒着	覆土中層	PL67
4-3	嘉祐通寶	2.3	0.7	0.1		銅	1056	北宋銭 真書体 4-1・2 と癒着	覆土中層	PL67

第 168 号井戸跡（第 212 図 第 128 表 PL27・67）

位置 調査区 C 区南東部の K 4b8 区、標高 19 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

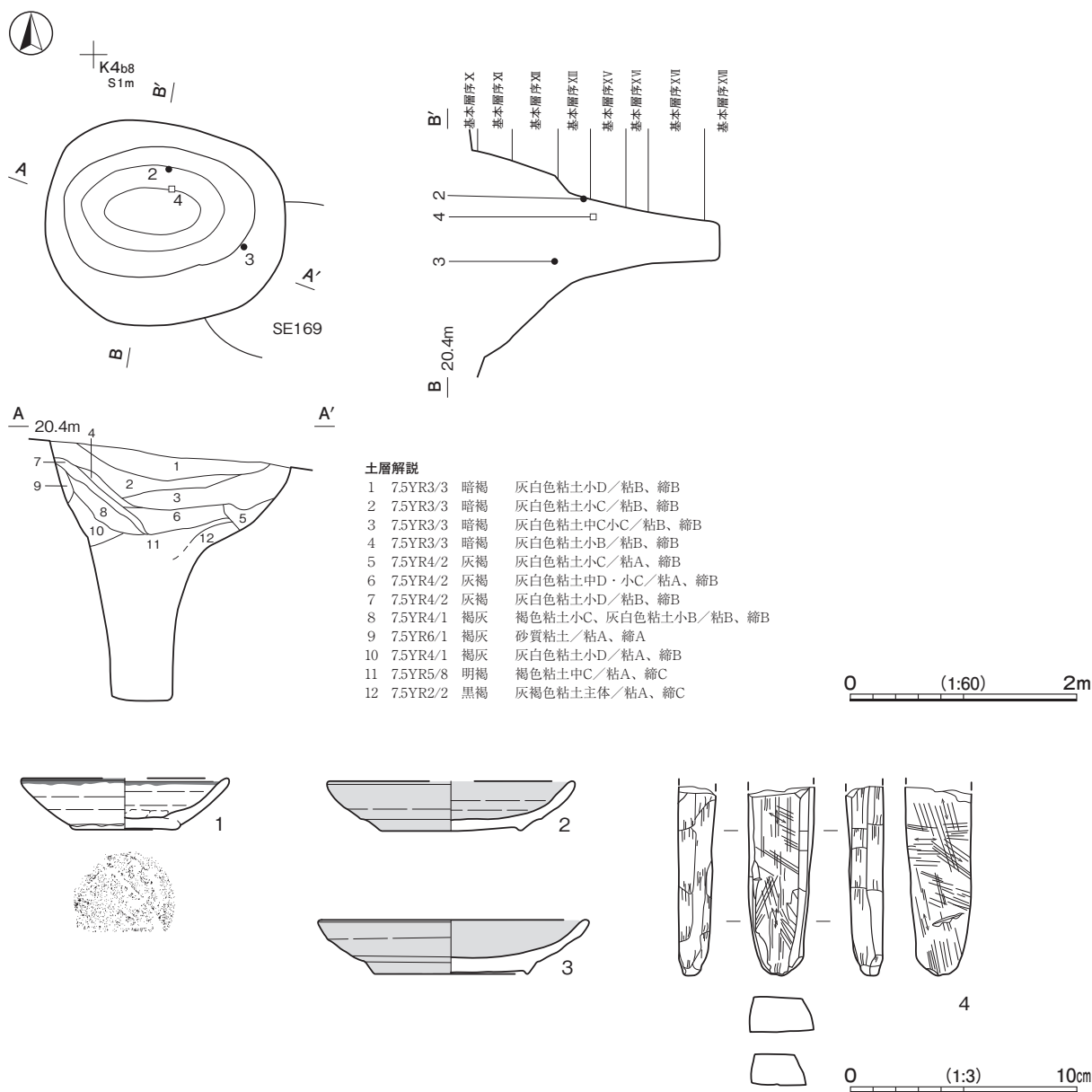
重複関係 第 169 号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.12 m、短径 1.87 m の楕円形で、長径方向は N-88°-W である。断面形は漏斗状で、確認面から 80cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.20 m、短径 0.76m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 230cm で、底面は楕円形を呈し、平坦である。基本層序第Ⅷ層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 12 層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 14 点（皿 3、播鉢 1、内耳鍋 10）、陶器片 3 点（丸皿 2、皿 1）、石器 3 点（凝灰岩製砥石 2、雲母片岩製台石 1）、瑪瑙片 1 点（8.05g）、雲母片岩片 2 点（957.03g）、凝灰岩片 1 点（200.48g）が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、須恵器片 1 点が出土している。2・4 は北壁際、3 は東壁際の覆土中層から、それぞれ出土している。3 は、破損後に被熱痕を受けている。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。



第 212 図 第 168 号井戸跡・出土遺物実測図

第 128 表 第 168 号井戸跡出土遺物一覧（第 212 図）

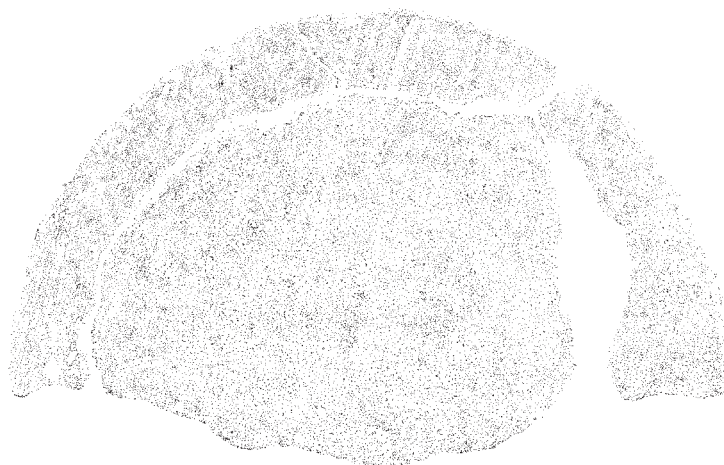
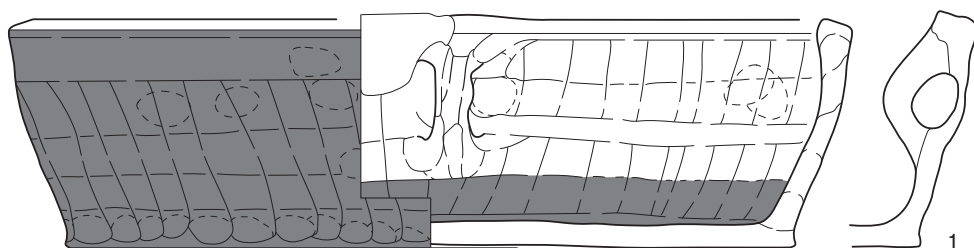
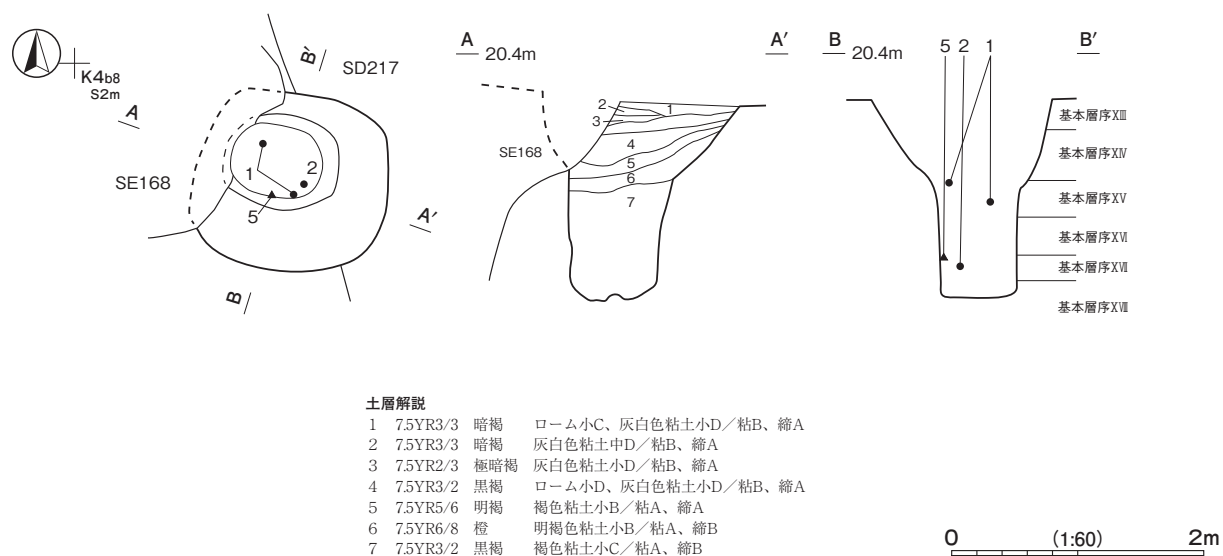
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[9.1]	2.3	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面ナデ	覆土	30% PL67 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	丸皿	[10.8]	2.2	6.2	緻密・灰オリープ	ロクロ成形 底部削り出し	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中層	60%
3	陶器	丸皿	11.8	2.4	6.8	緻密・灰白	ロクロ成形 底部削り出し	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中層	75% PL67 被熱痕

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	砥石	(8.3)	2.4	1.6	(55.10)	凝灰岩	砥面2面 表裏面多方向の研磨痕 側面削り痕	覆土中層	PL67

第 169 号井戸跡（第 213・214 図 第 129 表 PL27・67・68）

位置 調査区 C 区南東部の K 4b8 区、標高 19 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



0 (1:3) 10cm

第 213 図 第 169 号井戸跡・出土遺物実測図



第 214 図 第 169 号井戸跡出土遺物実測図

重複関係 第 217 号溝跡を掘り込み、第 168 号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は南北径 1.40 m、東西径 1.30 m である。平面形は楕円形と推定でき、長径方向は N - 70° - W である。断面形は漏斗状で、確認面から 60cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 0.90 m、短径 0.76m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 160cm で、底面は円形で凹凸がある。基本層序第Ⅷ層の途中まで掘り込んでいるが、湧水点は不明である。

覆土 7 層を確認した。各層に粘土ブロックを含み、第 1 ～ 5 層が版築のような引き締まった層位であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 23 点（擂鉢 2、内耳鍋 21）、陶器片 2 点（天目茶碗 1、片口鉢 1）、石器 6 点（安山岩製石臼 1、雲母片岩製砥石 4、砂岩製砥石 1）、木製品 4 点（漆器椀 1、鍋蓋カ 1、栓 1、不明品 1）、雲

母片岩片 1 点 (2,405.57g)、安山岩片 1 点 (168.20g)、凝灰岩片 1 点 (168.33g) が出土している。ほかに混入した瓦片 1 点 (丸瓦) が出土している。1 は中央部周辺の覆土中層から散在した状態で出土している。2 は、中央部南東壁際の覆土下層、5 は南壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。

第 129 表 第 169 号井戸跡出土遺物一覧 (第 213・214 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	9.4	28.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付け 外面に指頭痕 底部板目痕	覆土中層	50% PL67 煤付着

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	天目茶碗	[11.7]	5.3	[6.2]	緻密・にぶい褐	ロクロ成形 体部下端削り出し	褐釉	瀬戸・美濃	覆土下層	20% PL67

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
3	砥石	(146)	8.6	5.0	(673.19)	砂岩	砥面 2 面 表面二方向の研磨痕 裏面自然面	覆土	PL67 被熱痕

番号	器 種	口径	器高	底径	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
4	漆器椀	—	(3.8)	[6.4]	—	—	堅木取り ロクロ挽き 外面黒漆 内面茶漆	覆土	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
5	鍋蓋カ	(19.7)	(7.9)	1.4	—	スギ科スギ属 スギ	板目 上面中央部穿孔 2 か所・線条痕	覆土下層	PL68 燃焼による煤
6	栓	(8.4)	3.2	2.8	—	—	木取り不明 両端部切断 側面削り痕	覆土	PL68
7	不明品	9.6	径 6.2	—	—	—	両端部切断 側面ホゾ孔加工痕	覆土	

第 170 号井戸跡 (第 215～217 図 第 130 表 PL27・68・69)

位置 調査区 C 区南東部の J 4 d8 区、標高 20 m ほどの緩斜面部に位置している。

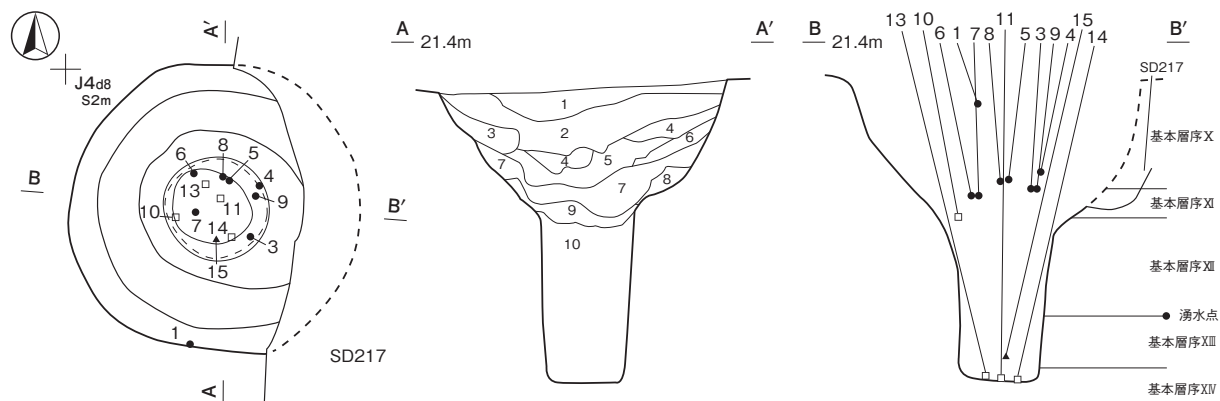
重複関係 第 217 号溝跡との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径 2.28 m、東西径 1.80 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 100cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.80m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 240cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は、深さ 190cm ほどの基本層序第Ⅻ層と基本層序第Ⅼ層の境付近からで、底面は基本層序第Ⅽ層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 10 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロック、粘土粒子を含み、不規則な堆積状況であることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 70 点 (皿 4、播鉢 14、内耳鍋 49、甕 2、風炉カ 1)、瓦質土器片 1 点 (播鉢) 陶器片 11 点 (天目茶碗 3、鉄絵皿 1、片口鉢 2、甕 5)、石器 13 点 (花崗岩製石臼 1、安山岩製石臼 1、雲母片岩製砥石 5、砂岩製砥石 3、凝灰岩製砥石 3)、石製品 3 点 (花崗岩製五輪塔 2、花崗岩製宝篋印塔 1)、雲母片岩片 2 点 (17.24g)、砂岩片 1 点 (73.98g)、凝灰岩片 1 点 (229.72g)、木製品 2 点 (箱物、木材)、鉄滓 2 点 (244.60g) が出土している。ほかに混入した土師器片 1 点、須恵器片 1 点が出土している。1 は南壁際の覆土上層、3～10 は中央部周辺の覆土中層、11・13・14 は中央部周辺の底面、15 は中央部周辺の覆土下層から、それぞれ出土している。

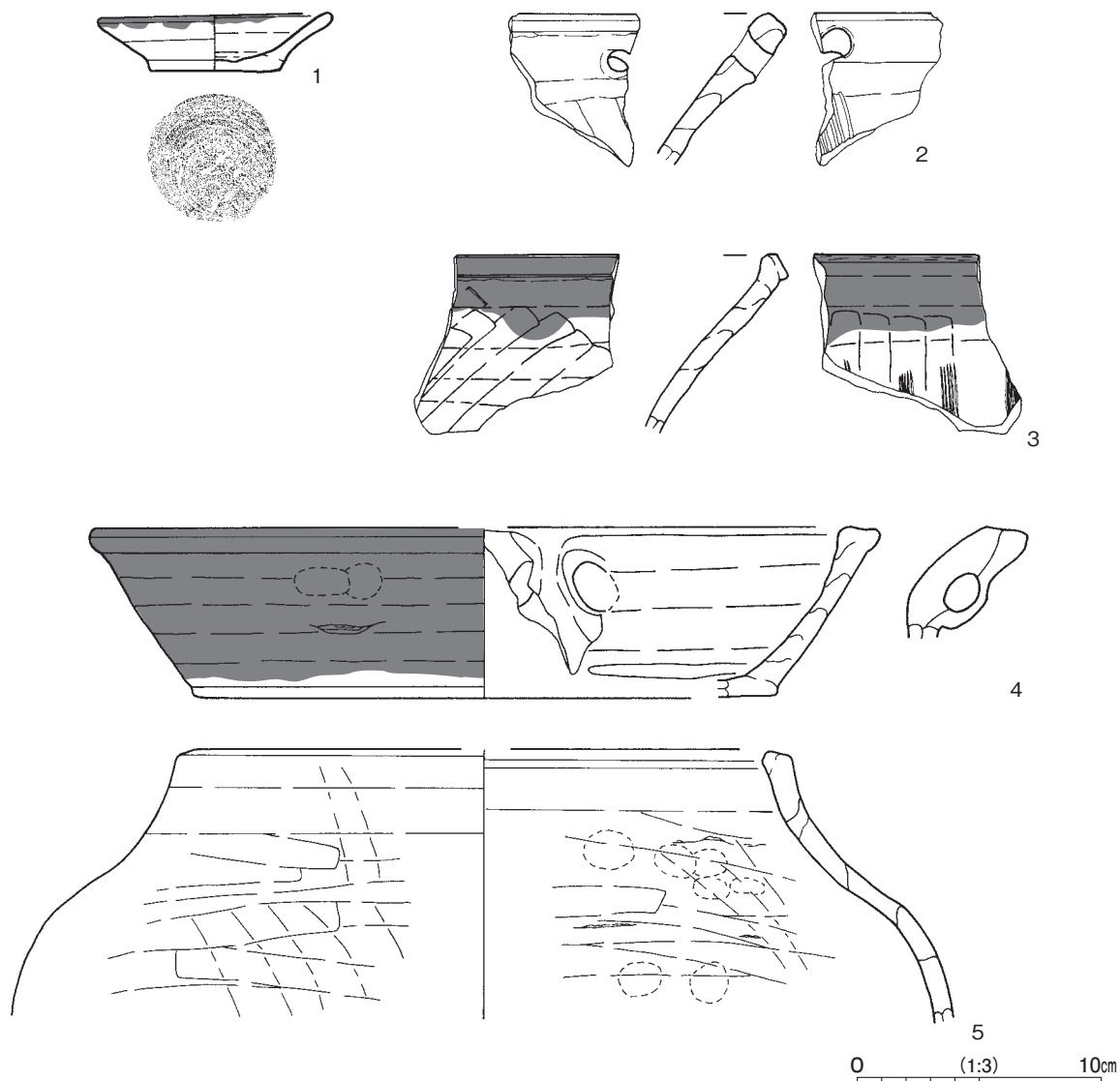
所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。



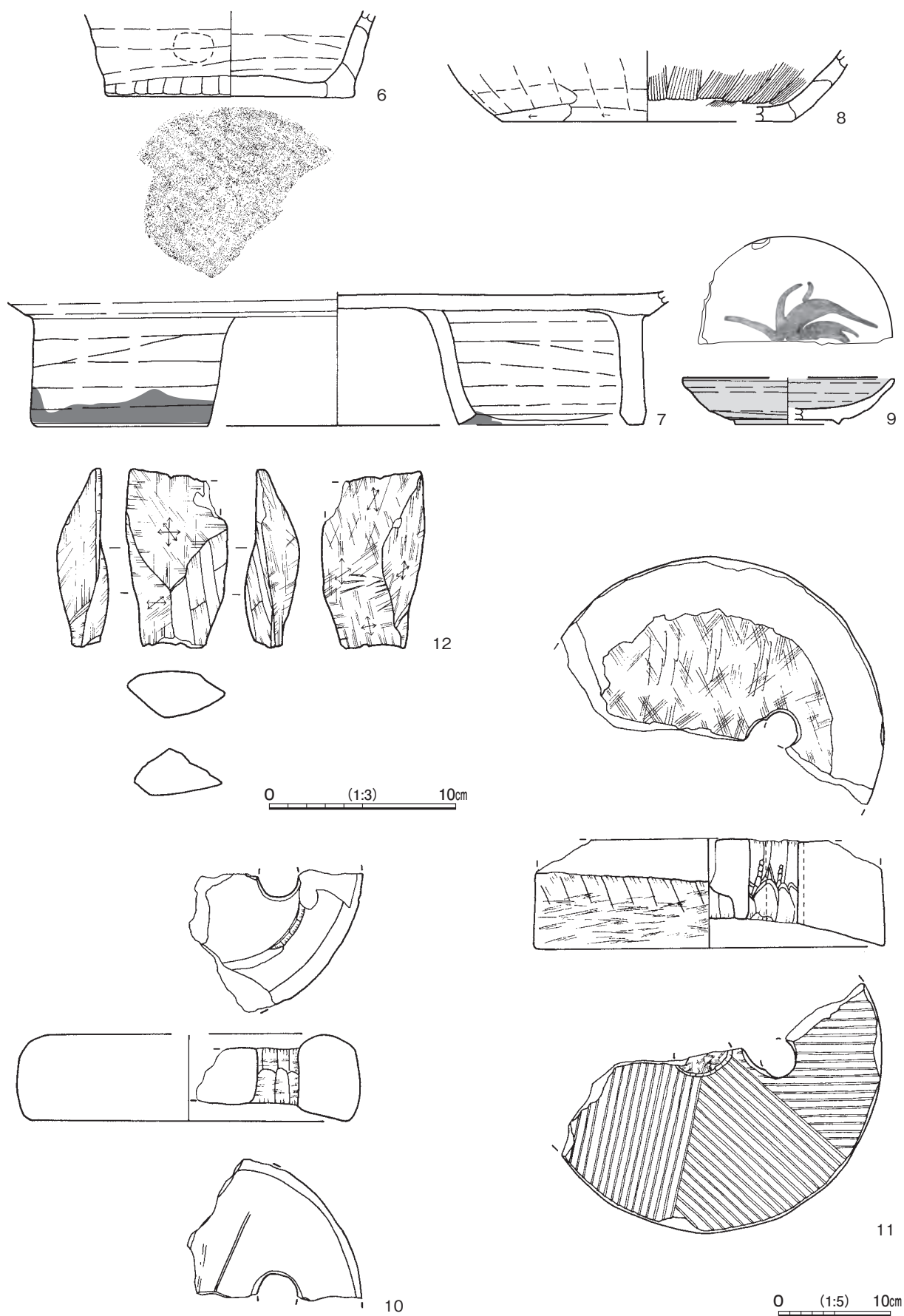
土層解説

- | | | | | | | | |
|---|----------|----|-------------------------------|----|----------|------|-----------------|
| 1 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム小C・粒C、白色粘土中D・小B、炭化粒C／粘B、締A | 6 | 7.5YR4/3 | 褐 | 粘土粒子D／粘A、締B |
| 2 | 7.5YR4/2 | 灰褐 | 白色粘土小B・粒B／粘A、締A | 7 | 7.5YR5/3 | にぶい褐 | 白色粘土小D・粒C／粘A、締A |
| 3 | 7.5YR4/3 | 褐 | 白色粘土粒D／粘B、締B | 8 | 7.5YR5/3 | にぶい褐 | 白色粘土小C・粒B／粘A、締A |
| 4 | 7.5YR4/3 | 灰褐 | 白色粘土中D・粒C／粘A、締B | 9 | 7.5YR5/2 | 灰褐 | 粘土粒子主体／粘A、締B |
| 5 | 7.5YR4/2 | 灰褐 | 白色粘土中C・粒C／粘A、締B | 10 | 7.5YR5/1 | 褐灰 | 粘土粒子主体／粘A、締B |

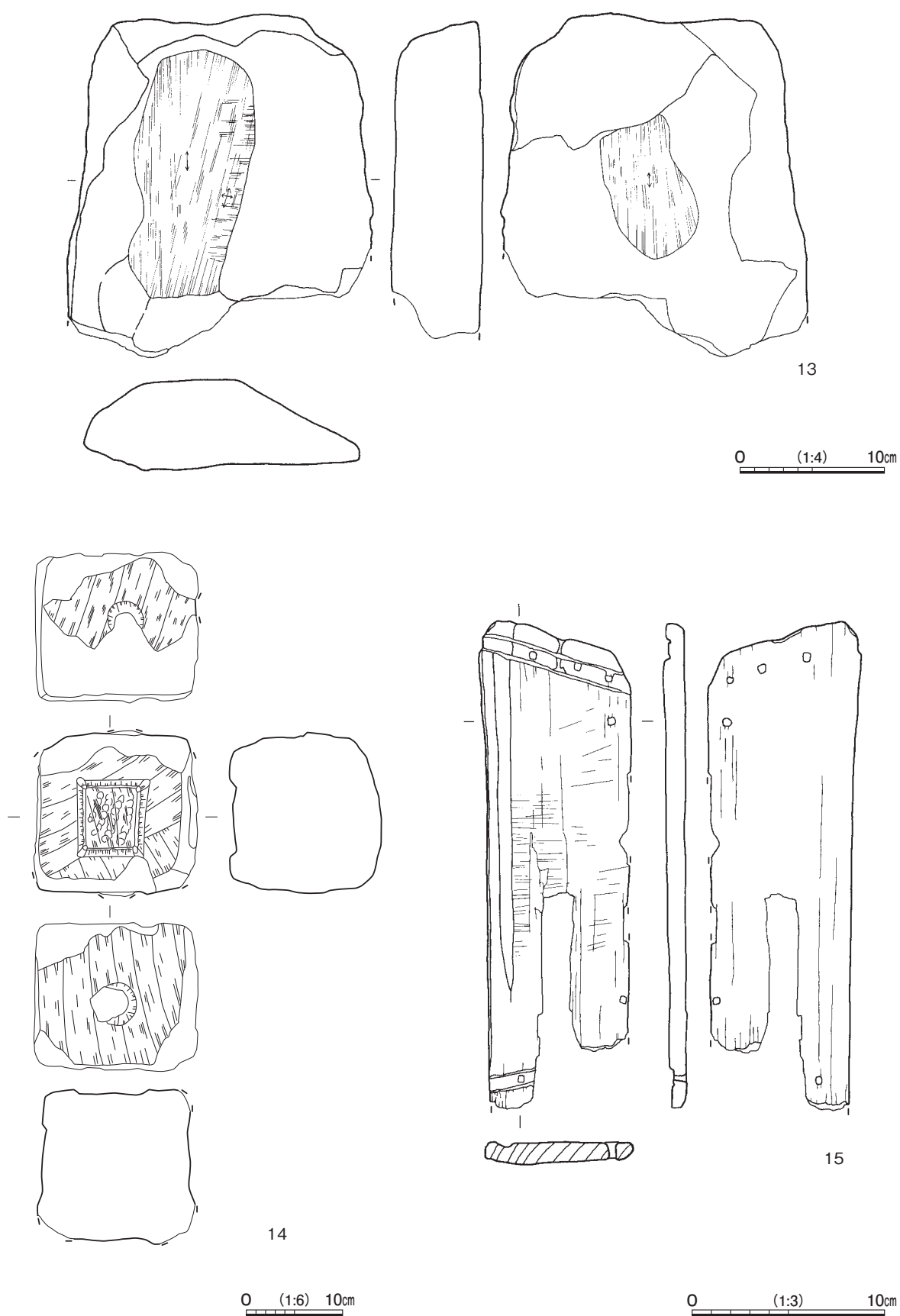
0 (1:60) 2m



第215図 第170号井戸跡・遺物実測図



第 216 図 第 170 号井戸跡出土遺物実測図(1)



第 217 図 第 170 号井戸跡出土遺物実測図(2)

第 130 表 第 170 号井戸跡出土遺物一覧（第 215 ～ 217 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	9.3	2.4	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	95% PL68 油煙付着
2	土師質土器	播鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ・内面からの穿孔 体部外面縦位ナデ 内面横位ナデ・櫛歯状工具による 5 条の播目	覆土	5 % PL68
3	土師質土器	播鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部内外面弱い縦位ナデ 内面櫛歯状工具による 5 条一単位の播目	覆土中層	5 % PL68 被熱痕 煤付着
4	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	6.9	[23.8]	長石・石英・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内面耳部貼付け 体部内外面横位ナデ 底部ナデ	覆土中層	10% 煤付着
5	土師質土器	甕	[23.2]	(11.0)	－	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・横位ナデ 内面縦・横位ナデ・指頭痕・輪積痕	覆土中層	20%
6	土師質土器	甕	－	(4.6)	13.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横・斜位ナデ・下端部縦位削り痕 内面横位ナデ・輪積痕 底部板目痕	覆土中層	5 % 被熱痕
7	土師質土器	風炉カ	－	(7.0)	[32.5]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端部ナデ 底部ナデ 脚部貼付け・横位ナデ・透かし部ヘラ切り	覆土中層	10% PL68 煤付着
8	瓦質土器	播鉢	－	(3.8)	[15.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面縦・横位ナデ 下端部削り 内面板状工具による 10 条一単位の播目	覆土中層	5 % PL68

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
9	陶器	鉄絵皿	[11.2]	2.4	[5.6]	緻密・淡黄	ロクロ成形 底面削り出し 長石釉 漬け掛け 内面鉄絵	長石釉 鉄釉	瀬戸・美濃	覆土中層	50% PL68

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
10	石臼	[30.8]	－	7.6	(1.67kg)	花崗岩	上臼 上面上縁部削り痕 窪部・側面劣化 下面播目残存・磨滅 供給孔両面方向からの穿孔・研磨痕・削り痕	覆土中層	PL69 被熱痕
11	石臼	[31.6]	－	9.7	(6.92kg)	安山岩	上臼 上面上縁部欠損 窪部・側面研磨痕・削り痕 下面 15 ～ 20 条の播目 軸孔・供給孔両側からの削り痕	底面	PL69
12	砥石	(9.6)	5.5	2.9	(121.40)	凝灰岩	砥面 2 面 表面多方向の研磨痕・削り痕 裏面多方向の研磨痕	覆土	PL68
13	砥石	(23.8)	21.2	6.4	(4.61kg)	雲母片岩	砥面 2 面 表面多方向の研磨痕 裏面一方向の研磨痕	底面	PL69
14	宝篋印塔	(17.2)	17.2	16.0	(9.29kg)	花崗岩	塔身部 上・下面中央部に突起部欠損・研磨痕・削り痕 側面一重の輪郭・研磨痕・削り痕	底面	PL69

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
15	箱物	25.4	8.0	1.1	－	－	柁目 内面ホゾ溝 2 条 穿孔 6 か所 竹釘 3 か所残存 線条痕 無数	覆土下層	PL68

第 172 号井戸跡（第 218 図 第 131 表 PL27・69）

位置 調査区 C 区中央部の 1 3 j9 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 161A・B 号堀に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北 1.74 m 東西径 0.88 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 110cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.00m、短径 0.88 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 296cm で、底面は円形を呈し、皿状である。湧水点は不明瞭で、底面は基本層序第Ⅸ層まで掘り込んでいる。

覆土 4 層を確認した。各層に白色粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（内耳鍋）、陶器片 1 点（卸目大皿）、石器 1 点（安山岩製石臼）が出土している。1 は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。

第 174 号井戸跡（第 219 図 第 132 表 PL28・69）

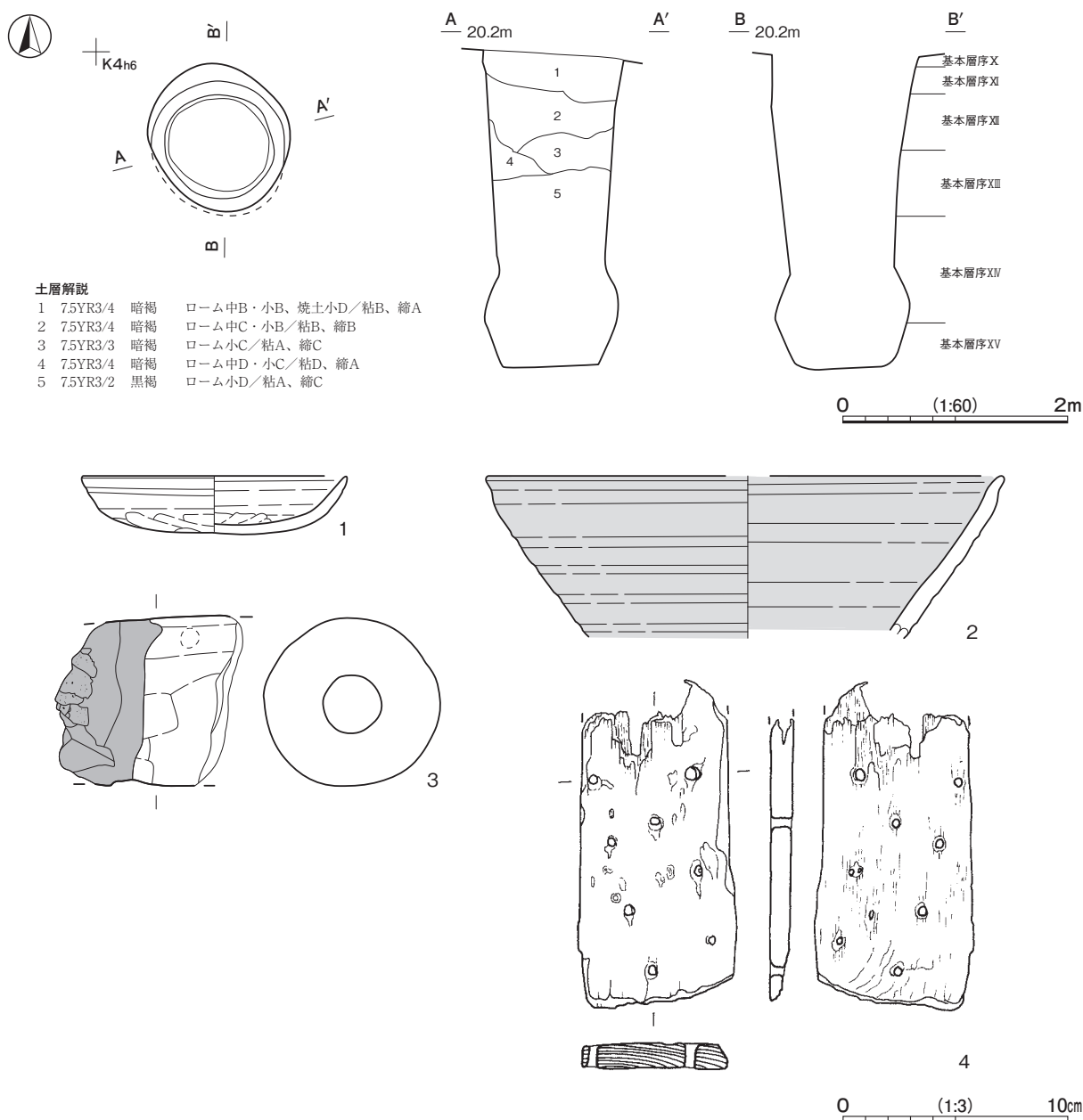
位置 調査区 C 区南東部の K 4h6 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長径 1.34 m、短径 1.30 m の円形で、断面形は円筒状である。重機を使用して断ち割り調査を実施した。壁の下部は、崩落のため全面が抉れている。確認面からの深さは 280cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は不明瞭で、底面は基本層序第 XV 層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 5 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 3 点（皿）、陶器片 1 点（鉢）、土製品 1 点（羽口）、木製品 1 点（不明品）、木製品 1 点（不明品）が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。2 は 15 世紀前半の平碗であることから、混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 219 図 第 174 号井戸跡・出土遺物実測図

第 132 表 第 174 号井戸跡出土遺物一覧（第 219 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	11.7	2.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 口縁部外面沈線 1 条 体部内外面横位ナデ 底部ナデ	覆土	100% PL69

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
2	陶器	鉢	[23.0]	(7.7)	－	緻密・灰白	ロクロ成形 漬け掛け	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	10% PL69

番号	器 種	長さ	径	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
3	羽口	(8.4)	7.6	2.6	(386.94)	長石・石英・雲母	にぶい橙	先端部磨減・欠損 残存部溶解ガラス化 体部ナデ	覆土	PL69

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
4	不明品	(12.5)	7.1	1.1	－	－	板目 板状に加工 穿孔 7 か所	覆土	

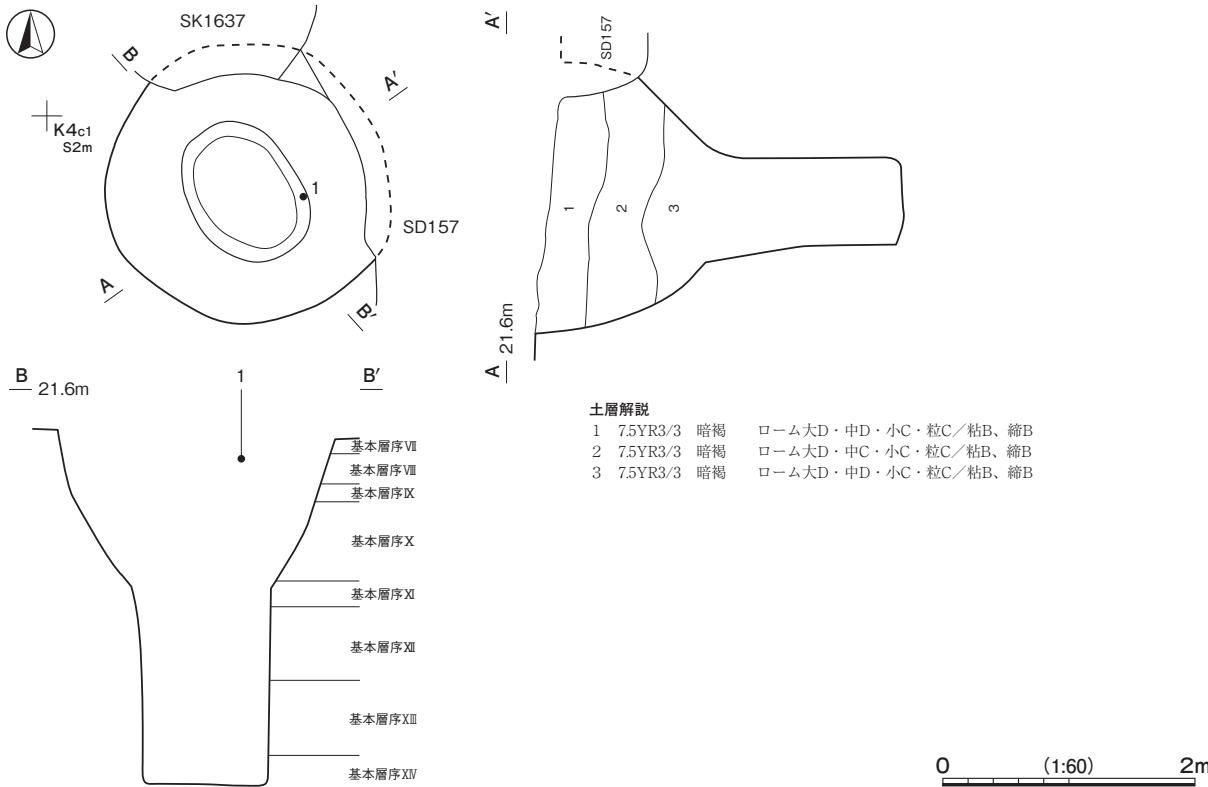
第 176 号井戸跡（第 220・221 図 第 133 表 PL29・69）

位置 調査区 C 区南東部の K 4 c1 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 157 号溝に掘り込まれている。第 1637 号土坑との関係は、不明である。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は長径 2.26 m、短径 2.00 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、壁は確認面から 150cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.40m、短径 0.88 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 290cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は不明瞭で、底面は基本層序第 XIV 層まで掘り込んでいる。

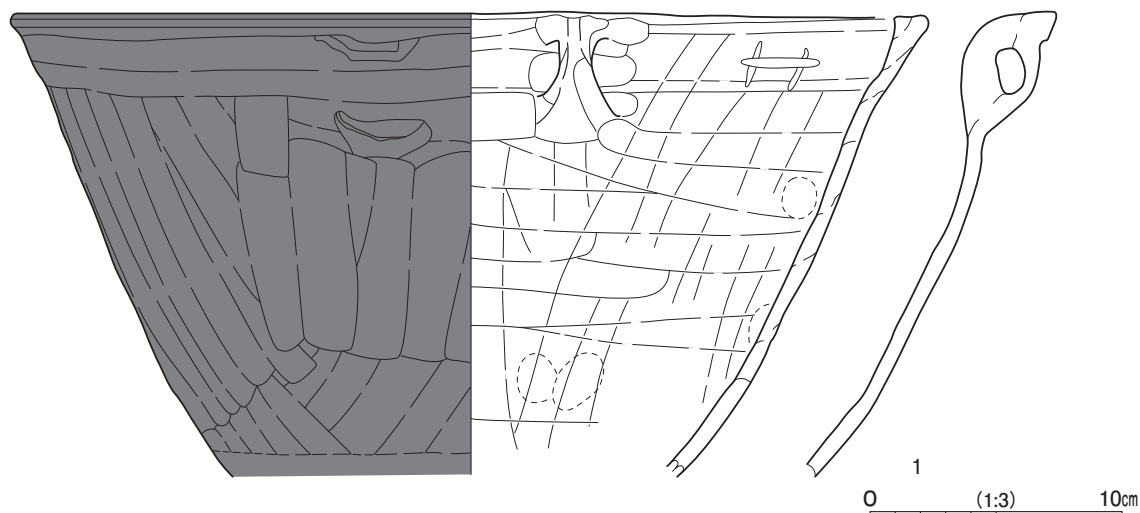
覆土 3 層を確認した。各層にロームブロックを含み、層厚のあるほぼ水平な堆積状況から人為堆積である。



第 220 図 第 176 号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片 17 点（内耳鍋）が出土している。1 は、中央部南東寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 221 図 第 176 号井戸跡出土遺物実測図

第 133 表 第 176 号井戸跡出土遺物一覧（第 22 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	36.0	(18.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ・耳部貼付・内面ヘラ記号 体部外面縦位ナデ 内面縦・横位ナデ・指頭痕	覆土上層	80% PL69 煤付着

第 181 号井戸跡（第 222 図 第 134 表 PL28・70）

位置 調査区 C 区南東部の J 5 fl 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

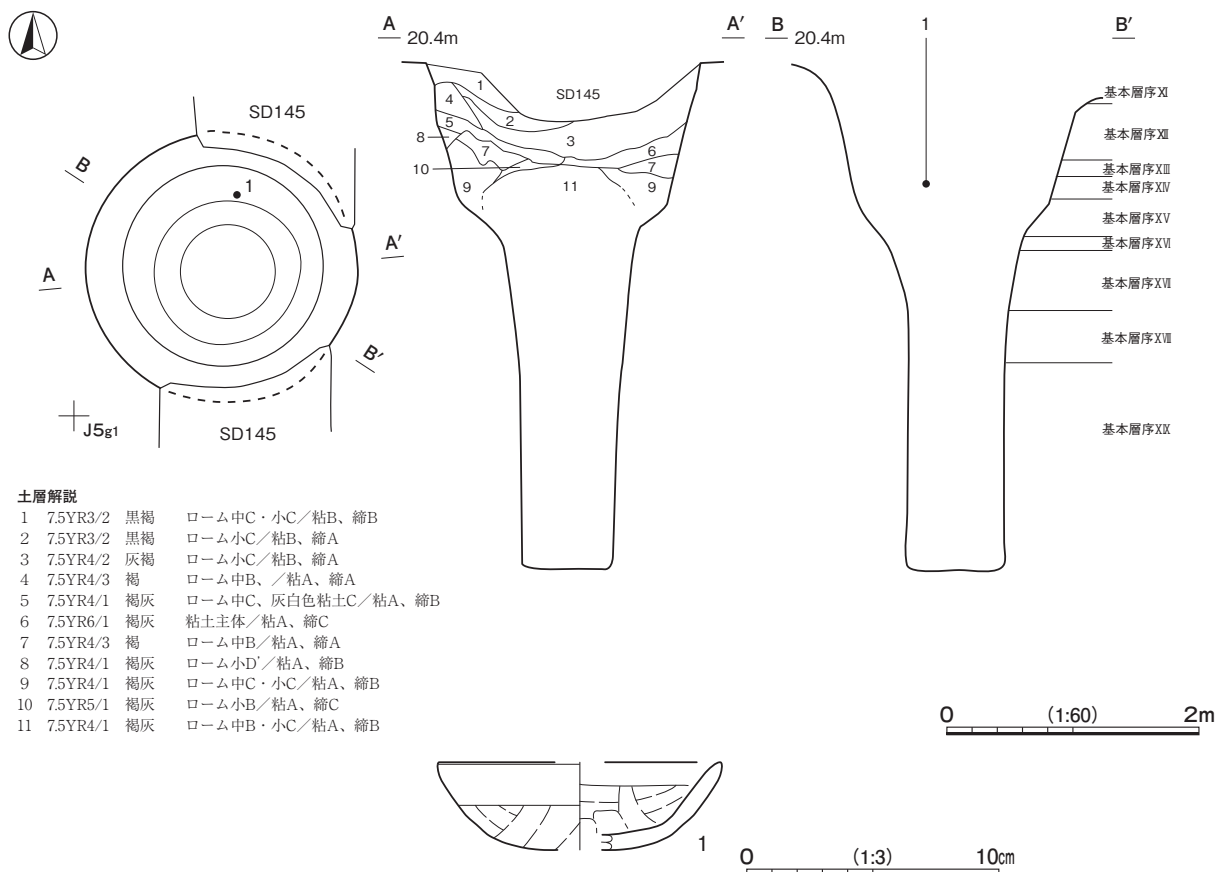
重複関係 第 145 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認した規模は南北径 1.90 m、東西径 2.13 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 130cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.16 m、短径 1.12m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。確認面からの深さは 381cm で、底面は円形を呈し、平坦である。湧水点は不明瞭で、底面は基本層序第 XIX 層の途中まで掘り込んでいる。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロック、粘土を含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）が出土している。ほかに混入した須恵器片 1 点が出土している。1 は中央部北寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 222 図 第 181 号井戸跡・出土遺物実測図

第 134 表 第 181 号井戸跡出土遺物一覧（第 222 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[11.2]	3.5	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部ナデ	覆土中層	30% PL70

第 182 号井戸跡（第 223 図 第 135 表 PL70）

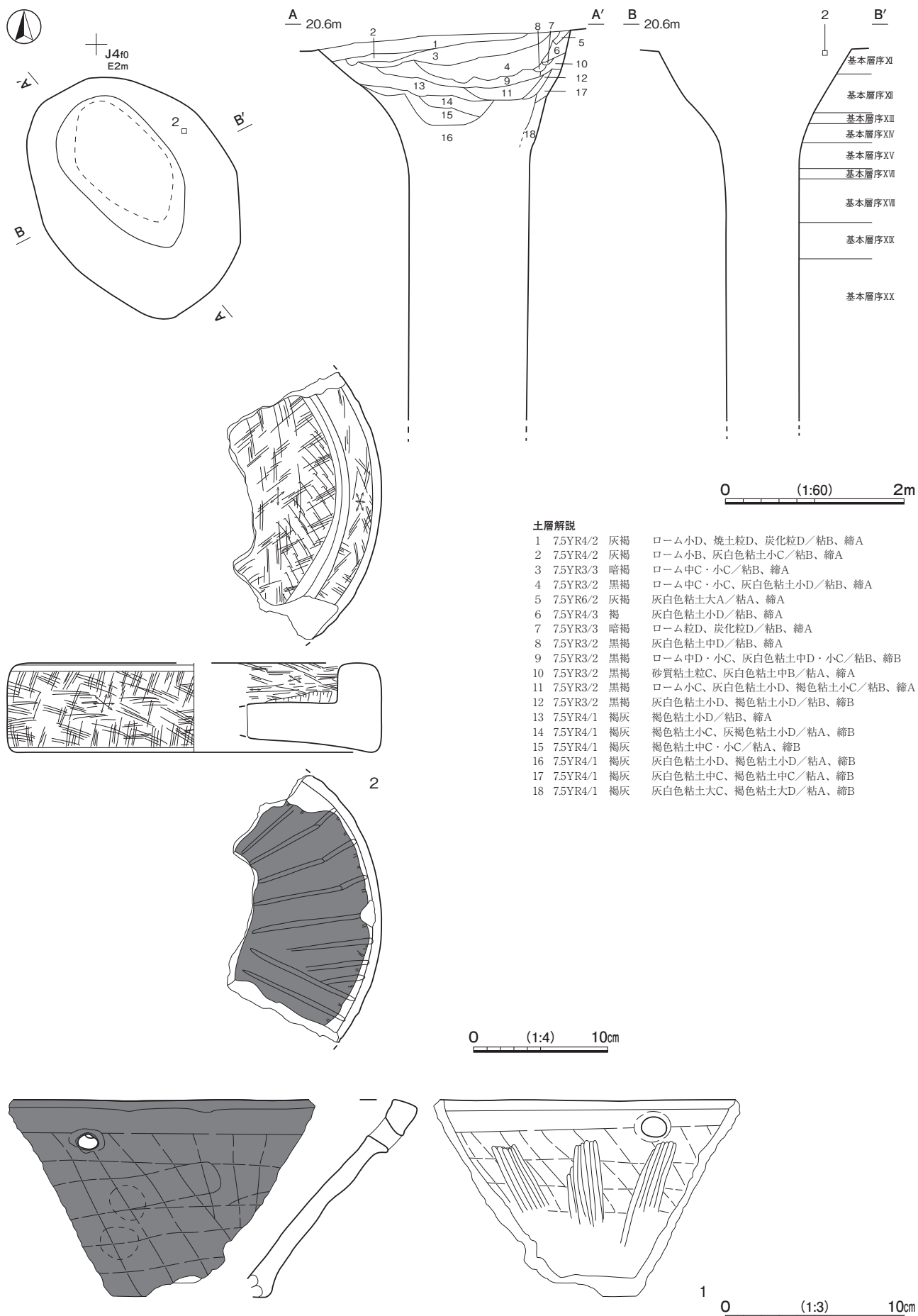
位置 調査区 C 区南東部の J 4 f0 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 2.80 m、短径 2.16 m の楕円形で、長径方向は N - 40° - W である。断面形は漏斗状で、確認面から 120cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 1.86 m、短径 1.06m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して断ち割り調査を実施した。底面を確認できなかったため、確認面から 428cm までの調査とした。

覆土 18 層を確認した。各層にロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 2 点（播鉢、内耳鍋）、石器 1 点（安山岩製石臼）、雲母片岩片 1 点（5.77g）、斑れい岩片 1 点（9.98g）、木片 1 点が出土している。2 は、北東壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 223 図 第 182 号井戸跡・出土遺物実測図

第 135 表 第 182 号井戸跡出土遺物一覧（第 223 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	播鉢	－	[11.0]	－	長石・石英・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内面からの穿孔 体部内外面横・斜位ナデ 内面板状工具による 6 条一単位の播目	覆土	10% PL70 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	石臼	[28.0]	－	6.7	(1.26kg)	安山岩	上臼 上面上縁部・窪部研磨痕・削り痕 側面研磨痕 下面 10 条の播目	覆土上層	PL70 被熱痕・煤付着

第 194 号井戸跡（第 224 図 第 136 表 PL28）

位置 調査区 C 区南西部の J 2h4 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

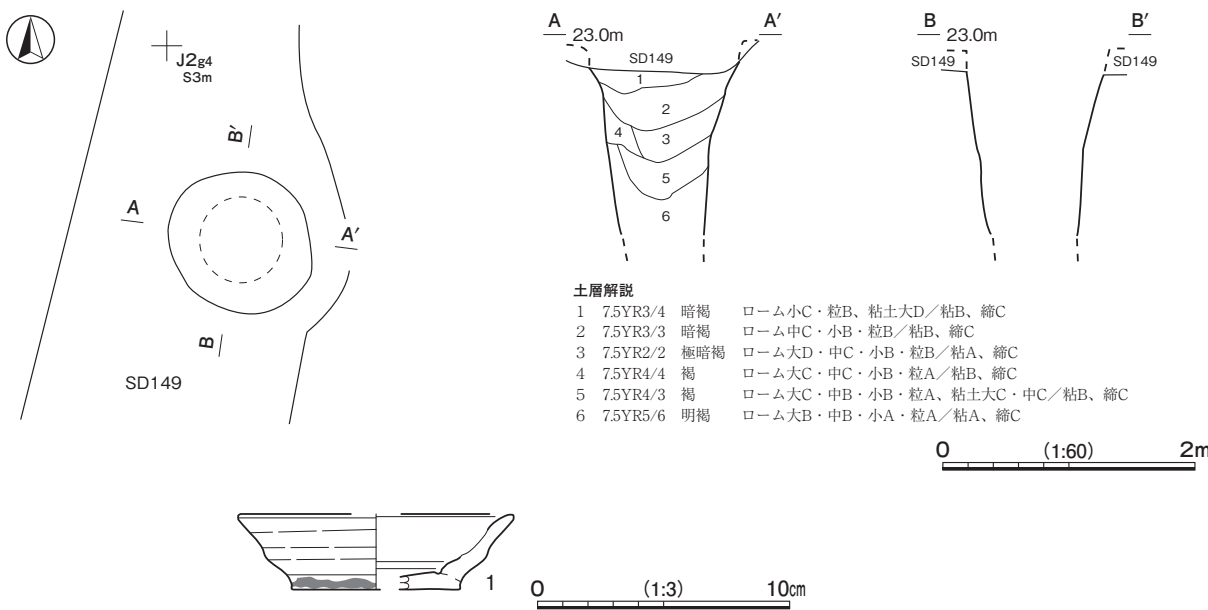
重複関係 第 149 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は長径 1.20 m、短径 1.10 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は円筒状である。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 130cm までの調査とした。

覆土 6 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 3 点（皿 2、内耳鍋 1）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、150cm 以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第 224 図 第 194 号井戸跡・出土遺物実測図

第 136 表 第 194 号井戸跡出土遺物一覧（第 224 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[11.6]	3.0	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り・ナデ	覆土	30% 被熱痕・煤付着

第 198 号井戸跡（第 225 図 第 137 表 PL28・70）

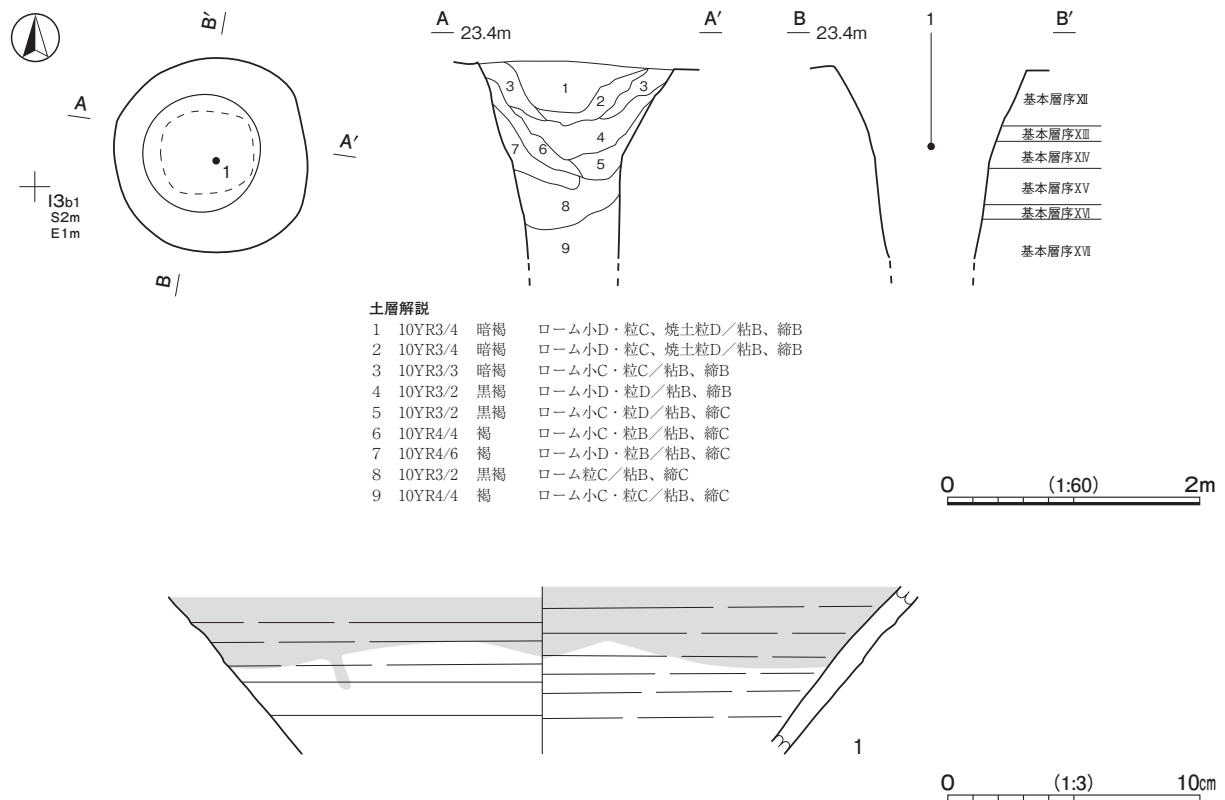
位置 調査区 C 区中央部の I 3 b1 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.60 m、短径 1.57 m の円形である。断面形は漏斗状で、確認面から 70cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 0.92 m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 157cm までの調査とした。

覆土 9 層を確認した。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 陶器片 1 点（直縁大皿カ）が中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。掘削底面からボーリングステッキで深さを確認したところ、150cm 以上の深さを確認したため、井戸跡と判断した。



第 225 図 第 198 号井戸跡・出土遺物実測図

第 137 表 第 198 号井戸跡出土遺物一覧（第 225 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	直縁大皿カ	—	(6.6)	—	緻密・浅黄橙	ロクロ成形 漬け掛け	灰釉	瀬戸・美濃	覆土上層	10% PL70

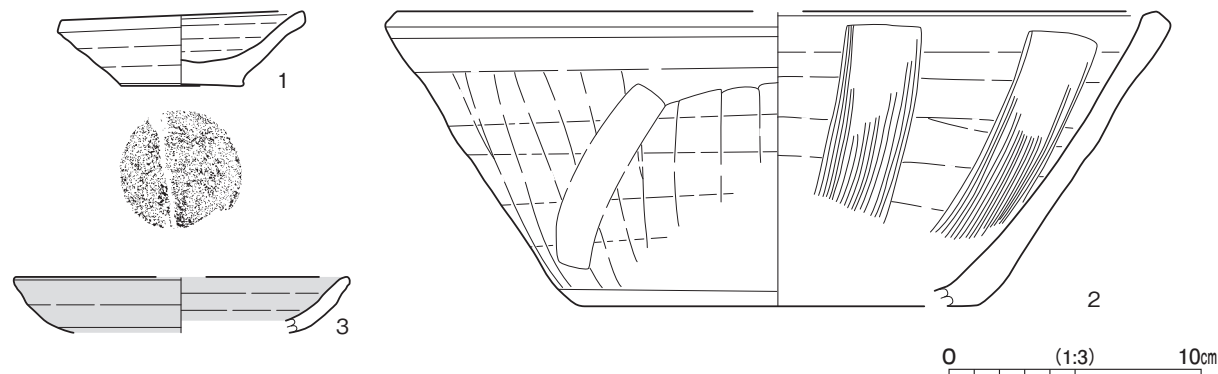
位置 調査区D区東部のI5a7区、標高20 mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 重複していることから、確認できた規模は南北径 1.42 m、東西径 1.26 m である。平面形は円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 110cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は長径 0.92 m、短径 0.86 m の円筒状に掘り込んでいる。重機を使用して安全に断ち割り調査を実施したが、確認面から 253cm までの調査とした。湧水点は不明である。

遺物出土状況 土師質土器片7点（皿2、播鉢1、内耳鍋4）、瓦質土器片1点（播鉢）、陶器片1点（志野丸皿）、土製品1点（羽口）、椀状滓1点（52.41g）が出土している。2は中央部南西よりの覆土上層から出土している。

Figure 1 consists of a plan view map on the left and a stratigraphic column on the right. The plan view map shows a circular feature labeled SK2777 with a dashed line indicating a boundary. A point labeled '2' is marked within this feature. A scale bar of 20.0m is shown. The stratigraphic column on the right shows a sequence of units numbered 1 to 15, with a scale bar of 20.0m. The units are labeled with '基本層序X' to '基本層序XX'. A north arrow is located in the top left corner.

1	25Y7/3	浅黄	烧土中D・小C・粒C、炭化物D、浅黄色粘土小B、灰白色粘土小C/粘A、締A
2	25Y6/1	黄灰	烧土小D、炭化物D、浅黄色粘土小B、灰白色粘土小A/粘A、締A
3	25Y2/1	黑灰	炭化粒B、白色粒C/粘A、締C
4	25Y5/1	黄灰	烧土粒D、炭化物C、浅黄色粘土中C、灰白色粘土A/粘A、締C
5	25Y6/4	黄灰	烧土粒D、炭化物D、浅黄色粘土小C、灰白色粘土小B/粘A、締C
6	25Y5/1	黄灰	烧土粒D、炭化物D、浅黄色粘土大D、灰白色粘土A/粘A、締C
7	25Y5/4	黄褐	烧土粒D、浅黄色粘土小B/粘A、締B
8	25Y5/6	黄褐	炭化物D、浅黄色粘土小B、灰白色粘土小C/粘A、締B
9	25Y4/3	黄褐	炭化物D、灰白色粘土A/粘A、締C
10	25Y4/1	黄褐	烧土粒D、炭化物C、浅黄色粘土大D、灰白色粘土A/粘A、締B
11	25Y7/1	灰白	烧土粒D、炭化物D、浅黄色粘土中C・小C、灰白色粘土小B/粘A、締B
12	25Y7/2	灰黄	烧土粒D、炭化物D、浅黄色粘土中C・小C、灰白色粘土小B/粘A、締C
13	25Y5/1	黄灰	炭化物D、浅黄色粘土大D、灰白色粘土B/粘A、締C
14	25Y5/3	黄褐	烧土小D、炭化物C、浅黄色粘土中B、灰白色粘土B/粘A、締C
15	25Y4/2	暗灰黄	烧土小D、炭化物C、浅黄色粘土大D、灰白色粘土A/粘A、締C



– 246 –

第 138 表 第 210 号井戸跡出土遺物一覧（第 226 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	9.6	3.0	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向のナデ	覆土	70% PL70
2	土師質土器	播鉢	[30.2]	11.7	[16.0]	長石・石英・金雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ・板状工具による 9 条一単位の播目	覆土上層	10% PL70 口縁部研磨痕

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	志野丸皿	[13.2]	(2.2)	－	緻密・にぶい橙	ロクロ成形 漬け掛け 体部外面下 端部削り出し	長石釉	瀬戸・美濃	覆土	5% PL70

第 212 号井戸跡（第 227 図 第 139 表 PL70）

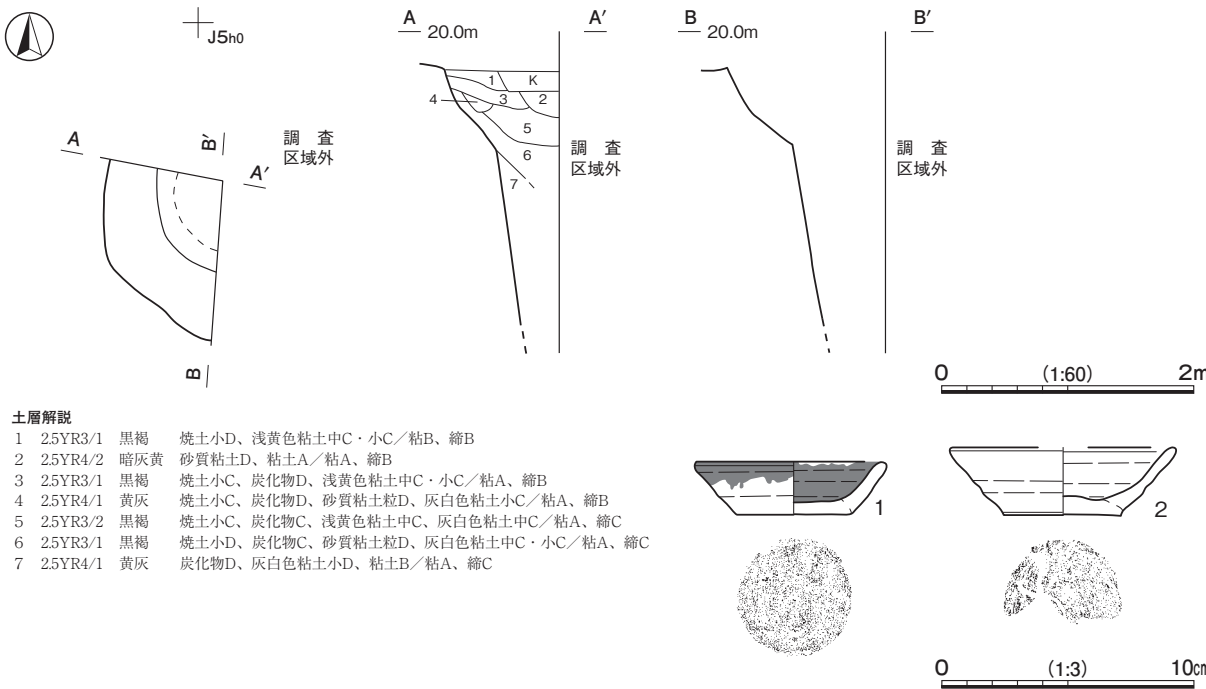
位置 調査区 D 区東部の I 5h9 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 調査区域外に延びていることから、確認できた規模は南北径 1.26 m、東西径 0.91 m である。平面形は円形もしくは楕円形と推定できる。断面形は漏斗状で、確認面から 60cm までは逆円錐状に掘り込み、以下は径 1.40 m の円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面からの深さは 200cm までの調査とした。

覆土 7 層を確認した。各層に粘土ブロックや粘土を含み、不規則な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 14 点（皿 10、鉢 4）が出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後半と考えられる。



第 227 図 第 212 号井戸跡・出土遺物実測図

第 139 表 第 212 号井戸跡出土遺物一覧（第 227 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	7.4	2.1	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部一方向のナデ	覆土	100% PL70 煤付着
2	土師質土器	皿	[8.8]	2.7	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部一方向のナデ	覆土	50% PL70

第 224 号井戸跡（第 228 図 第 140 表 PL70）

位置 調査区 C 区南西部の J 2 d9 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

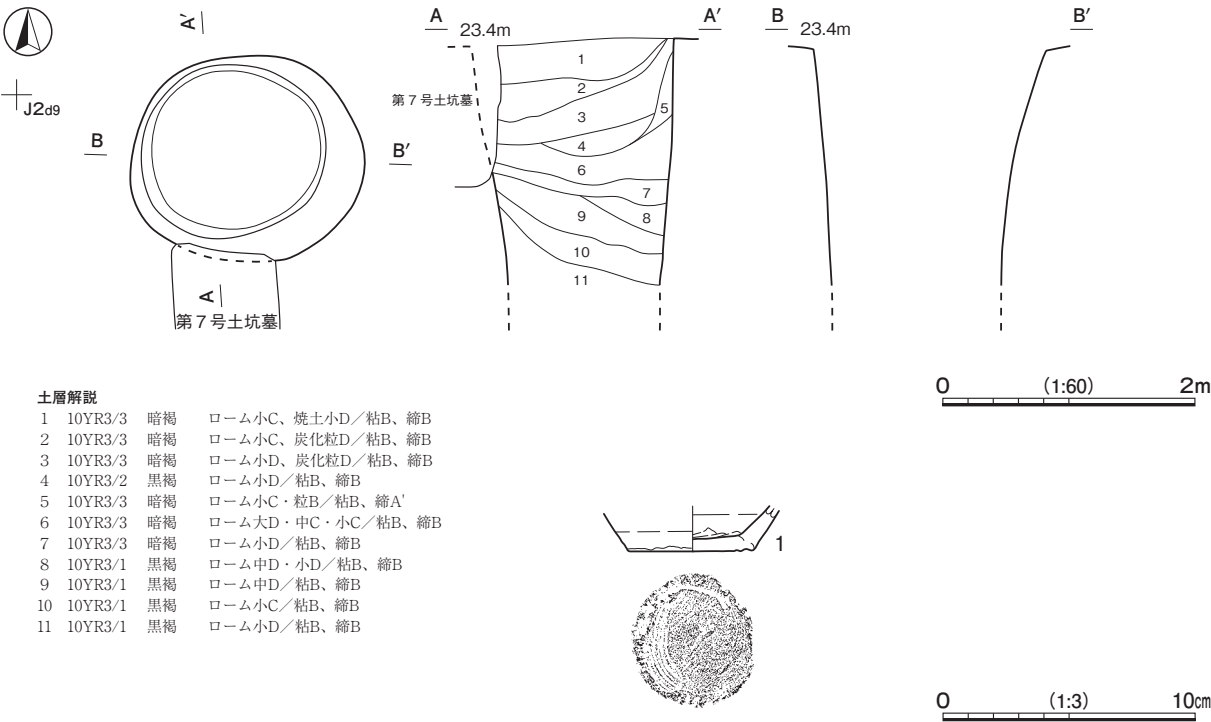
重複関係 第 7 号土坑墓に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.84 m、短径 1.62 m の円形で、円筒状に掘り込んでいる。湧水と崩落の恐れがあったため、確認面から 192cm までの調査とした。

覆土 11 層を確認した。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）が出土している。

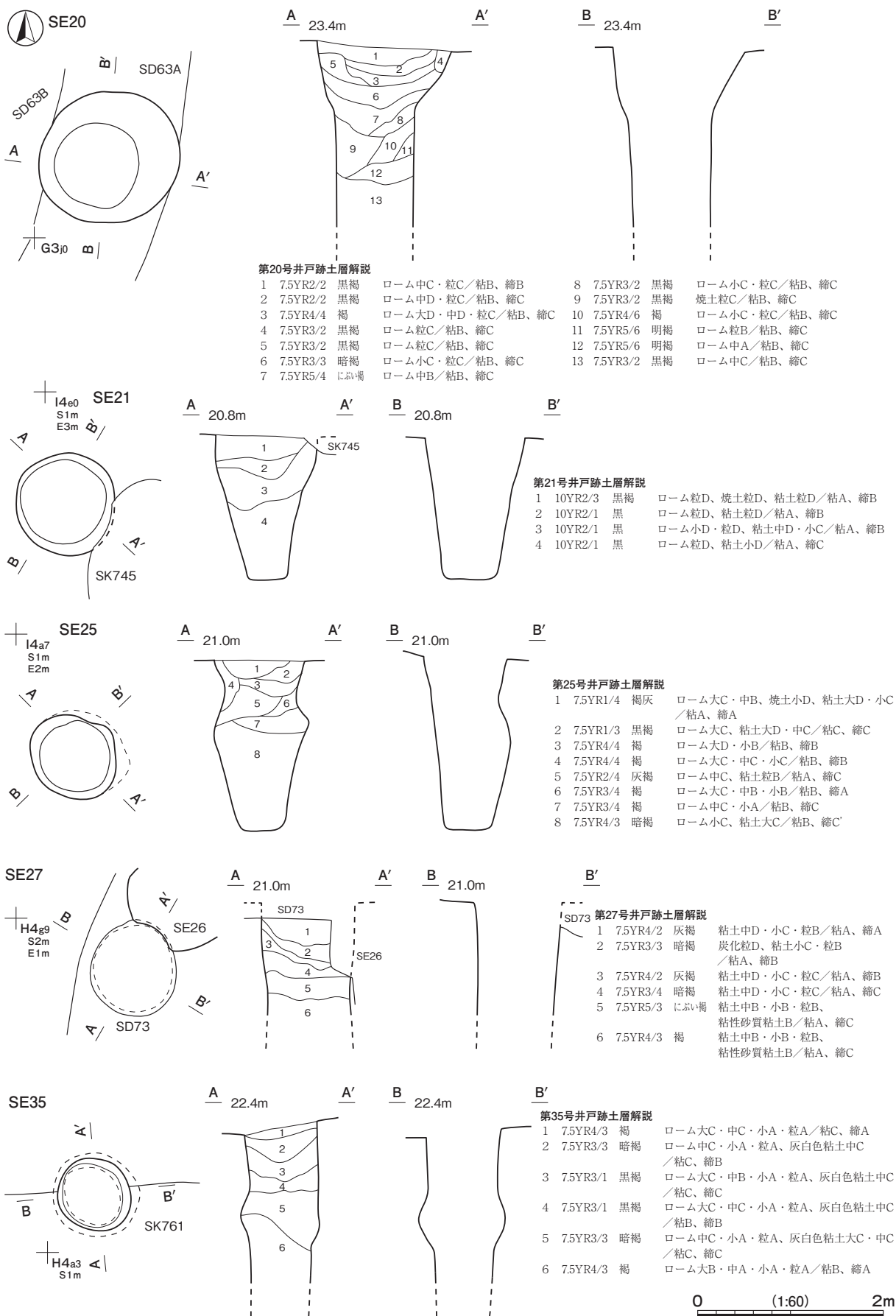
所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



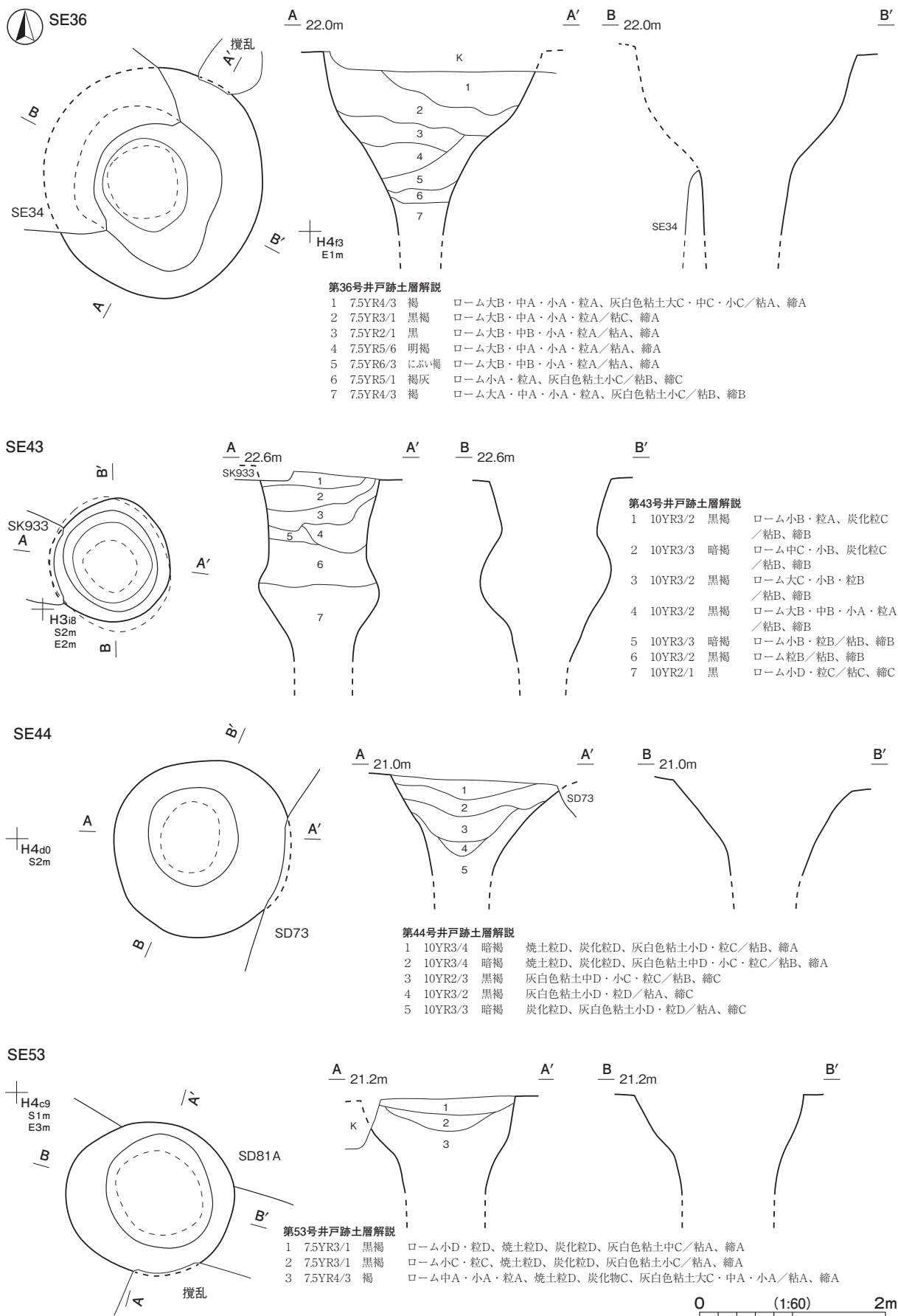
第 228 図 第 224 号井戸跡・出土遺物実測図

第 140 表 第 224 号井戸跡出土遺物一覧（第 228 図）

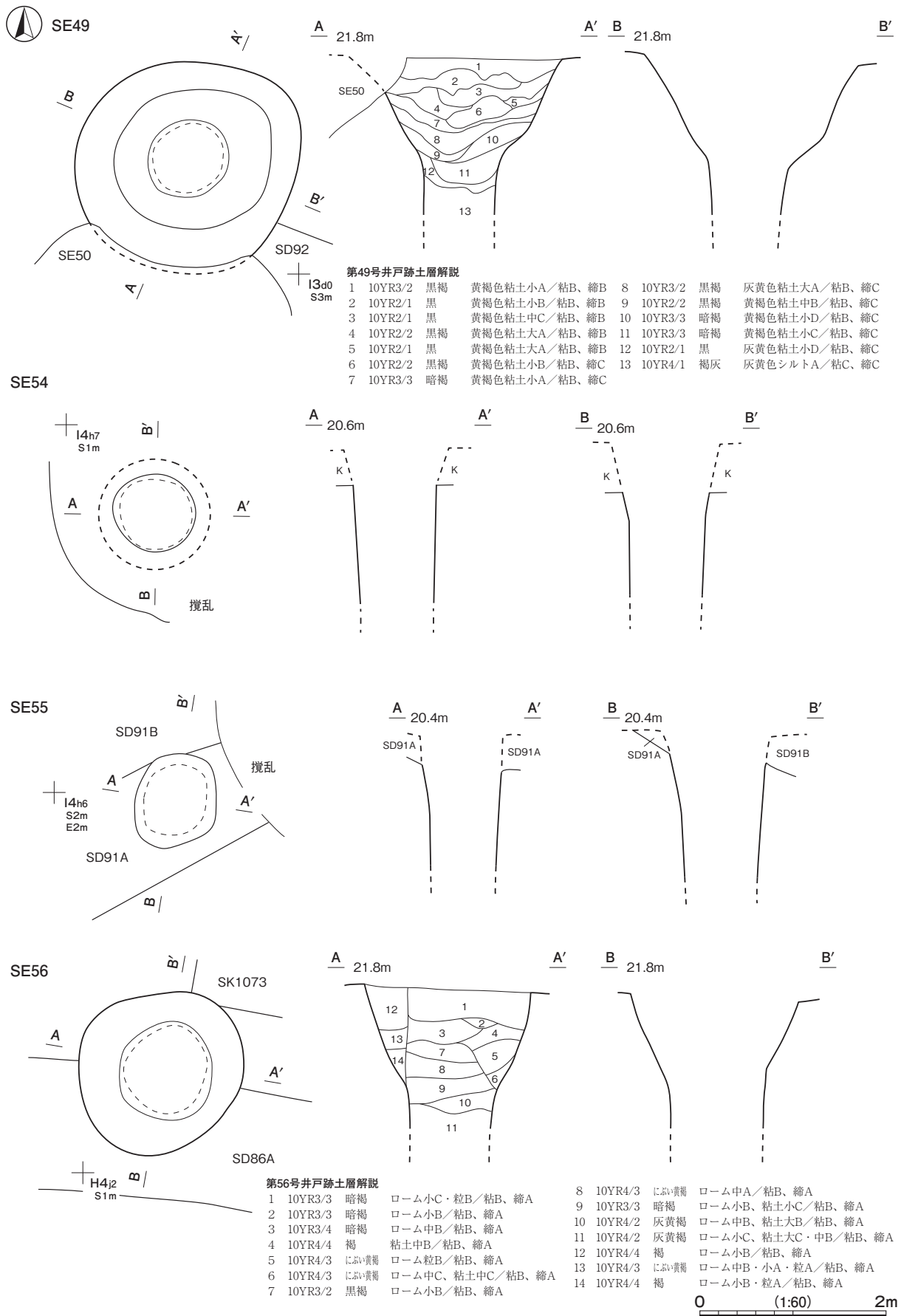
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	—	(1.8)	4.9	長石	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り・一方向のナデ 内面ナデ	覆土	50% PL70



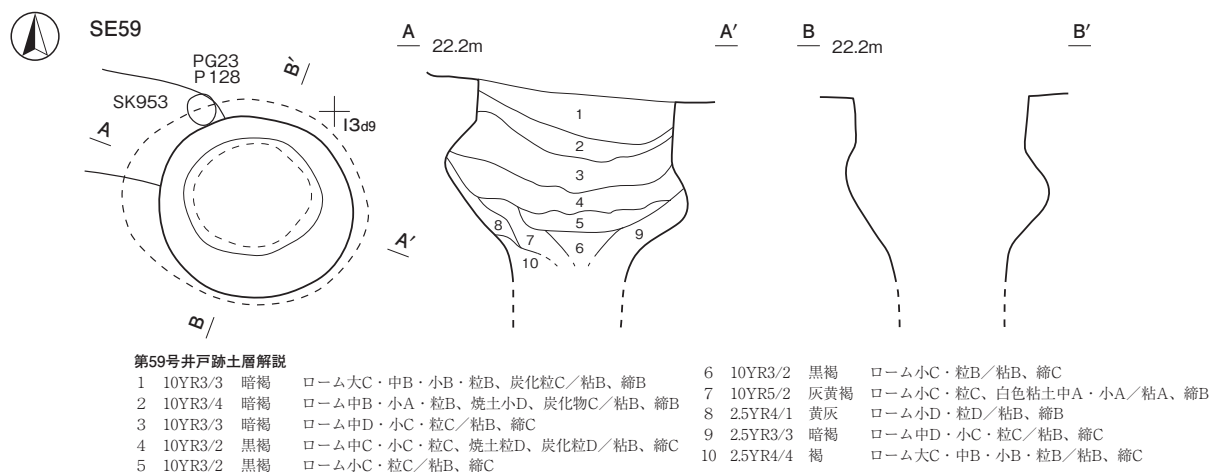
第 229 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (1)



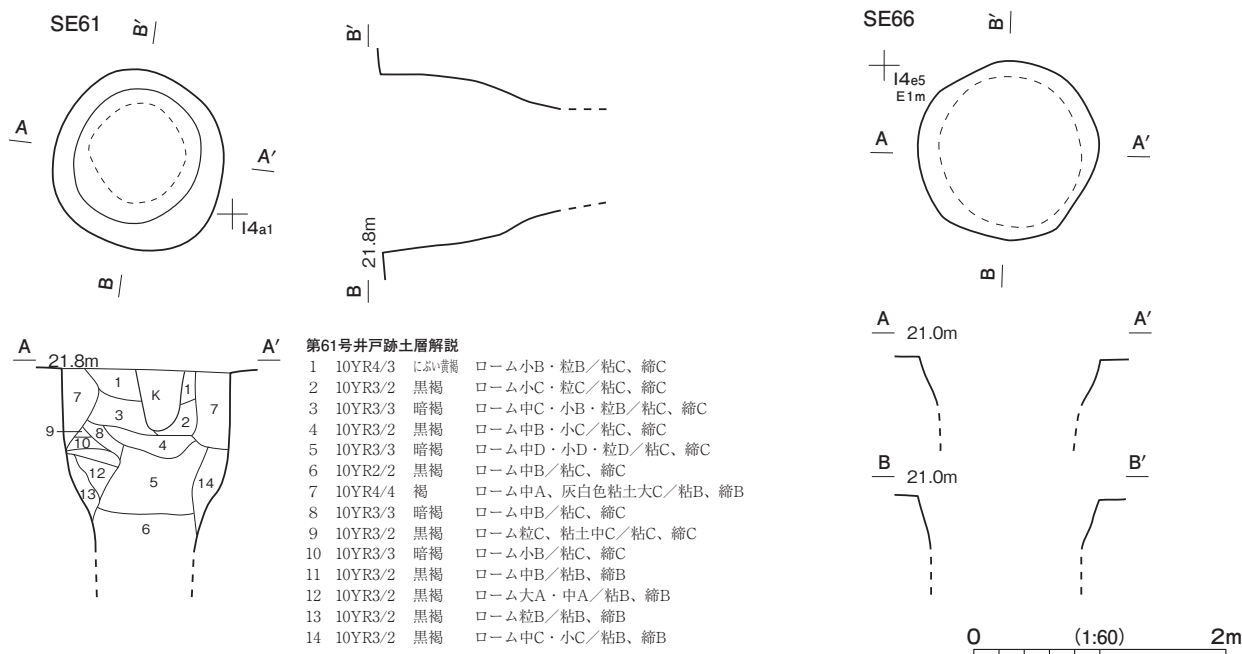
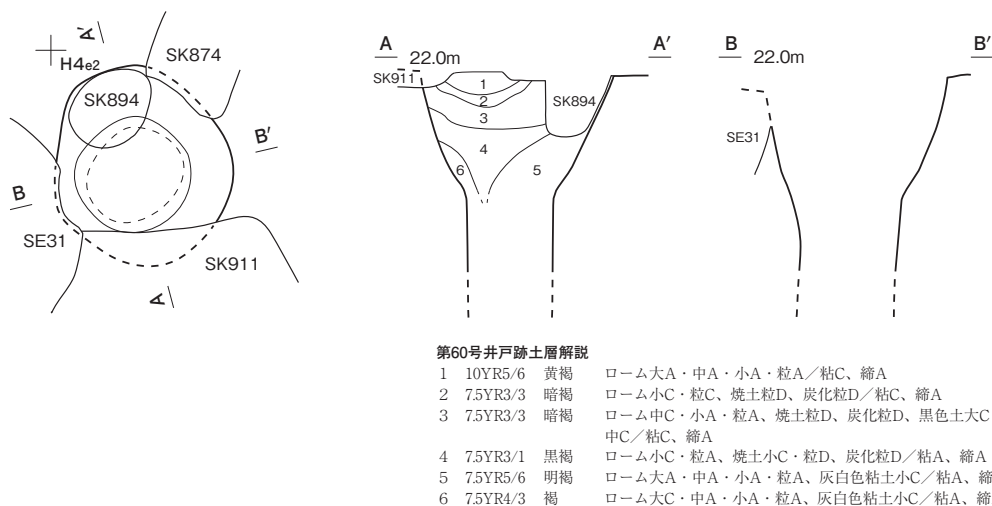
第 230 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (2)



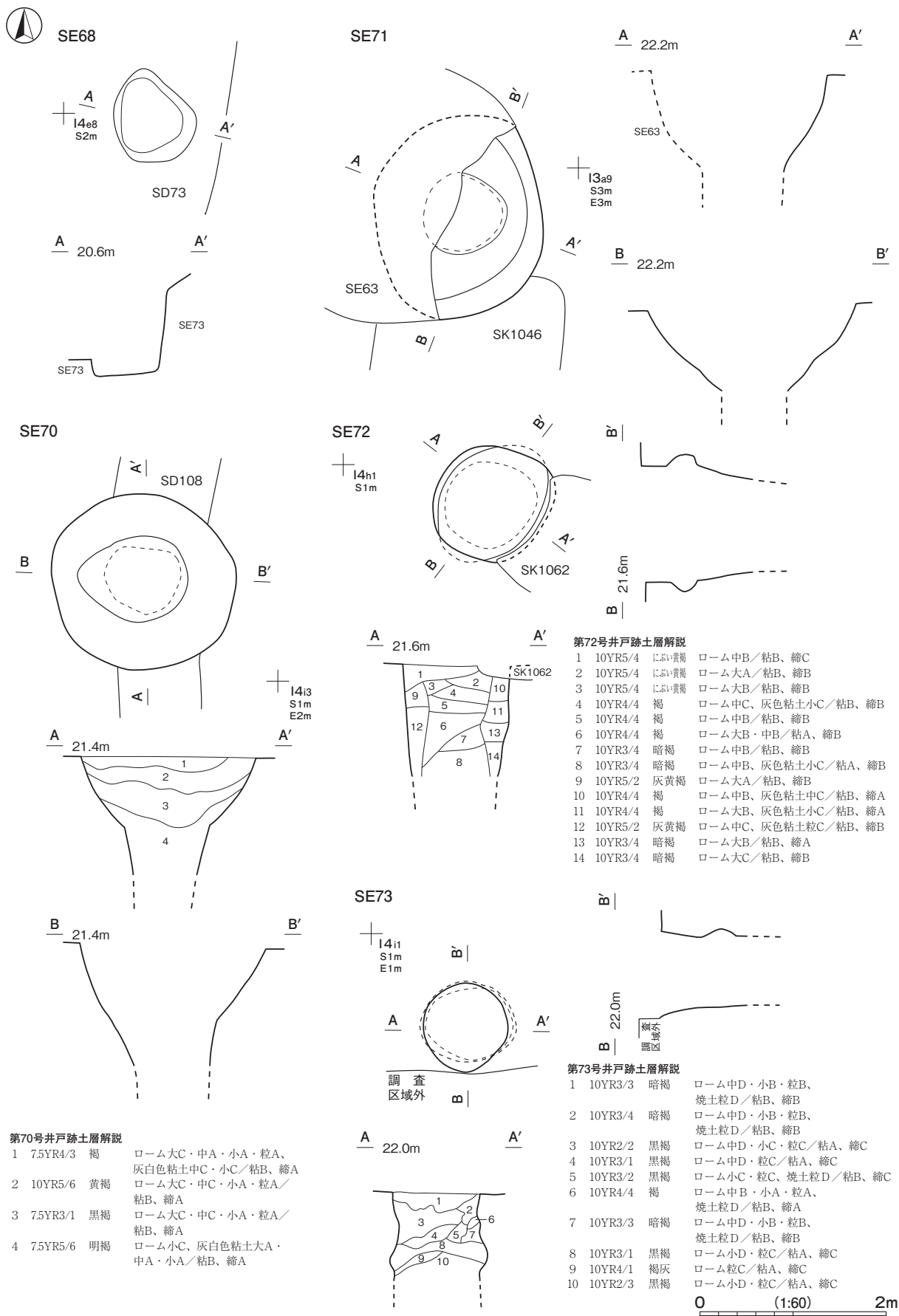
第 231 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (3)



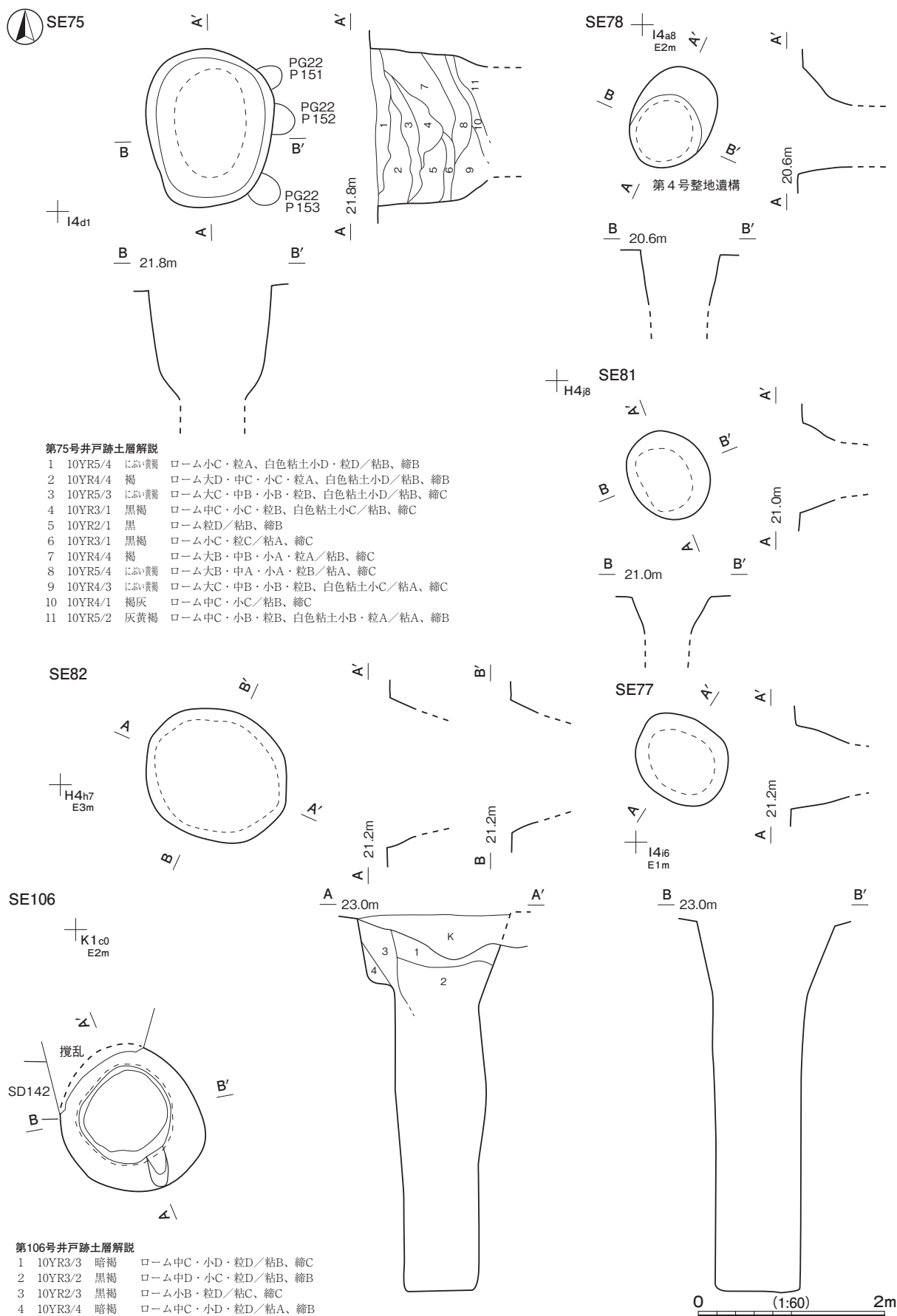
SE60



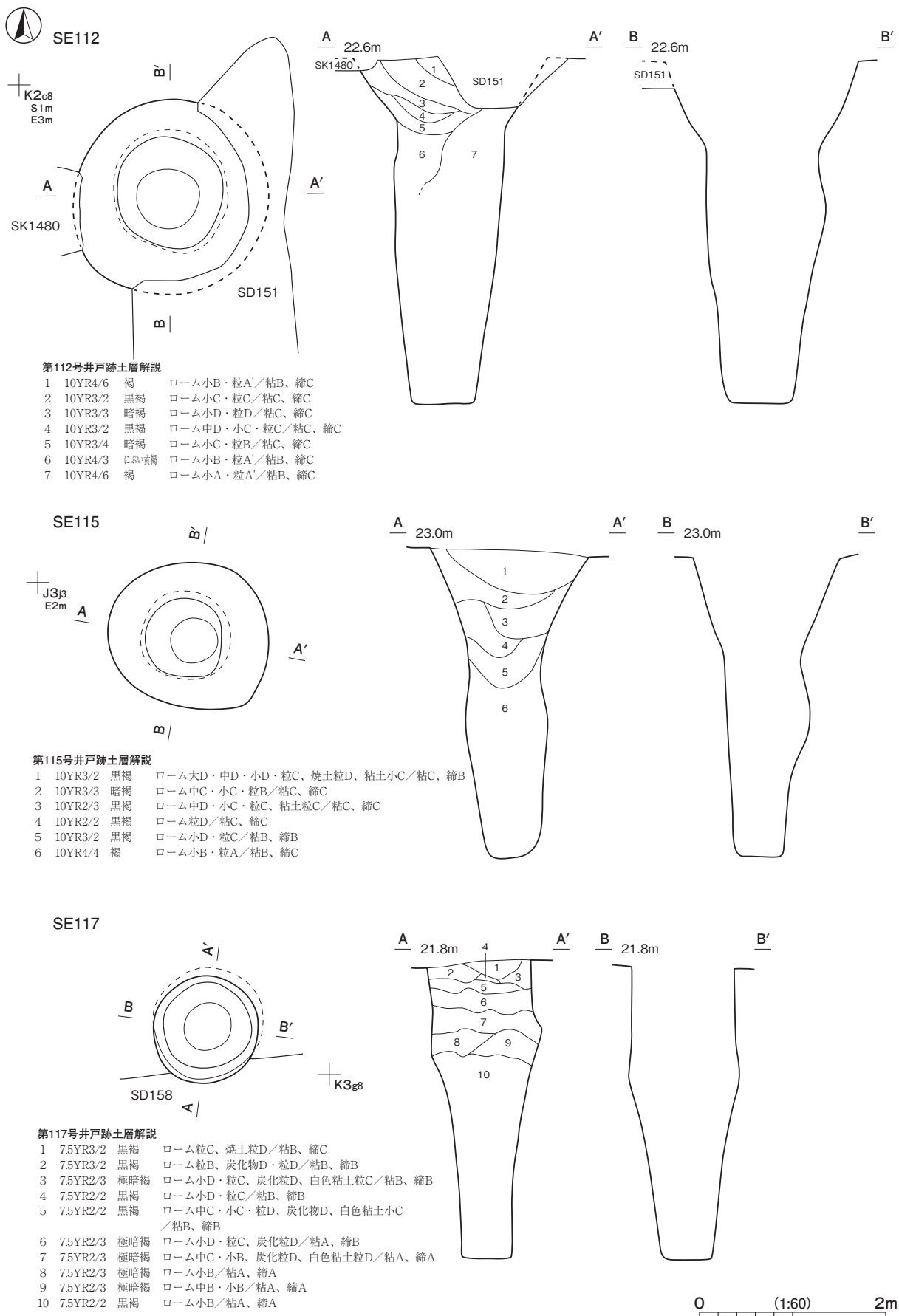
第 232 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (4)



第 233 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (5)



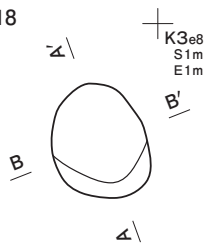
第234図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(6)



第 235 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (7)

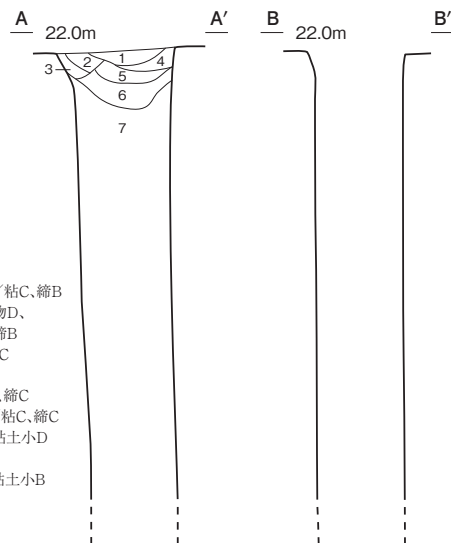


SE118

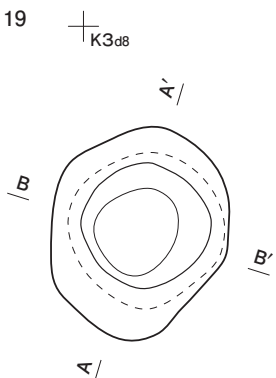
K3e8
S1m
E1m

第118号井戸跡土層解説

- | | | |
|---|---------------|--------------------------------|
| 1 | 7.5YR3/2 黒褐 | ローム粒C、炭化粒D／粘C、締B |
| 2 | 7.5YR4/3 褐 | ローム小B・粒B、炭化物D、
白色粘土粒C／粘B、締B |
| 3 | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 炭化粒D、白色粘土中C
／粘A、締A |
| 4 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒D／粘C、締C |
| 5 | 7.5YR3/4 暗褐 | ローム大D・小B・粒B／粘C、締C |
| 6 | 7.5YR3/2 黒褐 | ローム小C・粒B、白色粘土小D
／粘B、締C |
| 7 | 7.5YR5/4 にぶい褐 | ローム大C・中C、白色粘土小B
／粘B、締B |



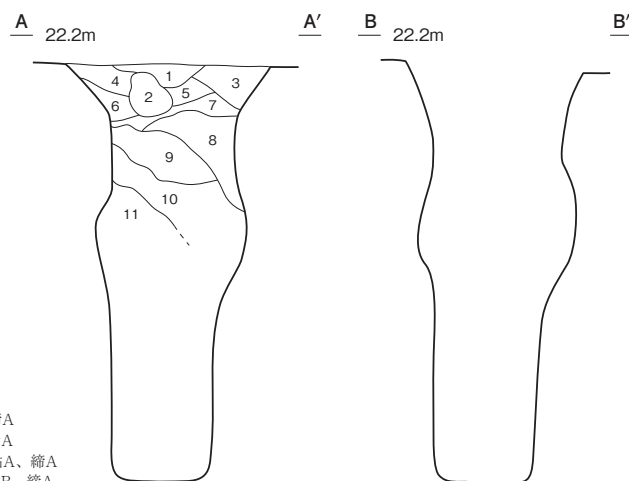
SE119



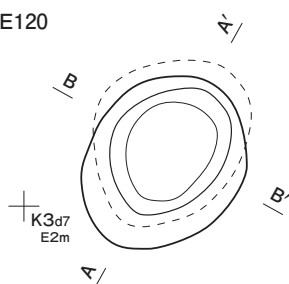
K3d8

第119号井戸跡土層解説

- | | | |
|----|-------------|---------------------------|
| 1 | 7.5YR3/2 黒褐 | ローム小D・粒B／粘C、締A |
| 2 | 7.5YR4/4 褐 | ローム小B・粒B／粘B、締A |
| 3 | 7.5YR4/4 褐 | ローム中C・小B・粒A／粘A、締A |
| 4 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム中C・小C・粒B／粘B、締A |
| 5 | 7.5YR3/2 黒褐 | ローム粒C、炭化粒D、白色粘土小D／粘B、締B |
| 6 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒B／粘B、締C |
| 7 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒C／粘B、締C |
| 8 | 7.5YR4/4 褐 | ローム大B・中A・小A・粒A、炭化粒B／粘A、締B |
| 9 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム中C・小B・粒B／粘B、締B |
| 10 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム中B・粒C／粘A、締B |
| 11 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小C／粘A、締B |

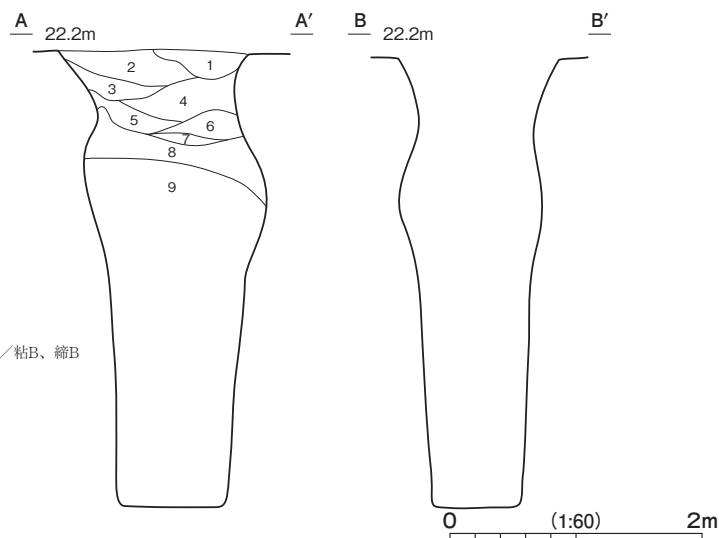


SE120

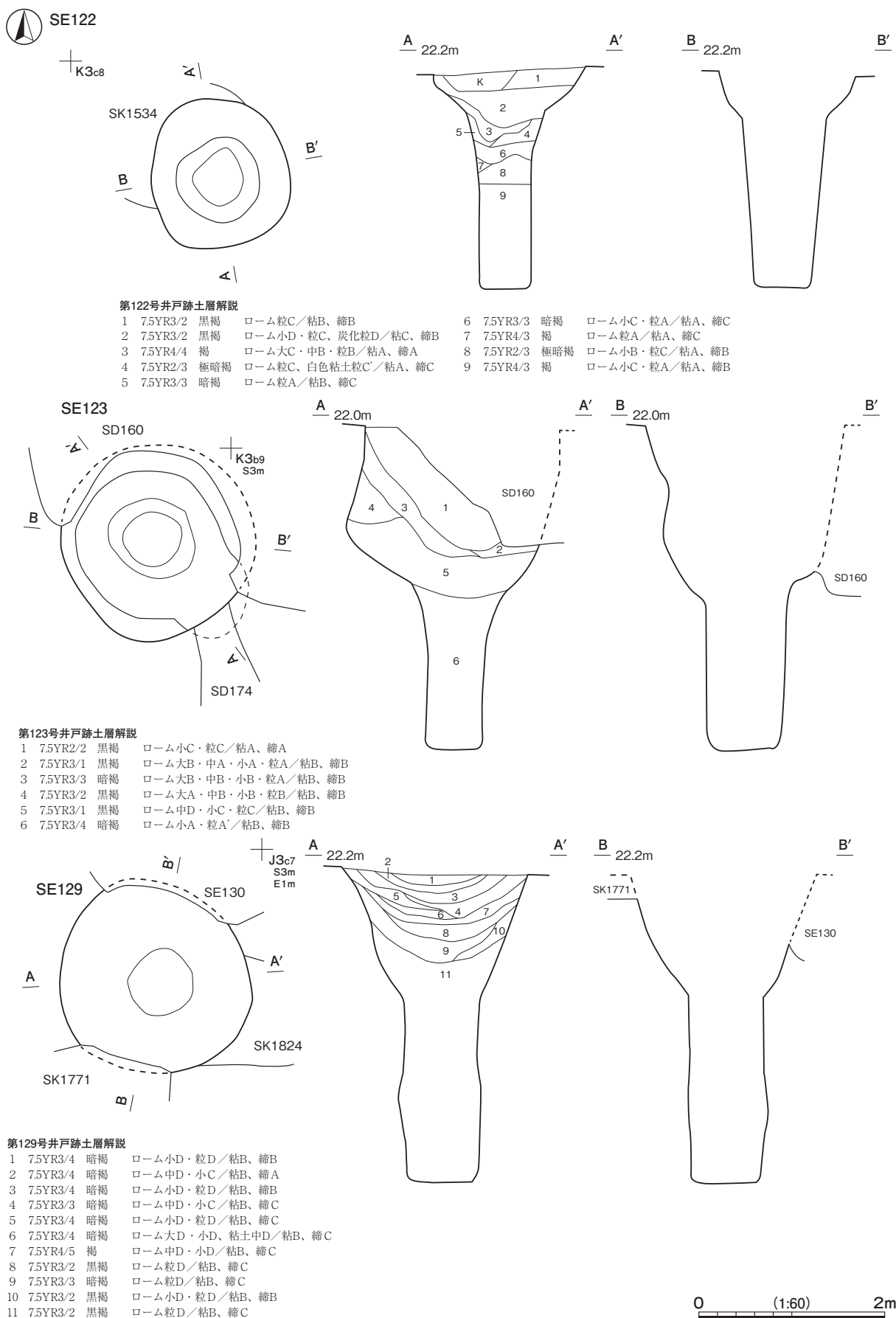
K3d7
E2m

第120号井戸跡土層解説

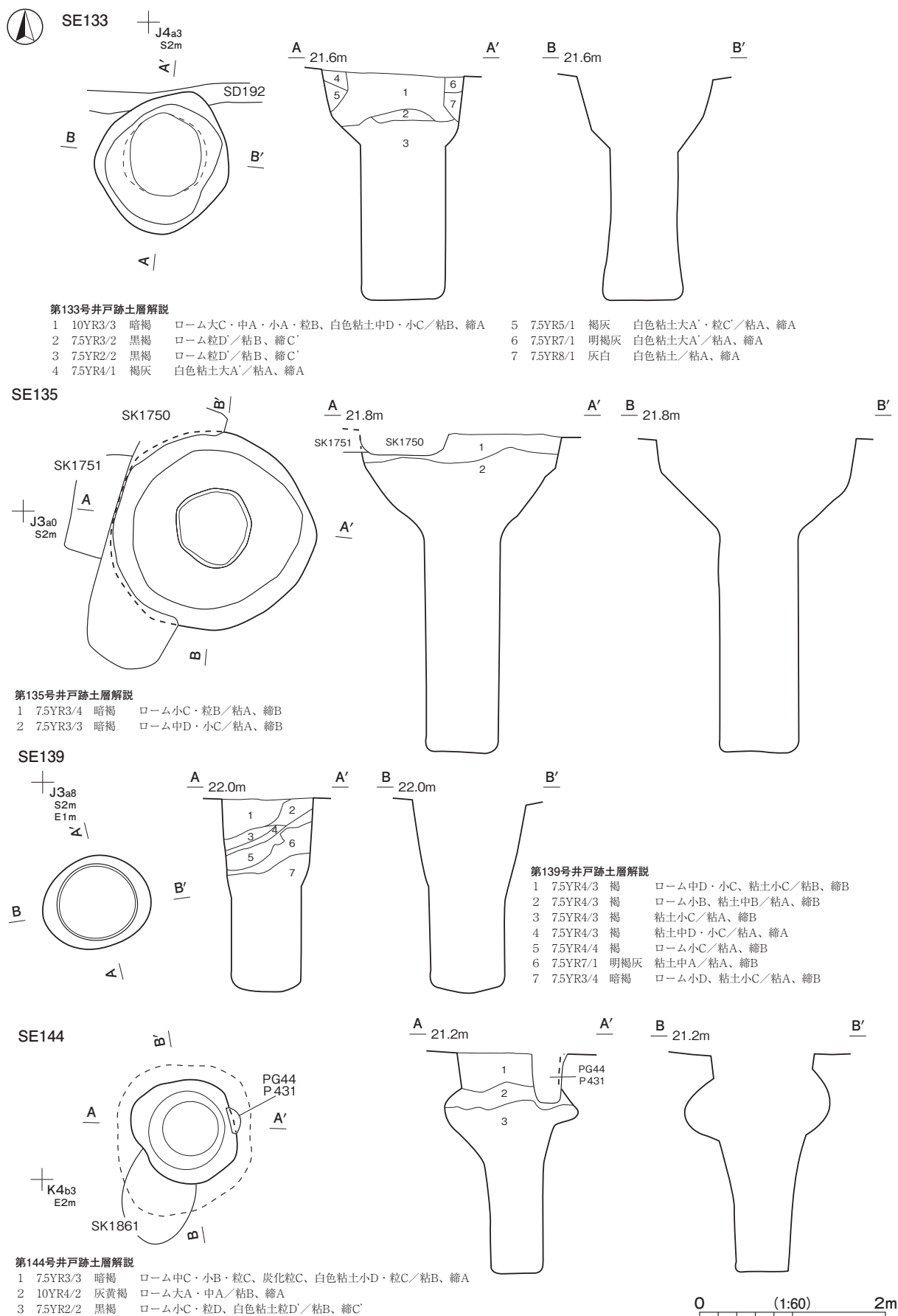
- | | | |
|---|--------------|--------------------------|
| 1 | 7.5YR3/2 黒褐 | ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D／粘B、締B |
| 2 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム中C・小B・粒B／粘C、締A |
| 3 | 7.5YR4/3 褐 | ローム中B・小C・粒C／粘B、締B |
| 4 | 7.5YR2/3 極暗褐 | ローム小C・粒B／粘B、締B |
| 5 | 7.5YR2/2 黒褐 | ローム小B・粒C／粘B、締B |
| 6 | 7.5YR3/4 暗褐 | ローム中A・小A・粒A／粘C、締B |
| 7 | 7.5YR3/2 黒褐 | ローム粒A／粘C、締C |
| 8 | 7.5YR4/3 褐 | ローム小B・粒A／粘A、締B |
| 9 | 7.5YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒B／粘A、締B |



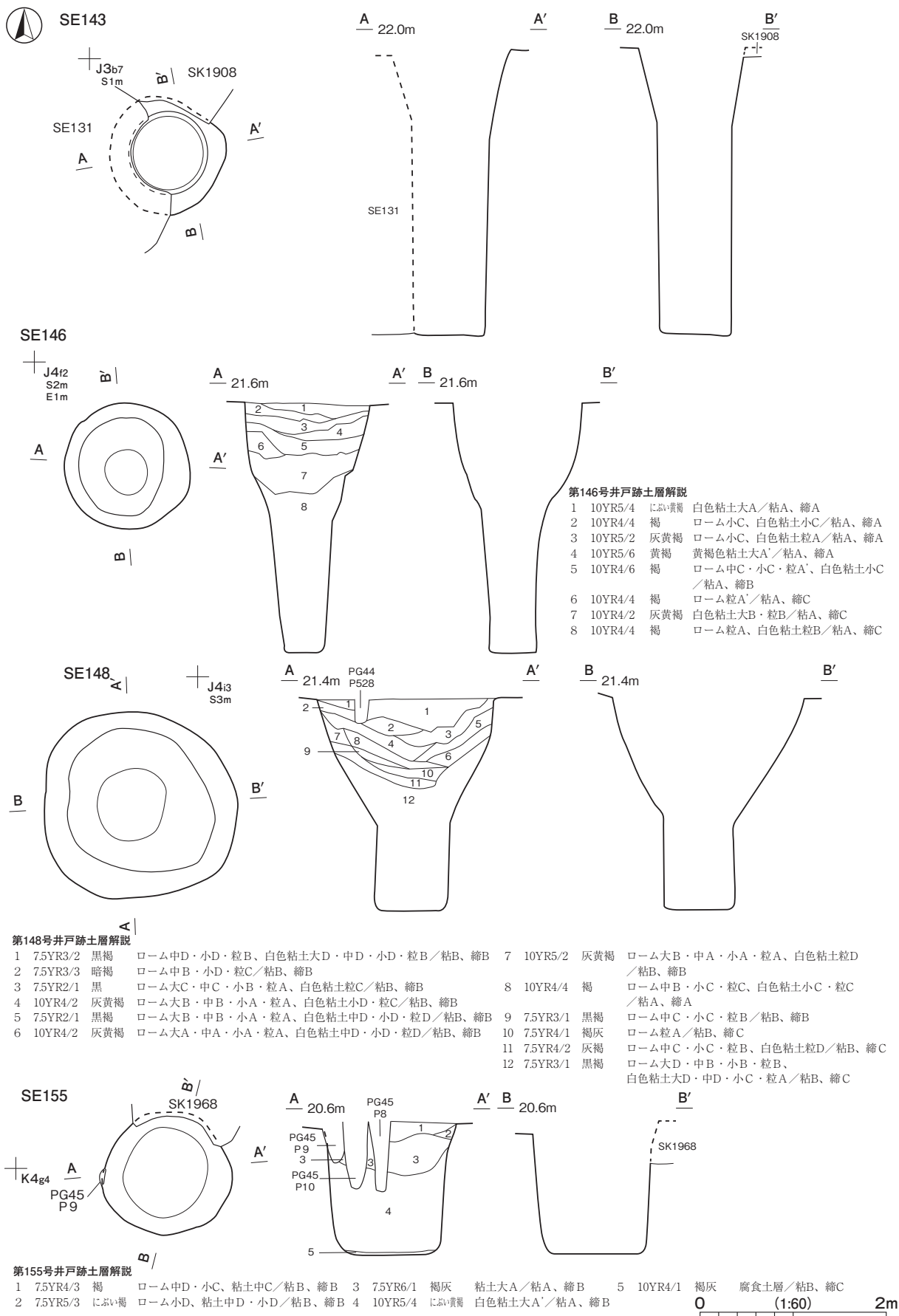
第 236 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (8)



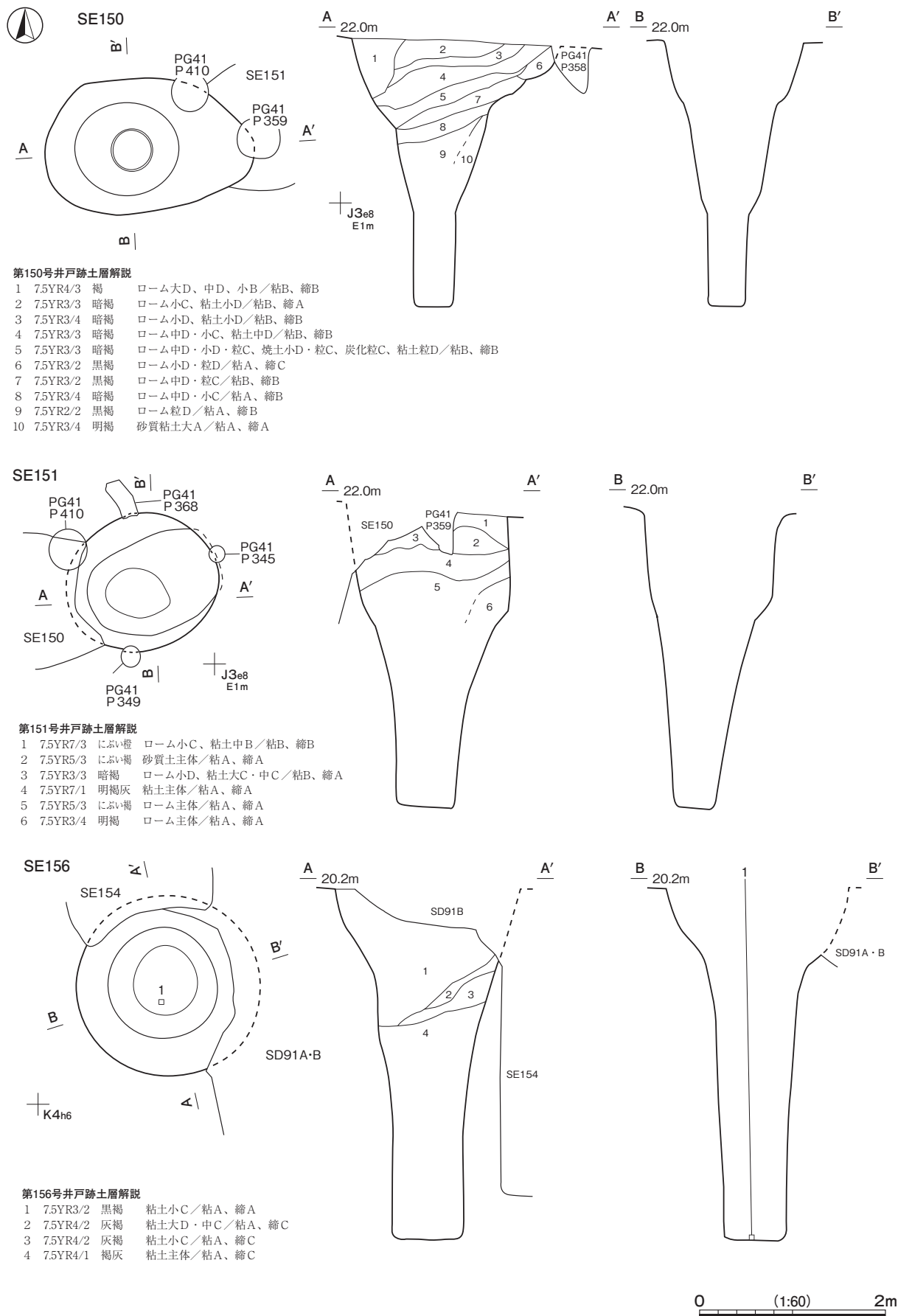
第 237 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (9)



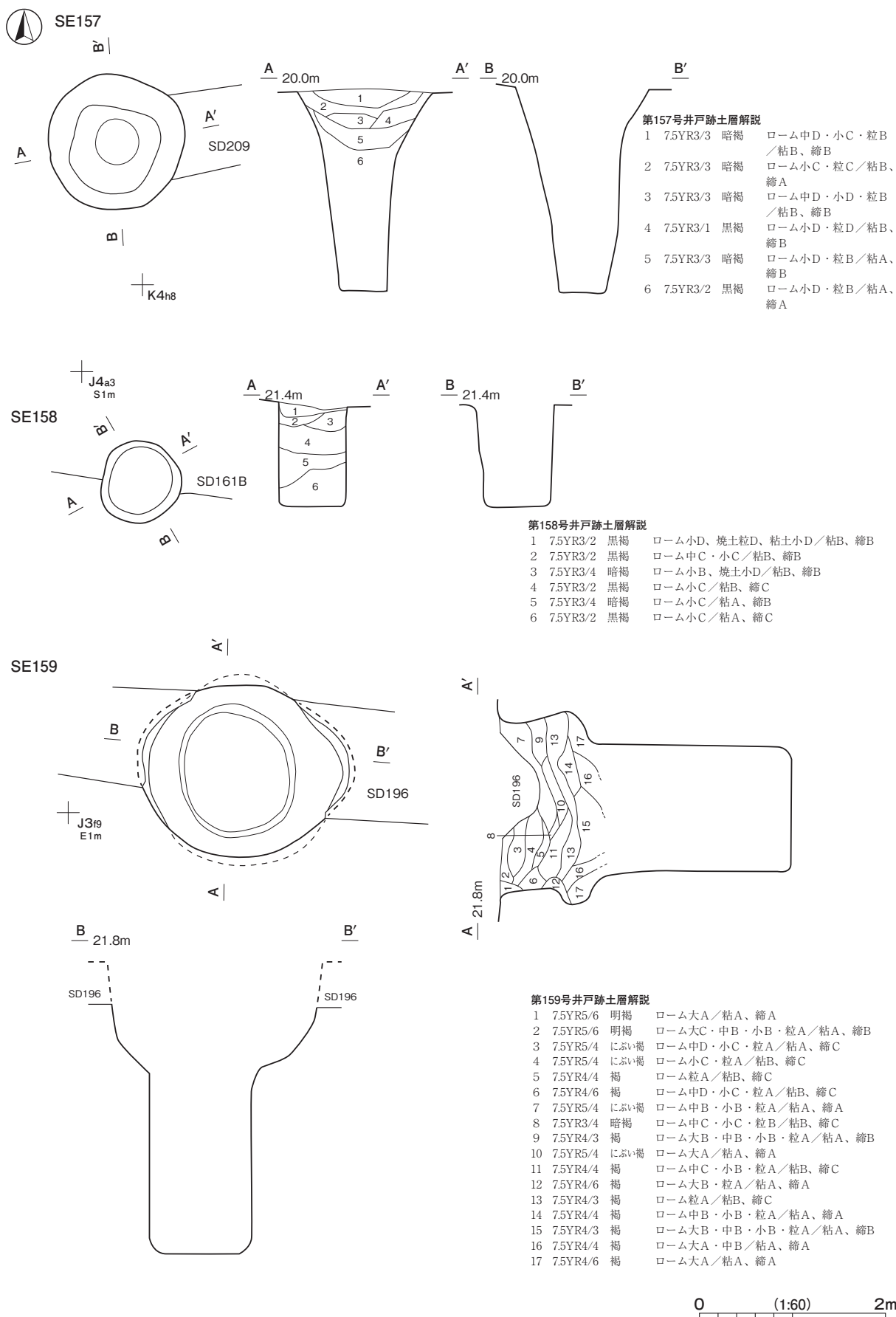
第 238 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (10)



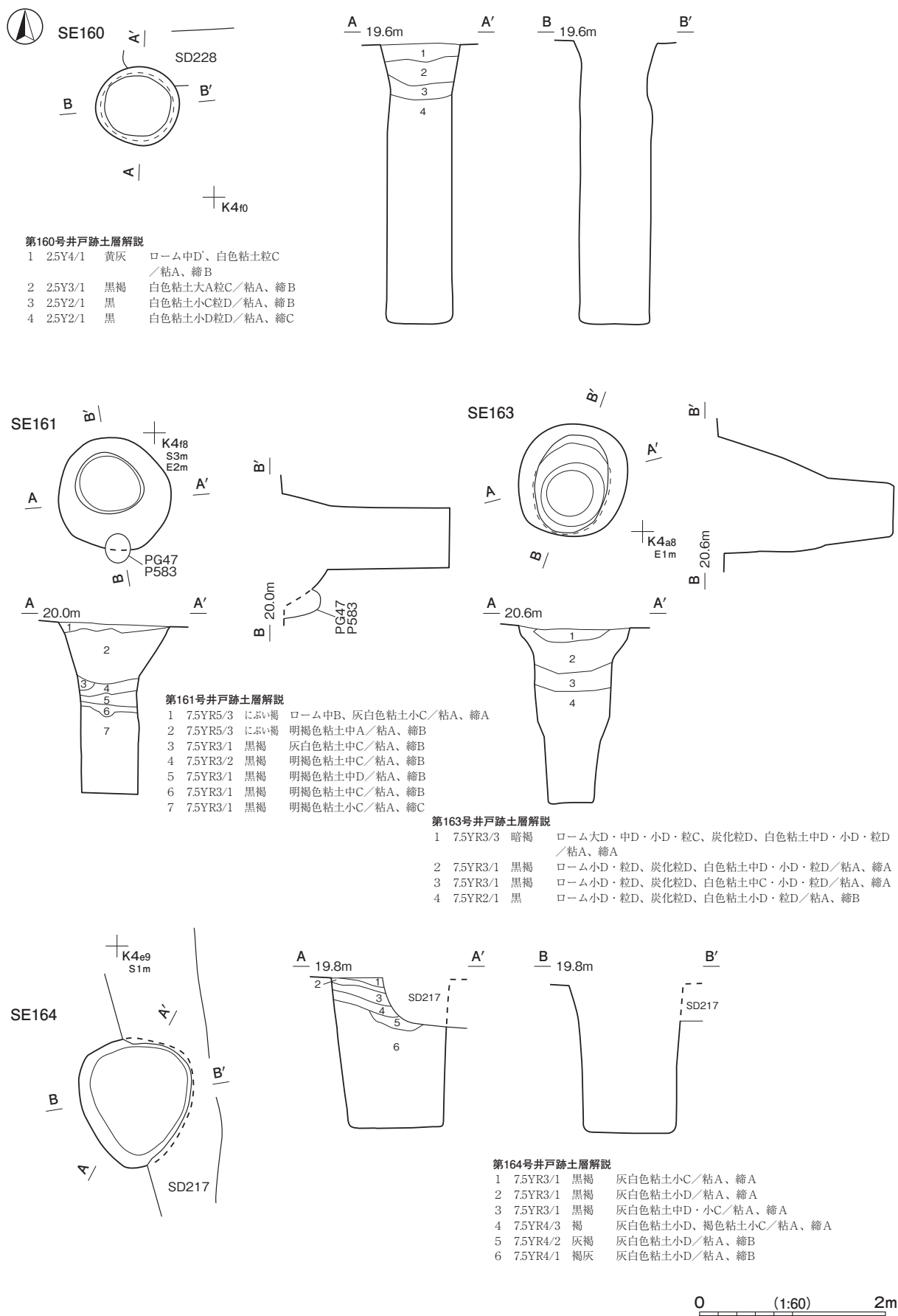
第 239 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (11)



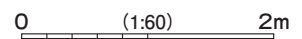
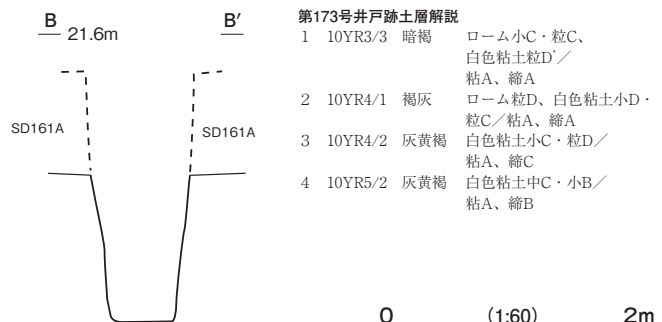
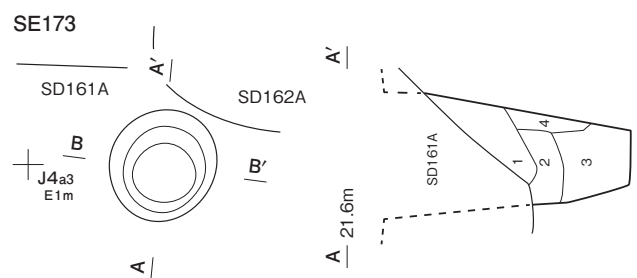
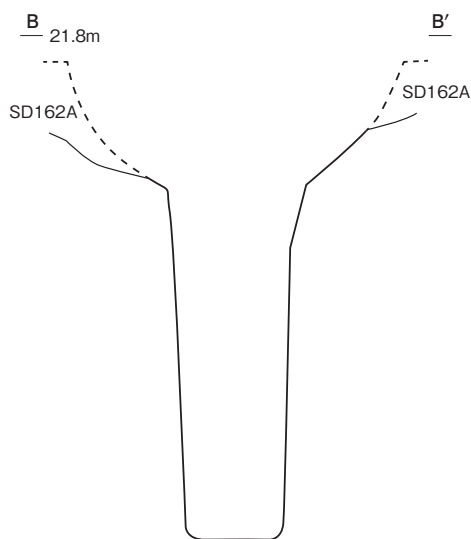
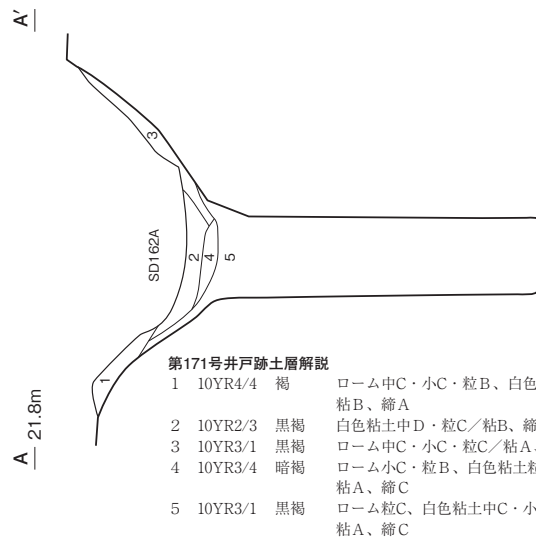
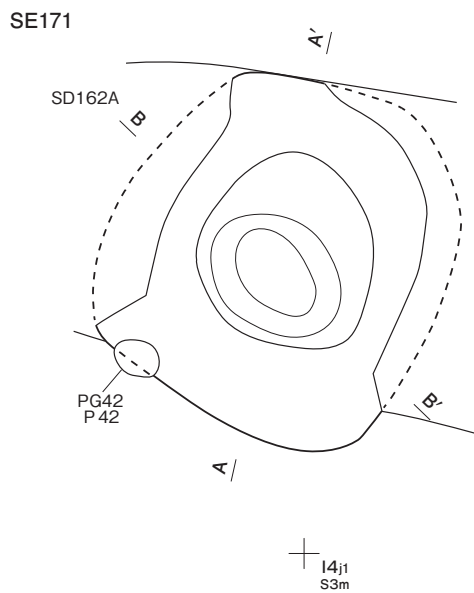
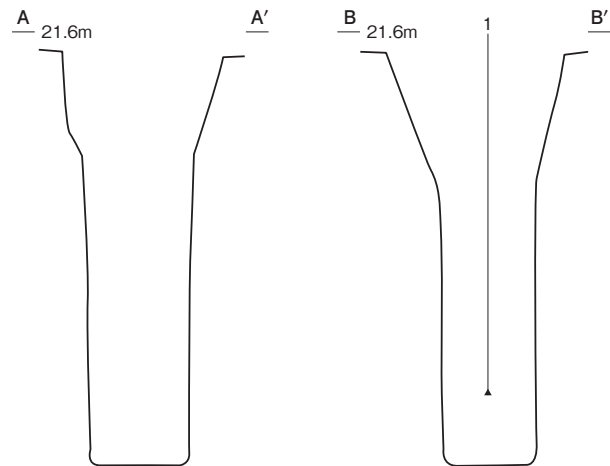
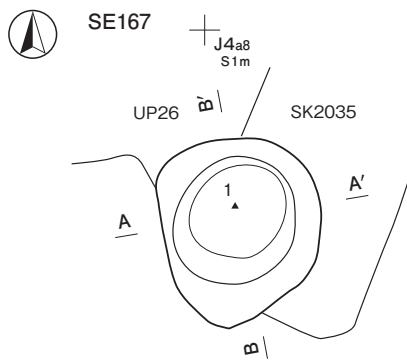
第 240 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (12)



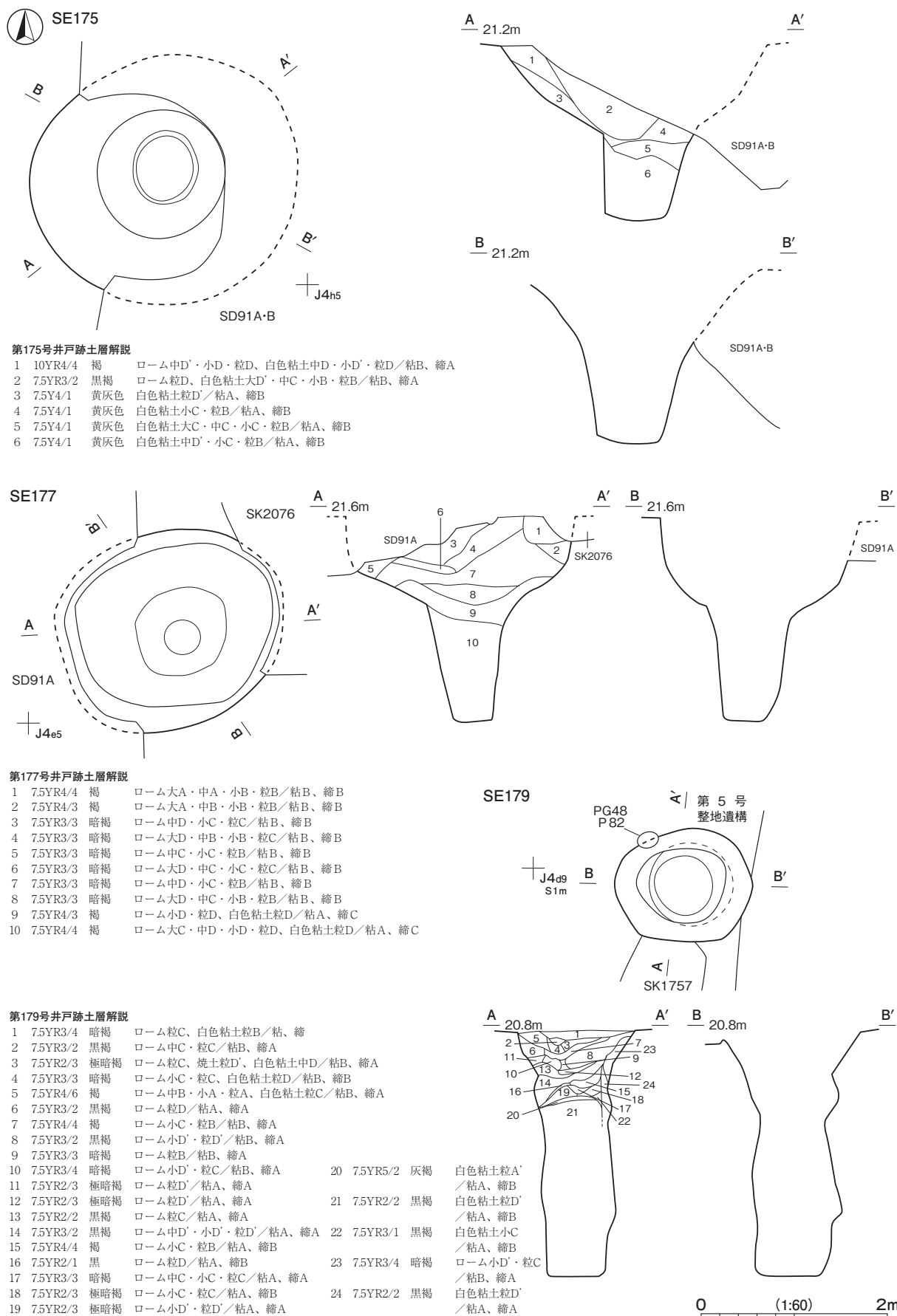
第 241 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (13)



第 242 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (14)

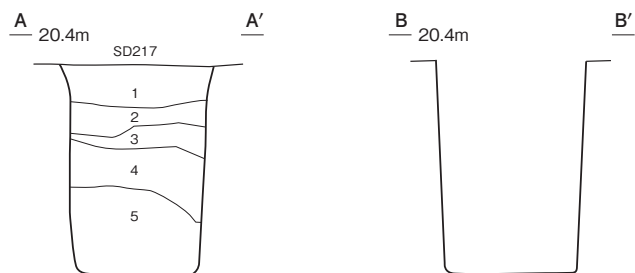
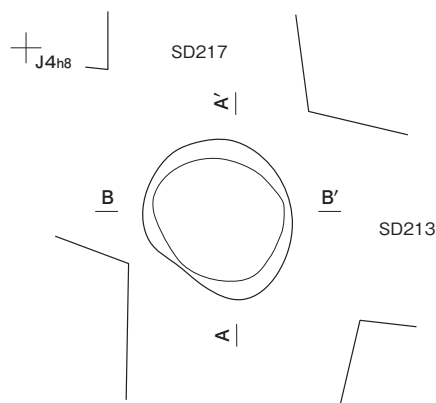


第 243 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (15)





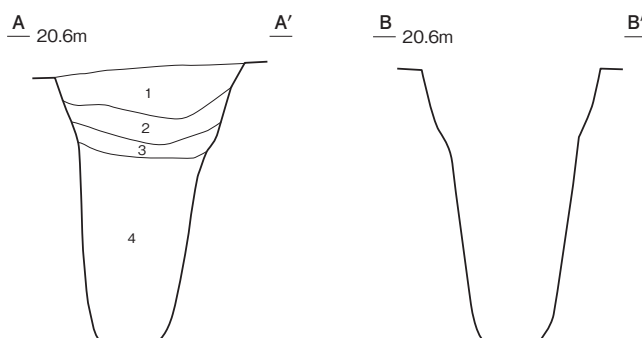
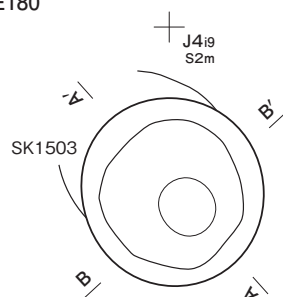
SE178



第178号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|----------|------|-----------------|
| 1 | 7.5YR5/4 | にふい褐 | 白色粘土中C／粘A、締A |
| 2 | 7.5YR6/2 | 灰褐 | 砂質粘土大A'／粘B、締B |
| 3 | 7.5YR5/3 | にふい褐 | 砂質粘土大A'／粘B、締C |
| 4 | 7.5YR5/2 | 灰褐 | 砂質粘土中B・粒A／粘B、締C |
| 5 | 7.5YR5/1 | 褐灰 | 砂質粘土中B粒A／粘A、締C |

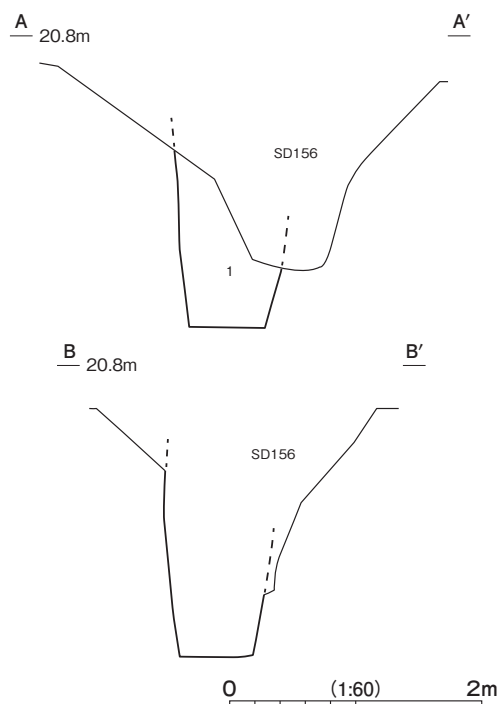
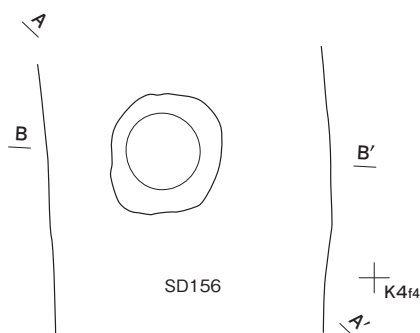
SE180



第180号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|----------|----|--------------------------------|
| 1 | 7.5YR4/1 | 褐灰 | ローム小C・粒C、白色粘土大C・中B・小C・粒C／粘B、締B |
| 2 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム粒D、白色粘土大D・中C・小C・粒C／粘B、締B |
| 3 | 7.5YR2/1 | 黒 | ローム粒D'、白色粘土大D・中D・小D・粒D／粘B、締B |
| 4 | 7.5YR7/1 | 黒 | ローム粒D、白色粘土大C・中C／粘A、締C |

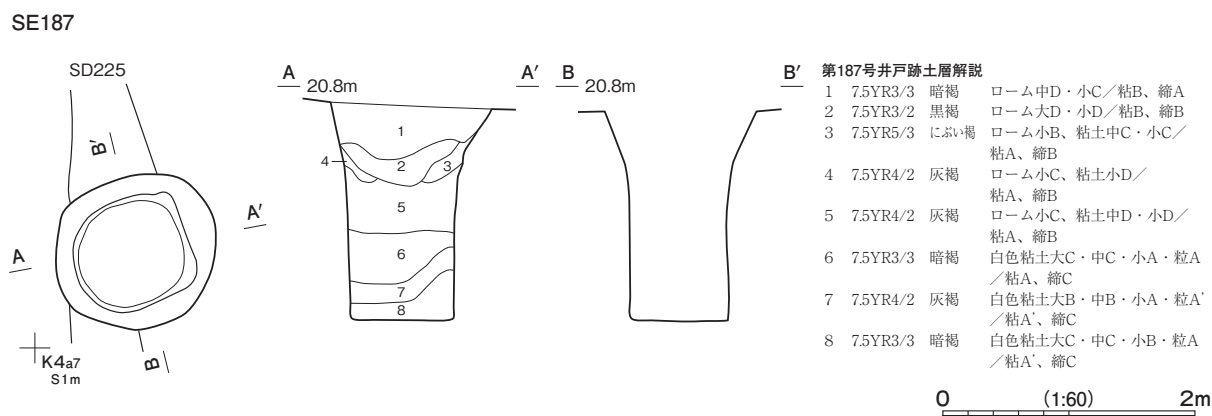
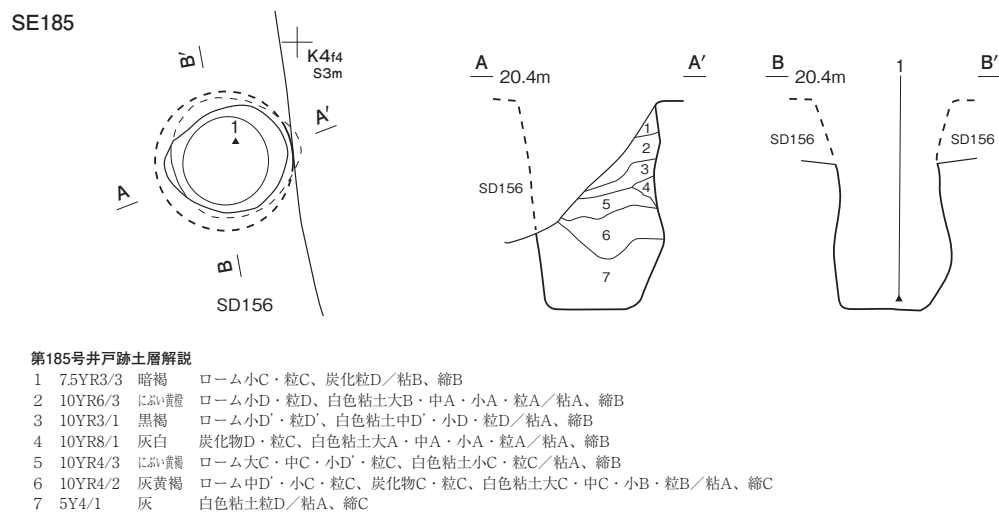
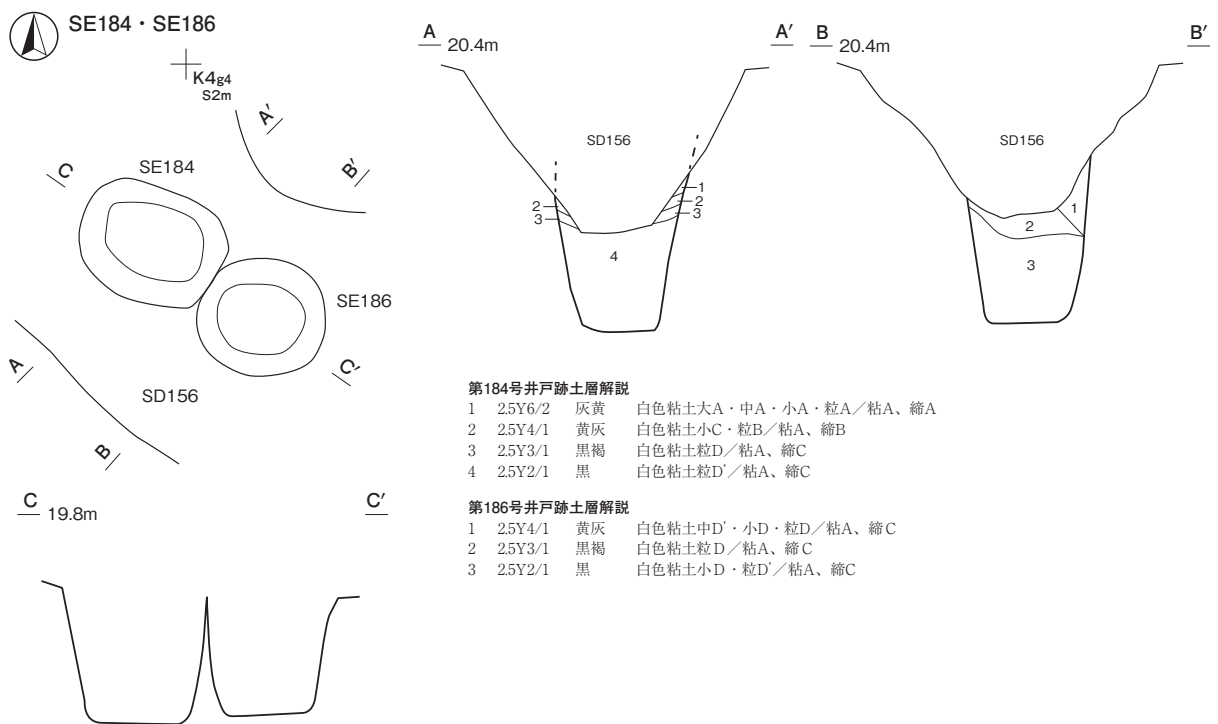
SE183



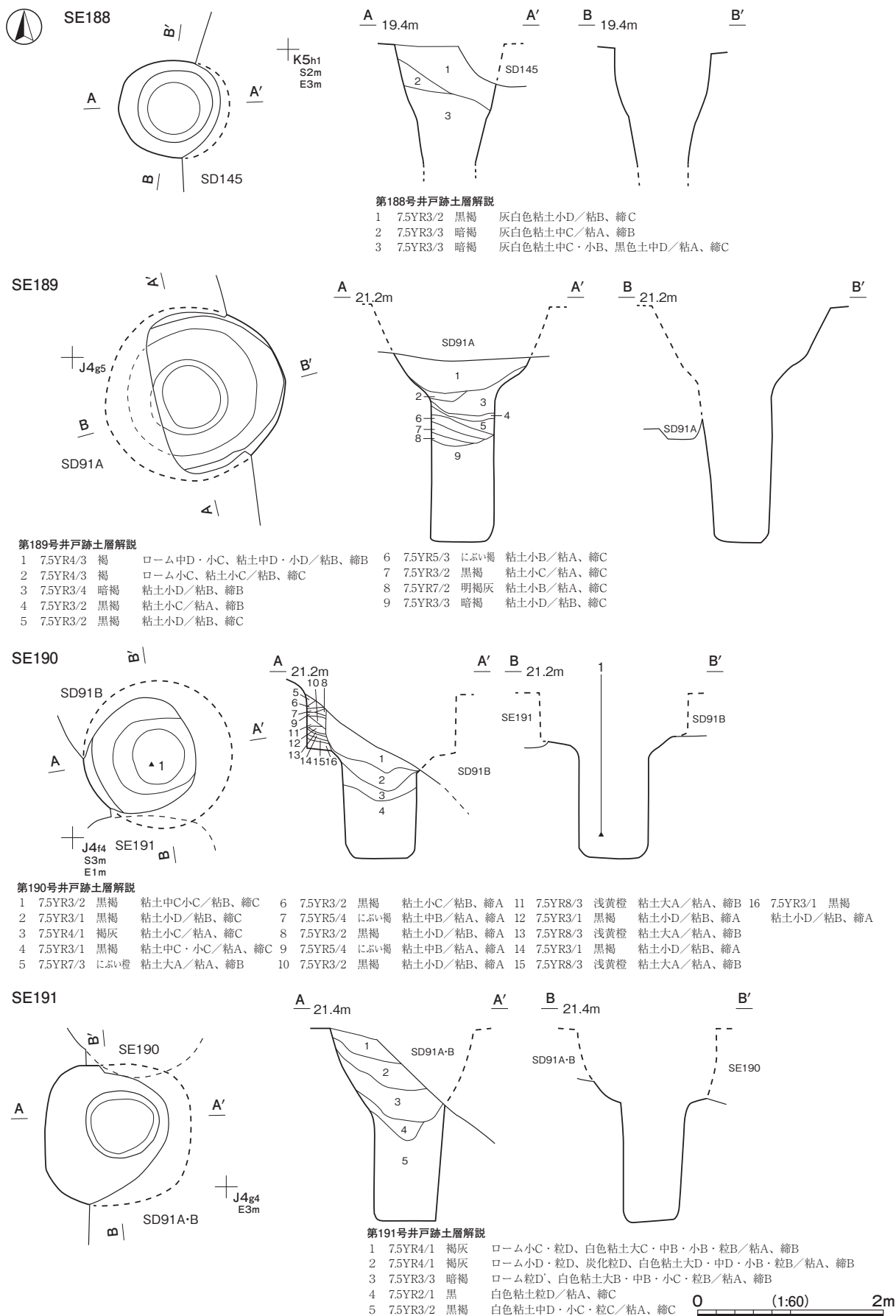
第183号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|----------|----|--------------------------------|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム粒D'、白色粘土大D'・中D'・小D・粒C／粘A、締C |
|---|----------|----|--------------------------------|

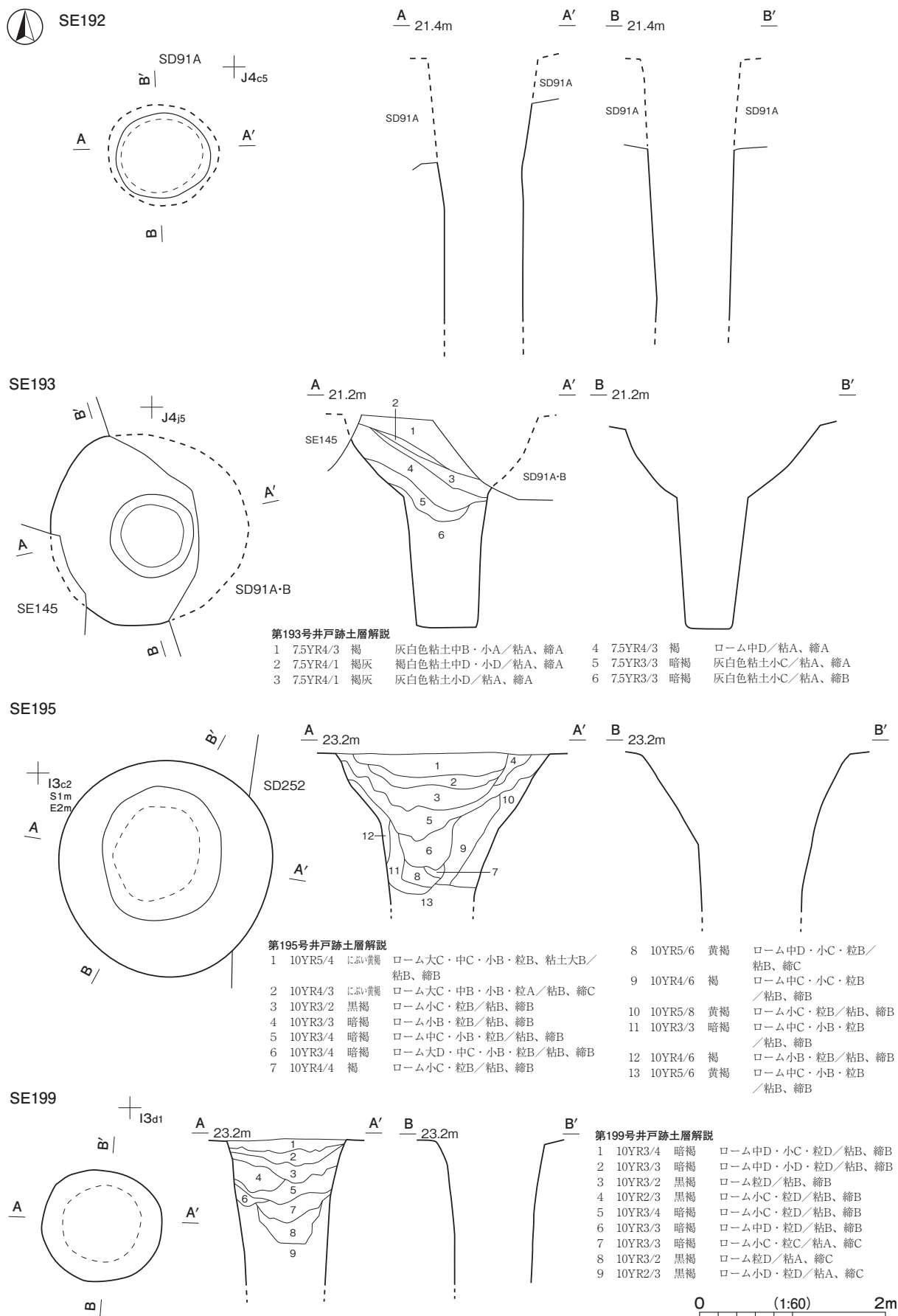
第 245 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (17)



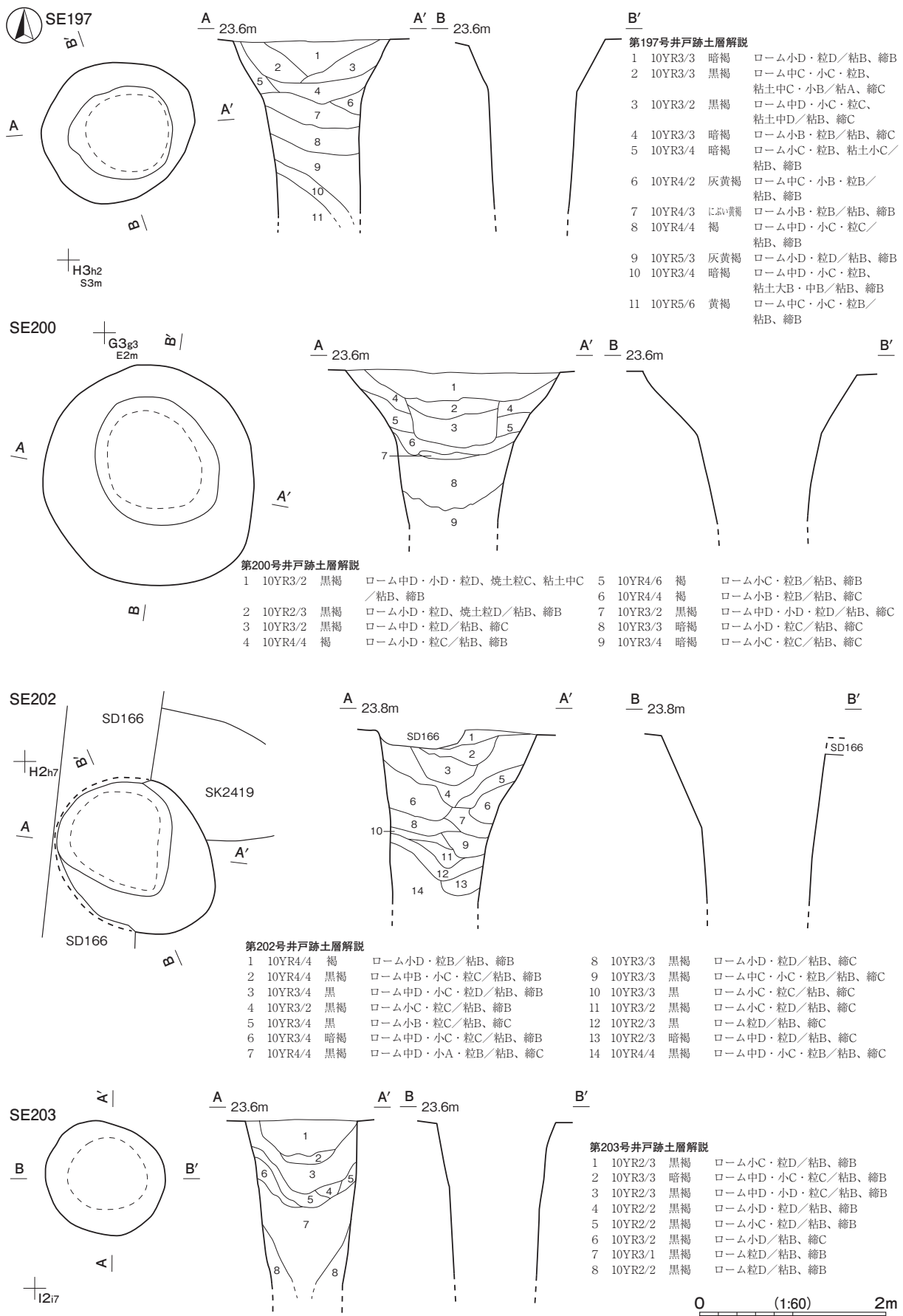
第 246 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (18)



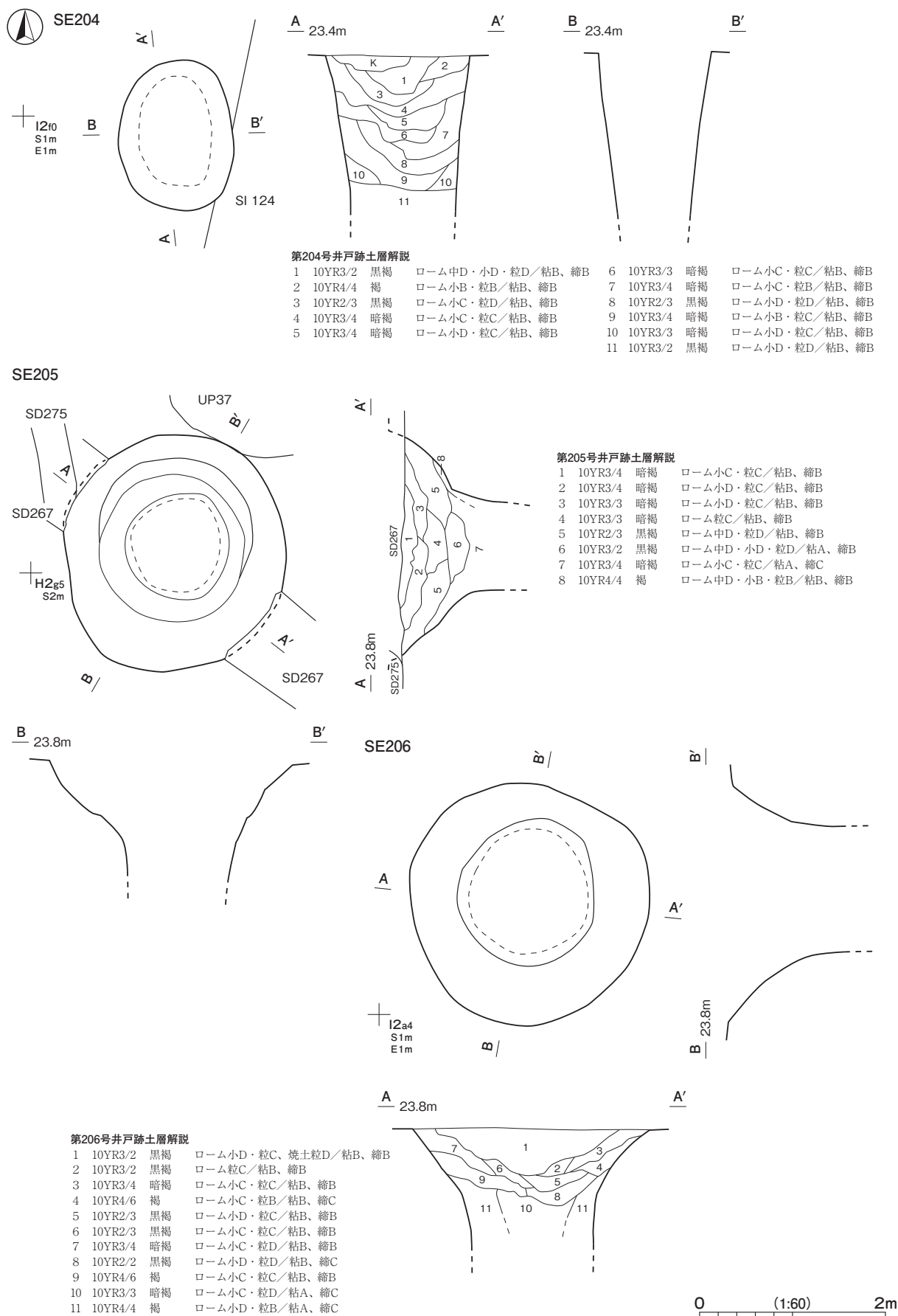
第 247 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (19)



第248図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図(20)



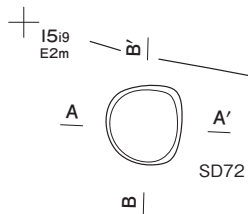
第 249 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (21)



第 250 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (22)



SE213



第213号井戸跡土層解説

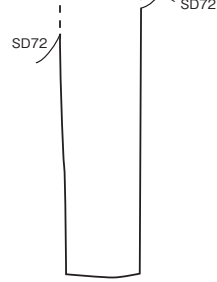
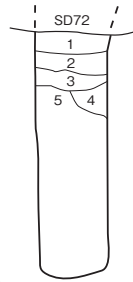
- | | | | |
|---|---------|-----|--|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐 | 焼土小D、炭化物D、浅黄色粘土小D／粘A、締B |
| 2 | 2.5Y3/1 | 黒褐 | 焼土小D、炭化物D、浅黄色粘土中C・小D／粘A、締C |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰 | 焼土小D、炭化物D、砂質粘土C・粒D／粘A、締B |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗黄灰 | 焼土小D、炭化物D、砂質粘土粒D、浅黄色粘土小C、灰白色粘土中C／粘A、締B |
| 5 | 2.5Y2/1 | 黒 | 焼土小D、炭化物D、砂質粘土粒D／粘A、締C |

A 19.6m

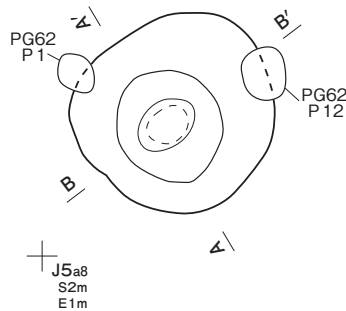
A'

B 19.6m

B'



SE211

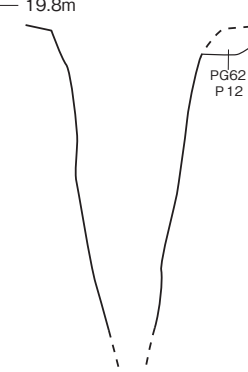
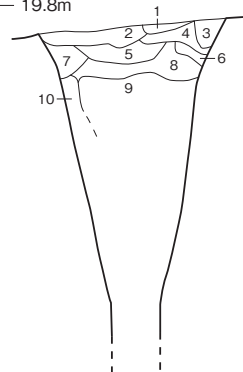


A 19.8m

A'

B 19.8m

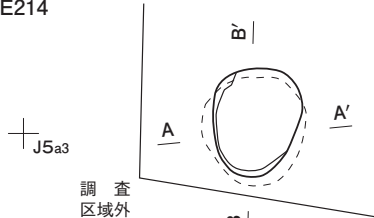
B'



第211号井戸跡土層解説

- | | | | |
|----|----------|-----|-------------------------------------|
| 1 | 2.5YR3/2 | 黒褐 | 焼土小D、炭化物C、浅黄色粘土大D・小C／粘B、締B |
| 2 | 2.5YR7/3 | 浅黄 | 焼土小D、炭化物D、浅黄色粘土大A・中A・小A、砂質粘土D／粘A、締A |
| 3 | 2.5YR4/2 | 暗灰黄 | 焼土小C、炭化物D、灰白色粘土中D、砂質粘土C／粘B、締A |
| 4 | 2.5YR3/2 | 黒褐 | 焼土中C、炭化物D、浅黄色粘土小C／粘B、締A |
| 5 | 2.5YR3/1 | 黒褐 | 焼土小C、浅黄色粘土中D、灰白色粘土中D／粘B、締A |
| 6 | 2.5YR2/1 | 黒 | 焼土小C、炭化物C、灰白色粘土小D／粘A、締A |
| 7 | 2.5YR2/1 | 黒 | 焼土小C、炭化物D、灰白色粘土中C／粘B、締A |
| 8 | 2.5YR3/1 | 黒褐 | 焼土小D、炭化物C、灰白色粘土小C／粘B、締B |
| 9 | 2.5YR4/1 | 黄灰 | 浅黄色粘土小C／粘A、締C |
| 10 | 2.5YR2/1 | 黒 | 焼土粒D、炭化物D、灰白色粘土小D／粘A、締B |

SE214

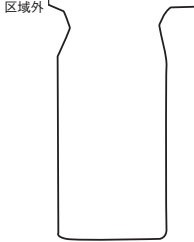
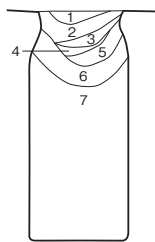


A 20.6m

A'

B 20.6m

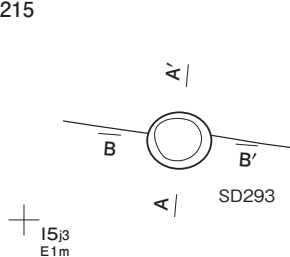
B'



第214号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|----------|--------|---------------------------------|
| 1 | 2.5YR3/3 | 暗オリーブ褐 | 焼土小D、炭化物D、灰白色粘土小D／粘B、締A |
| 2 | 2.5YR4/3 | オリーブ褐 | 焼土小D、炭化物C、灰白色粘土小D／粘B、締A |
| 3 | 2.5YR4/2 | 暗灰黄 | 焼土小D、炭化物C、浅黄色粘土小C、灰白色粘土中D／粘B、締A |
| 4 | 2.5YR4/1 | 黄灰 | 炭化物A・粒C、灰白色粘土小D／粘B、締A |
| 5 | 2.5YR6/2 | 灰黄 | 炭化物C、灰白色粘土大B・中B・小B／粘B、締B |
| 6 | 2.5YR6/3 | にぶい黄 | 炭化物C、灰白色粘土小C、浅黄色粘土中C・小C／粘B、締A |
| 7 | 2.5YR8/2 | 灰白 | 灰白色粘土大B・中B・小B／粘A、締A |

SE215



A 20.0m

A'

B 20.0m

B'

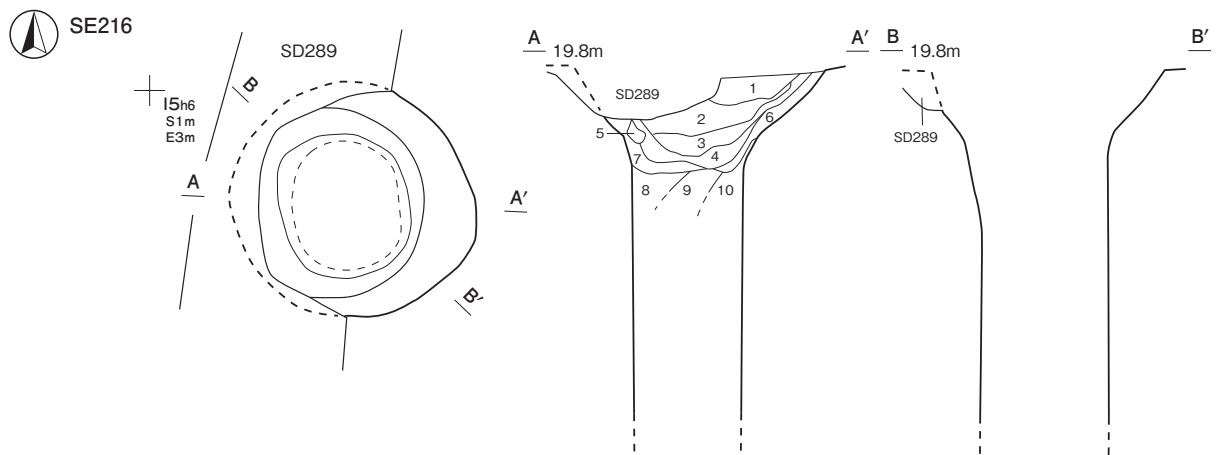


第215号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|---------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐 | 粘土中D・粒C／粘B、締C |
| 2 | 10YR5/1 | 褐灰 | 粘土小C・粒A／粘B、締C |
| 3 | 10YR6/1 | 褐灰 | 粘土粒A／粘B、締C |

0 (1:60) 2m

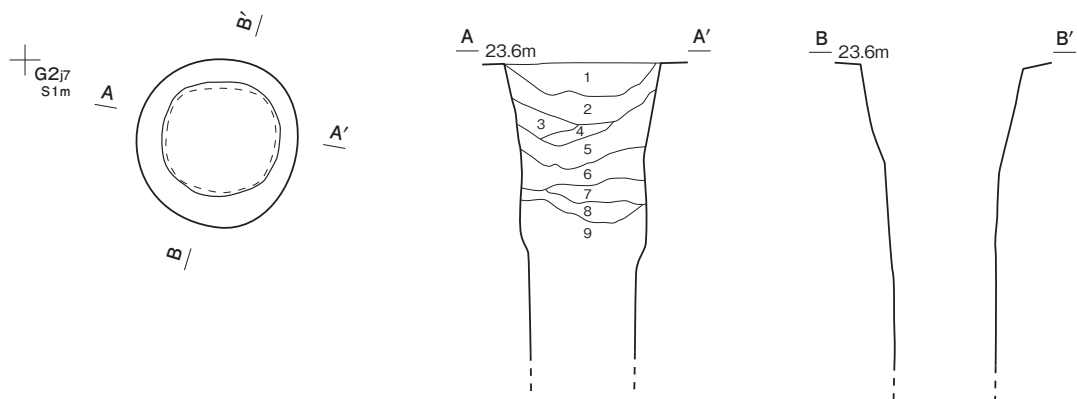
第 251 図 室町時代から江戸時代その他の井戸実測図 (23)



第216号井戸跡土層解説

- | | | | |
|----|---------|------|------------------------------|
| 1 | 2.5Y6/4 | にふい黄 | 浅黄色粘土大A、灰白色粘土大C／粘土、締A |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐 | 浅黄色粘土大C、灰白色粘土大C／粘土、締A |
| 3 | 2.5Y3/1 | 黒褐 | 浅黄色粘土大C、灰白色粘土大C、粘土C／粘A、締B |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰 | 浅黄色粘土大C、灰白色粘土大C、粘土C／粘A、締C |
| 5 | 2.5Y5/1 | 黄灰 | 浅黄色粘土小D、灰白色粘土小D、粘土A／粘A、締B |
| 6 | 2.5Y6/4 | にふい黄 | 浅黄色粘土中B・小B、灰白色粘土小C、粘土C／粘B、締B |
| 7 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄 | 浅黄色粘土中D・小D、灰白色粘土中D、粘土C／粘A、締C |
| 8 | 2.5Y4/1 | 黄灰 | 浅黄色粘土小C、灰白色粘土中C、粘土A／粘A、締C |
| 9 | 2.5Y3/1 | 黒褐 | 浅黄色粘土中D、灰白色粘土中D、粘土A／粘A、締B |
| 10 | 2.5Y3/1 | | 浅黄色粘土小B、灰白色粘土小B、砂粒C／粘B、締C |

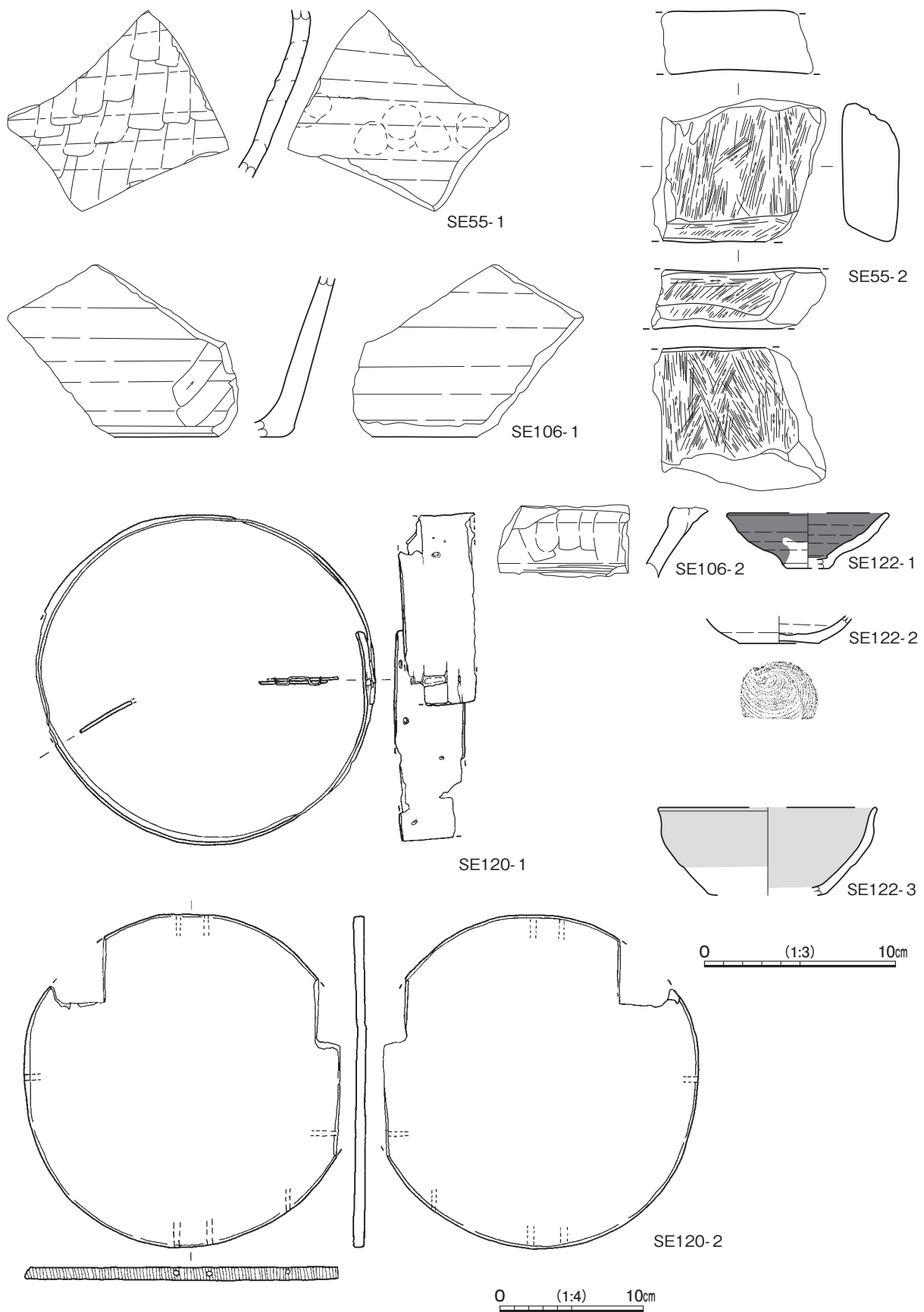
SE217



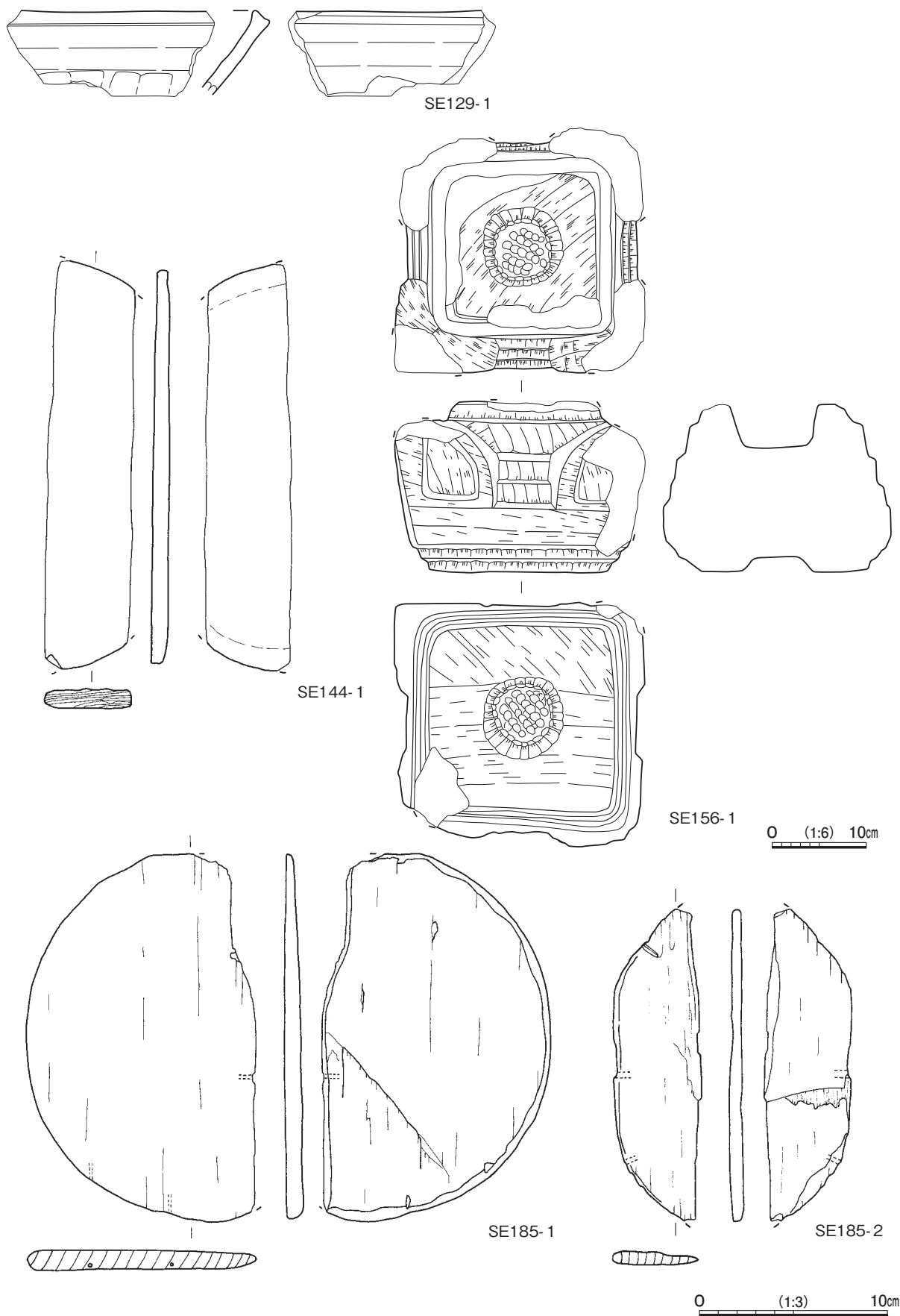
第217号井戸跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|------|--------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中C・小C・粒D、炭化物D／粘B、締B |
| 2 | 10YR5/4 | にふい黄 | ローム大C・中B・小B・粒B／粘B、締B |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム中C・小B・粒B／粘B、締C |
| 4 | 10YR6/4 | にふい黄 | ローム中A・粒B／粘B、締B |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小D・粒D、焼土小D、炭化物D／粘B、締C |
| 6 | 10YR2/1 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒C／粘B、締C |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中D・小B・粒C／粘B、締C |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中C・小B・粒C／粘B、締C |
| 9 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中B・小A・粒B／粘B、締C |

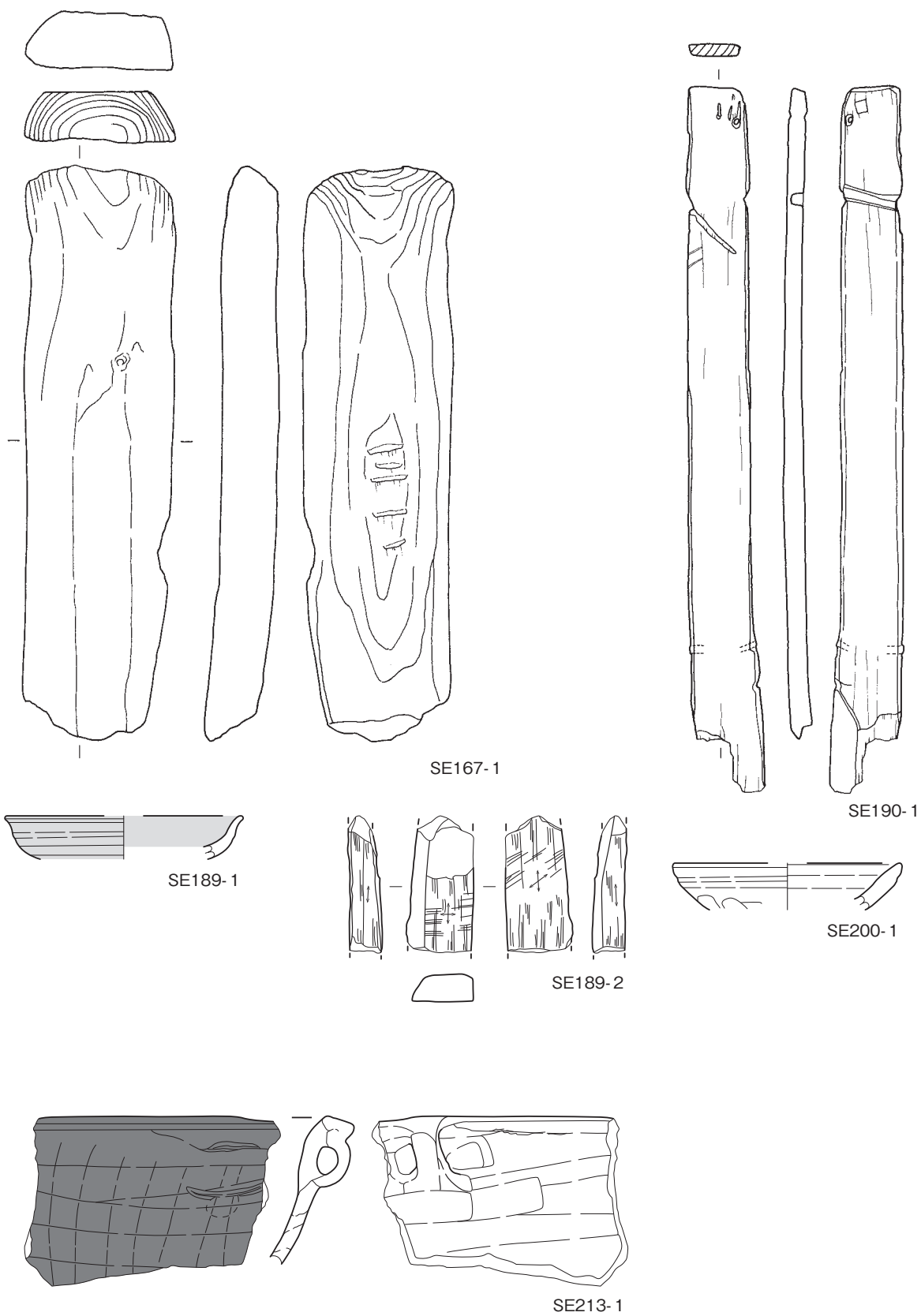
0 (1:60) 2m



第 253 図 室町時代から江戸時代その他の井戸遺物実測図(1)



第 254 図 室町時代から江戸時代その他の井戸遺物実測図(2)



第 255 図 室町時代から江戸時代その他の井戸遺物実測図(3)

第 141 表 第 55 号井戸跡出土遺物一覧第 253 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	甕	－	(10.5)	－	緻密・褐灰	体部外面縦位ナデ 内面指頭痕	自然釉	常滑	覆土	5 %

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	(7.5)	(9.0)	3.3	(324.63)	砂岩	砥面 3 面 多方向の研磨痕	覆土	PL61

第 142 表 第 106 号井戸跡出土遺物一覧 (第 254 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	火鉢カ	－	(9.1)	－	長石・雲母	橙	普通	体部外面下端部斜位ナデ 底部砂目痕	覆土	5 %
2	土師質土器	羽釜カ	－	(3.4)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位ナデ・弱い縦位ナデ・鋳部か耳部貼付け	覆土	5 %

第 143 表 第 120 号井戸跡出土遺物一覧 (第 253 図)

番号	器 種	径	器高	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	曲物	22.9	5.6	0.1～0.25	－	－	柾目 側板 削り・曲げ加工 樹皮を用いた編み止め	底面	PL63
2	曲物	23.1	－	1.0	－	－	柾目 底板 切り出し・削り加工 外面塗着物 側面釘穴 7 か所	底面	PL63

第 144 表 第 122 号井戸跡出土遺物一覧 (第 253 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[8.4]	2.9	[2.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土	10% 煤付着
2	土師質土器	皿	－	(1.4)	4.2	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土	10%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
3	陶器	天目茶碗	[11.2]	4.6	－	緻密・黄橙	ロクロナデ け掛け	体部下端削り出し 漬	褐釉	瀬戸・美濃	覆土 30%

第 145 表 第 129 号井戸跡出土遺物一覧 (第 254 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	－	(4.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面弱い縦位ナデ	覆土	5 %

第 146 表 第 144 号井戸跡出土遺物一覧 (第 254 図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	曲物	(21.6)	(4.6)	1.0	－	－	板目 内面縁辺部圧痕 蓋カ	覆土	

第 147 表 第 156 号井戸跡出土遺物一覧 (第 254 図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	宝篋印塔	26.8	26.2	18.5	(21.7kg)	花崗岩	笠部 上・下面中央部受け穴・研磨痕・削り痕 側面研磨痕・隅飾突起部上部欠損・路盤・蓋部削り痕	底面	

第 148 表 第 167 号井戸跡出土遺物一覧（第 255 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	板材カ	57.6	15.2	7.4	－	－	板目 切り出し・削り加工 端部切断痕	覆土	

第 149 表 第 185 号井戸跡出土遺物一覧（第 254 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	曲物	径 19.5	－	1.0	－	－	柁目 底板 切り出し・削り加工 外面砥塗着物 側面釘穴 3 か所	覆土	
2	曲物	(16.5)	(4.8)	0.7	－	－	柁目 底板 切り出し・削り加工 側面釘穴 3 か所 内 1 か所に竹釘残存	覆土	

第 150 表 第 189 号井戸跡出土遺物一覧（第 255 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴	釉薬	産 地	出土位置	備 考
1	陶器	端反皿	[11.8]	(2.2)	－	緻密・にぶい黄橙	ロクロ成形 漬け掛け 体部下端削り出し	灰釉	瀬戸・美濃	覆土	10%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	砥石	(6.9)	3.4	1.8	(51.84)	凝灰岩	砥面 4 面 表裏面二方向の研磨痕 側面一方向の研磨痕	覆土	

第 151 表 第 190 号井戸跡出土遺物一覧（第 255 図）

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	樹 種	特 徴	出土位置	備 考
1	板材	(35.4)	3.8	1.4	－	－	柁目 切り出し・削り加工・樹皮編込み 内面圧痕 側面鉄釘打ち込み	覆土下層	

第 152 表 第 200 号井戸跡出土遺物一覧（第 255 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	[11.4]	(2.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	非ロクロ成形 口縁部横ナデ・外面横位沈線状のナデ 体部下端ナデ	覆土	10%

第 153 表 第 213 号井戸跡出土遺物一覧（第 255 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	－	(8.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部横ナデ 耳部貼付け 体部外面縦・横位ナデ 内面横位ナデ	覆土	10% 煤付着

第 154 表 室町時代から江戸時代井戸跡一覧

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5	G 4 g0	N - 37° - E	楕円形	2.34 × 2.18	(90)	円筒状	-	人為	土師質土器 陶器	
7	G 4 e7	-	[円形]	1.54 × (1.44)	(90)	漏斗状	-	人為	-	本跡→SD17
20	G 3 i0	-	円形	1.50 × 1.40	(186)	漏斗状	-	人為	土師質土器	SD63A・B→本跡
21	I 4 e0	-	円形	1.10 × [1.10]	152	円筒状	平坦	自然	土師質土器	本跡→SK745 溜井戸カ
22	I 5 c1	-	円形	[1.40] × 1.38	(140)	漏斗状	-	-	土師質土器 砥石	SD77 と重複
23	I 4 b9	-	円形	2.02 × 1.98	(180)	漏斗状	-	人為	土師質土器 瓦質土器 茶臼 砥石 五輪塔	
24	I 4 d9	N - 8° - W	楕円形	2.84 × 2.40	(200)	漏斗状	-	人為	土師質土器 砥石	
25	I 4 a7	-	円形	1.02 × [0.96]	194	円筒状	平坦	人為	土師質土器	溜井戸カ
26	H 4 g9	-	[円形]	[1.18] × [1.18]	(124)	漏斗状	-	人為	土師質土器	SE27→本跡 →SD73
27	H 4 g9	N - 1° - E	楕円形	1.04 × 0.92	(130)	円筒状	-	人為	-	本跡→SE26・ SD73
28	H 4 i9	-	円形	1.32 × 1.30	(110)	漏斗状	-	人為	土師質土器	
29	H 4 d1	-	円形	3.10 × 2.92	(80)	円筒状	-	人為	土師質土器 鉄滓	本跡→SK831・835・ 880・881・883 PG19P140 と重複
31	H 4 e1	-	円形	2.30 × 2.28	210	漏斗状	ほぼ平坦	人為	土師質土器 陶器	SE60、SK911→本跡 →SK831 溜井戸カ
32	H 4 a6	-	円形	1.72 × 1.70	(144)	漏斗状	-	人為	土師質土器 瓦質土器	
33	H 3 i9	-	円形	2.72 × 2.54	(200)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器 鉄滓	SE37・38→本跡
34	H 4 e2	-	円形	2.44 × 2.22	(200)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器 石器 碗状滓	SE36、SK911→ 本跡
35	H 4 a3	-	円形	0.80 × 0.74	(186)	円筒状	-	人為	-	SK761→本跡
36	H 4 e2	-	[円形]	2.40 × [2.40]	(196)	漏斗状	-	人為	土師質土器	本跡→SE34
37	H 3 i9	-	[円形]	3.32 × [3.32]	(200)	漏斗状	-	自然 人為	土師質土器 石片	本跡→SE33
38	H 3 i0	-	[円形]	3.38 × (2.96)	(142)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器 磁器 砥石	本跡→SE33
40	H 4 i5	N - 20° - E	不整楕円形	1.90 × 1.58	(140)	漏斗状	-	人為	土師質土器	
41	I 4 i5	-	円形	0.80 × 0.76	(140)	(円筒状)	-	人為	土師質土器	SD91B→本跡
42	I 4 b7	-	円形	1.92 × 1.90	(140)	漏斗状	-	自然	土師質土器	
43	H 3 i8	-	円形	1.34 × 1.30	(200)	円筒状	-	人為	土師質土器	本跡→SK933
44	H 4 d0	-	[円形]	1.96 × [1.94]	(108)	漏斗状	-	自然	-	本跡→SD73
46	H 4 e7	-	円形	1.18 × 1.12	(134)	円筒状	-	人為	土師質土器 陶器	
47	H 5 b1	-	円形	1.34 × 1.26	(110)	漏斗状	-	人為 不明	土師質土器	
48	I 3 a0	-	円形	2.18 × 2.18	(170)	漏斗状	-	人為 自然	土師質土器 陶器	SE57→本跡
49	I 3 d9	N - 36° - E	楕円形	2.54 × 2.30	(200)	漏斗状	-	人為	土師質土器	本跡→SE50 SD92 と重複
50	I 3 d9	-	円形	3.40 × 3.30	(200)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器	SE49→本跡 SD92 と重複
51	I 3 d8	N - 83° - W	楕円形	2.90 × 2.42	(164)	逆凸字状	-	人為	土師質土器 陶器 石片	
52	I 4 b1	-	円形	2.40 × 2.28	(180)	漏斗状	-	人為	土師質土器 石片	
53	H 4 c0	-	円形	1.80 × 1.64	(120)	漏斗状	-	人為	-	SD81A→本跡
54	I 4 h7	-	[円形]	(1.04) × (0.92)	(125)	(円筒状)	-	-	-	
55	I 4 h6	-	[円形]	(1.28) × (0.86)	(110)	(円筒状)	-	-	土師質土器 陶器 砥石	本跡→SD91A・B
56	H 4 i2	-	円形	1.88 × 1.74	(140)	漏斗状	-	人為	土師質土器	SD86A→本跡 SK1073 と重複
57	I 3 b0	N - 78° - E	[楕円形]	2.14 × [1.78]	(170)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器	本跡→SE48 PG22 と重複
58	I 4 b1	N - 59° - W	楕円形	0.98 × 0.82	(144)	円筒状	-	自然	土師質土器 陶器 砥石	
59	I 3 d8	-	円形	1.54 × 1.42	(144)	円筒状	-	人為	陶器	SK953→本跡
60	H 4 e2	N - 8° - W	[楕円形]	1.58 × (1.36)	(150)	漏斗状	-	人為	土師質土器	本跡→SE31、SK874・ 882・894・911
61	H 3 j0	-	円形	1.44 × 1.36	(144)	漏斗状	-	人為	土師質土器	
62	I 3 a0	-	円形	2.34 × 2.28	(120)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器 砥石	
63	I 3 a9	N - 70° - W	楕円形	3.20 × 2.86	(110)	漏斗状	-	人為	土師質土器 陶器	SE71、SK1046→ 本跡

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
64	I 3 g8	—	円形	3.36 × 3.20	(90)	漏斗状	—	人為	土師質土器	SK1028→本跡
65	I 4 d4	N -45° - W	楕円形	1.64 × 1.46	(60)	漏斗状	—	—	土師質土器 陶器	SD97 と重複
66	I 4 e5	—	円形	1.48 × 1.48	(142)	漏斗状	—	—	—	
67	I 3 e9	—	円形	3.20 × 2.96	(110)	漏斗状	—	自然 人為	土師質土器 陶器	本跡→PG23P22 ～ P24
68	I 4 e8	N -15° - W	[楕円形]	(1.02) × (0.86)	(90)	(円筒状)	平坦	—	—	SD73 と重複
69	I 3 g0	N -33° - E	楕円形	1.62 × 1.22	(126)	漏斗状	—	人為	土師質土器 砥石	本跡→SD95
70	I 4 h3	—	円形	1.98 × 1.90	(113)	漏斗状	—	人為	土師質土器	SD108 →本跡
71	I 3 a9	N -10° - W	[楕円形]	[2.14] × [1.96]	(94)	漏斗状	—	—	—	本跡→SE63、 SK1046
72	I 4 h1	N -35° - E	楕円形	1.28 × 1.04	(132)	円筒形	—	人為	—	本跡→SK1062
73	I 4 i1	—	円形	0.84 × 0.80	(90)	円筒状	—	人為	土師質土器	
74	I 3 c0	N -35° - W	楕円形	2.56 × 2.32	(90)	漏斗状	—	人為	土師質土器	本跡→PG22 P140・ 143～145・149
75	I 4 c1	—	円形	1.70 × 1.34	(120)	円筒状	—	—	—	PG22 P151～ P153 と重複
76	I 4 a6	N -7° - E	楕円形	2.40 × 2.18	(120)	漏斗状	—	—	土師質土器	
77	I 4 j6	N -45° - W	楕円形	1.08 × 0.90	(155)	円筒状	—	—	土師質土器 砥石	
78	I 4 a8	N -25° - E	楕円形	1.16 × 0.86	(156)	円筒状	—	—	—	本跡→第4号整 地遺構
79	I 4 f8	—	円形	1.16 × 1.14	(52)	円筒状	—	自然 人為	磁器	SK1003、SD106→ 本跡
80	I 4 h8	N -80° - W	楕円形	0.76 × 0.62	(48)	円筒状	—	—	土師質土器 砥石	SD72→本跡
81	H 4 j8	N -44° - W	楕円形	1.00 × 0.84	(136)	円筒状	—	—	—	
82	H 4 g8	N -62° - W	楕円形	1.60 × 1.40	(128)	円筒状	—	—	—	
106	K 1 c0	—	[円形]	[1.60] × 1.48	440	円筒状	平坦	人為	土師質土器	SD142 と重複
107	K 2 a7	—	[円形]	2.16 × (2.06)	326	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 羽口	本跡→SD149
110	J 2 d6	N -34° - E	楕円形	2.02 × 1.70	(428)	漏斗状	—	自然 人為	土師質土器 台石	
111	J 2 d2	—	円形	1.40 × 1.36	316	漏斗状	平坦	自然 人為	土師質土器	
112	K 2 c9	—	[円形]	[2.10] × [2.10]	370	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 砥石	本跡→SK1480、 SD151
113	J 2 b4	N -50° - E	[楕円形]	2.56 × (2.28)	(200)	漏斗状	—	人為	土師質土器 陶器 鉄鏃 馬 歯	SD300→本跡 →SD149 SK1476 と重複
114	J 3 j4	N -38° - E	楕円形	2.92 × 2.50	(200)	漏斗状	—	人為	土師質土器 陶器	SK1423→本跡 SD116・169 と重複
115	J 3 j3	N -80° - W	楕円形	1.73 × 1.54	3.28	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 羽口	
117	K 3 f7	—	円形	1.14 × 1.12	320	漏斗状	平坦	自然 人為	土師質土器	SD158 →本跡
118	K 3 e8	N -20° - W	楕円形	0.94 × 0.78	(368)	円筒状	—	自然 人為	土師質土器 砥石	
119	K 3 d8	N -15° - E	楕円形	1.70 × 1.42	330	漏斗状	平坦	自然 人為	土師質土器 羽口	
120	K 3 c7	N -27° - E	楕円形	1.50 × 1.22	360	漏斗状	平坦	人為	—	
121	K 3 e9	—	円形	0.96 × 0.92	210	円筒状	平坦	人為	土師質土器 管状土錘	
122	K 3 c8	N -10° - W	楕円形	1.60 × 1.48	226	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 石臼 五 輪塔	SK1534→本跡
123	K 3 b8	—	[円形]	[2.12] × [2.10]	3.46	円筒状	平坦	人為	土師質土器 鉄滓	SD174→本跡 →SD160
124	K 3 a8	—	円形	2.28 × 2.12	335	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 羽口	SD63A と重複
125	J 3 j5	N -33° - E	楕円形	2.30 × 2.00	220	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 砥石	PG38P16 と重複
126	J 3 e6	—	円形	2.90 × 2.76	270	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 宝篋印塔	SK1770→本跡 SK1631 と重複
127	J 3 h5	—	円形	1.66 × 1.52	408	漏斗状	—	自然 人為	土師質土器 石臼	
129	J 3 e6	—	[円形]	2.04 × [2.04]	330	漏斗状	平坦	自然	土師質土器 五輪塔	SK1824→本跡 →SK1771 SE130 と重複
130	J 3 c7	—	円形	2.82 × 2.72	320	逆凸字状	平坦	人為	土師質土器	SE129 と重複
131	J 3 b6	—	[円形]	(2.28) × 2.26	326	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 瓦質土器 陶器	SE143→本跡 →SK1828・ 1908・1913 SK1830・1841・ 1894 と重複
132	J 4 g3	N -40° - E	楕円形	2.18 × 2.06	210	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 石臼	SK1948 と重複

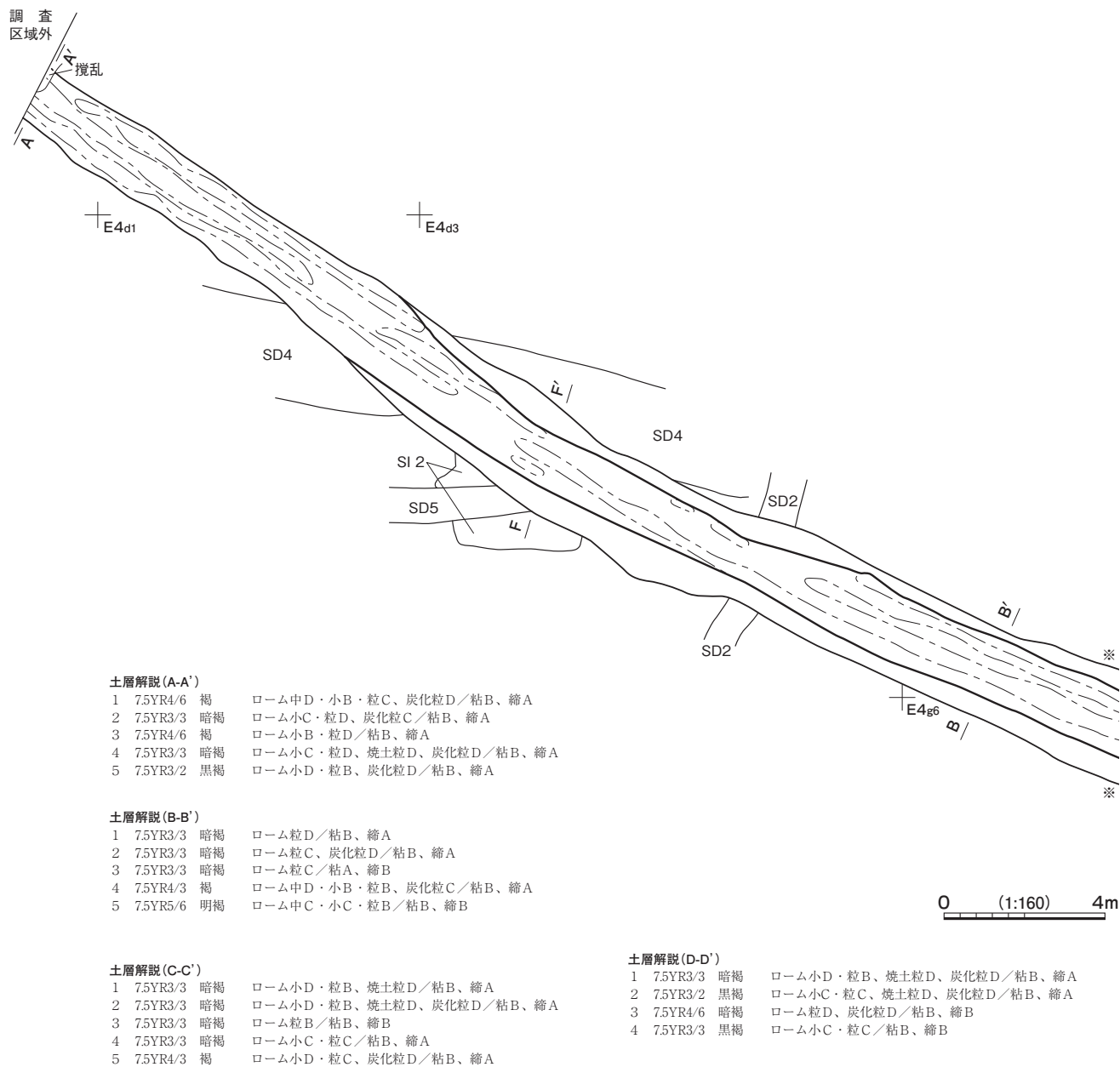
番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
133	J 4 a3	N - 20° - E	楕円形	1.58 × 1.42	240	漏斗状	平坦	自然 人為	-	SD192 → 本跡
134	J 3 a8	-	円形	1.68 × 1.56	298	漏斗状	皿状	人為	土師質土器	本跡 → SK1753
135	J 3 a0	-	[円形]	2.22 × (2.16)	342	漏斗状	平坦	人為	-	本跡 → SK1750・1751
136	J 3 b9	-	円形	2.08 × 1.98	270	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器	本跡 → SK1738 SK1811、PG41 と重複
137	J 3 h8	N - 52° - W	楕円形	3.12 × 2.88	(400)	漏斗状	-	人為	土師質土器 茶白 手水鉢 砥石	
138A	J 4 f3	N - 90°	[隅丸長方形]	(2.95) × 2.55	254	[漏斗状]	平坦	人為	土師質土器 石白 砥石 鉄 滓	SE138B → 本跡 → SK1840・1865 PG44P292・P293・ PG44P334 と重複
138B	J 4 f3	N - 72° - W	[楕円形]	(2.90) × (1.88)	372	[漏斗状]	平坦	人為	-	本跡 → SE138A、 SK1840・1865 PG44 と重複
139	J 3 a8	N - 80° - E	円形	1.18 × 0.98	204	漏斗状	皿状	人為	-	溜井戸カ
140	J 3 g7	-	円形	2.54 × 2.52	332	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 五輪塔	SK1875・1907 → 本 跡 → SK1848・1849
141	J 3 a8	-	不整円形	2.00 × 1.90	320	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 茶白	本跡 → PG42P70 SK1874、SD161B と重複
142	J 3 g8	-	円形	1.88 × 1.76	400	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	SD203・204 → 本跡
143	J 3 b7	-	[円形]	1.26 × (1.32)	300	円筒状	-	人為	-	本跡 → SE131、 SK1908
144	K 4 a3	-	円形	1.12 × 1.10	238	[円筒状]	平坦	人為	鉄滓	SK1861 → 本跡 → PG44P431
145	J 4 j4	-	円形	2.28 × 2.20	228	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器	SE193 → 本跡 SK1421 と重複
146	J 4 f2	-	円形	1.38 × 1.32	264	漏斗状	平坦	人為	-	
147	J 4 f4	-	円形	2.24 × 2.24	250	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SK1974、 PG44P489・490・ 502・503・509・510
148	J 4 j2	N - 52° - W	楕円形	2.20 × 2.06	224	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡 → PG44P493・ 528
149	J 3 b7	-	円形	1.62 × 1.60	322	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 瓦質土器	SK1828 → 本跡
150	J 3 d7	N - 87° - E	[楕円形]	[2.18] × 1.48	288	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	SE151 → 本跡 → PG41 P351・359・410
151	J 3 d8	N - 42° - E	[楕円形]	[1.62] × 1.48	318	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SE150、 PG41P345・ 349・359・368・369・410
152	J 3 e8	N - 42° - E	楕円形	1.12 × 1.00	336	円筒形	平坦	人為	土師質土器	本跡 → PG41P246・ 356
153	K 4 c5	N - 88° - E	楕円形	3.10 × 2.41	395	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	SK2043 → 本跡
154	K 4 g6	-	[円形]	(1.43) × (1.45)	316	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 羽口 砥 石	SE156 → 本跡 → SD91A・B・208
155	K 4 g4	-	[円形]	1.39 × [1.30]	140	円筒状	平坦	人為	-	本跡 → SK1968、PG45P8・9・ 10 溜井戸カ
156	K 4 g6	-	[円形]	(1.80) × (1.68)	370	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 宝篋印塔	本跡 → SE154、 SD91A・B
157	K 4 g7	-	円形	1.50 × 1.48	221	漏斗状	平坦	人為	-	SD209 → 本跡
158	J 4 a3	-	円形	0.88 × 0.82	108	円筒状	平坦	人為	土師質土器	SD161B → 本跡 溜井戸カ
159	J 3 e9	N - 85° - W	[楕円形]	(2.22) × 1.82	308	漏斗状	平坦	人為	-	本跡 → SK1993、SD196、 PG38P316・P311
160	K 4 e9	-	円形	0.91 × 0.87	304	円筒状	平坦	人為	-	SD228 → 本跡
161	K 4 f8	-	円形	1.26 × 1.22	182	円筒状	平坦	人為	-	PG47P583 と重複
163	J 4 j8	N - 40° - E	楕円形	1.31 × 1.18	187	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	
164	K 4 e9	N - 5° - W	[不整楕円形]	1.38 × [1.24]	160	円筒形	平坦	人為	土師質土器 銭貨	本跡 → SD217 PG47P72・P239・ P283・P284 と重複 溜井戸カ
165	K 4 b9	N - 7° - W	[楕円形]	2.39 × (1.92)	442	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 磁器	SK1627 → 本跡 → SD221
166	J 4 a8	N - 9° - W	楕円形	1.24 × 1.08	170	円筒形	平坦	人為	土師質土器 銭貨	SK2035 → 本跡
167	J 4 a8	N - 8° - E	楕円形	1.52 × 1.28	328	漏斗状	平坦	-	土師質土器	UP26、SK2035 → 本跡
168	K 4 b8	N - 88° - W	楕円形	2.12 × 1.87	230	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 砥石 台 石カ	SE169 → 本跡
169	K 4 b8	N - 70° - W	[楕円形]	(1.40) × [1.30]	160	漏斗状	凹凸	人為	土師質土器 陶器 石白 砥 石	SD217 → 本跡 → SE168
170	J 4 d8	-	[円形]	2.28 × (1.80)	240	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 瓦質土器 陶器 石白 砥石 五輪塔 宝篋印塔 鉄滓 木製品	SD217 と重複
171	I 3 j0	-	[円形]	2.80 × [2.62]	380	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SD162A PG42 と重複
172	I 3 j9	-	[円形]	(1.74) × (0.88)	296	漏斗状	皿状	人為	土師質土器 陶器 石白	本跡 → SD161A・B
173	J 4 a3	N - 5° - E	[楕円形]	(0.90) × (0.86)	(116)	円筒状	平坦	人為	-	本跡 → SD161A・B
174	K 4 h6	-	円形	1.34 × 1.30	280	円筒状	平坦	人為	土師質土器 陶器 羽口 石 白	
175	J 4 g4	N - 78° - E	[楕円形]	(2.12) × (1.38)	184	円筒状	皿状	人為	土師質土器 石白	本跡 → SD91A・B

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
176	K 4 c1	—	[円形]	2.26 × (2.00)	290	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡→SD157 SK1637と重複
177	J 4 d5	N -57° - E	楕円形	2.34 × 1.98	220	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 砥石	本跡→SD91A、 SK2076
178	J 4 h8	N -42° - W	[楕円形]	(1.27) × (1.06)	(170)	(円筒状)	平坦	人為	—	本跡→SD213・ 217
179	J 4 d9	N -89° - W	楕円形	1.48 × 1.21	258	円筒状	平坦	人為	土師質土器	SK1757→本跡→ 第5号整地遺構 PG48P82と重複
180	J 4 i7	—	円形	1.50 × 1.42	217	漏斗状	平坦	人為	—	SK1503→本跡
181	J 5 f1	—	[円形]	2.13 × (1.90)	381	漏斗状	平坦	人為	土師質土器	本跡→SD145
182	J 4 f0	N -40° - W	楕円形	2.80 × 2.16	(428)	漏斗状	—	人為	土師質土器 石臼	
183	K 4 e3	—	(円形)	(1.04) × (0.92)	(150)	(円筒状)	平坦	人為	—	本跡→SD156
184	K 4 g3	N -68° - W	[楕円形]	(1.10) × 0.90	(122)	(円筒状)	—	自然 人為	—	本跡→SD156 SE186と重複
185	K 4 f3	—	[円形]	(0.98) × (0.82)	166	(円筒状)	平坦	人為	鍋蓋	本跡→SD156
186	K 4 g3	—	[円形]	(1.06) × (0.98)	(132)	(円筒状)	平坦	自然 人為	—	本跡→SD156 SE184と重複
187	K 4 a7	—	円形	1.28 × 1.20	170	漏斗状	平坦	人為	—	SD225→本跡
188	K 5 h1	—	[円形]	(1.08) × 1.02	(127)	漏斗状	—	人為	陶器	本跡→SD145
189	J 4 g5	N -71° - E	[楕円形]	[1.98] × [1.88]	253	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 陶器 石臼 砥 石	本跡→SD91A
190	K 4 f4	—	[円形]	[1.60] × [1.60]	177	漏斗状	平坦	人為	土師質土器 砥石 木材	本跡→SD91B SE191と重複
191	J 4 f4	—	[円形]	[1.56] × [1.51]	206	漏斗状	平坦	人為	—	本跡→SD91A・B SE190と重複
192	J 4 c4	N -85° - E	[楕円形]	[1.18] × [1.05]	(298)	円筒状	—	—	—	本跡→SD91A
193	J 4 j4	—	[円形]	2.10 × [2.10]	224	漏斗状	平坦	人為	—	本跡→SE145、 SD91A・B
194	J 2 h4	—	[円形]	(1.20) × (1.10)	(150)	(円筒状)	—	人為	土師質土器	本跡→SD149
195	I 3 c2	—	円形	2.30 × 2.27	(166)	漏斗状	—	人為	土師質土器	SD252→本跡
197	H 3 h2	N -61° - E	楕円形	1.65 × 1.48	(183)	漏斗状	—	人為	—	
198	I 3 b1	—	円形	1.60 × 1.57	(157)	漏斗状	—	人為	陶器	
199	I 3 d0	—	円形	1.30 × 1.20	(154)	円筒状	—	人為	—	
200	G 3 g3	N -32° - W	楕円形	2.40 × 2.24	(164)	漏斗状	—	人為	土師質土器 陶器	
202	H 2 h7	N -50° - W	[楕円形]	(1.84) × (1.46)	(180)	漏斗状	—	人為	土師質土器	SK2419→本跡→ SD166
203	I 2 i6	—	円形	1.28 × 1.23	(175)	円筒形	—	人為	土師質土器 鉄滓	
204	I 2 f0	N -5° - W	楕円形	1.62 × 1.22	(170)	円筒形	平坦	人為	—	SI124→本跡 SB36と重複
205	H 2 g5	N -31° - E	[楕円形]	2.62 × (2.38)	(120)	漏斗状	—	人為	陶器	本跡→SD267・275 UP37と重複
206	I 2 a4	—	円形	2.60 × 2.57	(129)	漏斗状	—	人為	土師質土器	
210	J 5 a7	—	[円形]	(1.42) × (1.26)	(253)	漏斗状	—	人為	土師質土器 瓦質土器 陶器 羽口 椀状滓	SK2781→本跡 →SK2777 SD286と重複
211	J 5 a8	—	[円形]	[1.60] × 1.52	(242)	漏斗状	—	人為	—	本跡→PG62P1・ P12
212	I 5 h9	不 明	[円形] [楕円形]	(1.26) × (0.91)	(200)	漏斗状	—	人為	土師質土器	
213	I 5 i9	N -2° - E	[楕円形]	(0.64) × (0.58)	(213)	円筒状	皿状	人為	土師質土器	本跡→SD72
214	J 5 a3	N -5° - E	楕円形	0.86 × 0.71	182	円筒状	平坦	人為	—	
215	I 5 j3	N -74° - W	楕円形	0.51 × 0.44	155	円筒状	平坦	自然 人為	—	SD293→本跡
216	I 5 h7	—	[円形]	[1.96] × [1.87]	(272)	漏斗状	—	人為	—	本跡→SD289
217	G 2 j7	N -12° - E	楕円形	1.30 × 1.25	(220)	円筒状	—	人為	—	
224	J 2 d9	—	円形	1.84 × 1.62	192	円筒状	—	人為	土師質土器	本跡→第7号土 坑墓

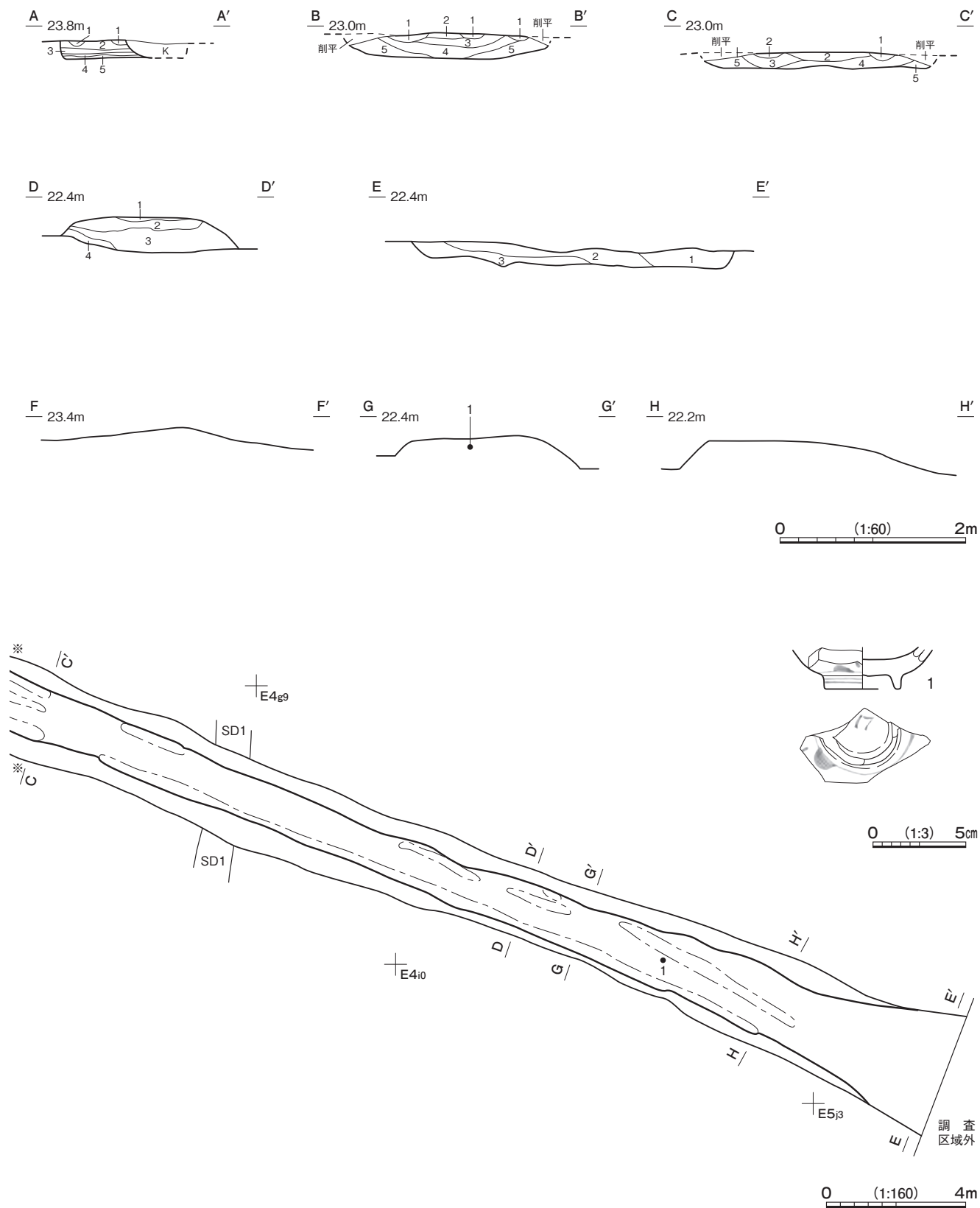
(7) 道路跡

第1号道路跡 (第256・257図 第155表 PL71)

位置 調査区A区北部のE3c0～E5j3区、標高22～23mの台地平坦部に位置している。



第256図 第1号道路跡実測図



第 257 図 第 1 号道路跡・出土遺物実測図

重複関係 第1・2・4・5号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた範囲では、切り土によりハードローム層まで掘り込み、断面形は浅いU字状である。東・西側が調査区域外のため、確認できた長さは29.72 m、幅は0.64～2.12 mで、平均1.38 mである。E 3 c0 からE 4 e3 区まで直線状に延び、その先は緩やかに湾曲して東側へ直線状に延びている。北西側から南東側に向かって緩やかに下っている。

構築土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んだ褐色系の土を充填しており、硬く締まっている。路面は蒲鉾状であるが、壁から中心に向かって堆積している状況から、路側は削平されている。路面には轍状の硬化面が顕著にみられた。

遺物出土状況 陶器片27点（碗）、磁器片25点（碗）、瓦片6点（平瓦）が構築土内から出土している。

所見 構築時期は、出土陶磁器から18世紀後葉～19世紀前葉と考えられる。

第155表 第1号道路跡出土遺物一覧（第257図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特 徴				釉 薬	産 地	出土位置	備 考
1	磁器	碗	－	(23)	－	緻密・明オリープ灰	染付 圈線	体部梅花文 高台内記号	下端圈線	高台部二重	透明釉	肥前	構築土第2層	30% PL71

印 刷 仕 様

編 集	O S	Microsoft Windows 11 Pro
	編集	Adobe InDesign 2025
	図版作成	Adobe Illustrator 2025
	写真調整	Adobe Photoshop 2025
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold
		中ゴシックBBB Pro Medium
写 真	線数	カラー210線以上
印 刷	印刷所へは、Adobe InDesign 2025 でデータ入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第476集

つくば市

島 名 本 田 遺 跡 3

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上 巻

令和7（2025）年 3月21日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
H P <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 (株)あけぼの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1-2-11
TEL 029-227-8284